

駿河A遺跡  
— 1次調査 —

春日市文化財調査報告書  
第74集

春日市教育委員会

# 駿河A遺跡

— 1次調査 —

福岡県春日市原町所在遺跡の調査  
春日市文化財調査報告書 第74集

2014

春日市教育委員会

# 駿河 A 遺跡

— 1 次調査 —

福岡県春日市原町所在遺跡の調査  
春日市文化財調査報告書 第 74 集

2 0 1 4

春日市教育委員会







駿河A遺跡航空写真（西側より撮影）



I 区航空写真（北より）



II 区航空写真（西より）





I 区空中写真 (南半)



I 区空中写真 (北半)



II 区空中写真



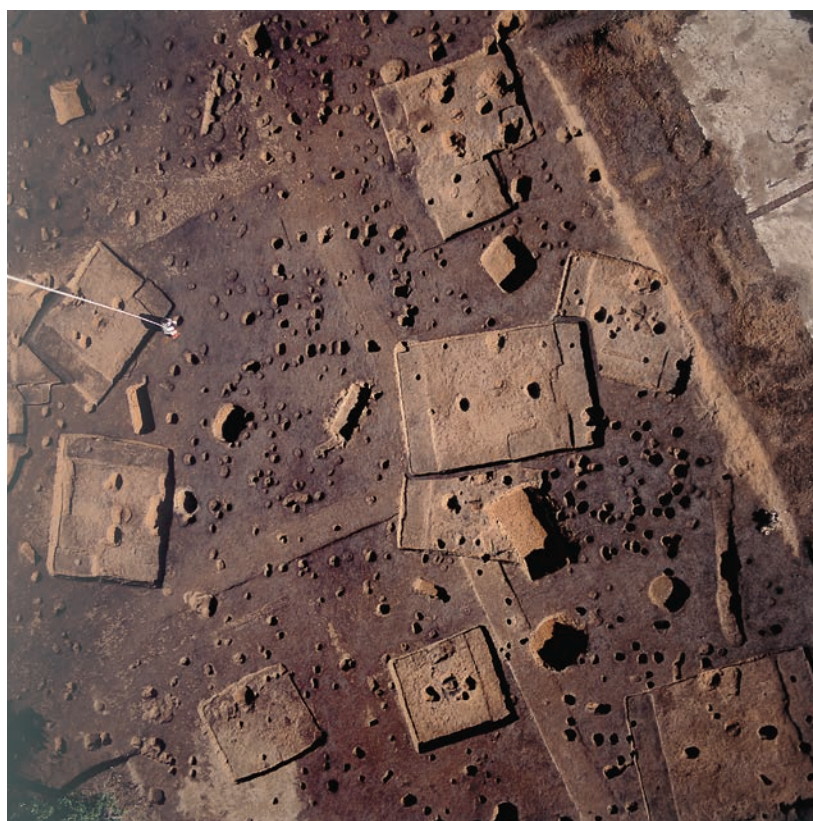


5号住居跡周辺



23号住居跡周辺





31号住居跡周辺



39号住居跡周辺



鐸形土製品

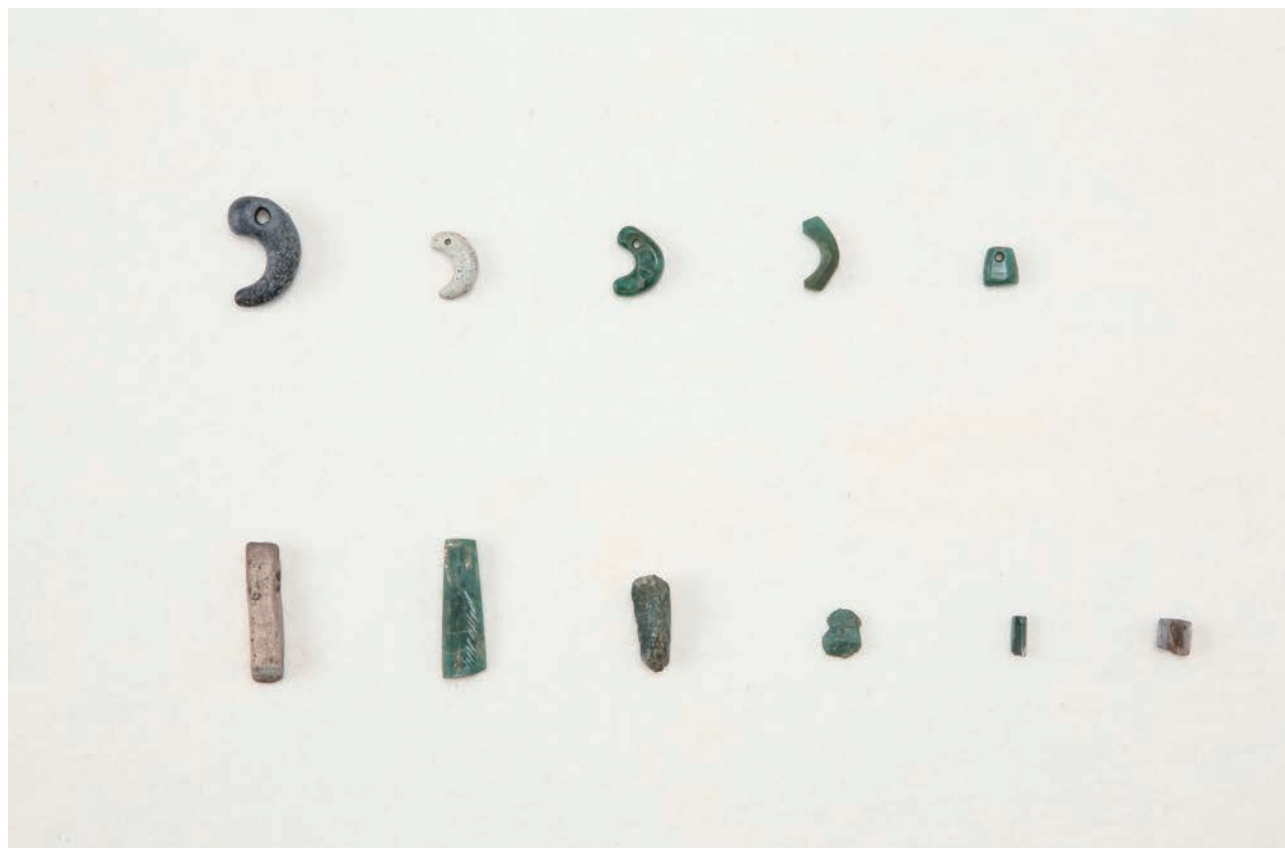


小型仿製鏡

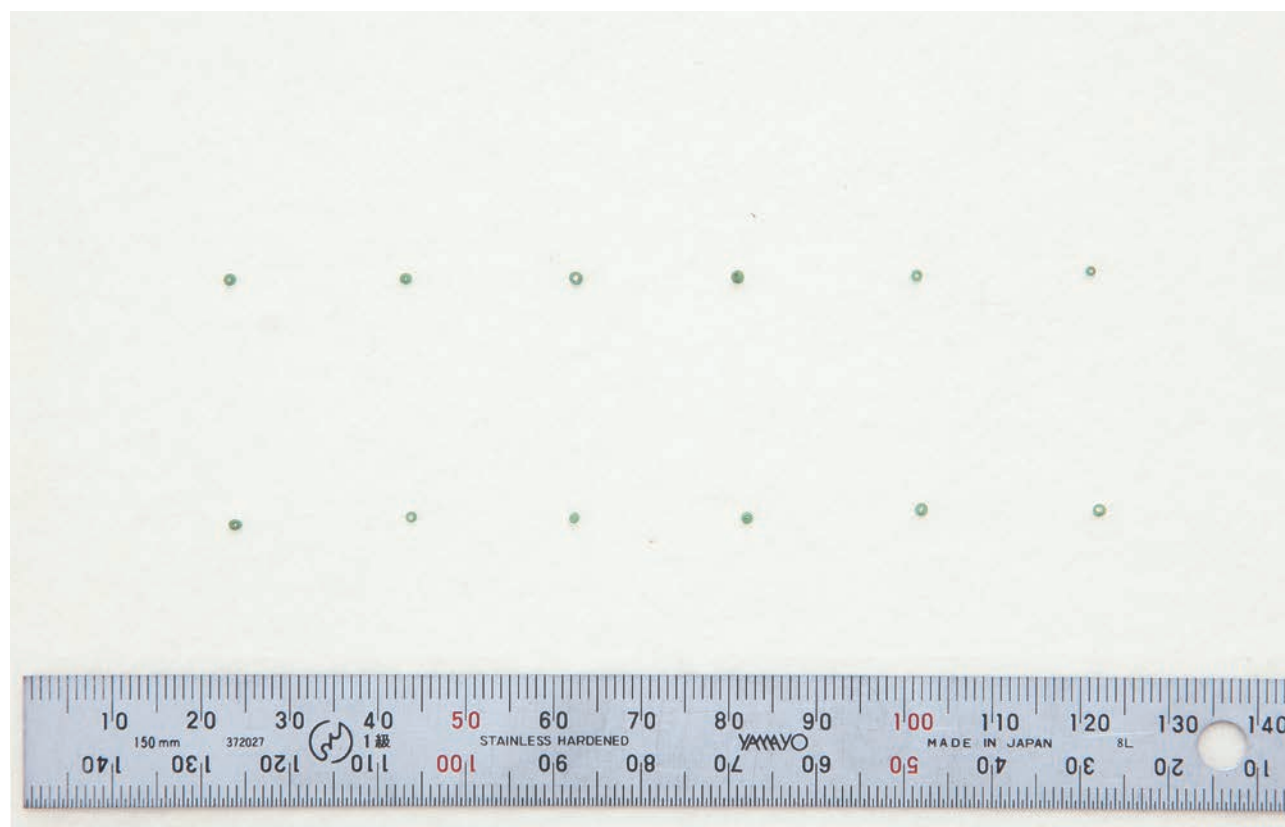


青銅器鑄型等



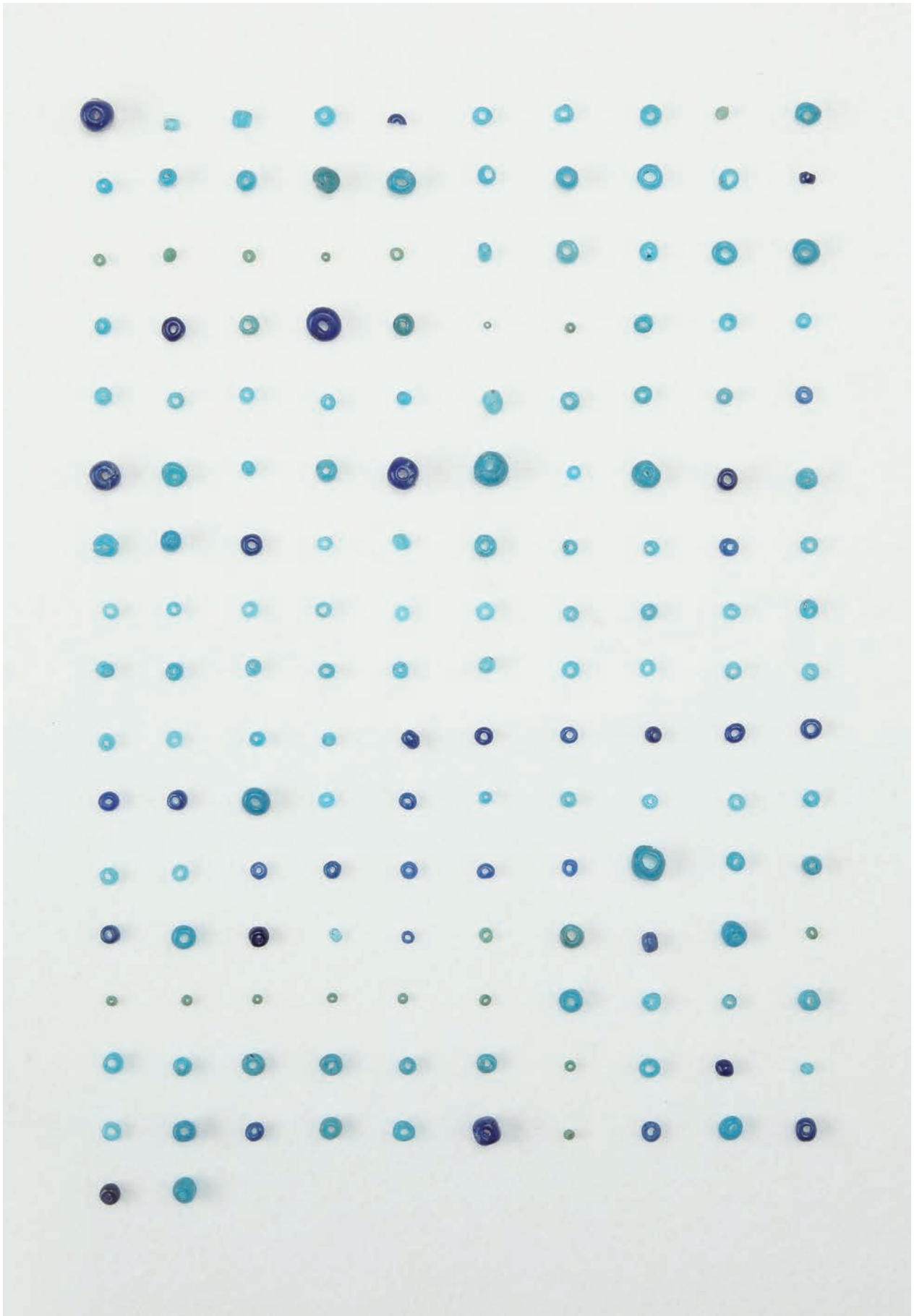


石製玉類等 (上 : 左から 1 ~ 5、下 : 左から 11・10・6・7・8・9)



ガラス粟玉 (上 : 左から 163 ~ 168、下 : 左から 169 ~ 174)





ガラス小玉（配置は第 121・122 図と同じ）

# 序

福岡平野の南部に位置する本市は、古来、住環境に優れた適地として栄え、数多くの遺跡が存在することで知られています。とりわけ、市の中央部を南北に走る春日丘陵には、須玖岡本遺跡を筆頭に弥生時代の傑出した遺跡が連なっており、須玖遺跡群と称するこの地がまさに奴国の王都であったと推定されています。

ここに報告いたします駿河A遺跡は、春日丘陵東側の台地上に位置する弥生時代の集落跡で、現在の春日市庁舎を建設する際に発見されたものです。記録保存のために行った発掘調査によって、当遺跡からは弥生時代後期を中心時期とする竪穴住居跡や掘立柱建物跡が数多く確認されましたが、その大きさや豊富な内容には目を見張るものがあり、須玖遺跡群の周辺部の様相をうかがい知る貴重な成果を得ています。

発掘調査以来、ほぼ四半世紀が経過いたしました。ようやくこの貴重な遺跡の調査報告書が刊行される運びとなりました。重要な遺跡の報告書といたしましては、内容の不十分さは免れませんが、本報告書が学術的研究資料としての活用にとどまらず、一般の方々にも広く利用され、歴史や埋蔵文化財理解への一助となれば幸いです。

なお、発掘調査から本報告書の作成に際しまして、御指導、御協力を賜りました多くの方々に深甚の謝意を表します。

平成 27 年 3 月 31 日

春日市教育委員会

教育長 山 本 直 俊

## 例言

- 1 本書は春日市庁舎建設に伴い、平成元年度に春日市教育委員会が実施した駿河A遺跡緊急発掘調査の報告書である。本遺跡については、発掘調査時は駿河遺跡としていたが、平成15年度の遺跡地図作成に伴って遺跡名称の整理を行った結果、JR鹿児島本線から西を駿河A、JR鹿児島本線と西鉄大牟田線に挟まれた範囲を北から駿河D、E、B、西鉄大牟田線から東を駿河C遺跡とし、以後は本調査地を駿河A遺跡と呼称している。
- 2 遺構の実測は平田定幸、吉田佳広が行い、製図は池田由紀、伊東ひかり、柏木千恵、水上愛子が行った。
- 3 遺物の図面作製は、井上義也、山崎悠郁子、島津屋幸子、柳智子、足立紫穂、石木晴香、池田紀子、久家春美、久家ゆみ、桑野暢子、末田敬子、吉富千春、丸山利枝が行い、その統括は井上が行った。
- 4 掲載写真は、遺構の撮影を平田、吉田、(有)空中写真企画が行い、遺物は(有)文化財写真工房・岡紀久夫、(株)タクト・西村新二が撮影した。
- 5 本書に使用した地形図は国土交通省国土地理院発行の2万5千分の1地形図『福岡南部』(2005年)である。
- 6 本書の遺構実測図に示す方位には磁北を用いている。
- 7 本書で使用した図面・写真・遺物等一切の資料は春日市奴国の丘歴史資料館にて保管している。
- 8 本文の執筆は「遺構」を吉田、「遺物」と「まとめ」を井上、山崎、「位置と環境」と「遺物」を足立が分担し、編集は執筆者の協力を得て吉田が行った。
- 9 遺構番号は発掘調査時の暫定的なものを整理・分析し、本報告において振り直しているが、ピット番号については発掘調査時の番号を踏襲している。
- 10 本書の遺物番号は挿図・図版番号に一致させている。
- 11 本書の遺構に関する記述においては、竪穴住居跡を「住居跡・住居」に、掘立柱建物跡を「掘立」とするなど、文章が煩雑にならないよう遺構名を略する場合がある。
- 12 遺構図における遺物出土地点の表記にあたっては、「土器を土、土製品を土製、鉄器を鉄、石器を石、石製玉類を石玉、ガラス小玉を玉、青銅器鑄型を鑄」と略して番号を振っている。

# 本文目次

I	はじめに	1
1	調査に至る経緯	1
2	調査の組織	2
II	位置と環境	3
III	発掘調査の概要	7
1	調査の概要	7
2	旧石器時代・縄文時代の遺構と遺物	8
(1)	遺構	8
①	土坑	8
(2)	遺物	11
①	土器	11
②	石器	11
3	弥生時代の遺構と遺物	14
(1)	遺構	14
①	住居跡	14
②	掘立柱建物跡	49
③	土坑	88
④	井戸	98
⑤	溝	99
⑥	周溝状遺構	102
⑦	ピット	103
⑧	包含層	103
(2)	遺物	105
①	土器	105
②	土製品	136
③	鉄器	137
④	青銅器	147
⑤	玉類	147
⑥	石製鋳型類	152
⑦	石器	156
4	歴史時代の遺構と遺物	166
(1)	遺構	166
(2)	遺物	167
IV	まとめ	171
1	弥生時代の集落	171
2	駿河A遺跡におけるガラス小玉について	175
3	32号住居跡について	176

## 図 版 目 次

- 巻頭図版 1 駿河A遺跡航空写真（西側より撮影）
- 巻頭図版 2 I区航空写真（北より）  
II区航空写真（西より）
- 巻頭図版 3 I区空中写真（南半）  
I区空中写真（北半）  
II区空中写真
- 巻頭図版 4 5号住居跡周辺  
23号住居跡周辺
- 巻頭図版 5 31号住居跡周辺  
39号住居跡周辺
- 巻頭図版 6 鐔形土製品  
小型仿製鏡  
青銅器鋳型等
- 巻頭図版 7 石製玉類等  
ガラス粟玉
- 巻頭図版 8 ガラス小玉
- 図版 1 調査区全景
- 図版 2 (1) I区調査区全景  
(2) II区調査区全景
- 図版 3 (1) I区調査区（南半）  
(2) I区調査区（北半）
- 図版 4 (1) II区調査区①  
(2) II区調査区②
- 図版 5 (1) II区調査区③  
(2) 1号住居跡（北西から）
- 図版 6 (1) 2号住居跡（南東から）  
(2) 3号住居跡（南から）  
(3) 4号住居跡（東から）
- 図版 7 (1) 5号住居跡（南西から）  
(2) 6号住居跡（北東から）  
(3) 7号住居跡（西から）
- 図版 8 (1) 8号住居跡（東から）  
(2) 9号住居跡（東から）  
(3) 10号住居跡（南西から）
- 図版 9 (1) 11号住居跡（北西から）  
(2) 12号住居跡（南西から）  
(3) 12号住居跡遺物出土状態
- 図版 10 (1) 13号住居跡（西から）  
(2) 14号住居跡（北東から）  
(3) 15号住居跡（西から）
- 図版 11 (1) 16号住居跡（南西から）  
(2) 16号住居跡遺物出土状態  
(3) 17号住居跡（北東から）
- 図版 12 (1) 18号住居跡（南西から）  
(2) 18号住居跡遺物出土状態  
(3) 19号住居跡（北西から）
- 図版 13 (1) 20・21号住居跡（北東から）  
(2) 22号住居跡（北東から）  
(3) 23・24号住居跡（東から）
- 図版 14 (1) 25号住居跡（南東から）  
(2) 26号住居跡（南東から）  
(3) 27号住居跡（南東から）
- 図版 15 (1) 28号住居跡（西から）  
(2) 29・30号住居跡（南東から）  
(3) 31・32・33号住居跡（南東から）
- 図版 16 (1) 31・32・33号住居跡（北西から）  
(2) 32号住居跡遺物出土状態  
(3) 34号住居跡（北東から）  
(4) 35号住居跡（北東から）
- 図版 17 (1) 36号住居跡（西から）  
(2) 37号住居跡遺物出土状態  
(3) 37号住居跡（北西から）  
(4) 38号住居跡（北東から）

- 図版18 (1) 39号住居跡 (東から)  
(2) 39号住居跡 P 2 (北東から)  
(3) 40号住居跡 (南東から)
- 図版19 (1) 41号住居跡 (南東から)  
(2) 42号住居跡 (南西から)  
(3) 42号住居跡ベッド断ち割り (北西から)
- 図版20 (1) 1号掘立柱建物跡 (南西から)  
(2) 2号掘立柱建物跡 (南西から)  
(3) 3号掘立柱建物跡 (北から)
- 図版21 (1) 4号掘立柱建物跡 (南東から)  
(2) 5号掘立柱建物跡 (南東から)  
(3) 6号掘立柱建物跡 (北東から)
- 図版22 (1) 7号掘立柱建物跡 (北東から)  
(2) 8号掘立柱建物跡 (北東から)  
(3) 9号掘立柱建物跡 (北から)
- 図版23 (1) 10～13号掘立柱建物跡 (北から)  
(2) 10～13号掘立柱建物跡 (北東から)  
(3) 14号掘立柱建物跡 (北東から)
- 図版24 (1) 15号掘立柱建物跡 (西から)  
(2) 16号掘立柱建物跡 (北西から)  
(3) 17号掘立柱建物跡 (南西から)
- 図版25 (1) 18号掘立柱建物跡 (北東から)  
(2) 21号掘立柱建物跡 (南東から)  
(3) 23号掘立柱建物跡 (南東から)
- 図版26 (1) 26～29号掘立柱建物跡 (北から)  
(2) 30号掘立柱建物跡 (南東から)  
(3) 31号掘立柱建物跡 (北東から)
- 図版27 (1) 32・33・35号掘立柱建物跡 (南東から)  
(2) 34号掘立柱建物跡 (西から)  
(3) 36号掘立柱建物跡 (南西から)
- 図版28 (1) 37号掘立柱建物跡 (西から)  
(2) 38号掘立柱建物跡 (西から)  
(3) 39号掘立柱建物跡 (北東から)  
(4) 39号掘立柱建物跡 P 1 (北東から)
- 図版29 (1) 40号掘立柱建物跡 (北東から)  
(2) 41号掘立柱建物跡 (南から)  
(3) 43号掘立柱建物跡 (北東から)
- 図版30 (1) 44号掘立柱建物跡 (北東から)  
(2) 45・46号掘立柱建物跡 (北東から)  
(3) 47号掘立柱建物跡 (北東から)
- 図版31 (1) 48・49号掘立柱建物跡 (北西から)  
(2) 50号掘立柱建物跡 (北から)  
(3) 51号掘立柱建物跡 (西から)
- 図版32 (1) 52号掘立柱建物跡 (南西から)  
(2) 54号掘立柱建物跡 (北東から)  
(3) 1号土坑 (南東から)
- 図版33 (1) 2号土坑 (南東から)  
(2) 3号土坑 (南東から)  
(3) 4号土坑 (南東から)
- 図版34 (1) 5号土坑 (北から)  
(2) 6号土坑 (北西から)  
(3) 7号土坑 (南西から)
- 図版35 (1) 8号土坑 (北西から)  
(2) 9号土坑 (南東から)  
(3) 10号土坑 (南東から)
- 図版36 (1) 11号土坑 (南西から)  
(2) 12号土坑 (南東から)  
(3) 13号土坑 (南西から)
- 図版37 (1) 14号土坑 (東から)  
(2) 15号土坑 (東から)  
(3) 18号土坑 (南東から)
- 図版38 (1) 19号土坑 (北東から)  
(2) 20号土坑 (北東から)  
(3) 21号土坑 (北から)
- 図版39 (1) 22号土坑 (北東から)  
(2) 23号土坑 (北西から)  
(3) 1号井戸 (北西から)
- 図版40 (1) 2号井戸 (南東から)

- (2) 8号周溝（北西から） (2) 石器④
- 図版41 (1) 1号周溝状遺構（北西から） 図版64 (1) 石器⑤  
 (2) 2号周溝状遺構（北西から） (2) 石器⑥  
 (3) 鋳型A出土状態（包含層）（北西から） 図版65 (1) 石器⑦
- 図版42 縄文土器、1・6～8号住居跡出土土器 (2) 石器⑧
- 図版43 8～11号住居跡出土土器 図版66 (1) 石器⑨
- 図版44 11～16号住居跡出土土器 (2) 石器⑩
- 図版45 16～20号住居跡出土土器 図版67 (1) 石器⑪
- 図版46 22～25・27号住居跡出土土器 (2) 石器⑫
- 図版47 27～31号住居跡出土土器 図版68 (1) 石器⑬
- 図版48 31～34号住居跡出土土器
- 図版49 34～39号住居跡出土土器
- 図版50 39～42号住居跡出土土器
- 図版51 掘立柱建物跡・土坑出土土器
- 図版52 土坑・1号井戸出土土器
- 図版53 2号井戸・8号溝・2号周溝状遺構出土土器
- 図版54 2号周溝状遺構・ピット・  
 包含層①②③出土土器
- 図版55 包含層③・2～4号住居跡・  
 包含層④出土土器
- 図版56 (1) 土製品  
 (2) 鐸形土製品
- 図版57 (1) 鉄器①  
 (2) 鉄器②
- 図版58 (1) 鉄器③  
 (2) 鉄器④
- 図版59 (1) 鉄器⑤  
 (2) 鉄器⑥
- 図版60 (1) 青銅器  
 (2) 青銅器鋳型①
- 図版61 (1) 青銅器鋳型②
- 図版62 (1) 石器①  
 (2) 石器②
- 図版63 (1) 石器③

# 插图目次

第1图	駿河A遺跡周辺遺跡分布図 (1/25,000)	第32图	35・36号住居跡実測図 (1/60) .....	42
	.....	第33图	37号住居跡実測図 (1/60) .....	43
第2图	駿河A遺跡位置図 (1/2,500) .....	第34图	38号住居跡実測図 (1/60) .....	46
	6	第35图	39号住居跡実測図 (1/60) .....	47
第3图	4・5号土坑実測図 (1/30) .....	第36图	40・41号住居跡実測図 (1/60) .....	48
	8	第37图	42号住居跡実測図 (1/60) .....	49
第4图	10・11号土坑実測図 (1/30) .....	第38图	1・2号掘立柱建物跡実測図 (1/60) .....	51
	9	第39图	3・4号掘立柱建物跡実測図 (1/60) .....	52
第5图	13号土坑実測図 (1/30) .....	第40图	5・6号掘立柱建物跡実測図 (1/60) .....	53
	10	第41图	7・8号掘立柱建物跡実測図 (1/60) .....	54
第6图	縄文土器実測図 (1/4) .....	第42图	9・10号掘立柱建物跡実測図 (1/60) .....	56
	11	第43图	11・12号掘立柱建物跡実測図 (1/60) .....	57
第7图	石器実測図① (1/2) .....	第44图	13・14号掘立柱建物跡実測図 (1/60) .....	58
	12	第45图	15号掘立柱建物跡実測図 (1/60) .....	59
第8图	石器実測図② (1/2) .....	第46图	16・18号掘立柱建物跡実測図 (1/60) .....	61
	14	第47图	17号掘立柱建物跡実測図 (1/60) .....	62
第9图	1号住居跡実測図 (1/60) .....	第48图	19・20号掘立柱建物跡実測図 (1/60) .....	63
	15	第49图	21号掘立柱建物跡実測図 (1/60) .....	64
第10图	5号住居跡実測図 (1/60) .....	第50图	22・23号掘立柱建物跡実測図 (1/60) .....	65
	16	第51图	24・25号掘立柱建物跡実測図 (1/60) .....	66
第11图	6・7号住居跡実測図 (1/60) .....	第52图	26・27号掘立柱建物跡実測図 (1/60) .....	67
	17	第53图	28・29号掘立柱建物跡実測図 (1/60) .....	68
第12图	8・9号住居跡実測図 (1/60) .....	第54图	30号掘立柱建物跡実測図 (1/60) .....	69
	18	第55图	31号掘立柱建物跡実測図 (1/60) .....	70
第13图	10・11号住居跡実測図 (1/60) .....	第56图	32・33号掘立柱建物跡実測図 (1/60) .....	71
	20	第57图	34・35号掘立柱建物跡実測図 (1/60) .....	73
第14图	12号住居跡実測図 (1/60) .....	第58图	36号掘立柱建物跡実測図 (1/60) .....	74
	21	第59图	38号掘立柱建物跡実測図 (1/60) .....	76
第15图	13号住居跡実測図 (1/60) .....	第60图	37・42号掘立柱建物跡実測図 (1/60) .....	77
	22	第61图	39・40号掘立柱建物跡実測図 (1/60) .....	79
第16图	14号住居跡実測図 (1/60) .....	第62图	41・43号掘立柱建物跡実測図 (1/60) .....	80
	23	第63图	44号掘立柱建物跡実測図 (1/60) .....	81
第17图	15号住居跡実測図 (1/60) .....			
	24			
第18图	16号住居跡実測図 (1/60) .....			
	25			
第19图	17・18号住居跡実測図 (1/60) .....			
	26			
第20图	19号住居跡実測図 (1/60) .....			
	27			
第21图	20号住居跡実測図 (1/60) .....			
	28			
第22图	21・22号住居跡実測図 (1/60) .....			
	29			
第23图	23・24号住居跡実測図 (1/60) .....			
	31			
第24图	25号住居跡実測図 (1/60) .....			
	34			
第25图	26・27号住居跡実測図 (1/60) .....			
	35			
第26图	28号住居跡実測図 (1/60) .....			
	36			
第27图	29号住居跡実測図 (1/60) .....			
	37			
第28图	30号住居跡実測図 (1/60) .....			
	38			
第29图	31号住居跡実測図 (1/60) .....			
	39			
第30图	32号住居跡実測図 (1/60) .....			
	40			
第31图	33・34号住居跡実測図 (1/60) .....			
	41			



第64図	45号掘立柱建物跡実測図 (1/60) …… 82	第 94図	28・29号住居跡出土土器実測図 (1/4) …… 118
第65図	46・47号掘立柱建物跡実測図 (1/60) …… 83	第 95図	30号住居跡出土土器実測図 (1/4) …… 119
第66図	48・49号掘立柱建物跡実測図 (1/60) …… 84	第 96図	31号住居跡出土土器実測図 (1/4) …… 120
第67図	50・51号掘立柱建物跡実測図 (1/60) …… 85	第 97図	32・33号住居跡出土土器実測図 (1/4) …… 121
第68図	52・53号掘立柱建物跡実測図 (1/60) …… 86	第 98図	34・35号住居跡出土土器実測図 (1/4) …… 122
第69図	54・55号掘立柱建物跡実測図 (1/60) …… 87	第 99図	36・37号住居跡出土土器実測図 (1/4) …… 123
第70図	56号掘立柱建物跡実測図 (1/60) …… 88	第100図	38号住居跡出土土器実測図 (1/4) …… 124
第71図	1・3号土坑実測図 (1/60) …… 90	第101図	39号住居跡出土土器実測図 (1/4) …… 125
第72図	2号土坑実測図 (1/30) …… 91	第102図	40・41・42号住居跡出土土器実測図 (1/4) …………… 126
第73図	6・9号土坑実測図 (1/30) …… 92	第103図	掘立柱建物跡出土土器実測図① (1/4) …… 128
第74図	7・8号土坑実測図 (1/60) …… 93	第104図	掘立柱建物跡出土土器実測図② (1/4) …… 130
第75図	12・15号土坑実測図 (1/30) …… 94	第105図	土坑出土土器実測図 (1/4) …… 131
第76図	16・17号土坑実測図 (1/30) …… 95	第106図	1号井戸出土土器実測図 (1/4) …… 133
第77図	18・19号土坑実測図 (1/30) …… 97	第107図	2号井戸出土土器実測図 (1/4) …… 134
第78図	20号土坑実測図 (1/30) …… 98	第108図	8号溝出土土器実測図 (1/4) …… 135
第79図	21・22・23号土坑実測図 (1/60) …… 99	第109図	周溝状遺構出土土器実測図 (1/4) …… 136
第80図	1号井戸実測図 (1/30) …… 100	第110図	ピット出土土器実測図 (1/4) …… 137
第81図	2号井戸実測図 (1/60) …… 101	第111図	包含層出土土器実測図① (1/4) …… 138
第82図	8号溝土層実測図 (1/30)／1・2号周溝実測図 (1/60) …… 104	第112図	包含層出土土器実測図② (1/4) …… 139
第83図	1・5・6・7号住居跡出土土器実測図 (1/4) …………… 106	第113図	包含層出土土器実測図③ (1/4) …… 140
第84図	8・9号住居跡出土土器実測図 (1/4) …… 107	第114図	土製品実測図 (1/2) …… 141
第85図	10・11号住居跡出土土器実測図 (1/4) …… 108	第115図	鉄器実測図① (1/2) …… 143
第86図	11号住居跡出土土器実測図 (1/4) …… 109	第116図	鉄器実測図② (1/2) …… 144
第87図	12・13・14号住居跡出土土器実測図 (1/4) …………… 111	第117図	鉄器実測図③ (1/2) …… 146
第88図	15・16号住居跡出土土器実測図 (1/4) …… 112	第118図	鉄器実測図④ (1/2) …… 148
第89図	17号住居跡出土土器実測図 (1/4) …… 113	第119図	青銅器実測図① (1/2) …… 148
第90図	18・19・20・21号住居跡出土土器実測図 (1/4) …………… 114	第120図	石製玉等実測図 (1/2) …… 149
第91図	22・23号住居跡出土土器実測図 (1/4) …… 115	第121図	ガラス小玉実測図① (1/1) …… 150
第92図	24・25・26号住居跡出土土器実測図 (1/4) …… 116	第122図	ガラス小玉実測図② (1/1) …… 151
第93図	27号住居跡出土土器実測図 (1/4) …… 117	第123図	ガラス小玉実測図③ (2/1) …… 152
		第124図	石製鋳型類実測図① (1/2) …… 153
		第125図	石製鋳型類実測図② (1/2) …… 154
		第126図	石器実測図③ (1/2) …… 155

第127図	石器実測図④ (1/2) .....	156	付図	駿河A遺跡1次調査I区遺構図 (1/200)
第128図	石器実測図⑤ (1/2) .....	157		駿河A遺跡1次調査II区遺構図 (1/200)
第129図	石器実測図⑥ (1/2) .....	158		
第130図	石器実測図⑦ (1/2) .....	159		
第131図	石器実測図⑧ (1/2) .....	161		
第132図	石器実測図⑨ (1/2) .....	162		
第133図	石器実測図⑩ (1/2) .....	163		
第134図	石器実測図⑪ (1/2) .....	164		
第135図	石器実測図⑫ (1/2) .....	165		
第136図	2号住居跡実測図 (1/60) .....	166		
第137図	3・4号住居跡実測図 (1/60) .....	167		
第138図	14号土坑実測図 (1/30) .....	168		
第139図	2・3・4号住居跡出土土器実測図 (1/4) .....	169		
第140図	14号土坑出土土器実測図 (1/4) .....	170		
第141図	包含層出土土器実測図④ (1/4) .....	170		
第142図	鉄器実測図⑤ (1/2) .....	170		
第143図	青銅器実測図② (1/1) .....	170		
第144図	駿河A遺跡集落変遷図① .....	173		
第145図	駿河A遺跡集落変遷図② .....	174		

## 表 目 次

表1	住居跡観察表 .....	179	表7	出土ガラス製玉類観察表 .....	228
表2	掘立柱建物跡観察表 .....	182	表8	出土石製鋳型観察表 .....	231
表3	出土土器観察表 .....	190	表9	出土石器観察表 .....	231
表4	出土土製品観察表 .....	224	表10	ガラス小玉出土状況 .....	235
表5	出土鉄器観察表 .....	225	表11	ガラス小玉計測表 .....	235
表6	出土石製玉類観察表 .....	227			



# I はじめに

## 1 調査に至る経緯

駿河A遺跡は春日市庁舎の移転新設工事に伴い、事前に発掘調査を実施したものである。

当遺跡を含む春日市原町から春日公園一帯は、昭和47年の米軍基地返還後も長く国有地とされ、その跡地利用については国・県・春日市の三者で協議が進められていた。平成元年6月6日に国有財産九州地方審議会において、本市庁舎用地の払い下げが決定したことを受け、当該地の埋蔵文化財に関する試掘調査を春日市教育委員会が実施した。その結果、対象地は米軍及びこれに先立つ旧陸軍造兵廠等の整地・施設建設によって著しい攪乱を受けているものの、旧来の地形を保持する部分については、地表下30～40cmの位置において、竪穴住居跡や掘立柱建物の柱穴等が検出され、弥生時代後期を主体とする集落遺跡が広範囲に残存している状況が確認された。前述したとおり、当該地一帯は旧軍・米軍によって大規模な整地がなされ、その後も航空自衛隊基地として利用されていたため、基地敷地内における埋蔵文化財については全く把握されていない状況であった。その一方で、当地の北西方約300mの原町遺跡では、昭和44年、水道管理設工事の際に銅戈48本が一括して出土していた。また、西方500m付近の立石遺跡においては、これより先に細形銅剣や細縁式獣帯鏡、青銅製鋤先等が採取されていたことから、当地周辺は弥生時代の祭祀・墳墓に関連する極めて重要な地域として認識されていた。この度の駿河A遺跡における弥生集落の発見は、これらとの深い関わりが予想され、これまで不明であった春日丘陵の東側に隣接する台地周辺の様相を解明するものとして大いに期待された。

もとより、本市庁舎建設に関しては埋蔵文化財発掘調査を必然として計画されていたが、試掘調査の結果を受け、教育委員会と新市庁舎建設関係所管課との間で協議を行い、遺跡の内容と市庁舎の建設規模等から、発掘調査は約9ヶ月間をかけて実施する単年度事業とした。試掘調査直後の平成元年6月28日から本格的な発掘調査を開始し、平成2年2月14日に現場における全作業を完了した。発掘調査後は、完掘して記録保存を講じた遺構であっても出来るだけ傷めないように埋め戻しを行った。現地には当初の予定に従って市庁舎が建設されたが、この措置によって庁舎北側の職員駐車場の地下には規模の大きな竪穴住居跡や掘立柱建物跡等（の痕跡）を残していた。しかしながら、平成22年には春日警察署建設に伴って職員駐車場が立体化されることとなり、これらの遺構の痕跡も完全に消滅してしまったことは残念と言うほかない。

## 2 調査の組織

なお、発掘調査及び調査報告書刊行における整理作業の体制は次のとおりである。

発掘調査			整理作業		
平成元年度			平成 26 年度		
(総括)	教育長	三原英雄	(総括)	教育長	山本直俊
	教育部長	西田譲		社会教育部長	中野又善
	社会教育課長	矢野文一		文化財課長	又吉淳一
(庶務)	文化財係長	鬼倉芳丸	(庶務)	管理係長	上野志保
	主事	増永睦司		主査	伊藤かおり
(調査)	技術主任	丸山康晴		主任	矢越敏治
	技術主任	平田定幸		主任	佐藤和仁
	技師	中村昇平		主任	佐伯廣宣
	嘱託	池田洋子	(調査)	文化財課長補佐	中村昇平
	調査補助員	吉田佳広		主査	吉田佳広
				主査	森井千賀子
				主査	井上義也
				主事	山崎悠郁子
				嘱託	柳智子
				嘱託	足立紫穂
				嘱託	井上剛

駿河A遺跡に関しては、発掘調査時から調査報告書作成に至るまで、多くの方々に多大な御協力と御理解を賜った。とりわけ貴重な御助言や御指導をいただいた福岡県教育委員会文化財課（発掘調査時）池辺元明氏、元九州歴史資料館副館長 渡辺正気氏、福岡市経済観光文化局 久住猛雄氏、九州大学谷澤亜里氏に、記して厚く謝意を表するしだいである。

## II 位置と環境

玄界灘を挟んで大陸に面した福岡平野には、いち早く稲作を導入し、弥生文化の先進地としての性格を表す遺跡が多く存在する。特に博多湾へとそそぐ那珂川と御笠川の流域には弥生時代の遺跡が密集しており、両河川に挟まれた台地上には板付遺跡や諸岡遺跡、那珂遺跡、比恵遺跡といった主要な遺跡が分布している。

春日市は福岡平野の東南部、那珂川と御笠川の間であり、牛頸山系から連なる丘陵（春日丘陵）と前述した両河川によってできた段丘・氾濫原から構成される土地である。市内には遺跡が数多く存在しており、とりわけ代表的な遺跡としては市の北～中央部、春日丘陵上に位置する須玖遺跡群があげられる。弥生時代中期から後期にかけて副葬品を伴う甕棺墓群や、青銅器・鉄器・ガラス製品の工房跡が発見されている。出土遺物の内容・質・量は同時期の近隣遺跡とは格を逸しており、この地が当時の福岡平野の中心的な存在であり中国の史書に記された奴国の中核であったことを疑う余地はない。

今回報告する駿河A遺跡は弥生時代中期から後期にかけて活発な動きがあった集落遺跡であり春日市の東部、御笠川の支流である牛頸川左岸の中位段丘上に位置している。市の東部は平坦な春日原台地が広がっており古くから開発・市街化が進んでいた地域である。当地周辺の埋蔵文化財については旧石器時代・縄文時代のものが春日公園内遺跡<sup>(1)</sup>や九州大学・御供田遺跡<sup>(2)</sup>などで確認されている。しかしいずれにおいても石器片や土器片が認められるのみで、この地区で本格的な生活の痕跡を認めることができるのは弥生時代以降である。

駿河A遺跡周辺の弥生時代の遺跡としては立石遺跡<sup>(3)</sup>と石勺遺跡<sup>(4)</sup>、九州大学・御供田遺跡が知られている。立石遺跡からは弥生中期から後期にかけての甕棺墓群や土坑墓群が確認された。戦前、戦後には鏡や銅剣が採集されており須玖遺跡群内の有力集団墓の一つであったといえる。石勺遺跡からは中期前半ごろから継続する集落跡や墓地の跡が見つまっている。九州大学・御供田遺跡は広範囲にわたる遺跡であるが遺跡北部から弥生時代の複数の住居跡や甕棺墓、溝が検出され中期の集落があったことが判明している。この他には銅戈48本が一括出土した原町遺跡<sup>(5)</sup>と弥生時代の建物跡が数軒確認された中ノ原遺跡<sup>(6)</sup>、祭祀に利用された長大な鉄剣が発見された先ノ原遺跡<sup>(7)</sup>が所在する。

古墳時代になると、須玖遺跡群周辺の住居跡や集落跡の数は減少し規模も縮小する傾向が見られる。駿河A遺跡の周辺において、当時の痕跡はあまり多くは認められないが、石勺遺跡にて引き続き集落が営まれ、瑞穂遺跡<sup>(8)</sup>において新たに集落が形成されていたことがわかっている。その一方で6世紀後半ごろから市南部から東南部において牛頸窯跡群の北部に当たる惣利1号窯跡<sup>(9)</sup>や春日平田東窯跡<sup>(10)</sup>で窯業が開始されるとその周辺では惣利北遺跡<sup>(11)</sup>や惣利西遺跡<sup>(12)</sup>などの集落が展開する。これ以降もこの地域での窯業は続きその様子は惣利遺跡<sup>(13)</sup>、惣利東遺跡<sup>(14)</sup>などで認められている。

奈良時代には大宰府から鴻臚館に至る官道が整備されていたことが分かっておりその官道の一部が

駿河A遺跡の南から東に位置する春日公園内遺跡、九州大学・御供田遺跡、先ノ原遺跡で見つかった。他に周辺の駿河B遺跡<sup>(15)</sup>、駿河E遺跡<sup>(16)</sup>、原ノ口遺跡<sup>(17)</sup>、駿河D遺跡<sup>(18)</sup>でも奈良時代の遺構・遺物が出土していることから官道との関連が想定される。

- 註1 春日市史編纂委員会『春日市史』上 1995
- 註2 九州大学春日原地区埋蔵文化財調査室『九州大学埋蔵文化財調査報告—九州大学筑紫地区遺跡群—』(第一冊) 1992
- 註3 春日市教育委員会『立石遺跡』春日市文化財調査報告書 第34集 2002
- 註4 大野城市教育委員会『石勺遺跡I—H地点の調査—』大野城市文化財調査報告書 第47集 1996
- 註5 脚注1
- 註6 春日市教育委員会『春日市埋蔵文化財年報11』2004
- 註7 春日市教育委員会『先ノ原遺跡—1～3次調査—』春日市文化財調査報告書 第63集 2012
- 註8 大野城市教育委員会『瑞穂・原ノ畑遺跡』大野城市文化財調査報告書 第57集 2001
- 註9 春日市教育委員会『春日地区遺跡群I』春日市文化財調査報告書 第12集 1982
- 註10 春日市教育委員会『春日地区遺跡群VI』春日市文化財調査報告書 第21集 1991
- 註11 脚注1
- 註12 春日市教育委員会『春日地区遺跡群III』春日市文化財調査報告書 第15集 1985
- 註13 春日市教育委員会『春日地区遺跡群II』春日市文化財調査報告書 第14集 1983
- 註14 同上
- 註15 春日市教育委員会『駿河B遺跡』春日市文化財調査報告書 第69集 2013
- 註16 春日市教育委員会『春日市埋蔵文化財年報9』2002
- 註17 春日市教育委員会『春日市埋蔵文化財年報』2011
- 註18 春日市教育委員会『駿河D遺跡—2次調査—』春日市文化財調査報告書 第71集 2014

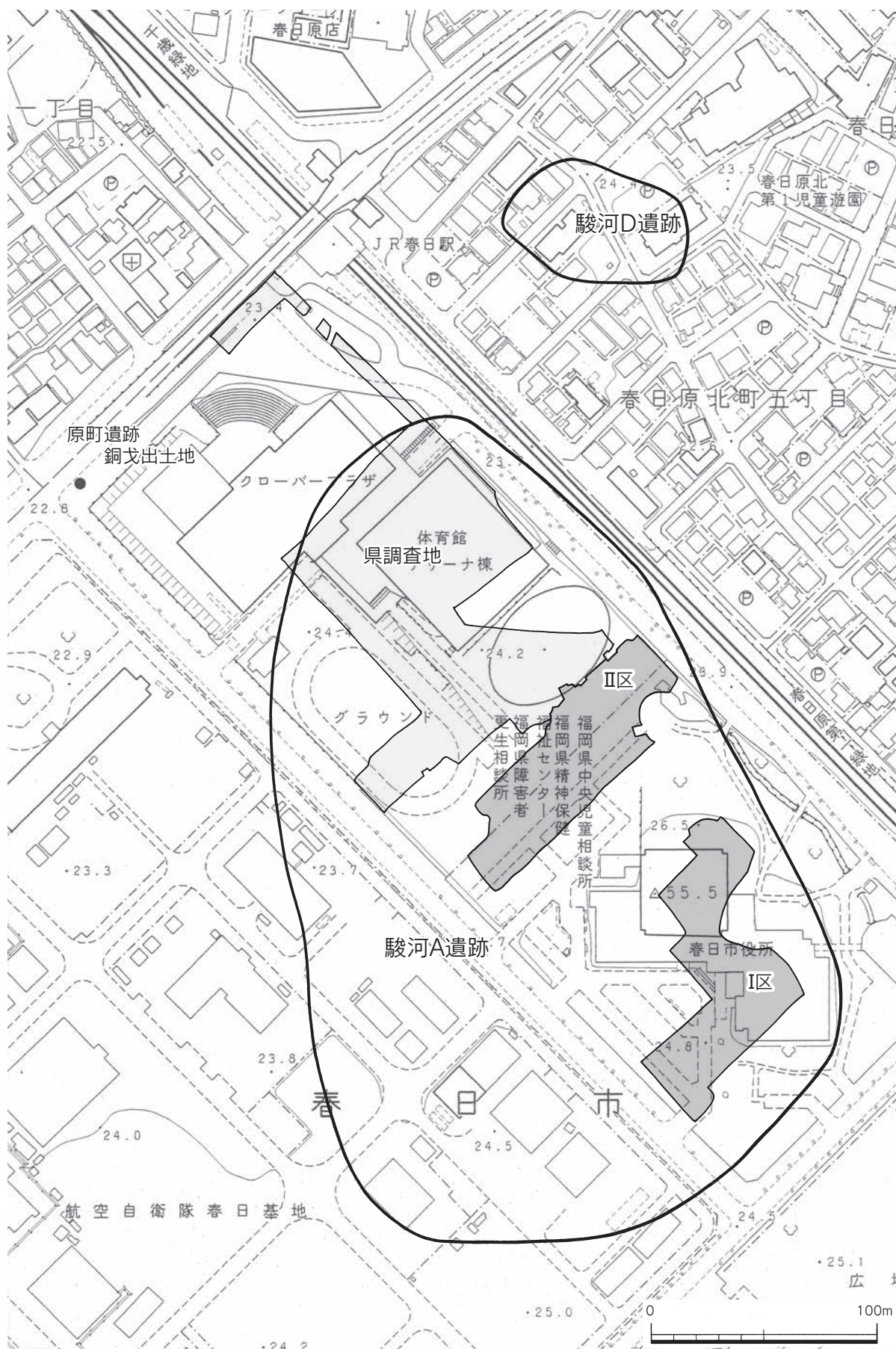




- |           |           |           |           |           |           |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1 駿河A遺跡   | 2 三筑遺跡    | 3 仲島遺跡    | 4 須玖遺跡群   | 5 下大荒遺跡   | 6 南八幡遺跡   |
| 7 麦野C遺跡   | 8 大荒遺跡    | 9 雑餉隈遺跡   | 10 原町遺跡   | 11 駿河D遺跡  | 12 駿河B遺跡  |
| 13 駿河E遺跡  | 14 先ノ原遺跡  | 15 小倉水城跡  | 16 前ノ原遺跡  | 17 天神山水城跡 | 18 池ノ内C遺跡 |
| 19 池ノ内B遺跡 | 20 大土居水城跡 | 21 小倉新池遺跡 | 22 大牟田池遺跡 | 23 惣利1号窯跡 | 24 春日水城跡  |
| 25 惣利遺跡   | 26 惣利北遺跡  | 27 惣利西遺跡  | 28 惣利東遺跡  | 29 向谷北遺跡  | 30 向谷西遺跡  |
| 31 向谷遺跡   | 32 大牟田遺跡  | 33 楠ノ木遺跡  | 34 惣利古墳   | 35 円入遺跡   | 36 御供田遺跡  |
| 37 石勺遺跡   | 38 瑞穂遺跡   | 39 村下遺跡   |           |           |           |

第1図 駿河A遺跡周辺遺跡分布図 (1/25,000)





第2図 駿河A遺跡位置図 (1/2, 500)

### Ⅲ 発掘調査の概要

#### 1 調査の概要

駿河A遺跡は春日市東部に位置する。周辺は御笠川中流域に広がる平野部といえるが、実際は低平な小丘がいくつもあり、この内、牛頸川北西岸に所在する標高23～25mの低台地に当該地は立地している。当地一帯は市域でも最も早く開発が進んだ地域であり、発掘調査を実施した時点では既に旧地形を窺い知ることは困難な状況であった。本調査要因である市庁舎建設用地内も米軍基地の整地や道路、建築物等によって、本来の地形が大きく改変され、当初から本調査対象となり得る範囲が南北に分断された状態になっていた。

発掘調査は、建設用地約20,000㎡のうち試掘調査の結果に基づき約8,000㎡を対象地としたが、大規模な建築物や掘削によって、遺構が消滅しているものと判断される範囲を除外して、南側の4,200㎡をⅠ区、北側4,050㎡をⅡ区として設定した。本調査はⅠ区から開始し、重機による表土除去作業、調査員の人力による遺構検出及び発掘作業を行った。遺構の記録と出土遺物の回収は発掘作業に並行して随時行っていたが、基本的な作業の流れとしては、遺構検出、遺構発掘、個別遺構写真撮影、個別遺構実測、空中写真による遺構全景撮影、遺構配置全体図実測となる。写真記録は35mm及び6×7中判カメラでモノクロ写真とカラーリバーサル写真を撮影し、遺構実測については、調査員の手作業で1/20の全体図と1/20または1/10の個別遺構図を作製した。Ⅰ区における遺構発掘及び個別遺構写真撮影・実測作業が粗方終了した時点でⅡ区の調査を開始し、Ⅰ区的全景写真撮影・全体図実測とⅡ区の遺構検出・発掘等は並行して作業を進めた。

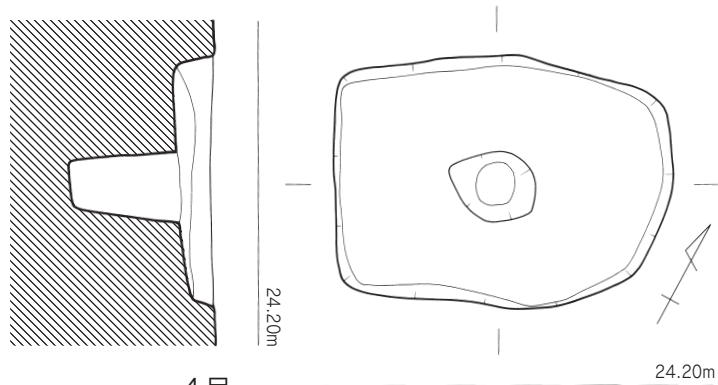
調査の結果、Ⅰ区においては縄文時代の土坑5基、弥生時代の竪穴住居跡1軒、掘立柱建物跡8棟、土坑10基、歴史時代の竪穴住居跡3軒、時期不明の溝8条、遺物包含層、多数のピット等を検出した。クランク形を呈する調査区の中央部東側は窪んで遺物を包含する黒色土が厚く堆積していた。しかし、他の場所では自然堆積土を殆ど観察できず、表面から20～30cmの深さで黄褐色ローム質の地山となり、この面で遺構を確認した。調査区南部は極端に遺構分布が希薄となるが、これは整地や戦前の開墾で本来の地形が数十cmから1m以上削平された結果と考えられる。一方、Ⅱ区はⅠ区より数段濃密な遺構分布をみせ、弥生時代中期後半から終末期にかけての竪穴住居跡39軒、掘立柱建物跡48棟、土坑20基、井戸2基、溝2条、周溝状遺構2基、多数のピット群を検出した。これらは調査区全体に広がっており、重複した遺構が多く認められる。遺構検出面までの層序はⅠ区と同様だが、残存状態の良好な遺構が多いことから、地形の削平度合いは大きい部分でも40～50cm程度と判断される。出土遺物については、弥生土器が主体を占め、その総量は整理箱110箱分に達する。土師器、須恵器、陶磁器片など土器の他には石器、鉄器、青銅器、ガラス玉類、青銅器鋳型等が出土しており、特に住居跡から鉄器が多く出土する状況は注目される。また、少量ながら旧石器時代・縄文時代の石器や土器が出土しているが、これらについては明確な遺構に伴うものが殆どない。



## 2 旧石器時代・縄文時代の遺構と遺物

### (1) 遺構

4・5・10・11・13号土坑は縄文時代の落とし穴と考えられる。I区において等高線に沿って12～25mの間隔で並ぶ状況が認められる。おそらく当時の狩猟者が“けもの道”上に点々と仕掛けた罠であろう。後世の地形削平のために残存状態の深浅はあるが、この5基の土坑は全く同じ性格のものである。いずれも出土遺物はない。



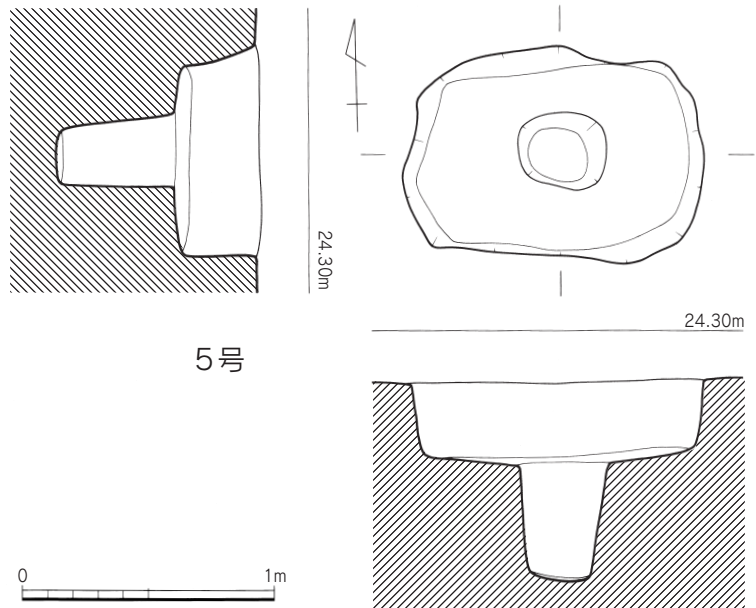
4号

#### ① 土坑

##### 4号土坑

(図版33 - (3)、第3図)

I区の中央部に検出した。135cm×100cmの長方形を呈し、底面中央に杭を立てていたとみられるピットがある。米軍基地時代の削平が著しいため残存状態が悪く、遺構検出面から底面までの深さは、最も残りの良いところでも20cmに満たない。



5号

##### 5号土坑

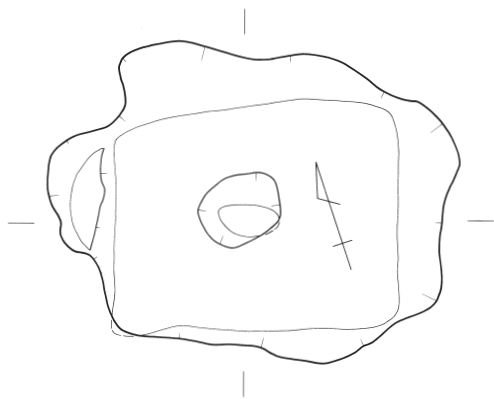
(図版34 - (1)、第3図)

I区の中央部、4号土坑の北12mの位置に検出した。120cm×85cmの長方形を呈し、底面中央にピットがある。底面までの深さは約30cmである。

##### 10号土坑 (図版35 - (3)、第4図)

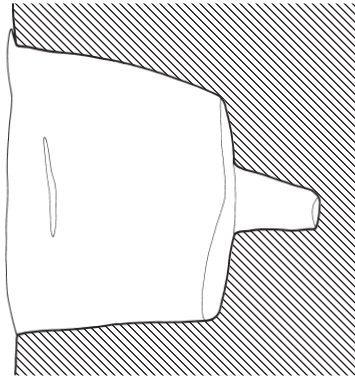
I区の北西部に検出した。5号土坑とは北に24mの間隔が開く。検出面での最大値は164cm×127cmを測る。長方形を呈する底面は中央にピットがある。底面までの深さは90cmを測り、西辺に

第3図 4・5号土坑実測図 (1/30)

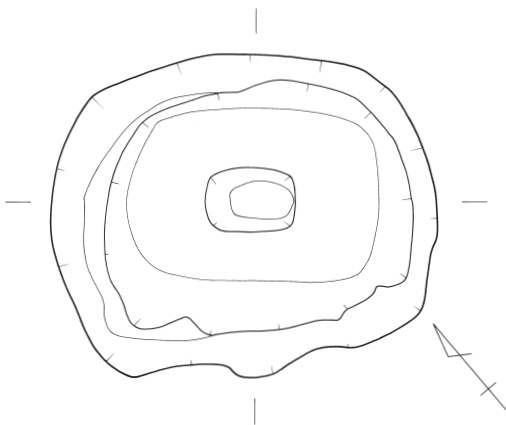
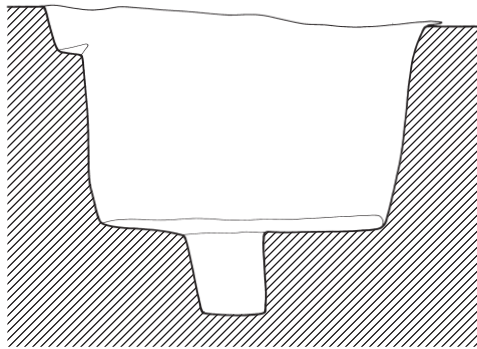


24.00m

24.00m

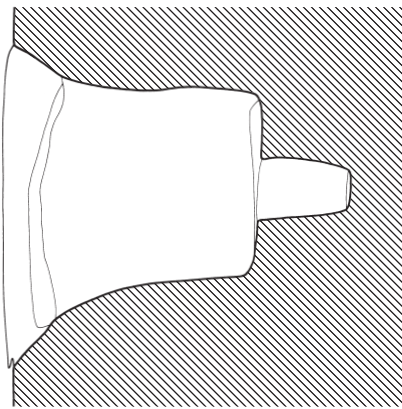


10号

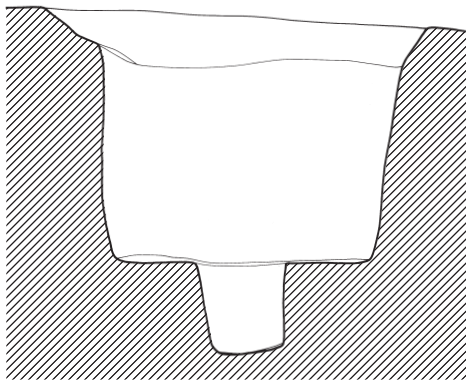


23.90m

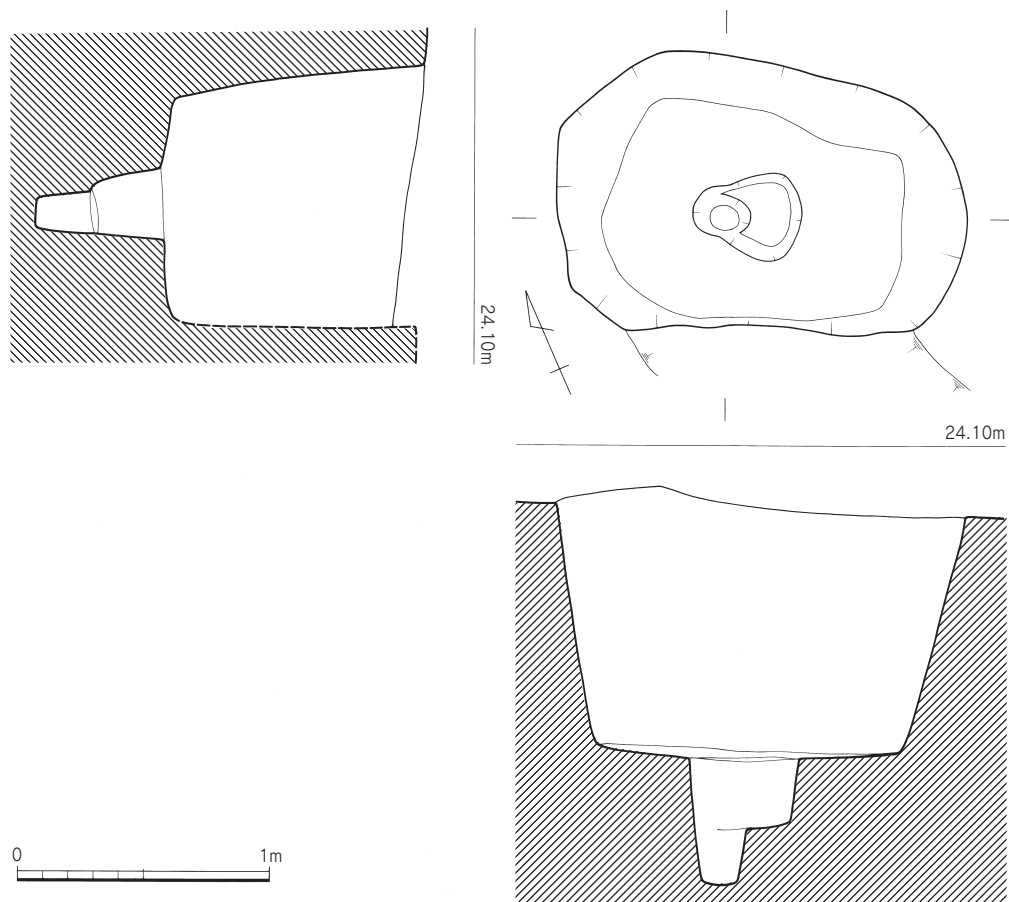
23.90m



11号



第4图 10·11号土坑实测图 (1/30)



第5図 13号土坑実測図 (1/30)

ステップ状の段がある。

**11号土坑** (図版 36 - (1)、第4図)

I 区の北東部、10号土坑の北東17mの位置に検出した。153cm × 128cmの隅丸長方形を呈し、底面中央にピットがある。深さは101cmを測り、底面から約80cmの位置に段がある。

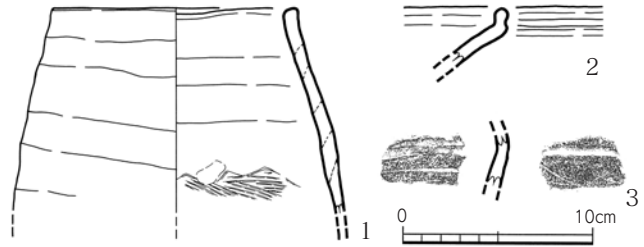
**13号土坑** (図版 36 - (3)、第5図)

I 区の北東部に検出した。11号土坑の北東15mに位置する。南辺が米軍基地施設のため破壊されているが、検出面での最大値は163cm × 128cmを測る。概ね隅丸長方形を呈し、深さ108cmを測る。底面中央のピットは段掘りになっている。

## (2) 遺物

### ① 土器 (図版 42、第 6 図)

当調査では、1号土坑と包含層から縄文土器が出土したが、混入品であり遺構などに伴うものではない。このうち図化できた3点を報告する。なお、土器の詳細については巻末の土器一覧表を参照されたい。



1は粗製の深鉢。内傾する口縁部は、多くが残存する。内面下部には条痕文が確認できる。2は浅鉢の口縁部小片で、端部は丸くおさめ、口縁下に沈線を有す。3は胴部小片。屈曲部の外面は凹線上に浅く窪む。小片のため傾きは不確かであり、器種も断定できない。

### ② 石器 (図版 62 - (1)・(2)・63 - (1)、第 7・8 図)

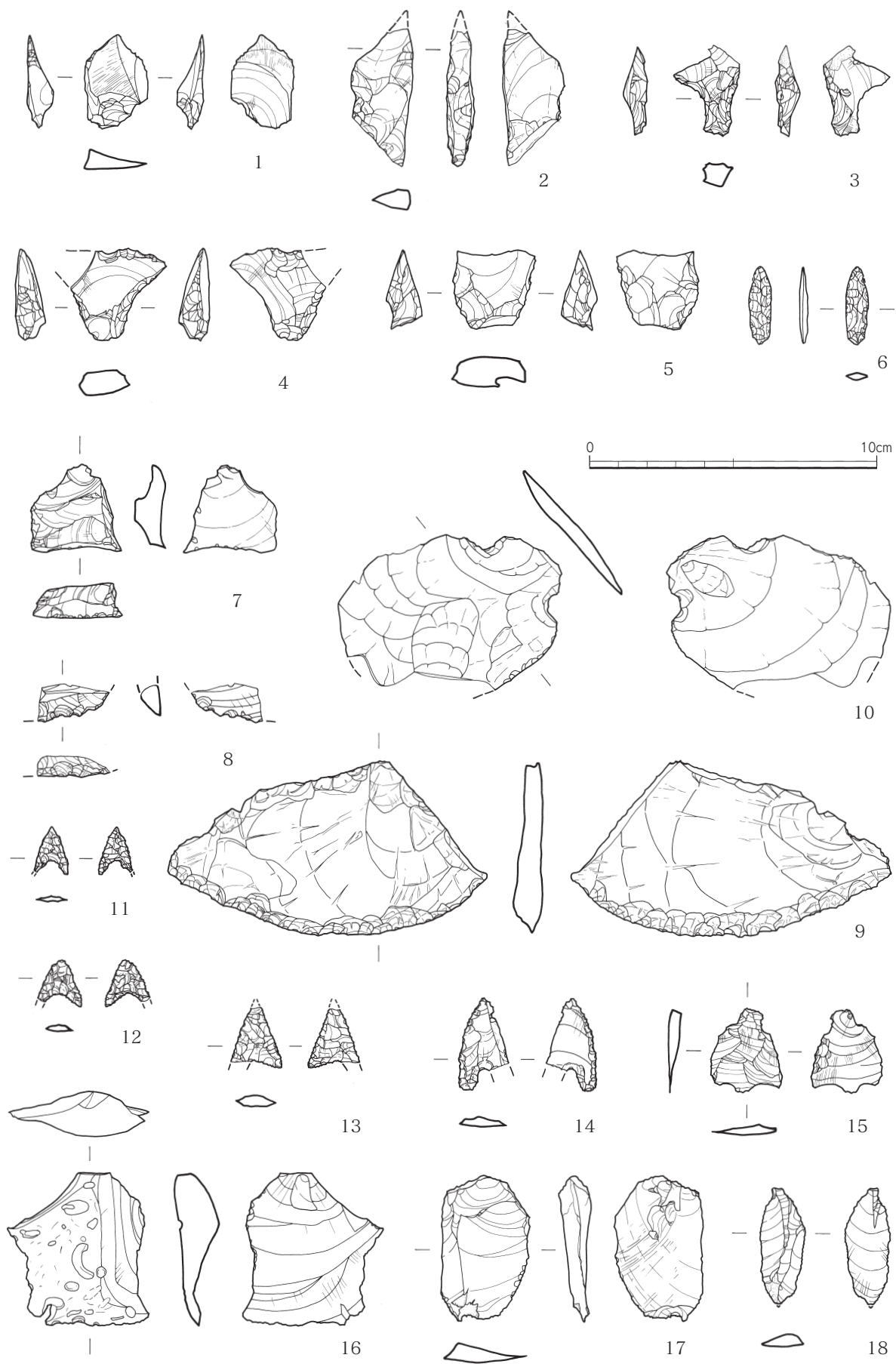
当調査では、旧石器時代、縄文時代の石器が出土しており、剥片などの中には両者の区別がつかないものも含まれる。ここでは、旧石器時代、縄文時代と考えられる石器について報告する。なお、各石器の出土遺構については、殆どが後世の遺構であり、石器は混入品と考えられる。法量などについては、一覧表を参照していただきたい。

1・2はナイフ形石器。1は表面採集した小形の完形品で、刃部には使用痕らしき剥離が観察できる。背部の先端部には主要剥離面側からの刃つぶし加工が施される。2は今峠型ナイフ形石器の先端部を欠いたものと考えた。背部は明瞭な刃つぶし加工は見られないが、わずかながら剥離を施す。39号住居跡からの出土品。

3～5は台形様石器。3は4号住居跡からの出土品。先端部を欠く資料。横長剥片を利用したもので、側面は主要剥離面側からの剥離を丁寧に施す。4は銀杏葉を呈するもので、やや大ぶりのもの。側面の調整は主要剥離面側から主に施す。先端部にも剥離が見られるが、使用痕と言うよりも調整の可能性が強い。9号住居跡から出土した。5も台形様石器であろう。3・4とは異なり基部は作りださず、側面に調整を施すため、逆台形をなす。37号住居跡の土坑から出土した。

6は30号住居跡から出土した小形の尖頭器で、サヌカイト製。柳葉形をなし、両面に細かい調整が施される。

7～9はスクレイパーであろう。7は32号住居跡から出土した小形品で、下端は主要剥離面からの剥離によって刃部を形成する。8は剥離が見られる小片で、他の器種の可能性もある。石材には風化が見られるため旧石器時代のものか。P924の出土品。9は38号掘立柱建物跡出土の大形品で、サヌカイト製。下端部は両面からの剥離により刃部を形成する。表面の右上部は古い時期の切断とみ



第7图 石器实测图① (1/2)

られ、製作時の成形であろう。

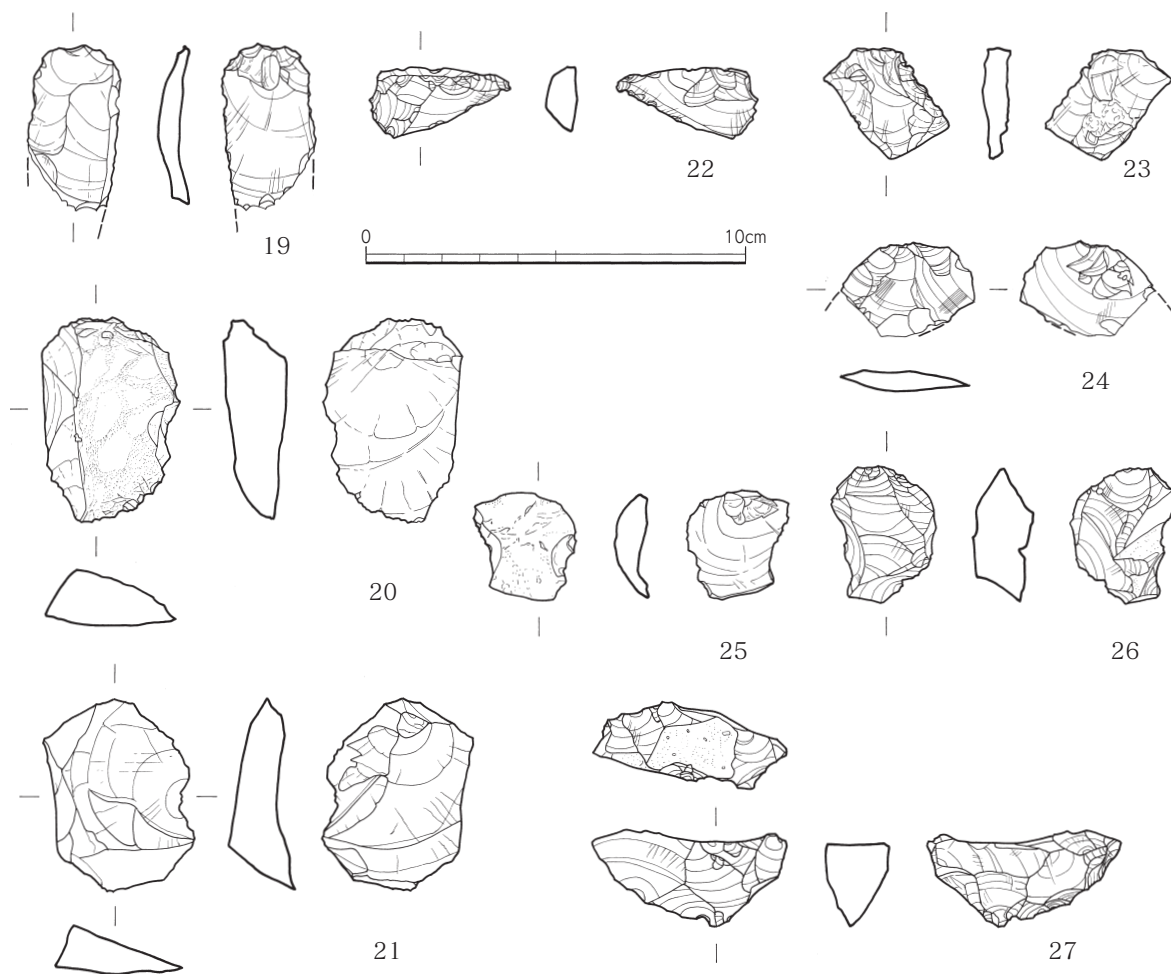
10 は石匙で、6 号土坑から出土した。やや大ぶりの印象がある。下端部を欠き、残存部には丁寧な調整は見られず、素材となる剥片の形状を強く残す。打面付近をつまみ状に成形する。主要剥離面には、バルバスカーが残存する。

11～14 は凹基式の石鏃。11 は脚部の一部を欠く資料。小ぶりだが、周縁から丁寧な剥離を行い、成形される。2 号土坑からの出土品。12 も小ぶりの鏃で、包含層から出土した。脚部の一部を欠損する。11 と同様、周縁から丁寧な剥離を施す。13 は先端と脚部を欠く資料で、脚部の扱いは浅い。15 号住居跡出土。14 は 23 号住居跡から出土した剥片鏃。左半部の周縁部に剥離が見られる。鈴桶技法によるものであろう。

15～25 は剥片で、このうち 15～18 には使用痕らしき剥離がある。15 は 23 号住居跡から出土した不定形な剥片で、上端部はつまみ状に見える。主要剥離面の左周縁部に使用痕と考えられる剥離がある。16 は黒灰色を呈するガラス質の石材で、風化の強い黒曜石であろう。下端部と左側辺部には小さな剥離が見られるため、使用痕と考えた。背面は自然面を残し、気孔が見られる。主要剥離面にはバルバスカーがある。37 号住居跡の出土品。17 は 38 号住居跡から出土した縦長剥片で、左右の側縁部下端に使用痕がある。主要剥離面にはバルバスカーがある。18 は縦長剥片で、15 号住居跡からの出土品。側縁部には使用痕がある。背面の一部に自然面を残す。19 は 32 号住居跡から出土した縦長剥片で、下部を欠損する。主要剥離面にはバルバスカーがある。20 は 20 号住居跡出土の縦長剥片で、背面には自然面が良く残る。21 は縦長剥片で、石材は淡黄褐色を呈する。堆積岩系であろうか。背面に自然面が残る。溝 7 の東側から出土した。22 は横長剥片でよかろう。7 号住居跡から出土した。所々に剥離が見られるが調整か否かは判断できない。23 は 35 号掘立柱建物跡から出土した不定形な黒曜石の剥片で、主要剥離面には不純物が目立つ。24 は横長剥片で、P13 からの出土品。下部は欠損し、主要剥離面にはバルバスカーがある。25 は不定形な剥片で、39 号掘立柱建物跡から出土した。剥離面は暗緑色を呈し、背面の自然面は緑褐色。石材はチャートか。

26・27 は石核。26 は 28 号住居跡から出土した。打面などは残さないが様々な角度からの剥離が見られ、主要剥離面もないため石核と考えた。裏面は節理や凝固時に入った空気の痕跡であろうか、自然面が観察できる。27 は上面に自然面を残す資料で、縦断面形は楔形に近い。細石核とも考えたが、細石刃を剥離した跡は観察できない。包含層からの出土品。





第8図 石器実測図② (1/2)

### 3 弥生時代の遺構と遺物

#### (1) 遺構

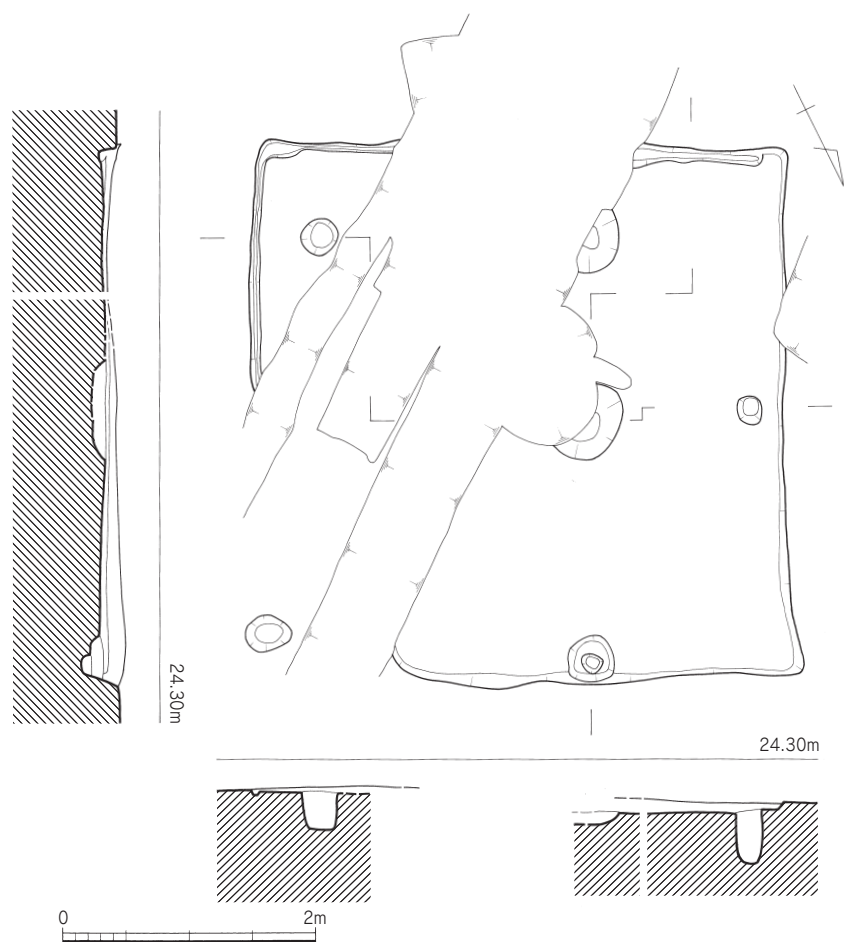
##### ① 住居跡

##### 1号住居跡 (図版5-(2)、第9図、表1)

I区の北西部に検出した竪穴住居跡で、9号土坑を切る。床面までの深さが15cmと残存状況が悪いうえ、米軍基地施設によって大きく破壊されている。住居跡の形状は、南東に張出部を設え、ここを地山削り出しのベッド状遺構としている。床面は貼り床が施されており、中央部に検出した炉跡はあまり焼けていない。支柱穴は2本と考えられ、西壁際の小さなピットが支柱穴とみられるが、東側は攪乱のため確認できなかった。南辺と東辺の壁際に細い溝が掘られている。出土遺物から弥生終末期前半のものと考えられる。土器の他に砥石も出土している。

##### 5号住居跡 (図版7-(1)、第10図、表1)

II区の北部(東寄り)に検出した竪穴住居跡で、28・29号掘立柱建物跡よりも古い。検出面から床面までの深さは30～40cmである。北西隅、南東隅に地山削り出しのベッド状遺構を設けている。

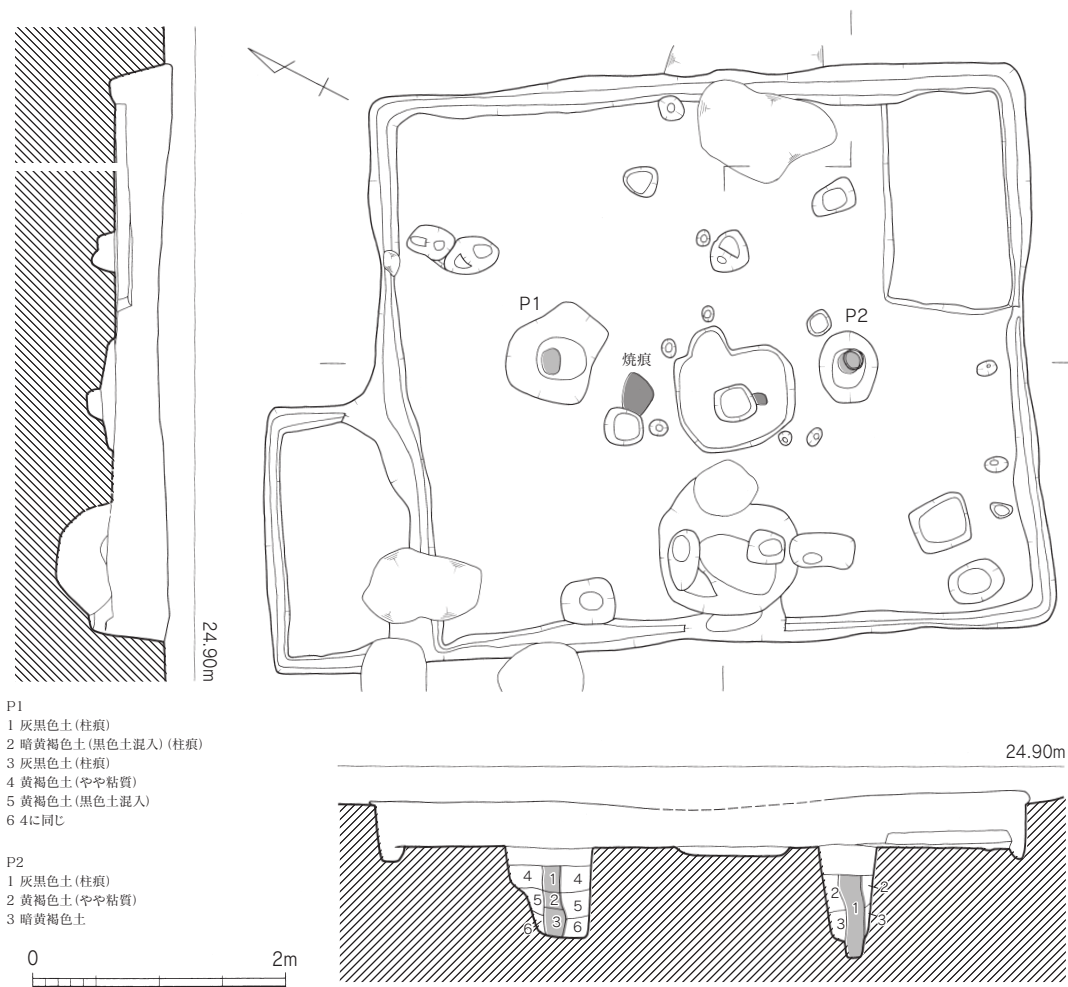


第9図 1号住居跡実測図 (1/60)

中央部のピットが炉とみられるが、全体的には焼けておらず、一部に焼痕が認められるのみである。主柱は2本で、主柱穴P1、P2には直径約20cmの柱痕が明瞭に残されていた。西壁中央に位置する所謂屋内土坑で、底面両端に深さ約10cmの段が付く。北西隅張出部も含め、壁際には細い溝が巡らされている。出土した土器は弥生中期末～後期初頭のものが主体である。他にガラス小玉7点、鉄器が出土した。

**6号住居跡** (図版7-(2)、第11図、表1)

Ⅱ区の北東部に検出した。21号土坑・48号掘立柱建物跡よりも新しく、49号掘立柱建物跡より古い可能性が高い。検出面から床面までの深さ15cm前後を測るが、21号土坑と重複する西隅の床面は5cmほど窪んでいる。南東辺に沿って幅約20cm、高さ10cmの段を設けている。北角に設置されたベッド状遺構は、東半分が地山削り出し、西半分は盛土で造り付けている。主柱は炉を挟んで南北に2本あったとみられるが、北側の柱穴は21号土坑と重複しているため、掘方の切り合いを判別できず、図示することができなかった。南側のP1には近接して2個が存在しており、建替えられた可能性を示している。P2は主柱穴より約20cm深く、P3は46cm浅い。出土した土器は弥生後期前半～後半のものが見られる。ガラス小玉が出土した。



第10図 5号住居跡実測図(1/60)

**7号住居跡** (図版7-(3)、第11図、表1)

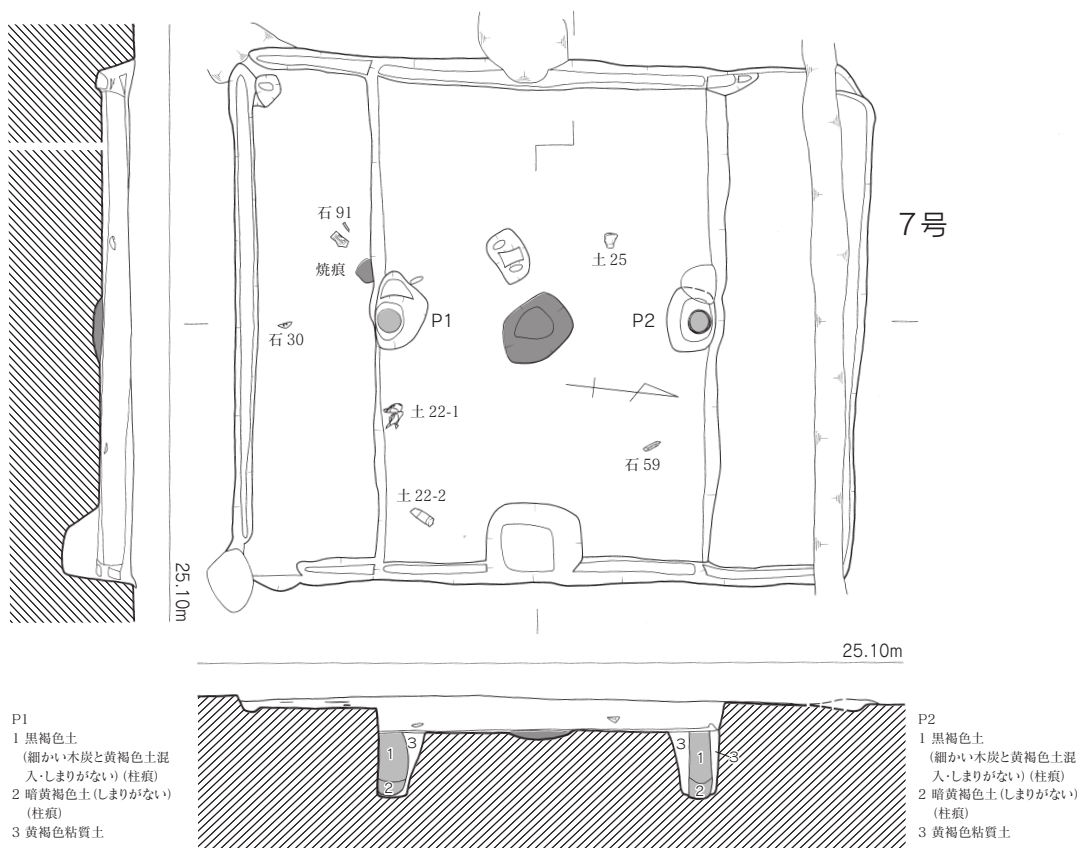
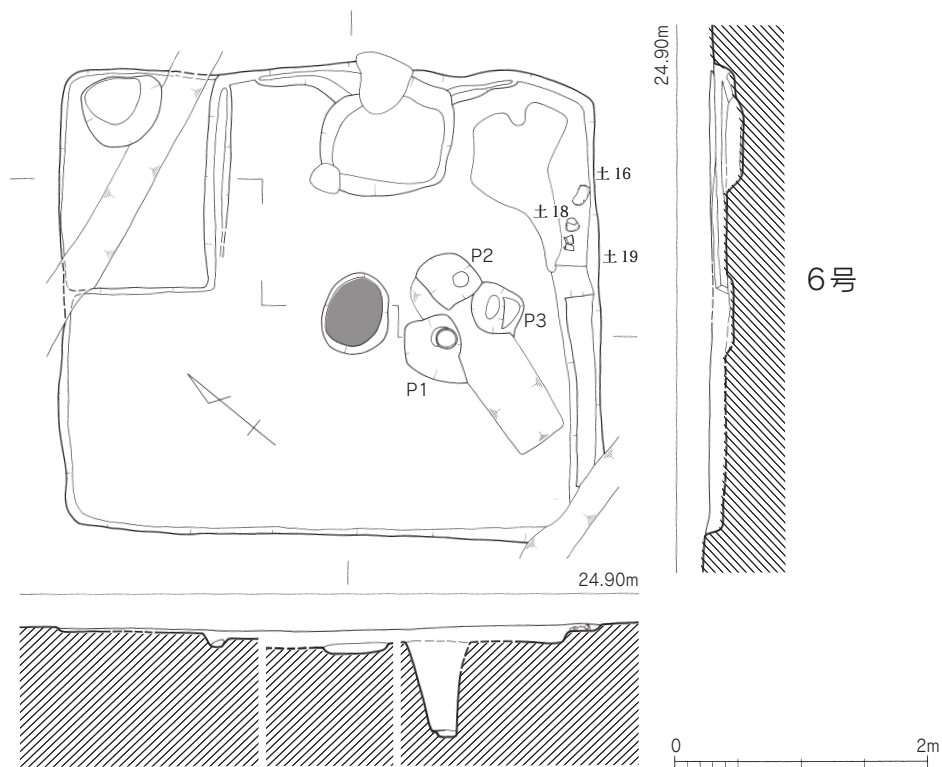
Ⅱ区の北部西端に検出した。16号掘立柱建物跡よりも新しい。検出面から床面までの深さは約30cmを測る。床面直上に炭化物や焼土が多く確認されることから、焼失住居跡とみられる。南北の辺に設置されたベッド状遺構は地山削り出しである。主柱は炉を挟んでベッド状遺構の段際に2本あり、直径15～20cmの柱痕が明瞭に残る。北壁以外の3辺に溝を巡らせている。炉跡はよく焼けている。出土した土器は弥生終末期前半のものが主体である。砥石、石包丁等が出土している。

**8号住居跡** (図版8-(1)、第12図、表1)

Ⅱ区の北部東寄りに検出した小規模な住居跡である。北東部に重複する9号住居跡よりも新しい。検出面から床面までの深さは40～55cmで残存状態が良好である。壁際に細溝を巡らす北東隅が途切れており、ここを出入り口としていたものと考えられる。主柱は2本で、中心を少し外した中間位置に炉を設ける。炉の壁面はほとんど焼けていない。写真撮影時は主柱穴の柱痕のみを掘り下げていたが、最終チェック時に掘方を確認し完掘した。屋内土坑は炉の東脇に作られている。弥生後期初頭の完形土器が数点、鉄斧、石包丁などが床面直上から出土している。

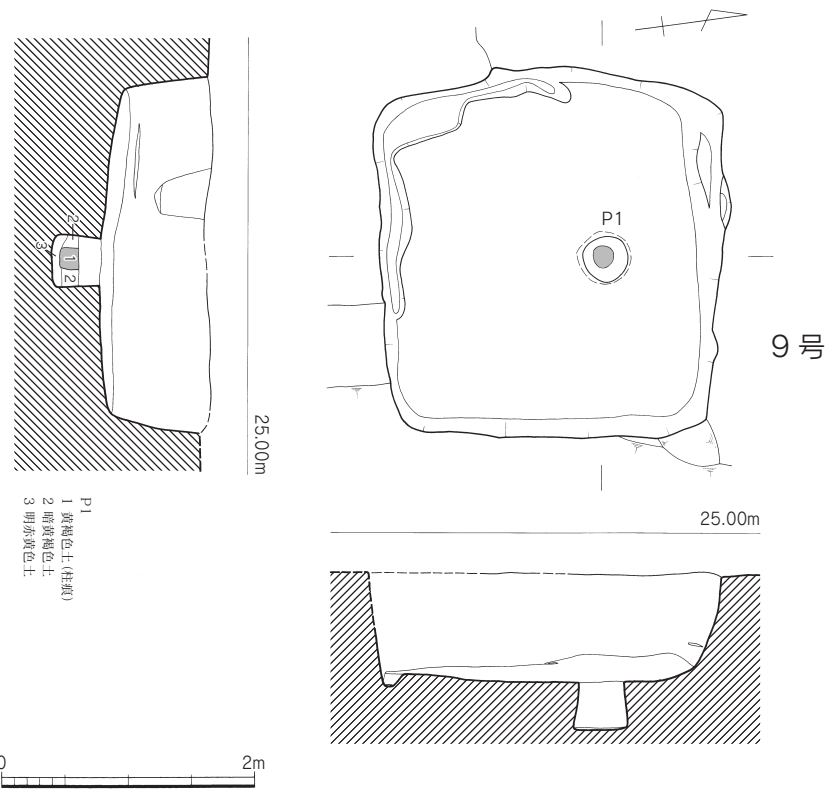
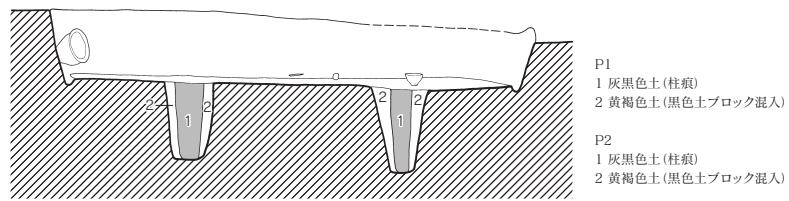
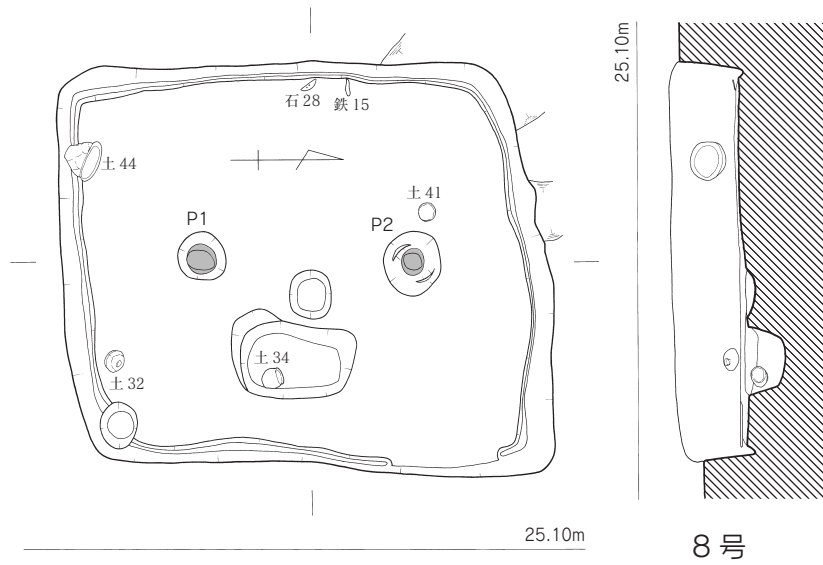
**9号住居跡** (図版8-(2)、第12図、表1)

8号住居跡の北東部に重複して検出した。8号住居跡よりも古い。深さは約85cmを測る。本報告



第11図 6・7号住居跡実測図 (1/60)





第12図 8・9号住居跡実測図(1/60)

では住居跡としたが、炉跡は認められず、床面には柱穴とみられるピットが1個あるだけである。貯蔵施設的な堅穴と考えたほうが妥当かもしれない。出土品は弥生中期末の土器片が主体である。

#### 10号住居跡（図版8－(3)、第13図、表1）

Ⅱ区の中央部東端に検出した堅穴住居跡で、1号井戸よりも新しい。検出面から床面までの深さは25cm前後である。南西角に地山削り出し、北辺に盛土を薄く貼り付けたベッド状遺構を設けている。中央部のピットが炉で、壁面はよく焼けている。主柱は2本で南主柱穴の方が深く、やや規模が大きい。西壁中央に位置する屋内土坑は、底面両端に深さ約10cmの段が付く。壁際に細い溝を巡らしている。出土した土器は弥生終末期後半のものが主体で、他に鉄器2点、石包丁等が出土した。

#### 11号住居跡（図版9－(1)、第13図、表1）

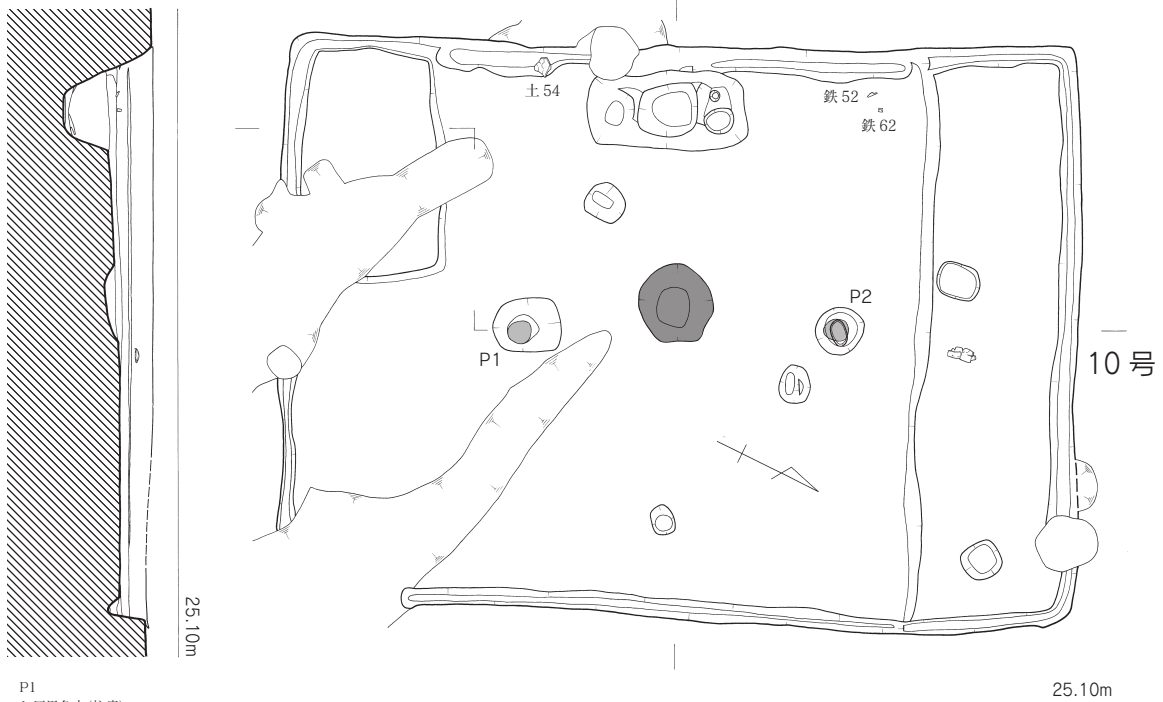
Ⅱ区の北部西寄りに検出した。検出面から床面までの深さは25cm前後である。主柱は2本であるが、その柱穴は東西の壁際中央に、住居跡の外に向かって深く掘りこまれている。東主柱穴の南側に高さ10cmの台状の高まりが認められる。地山と全く同質の土塊で固く締まっている。出土した土器は弥生中期末のものが主体を占める。床面直上から磨製石剣と砥石が出土している。

#### 12号住居跡（図版9－(2)・(3)、第14図、表1）

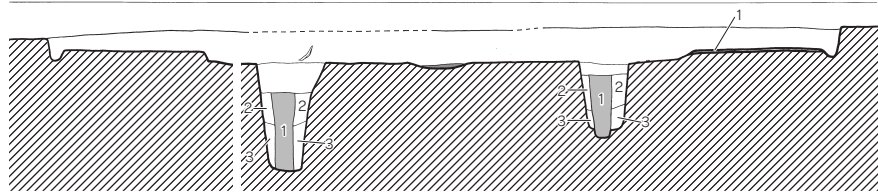
Ⅱ区の北部東寄りに検出した。13号住居跡、24・25・26・27号掘立柱建物跡よりも古い。検出面から床面までの深さは25cm前後である。住居の形状は、西辺中央に張出部を設え、ここを地山削り出しのベッド状遺構としている。南北両辺にもベッド状遺構を設けているが、北側は盛土による造り付けである。南側は東半部が地山を削り出した段の表面に厚さ3～4cmの貼床を施す造りで、西半部は盛土の造り付けである。炉跡は東側が段掘りになっており、表面がよく焼け締まっている。主柱は2本で、南主柱穴P1には直径約20cmの柱痕が明瞭に残されていた。東壁中央に位置する屋内土坑は、底面両端に深さ12～13cmの段が付く。南側ベッド状遺構際の西半部から西辺張出部の前面にかけて、幅40～60cm前後の浅い溝を設けている。南側ベッド状遺構は外壁際に細い溝が回る。出土した土器は弥生後期前半のものが主体である。特筆すべき遺物としては、北側ベッド状遺構前面の床直上から小型仿製鏡が鏡面を上向きに出土した。他に鉄器2点、ガラス小玉等が出土している。

#### 13号住居跡（図版10－(1)、第15図、表1）

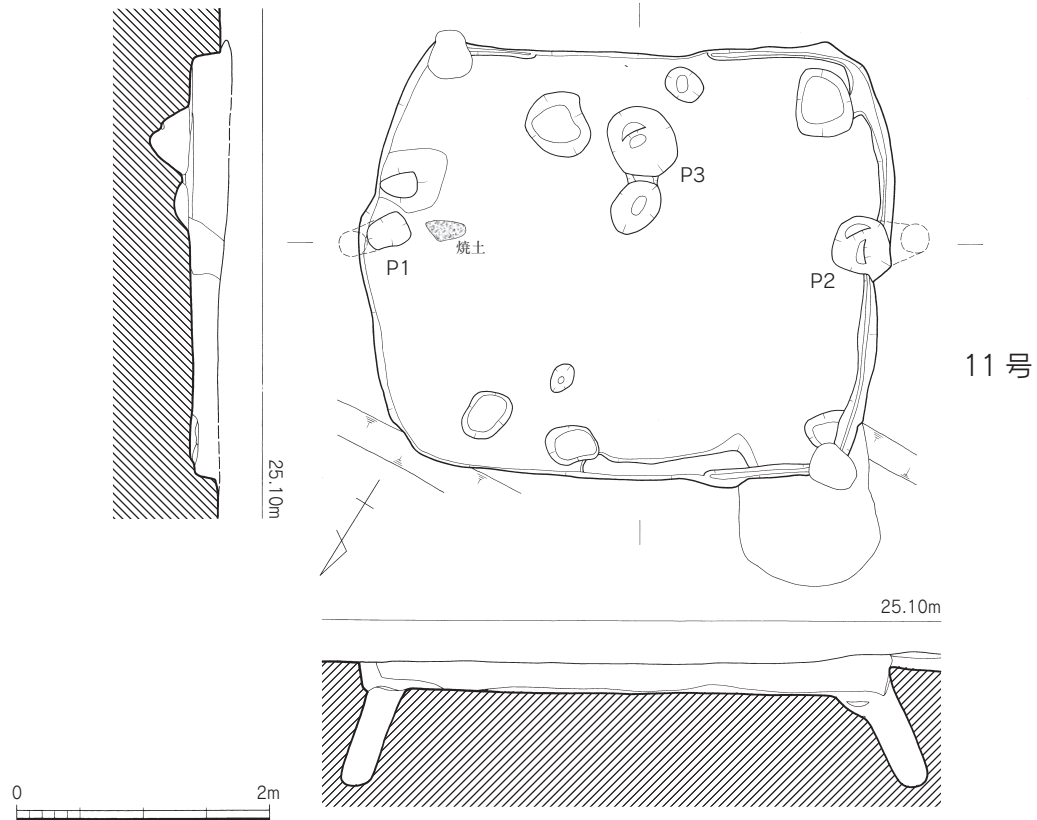
Ⅱ区の中央部東寄りに検出した。12号住居跡、1号周溝状遺構より新しく、23号掘立柱建物跡よりも古い。検出面から床面までの深さは30cm前後である。北半部を主体とする広範囲に厚さ5～10cmの焼土の堆積が認められたことから焼失住居跡と考えられる。南北両辺にベッド状遺構を設えており、北側は全て盛土による造り付けである。南側は地山を削り出した段の表面に灰黒色土を張付けて形を整えている。炉跡は底面がよく焼け締まっている。主柱は2本で、柱穴には直径約20cmの柱痕が残る。屋内土坑は西壁中央に位置する。南側ベッド状遺構の段上を除いて、壁際に沿って細い溝を巡らしている。南側覆土の上層からは弥生中期後半の土器が多く出土しているが、屋内土坑内から出土した弥生後期後半の土器が当住居跡の時期を示すものであろう。特筆すべき遺物としては、瓦質土器、鉈等鉄器3点、石包丁2点、砥石2点、石製勾玉、投弾等が出土している。



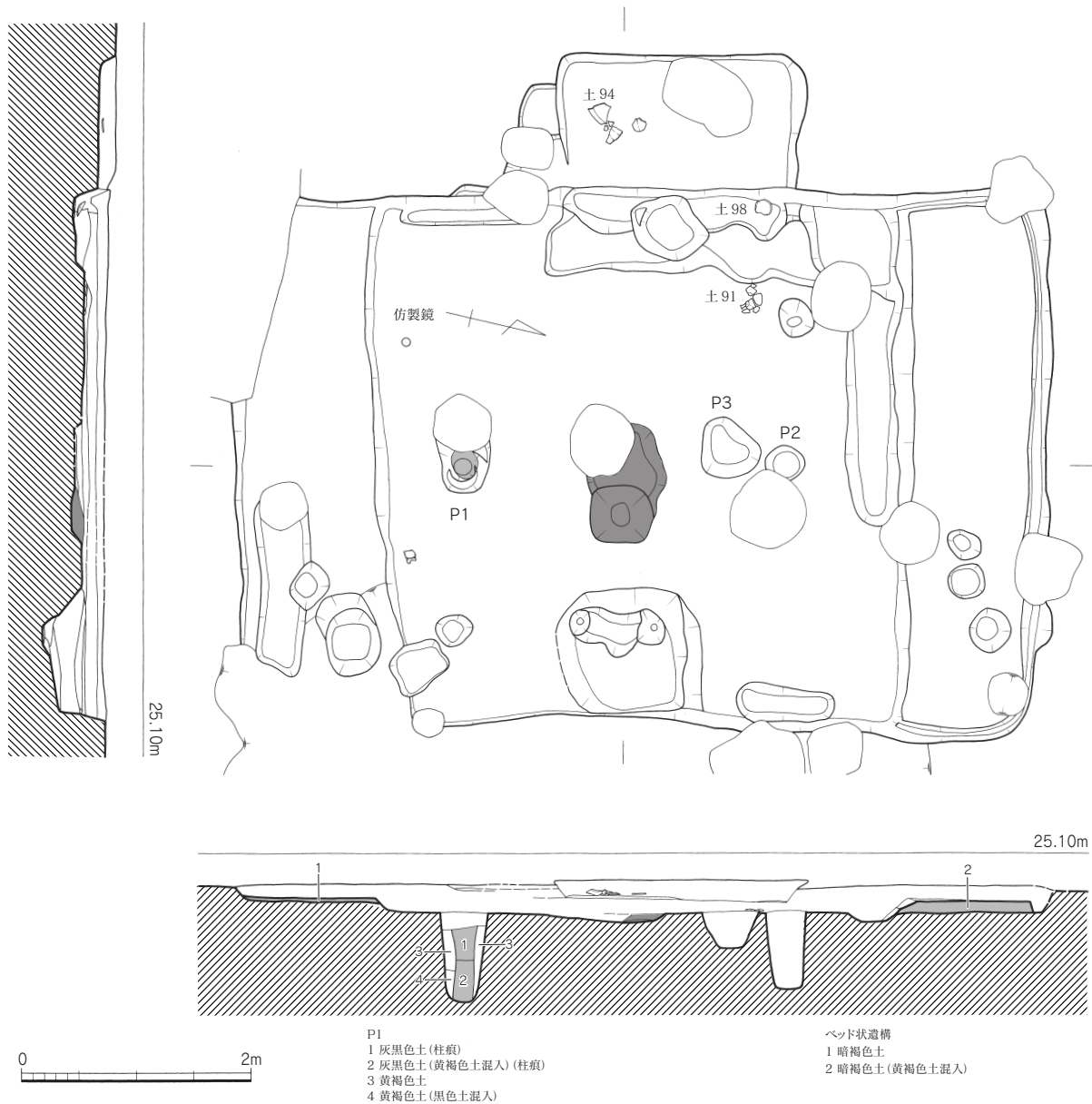
- P1  
 1 灰黒色土(柱痕)  
 2 暗黄褐色土  
 (黒色土混入・やや粘質)  
 3 暗黄褐色土  
 (黒色土をやや多く含む)
- P2  
 1 灰黒色土(柱痕)  
 2 暗黄褐色土  
 (黒色土混入・やや粘質)  
 3 暗黄褐色土  
 (黒色土をやや多く含む)



ベッド状遺構  
 1 暗褐色土混入黄褐色土



第13図 10・11号住居跡実測図(1/60)



第14図 12号住居跡実測図(1/60)

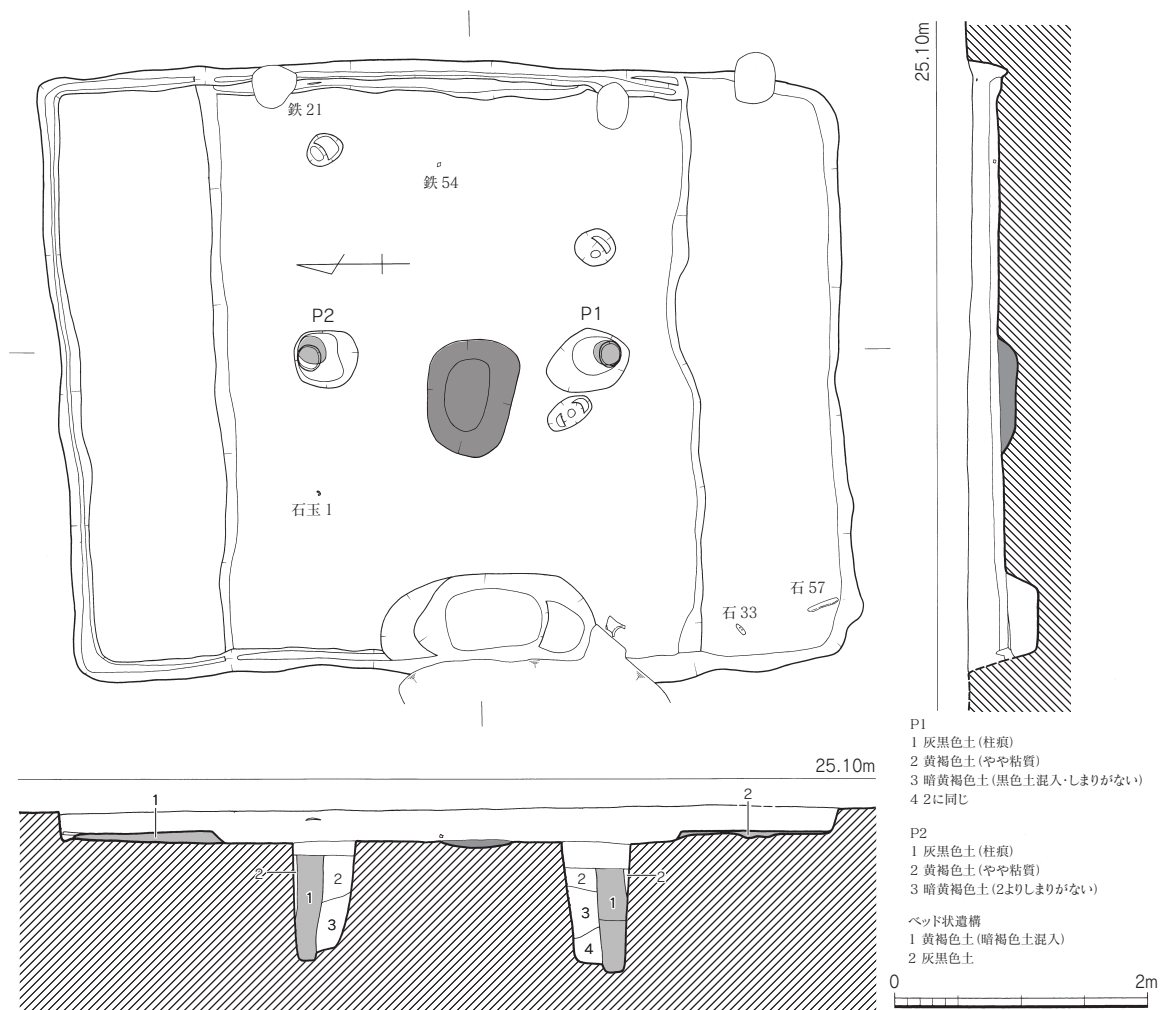
**14号住居跡** (図版10-②、第16図、表1)

Ⅱ区の中央部東寄りに検出した。23号住居跡より新しい。15号住居跡によって東辺の大部分が切られる。17号掘立柱建物跡よりも古い。検出面から床面までの深さは25cm前後。壁際に溝を巡らす南東隅は途切れていたようである。主柱は2本で、中心を少し外した中間位置に炉を設ける。炉の壁、床ともあまり焼けていない。東壁際の掘り込みが屋内土坑と考えられ、底面両端に深さ約15cmの段が付く。出土した土器は弥生終末期前半のものが主体である。他に目立った遺物としては、ガラス小玉11個、鉈がある。

**15号住居跡** (図版10-③、第17図、表1)

Ⅱ区の中央部東寄りに検出した。14号・16号住居跡より新しい。検出面から床面までの深さは約40cmである。住居の形状は主軸方向が僅かに長い方形で、南北両辺にベッド状遺構を設けている。



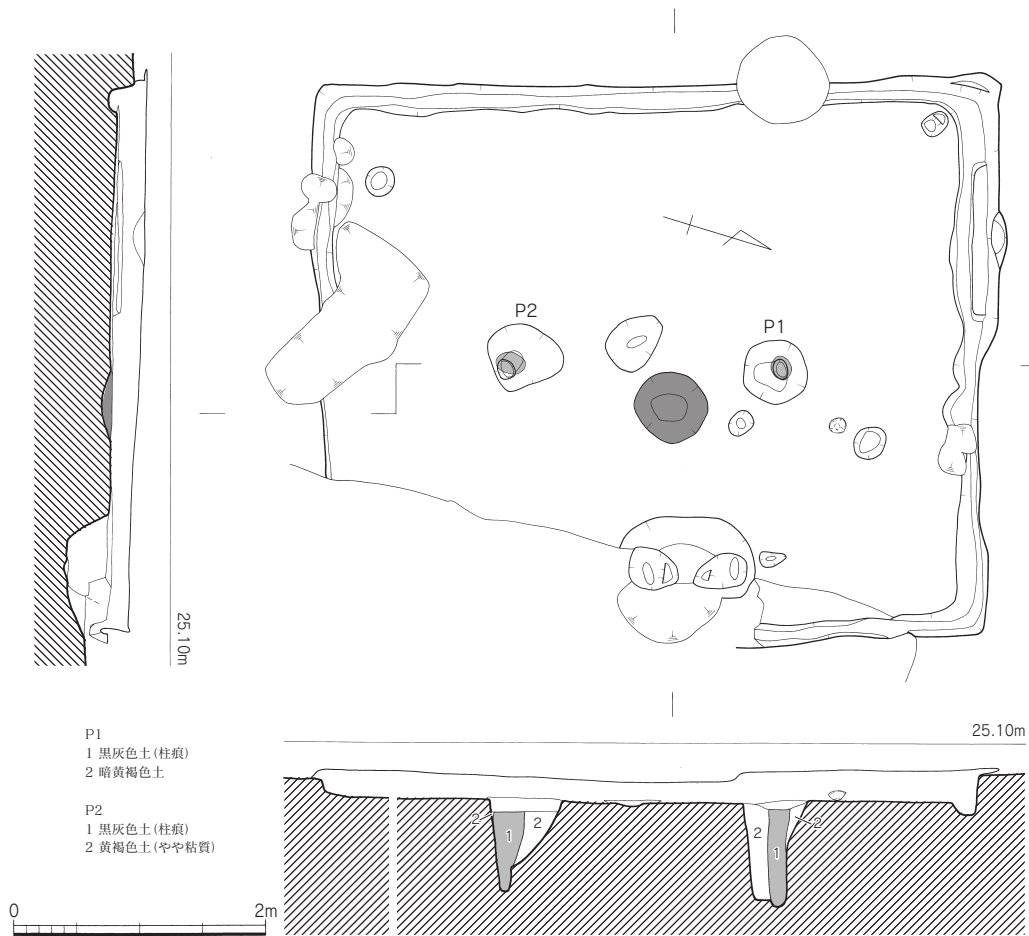


第 15 図 13号住居跡実測図(1/60)

北側が地山削り出しであるのに対し、南側は東半部が地山削り出し、西半部を盛土で成形している。また、南西隅を2段の棚状に造作している。炉跡は底面、壁面ともあまり焼けていない。支柱は2本で、柱穴に残る柱痕の直径は18cmと20cmである。屋内土坑は西壁中央に位置し、床面の両端に8cmと15cmの段を設ける。壁溝は屋内土坑の南側、南側ベッド状遺構の前面、西壁、北側ベッド状遺構の上段を巡っている。出土した土器は弥生終末期後半～古墳時代初頭のもものが主体である。他に、鉾等の鉄器3点、ガラス小玉6点、砥石等が出土している。

#### 16号住居跡 (図版 11 - (1)・(2)、第 18 図、表 1)

Ⅱ区の中央部東寄りに検出した。15号住居跡より古い。検出面から床面までの深さは約45cmである。覆土に多く炭化物や焼土塊が混じり、床面にも所々に焼土が堆積することから、焼失住居跡と見られる。住居跡の形状は、やや変則的で北西辺が外湾している。南東辺中央に張出部を設え、ここを地山削り出しのベッド状遺構としている。また、北角部にも地山削り出しでベッド状遺構を設けている。炉跡は認められなかった。支柱穴は2個である。張出部前面の掘り込みは屋内土坑と同様の性格を有するものかもしれない。外壁際に壁溝を巡らせるが、西辺が幅広になっている。出土した土器は弥生後期初頭から前半にかけてのもものが主体である。床面直上で検出した銅矛鑄型片が注目される。他に



第 16 図 14 号住居跡実測図 (1/60)

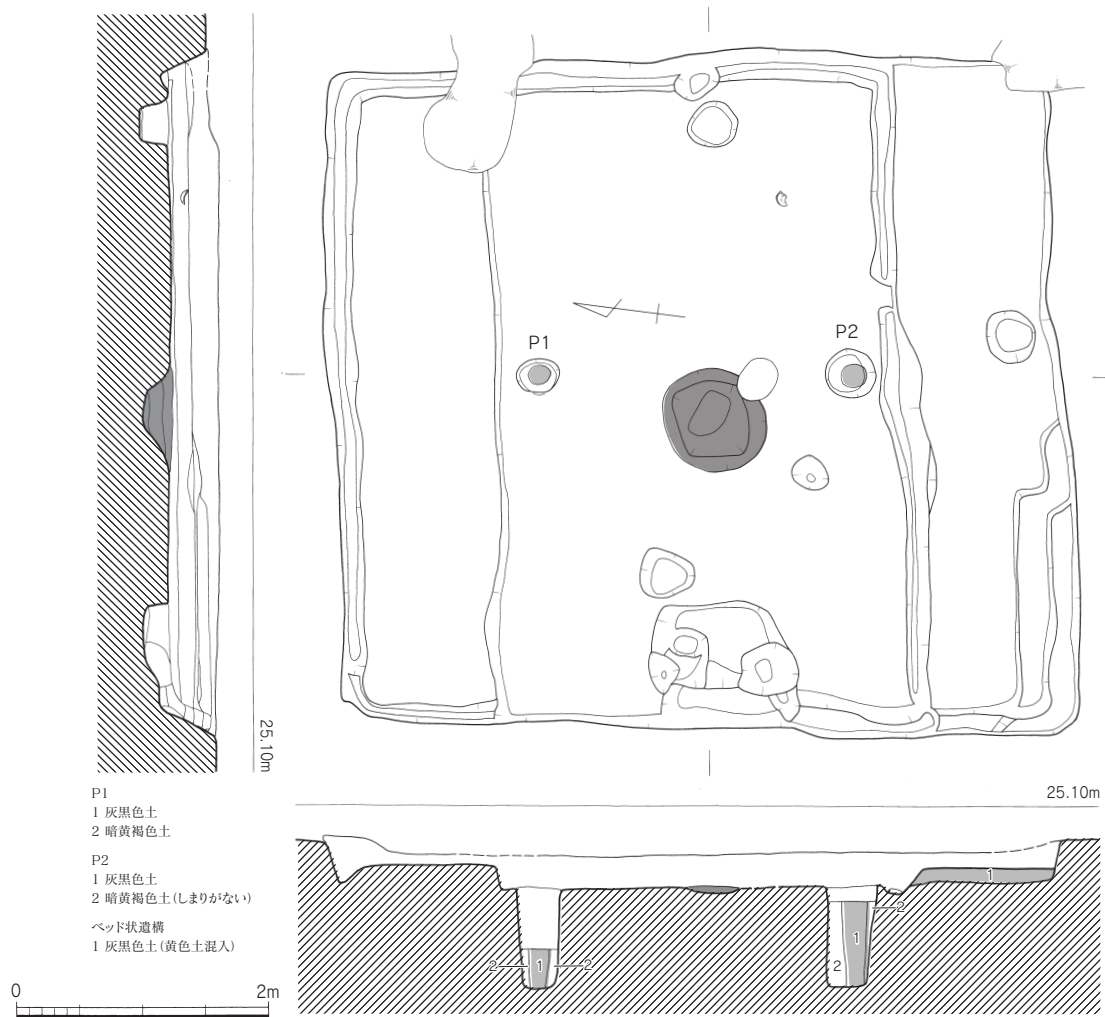
鉄器、砥石などが出土している。

**17号住居跡** (図版 11 - (3)、第 19 図、表 1)

Ⅱ区の中央部西寄りに検出した竪穴住居跡。18号住居跡よりも新しい。検出面から床面までの深さは20cm前後である。北角部と南東辺に地山削り出しのベッド状遺構を設けている。中央部に検出した炉跡には焼土が厚く堆積していた。支柱は2本である。南西壁中央に位置する屋内土坑には、いくつもの段が付き複雑な形状である。北角部ベッド状遺構の部分を除いて、壁際には細い溝を巡らしている。出土した土器は弥生終末期前半のものが主体で、豊前系の土器が含まれる。他に鉄器2点、砥石等が出土した。

**18号住居跡** (図版 12 - (1)・(2)、第 19 図、表 1)

Ⅱ区の中央部西寄りに検出した竪穴住居跡。17号住居跡に北東角部を切られている。検出面から床面までの深さは35cm前後である。北東角部に地山削り出しのベッド状遺構を設けている。中央部に検出した炉跡は、あまり焼け締まっていない。屋内土坑は東辺中央に位置する。床面に支柱穴は検出できなかった。ベッド状遺構の段際を含み、壁際には細い溝を巡らす。屋内土坑からベッド状遺構にかけては途切れている。出土した土器は弥生後期後半のものが主体である。目立った遺物としては、床面から16cm浮いた位置で鐸形土製品が出土している。他にガラス小玉5点がある。



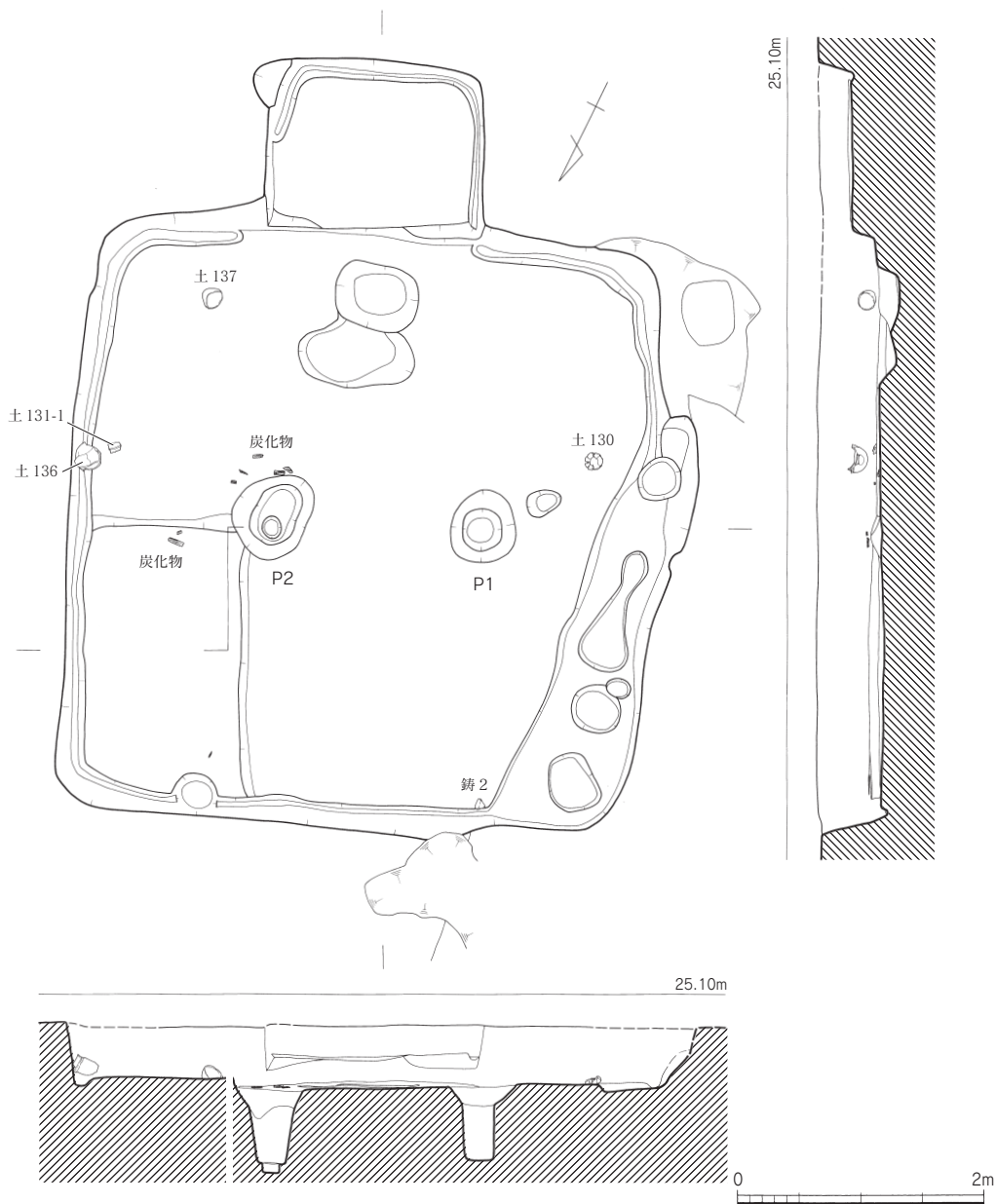
第17図 15号住居跡実測図(1/60)

**19号住居跡** (図版12 - (3)、第20図、表1)

II区の中央部西寄りの位置に検出した。23号土坑、2号周溝状遺構より新しい。検出面から床面までの深さは20cm前後である。主柱は2本柱と考えられる。P1とP2、P3とP4が対応し、西側から東側に建替えたものと見られる。南側の主柱穴は攪乱坑の底面で検出した。ベッド状遺構を南東角、南西角、西辺中央部の3箇所にかけており、前者は、半分の高さまで地山を削り出し、その上に盛土し成形している。後の2つは、盛土による造り付けである。床面の中央部に炉とその東側に屋内土坑を設置している。出土した土器は弥生終末期後半のものが主体である。他に石包丁、砥石4点等が出土している。なお、当住居跡を切るP997からは勾玉が出土している。

**20号住居跡** (図版13 - (1)、第21図、表1)

II区の中央部西寄りに検出した。21号住居跡よりも新しい。検出面から床面までの深さは30cm前後である。北西辺と南角部にベッド状遺構を設けている。両者とも地山を削り出した段の表面に盛土を施す造作である。中央部に検出した炉跡を挟んで2本の主柱が立つ。北辺中央に位置する屋内土坑は、底面両端と前面に深さ4~6cmの段が付く。屋内土坑から住居跡東角にかけて、南西辺のベッド



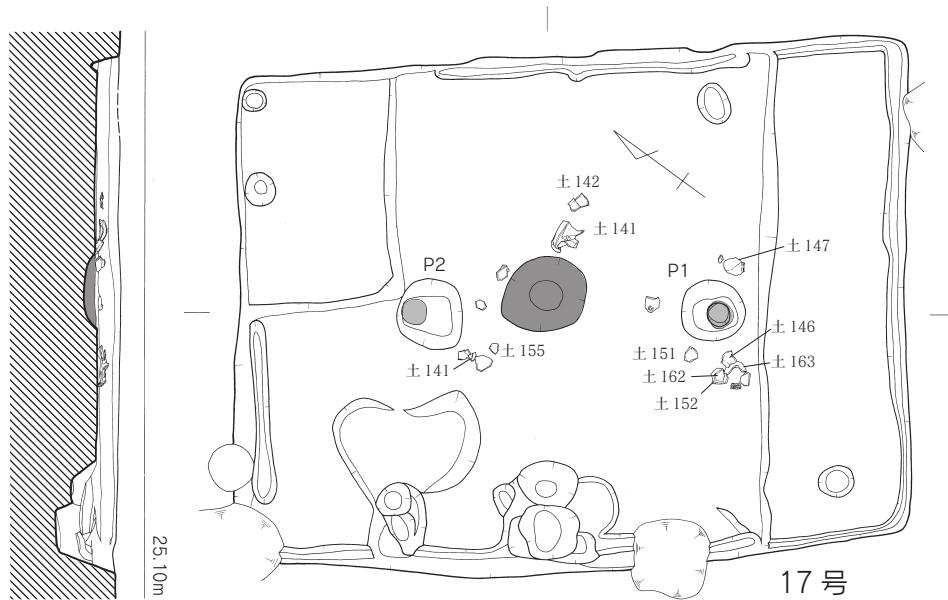
第 18 図 16 号住居跡実測図 (1/60)

状遺構間の壁際に細い溝を設けている。出土した土器は弥生終末期前半のものが主体である。他にガラス小玉、石包丁 2 点、鉄器 4 点、砥石 4 点等が出土した。この内、鉈と刀子は住居跡の上面とほぼ同一レベルからの出土である。

**21号住居跡** (図版 13 - (1)、第 22 図、表 1)

Ⅱ区の中央部西寄りに検出した。16号土坑より古く、20号住居跡には南半部を切られる。床面が20号住居跡より8cmほど高いため、南壁の位置が不明だが、南北方向の規模は4.6m以上、5.7m以下であることが分かる。張出し部を2箇所にて設けており、削り出しのベッド状遺構としている。また、北西角部にも地山削り出しによるベッド状遺構を設える。中央部の炉を挟んで主柱を2本立てる構造

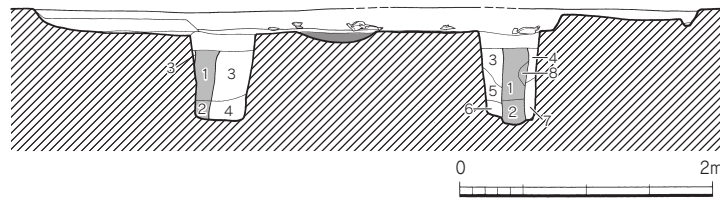




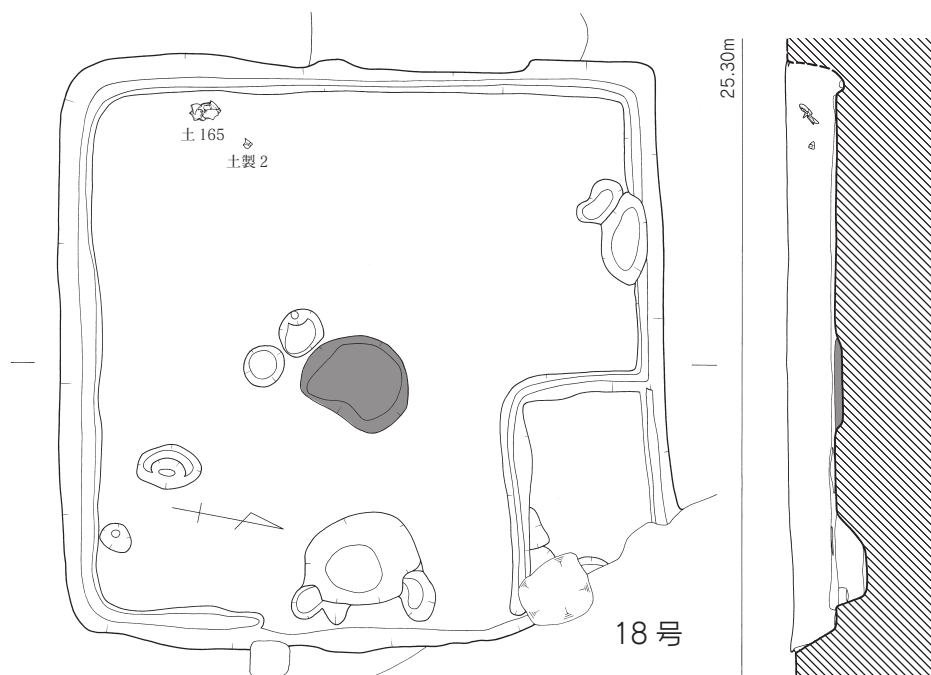
17号

- P1  
 1 灰黒色土(柱痕)  
 2 灰黒色土(暗黄褐色土混入)(柱痕)  
 3 暗黄褐色粘質土  
 4 暗黄褐色土  
 5 黄褐色土(黒色土混入)  
 6 暗黄褐色土(黒色土混入)  
 7 5に同じ  
 8 黄色土ブロック

25.10m

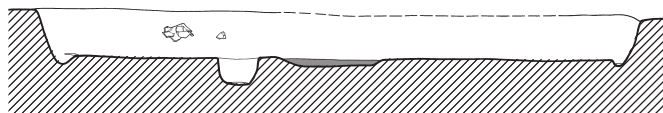


- P2  
 1 灰黒色土(柱痕)  
 2 灰黒色土(黄色土混入)(柱痕)  
 3 暗黄褐色土(やや粘質)  
 4 暗黄褐色土(灰黒色土混入)

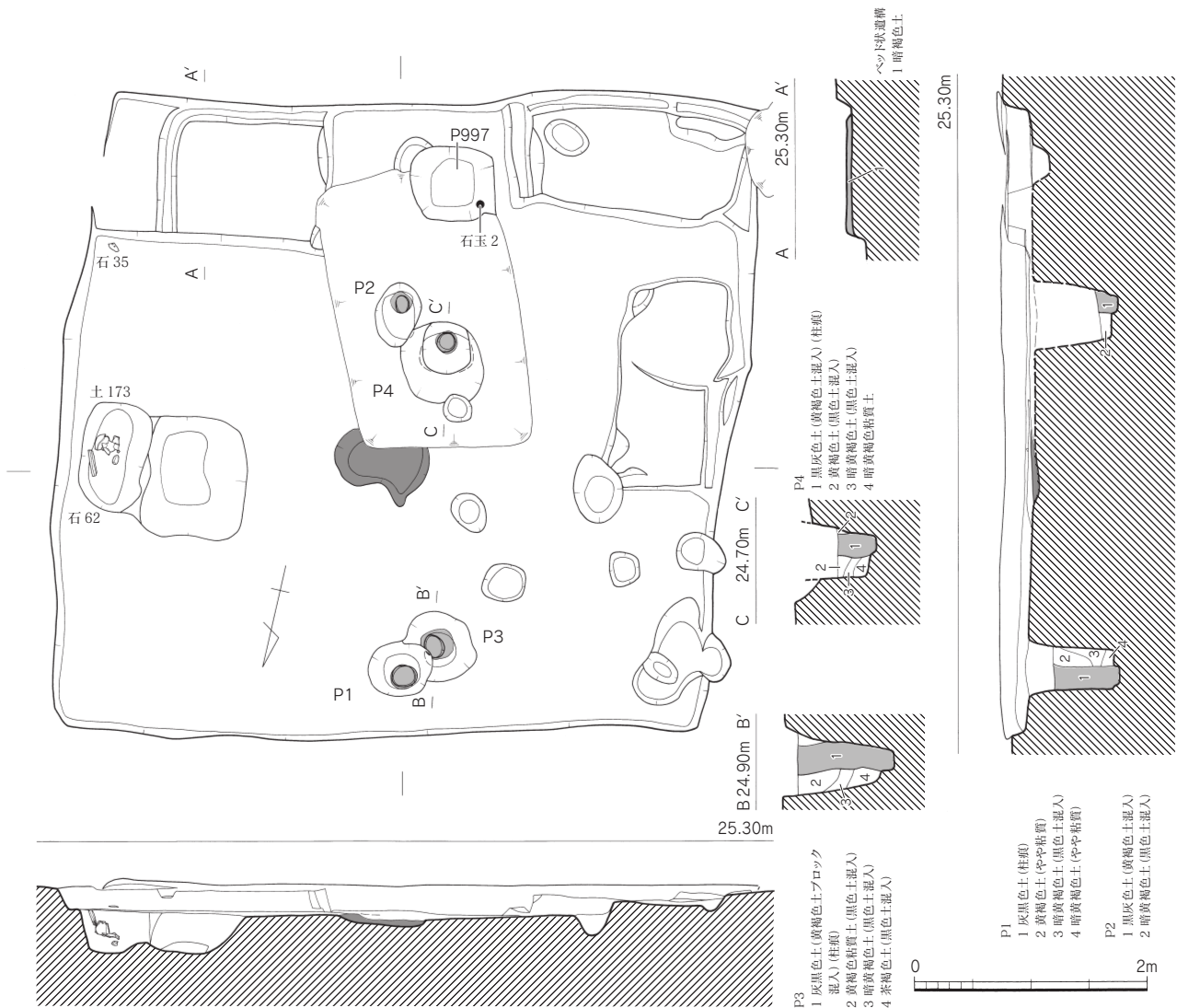


18号

25.30m



第19図 17・18号住居跡実測図(1/60)

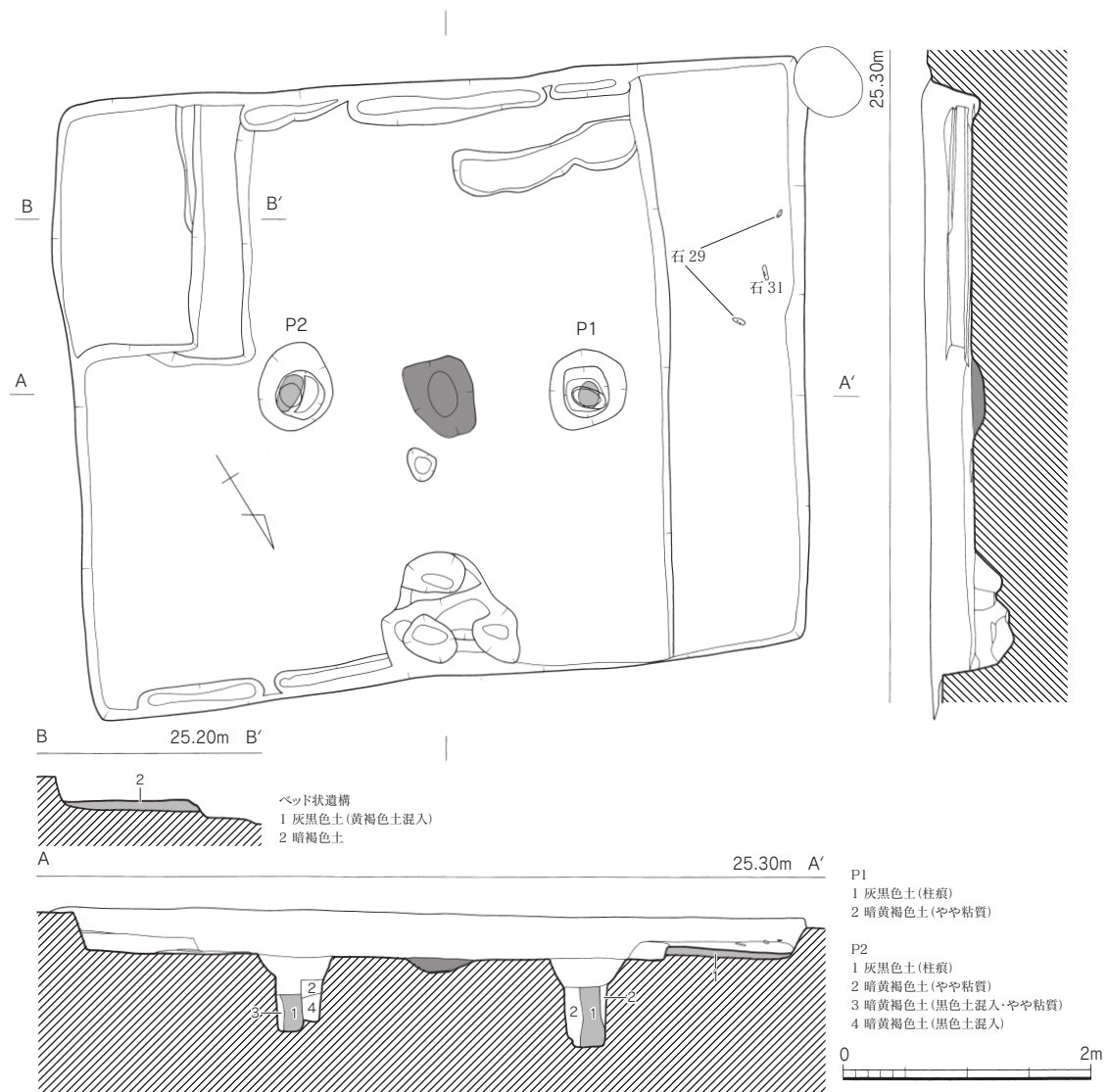


第 20 図 19 号住居跡実測図 (1/60)

だが、炉跡と南側支柱穴は 20 号住居跡との重複部に検出した。東辺中央に位置する屋内土坑は、底面両端に浅い小穴が付く。張り出し部を含めて外壁際に細い溝を付しているが、全周するものではないようである。北西角部のベッド状遺構にも深さ 5～10 cm の溝が設けられているが、他の壁溝と共通する性格を持つものか不明である。出土した土器は弥生後期後半のものが主体である。他にガラス管玉、石包丁等が出土した。

**22号住居跡** (図版 13 - ②、第 22 図、表 1)

Ⅱ区の中央部東寄りに検出した。23 号住居跡よりも新しい。21 号掘立柱建物跡より古い。検出面から床面までの深さは約 40 cm である。住居跡の形状は、北角が他に較べて丸みを持つ点特徴的である。支柱は 2 本で、北側の柱穴のほうが、やや大きく深い。床面に焼痕が存在せず、炉跡は認められない。壁溝は 4 辺を巡らしているが、西角部が途切れている。北西辺中央の掘り込みは、所謂、屋内土坑と同様の性格を有するものと考えられる。出土した土器は弥生中期末のものが主体である。他に鉄器、砥石等が出土した。



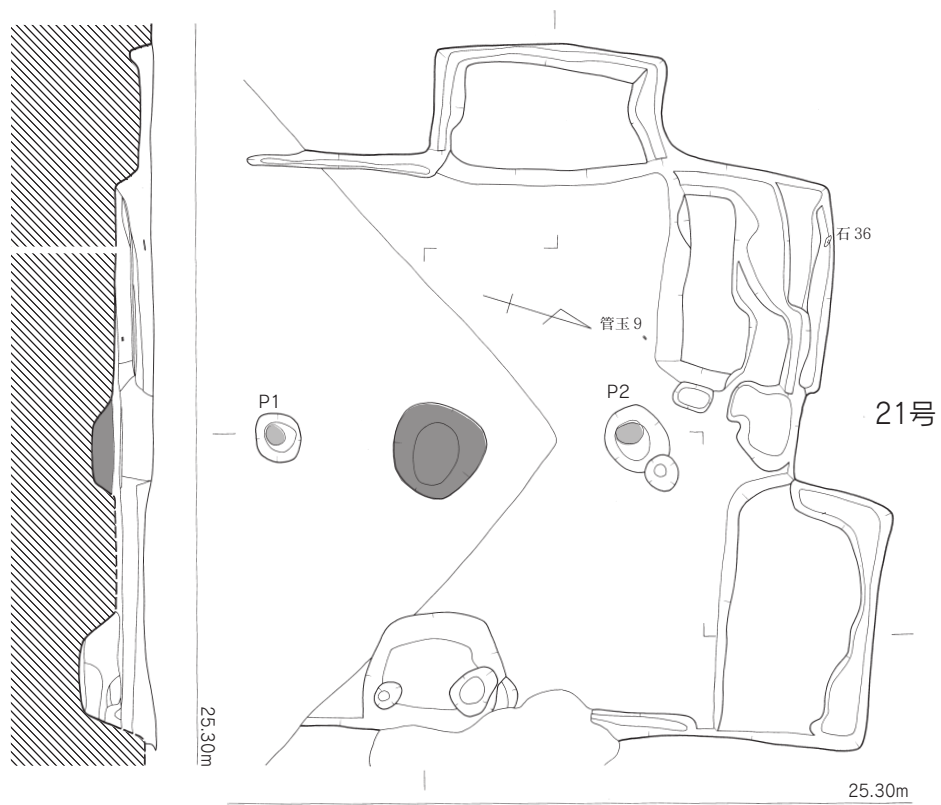
第21図 20号住居跡実測図(1/60)

**23号住居跡** (図版13 - (3)、第23図、表1)

Ⅱ区の中央部東寄りに検出した。24号住居跡、21号掘立柱建物跡より古い。検出面から床面までの深さは35cm前後である。24号住居跡が当住居跡の中に殆ど重複しており、発掘時にはプランを明らかに出来ず、同時に掘り進めたため、遺物が少し混入している。覆土内や床面上の所々に焼土の堆積が認められることから、焼失住居跡と考えられる。直径9.3mを測る大形の円形住居跡である。主柱穴は10個(P1～P10)で、壁際から約50cm内側をほぼ等間隔に配列されている。中央に検出したP11が炉と考えられるが、底面、壁面とも殆ど焼けた状況は認められず、むしろ、P11より約2m東側の床面に約100cm×65cmの略楕円形に焼け締まった部分が見られた。出土した土器は弥生中期後半のものが主体である。他に砥石2点が出土した。

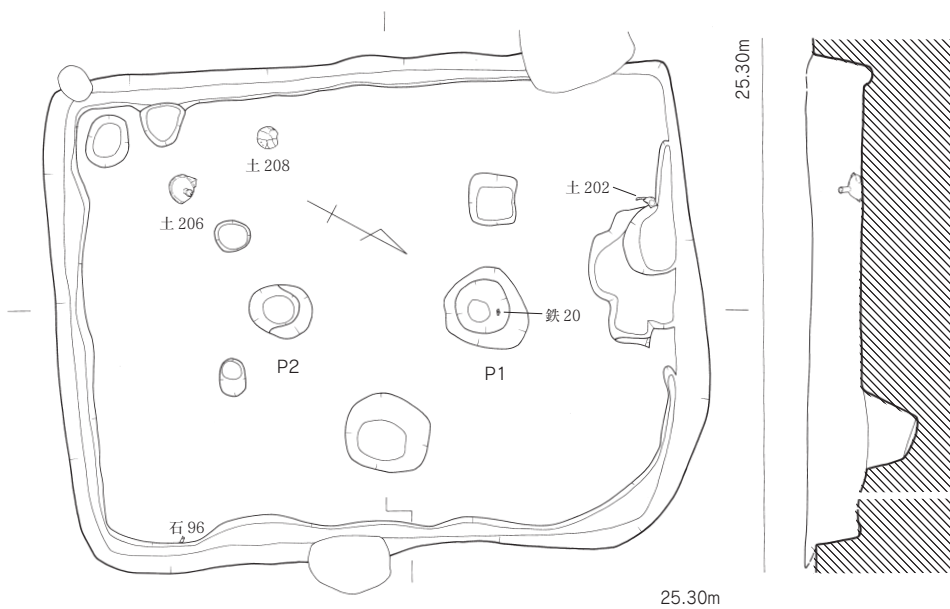
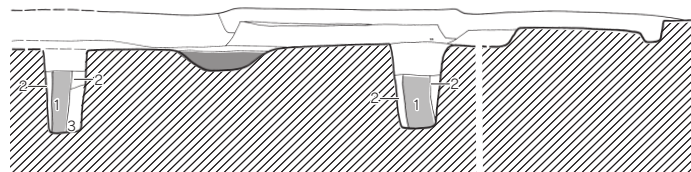
**24号住居跡** (図版13 - (3)、第23図、表1)

Ⅱ区の中央部東寄りに位置し、南辺を除くプランの殆どが23号住居跡の中に重複している。23号

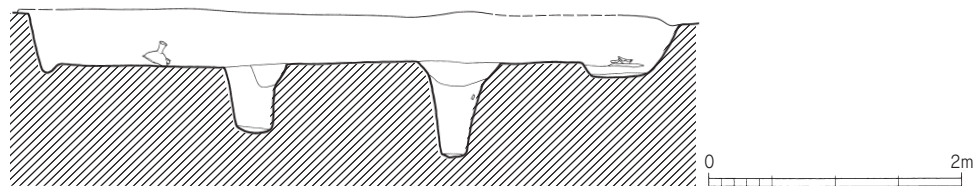


P1  
 1 灰黑色土(柱痕)  
 2 暗黄褐色粘質土  
 3 暗黄褐色土(黑色土混入)

P2  
 1 黑灰色土(暗黄色土混入)(柱痕)  
 2 暗黄褐色土(黑色土混入)



22号



第 22 図 21・22 号住居跡実測図 (1/60)



住居跡より新しい。23号住居跡の床面に当住居跡の壁溝が残ることから、長辺5m、短辺3.7mと凡その規模は推察できるが、造り付けのベッド状遺構を付設していた可能性もあり、確定的なものではない。主柱は2本でP12・P13が主柱穴である。この中間部に確認された焼痕が炉跡と見られるが、ピット状に掘り窪めてはいない。壁溝は西辺では途切れている。東辺中央に位置する屋内土坑は、底面両端に深さ6cmの段が付く。出土した土器は弥生終末期後半のものが主体だが、瓦質土器が含まれることは注目される。他に鉄器、砥石、投弾等が出土した。

#### 25号住居跡（図版14－(1)、第24図、表1）

Ⅱ区の中央部東端に検出した。検出面から床面までの深さは約20cmである。南部が米軍基地時期の攪乱により失われているが、直径5.8mを測る円形住居跡である。壁際から60～80cm内側の位置に6個の主柱穴が配置されている。中央に検出したP7が炉と考えられるが、底面、壁面とも殆ど焼けた状況は認められず、23号住居跡のように、P7から約50cm南東側に離れた床面に焼痕が見られた。出土した土器は極めて少ないが、弥生中期後半のものを主体とする。他に石包丁転用石器、磨製石斧、砥石等が出土した。

#### 26号住居跡（図版14－(2)、第25図、表1）

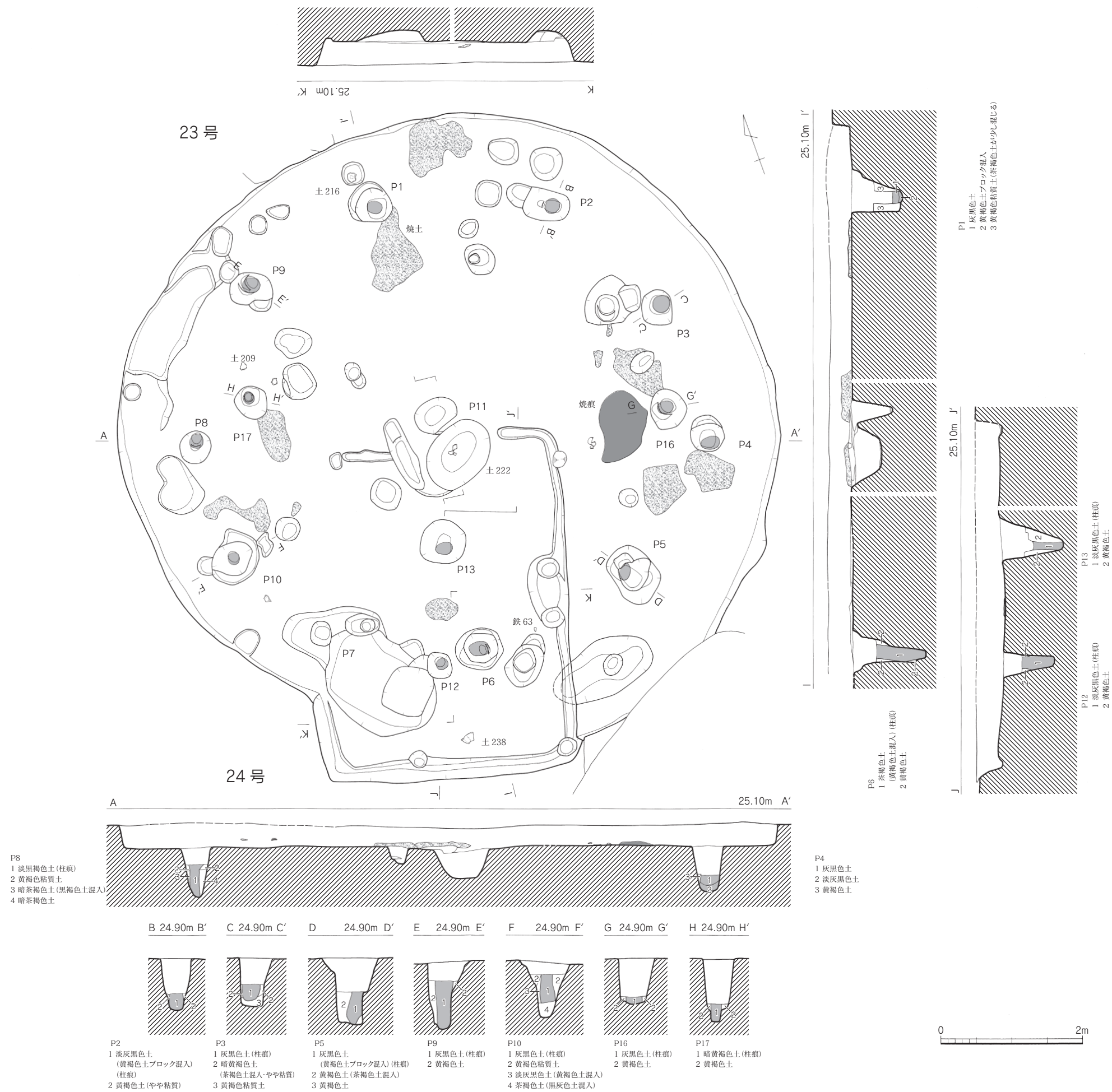
Ⅱ区の中央部東端に検出した。検出面から床面までの深さは約30cmである。2本柱で長方形プランを呈するものと考えられるが、南部を攪乱され大きく失っている。主柱穴間は狭く、約50cmしか離れていない。掘り込み状の炉は認められないが、主柱穴間の床面に直径25cmの焼痕が見られた。検出した範囲内では屋内土坑や壁溝は認められない。遺物は少なく、弥生中期末の土器片が少量と石包丁が出土した。

#### 27号住居跡（図版14－(3)、第25図、表1）

Ⅱ区の中央部東端に検出した。検出面から床面までの深さは35cm前後である。本来は長方形プランで2本柱のかなり規模の大きな竪穴住居跡だったと考えられるが、米軍基地時の整地により南半部が失われているため、主柱穴は1個しか残っていない。炉の有無も不明である。2箇所ベッド状遺構を設えるが、北西角は地山削り出し、北東角は盛土造り付けである。ベッド状遺構の間にコの字形に溝が掘られている。東西の壁際と北西ベッド上の北辺にも壁溝があるが連続はしていない。また、東壁の内側75cmの位置に並行する溝は床面から18cmの深さで掘られている。一方、この北端部から西に伸びる溝は貧弱で浅い。出土遺物に弥生中期の土器が多く含まれるが、当住居跡の年代を示すものは、北西ベッドの前面で出土した弥生後期中頃の甕であろう。この甕に近接する位置の床面直上から鉄斧が出土した。このほか板状鉄器、ガラス小玉等が出土している。

#### 28号住居跡（図版15－(1)、第26図、表1）

Ⅱ区の中央部西寄りに検出した。検出面から床面までの深さは約30～40cmである。北西角部と東辺にベッド状遺構を設けている。北西角のベッドは地山削り出しだが、後者は北半部が地山削り出し、南半部は地山を削り出した段の前面に盛土を施して成形している。中央部に底面から東壁面にかけてよく焼けた炉跡を検出した。これを挟んで2本の主柱が立つ。柱痕は両者とも楕円形を呈している。



第23図 23・24号住居跡実測図 (1/60)

角材に近いものを使用したのであろうか、一考を要する。南辺中央に位置する屋内土坑は、底面に小穴や段が付く。外壁際には細い溝を巡らせている。北辺の東半部は壁溝の前面に幅約 60 cm の浅い溝が付帯する。多数の土器が出土したが、殆どは小片である。弥生中期から後期の土器が混在しているが、後期中頃にかけてのものが主体となる。東辺ベッドの床面に密着して鉄鏃が出土したほか、炉の南脇のやや浮いた位置で石製勾玉を検出した。他に、ガラス小玉 6 点、石包丁、砥石 3 点等が出土している。

#### 29号住居跡（図版 15 - (2)、第 27 図、表 1）

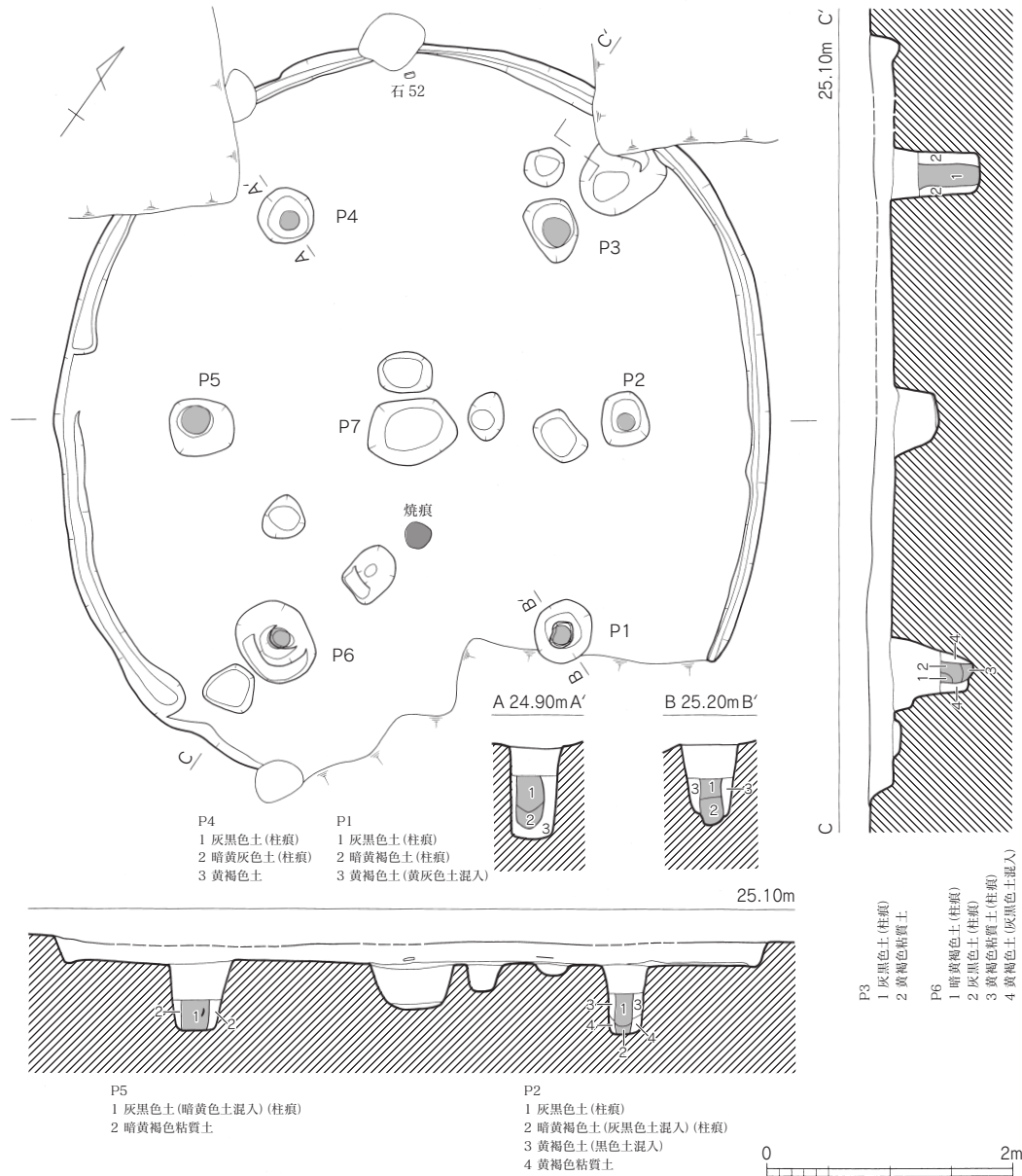
Ⅱ区の中央部東寄りの位置に検出した。南東辺が丸みをもつ、やや変則的な形状の竪穴住居跡である。30号住居跡よりも新しい。検出面から床面までの深さは 30 cm 前後である。北西辺には、2 cm 前後の貼床を施したベッド状遺構が設けられている。床面に炉跡や焼痕は認められなかった。支柱は 2 本と見られるが、P 1 と P 2 では底面の深さが 20 cm 以上違っている。出土した土器から、弥生時代終末期前半の住居跡と考えられる。遺物としてはベッドの段際西隅で出土した精緻な鋸歯文帯を施す鉢が注目される。他に石器、軽石等が出土した。

#### 30号住居跡（図版 15 - (2)、第 28 図、表 1）

Ⅱ区の中央部東寄りに検出した。32号・33号・35号掘立柱建物跡より新しく、29号住居跡よりも古い。29号住居跡に切られて消失した西辺のラインは破線で示している。北半部にまとまった焼土の堆積が認められることから、焼失住居跡と考えられる。検出面から床面までの深さは 25 cm 前後である。北角部、西角部、南角部の 3 箇所にはベッド状遺構を設置している。北角ベッドは北西辺側半分が地山削り出し、残り半分は盛土の造り付けによって成形している。住居中央の炉跡は底面が小さく、表面がよく焼けている。支柱は 2 本で、柱穴には直径約 20 cm の柱痕が認められた。北東辺中央に位置する屋内土坑は、深さ約 40 cm、底面は平坦である。出土した土器は弥生後期後半のものが主体である。床面から 21 cm 浮いた位置だが、炉の北側から完形の鉄鎌が出土している。この他、鉄斧、砥石等が出土した。

#### 31号住居跡（図版 15 - (3)・16 - (1)、第 29 図、表 1）

Ⅱ区の南部東寄りの位置に検出した、かなり大形の竪穴住居跡である。32号・33号住居跡、31号掘立柱建物跡より新しい。34号掘立柱建物跡との新旧関係については、34号掘立柱穴との切合い部を攪乱坑下で検出したため明らかではない。検出面から床面までの深さは 30 cm 前後である。南北両短辺及び西辺やや南寄りに 3 箇所のベッド状遺構を設けている。南側の中央が住居中央に向かって張り出す形状のベッドと北側のベッドは盛土による造り付けであるが、南西部の浅い溝を伴うベッドは地山削り出しで成形している。支柱は 2 本で、支柱穴の中間部から少し東寄りの位置に炉が作られている。北支柱穴では柱痕の真上から土器下半部が出土している。住居の埋没過程において、柱の抜き跡に土器が嵌まり込んだものであろうか。屋内土坑は東辺中央に位置し、住居には外壁際に細い溝が一周する。出土した土器は弥生後期後半のものが主体である。特筆すべき遺物としては、鉄斧・鉈等の鉄器 3 点、青銅器があげられる。他に石製管玉、ガラス小玉 2 点、石包丁 2 点等が出土している。

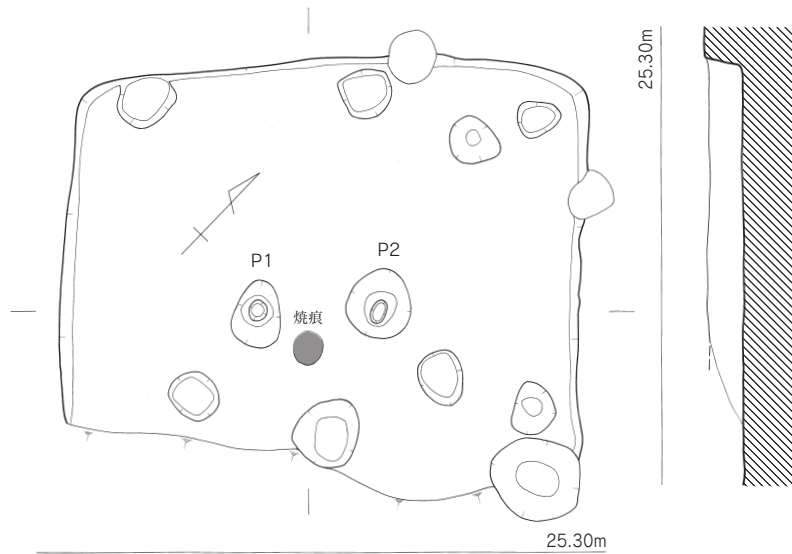


第 24 図 25 号住居跡実測図 (1/60)

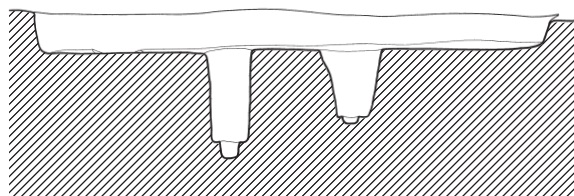
32号住居跡 (図版 15 - (3)・16 - (1)・(2)、第 30 図、表 1)

Ⅱ区の南部東端に検出した。31号住居跡よりも古い。南東角は米軍基地時の整地で失われている。検出面から床面までの深さは40cm前後である。北辺東半部と南西角部にベッド状遺構がある。北東ベッドは地山を削り出した段の上に客土を盛り付ける造作だが、南西ベッドは全て盛土の造り付けである。主柱穴は2個で、この中間に炉を検出した。炉は中央より少し東寄りの位置にある。屋内土坑は東辺中央に位置する。屋内土坑の内部には深さ20cmの小穴がある。住居跡の外壁際には細い溝が回っていたと見られる。住居跡西壁と炉の間には、長さ212cmの浅い溝が壁に平行して掘られている。南端は深さ12cmの小穴になっている。ベッド状遺構あるいは何らかの施設を付加した痕跡と思われるが、炉を中心として非常に規格的な配置となっており、炉に関連する遺構か注意を要するところである。出土した土器は弥生後期中頃のものが主体である。特記すべき遺物としては、鉄器14点、

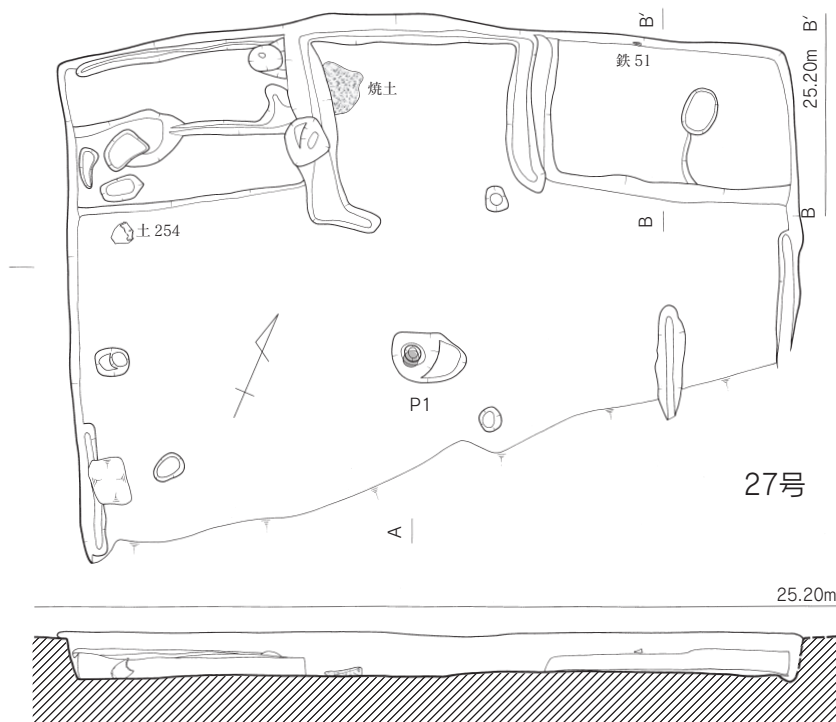




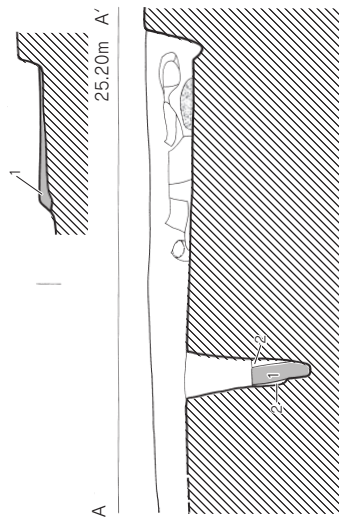
26号



A'



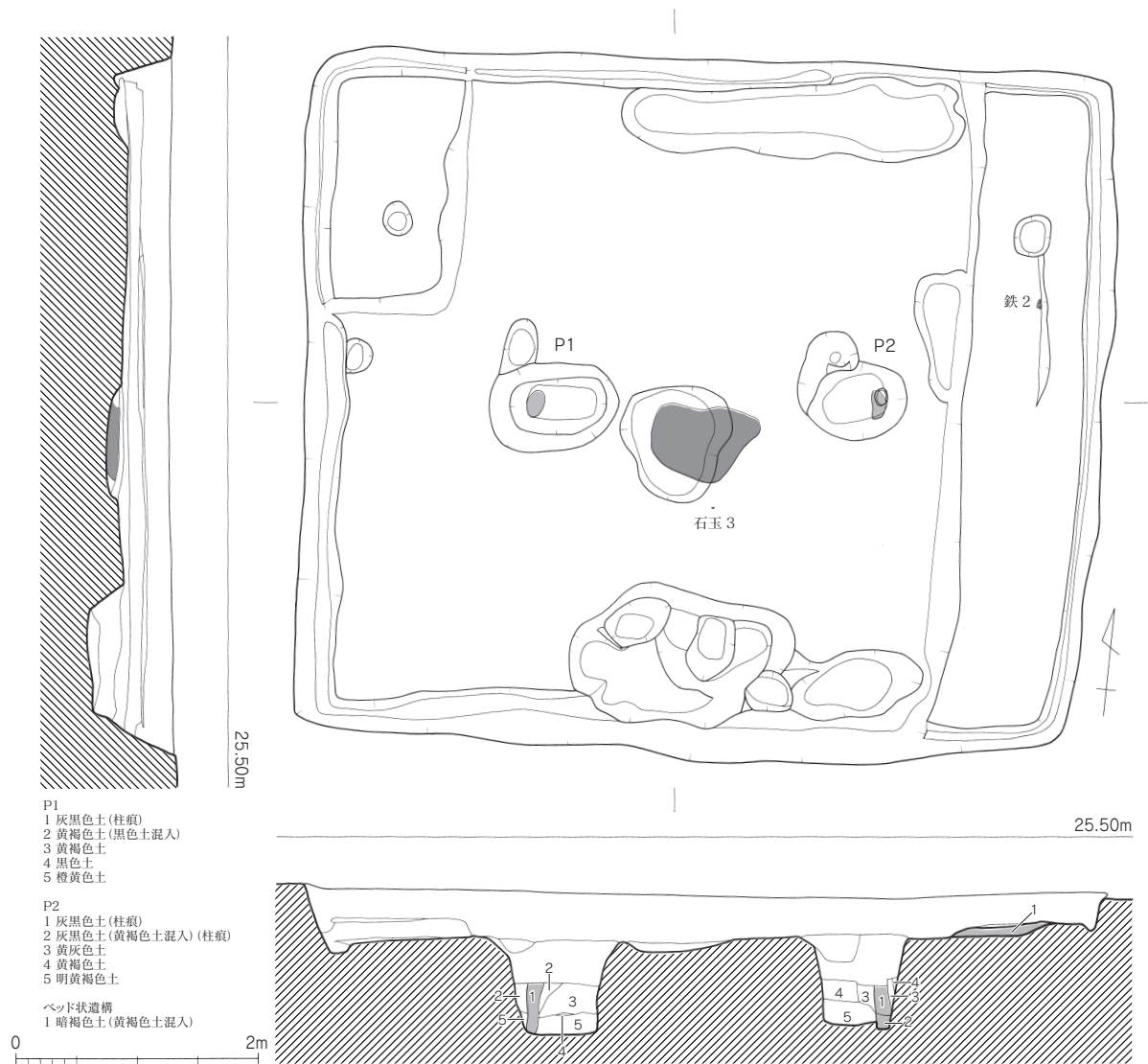
27号



P1  
1 灰褐色土(住痕)  
2 暗黄褐色土

ベシト基遺構  
1 暗褐色土(黄褐色土混入)

第 25 図 26・27号住居跡実測図 (1/60)

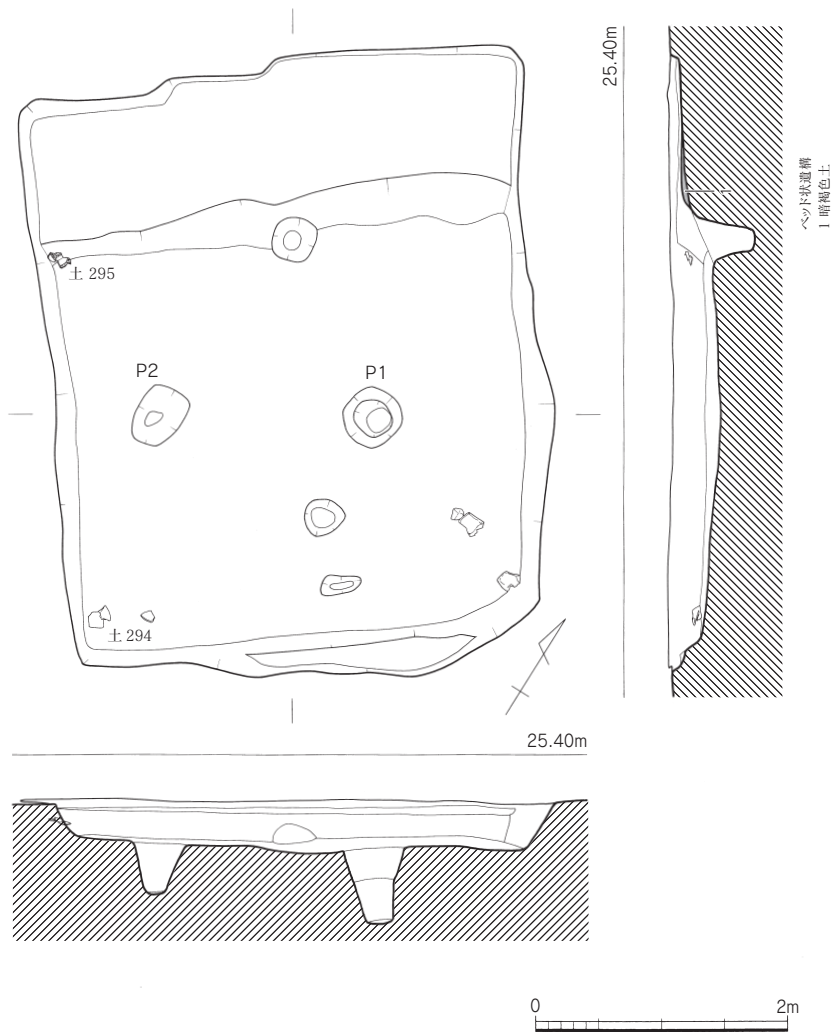


第 26 図 28 号住居跡実測図 (1/60)

ガラス小玉 28 点、石製垂飾、石製玉類未成品等が上げられる。鉄器の多くは床面から 10 ~ 20cm ほど浮いた位置で検出したが、完形の鉈が北側ベッドのピット内から出土している。玉未成品は床直上、石製垂飾は屋内土坑内、小玉の多くは住居跡中央の床面から出土した。他に石製鋳型片、砥石、軽石、石包丁、土製鏡等が出土した。

### 33号住居跡 (図版 15 - (3)・16 - (1)、第 31 図、表 1)

Ⅱ区の南部東寄りに検出した。31号住居跡に北東部を切られる。南半部が攪乱坑で大きく破壊されているため、2つあったであろう主柱穴の一方が失われている。検出面から床面までの深さは 30 cm 前後である。南北両辺にベッド状遺構を設けている。基本的に地山を削り出したものであるが、北側ベッドは厚さ 1 cm 程の貼床を施し、表面を整えている。住居の中心に炉、東壁中央に屋内土坑が位置する。東辺の状況は不明だが、屋内土坑と南側ベッドの間を除いて外壁際に細い溝が回っていたとみられる。炉から約 120 cm 西に深さ 20 cm 弱のピットが並び、この東側の床に焼面が認められた。出土した土器は弥生後期中頃のものが主体である。北側ベッド段際の中央部からガラス小玉 48 点がま



第 27 図 29 号住居跡実測図 (1/60)

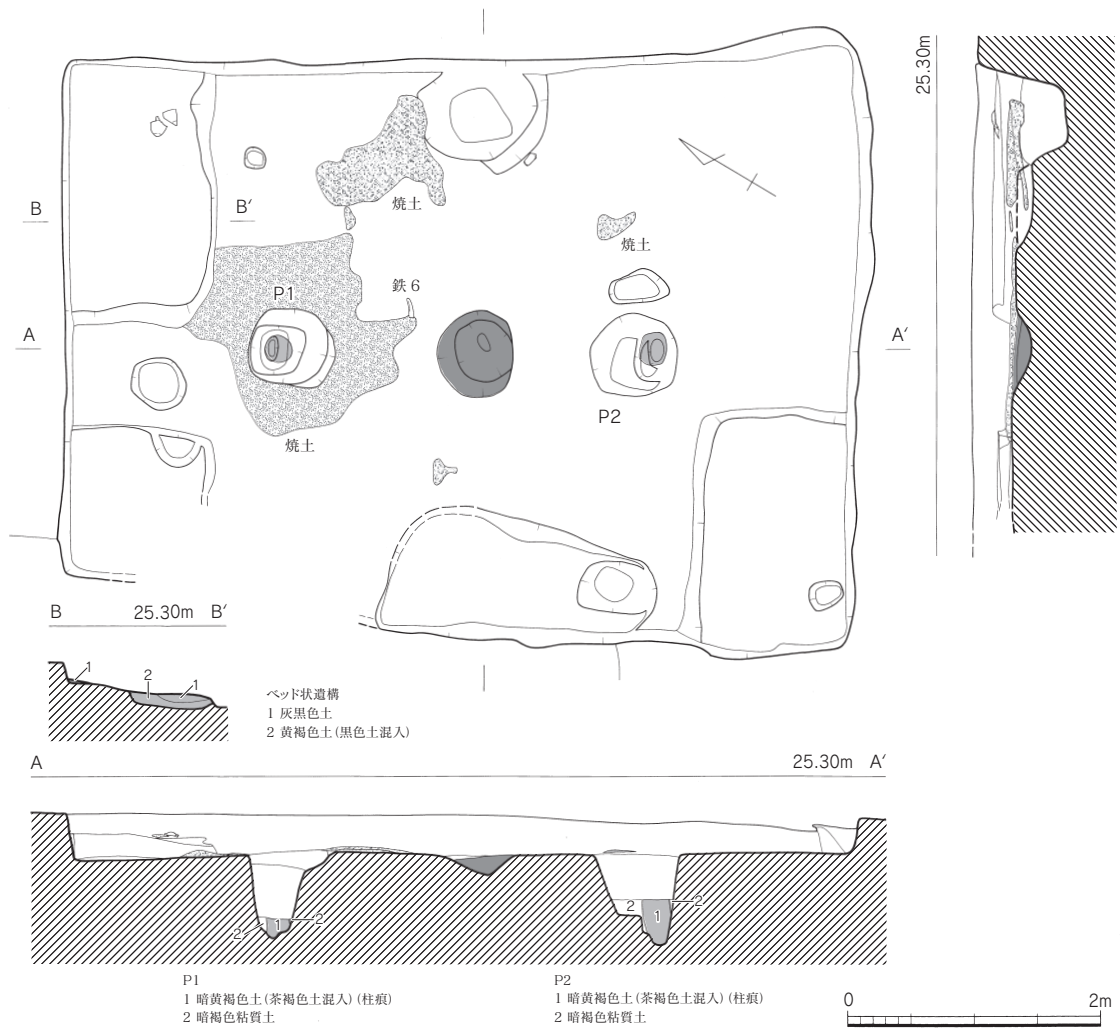
とまって出土した。他に砥石 2 点等が出土している。

**34号住居跡** (図版 16 - (3)、第 31 図、表 1)

Ⅱ区の南部西寄りに検出した。44号掘立柱建物跡と重複するが、新旧関係は明らかでない。北部が攪乱され、床面まで達している。検出面から床面までの深さは 15～20 cm と浅い。床面に炉、支柱穴は確認できなかった。床面に検出したピットは、P 1 のみが 64 cm と深く掘られているが、他は 15～23 cm と浅い。壁溝は南東角が途切れている。北東壁際中央の屋内土坑から完形の壺と砥石が出土している。出土遺物は弥生後期初頭の土器が主体である。

**35号住居跡** (図版 16 - (4)、第 32 図、表 1)

Ⅱ区の南部西寄りに検出した竪穴住居跡。北角部が 44号掘立柱建物跡の柱穴に接するが、新旧関係は不明である。検出面から床面までの深さは約 30～40 cm である。南東辺にベッド状遺構を設えている。支柱は 2 本で、柱穴には直径 15～17 cm の柱痕が明瞭に残る。床面中央に隅丸方形の炉があり、この周辺に炭化材を包含する焼土塊が点在する。屋内土坑は北東辺中央に設らえている。壁溝は 4 辺を巡っている。出土した土器は弥生後期中頃のものが主体で、屋内土坑の南隅で検出した外来系の台



第 28 図 30 号住居跡実測図 (1/60)

付壺が目を引く。他に鉄鎌、ガラス小玉 7 点等が出土している。完形の鉄鎌はベッド上の南壁際で出土。ガラス小玉は住居跡の南半部に集中していた。

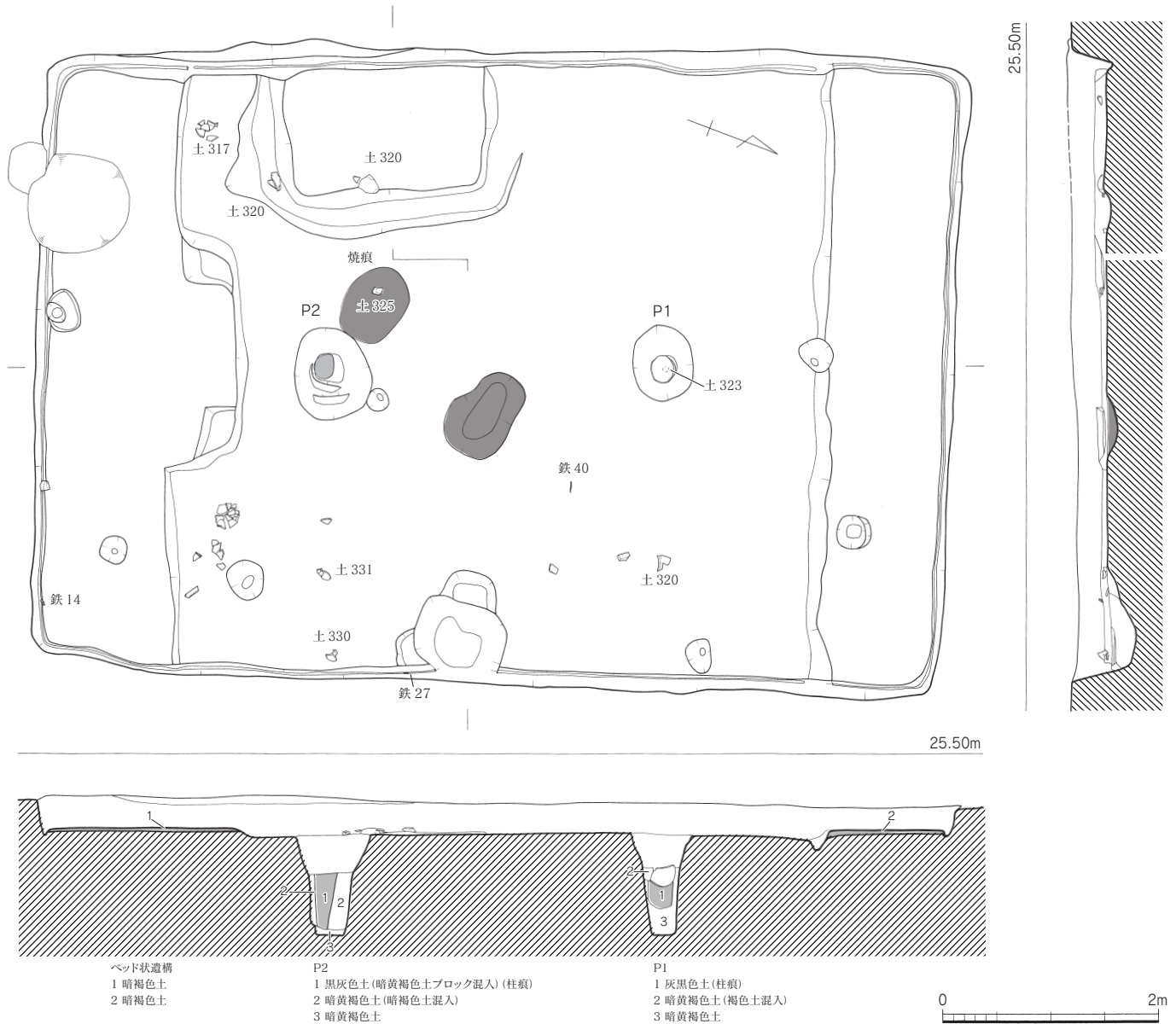
### 36号住居跡 (図版 17 - (1)、第 32 図、表 1)

Ⅱ区の南部西端の位置に検出した。隅丸長方形プランの小規模な住居跡である。北部が攪乱されているため、長軸の規模は推定値である。検出面から床面までの深さは約 15 cm と浅い。炉や壁溝は認められなかった。床面に検出したピットは、中央部東寄りの方が深さ 36 cm で、他は 13 ~ 27 cm の深さである。柱痕は確認されなかった。出土遺物としては、弥生中期末～後期初頭の土器がごく少量出土している。

### 37号住居跡 (図版 17 - (2)・(3)、第 33 図、表 1)

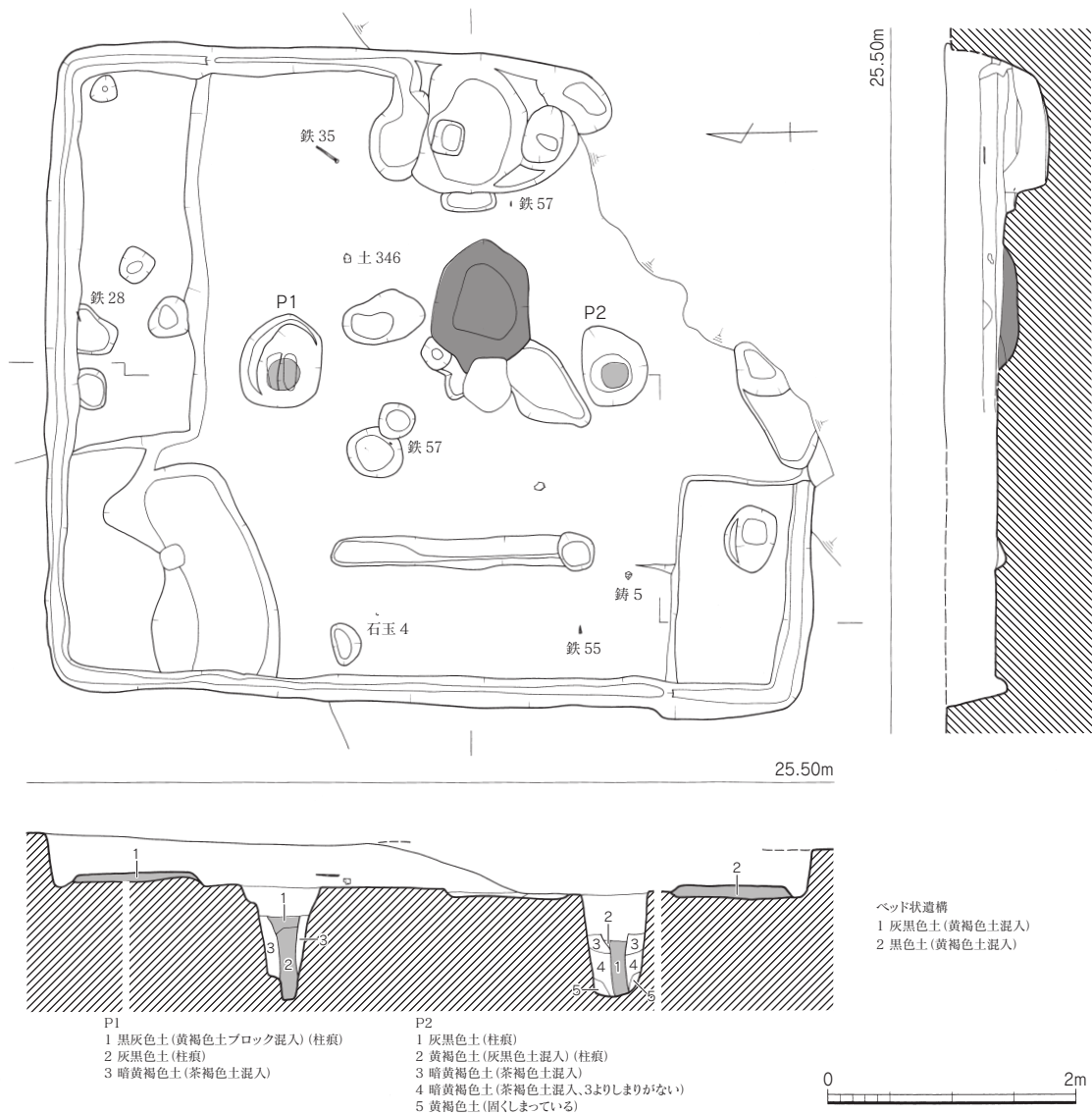
Ⅱ区の南部に検出した大形の竪穴住居跡である。西角部を米軍基地時の整地で失っている。また、上面が広く攪乱されており、近年のゴミと住居跡に伴う土器が混在していた。西辺の張出し部に比べて、東辺のものは短小で床が高いため、当住居跡に伴うものか疑念を残す。しかし、遺物の出土状況等が他所と大きな差異がなく、切り合いもみられなかったため、当住居跡の一部として取り扱って





第 29 図 31 号住居跡実測図 (1/60)

る。検出面から床面までの深さは 30 cm 前後である。住居跡の形状は、前述のとおり張出部を 2 箇所  
 に設え、ここを地山削り出しのベッド状遺構としている。南辺のベッドは溝によって大小 2 つに分割  
 されている。住居の西辺と東辺にもベッド状遺構を設けているが、西側は盛土による造り付けである。  
 東側は地山を削り出した段の表面に 2～3 cm の厚さで貼床を施す造作で、中央部を低く成形している。  
 炉跡の平面形は隅丸方形を呈し、2 本の主柱を結ぶ線より少し屋内土坑寄りに位置する。炉の壁はあ  
 まり焼けていないが、内部に焼土と炭の堆積が認められた。主柱穴は非常に深く掘られており、直径  
 22～25 cm の柱痕が明瞭に残されていた。北東辺中央に位置する屋内土坑は、段掘りになっている。  
 壁溝は北東張出部分を除き、住居の外壁際に沿って回している。住居の床面は北角部が少し窪んでお  
 り、貼床が施されていた。この床面下には 2 つの堀込み（1 号土坑・2 号土坑）があり、朱線で表示  
 した。両土坑ともに住居の辺に沿って造られており、当住居跡に伴うものと考えられる。遺物は殆ど

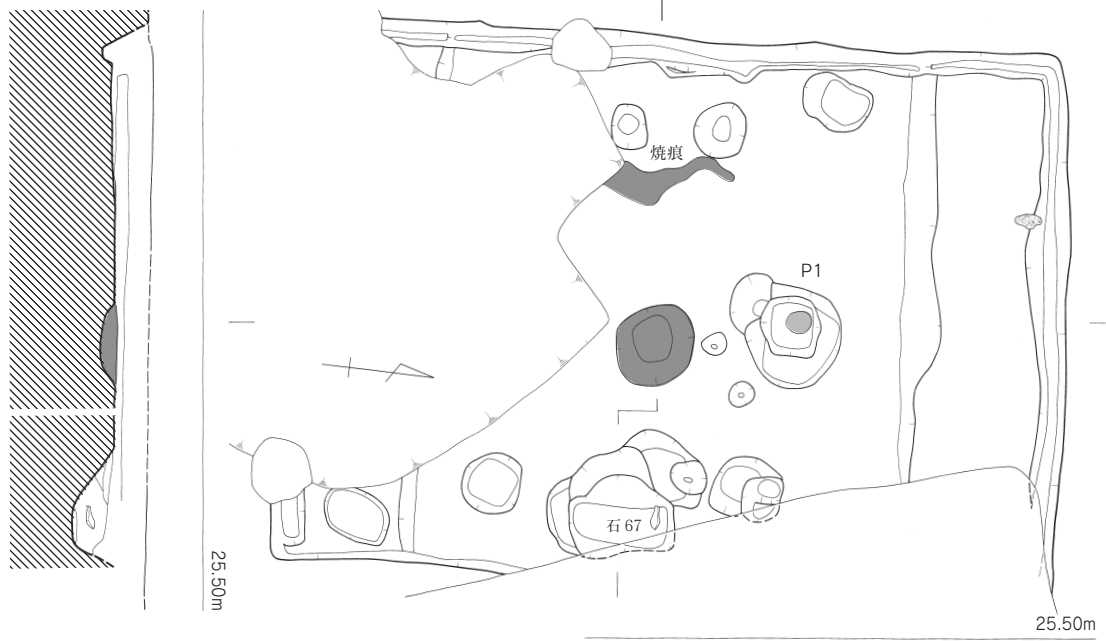


第30図 32号住居跡実測図(1/60)

含まれなかったが、1号土坑を埋めた後に2号土坑が掘込まれたものと見られる。当住居跡から出土した土器は弥生後期後半のものが主体である。土製品、鉄器7点、砥石3点が出土し、とりわけ、鑄造鉄斧は旧状をよく保持しており注目される。

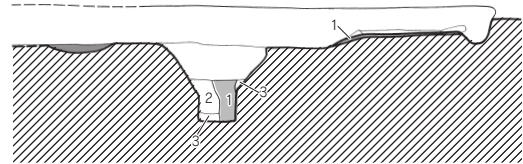
**38号住居跡** (図版17-(4)、第34図、表1)

Ⅱ区の南部に検出した大形の竪穴住居跡である。51号掘立柱建物跡よりも新しい。検出面から床面までの深さは30～35cm前後である。西辺中央は、奥行き狭い張出部を設え、ここに盛土してベッド状遺構としている。米軍基地時の攪乱坑により少し破壊されている。北辺と南辺にもベッド状遺構を設けており、いずれも盛土による造り付けであるが、北辺の壁際部分は、半分の高さまで削り出した上に貼床している。南辺は中央部が少し外側に張り出している。炉は主柱を結ぶ線より少し屋内土坑寄りに位置し、底面付近がよく焼け締まっている。炉からは55cm東側の床面に直径約40cmの焼痕が認められた。主柱穴は2個とも住居の内側の方に段を有している。柱痕の直径は18～20cmで、縦断面ではやや内側に傾斜していたことが分かる。東辺中央に位置する屋内土坑は、両端に深さ約



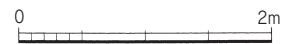
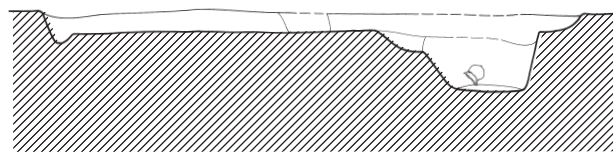
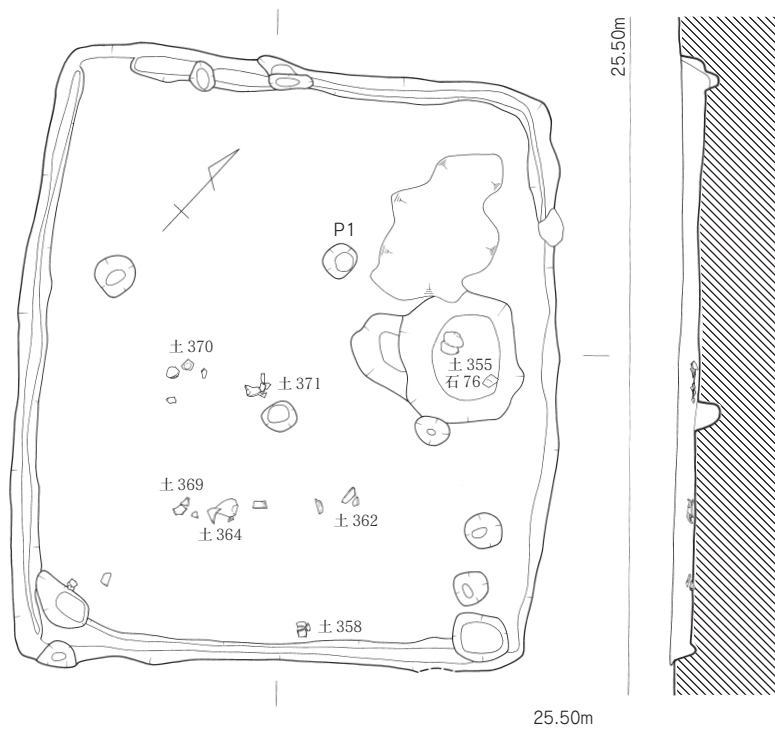
33号

- P1  
 1 黒灰色土(茶褐色土混入)(柱痕)  
 2 暗黄褐色粘質土(茶褐色土混入)  
 3 暗茶褐色土(黒灰色土混入)

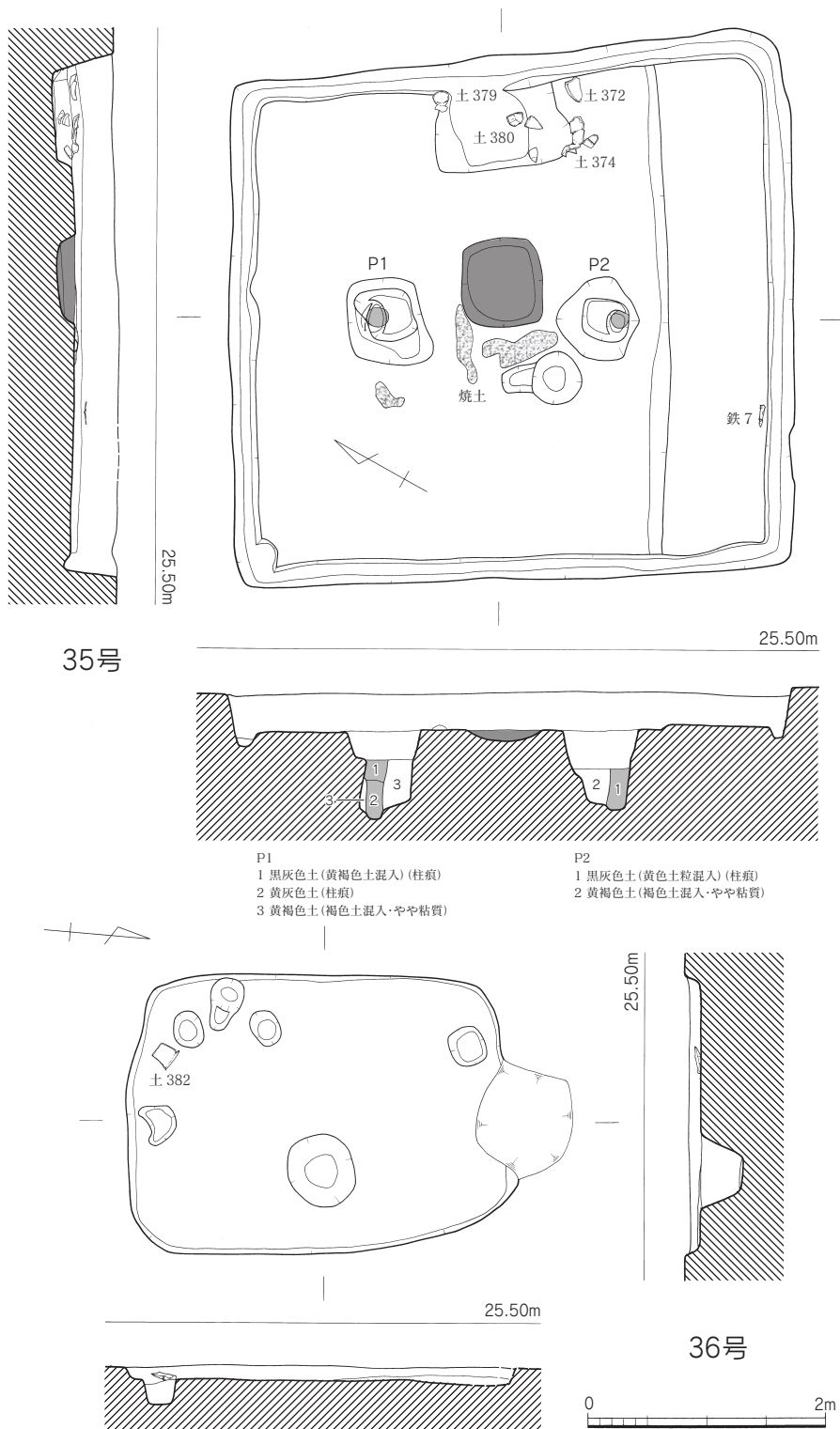


ベッド状遺構  
 1 暗褐色土(黄褐色土混入)

34号



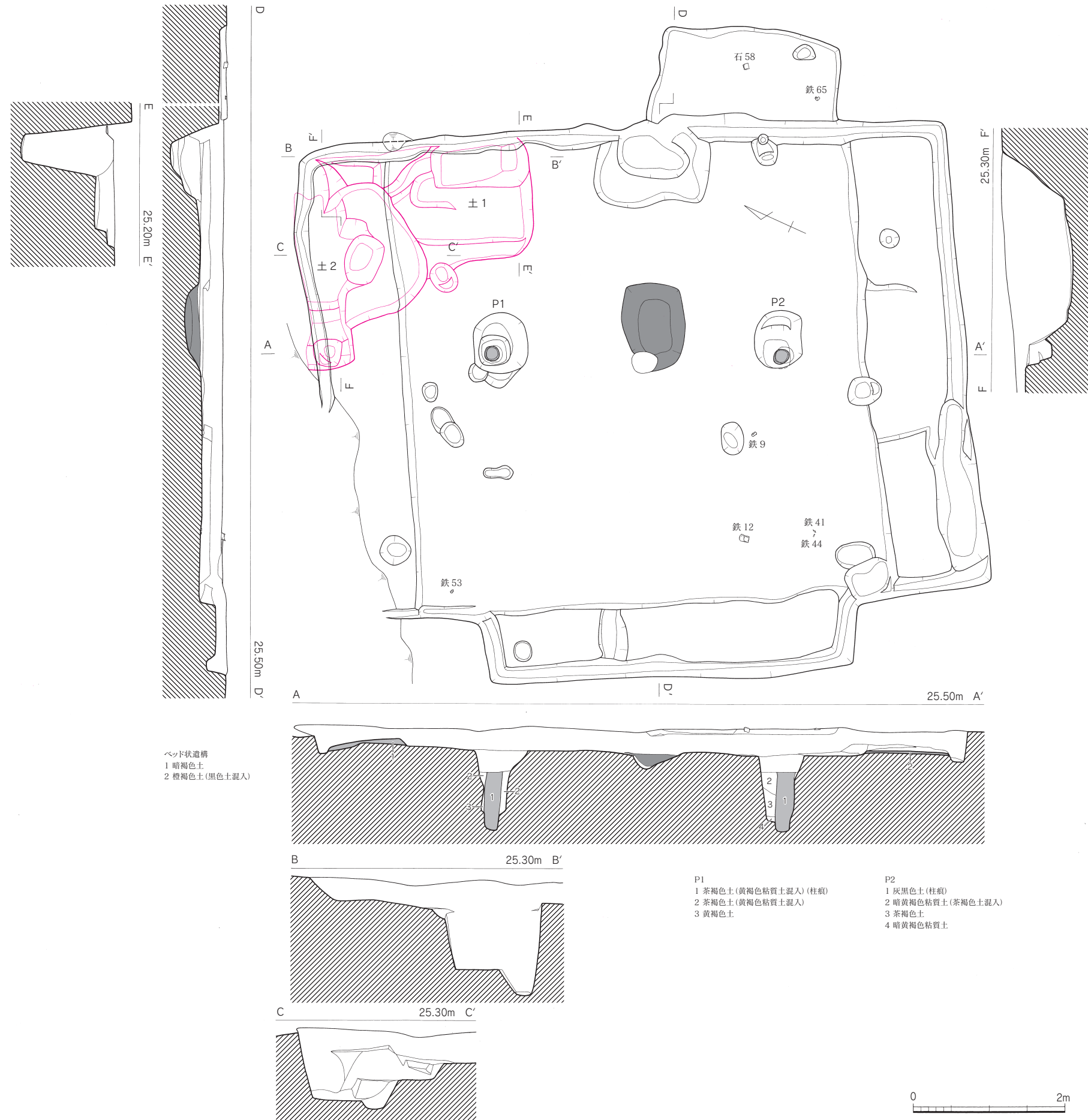
第 31 図 33・34 号住居跡実測図 (1/60)



第 32 図 35・36 号住居跡実測図 (1/60)

25 cmの段が付く。壁溝は張出部も含めて住居の外壁際に沿って回している。北辺の2箇所に掘込みがあり、この部分は貼床をして表面が整えられていた。屋内土坑に懸かる掘込みは、深さ10 cm前後で、ベッド下のものは深さ26 cmである。これらは殆ど出土遺物がなく、当住居跡に伴うものか否か確信が持てない。また、ベッド下の掘込みと51号掘立柱建物跡の柱穴との新旧関係についても、同





第 33 図 37 号住居跡実測図 (1/60)

時に掘り進めたため不明である。出土遺物では、弥生終末期前半のものを主体とする土器が多量に出土したが、器形を復元できるものは殆どない。他に土製品、鉈等の鉄器類6点、ガラス小玉2点、砥石、軽石等が出土している。

#### 39号住居跡（図版18－(1)・(2)、第35図、表1）

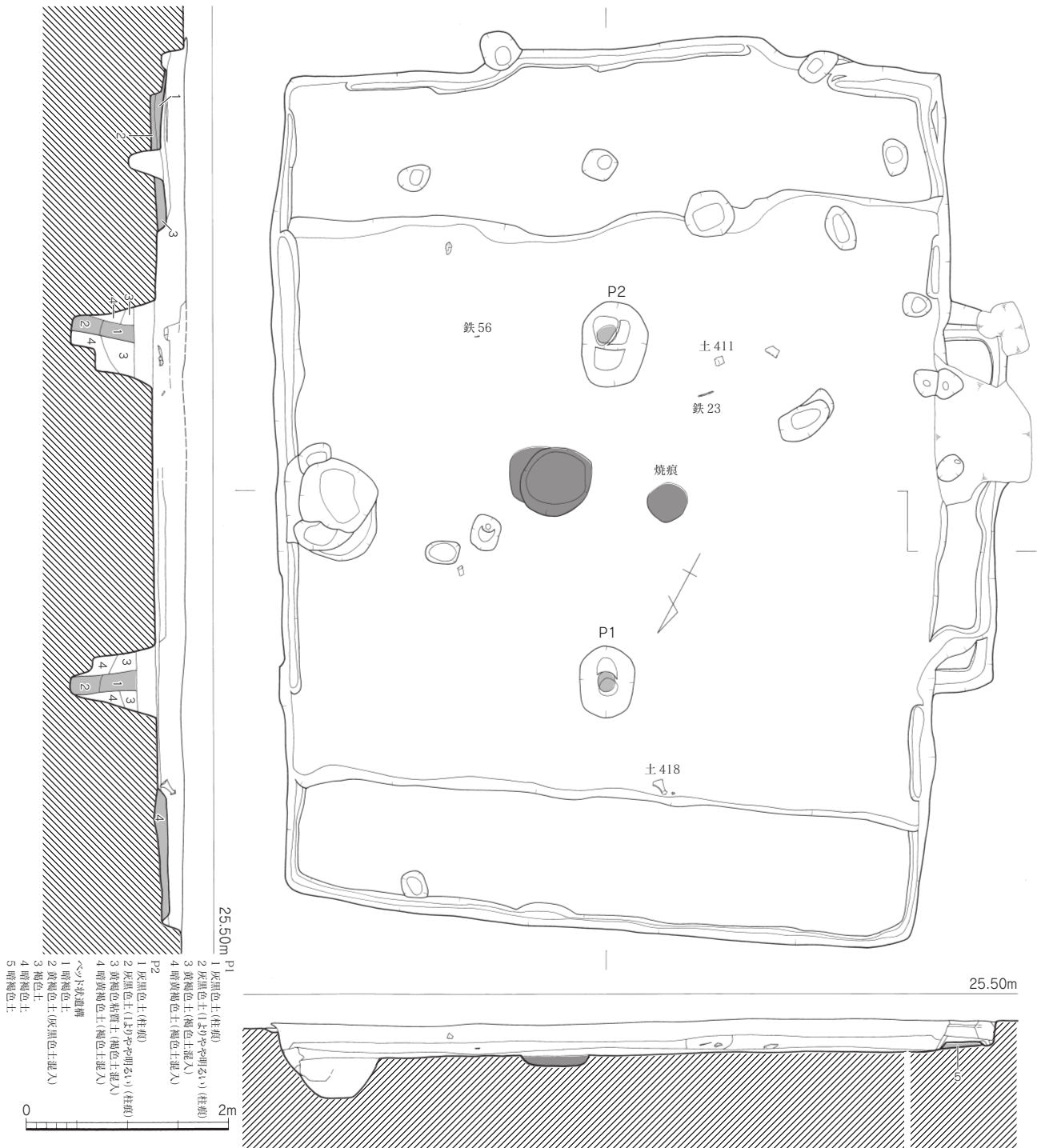
Ⅱ区の南部に検出した大形の竪穴住居跡で、37・38号住居跡の中間に位置する。36号掘立柱建物跡よりも新しい。南辺中央が近代の井戸によって大きく破壊されている。検出面から床面までの深さは20～35cm前後である。西辺やや南寄りの位置に張り出しを設えている。この張り出し部及び北辺と南辺をベッド状遺構としているが、いずれも地山を粗く削り出し、表面に盛土して形を整えている。北辺のベッドは階段状に成形し、南辺ベッドは西側前面に深さ約10cmの浅い掘込みがある。また、東端でもベッド下から深さ約10cmの窪みが検出された。不定形の炉は主柱を結ぶ線より少し屋内土坑寄りに位置している。主柱は2本で、主柱穴には直径18～20cmの柱痕が明瞭に残されていた。東辺中央に位置する屋内土坑は、底面の両端に深さ6cmと10cmのピットが付く。壁溝は東辺にだけ敷設している。出土した土器は多量で、弥生終末期後半のものが主体である。注目すべき遺物として鉈や鏃等の鉄器類、ガラス小玉2点がある。他に石包丁、砥石等が出土している。

#### 40号住居跡（図版18－(3)、第36図、表1）

Ⅱ区の南部に検出した。検出面から床面までの深さは25cm前後である。中心部が攪乱坑によって大きく破壊されている。北東辺に盛土によって造り付けたベッド状遺構を設けている。このベッドは北東壁から北西壁に沿って深さ10cm前後の溝が付されている。西隅にも「L」字形の狭いベッド状の高まりが見られるが、これは地山削り出しである。炉跡は攪乱坑に破壊され不明な点が多いが、南西主柱穴に接する位置に設えており、壁面はよく焼けていた。主柱は2本で、両主柱穴とも段掘りされており、掘方の浅い位置に柱を据えており、建替を示すと考えられる。南東辺中央に位置する屋内土坑は、壁際の両端に深さ10cmと13cmのピットが付く。北西壁下に浅い溝状の落ち込みがあるが、壁外に及ぶことなく壁に沿って掘られており、当住居跡に伴うと見られる。覆土は明らかに人為的な埋め土であり、特に表面が堅く締まった様相はなかったが、貼床として捉えられるものであろう。出土した土器は弥生終末期前半のものが主体である。他にガラス小玉、石器等が出土している。

#### 41号住居跡（図版19－(1)、第36図、表1）

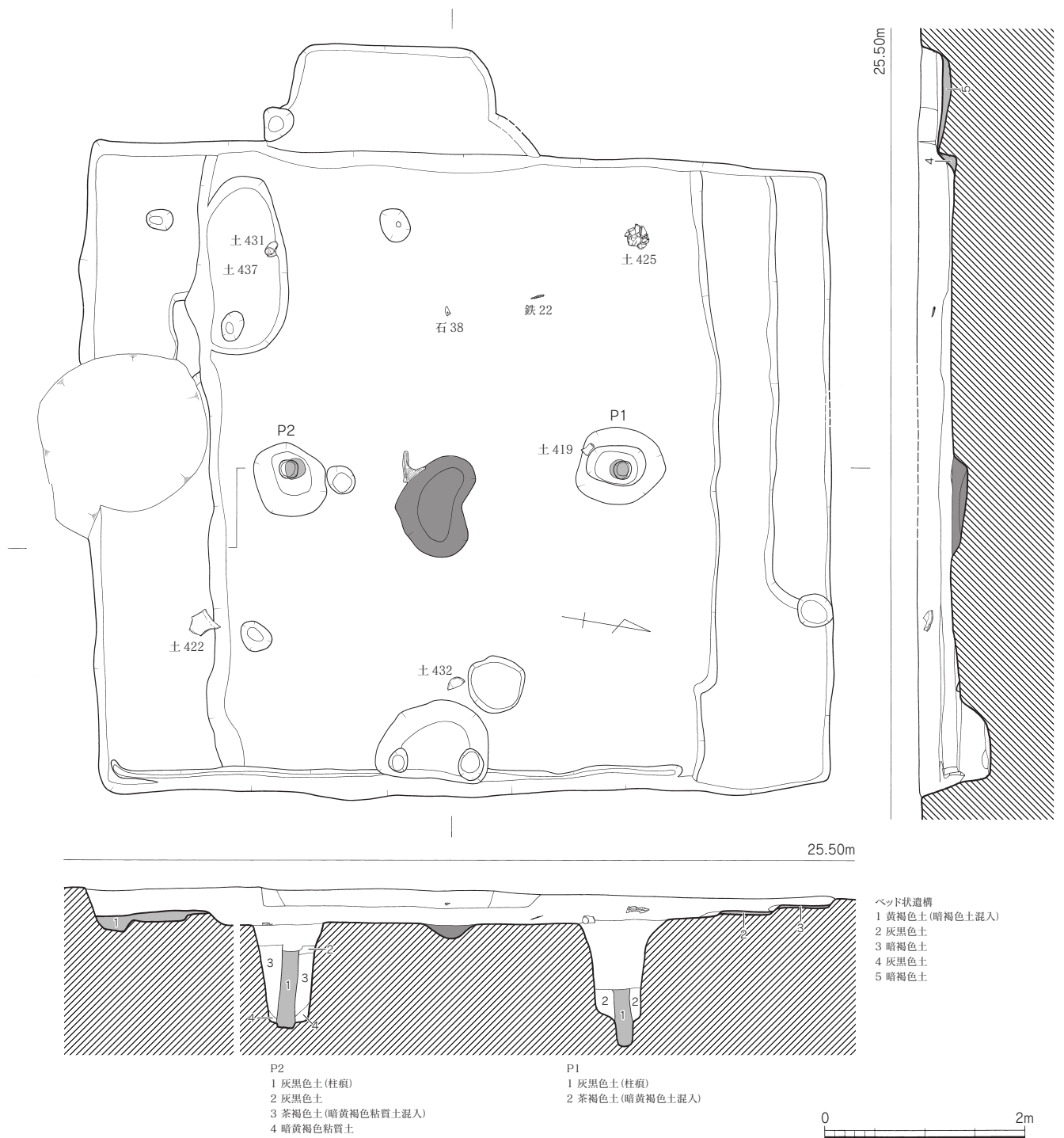
Ⅱ区の南部南端に検出した。検出面から床面までの深さは45cm前後である。本来は長方形プランで2本柱の大形の竪穴住居跡だったと考えられるが、米軍基地時の整地により南半部が失われているため、主柱穴は1個しか残っていない。炉の有無、屋内土坑も不明である。北西辺に地山削り出しでベッド状遺構を設えている。残っている主柱穴はベッドに接する位置にあり、段掘りになっている。外壁に沿った3辺に壁溝があり、北東辺のベッド下はやや幅広に掘られていたようである。ベッド上の北隅に検出したピットは、当住居跡より古いものではない。石錘がベッド上の壁溝内から出土している。出土遺物は弥生後期中頃の土器が主体である。



第34図 38号住居跡実測図(1/60)

42号住居跡 (図版19 - (2)・(3)、第37図、表1)

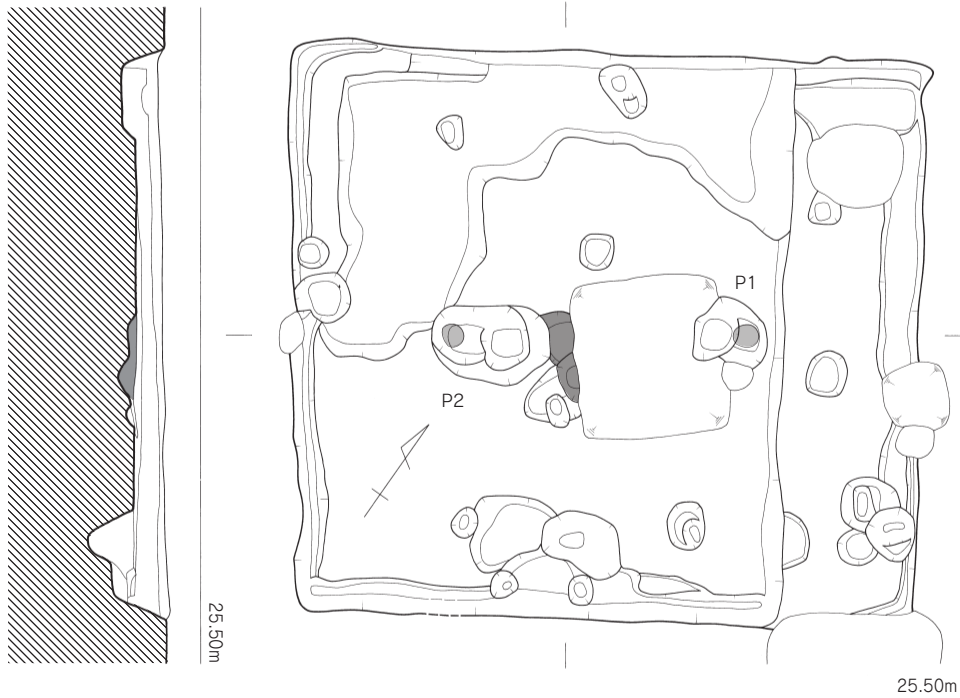
II区の北部の西端に調査区を拡張して検出した。52・53・54号掘立柱建物跡よりも古い。検出面から床面までの深さは35cm前後である。北西辺と南東辺にベッド状遺構を設えており、北西辺は地山削り出し、南東辺は全て盛土による造り付けで成形している。南東辺ベッドについては、平面形がクランク状を呈し、南西半部が一段高くなっている。53号掘立柱建物跡の柱穴に切られて住居跡中心に検出した掘込みが、位置的に考えても炉とみられる。しかし内面は殆ど焼けておらず、南西側の



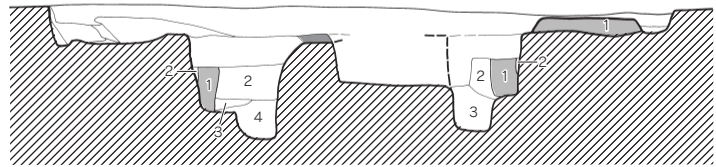
第35図 39号住居跡実測図 (1/60)

床面に小さな焼痕が認められるだけである。この炉自体、掘込みがやや深すぎるため、住居跡を切るピットであった可能性も否定できない。主柱は2本で、南東側の柱穴はベッドに食い込んで掘られている。誤って掘方の南東側を掘りすぎてしまったが、図では本来のラインを復元して示している。両主柱穴とも柱痕は直径16～23cmで、縦断面では内側に少し傾けて立てていたことが観察できる。北東辺中央に位置する屋内土坑は、底面両端に深さ5cmと13cmのピットがある。壁溝は4辺の壁際を





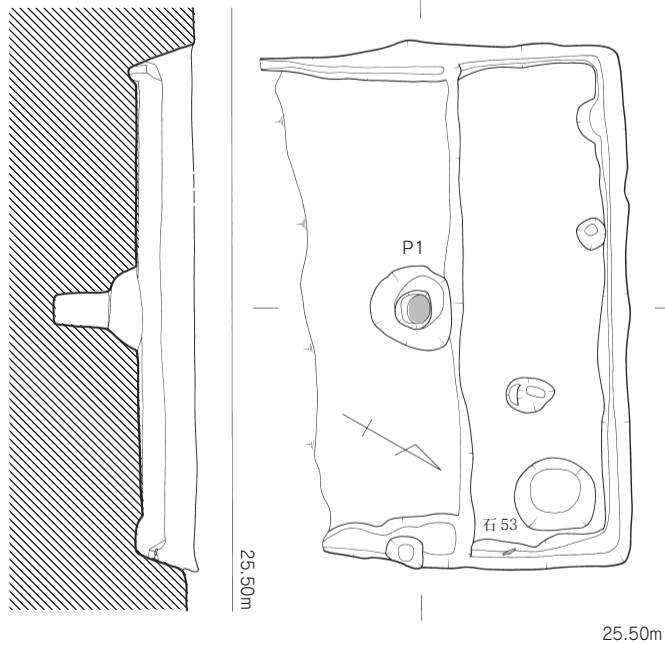
40号



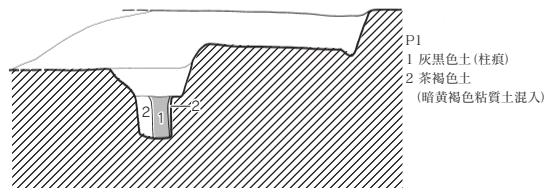
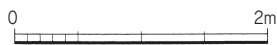
P2  
1 灰黒色土(柱痕)  
2 黄褐色土  
3 黒色土  
4 暗黄灰色土

P1  
1 灰黒色土(柱痕)  
2 暗黄褐色粘質土  
3 暗黄褐色土(茶褐色土混入)

ベッド状遺構  
1 黄褐色土(暗褐色土混入)

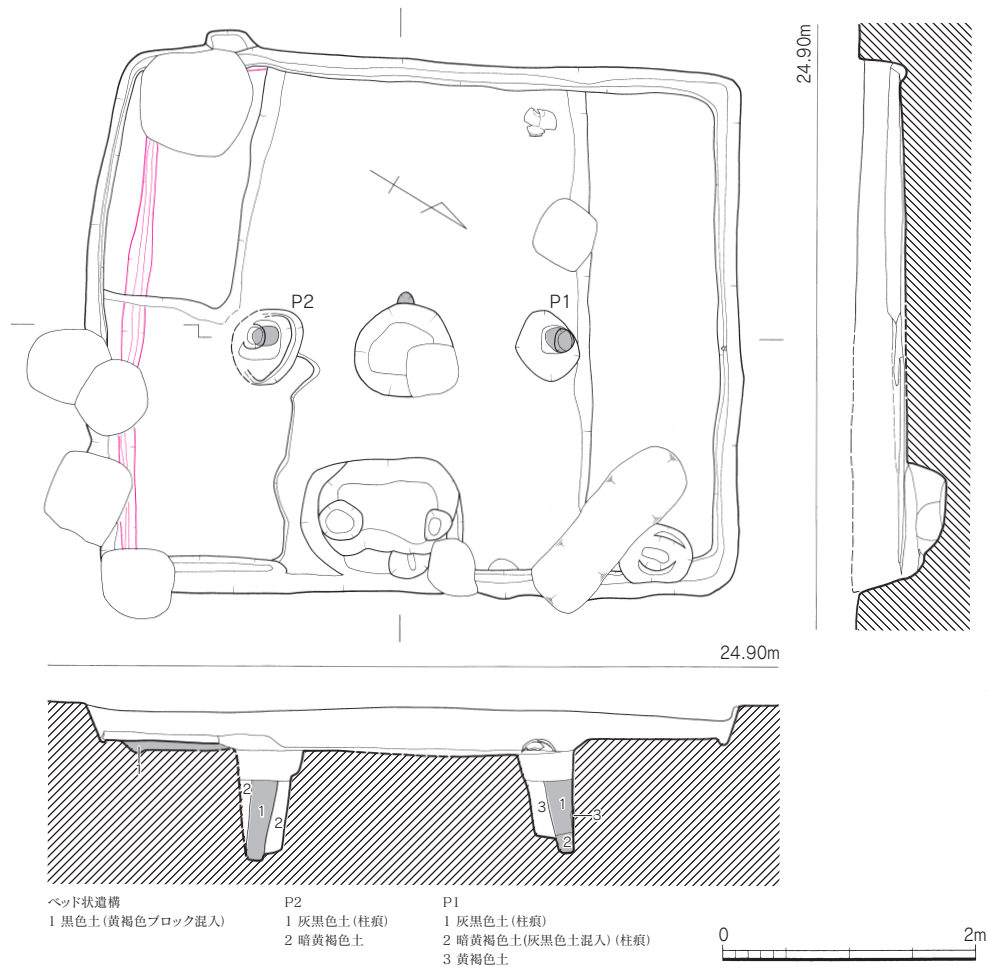


41号



P1  
1 灰黒色土(柱痕)  
2 茶褐色土  
(暗黄褐色粘質土混入)

第36図 40・41号住居跡実測図(1/60)



第 37 図 42 号住居跡実測図 (1/60)

巡っている。壁溝については、南東辺の造り付けベッドの下から壁に並行する溝を検出している。これは当住居跡が拡張を図ったことを示す拡張前の壁溝の痕跡である。ベッド下の床面は固く締まっており、生活の跡が窺われる。一方、この壁溝と新しい壁溝の間の地山は締まりがない。また、造り付けベッドの低い方に高さを揃えていることから、当初からベッドの造作を意識して、拡張部を削り出したものと考えられる。出土遺物は弥生終末期前半の土器が主体である。床面からガラス小玉 24 点、ガラス粟玉 12 点、鉈が出土した。他に鉄器 2 点、石包丁、投弾等が出土している。

## ② 掘立柱建物跡

I 区で 8 棟、II 区で 48 棟の掘立柱建物跡を検出した。発掘調査時に確認したもの他に、図面上での検討によって抽出したものもある。また、これら以外にも調査区外に伸び出していたり、攪乱されたりで柱穴の配列が把握できなかった掘立柱建物跡も存在していよう。

なお、それぞれの建物の規模や柱穴等の計測値については、別表にまとめて記載している。

### 1 号掘立柱建物跡 (図版 20 - (1)、第 38 図、表 2)

I 区の南部に検出した 2 間 × 1 間の建物。2.55 m を測る桁行に比べて、梁行が 2.65 m と広がっている。柱穴は P 5 が深く、P 2 は他より浅く掘られている。出土遺物はない。

## 2号掘立柱建物跡（図版20－(2)、第38図、表2）

I区の中央部に検出した2間×1間の建物。柱穴の掘方は1辺約50cmの略方形を呈し、全ての柱穴で径15～20cmの柱の痕跡が明瞭に確認された。出土遺物から弥生時代後期後半の建物と考えられるが、図示し得る遺物はない。

## 3号掘立柱建物跡（図版20－(3)、第39図、表2）

I区の北西部に検出した2間×1間の建物。柱穴の掘方は径約40～55cmの円形及び隅丸方形を呈する。深さは30cm前後で残存状態が良くない。特にP3は近世以降の切土と攪乱坑によって破壊され、深さ10cm足らずしか残っていない。P3を除いた柱穴では径15～20cmの柱痕跡が確認された。図示し得る出土遺物はない。

## 4号掘立柱建物跡（図版21－(1)、第39図、表2）

I区の北東部に検出した2間×1間の建物。米軍基地施設によりP4～P6が攪乱されている。柱穴の掘方は縦横長が約35～50cmの略方形を呈し、底面が2段掘りになっている。P2とP3は上位の柱痕と底面のピットの位置がずれており、屈曲した柱材を用いていたのかもしれない。弥生中期末～終末期前半の土器小片がごく少量出土したが、図示し得るものはない。

## 5号掘立柱建物跡（図版21－(2)、第40図、表2）

I区の北東部に検出した2間×1間の建物。米軍基地の攪乱でP5が一部破壊されている。柱穴は縦横長が約43～50cmの略方形を呈し、P2、P3、P6は掘方に段がつく。P6の断面では、柱痕と裏込め土の境が不明瞭な部分があった。弥生後期中頃～終末期前半の土器が少量出土した。

## 6号掘立柱建物跡（図版21－(3)、第40図、表2）

I区の北西部に検出した2間×1間の建物。P3は攪乱坑の底面で検出したため、掘方が小さい。柱穴は縦横長が63～76cm×56～66cmの隅丸長方形あるいは略楕円形を呈し、掘方に段がつくか、底面に窪みがある。全柱穴から弥生後期後半の土器が出土している。

## 7号掘立柱建物跡（図版22－(1)、第41図、表2）

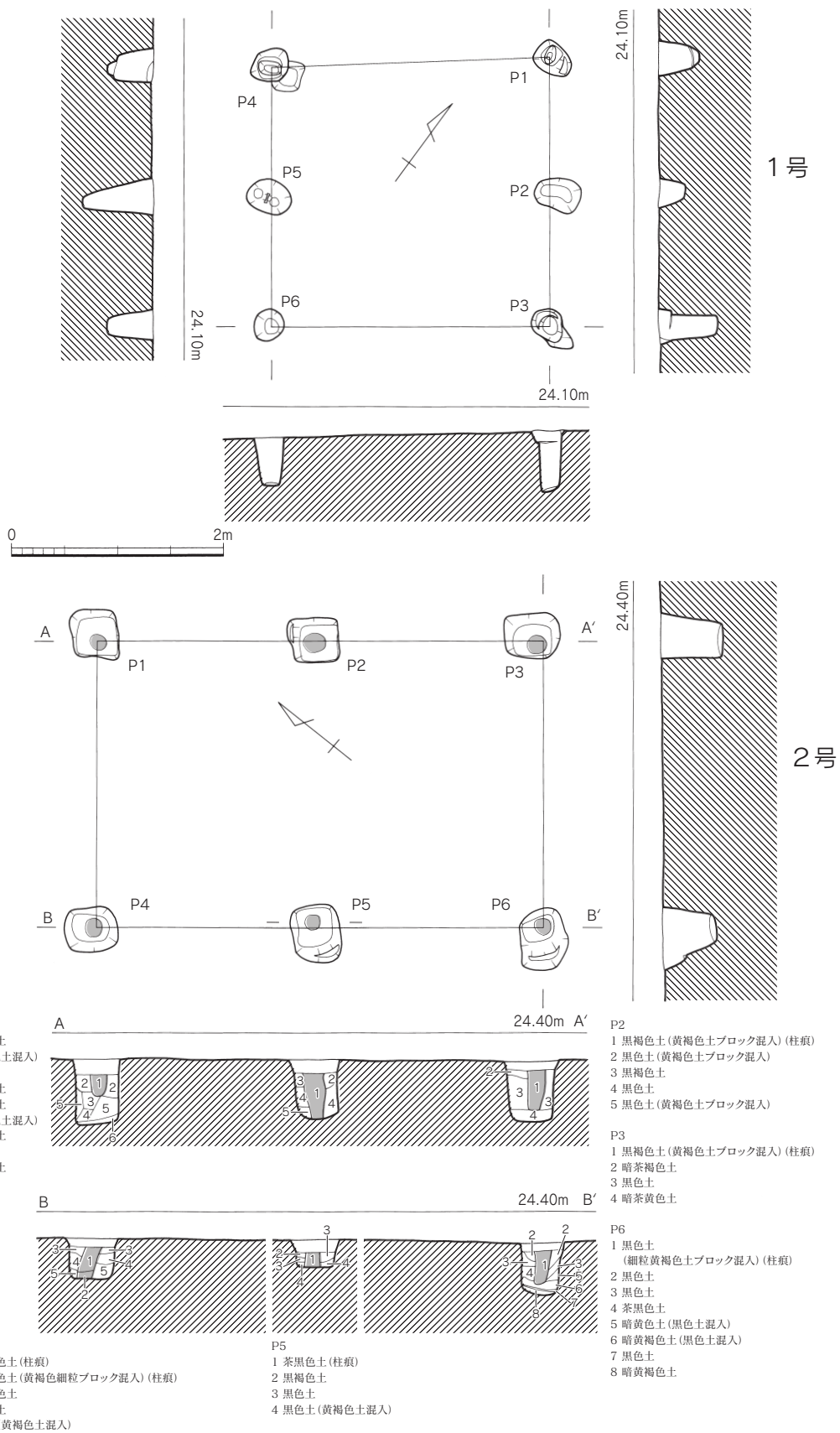
I区の北西部に検出した1間×1間の建物。P3が米軍基地施設によって攪乱されている。柱穴は隅丸長方形、隅丸方形を呈し、P3を除いて底面が段掘りされている。P1は掘方の西壁にも小さな段がある。全柱穴で弥生終末期後半～古墳時代初頭の土器が検出された。

## 8号掘立柱建物跡（図版22－(2)、第41図、表2）

I区の北東部に検出した1間×1間の建物。米軍基地の攪乱でP1が一部破壊されている。柱穴は略円形あるいは楕円形である。P2は底面が段掘りである。柱痕は確認できなかった。出土遺物は皆無である。

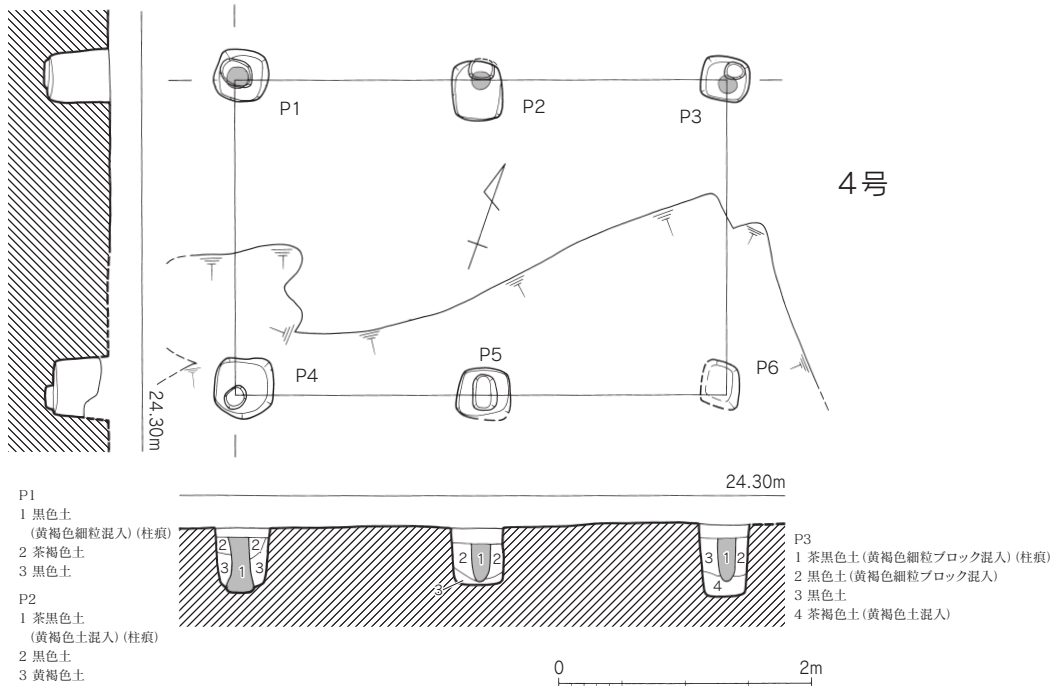
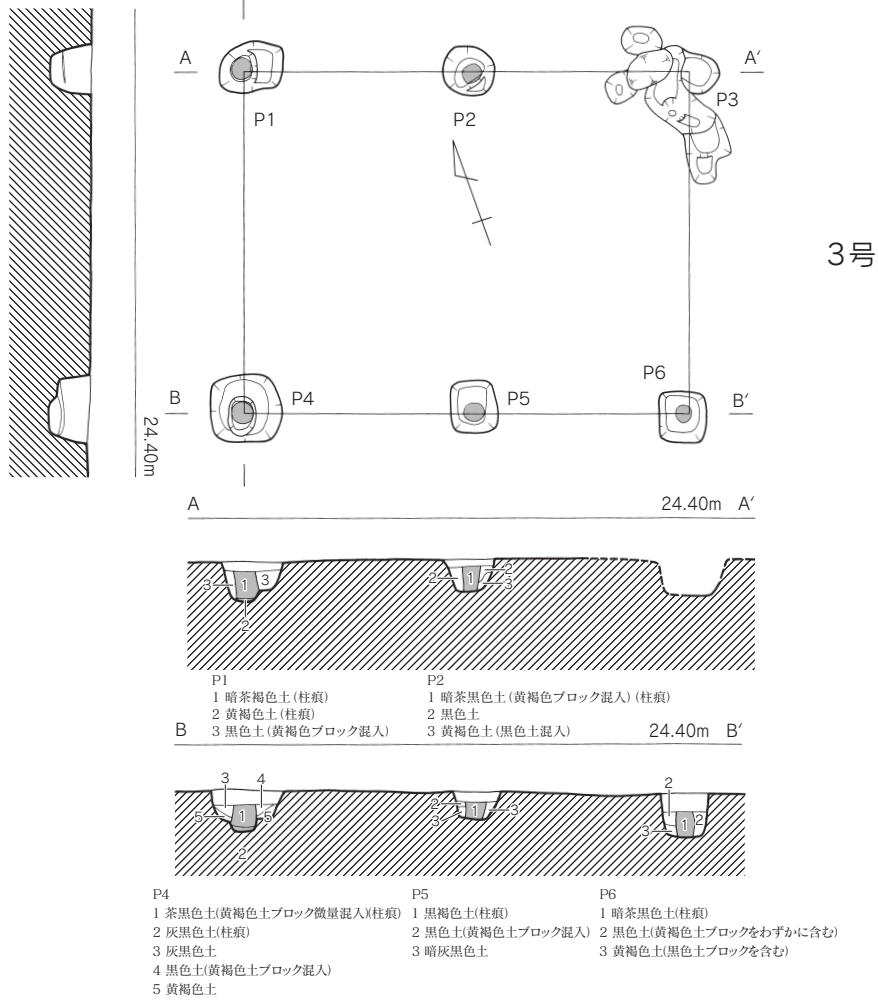
## 9号掘立柱建物跡（図版22－(3)、第42図、表2）

II区の北部東寄りに検出した1間×1間の建物。柱穴は不整な楕円形または円形を呈し、底面が段掘りされている。弥生後期後半の土器小片が少量出土したが、図示し得るものはない。

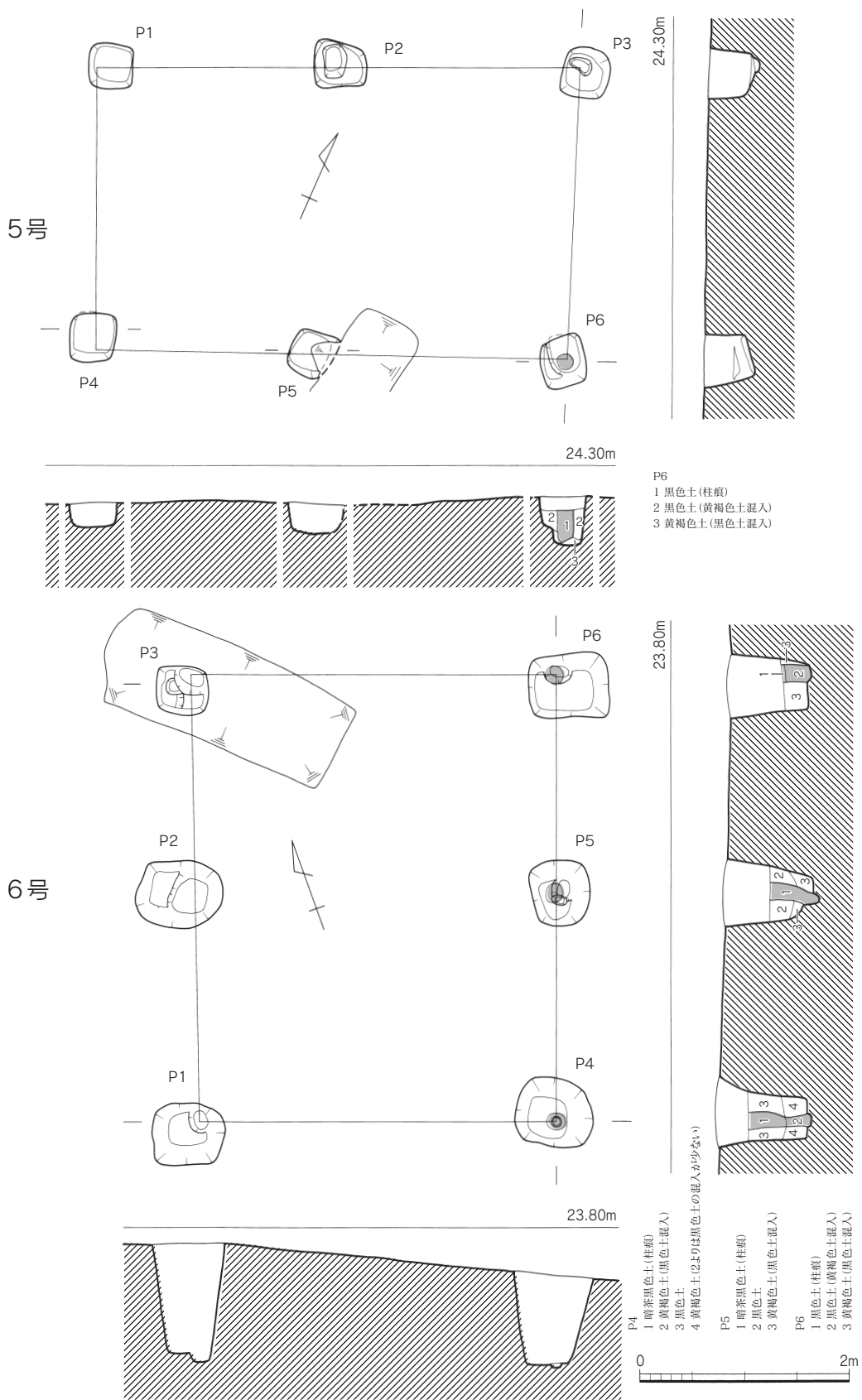


第 38 图 1・2号掘立柱建物跡実測図 (1/60)

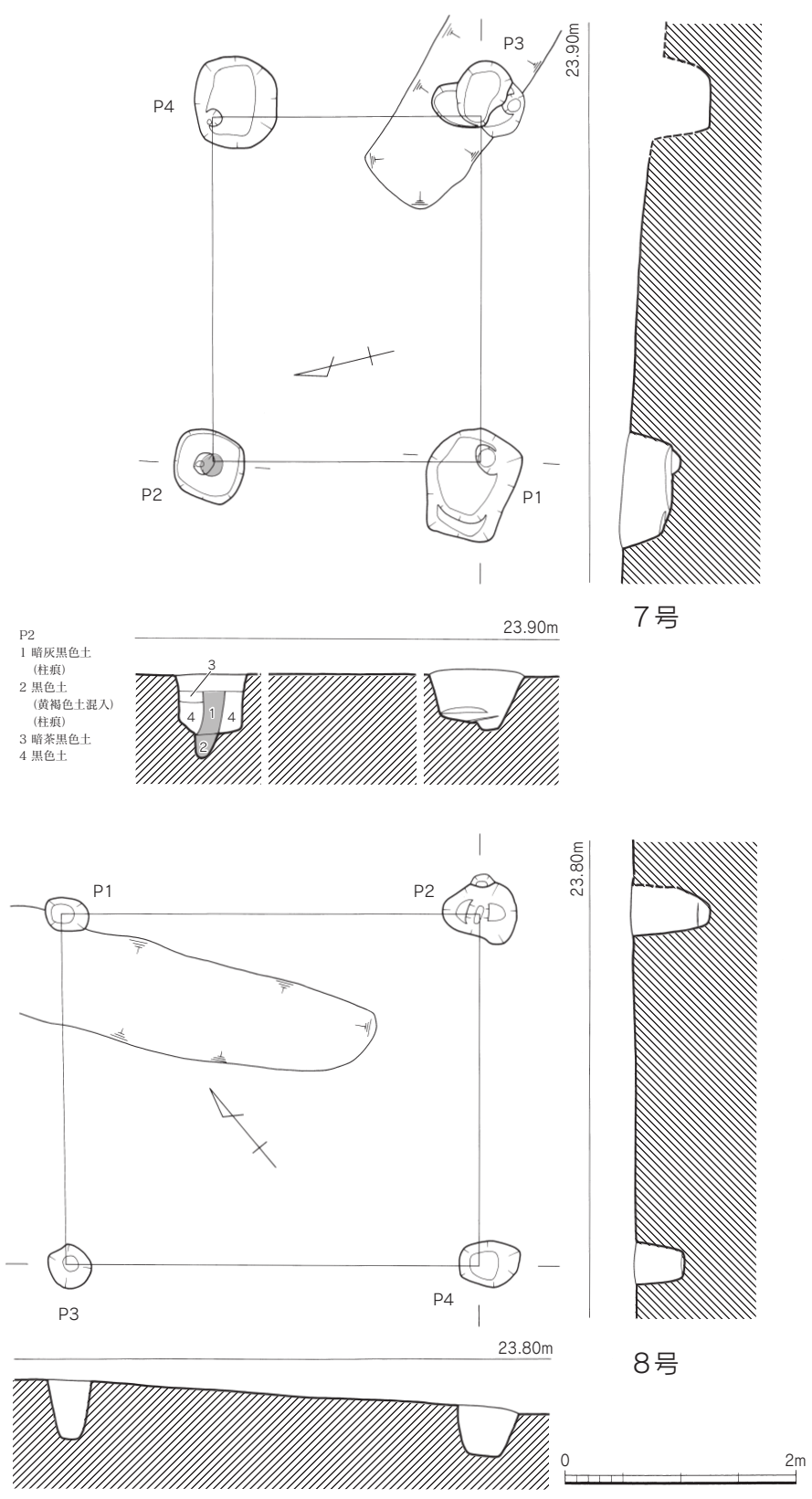




第39図 3・4号掘立柱建物跡実測図(1/60)



第 40 图 5・6号掘立柱建筑物迹实测图 (1/60)



第 41 图 7·8号掘立柱建物跡実測图 (1/60)

#### 10号掘立柱建物跡 (図版 23 - (1)・(2)、第 42 図、表 2)

Ⅱ区の北部東寄りの位置に検出した 2 間 × 1 間の建物。11・13 号掘立柱建物跡より新しい。P 3 が 13 号掘立 P 5 を切る。柱穴は円形または隅丸方形を呈し、P 1、P 5 以外は底面が段掘りされている。P 2、P 3 には底面近くで直径 15 ~ 18 cm の柱痕が確認された。弥生後期前半の土器小片が少量出土したが、図示し得るものはない。

#### 11号掘立柱建物跡 (図版 23 - (1)・(2)、第 43 図、表 2)

Ⅱ区の北部東寄りに検出した 2 間 × 1 間の建物。10・13 号掘立柱建物跡より古い。P 3 が 13 号掘立 P 6 に切られる。12 号掘立柱建物跡と重複するが、柱穴が切合わず新旧関係は不明である。柱穴は隅丸方形または隅丸長方形を呈する。P 1、P 6 は底面が段掘りされている。P 2、P 5、P 6 で直径 22 ~ 30 cm の柱痕が確認された。P 2、P 6 では上位から明瞭だったが、P 5 は底面近くで検出した。弥生中期末の土器が少量出土した。

#### 12号掘立柱建物跡 (図版 23 - (1)・(2)、第 43 図、表 2)

Ⅱ区の北部東寄りに検出した 2 間 × 1 間の建物。11 号掘立柱建物跡と重複するが、遺構の切合いによる新旧関係は不明。柱穴は概ね整った隅丸方形を呈すが、P 5 は他のピットと重なり不整形である。P 1 は段掘りされている。全ての柱穴で直径 15 ~ 21 cm の柱痕が確認された。P 2、P 5 は底面近くでの検出だが、他の柱穴では上位から明瞭であった。弥生後期初頭の土器が出土した。P 1 から鉢、須恵器小片が数点検出されているが、混入品であろう。

#### 13号掘立柱建物跡 (図版 23 - (1)・(2)、第 44 図、表 2)

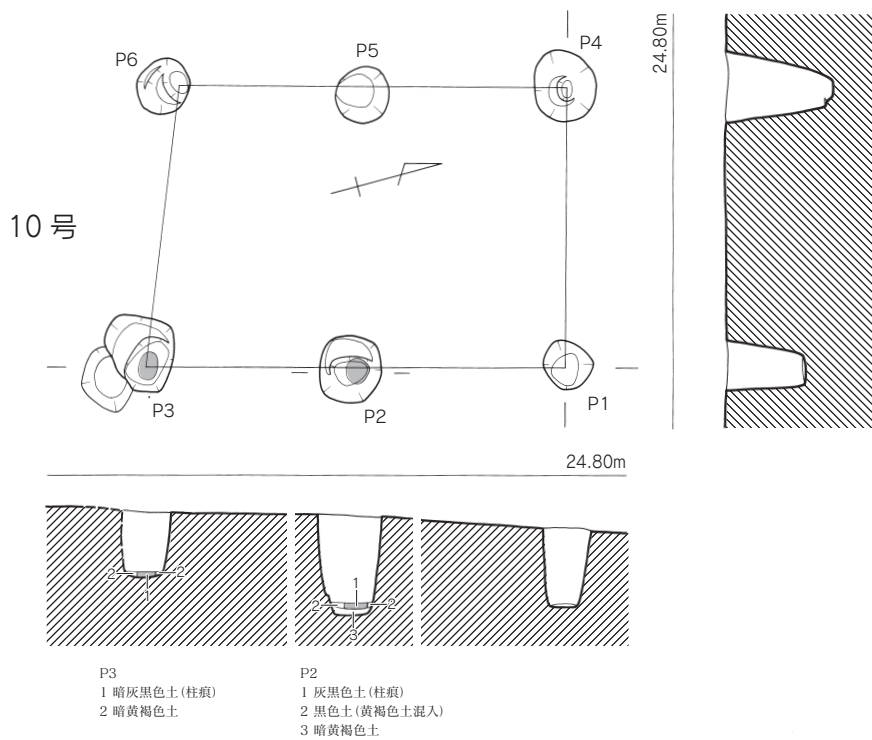
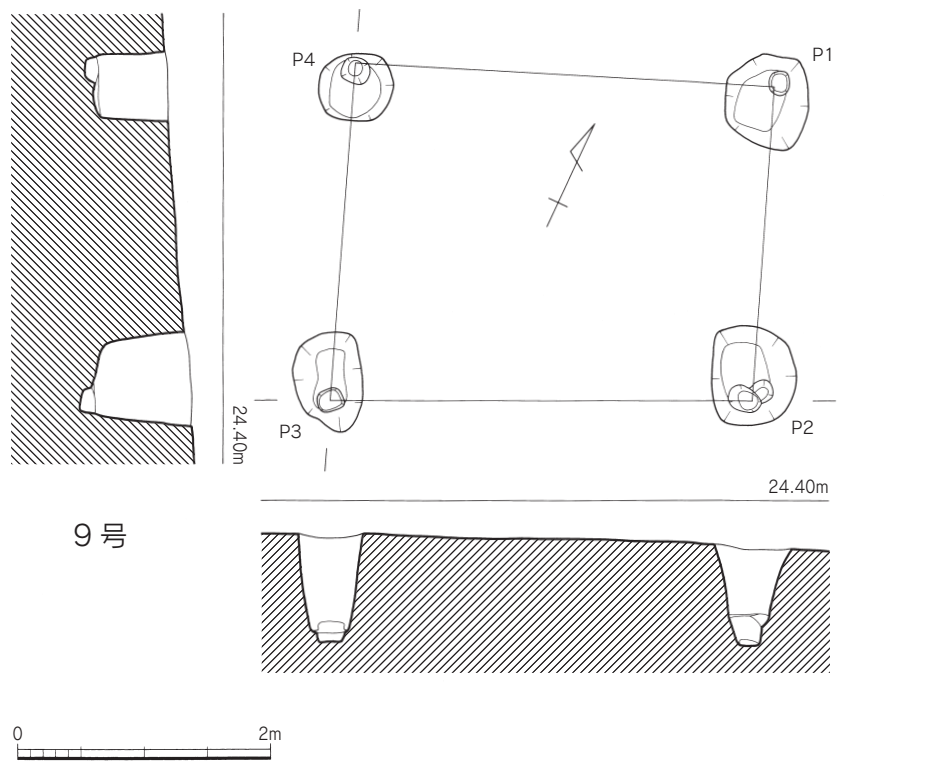
Ⅱ区の北部東寄りの位置に検出した 2 間 × 1 間の建物。11 号掘立柱建物跡より新しく、10 号掘立柱建物跡より古い。柱穴は 6 個とも掘方が小さく、直径 40 cm 内外の円形を呈する。P 5 が 10 号掘立 P 3 に切れ、P 6 は 11 号掘立 P 3 を切る。P 4 は米軍基地施設によって攪乱されている。P 5 では直径 16 cm の柱痕が確認された。弥生後期初頭の土器が少量出土した。

#### 14号掘立柱建物跡 (図版 23 - (3)、第 44 図、表 2)

Ⅱ区の北部西寄りに検出した 2 間 × 1 間の建物。柱穴は隅丸方形または隅丸長方形を呈するが、P 1、P 3、P 5 は掘方の一部が攪乱されている。P 6 以外は底面が段掘りされている。全ての柱穴で直径 15 ~ 20 cm の柱痕が確認された。弥生中期末の土器が少量出土した。

#### 15号掘立柱建物跡 (図版 24 - (1)、第 45 図、表 2)

Ⅱ区の北部西寄りの位置に検出した 3 間 × 2 間の建物。49 号掘立柱建物跡より新しい。P 6 が 49 号掘立 P 1 を切る。48 号掘立柱建物跡とも重複するが、柱穴が切り合わず新旧関係は不明である。柱穴は隅丸方形を呈する。P 3、P 6、P 10 は掘方が段掘りされている。P 5、P 6 は特に掘方の規模が大きく深い。棟持ち柱と考えられる。P 6 の掘方は、底面が内側に入り込んでいることから、柱がやや外側に傾斜して立てられていたと考えられる。P 7 ~ P 10 にも直径 15 ~ 19 cm の柱痕が確認されたが、P 9 は底面直上での検出であったため、断面図には示せなかった。弥生後期初頭～終末期前半の土器が出土している。

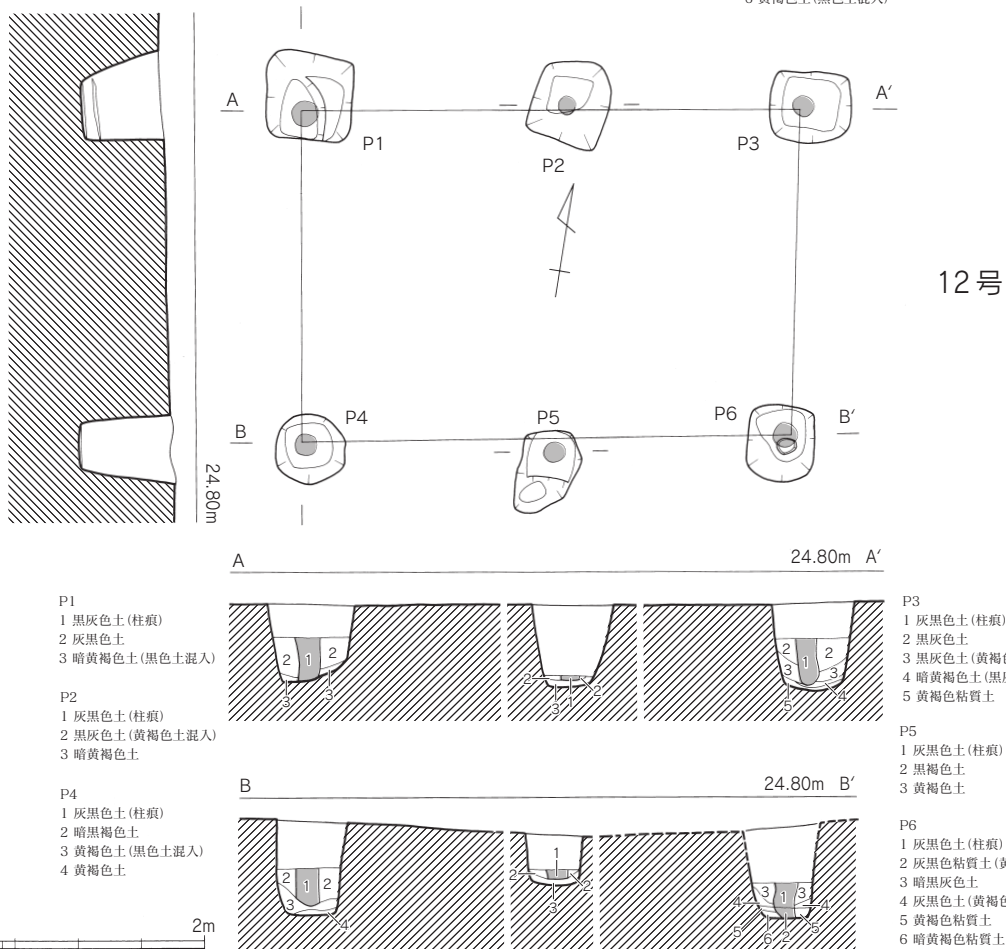
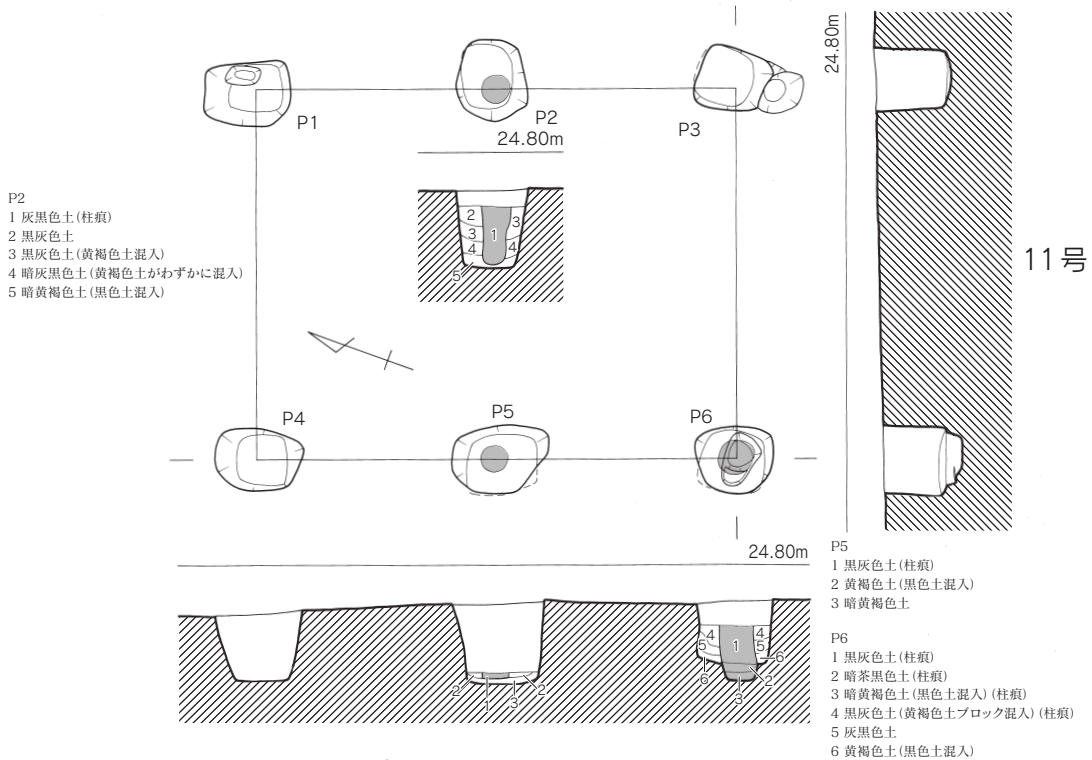


第 42 図 9・10号掘立柱建物跡実測図 (1/60)

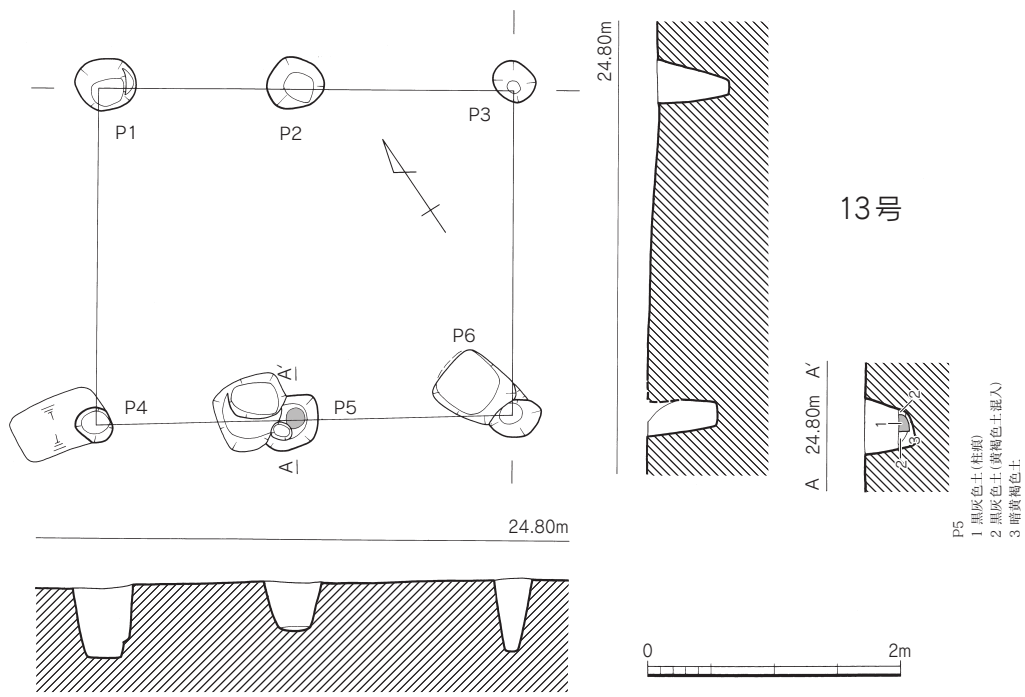
16号掘立柱建物跡 (図版 24 - (2)、第 46 図、表 2)

II 区の北部西寄りの位置に検出した 2 間 × 1 間の建物。7 号住居跡より古い。P 1 は住居跡貼床下で検出し、P 2 は住居跡の東辺に切られている。柱穴は隅丸方形または隅丸長方形を呈する。P 4、



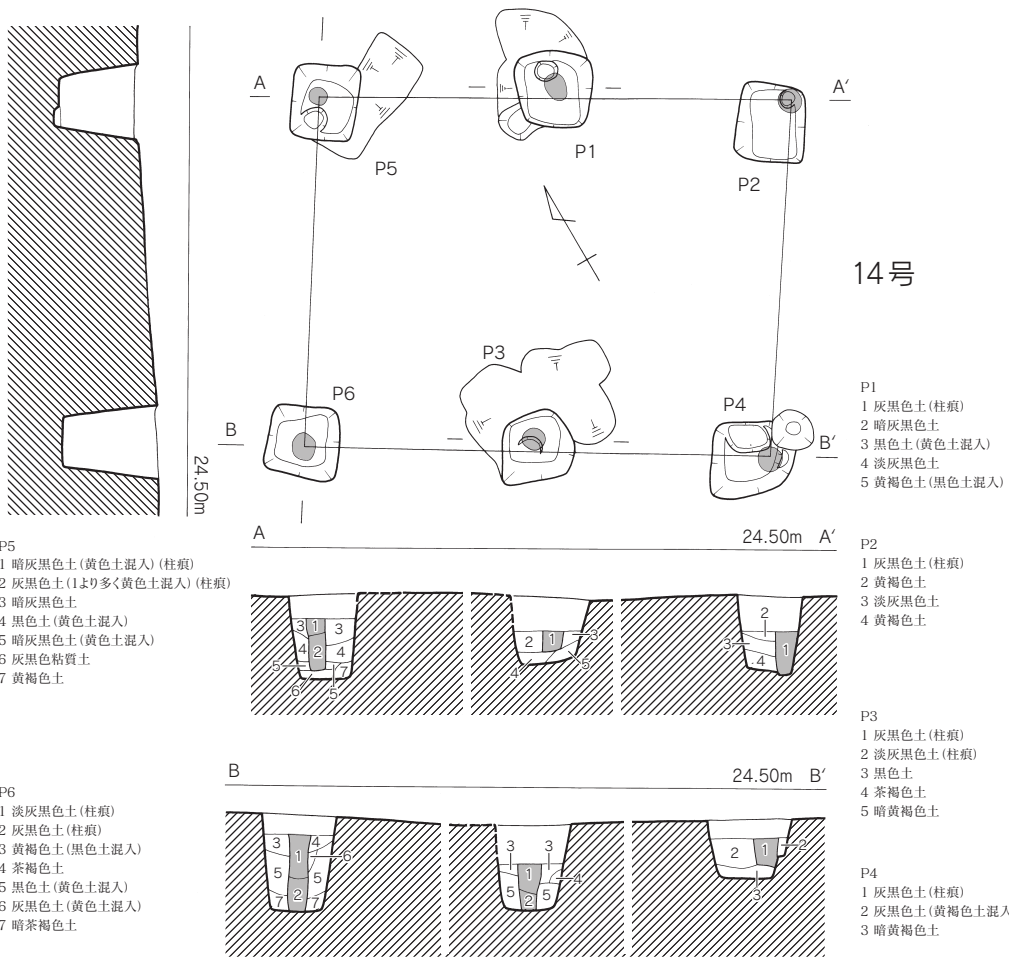


第 43 图 11・12号掘立柱建物跡実測図 (1/60)



13号

- P5  
 1 黑灰色土(柱痕)  
 2 黑灰色土(黄褐色土混入)  
 3 暗黄褐色土



14号

- P5  
 1 暗灰黑色土(黄色土混入)(柱痕)  
 2 灰黑色土(1より多く黄色土混入)(柱痕)  
 3 暗灰黑色土  
 4 黑色土(黄色土混入)  
 5 暗灰黑色土(黄色土混入)  
 6 灰黑色粘質土  
 7 黄褐色土

- P6  
 1 淡灰黑色土(柱痕)  
 2 灰黑色土(柱痕)  
 3 黄褐色土(黑色土混入)  
 4 茶褐色土  
 5 黑色土(黄色土混入)  
 6 灰黑色土(黄色土混入)  
 7 暗茶褐色土

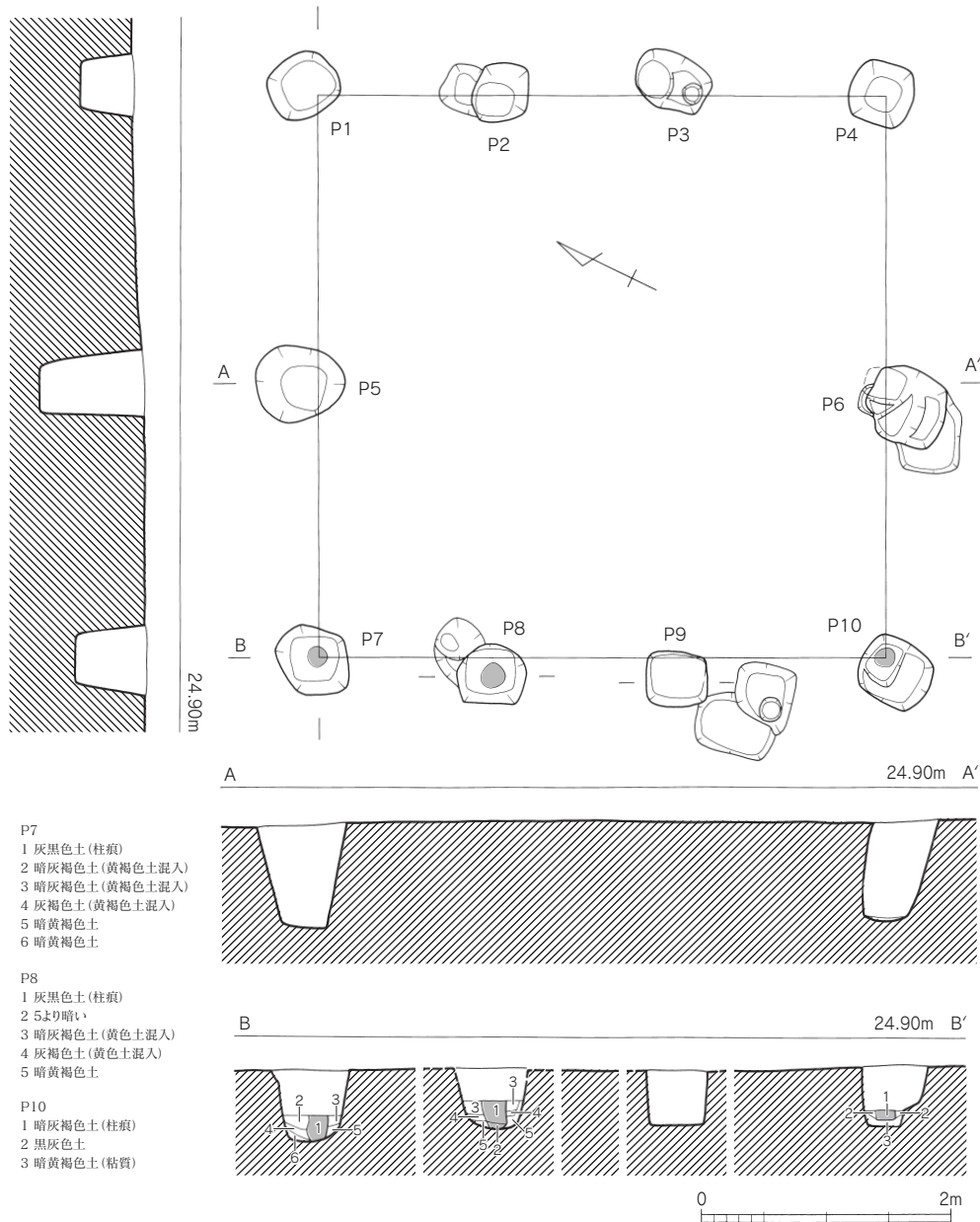
- P1  
 1 灰黑色土(柱痕)  
 2 暗灰黑色土  
 3 黑色土(黄色土混入)  
 4 淡灰黑色土  
 5 黄褐色土(黑色土混入)

- P2  
 1 灰黑色土(柱痕)  
 2 黄褐色土  
 3 淡灰黑色土  
 4 黄褐色土

- P3  
 1 灰黑色土(柱痕)  
 2 淡灰黑色土(柱痕)  
 3 黑色土  
 4 茶褐色土  
 5 暗黄褐色土

- P4  
 1 灰黑色土(柱痕)  
 2 灰黑色土(黄褐色土混入)  
 3 暗黄褐色土

第44图 13・14号掘立柱建物跡実測图(1/60)



第45図 15号掘立柱建物跡実測図(1/60)

P5は掘方に段が付く。P1～P3で直径17～22cmの柱痕が明瞭に確認された。P3、P6は掘方の上部が外側に少し開くような形で掘られている。P2～P4で弥生後期初頭から前半にかけての土器片が少量出土している。

**17号掘立柱建物跡** (図版24-(3)、第47図、表2)

Ⅱ区の中央部西寄りに検出した2間×1間の建物。P3が14号住居跡の西辺を切っており、これより新しいことが分かる。柱穴は概ね隅丸方形を呈し、掘方の規模が大きい。P3、P4、P6は掘方に段を有し、P4は底面が段掘りされている。全ての柱穴で直径15～24cmの柱痕が確認された。P1、P4、P5の柱痕は明瞭だが、P2、P3、P6は底面近くで検出した。弥生終末期後半～古墳時代初頭の土器の小片が少量出土したが、図示し得るものはない。

**18号掘立柱建物跡** (図版25-(1)、第46図、表2)

Ⅱ区の北部西寄りに検出した掘立柱建物跡。15号掘立柱建物跡北側の近接した位置にある。55号

掘立柱建物跡と重複するが、柱穴は接する程度で、切り合い関係が明らかに出来なかった。柱穴は隅丸方形または隅丸長方形を呈するが、小規模で掘りの浅いものが多く、全体的にやや不整である。基本的には4間×3間の建物と考えるが、P8を含めると南桁4間、北桁3間と変則的に柱を配置した建物となる。掘方に関しては底面が段掘りされた柱穴が多い。柱穴の掘り下げでは、柱痕の検出に努めたが確認出来なかった。弥生後期初頭～前半の土器が少量出土した。

#### 19号掘立柱建物跡（第48図、表2）

Ⅱ区の中央部東寄りの位置に検出した。2間×1間の建物。22号土坑より新しい。20号掘立柱建物跡より古い。同時に掘り進めたため、図上では切合い関係が不明瞭なものとなっている。P1、P2がそれぞれ20号掘立P1、P2に切られる。P3、P4の掘方に見られる段が20号掘立柱建物跡P3、P4の痕跡と考えられる。柱穴は隅丸長方形を呈し、直径15～20cmの柱痕が確認された。P5は米軍基地の攪乱で南部を失っている。各柱穴から弥生後期後半の土器が出土している。

#### 20号掘立柱建物跡（第48図、表2）

19号掘立柱建物跡、22号土坑と重複して検出した2間×1間の建物。19号掘立柱建物跡、22号土坑より新しい。切合い関係は前述の通りだが、柱穴は19号掘立柱建物跡より規模が小さく、隅丸方形を呈する。P1で直径12cmの柱痕が確認された。P1、P2、P5でごく少量の弥生終末期前半弥生土器片が出土したが、図示し得るものはない。

#### 21号掘立柱建物跡（図版25－②、第49図、表2）

Ⅱ区の中央部東寄りに検出した2間×1間の建物。22・23号住居跡より新しく、24号住居跡より古い。P1、P2は24号住居跡の貼床下に検出した。P4、P5は22号住居跡を切っているが、遺構検出時に切合いを明確にできず、発掘作業では同時に掘り進めている。柱穴は隅丸方形または隅丸長方形を呈し、P6以外は底面が段掘りされている。各柱穴で直径15～20cmの柱痕が確認された。P2から鉄斧が出土する。

#### 22号掘立柱建物跡（第50図、表2）

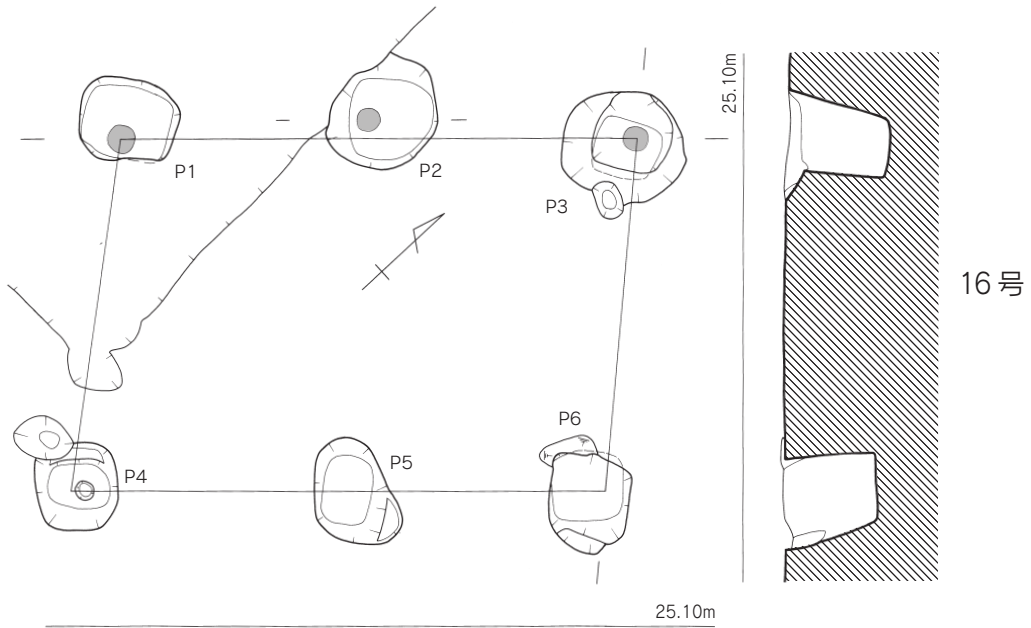
Ⅱ区の中央部東寄りの位置に検出した1間×1間の建物で、16号住居跡と23号住居跡の間に位置している。各柱穴とも掘方は整った長方形を呈し、P1～P3に比べてP4は規模が大きい。P2～P4で直径15～25cmの柱痕が確認された。出土遺物は極僅少で、図示し得るものはない。

#### 23号掘立柱建物跡（図版25－③、第50図、表2）

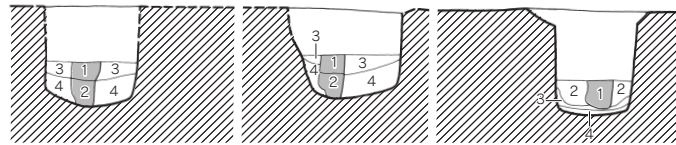
Ⅱ区の中央部東寄りに検出した2間×1間の建物。遺構検出時には切合いを明確にできなかったが、P1は13号住居跡と、P4が2号周溝状遺構と重複し、これらより新しいものとみられる。柱穴は概ね隅丸方形を呈する。P2、P6は掘方に段を有し、P1、P3、P4は底面がピット状に段掘りされている。各柱穴とも柱痕は確認できなかった。出土遺物は極僅少で、図示し得るものはない。

#### 24号掘立柱建物跡（第51図、表2）

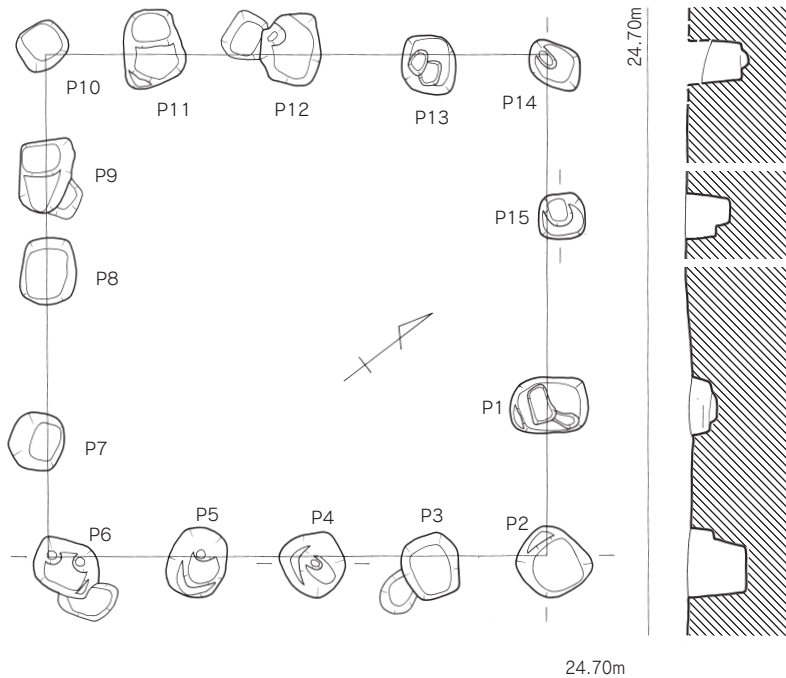
Ⅱ区の北部東寄りに検出した2間×1間の建物。遺構検出時に上面では切合いを明確にできなかったが、12号住居跡を切っている。25号掘立柱建物跡と重複するが、柱穴が切り合わず新旧関係は不



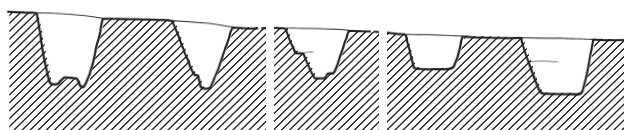
16号



- |   |  |  |
|---|--|--|
| <p>P1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 灰黑色土(柱痕)</li> <li>2 暗黄褐色粘質土(茶褐色土混入)(柱痕)</li> <li>3 灰黑色土(黄褐色土ブロック混入)</li> <li>4 黄褐色粘質土(茶褐色土混入)</li> </ul> | <p>P2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 暗灰黑色土(柱痕)</li> <li>2 暗黄褐色土(黑褐色土混入)(柱痕)</li> <li>3 灰黑色土</li> <li>4 黄褐色粘質土(茶黑色土混入)</li> </ul> | <p>P3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 黒灰色土(柱痕)</li> <li>2 灰黑色土(黒褐色土混入)(柱痕)</li> <li>3 暗灰褐色土(やや粘質)</li> <li>4 暗黄褐色粘質土</li> </ul> |
|---|--|--|

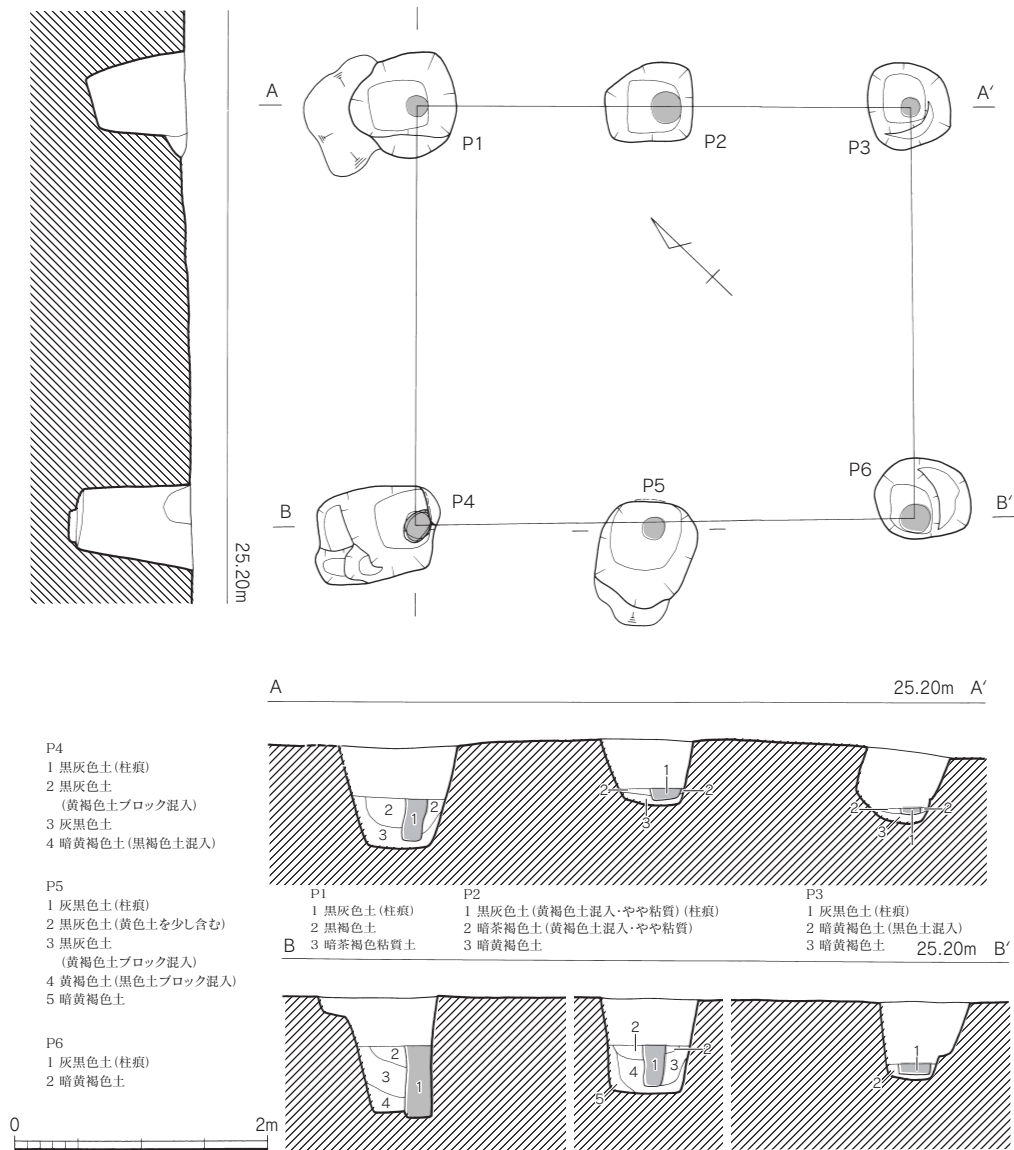


18号



第 46 图 16・18号掘立柱建物跡実測図(1/60)





第 47 図 17 号掘立柱建物跡実測図 (1/60)

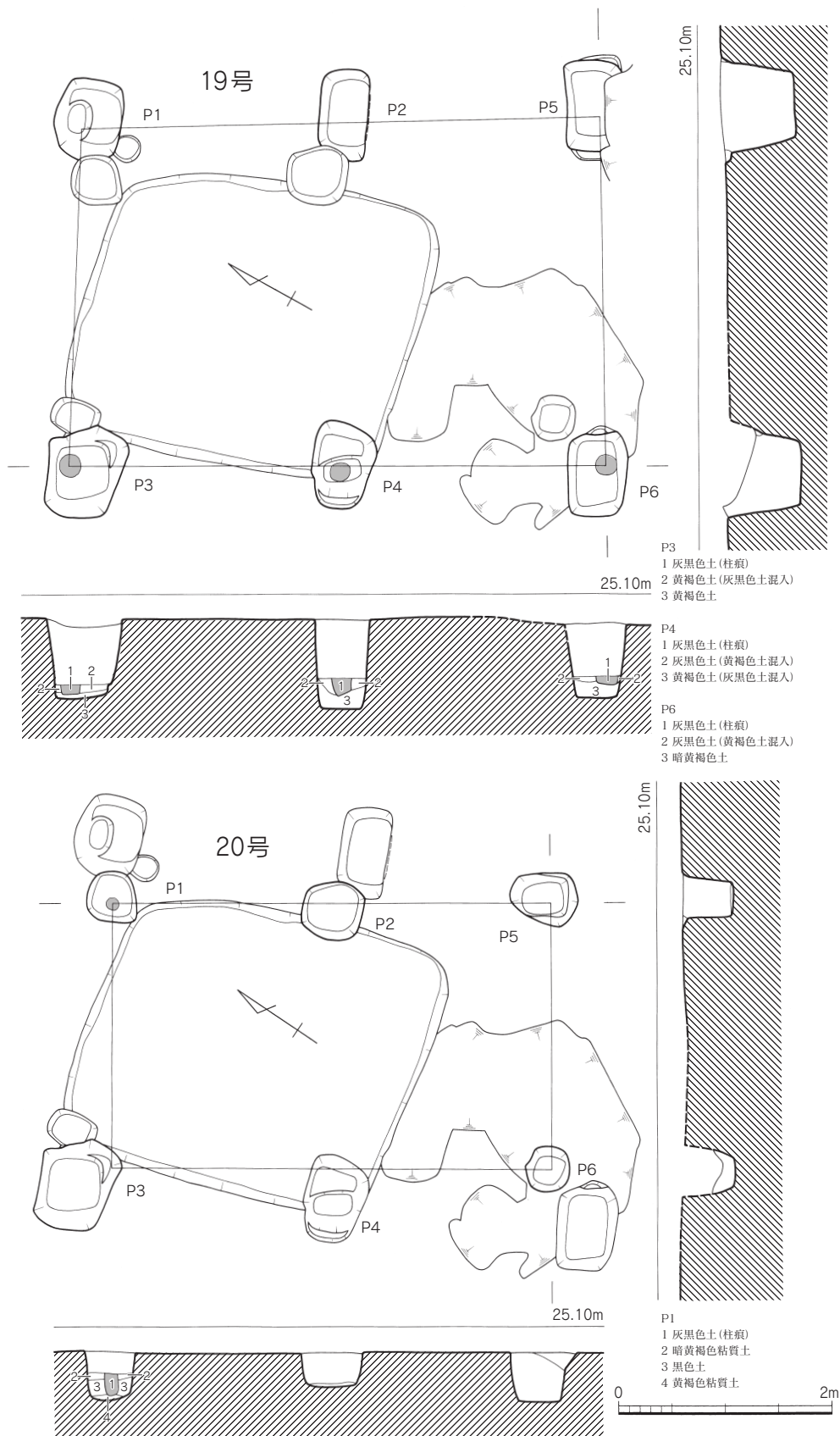
明である。柱穴は略円形を呈する。P 1、P 2は掘方に段を有し、P 3、P 6は底面がピット状に浅く段掘りされている。P 1、P 4～P 6で直径 16～18 cmの柱痕が確認された。弥生後期後半の土器と、P 4から軽石が出土する。

#### 25号掘立柱建物跡 (第 51 図、表 2)

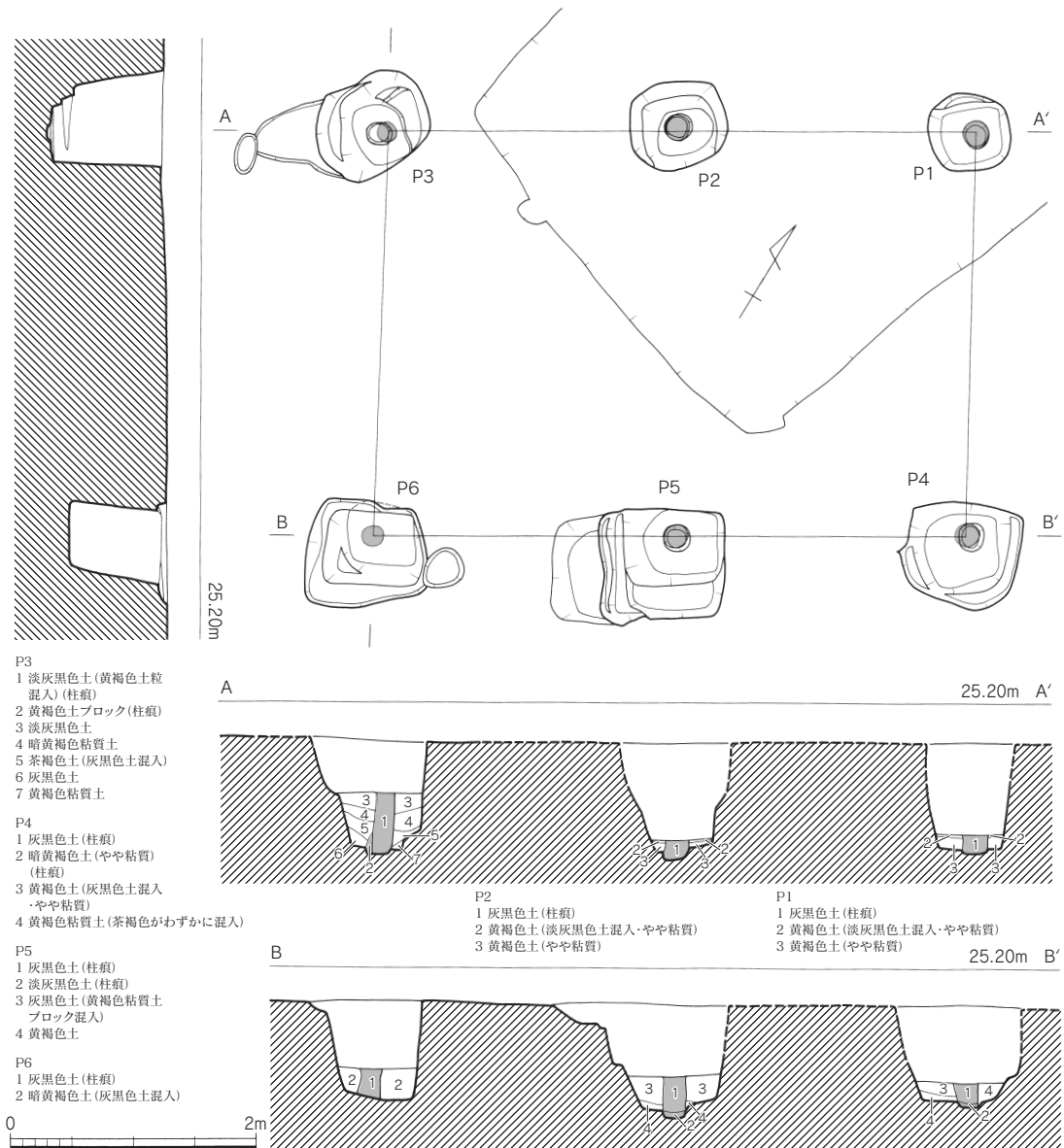
12号住居跡、24号掘立柱建物跡、26号掘立柱建物跡と重複する。12号住居跡より新しい。1間×1間の建物で、P 2が26号掘立柱建物跡P 3と完全に重複している。これとの新旧関係は不明である。柱穴は概ね隅丸方形を呈するが、P 1は他に比して不整形である。P 1は掘方に段を有し、P 2、P 4は底面がピット状に浅く段掘りされている。いずれも柱痕は確認できなかった。遺物としては弥生後期中頃の土器が出土している。

#### 26号掘立柱建物跡 (図版 26 - (1)、第 52 図、表 2)

II区の北部東寄りに検出した1間×1間の小規模な掘立柱建物跡。12号住居跡を切っている。前述の通り25号掘立柱建物跡との新旧関係は不明。27号・28号掘立柱建物跡とも重複するが、27号



第 48 图 19・20 号掘立柱建物跡実測图 (1/60)



第 49 図 21 号掘立柱建物跡実測図 (1/60)

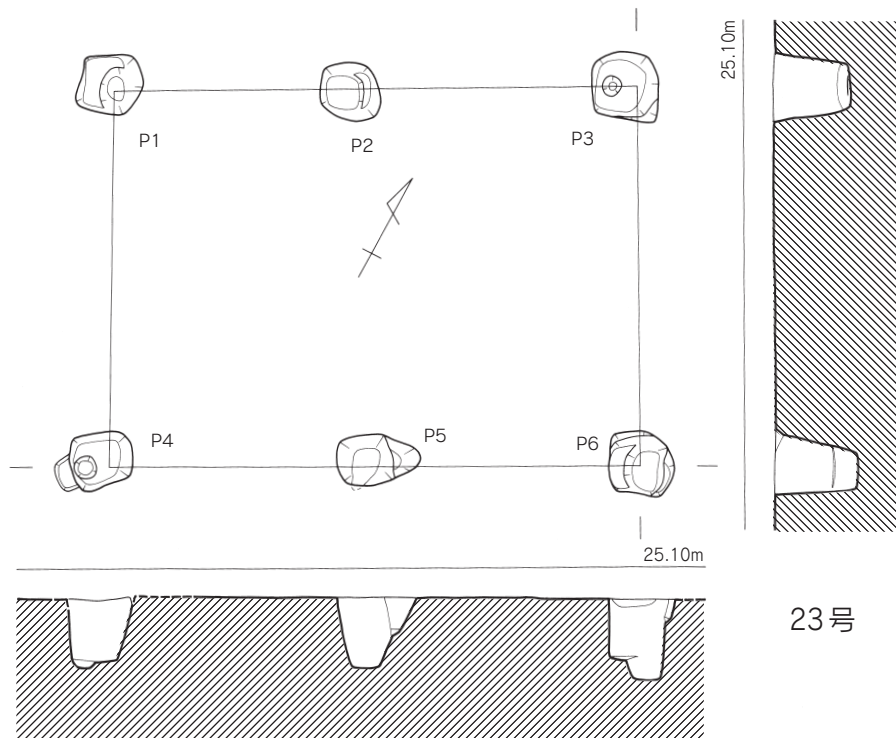
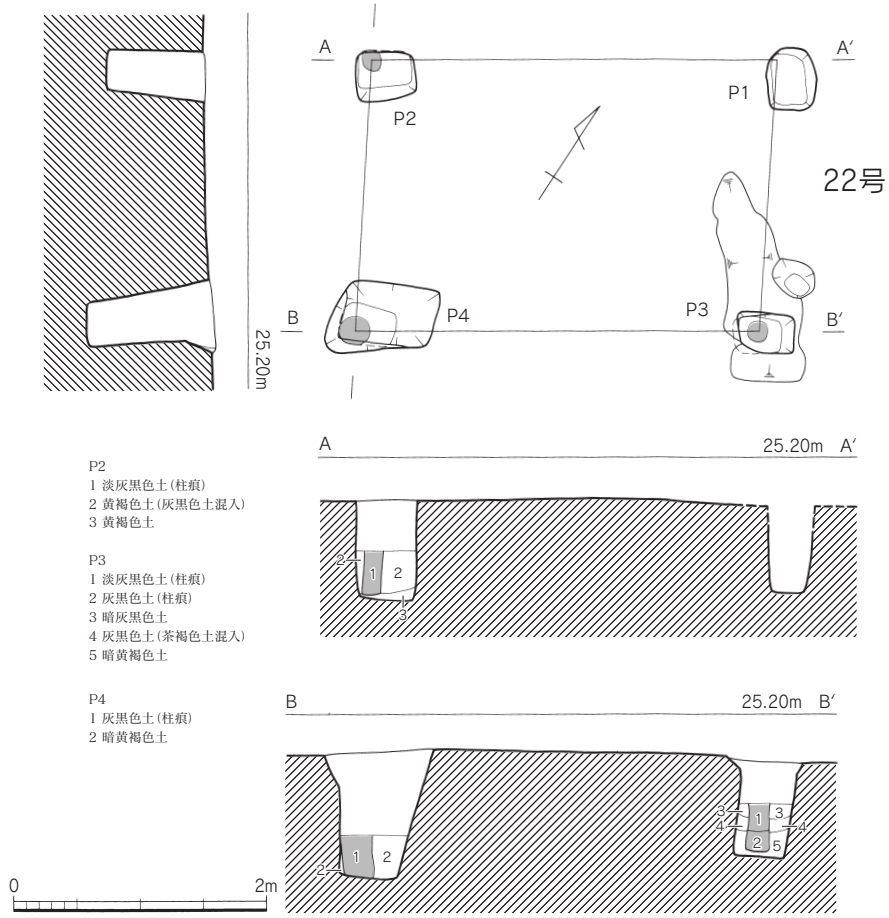
掘立とは柱穴が切合っておらず新旧関係不明である。柱穴は方形または隅丸方形を呈する。P 3 は底面が段掘りされている。柱痕は確認できなかった。弥生後期の土器片が少量出土している。

**27号掘立柱建物跡** (図版 26 - (1)、第 52 図、表 2)

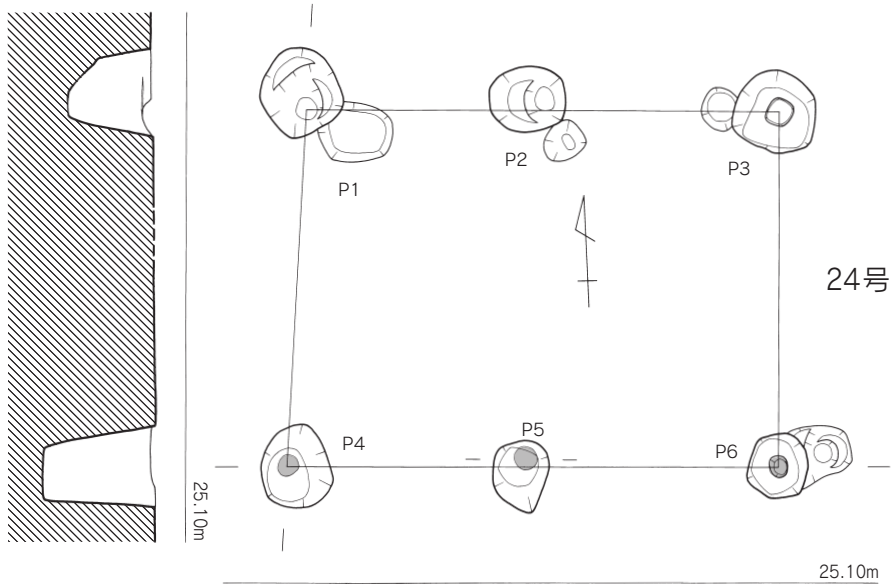
Ⅱ区北部の東寄りに検出した 1 間 × 1 間の建物。P 4 が 12 号住居跡の北辺を切っている。26 号・28 号・29 号掘立柱建物跡と重複するが、柱穴が切合わず新旧関係は不明である。柱穴は概ね隅丸方形を呈する。P 2 は掘方に段を有し、P 1、P 3、P 4 は底面にピット状の凹みがある。P 1、P 2 は底面近くで直径 23 ~ 24 cm の柱痕を確認した。出土遺物は極僅少で、図示し得るものはない。

**28号掘立柱建物跡** (図版 26 - (1)、第 53 図、表 2)

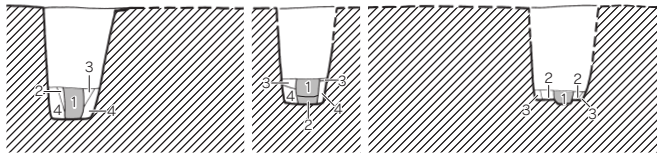
Ⅱ区の北部東寄りの位置に検出した。5 号住居跡より新しく、P 2、P 3 がこれを切っている。26 号・27 号・29 号掘立柱建物跡とはプランが重複する。P 4 が 26 号掘立 P 1 と 29 号掘立 P 4 に切られて



第 50 图 22·23 号掘立柱建物跡実測图 (1/60)

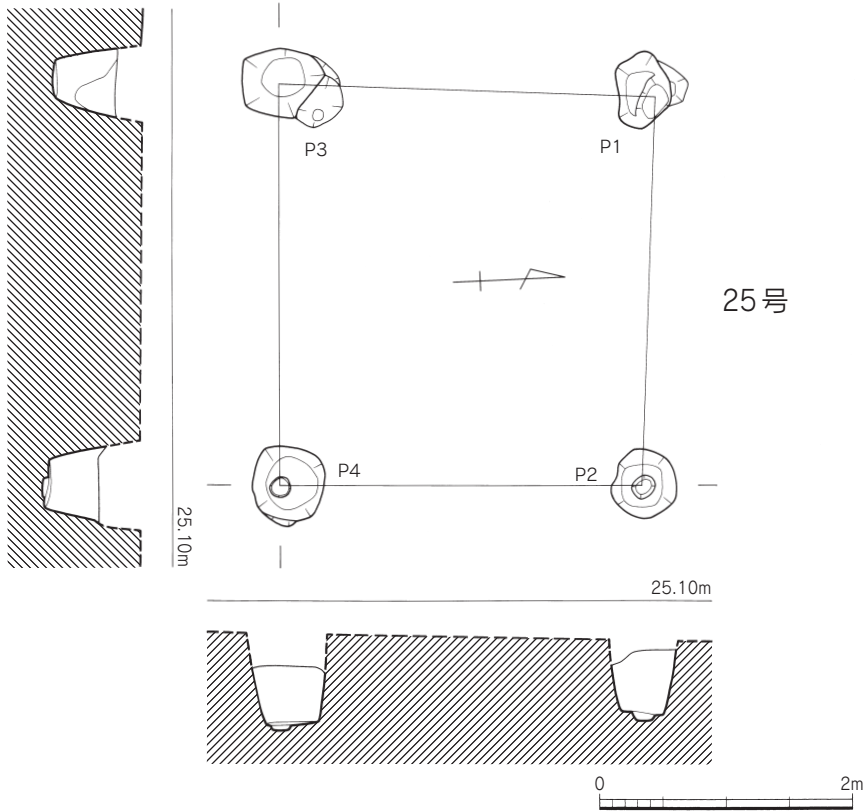


- P4  
 1 灰黑色土(柱痕)  
 2 黑色土(黄褐色土混入)  
 3 黑色土(柱痕)  
 4 黄褐色土



- P5  
 1 灰黑色土(柱痕)  
 2 黑色土(黄褐色土混入)(柱痕)  
 3 黑色土  
 4 黄褐色土

- P6  
 1 灰黑色土(柱痕)  
 2 黑色土  
 3 黄褐色土



第51图 24·25号掘立柱建物迹实测图(1/60)



おり、これらより古いものとみられる。2間×1間の建物で、柱穴は概ね隅丸方形を呈する。P2は掘方に段を有し、P1、P2、P4、P5は底面が段掘りされている。P1、P4、P6で直径15cmの柱痕が確認された。弥生土器小片が僅かに出土したが、図示し得るものはない。

### 29号掘立柱建物跡

(図版26-(1)、第53図、表2)

5号住居跡、27号・28号掘立柱建物跡と重複する位置に検出した2間×1間の建物。P6が5号住居跡の西辺を、P4は28号掘立P4を切っており、これらより新しいと判断される。27号掘立柱建物跡とは柱穴が切り合わず新旧関係不明である。柱穴は隅丸方形または略円形を呈する。P5、P6は掘方に段を有し、P1、P2、P5は底面が段掘りされている。各柱穴とも柱痕は確認できなかつた。出土遺物は極僅少で、図示し得るものはない。

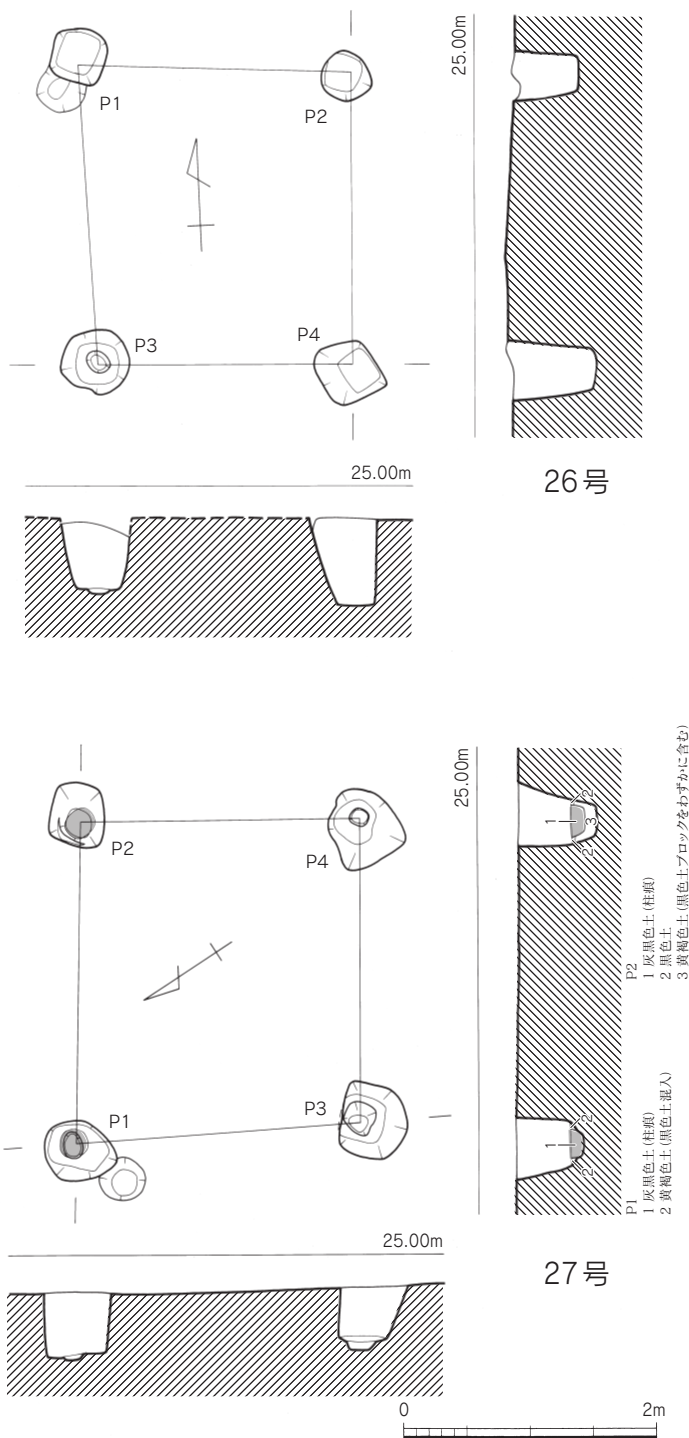
### 30号掘立柱建物跡

(図版26-(2)、第54図、表2)

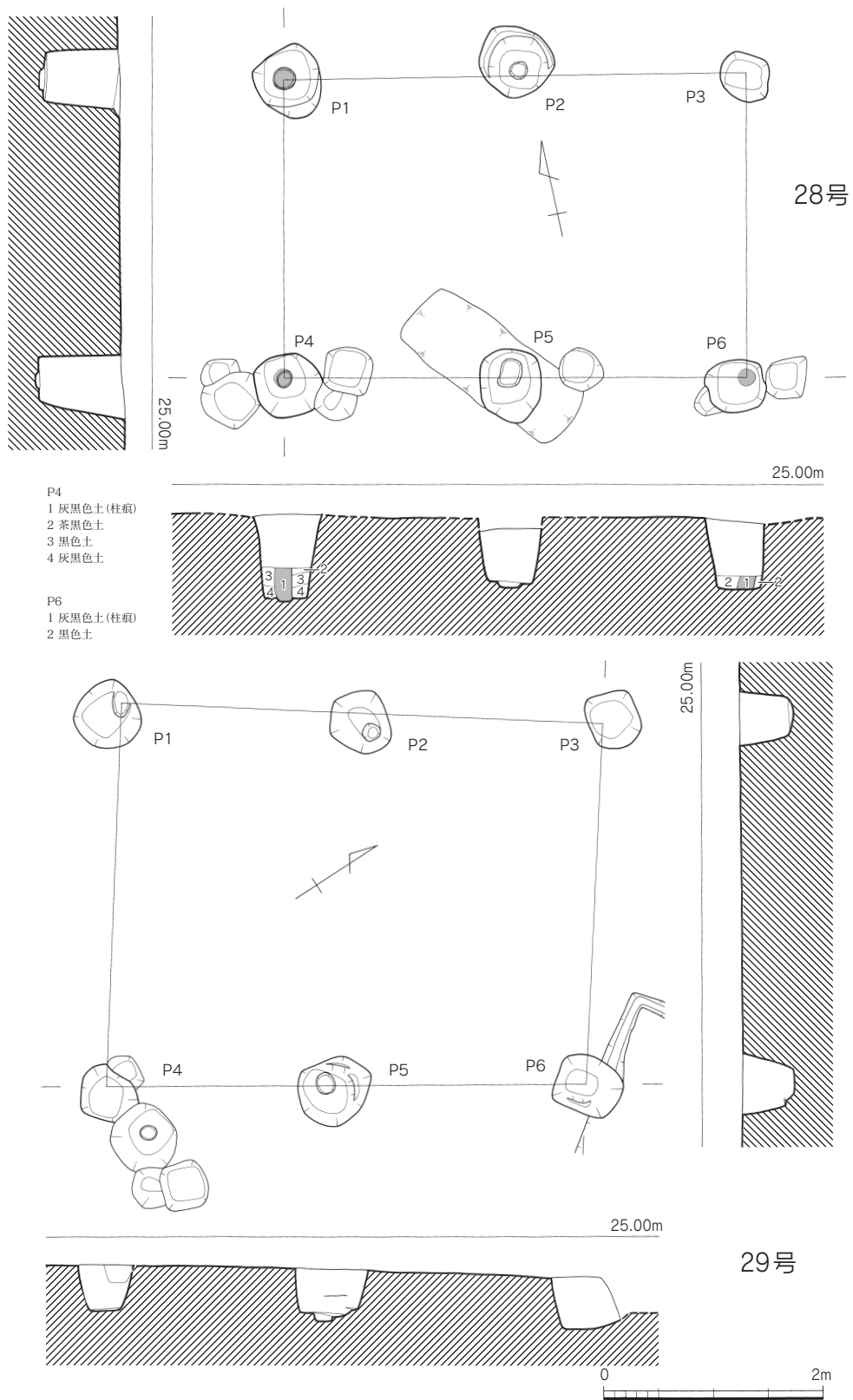
Ⅱ区の中央部西寄りに検出した2間×1間の建物。P4が17号土坑を切っており、これより新しい。柱穴の掘方は概ね隅丸方形か円形を呈する。P6は底面が段掘りされている。P1、P3、P5で直径15～20cmの柱痕が確認された。P5は北側に同規模のピットが重複しているが、柱穴を掘りなおした痕跡かもしれない。遺物としては、弥生終末期前半の土器が少量出土したが図示し得るものではない。他にP4から鉄器、P6から石包丁が出土した。

### 31号掘立柱建物跡 (図版26-(3)、第55図、表2)

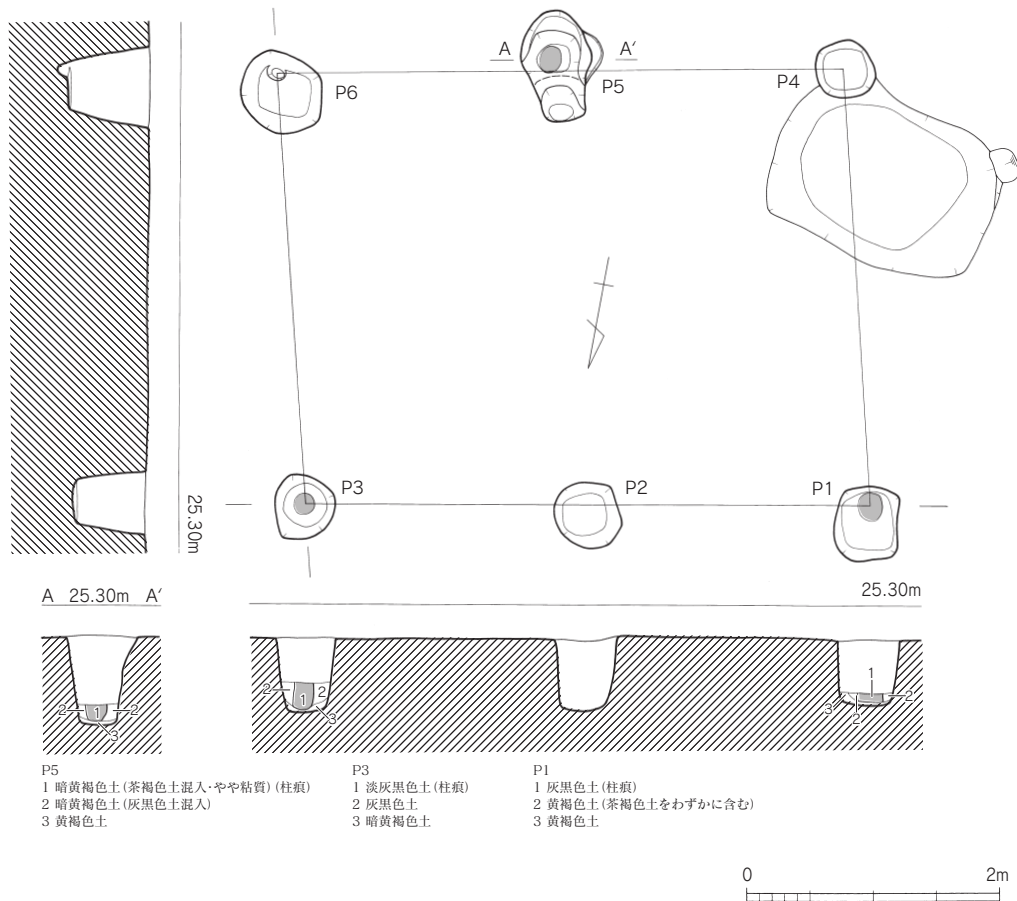
Ⅱ区の中央部東寄りの位置で、31号住居跡と重複して検出した掘立柱建物跡。P14が住居跡の北



第52図 26・27号掘立柱建物跡実測図(1/60)



第 53 图 28·29 号掘立柱建物迹实测图 (1/60)



第 54 図 30 号掘立柱建物跡実測図 (1/60)

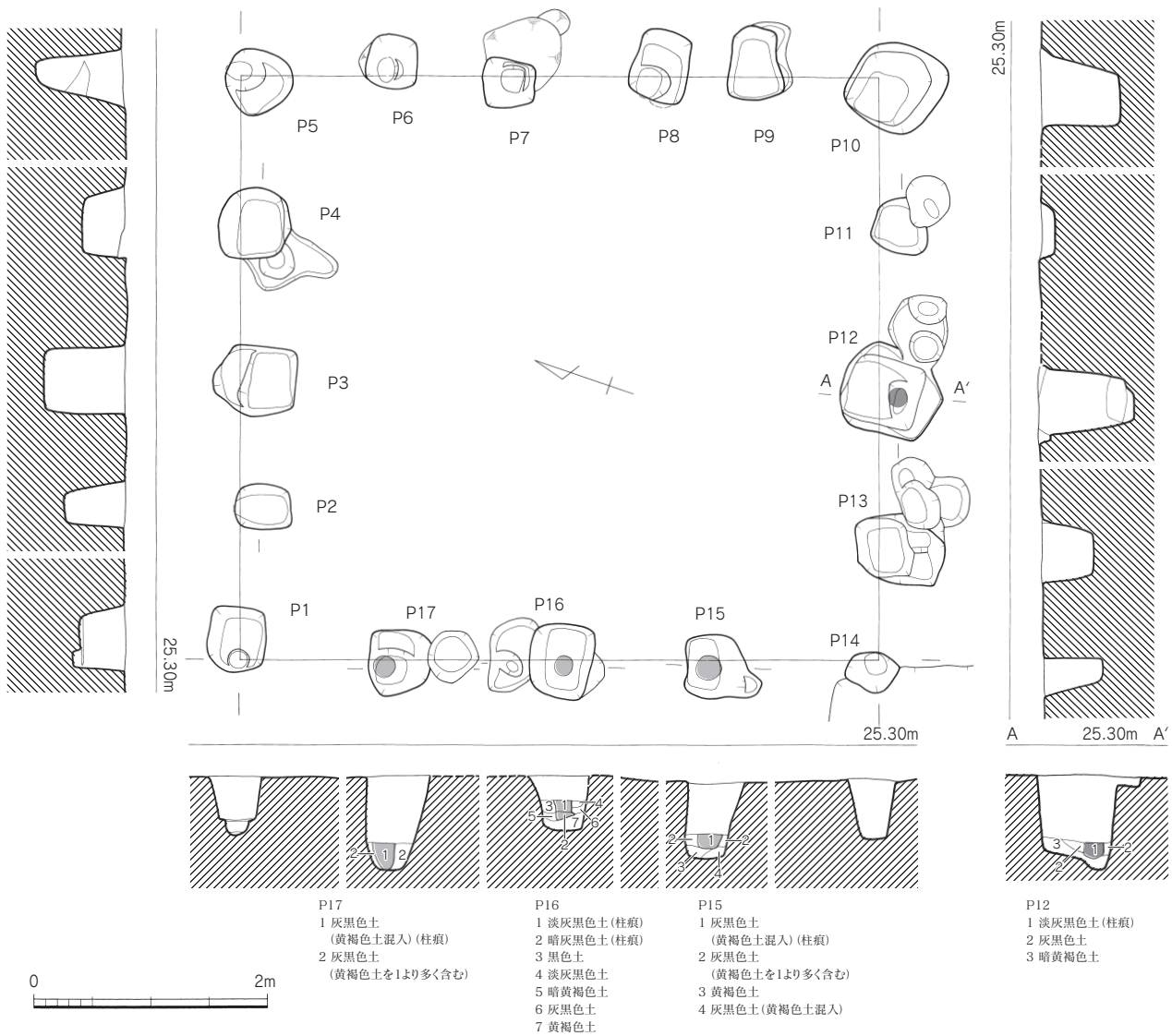
東隅に切られている。柱穴はやや小規模なものも多く、概ね隅丸方形や隅丸長方形を呈している。掘方に関しては深さがまちまちで、形状や規模も不揃いな印象を受ける。東側桁行 5 間、西桁行 4 間、梁行き 4 間の建物で、不規則な柱穴の配置となっている。P 1、P 5～P 8、P 12 は底面が段掘りされている。P 12、P 15～P 17 では直径 15～21 cm の柱痕が確認された。各柱穴において弥生後期初頭の土器が出土した他、砥石等の石器を検出している。

**32号掘立柱建物跡** (図版 27 - (1)、第 56 図、表 2)

Ⅱ区の中央部東寄りに検出した 2 間 × 1 間の建物。29 号・30 号住居跡、33 号・35 号掘立柱建物跡と重複する。P 2～P 6 は 30 号住居跡に切られ、住居跡の貼床下に検出した。P 5 は 33 号掘立 P 2 と 35 号掘立 P 4 を切り、P 6 が 35 号掘立 P 1 を切る。P 4 と 33 号掘立 P 1 は上面が攪乱されているため、切合いが不明確である。柱穴は規模が大きく、概ね隅丸方形を呈するが、P 3、P 5 は上面が大きく掘り広げられ、不整形な掘方になっている。また、P 5 は 35 号掘立 P 4 を内包し、両者の掘方は境が不明瞭である。P 5、P 6 は底面が段掘りされている。弥生中期末から後期初頭の土器が少量出土した。

**33号掘立柱建物跡** (図版 27 - (1)、第 56 図、表 2)

30 号住居跡、32 号・35 号掘立柱建物跡と重複して検出した。南東部が調査区外に延びているが 2 間 × 1 間の建物と考えられる。調査区外の 2 つの柱穴は削平されて消滅したとみられる。残された

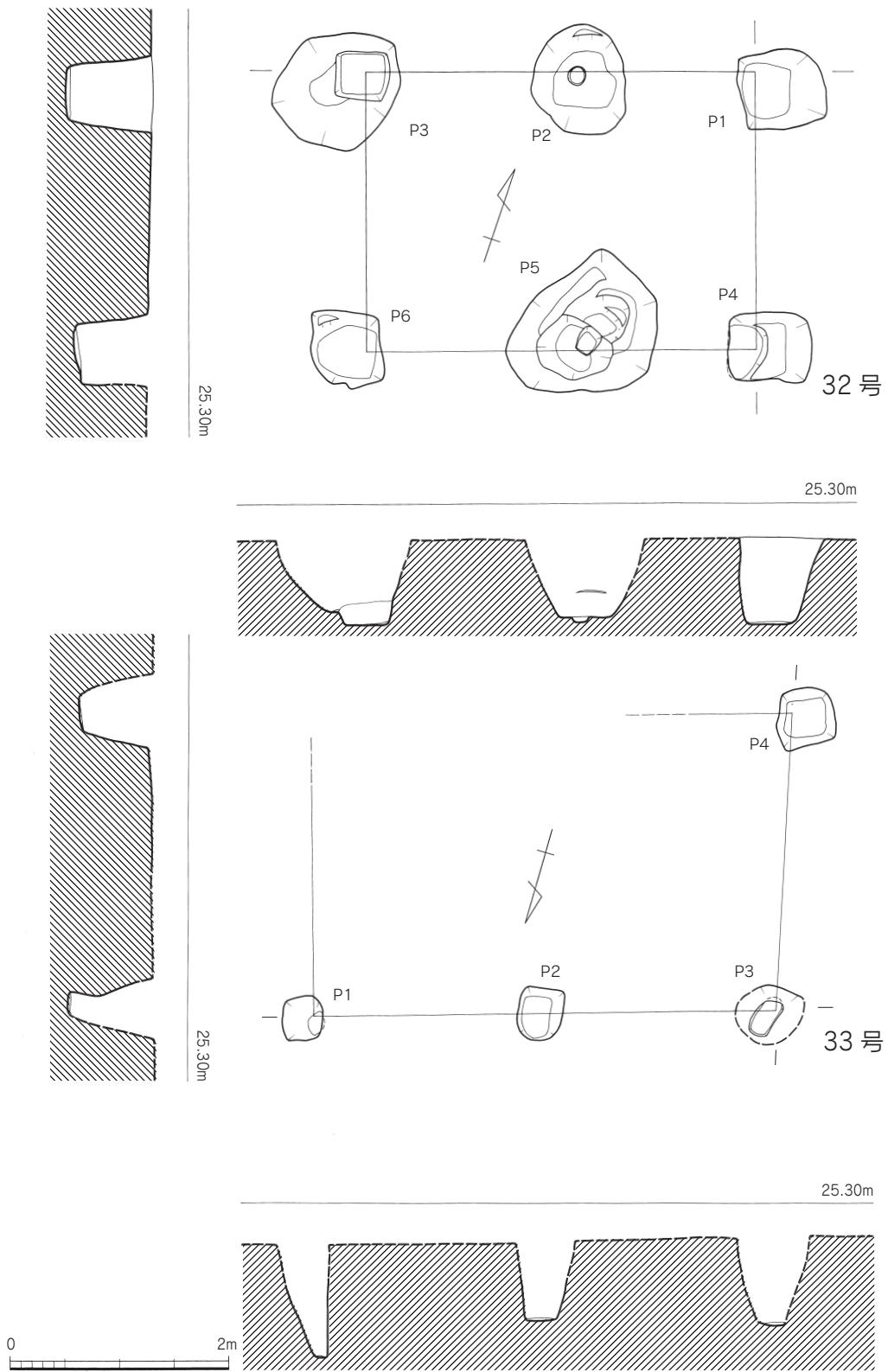


第 55 図 31 号掘立柱建物跡実測図 (1/60)

柱穴も攪乱や遺構の切合いによって、本来の掘方が大きく損なわれているが、残存する掘方からラインを復元し、図では破線で示している。P 3 は 35 号掘立 P 6 の底面に痕跡として現れたものだが、発掘時の状況から P 3 の方が 35 号掘立より新しいものと判断された。30 号住居、32 号掘立より古い。出土遺物は極僅少で、図示し得るものはない。

#### 34号掘立柱建物跡 (図版 27 - (2)、第 57 図、表 2)

Ⅱ区の南部東寄りの位置に検出した掘立柱建物跡。P 3 は 31 号住居跡の南部と重複するが、攪乱されているため新旧関係は明らかでない。柱穴は隅丸方形または略円形を呈するが、小規模で掘りの浅いものが多い。6 間ないし 5 間 × 2 間の建物とみられるが、P 1 - P 15 間、P 3 - P 4 間、P 7 - P 8 間は極端に柱間が詰まっており、柱の建替え若しくは補強のための増設があったのかもしれない。そうであれば、桁行 4 間、梁行 2 間の建物となろう。掘方に関しては、P 2 と P 10 が棟持を意識してか、他に比べてやや深く掘り込まれている。遺構検出時において掘立柱建物跡であることを認識せずに柱穴を掘り下げてしまったため、柱痕は確認出来なかった。弥生終末期前半の土器が少量出



第 56 图 32·33 号掘立柱建物跡実測図 (1/60)



土したが、図示し得るものはない。

#### 35号掘立柱建物跡（図版 27 - (1)、第 57 図、表 2）

Ⅱ区の中央部東端に 30 号住居跡、32 号・33 号掘立柱建物跡と重複して検出し、これらに切られている。33 号掘立と同様、南東部が調査区外に延び出した 2 間 × 1 間の建物と考えられる。調査区外の 2 個の柱穴は削平されたものとみられ、P 5 と P 6 を欠番としている。P 2、P 4 はそれぞれ 32 号掘立 P 5、P 6 に切られる。柱穴の掘方は大きく損なわれているが、復元したラインを破線で示している。遺物としては弥生後期前半の土器片、黒曜石の石器等が出土した。

#### 36号掘立柱建物跡（図版 27 - (3)、第 58 図、表 2）

Ⅱ区の南部に位置する 2 間 × 1 間の建物。39 号住居跡の南側ベッド上で検出した P 4 の埋土上部が黄褐色土で固められていたことから、当掘立柱建物跡が 39 号住居より古いことが判明した。柱穴の多くが整った方形または隅丸方形を呈し、階段状に掘り込まれている。P 1～P 3 は底面が段掘りされている。いずれの柱穴からも直径 15～19 cm の柱痕がかなり上位で確認された。遺物としては弥生後期初頭から前半の土器が少量、遺構検出時にガラス小玉が出土する。

#### 37号掘立柱建物跡（図版 28 - (1)、第 59 図、表 2）

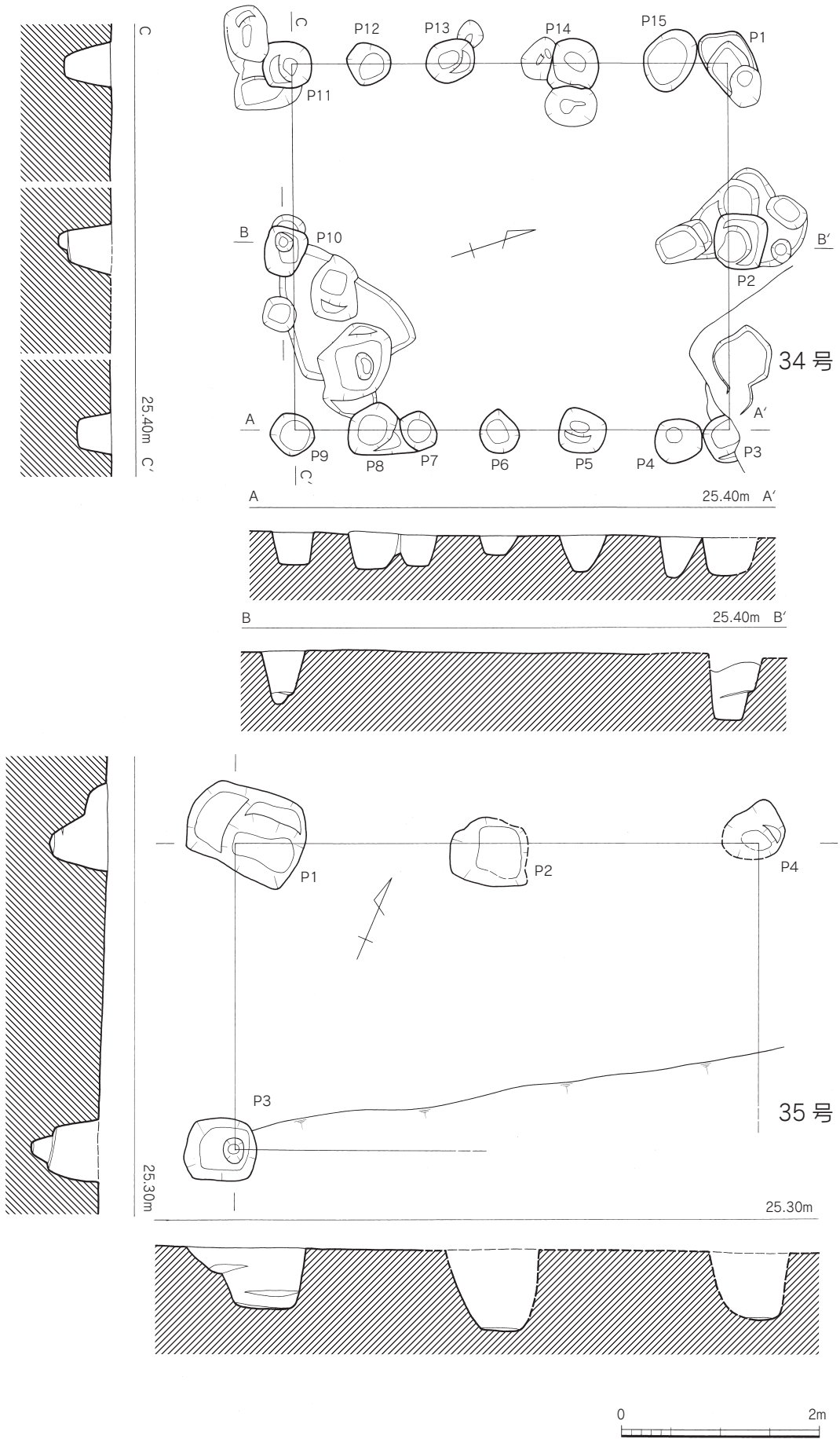
Ⅱ区の南部に 38 号・42 号掘立柱建物跡と重複して検出した掘立柱建物跡。42 号掘立より古く、P 1 が 42 号掘立 P 19 に切られる。P 7 も 42 号掘立 P 17 と重複するが、発掘時には切合いを確認できず同時に掘り進めている。柱穴は小規模なものが多く、やや不整で隅丸方形や略円形を呈する。東側桁行 5 間、西桁行 4 間、梁行き 2 間の建物とも見られるが、P 2 - P 3 間が極端に狭く、どちらかは掘り直されたものと考えられ、そうであれば、4 間 × 2 間の建物となる。P 6 の左右のピットも同様に柱の建替えにより掘られたものと思われる。棟持ち柱と考えられる P 7、P 8 は他の柱穴に比して掘方が深く掘られている。P 4、P 9、P 10、P 13 では直径約 15 cm の柱痕が確認された。掘立柱建物跡としては出土遺物が多く、弥生終末期前半の土器の他、P 4 から鉄器、P 10 からガラス小玉、P 13 から青銅器鋳型片が出土している。

#### 38号掘立柱建物跡（図版 28 - (2)、第 60 図、表 2）

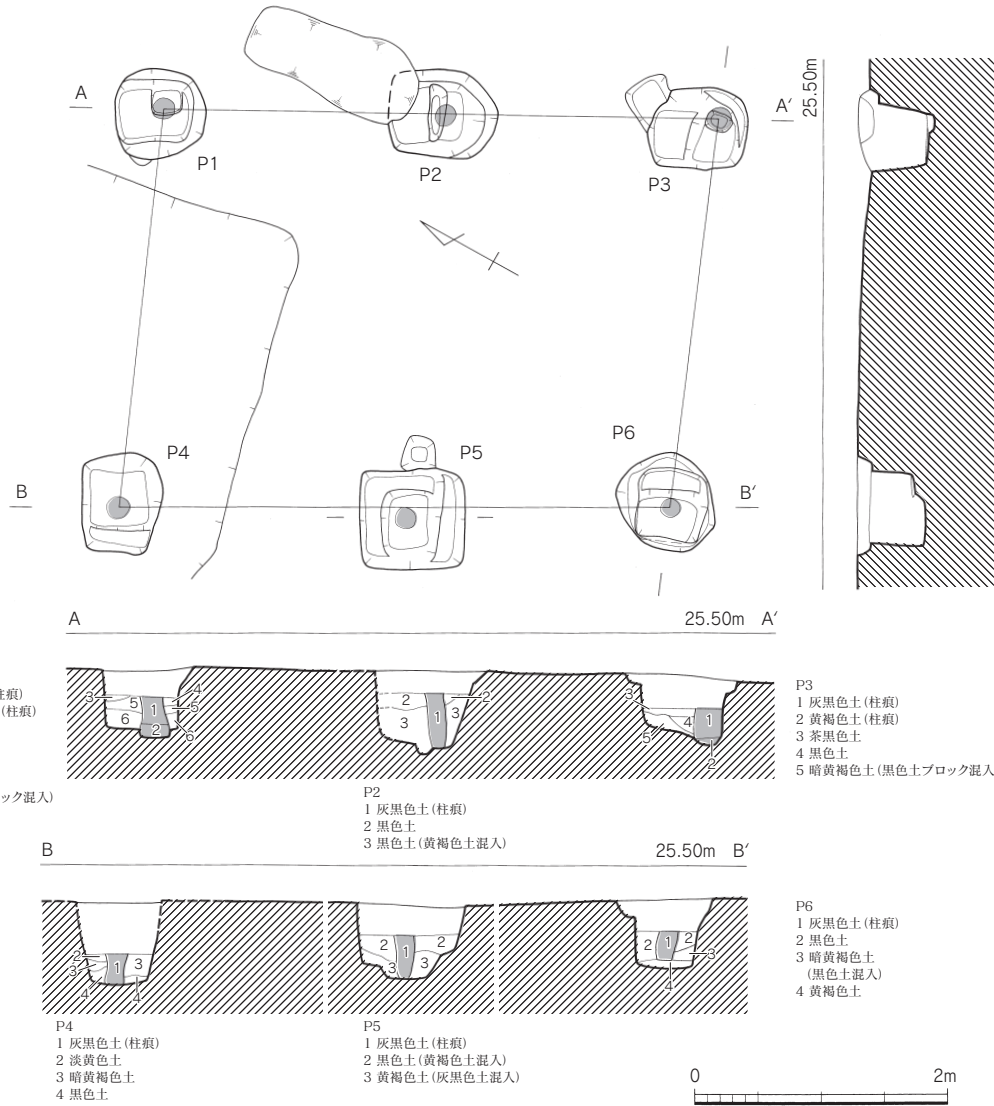
37 号・42 号・56 号掘立柱建物跡と重複して検出した 2 間 × 1 間の建物。P 3 が 42 号掘立 P 2、P 3 を切り、P 2 が 56 号掘立 P 8 を切ることから、4 者では最も新しいことが分かる。柱穴は隅丸方形を呈し、規模が大きい。P 5、P 6 は底面が段掘りされている。P 1～P 5 で直径 15～24 cm の柱痕が確認された。出土遺物では弥生後期後半の土器が多く出土した。

#### 39号掘立柱建物跡（図版 28 - (3)・(4)、第 61 図、表 2）

Ⅱ区の南部西端に検出した 2 間 × 1 間の建物。南西端の P 4 は調査区外で削平されたものとみられ、図では破線で表している。柱穴は略円形を呈し、P 1、P 2、P 6 は掘方に段が付く。全ての柱穴で直径 15～18 cm の柱痕が確認された。出土遺物では弥生後期中頃の土器の他、P 3 から鉄器、P 2 から剥片石器が出土している。



第 57 图 34・35号掘立柱建物跡実測図 (1/60)



第 58 図 36 号掘立柱建物跡実測図 (1/60)

**40号掘立柱建物跡** (図版 29 - (1)、第 61 図、表 2)

Ⅱ区の中央部西端に位置する 1 間 × 1 間の建物。P 3 は調査区を拡張して検出した。柱穴は概ね隅丸長方形を呈し、掘方に段を設けている。P 3 は底面が段掘りされている。柱穴の発掘では、柱痕の検出に努めたが確認されなかった。遺物では弥生中期末の土器が少量と P 2 から石庖丁が出土した。

**41号掘立柱建物跡** (図版 29 - (2)、第 62 図、表 2)

Ⅱ区の中央部西端に検出した 2 間 × 1 間の建物。北西隅の柱穴が 20 号土坑と重複するものとみられるが、当建物跡の中央部には楠の巨木があり、発掘時にプランを確認できなかった。出土遺物からは 41 号掘立の方が 20 号土坑より新しいと推察される。柱穴は隅丸方形または隅丸長方形を呈する。P 2 ~ P 5 は底面が段掘りされている。全柱穴の掘方に段が付く。明確な柱痕は確認できなかった。遺物としては弥生後期中頃の土器が出土した。

#### 42号掘立柱建物跡（第59図、表2）

Ⅱ区の南部に検出した。プランが重複する37号掘立柱建物跡より新しく、38号掘立柱建物跡よりも古い。P2、P3が38号掘立P3に切られる。P19は37号掘立P1を切る。P17と37号掘立P7との切合いは発掘時に明確に出来なかった。東側桁行5間、西側桁行6間、梁行4間と変則的に柱を配置している。柱穴は小規模で掘りの浅いものが多い、やや不整で隅丸方形や略円形を呈するが、棟持ちと考えられるP8、P18は他の柱穴より規模が大きく深く掘られている。P18を切る隅丸方形のピットは掘立とは無関係とみられる。P18、P19では直径約15～20cmの柱痕が確認された。遺物は後期中頃の土器と、P1から砥石が出土した。

#### 43号掘立柱建物跡（図版29－(3)、第62図、表2）

Ⅱ区の中央部西端に検出した3間×2間の建物。柱穴は略円形または隅丸方形を呈する小規模なものが多い。また多くの柱穴が底面を段掘りにする。棟持柱のものと考えられるP5、P6は、やや外にずれた位置にあり、特にP5はやや斜めに深く掘りこまれている。後期後半の土器が少量出土していたが図示し得るものはない。

#### 44号掘立柱建物跡（図版30－(1)、第63図、表2）

Ⅱ区の南部西寄りの位置に検出した3間×2間の建物。34号住居跡と重複するP7は、同時に掘り進めたため切合い不明だが、発掘時の印象ではP7の方が新しい可能性が高い。柱穴は概ね略円形で小規模なものが多い。P1、P4、P5、P10は底面を段掘りにする。棟持柱のものと考えられるP5、P6は、他に比して深く掘りこまれている。僅かながら弥生後期前半の土器が出土している。特筆すべき遺物としてはP1から出土した鋳型片があり、これは37号掘立P13出土のものと接合した。

#### 45号掘立柱建物跡（図版30－(2)、第64図、表2）

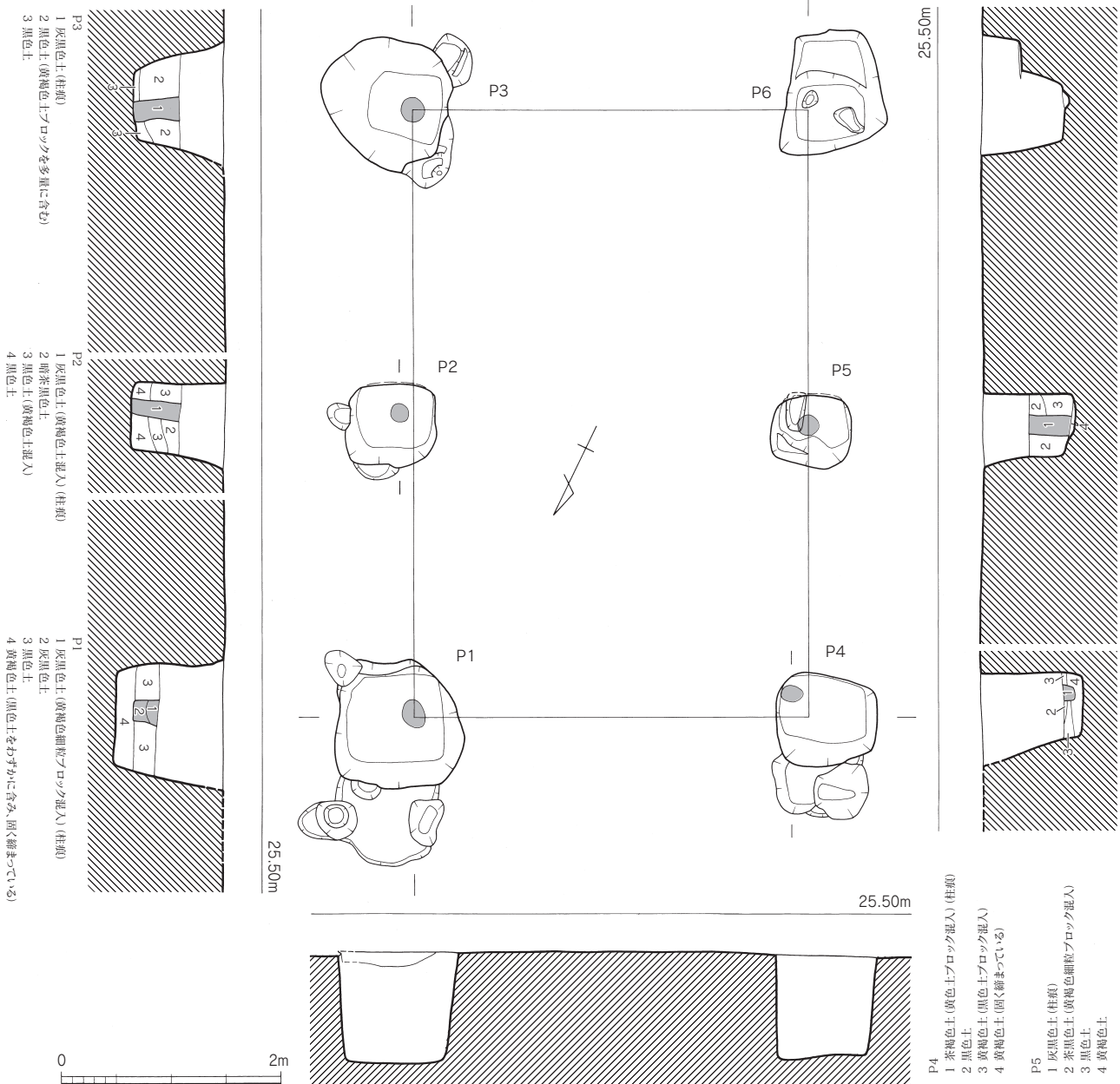
Ⅱ区の中央部に46号掘立柱建物跡と重複して検出した建物。柱穴が切合わないため新旧関係は不明である。柱穴は概ね隅丸方形か略円形を呈する。棟持柱の柱穴と見られるP5、P11は一際深く掘り込まれているが、P9、P13もこれに匹敵する深さである。桁行は3間だが、梁行は北側が3間、南側が4間と不規則である。P4、P6、P12は補足的な柱とも考えられ、実際は3間×2間の建物とした方が妥当かもしれない。遺物としては弥生後期中頃の土器が少量出土している。

#### 46号掘立柱建物跡（図版30－(2)、第65図、表2）

45号掘立柱建物跡の北半に重複して検出したが、新旧関係は不明である。4間×3間の建物で、柱穴は隅丸方形または略円形を呈する小規模なものが多い。梁行中央のP3とP10は他に比べてやや大きめで、P3は若干深く掘り込まれている。P6、P9は底面が段掘りになっている。柱穴の掘り下げでは、柱痕の検出に努めたが確認出来なかった。遺物は後期初頭の弥生土器小片が数点出土したのみである。

#### 47号掘立柱建物跡（図版30－(3)、第65図、表2）

Ⅱ区の中央部、46号掘立柱建物跡の北側に位置する。3間×2間の建物で、柱穴は概ね隅丸方形



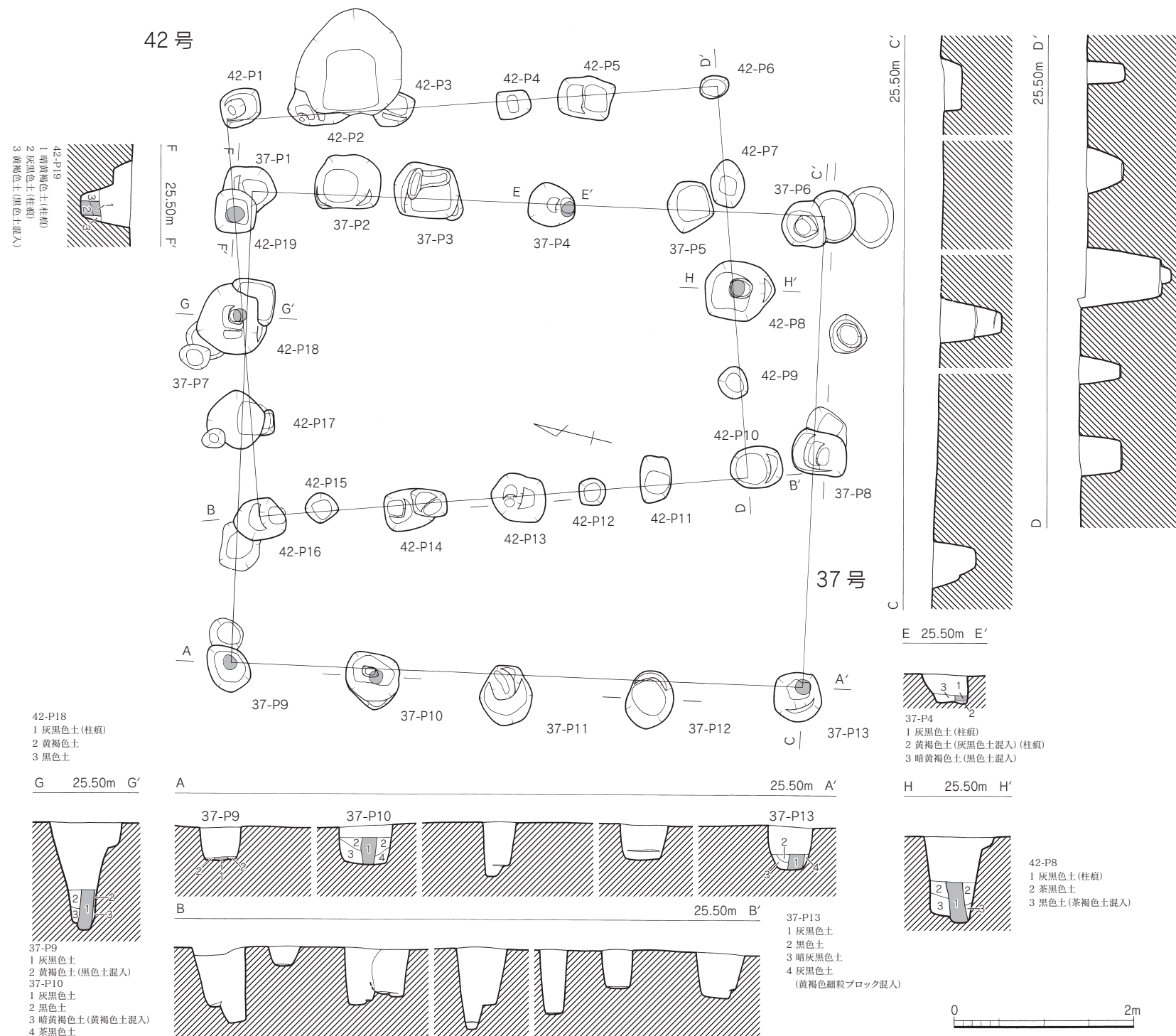
第 59 図 38 号掘立柱建物跡実測図 (1/60)

か略円形を呈する。小規模ながら、掘方は平面規模のわりに深く掘り込まれている。特に P 5、P 10 では掘方の深さが際立っており、棟持柱の柱穴である可能性が高い。柱穴の掘り下げでは、柱痕の検出に努めたが確認出来なかった。出土遺物に図示し得るものはない。

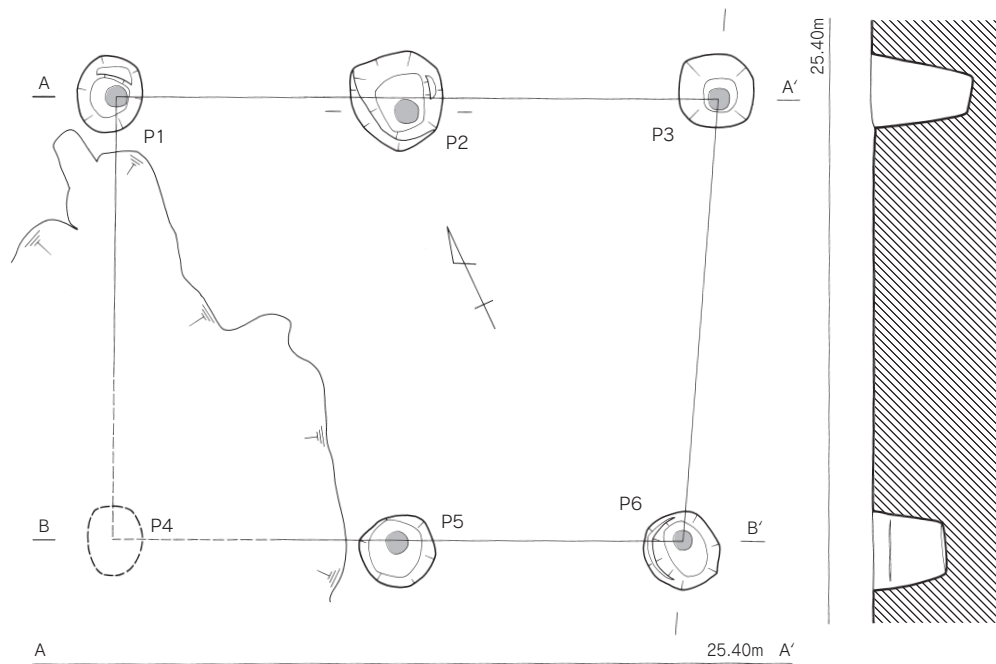
#### 48号掘立柱建物跡 (図版 31 - (1)、第 66 図、表 2)

Ⅱ区の北部西寄りの位置に検出した4間×3間の柱間が狭い建物である。重複する6号住居跡、15号・49号掘立柱建物跡より古い。P 10、P 11が6号住居跡の北東辺に切られている。柱穴は隅丸長方形か略円形を呈する。いずれも小さく浅い掘方で、柱痕は確認できなかった。P 1、P 4、P 9、P 10、P 11は底面が段掘りされている。弥生後期前半の土器が少量出土した。

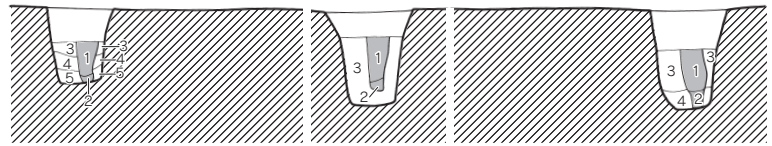




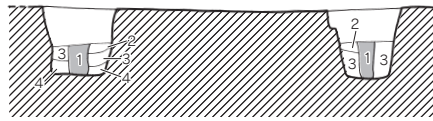
第 60 図 37・42号掘立柱建物跡実測図 (1/60)



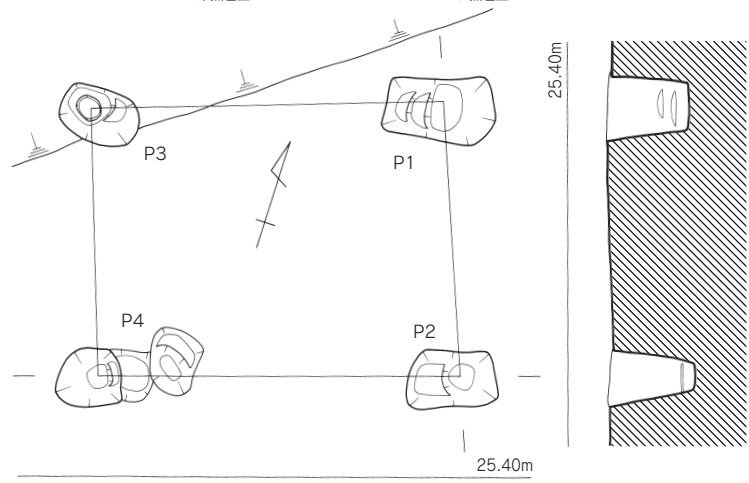
A 25.40m A'



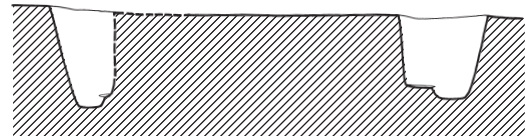
- P1  
 1 灰黑色土(柱痕)  
 2 暗黄黑色土(柱痕)  
 3 茶黑色土  
 4 黑色土  
 5 暗黄褐色土(黄褐色土混入)
- P2  
 1 茶黑色土(柱痕) 2 茶黑色土(黑色土混入)(柱痕)  
 3 黑色土(黄褐色土ブロック混入)
- P3  
 1 灰黑色土(柱痕) 2 灰黑色土(黄褐色土混入)(柱痕)  
 3 黑色土 4 黄褐色土(黑色土混入)
- B 25.40m B'



- P5  
 1 灰黑色土(柱痕) 2 黑色土  
 3 暗茶褐色土(黄褐色土混入)  
 4 茶黑色土
- P6  
 1 灰黑色土(柱痕)  
 2 茶黑色土  
 3 黑色土



25.40m

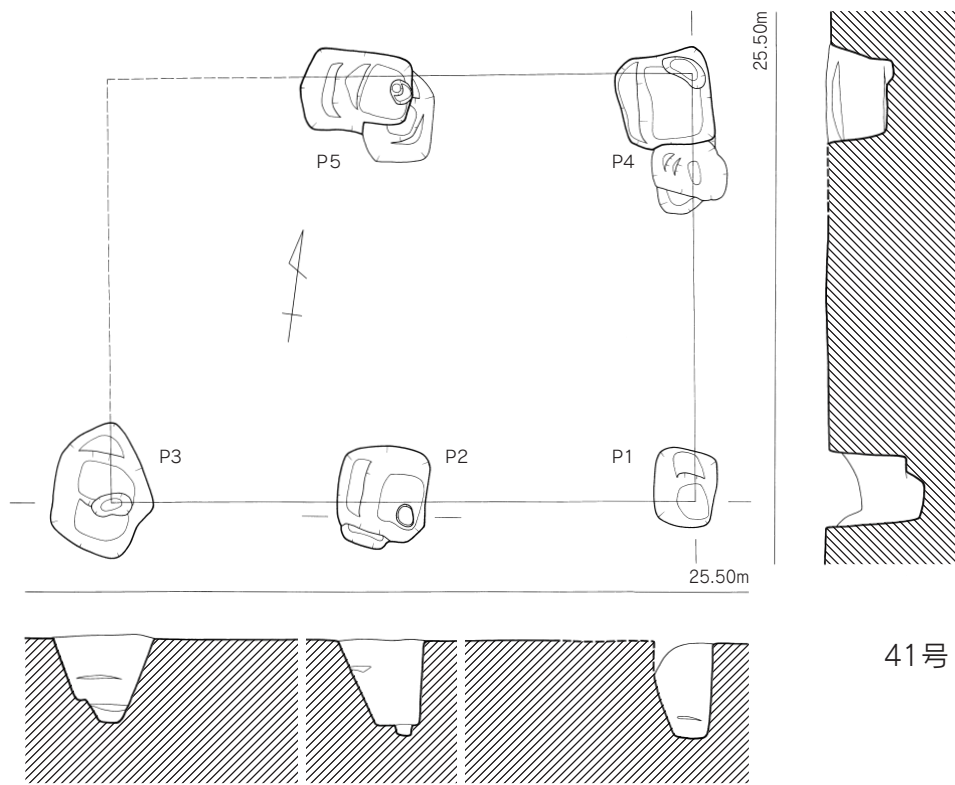


0 2m

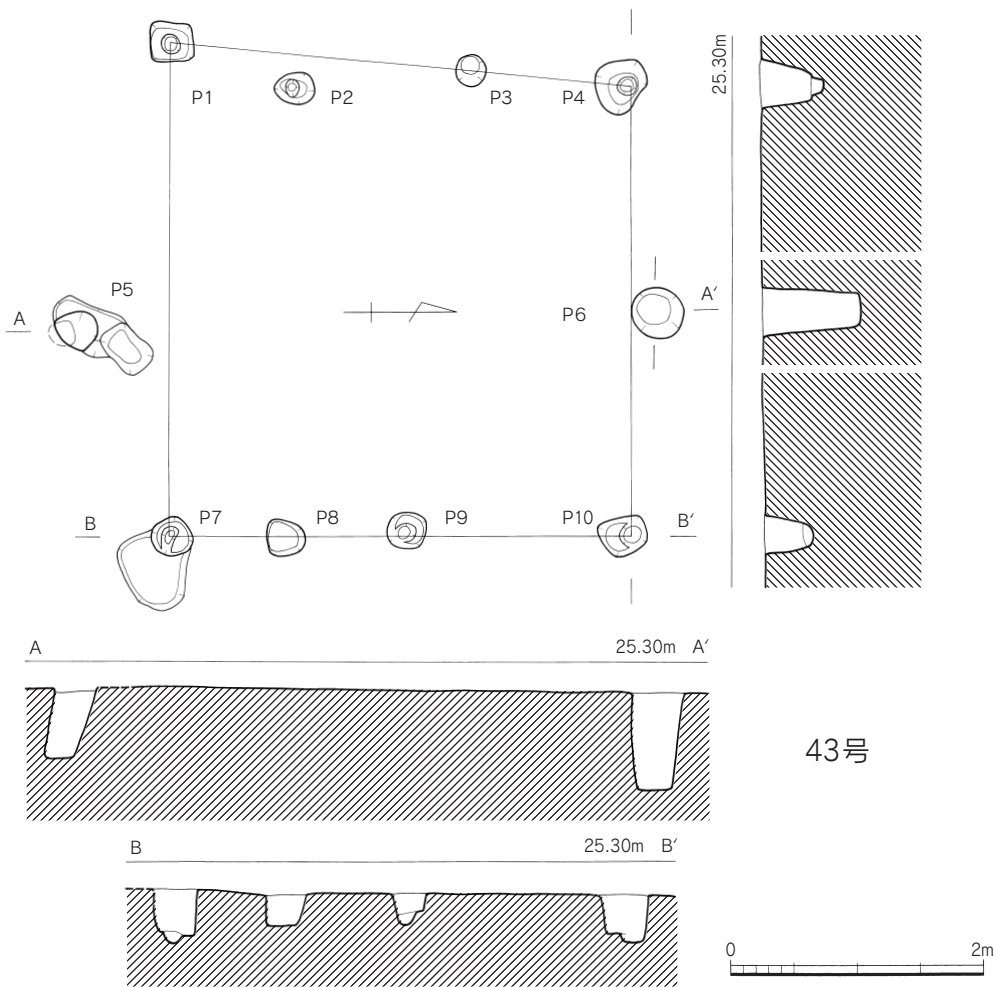
39号

40号

第 61 图 39・40号掘立柱建物跡実測图(1/60)

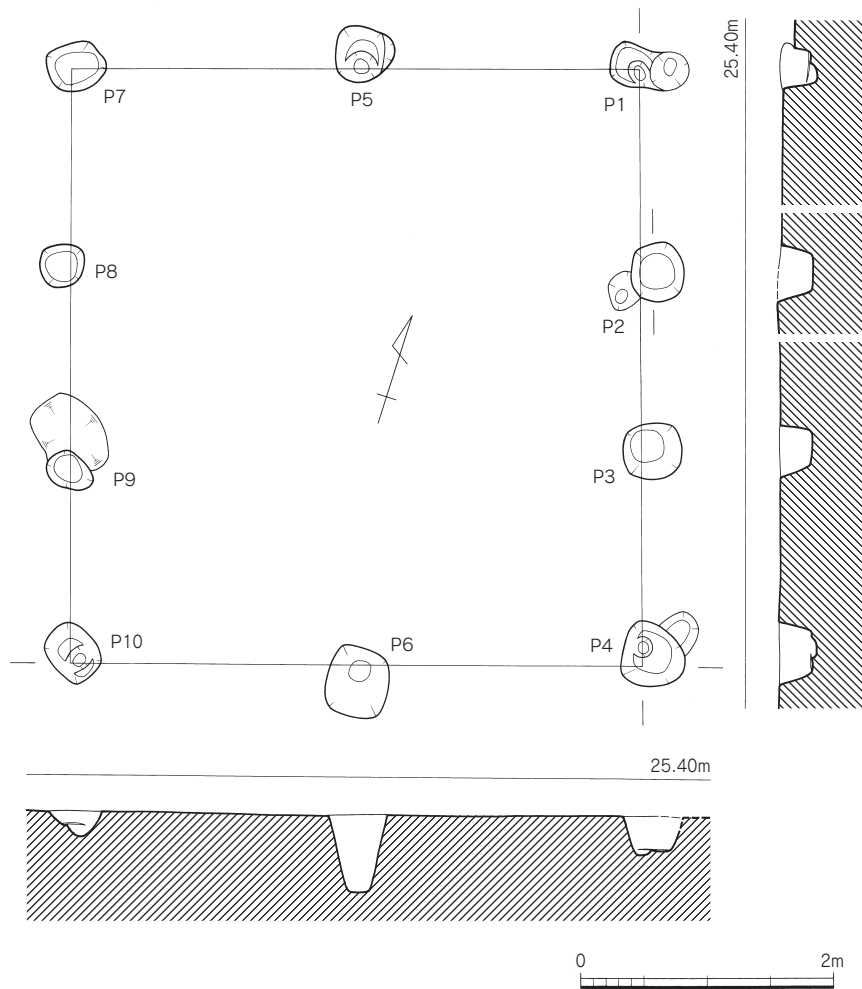


41号



43号

第 62 图 41・43号掘立柱建物跡実測图 (1/60)



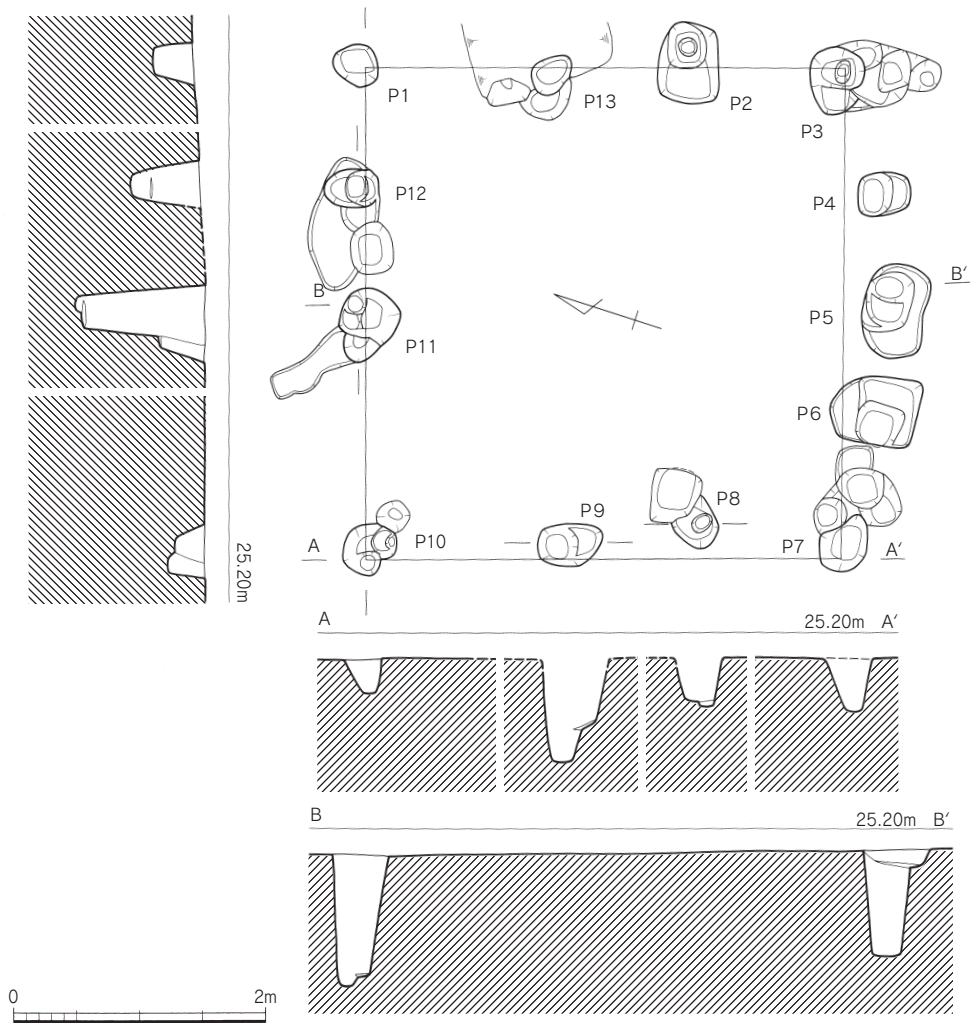
第 63 図 44 号掘立柱建物跡実測図 (1/60)

**49号掘立柱建物跡** (図版 31 - (1)、第 66 図、表 2)

6号住居跡、15号・48号掘立柱建物跡と重複して検出した。P 1 が 15 号掘立 P 6 に切れ、P 12 が 6 号住居跡を切っている。P 11 は遺構検出時に確認できず、6 号住居跡の床面で痕跡として検出した。桁行 4 間、南側梁行 4 間、北側梁行 3 間だが、P 12 - P 13 間にある攪乱によって柱穴が 1 個消滅している可能性も考慮すべきであろう。柱穴は略円形か隅丸長方形を呈するが、小規模で掘りの浅いものが多く、全体的にやや不整である。掘方の深さや形状、柱間の間隔もばらつきが多い。柱穴の掘り下げでは、柱痕の検出に努めたが確認出来なかった。弥生後期後半の土器が少量出土している。

**50号掘立柱建物跡** (図版 31 - (2)、第 67 図、表 2)

II 区の北部東端に検出した 3 間 × 4 間の建物。発掘時当初は掘立柱建物跡とは認識していなかったが、全景写真後に確認したものである。柱穴は概ね略円形または隅丸長方形を呈し、いずれも掘方が小さく、深さも 20 cm 前後とあまり深くない。P 12 に対応する南辺の柱穴は攪乱されて消失したものと考えられる。P 7 は攪乱坑の底面で検出したものだが、埋土に締まりがなく柱穴と断定するには疑問が残る。図示し得る遺物は出土していないが、弥生後期中頃の土器小片を確認している。



第 64 図 45 号掘立柱建物跡実測図 (1/60)

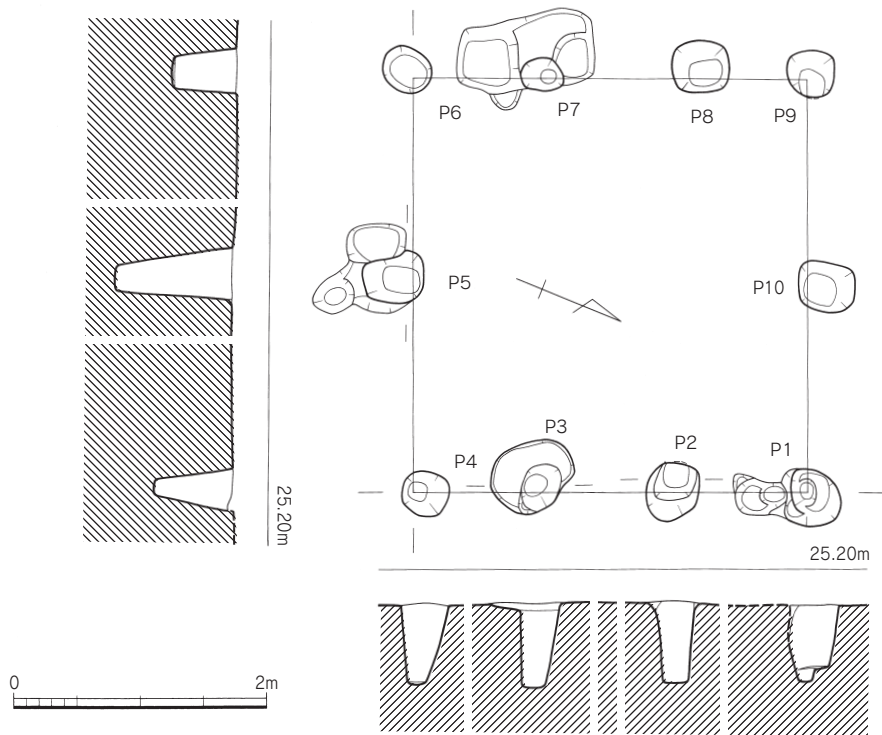
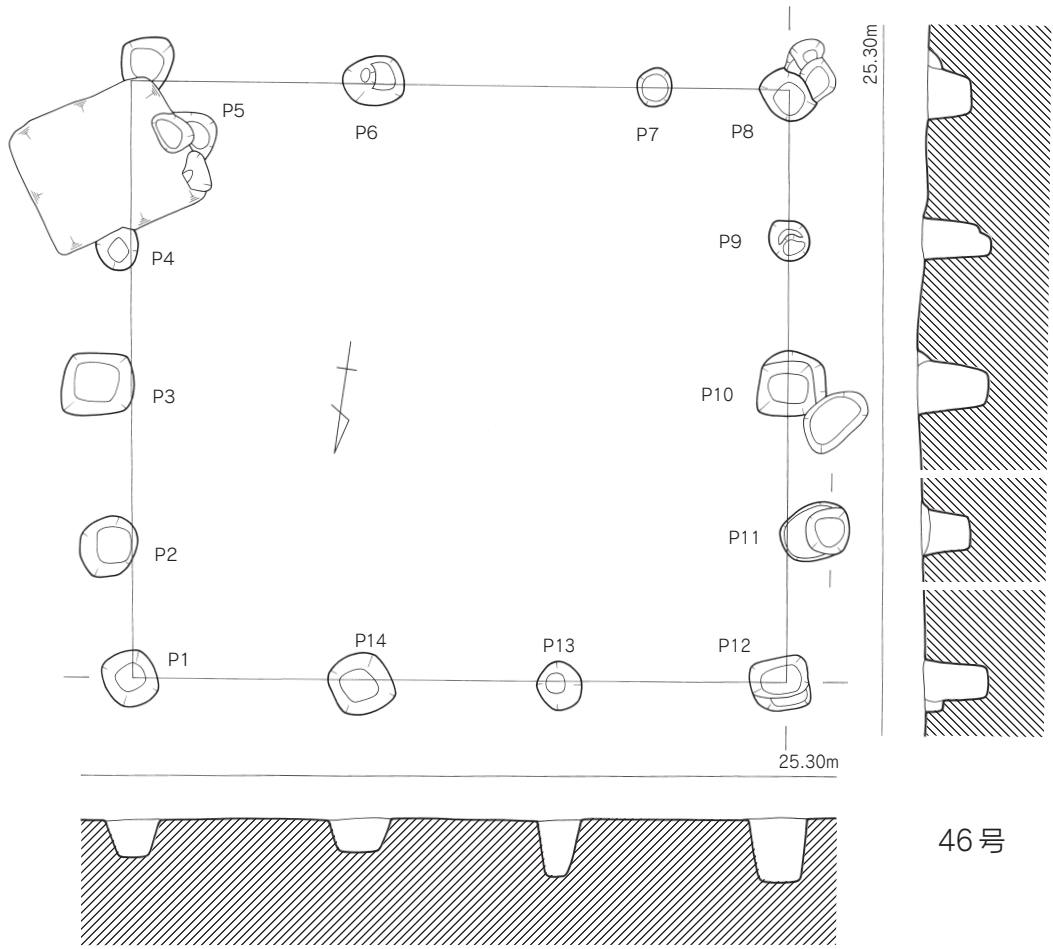
**51号掘立柱建物跡** (図版 31 - (3)、第 67 図、表 2)

Ⅱ区の南部東寄りに検出した 4 間 × 2 間の建物。北東隅の柱穴が攪乱坑によって大半が消失している。38 号住居跡より古く、P 9 が住居跡の北辺に切られている。P 7 は住居の張床下で検出した掘込みの底面で確認した。この掘込みと P 7 の新旧関係は不明である。断面図では住居跡等で失われた部分を復元し、破線で示している。柱穴は略円形を呈し、梁中央部の P 2 と P 7 は棟持柱の柱穴らしく、他に比べると一際深くしっかり掘込まれている。桁行の柱穴は掘方の規模、深さにかなりばらつきがある。P 1、P 4、P 6、P 10 は段掘りになっている。遺物は殆ど出土しておらず、図示し得るものはないが、弥生後期前半の土器を少量確認した。

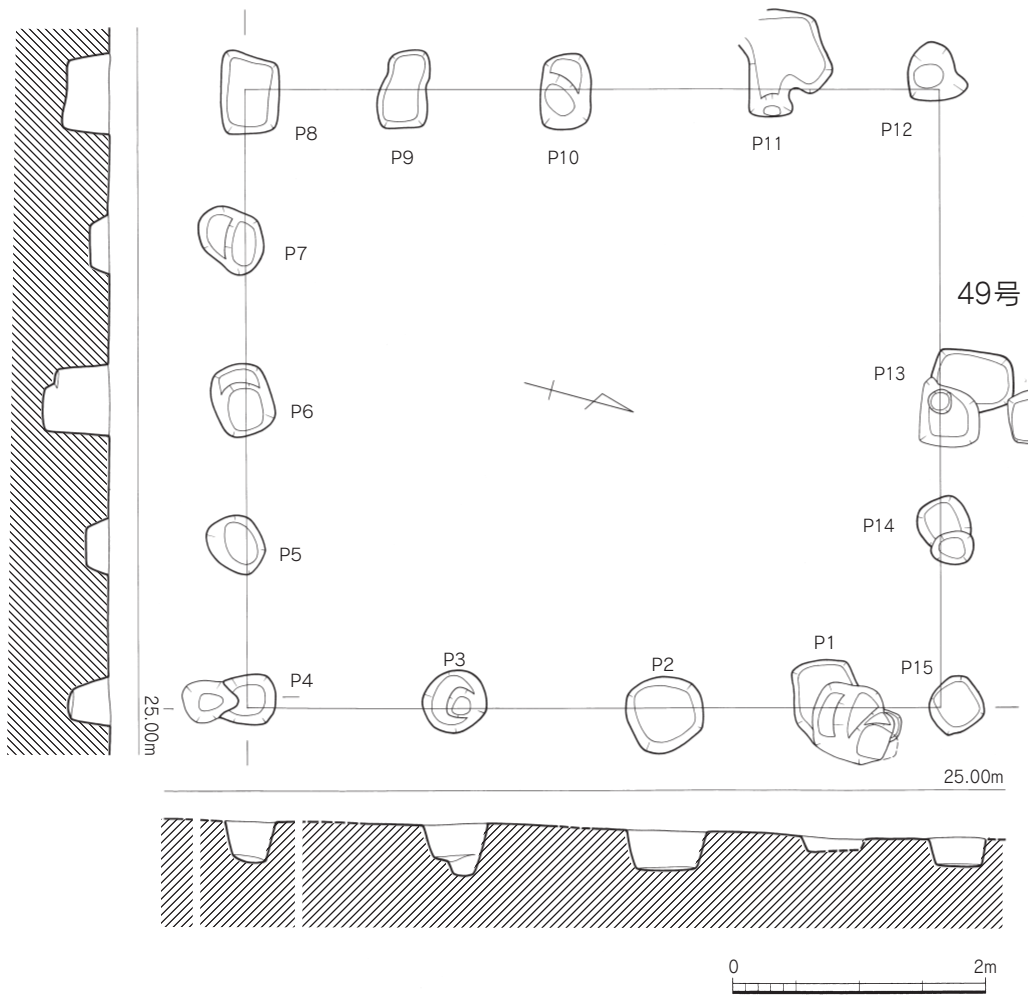
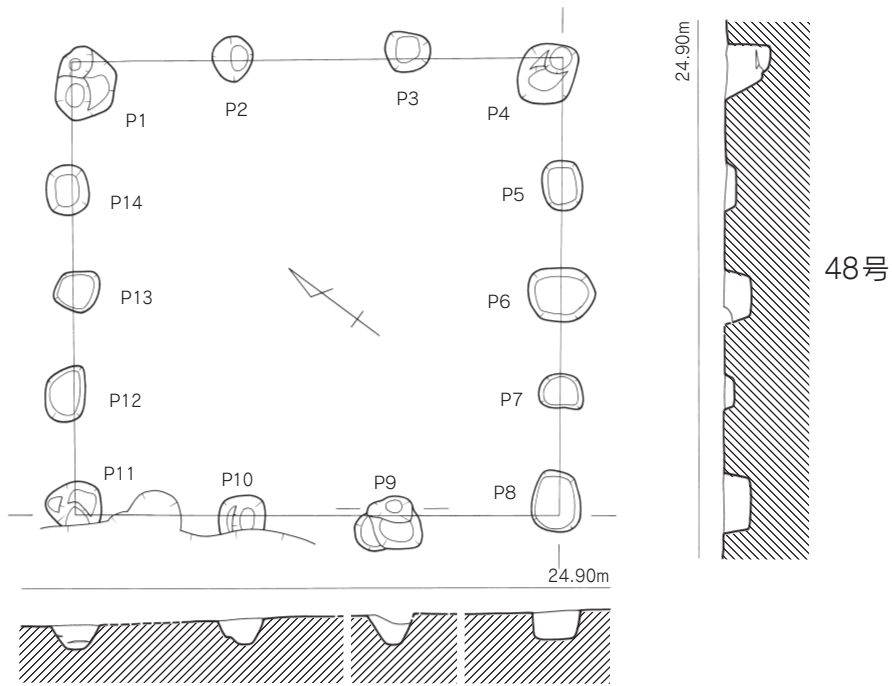
**52号掘立柱建物跡** (図版 32 - (1)、第 68 図、表 2)

Ⅱ区の北部西寄りに検出した。42 号住居跡より新しく、P 1、P 3 が住居跡の南辺を切っている。53 号掘立柱建物跡とも重複するが、柱穴は切合っておらず、これとの新旧関係は明らかではない。1 間 × 1 間の小型の建物だが、柱穴は規模が大きく、掘方の形状も整った方形を呈している。P 1、P 2 では直径 17 ~ 20 cm の柱痕が確認された。P 3 は底面が段掘りされている。遺物としては弥生終末期前半の土器が少量出土している。

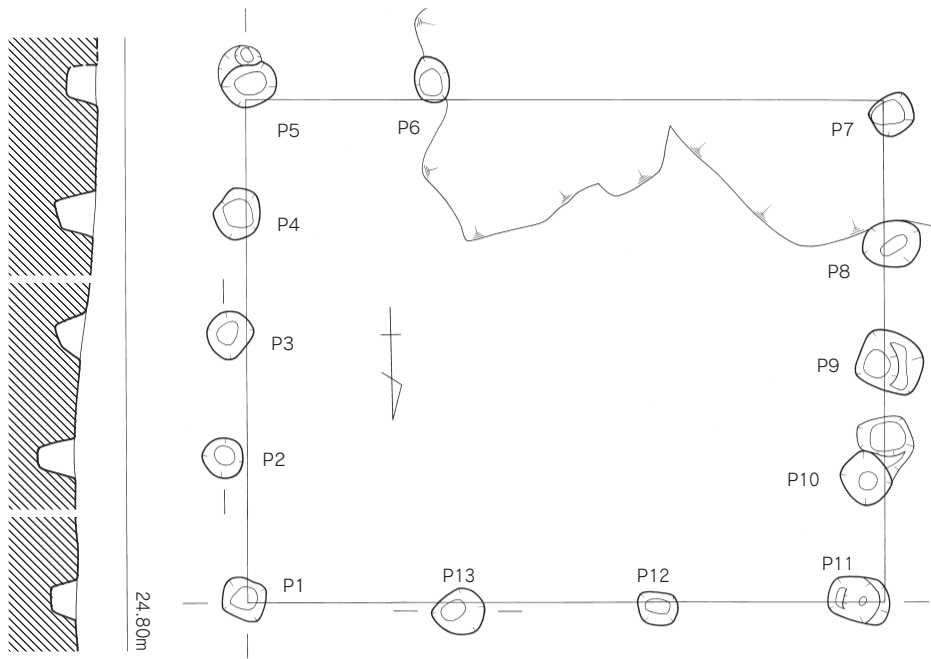




第 65 图 46·47 号掘立柱建物跡実測图 (1/60)

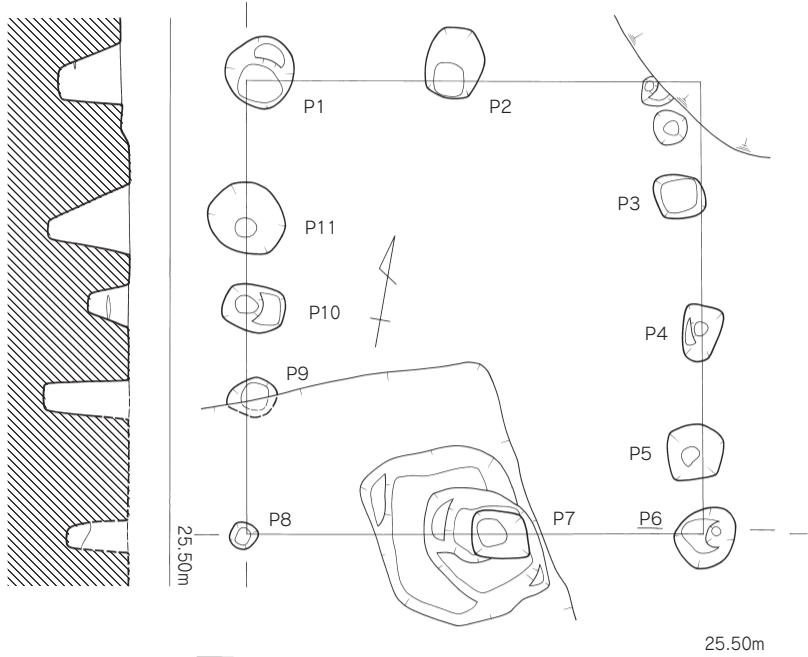
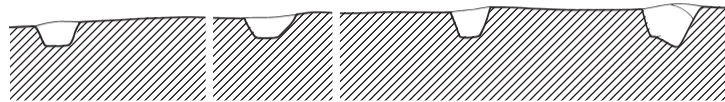


第 66 图 48・49 号掘立柱建物跡実測图 (1/60)



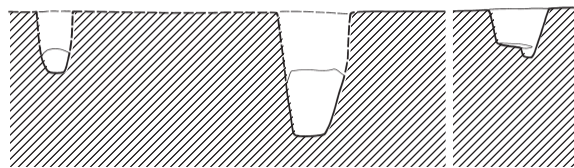
50号

24.80m



51号

25.50m



第 67 图 50・51 号掘立柱建物跡実測图 (1/60)

**53号掘立柱建物跡** (第68図、

表2)

42号住居跡、52号掘立柱建物跡と重複して検出した2間×1間の建物。P1、P2、P4、P5が住居跡を切っており、P1は住居の炉跡と重複している。概ね方形を呈する柱穴の掘方はしっかりしているが、建物の規模としてはやや小形である。P1、P4は底面が段掘りされている。遺物としては各柱穴から弥生終末期後半～古墳時代初頭の土器が出土し、P5からはガラス小玉1点が検出された。

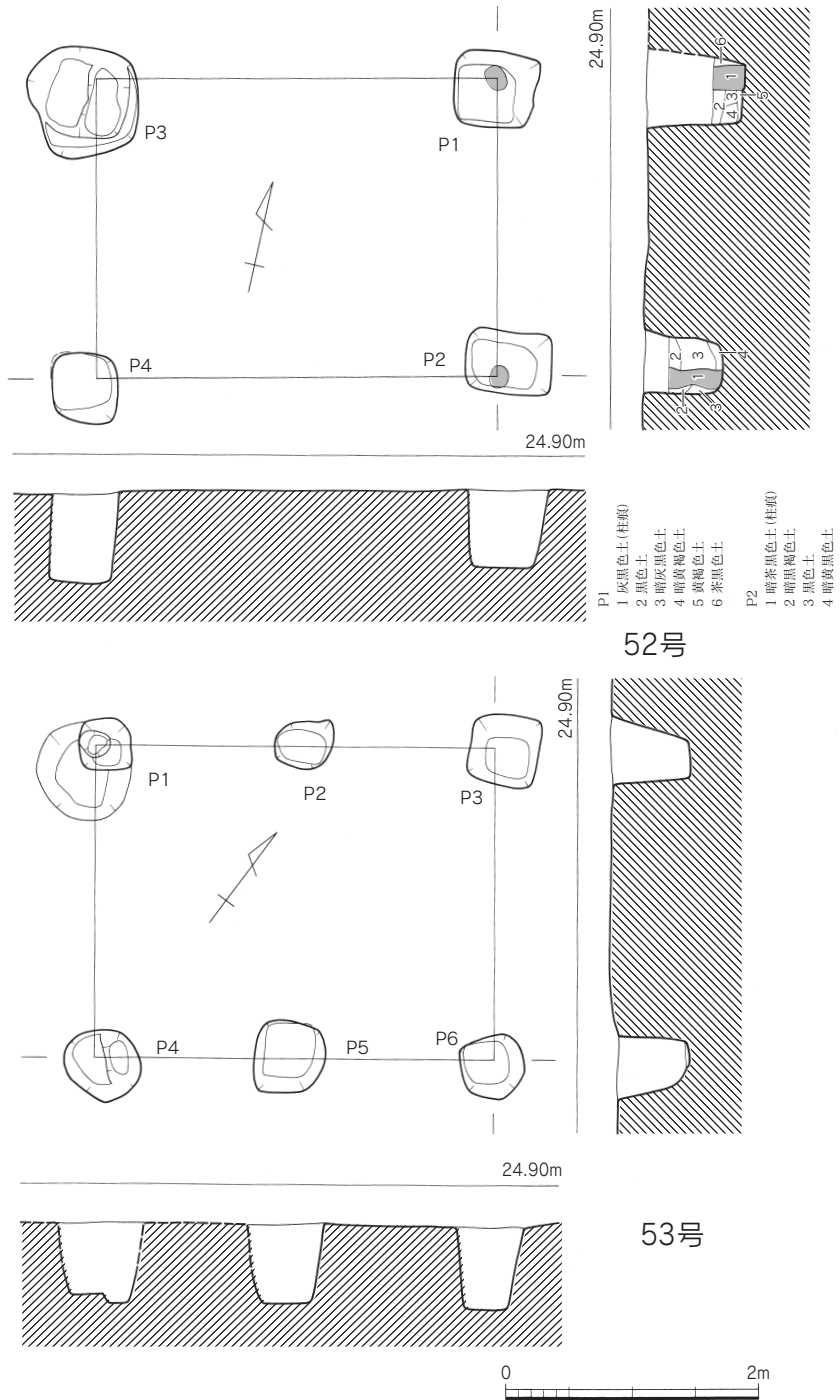
**54号掘立柱建物跡**

(図版32-②、第69図、表2)

42号住居跡と重複して検出した2間×1間の建物。P2、P3は住居跡内に存在するが、覆土上部では検出できなかった。しかし、住居床面には掘方がくっきりと明瞭に現れ、床面を切った状況が認められた。従って42号住居跡より新しいものと判断される。

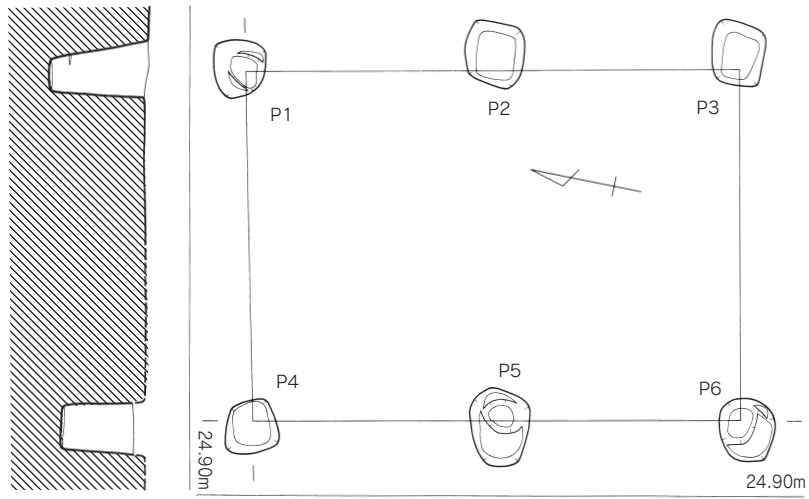
**55号掘立柱建物跡** (第69図、表2)

Ⅱ区の北部西寄りに18号掘立柱建物跡と重複して検出したが、新旧関係は不明である。発掘時は

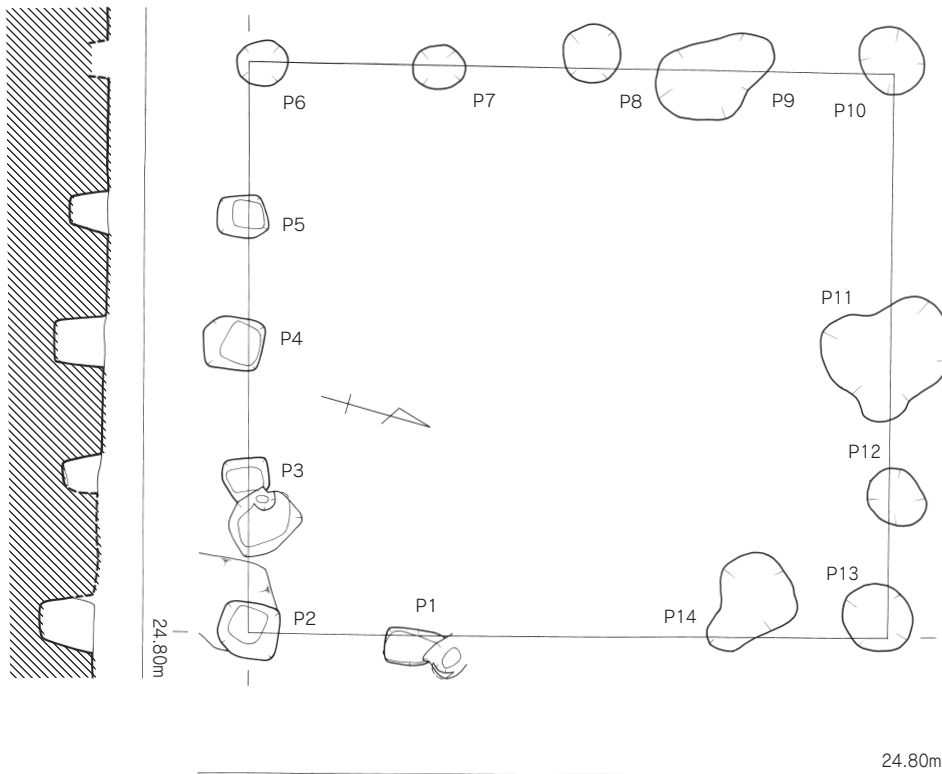
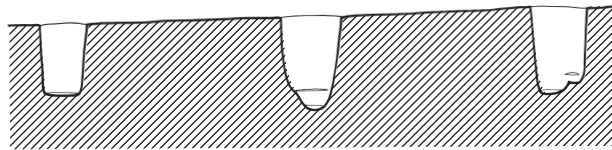


第68図 52・53号掘立柱建物跡実測図(1/60)

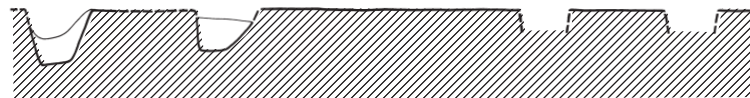
当初、住居跡部分の拡張を行ってP2、P3を検出したことにより、さらに調査区の拡張を行い他の柱穴4つを検出した。柱の痕跡の検出を試みたが、検出不能であった。埋土は黒色土で黄褐色土は殆ど流入していなかった。柱穴は隅丸方形または隅丸長方形を呈する。P1、P5、P6は底面が段掘りされている。殆どの柱穴で弥生終末期後半～古墳時代初頭の土器が検出された。



54号



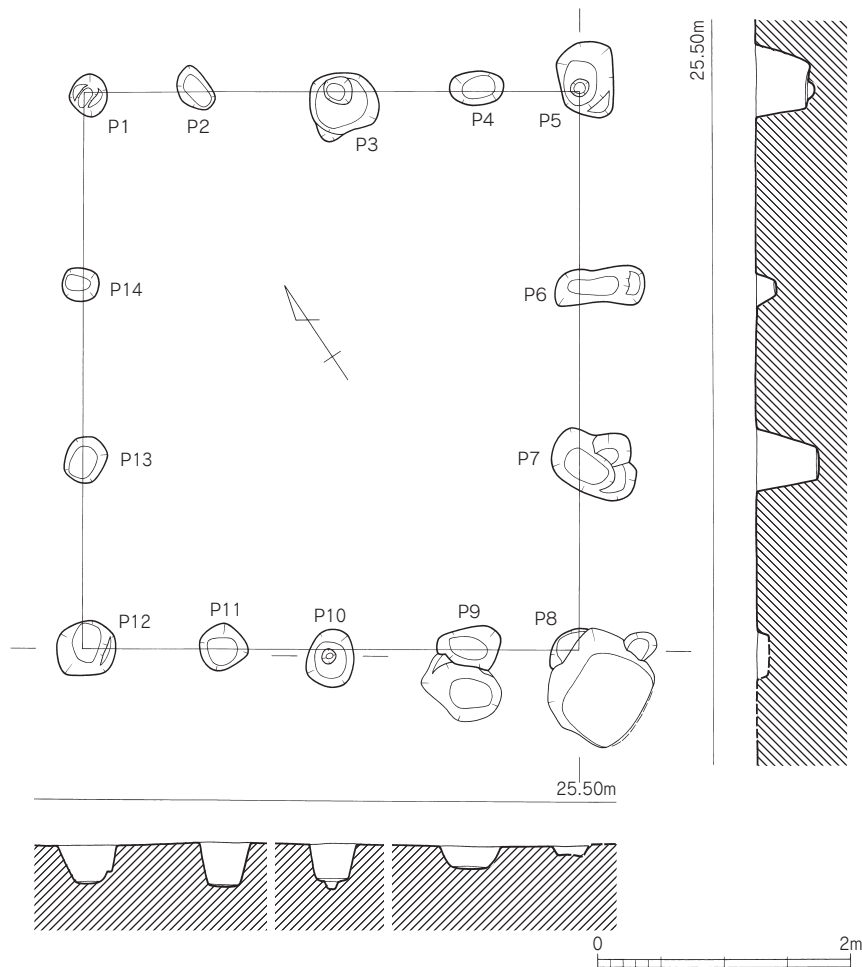
55号



第 69 図 54・55号掘立柱建物跡実測図 (1/60)

北側が調査区外に伸びだしていたため、P 1～P 5 までの柱穴しか確認できていなかったが、今回の報告書作成にあたり県教委調査報告書と合わせて遺構配置を検討していたところ、新たに 9 個の柱穴を図上で確認することが出来た。既刊報告書付属の全体図から図面を起こしたため、些か不正確なものとなっている。また、この部分については断面図も掲載できなかった。従って、ここでは P 1～P





第70図 56号掘立柱建物跡実測図(1/60)

5について記述する。柱穴は隅丸方形または隅丸長方形を呈し、18号掘立と掘方の深さ、形状がかなり似通っており、どちらか建替えられたものとも推察される。各柱穴の埋土は黒色土で、断ち割って柱痕の検出に努めたが確認できなかった。出土遺物には、弥生後期中頃の土器も含まれたが、出土量が極僅少で図示し得るものはない。

#### 56号掘立柱建物跡 (第70図、表2)

Ⅱ区の南部西寄りに38号掘立柱建物跡と重複して検出した。P8が38号掘立P2に切られる。4間×3間の建物で、柱穴は略円形か楕円形を呈する小規模なものが多く、掘方が不整である。北側梁行中央のP3は他に比べて若干深く掘り込まれている。P1、P3、P5、P10は底面が段掘りになっている。各柱穴とも柱痕は確認出来なかった。出土遺物は極僅少で図示し得るものはないが、弥生後期前半の土器を確認している。

### ③ 土坑

#### 1号土坑 (図版32-(3)、第71図)

I区の南部に検出した。検出規模265cm×195cm、深さ55cmを測る隅丸長方形の土坑である。周囲に柱穴と見られる6個のピットが付属し、上部構造を持っていたものと考えられる。4隅のピット

に比べて中間の2個は小さく浅い。ピットは断ち割りを試みたが、柱痕は認められなかった。当土坑の覆土は、黄色土塊を多く含む黒褐色土で、明らかに埋め土である。出土遺物は少量だが、弥生時代後期の器台と見られる土器片があり、遺構の時期を示すものと考えられる。他に縄文晩期の深鉢片が2点出土したが、これは混入品であろう。

### 2号土坑 (図版33 - (1)、第72図)

I区の中央部東寄りの位置に検出した。検出規模200cm×150cm、深さ85cmを測る隅丸長方形の土坑である。断面は台形状で検出面より少し広がった底面は、壁際を除いて固く締まっており、踏み固められたものと思われる。覆土の状況は1号土坑と同様で、埋め土と判断される。出土遺物は覆土の上部と下部において土器が認められた。弥生時代終末期後半～古墳時代初頭のものと思われる。他に石鏃が遺構の浅い位置から出土している。

### 3号土坑 (図版33 - (2)、第71図)

I区の中央部に検出した。1号土坑と同様の柱穴が伴う土坑である。当土坑ではこれに溝が付属する。土坑は165cm×145cm、深さ55cmを測る隅丸方形プランで、西角部に長さ220cm、幅18～45cmの溝が接続している。溝底は土坑に向かって低くなり、途中で約20cmの段差がある。溝の先端はピット状に少し深まっている。周囲の柱穴は4個で、深さ25～45cm前後である。P1では直径13cmの柱痕が確認された。遺構検出時にP3が溝の先端部を切る状況を確認しているが、両者の完掘後に実測を行ったため図では切り合いが逆転したような表現となっている。覆土の状況は1号・2号土坑と同様で、埋め土と考えられる。出土遺物に乏しく、弥生後期と思しき土器片が1点あるが、図示し得るものではない。

### 6号土坑 (図版34 - (2)、第73図)

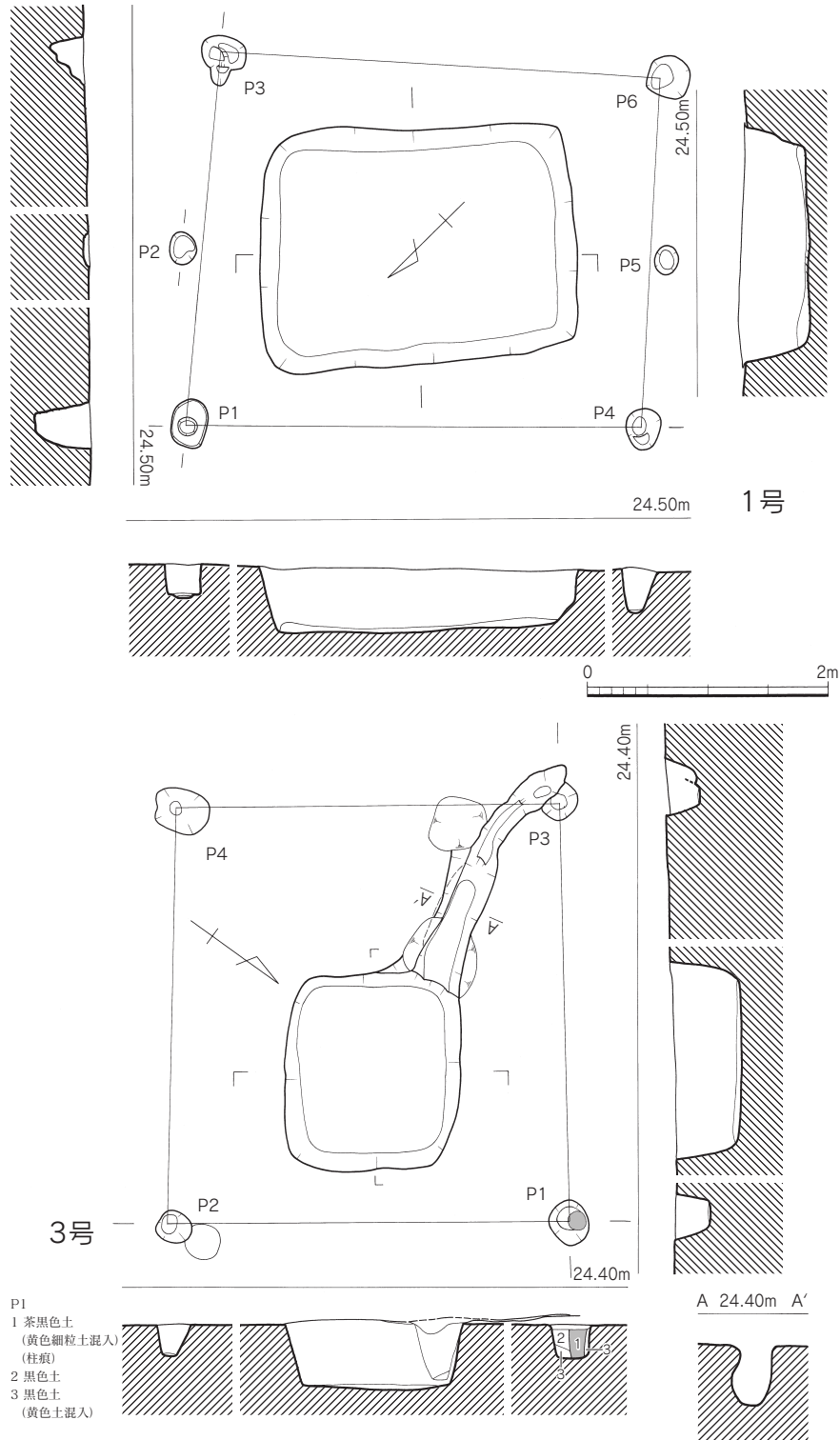
I区の中央部西端に検出した。検出規模200cm×185cm、深さ85cmを測る隅丸方形の土坑である。米軍基地の攪乱で一部破壊されているが、残存状態は良好である。底面は平坦で、東側の壁際に浅いピットがある。覆土は1・3号土坑と同様、黄色土塊を多く含む黒褐色土で、埋め土と判断される。少量の土器片と石匙が認められたのみで、出土遺物は乏しい。

### 7号土坑 (図版34 - (3)、第74図)

I区の南部に検出した。検出規模260cm×250cm、深さ68cmを測る隅丸方形の土坑である。米軍基地の攪乱で一部遺構が破壊されている。周囲に柱穴と見られる6個のピットが付属し、上部構造を持った貯蔵庫のようなものと推察される。ピットは規模、深さが不揃いで、P3、P6では直径15～18cmの柱痕が認められた。当土坑の覆土は、ブロック状の黄色土を含む黒色土で、人為的な埋め土と思われる。土坑の底面は平坦で、北隅、東隅にピットがある。北東と南西の壁面中央に小さな段が認められる。出土遺物は弥生中期のものを含む土器片を少量検出した。

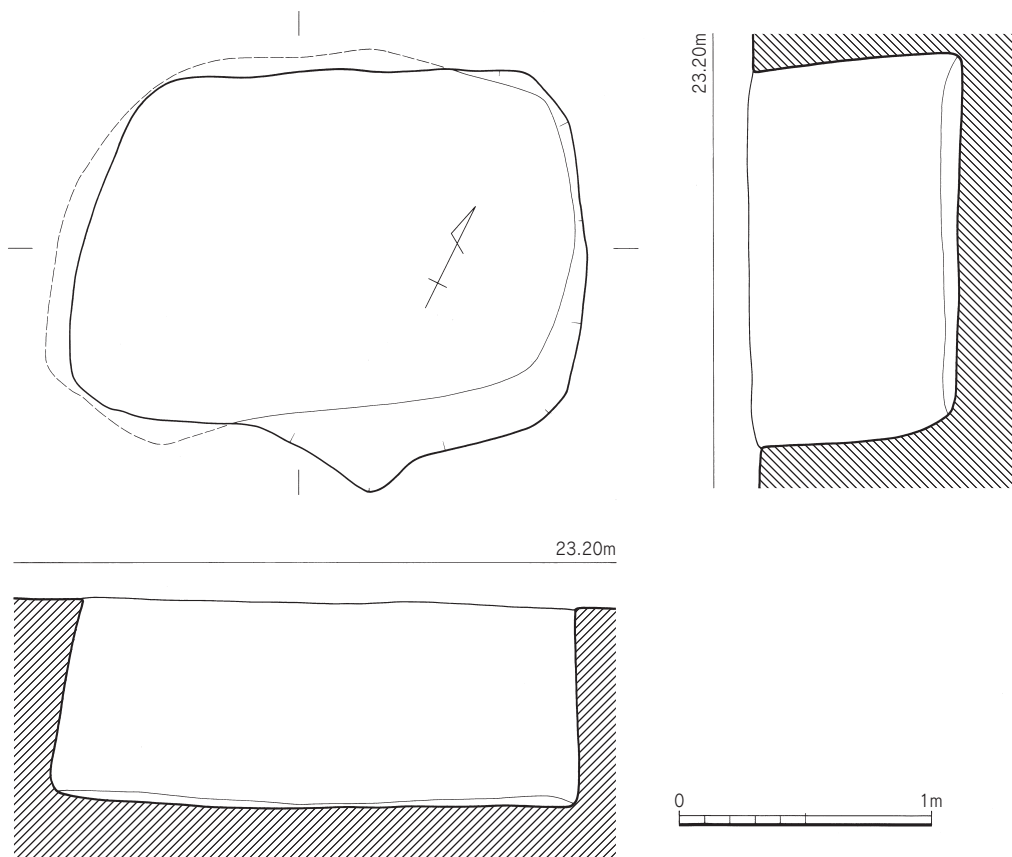
### 8号土坑 (図版35 - (1)、第74図)

I区の南部に検出した。土坑は米軍基地施設の基礎により西半を失うが、現存部から推察される規模は200cm前後×70cm以上140cm未満、深さ60cm程度とみられる。覆土は締りがない黒褐色土で、



第71図 1・3号土坑実測図 (1/60)

黄色土塊を多量に含んだ埋め土である。1号・3号・7号土坑と同様、周囲に柱穴が付属するタイプと考えられ、規模等からは3号土坑により近いものとみられる。ピットは4個検出したが、攪乱によって1個ないし2個が消失しており、P3は攪乱底に辛うじて残されていた。P3、P4では直径約15cmの柱痕が認められた。遺構には遺物が殆ど含まれておらず、図示し得るものはない。



第72図 2号土坑実測図 (1/30)

**9号土坑** (図版35 - (2)、第73図)

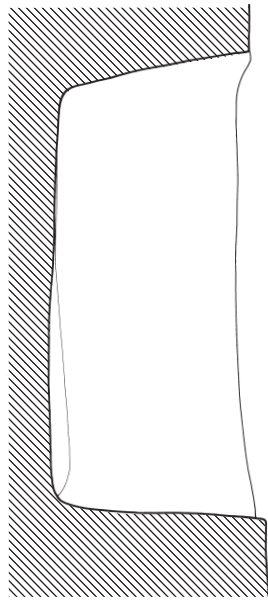
I区の北西部の位置で、1号竪穴住居跡に重複して検出した。土坑は南半部が1号住居跡の北辺に切られている。住居跡とともに南東隅が米軍基地の攪乱を受けているが、規模245 cm × 175 cm、深さ100 cmを測る隅丸長方形の土坑である。掘方は南辺の中央部が少し外に広がっている。覆土は黄色土塊を含む黒褐色土だが、住居床面と重複する部分は上面が貼床され、強く踏み固められていた。出土遺物は弥生中期の土器小片が認められた。

**12号土坑** (図版36 - (2)、第75図)

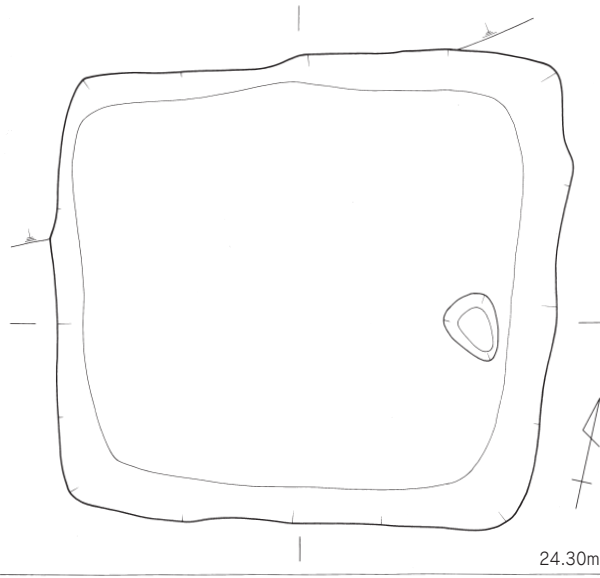
I区の北西部の位置に検出した。検出規模は220 cm × 150 cm、深さ115 cmを測り、平面形状が歪な楕円形で、断面が播鉢状を呈する土坑である。底面は狭く、壁面は中位の傾斜が少し緩くなっており、北部と東部にステップ状の小さな段がある。また、土坑内にはピットが3個あるが、当遺構に伴うものか不明である。出土遺物は少ないが、弥生後期の土器が認められた。

**15号土坑** (図版37 - (2)、第75図)

I区の北東部に位置する。14号土坑とともに3号竪穴住居跡の貼床された床面下に検出した。土坑といえる大きさではないが、発掘時に土坑で遺構番号を振り当てていたため、一応、この項で取り上げている。土坑の検出規模は100 cm × 70 cm、深さ30 cmを測り、平面形状が楕円形を呈する。底面は平坦である。住居の床面下で検出しているため、本来の掘方は更に深かったはずである。出土遺物は極僅少で図示し得るものはない。

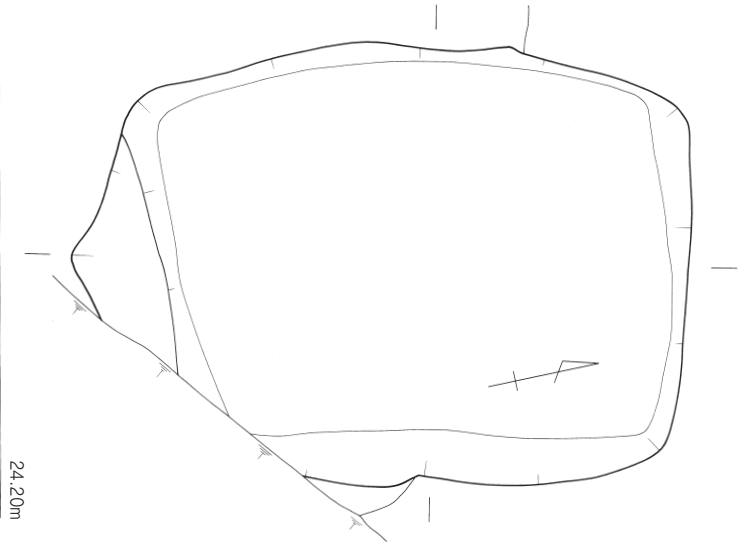
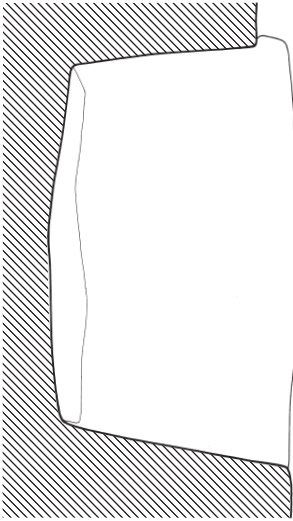
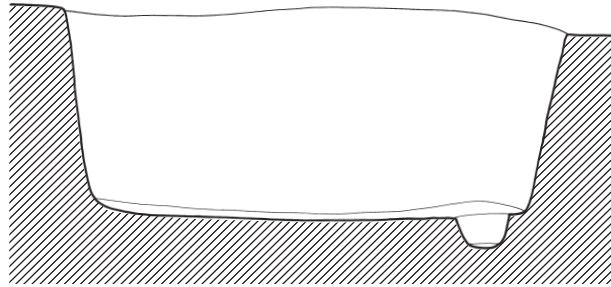


24.30m



24.30m

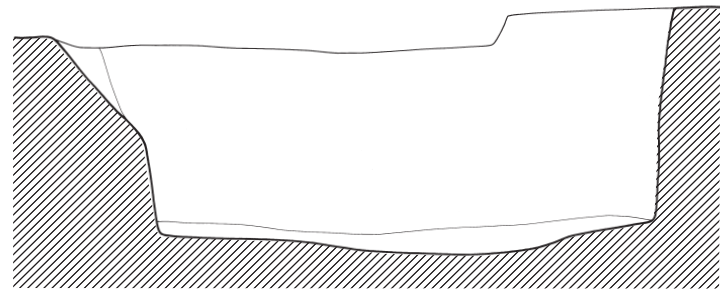
6号



24.20m

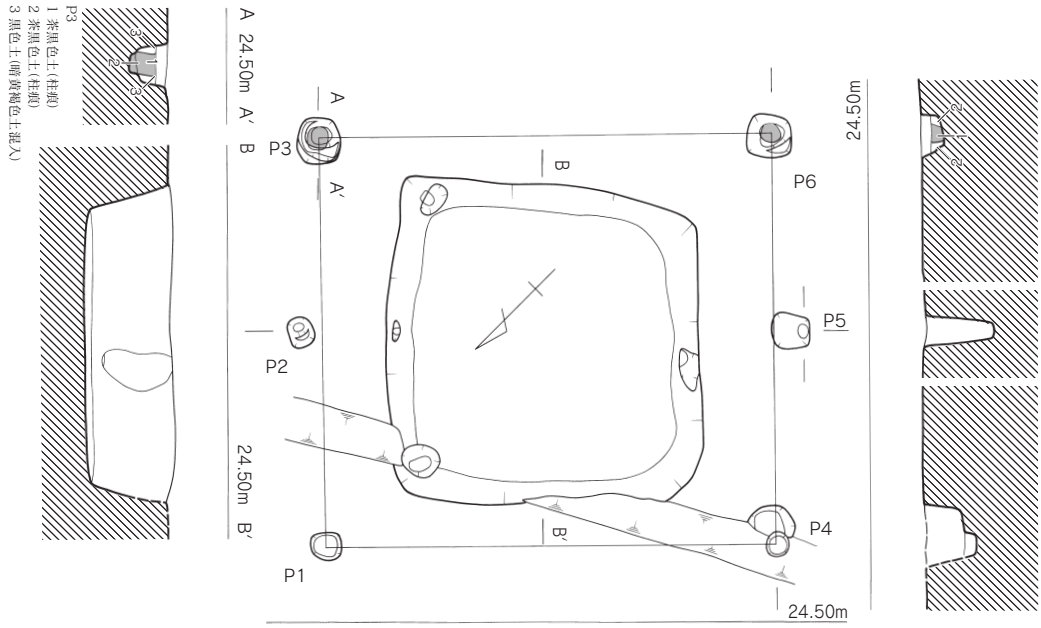
24.20m

9号

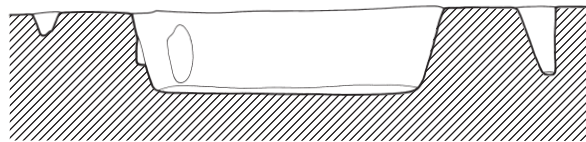


第 73 图 6 · 9号土坑实测图 (1/30)

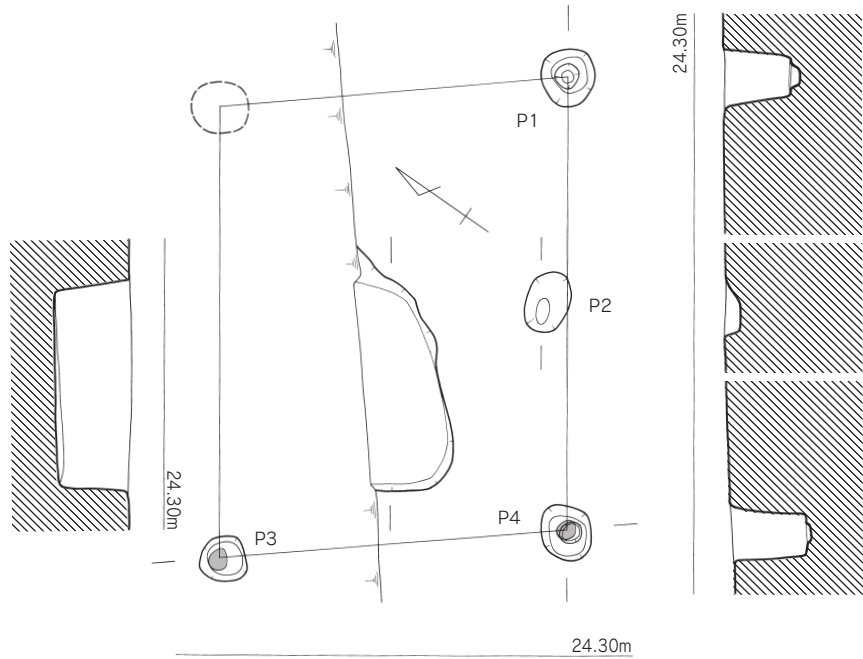




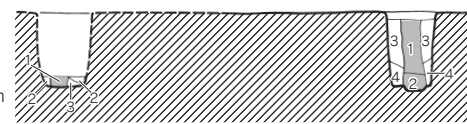
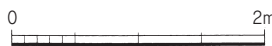
7号



P6  
1 茶黑色土(柱痕)  
2 黒色土(暗黄褐色土混入)



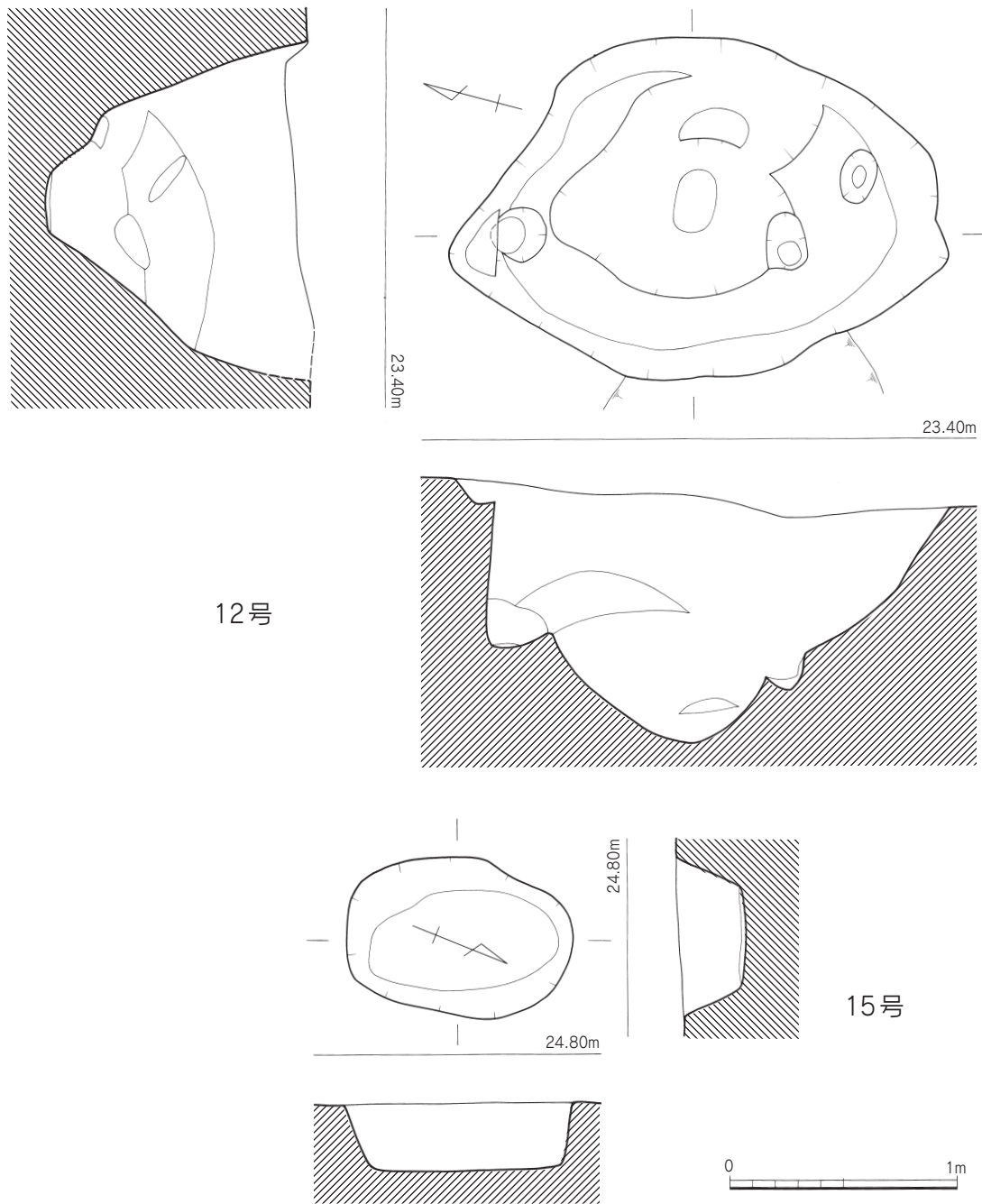
8号



P3  
1 黒色土(黄色ブロック混入)(柱痕)  
2 灰黒色土(黄色ブロック混入)  
3 黒色土

P4  
1 黒色土(黄色ブロック混入)(柱痕)  
2 黄色粘質土(柱痕)  
3 黒色土  
4 黄色土(黒色土混入)

第74図 7・8号土坑実測図(1/60)



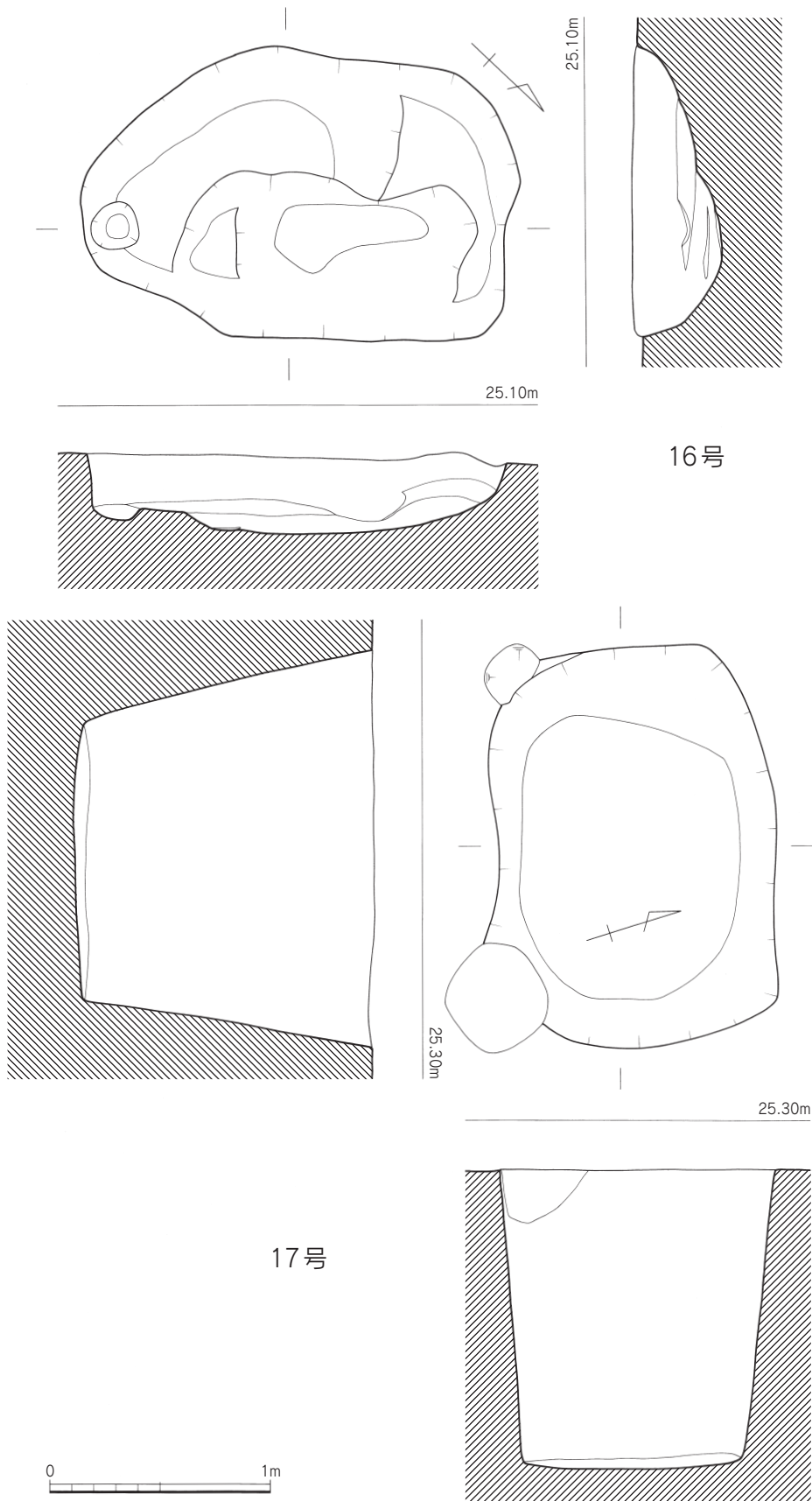
12号

15号

第 75 図 12・15号土坑実測図 (1/30)

**16号土坑 (第 76 図)**

Ⅱ区の中央部西寄りの位置に検出した。21号住居跡の東辺部を切る。検出規模 205 cm × 130 cm、深さ 40 cmを測る楕円形の土坑である。底面は狭く、北東側に寄っており、立上りの広い部分にテラス状の段を設けている。長軸上南端にあるピットが当土坑に伴うかは不明である。覆土の状況では人為的に埋めたものと判断された。弥生後期の土器が多く出土したが、その殆どが遺構の南部上層に集中していた。



第 76 图 16·17 号土坑实测图 (1/30)

### 17号土坑 (第 76 図)

Ⅱ区の中央部西寄りに検出した。30号掘立柱建物跡P4に切られる。検出規模165cm×130cm、深さ135cmを測り、隅丸長方形を呈する土坑である。底面が平坦で、壁面の立ち上りも強い傾斜で掘り込まれているため、土坑の形状はかなり整った印象である。出土遺物としては弥生中期の土器片が数点認められる。

### 18号土坑 (図版 37 - (3)、第 77 図)

Ⅱ区の南部東寄りの位置に検出した。検出規模237cm×208cm、深さ75cmを測る隅丸長方形の土坑で、底面は広く平坦である。遺構の残存状態は良好で、かなり整った形状をよく留めている。Ⅰ区で検出した6号・9号土坑と共通する性格の遺構と推察される。出土遺物は僅少だが、弥生中期の土器片が検出された。

### 19号土坑 (図版 38 - (1)、第 77 図)

Ⅱ区の南部に検出した。検出面での掘方の規模は165cm×160cm、深さ120cmを測る。整った隅丸長方形を呈する土坑である。底面は平坦で、検出面での形状より平面形は丸みが付く。掘方が深く、遺構の残存状態は非常に良好と言える。壁面は殆ど垂直に掘り込まれている。遺物は弥生中期の土器が主体で、他に用途不明の土製品1点が出土した。

### 20号土坑 (図版 38 - (2)、第 78 図)

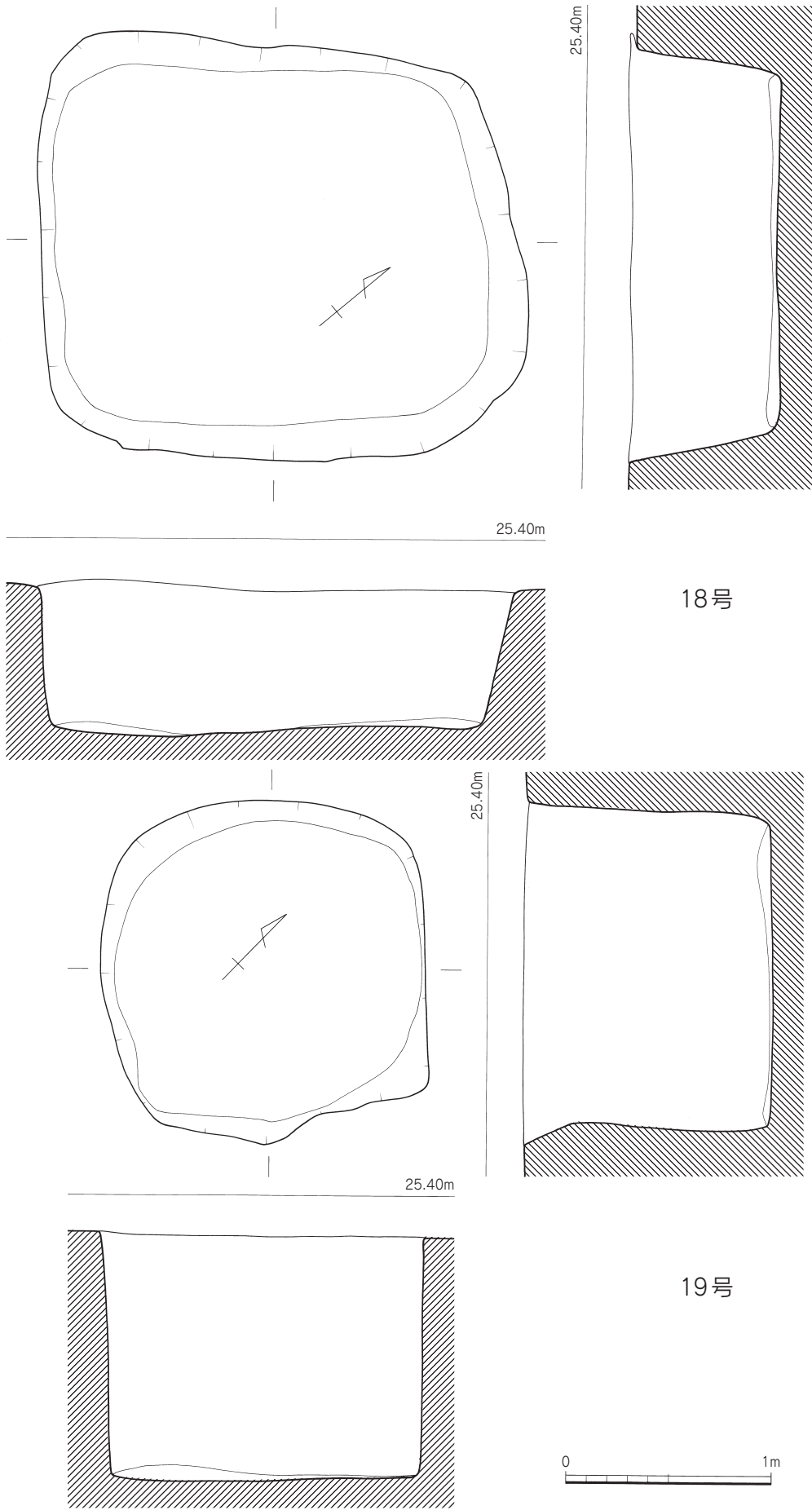
Ⅱ区の中央部西端に検出した。重複する41号掘立柱建物跡と同時に掘り進めたため、切合いでは確認できなかったが、出土遺物等から当土坑の方が41号掘立より古いと見られる。掘方の南東側には除去不可能な楠の巨木があり、十分な調査ができなかったが、土坑は200cm×120cmの長方形プランで、西隅を50cmほど伸び出させて、階段状のステップを2段設けている。残存状態は良好で、深さは145cmを測る。検出面より少し広くなった底面は平坦で、底面直上の数カ所に小さな焼土塊が認められた。覆土にはブロック状の黄褐色土が多く含まれており、埋め土と判断される。出土遺物としては弥生中期の土器が検出されている。

### 21号土坑 (図版 38 - (3)、第 79 図)

Ⅱ区の北部西寄りで6号住居跡の西隅に重複して検出した。6号住居跡より古い。検出規模255cm×250cm、深さ95cmを測る方形の土坑である。6号住居跡を掘り込む時点で埋められたらしく、覆土は黄色土ブロック混じりの黒色土で締まりがない。上面は住居跡の床面として踏み固められている。出土遺物は弥生中期の土器が主体である。後期の土器片も含まれるが、これは6号住居跡からの混入であろう。

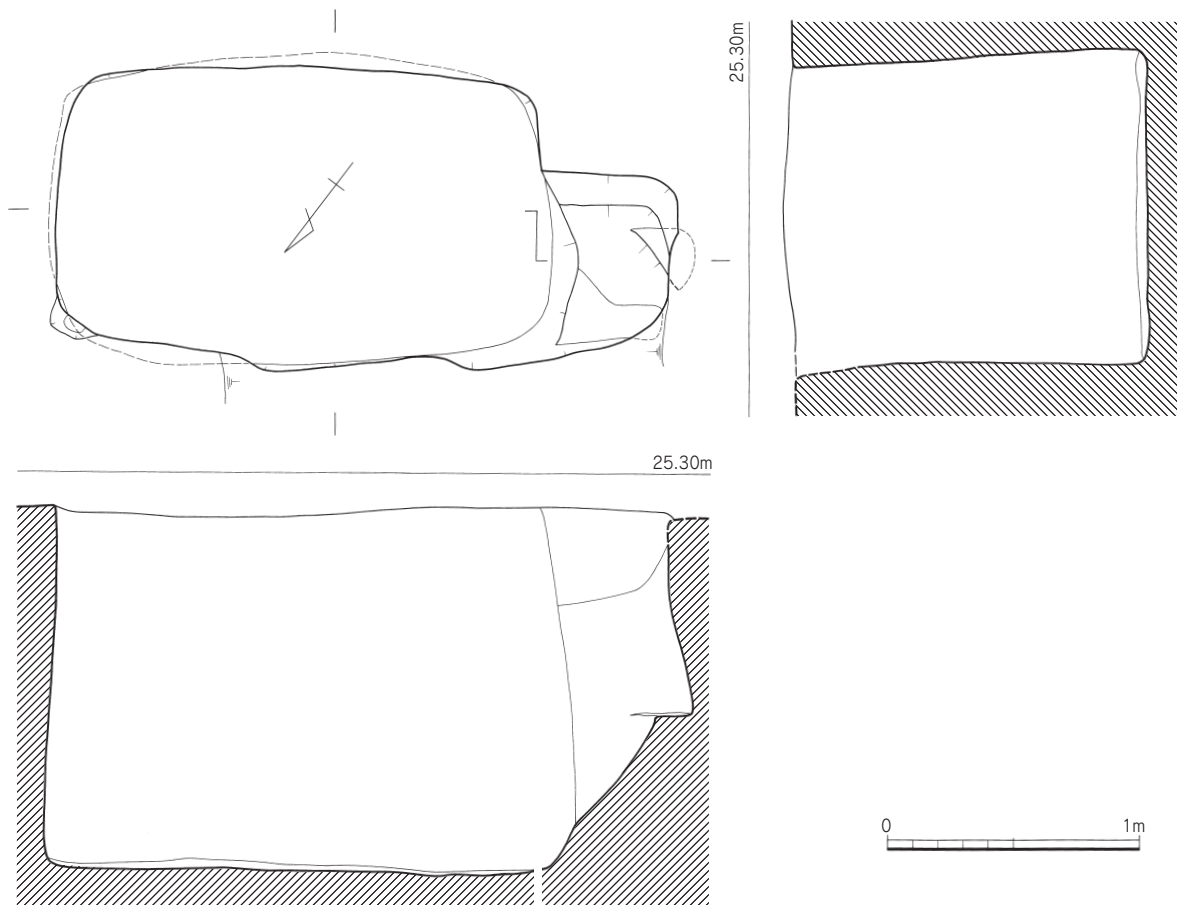
### 22号土坑 (図版 39 - (1)、第 79 図)

Ⅱ区の中央部東寄りの位置で19・20号掘立柱建物跡に切られて検出した。長方形の土坑で、検出規模310cm×275cm、深さ65cmを測る。底面は平坦で、全体的に整った形状である。出土遺物は弥生中期の土器が主体である。



第 77 图 18·19 号土坑实测图 (1/30)





第 78 図 20 号土坑実測図 (1/30)

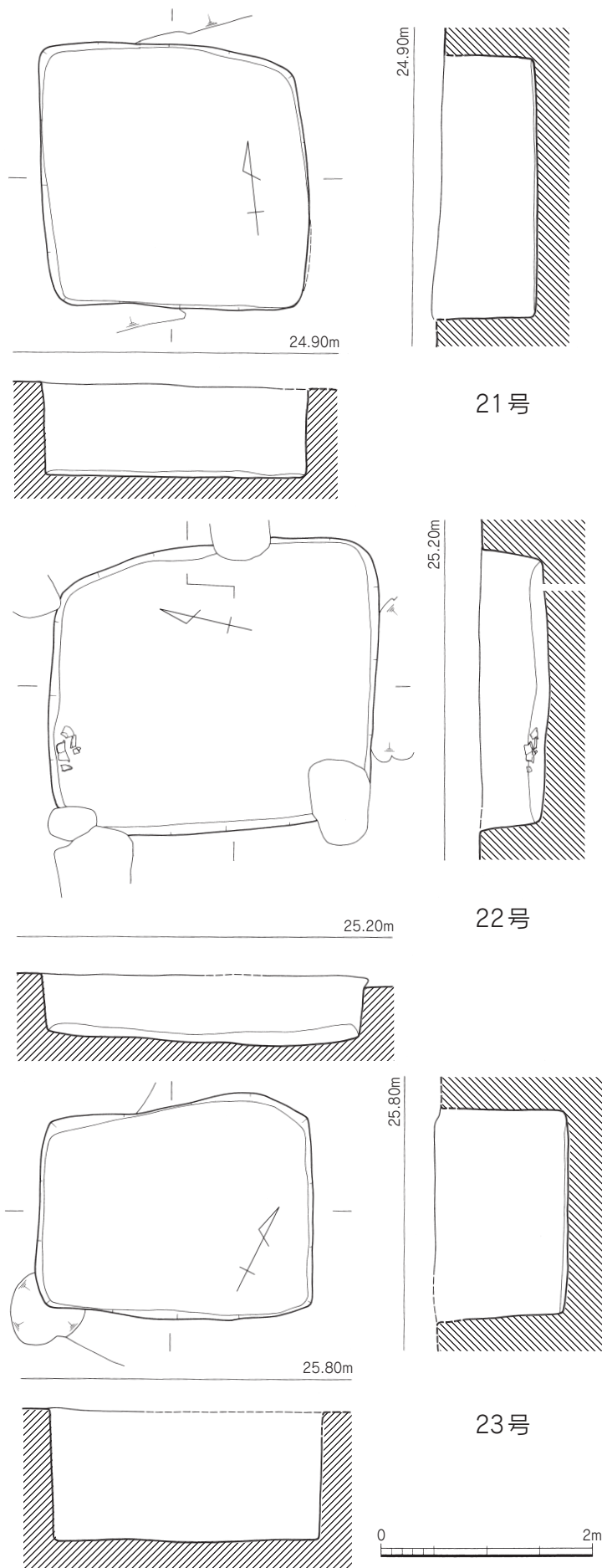
#### 23号土坑 (図版 39 - (2)、第 79 図)

Ⅱ区の中央部西寄りで 19 号住居跡の南西部に重複して検出した。19 号住居跡、2 号周溝状遺構より古い。検出規模 260 cm × 215 cm、深さ 125 cm を測る長方形の土坑である。覆土の状況は 21・22 号土坑と同様で、埋め土と判断される。弥生時代中期の土器が出土した。

#### ④ 井戸

##### 1号井戸 (図版 39 - (3)、第 80 図)

Ⅱ区の中央部東端に位置する。10 号住居跡内部において、住居跡床面に達する攪乱坑の下より検出した。直径 140 cm 前後の円形プランで、住居跡床面からの深さは 285 cm を測る。断面の形状は、100 cm ほどの深さまで下方が広がるように掘られ、一旦、幅 12 ~ 17 cm の段を設けた後、そこから先細りに約 160 cm 掘り下げられている。底面は直径 65 cm の円形である。覆土の状況は、住居跡の床面として硬化した表面部分を除いて、ボソボソで締りがなく、一度に埋められたことを示している。上位 30 cm 程までと中位の段際は黒色土だが、他は黄色土と黒色土が混じった埋土が底面まで入っていた。なお、発掘作業は崩落事故を懸念し、周辺遺構の完掘後に重機を使用して半裁したが、土壌が脆弱なため、土層断面が実測出来なかった。出土遺物としては、井戸中位の段周辺で弥生中期末の土器がまとまって出土した。このことから、当井戸は、10 号住居跡の建築に関わりなく埋められたこと



第 79 図 21・22・23 号土坑実測図 (1/60)

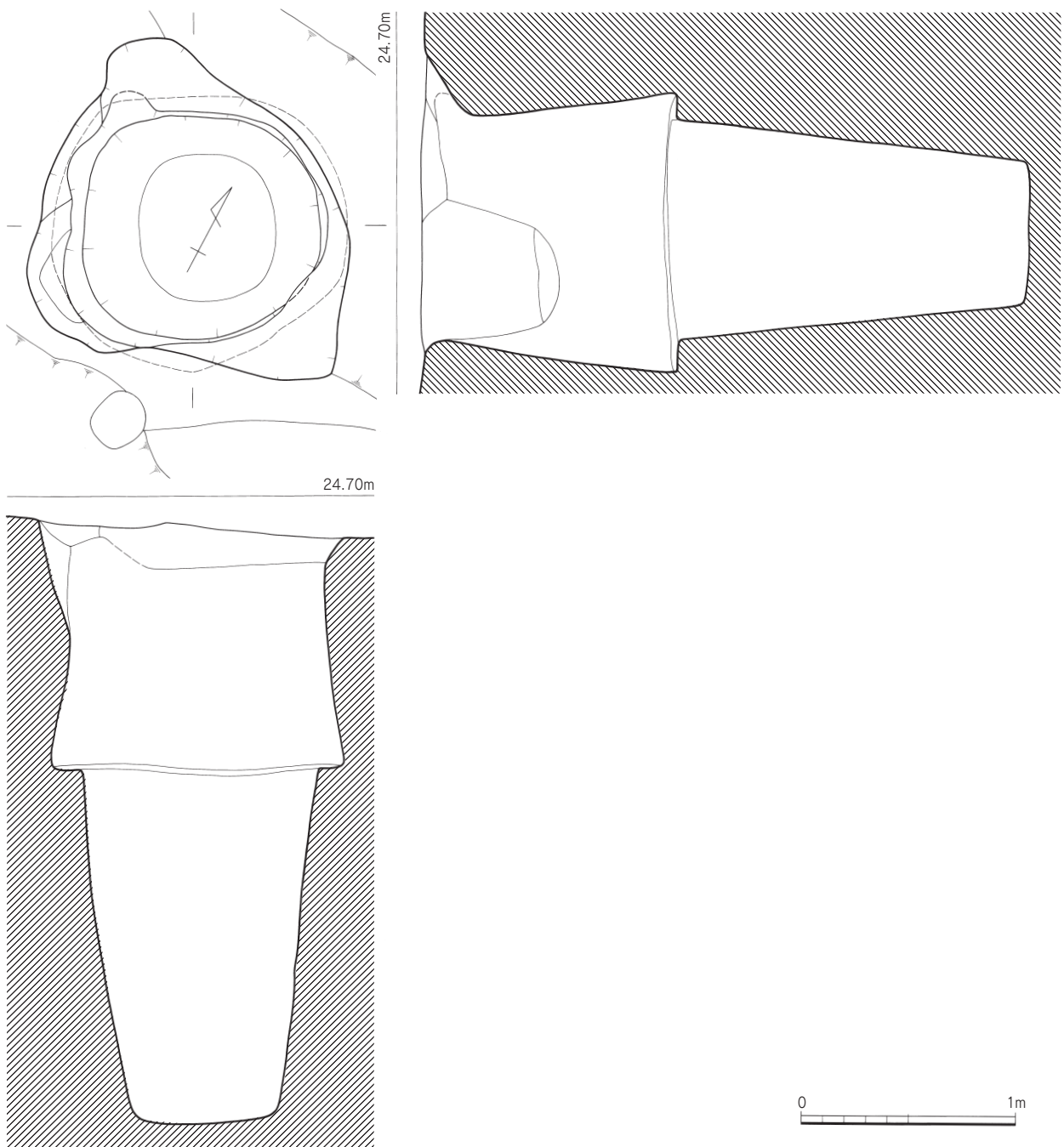
が推察される。

## 2号井戸 (図版 40 - (1)、第 81 図)

Ⅱ区の北部北端に位置する。遺構の西半部が調査区外で、東半のみの発掘であるため、全容把握には至っていない。確認し得る規模は南北長が6m以上、東西長が4m以上である。平面プランは不整形で、断面形状は緩やかな階段状に傾斜する。底面が2つあり、検出面からの深さは、概ね130cmと100cmを測る。この2つの底面は、別遺構が切り合うものではなく、同時期に自然堆積によって埋没していった状況が土層断面からも観察された。出土遺物は、弥生後期後半から終末までの土器を含むが、全て上層の黒色土からのみ出土しており、下層からは全く出土しなかった。他にガラス小玉1点が出土した。

## ⑤ 溝

Ⅰ区に8条、Ⅱ区に2条の溝を検出した。溝の形状は直線的なものと湾曲するものがあるが、いずれも建物群との関係性については明らかではない。掘削・埋没時期も当遺跡の集落と同時期と考えられるものの他に全く時期不明なもの、近世・近代以降の新しい溝と思しきものもあるが、明らかに米軍基地施設関連と見られるもの以外は、遺構番号を振って溝として取り上げた。しかし、Ⅱ区の北部に見られる一定間隔で多数

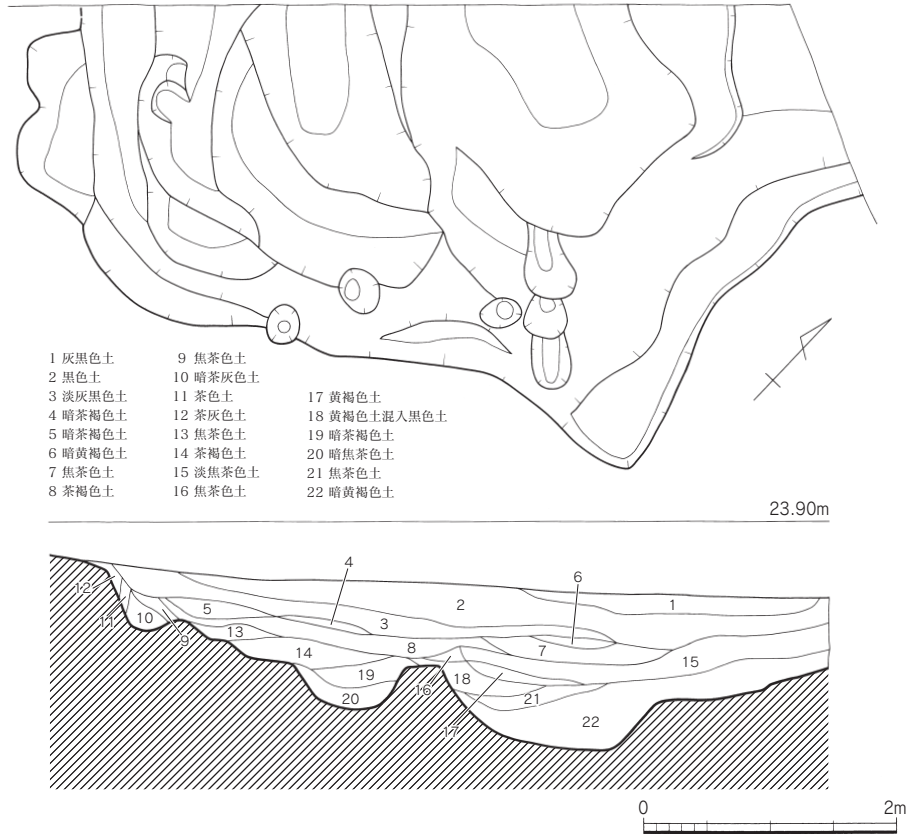


第 80 図 1 号井戸実測図 (1/30)

が並行して東西方向に走る浅い溝状の窪みについては、当地が基地化する以前の耕作による畝溝と見て、今回の調査では遺構としての取り扱いをしていない。

### 1 号溝

I 区の南部に位置する。東西方向に走る溝で約 12 m を検出した。東端約 1 m が南に湾曲する。西端は米軍の攪乱で消滅している。溝幅 70 ～ 120 cm を測り、溝底面は西側に僅かに低くなっている。断面形状は逆台形を呈し、深さは 10 cm 以下と浅い。出土遺物は磨滅した土器碎片のみで図示し得るものはない。



第 81 図 2号井戸実測図 (1/60)

### 2号溝

I 区の南部、1号溝の東側に位置する蛇行する溝で、長さ約5mを検出した。東部が3号溝と重複しており、切り合いは明確ではないが、3号溝より古いと見られる。溝幅は40cm前後で、溝底面は東方向に低くなっている。深さは10cm前後と浅い。覆土はよく締まっており、埋没時期は古い印象を受ける。出土遺物は土器碎片のみで図示し得るものはない。

### 3号溝

2号溝を切って半円状に走る溝。2つに分かれているが、途切れた部分を含めた長さは約5mである。溝幅20～30cm、深さ10cm前後を測る。溝底面は北側が低くなっている。出土遺物は土器碎片のみで図示し得るものはない。

### 4号溝

I 区の南部に位置し、蛇行して東西方向に走る溝。長さ約4mを検出した。溝幅20～30cm、深さ10cm前後で、溝底面は東側に低くなる。規模、覆土の状況ともに2・3号溝と同様の印象である。出土遺物はサヌカイト石片のみで図示し得るものはない。

### 5号溝

I 区南部に位置し、北西から南東へ直線的に走る溝。溝底面は殆ど水平である。米軍基地の攪乱で分断されているが、長さ23mを検出した。断面形状は整った逆台形で、幅20～30cm、最深部での深さは18cmを測る。覆土は締まりのない黒色土で、かなり新しい時期の遺構と判断される。磁器片

が数点出土しているが、図示し得るものはない。

### 6号溝

I区の中央部に位置し、地形の傾斜に沿って概ね東から西へ走っている。北側を並行する7号溝を切る。2箇所で屈曲しており、西端は直角に近い角度で北に折れる。米軍基地の攪乱で分断されているが、長さ40mを検出した。7号溝とともに周辺のピット群を切っている。断面形状は整った逆台形で、幅約100～150cm、最深部での深さは60cmを測る。溝底面の傾斜は僅かに西側が低くなっている。覆土はあまり締まりのない黒色土で、かなり新しい時期の遺構と判断される。弥生土器片、須恵器片、磁器片等が少量出土しているが、図示し得るものはない。

### 7号溝

I区の中央部に位置し、長さ13.5mを検出した。6号溝の東半部北側をやや湾曲して走っている。両端部が6号溝に切られており、7号溝を掘り直して6号溝が作られた可能性が高い。溝の規模、形状、溝底面の高さも殆ど6号溝と同様である。覆土は黒色土で、黄色粘質土ブロックが多量に混入することから、埋め土と判断される。出土遺物は少なく、図示し得るものはない。

### 8号溝 (図版40-②、第82図)

II区の南部東端に位置し、概ね東西方向を直線的に走る溝。長さ8.2mを検出した。東端部が調査区際に掛かっているが、当溝はこれより東西に延びるものではないと判断される。溝底面は西に向かって僅かに低くなる。断面は中位に段のつく逆台形で、幅70～110cm、残りの良い部分では深さ約30cmを測る。溝底面は中央部が約25cm、125cm×58cmの長方形に深くなっており、この周辺に集中して土器が出土した。土層で観察する限り、覆土は自然堆積と見られ、遺物は溝底面から15cmほど浮いた出土状態のものが多い。出土した土器は弥生後期中頃から後半のものが主体である。

### 9号溝

II区の南部に位置し、緩やかに蛇行して概ね南北方向に伸びる。削平によって両端が消失するが、長さ4.5mを検出した。幅27～40cm、残りの良い部分でも深さ7cm程度と浅い。溝底面は殆ど水平である。出土遺物は少なく、図示し得るものはない。

### 10号溝

I区の中央部に位置する不整形な溝で、著しく蛇行し、二股になっている。溝幅25～150cm、深さ6～25cmと一定せず、長さ3.9mを検出した。重複する周辺のピット群に切られており、埋没時期は古い印象を受ける。覆土は黒褐色土で、出土遺物はない。

## ⑥ 周溝状遺構

### 1号周溝状遺構 (図版41-①、第82図)

II区の中央部東寄りに位置する。13号住居跡・23号掘立柱建物跡よりも古い。13号住居跡に切られるため、北西半部の状況は不明である。直径約5.2mに復元される円環状のプランで、幅33～53cmを測る。検出面から床面までの深さは、概ね6～7cmで残りの良い部分でも深さ10cm程度である。



出土遺物は少なく、図示し得るものはないが、弥生後期中頃の土器を確認した。

## ② 2号周溝状遺構（図版41－(2)、第82図）

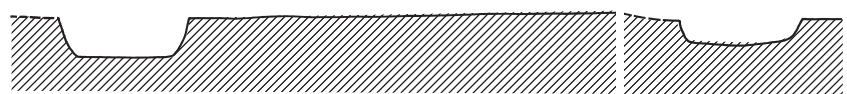
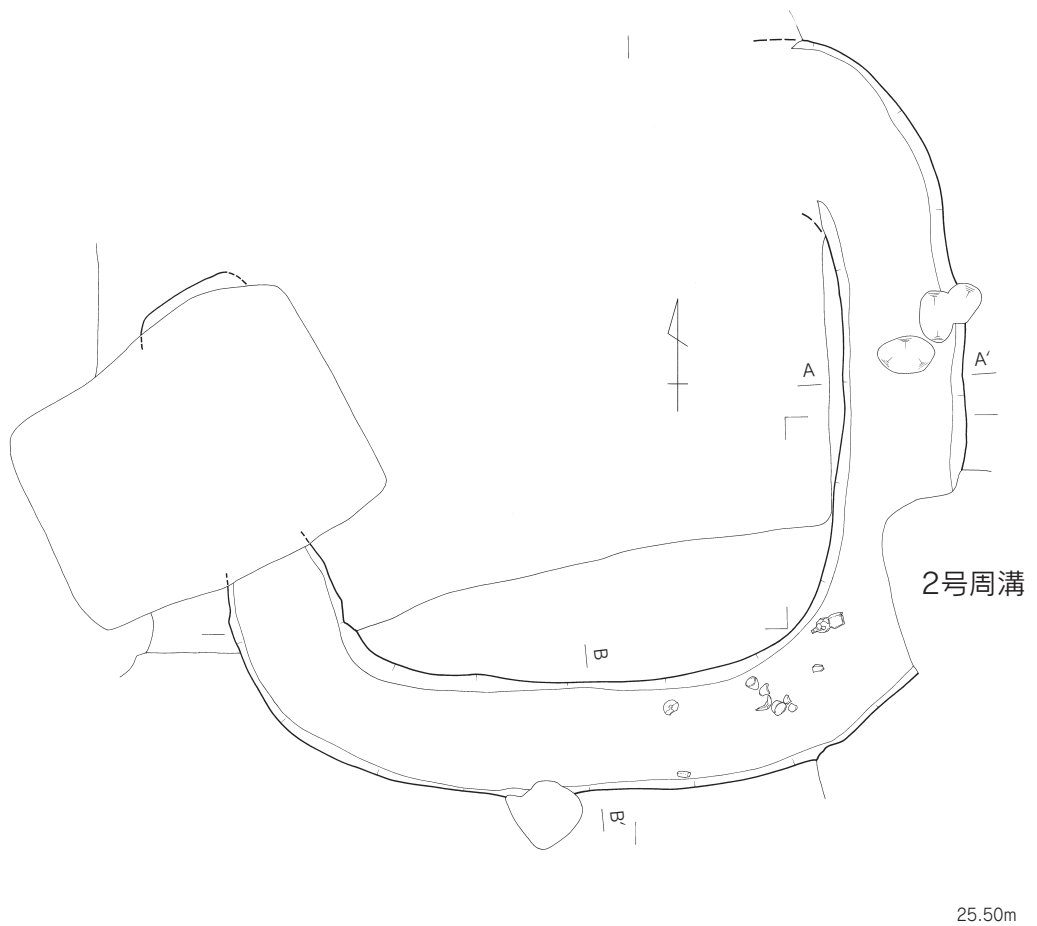
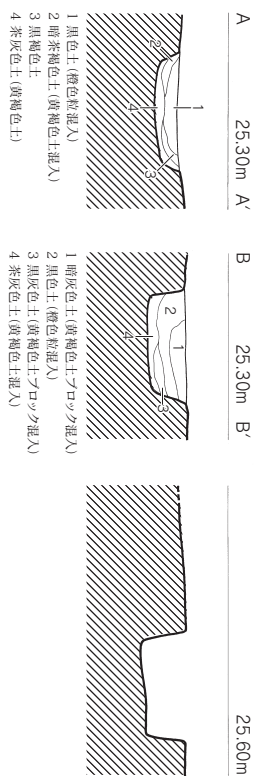
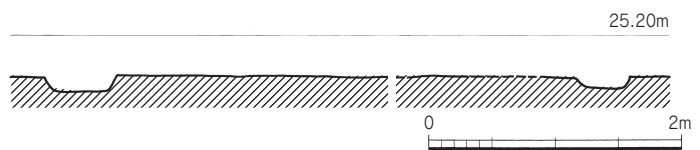
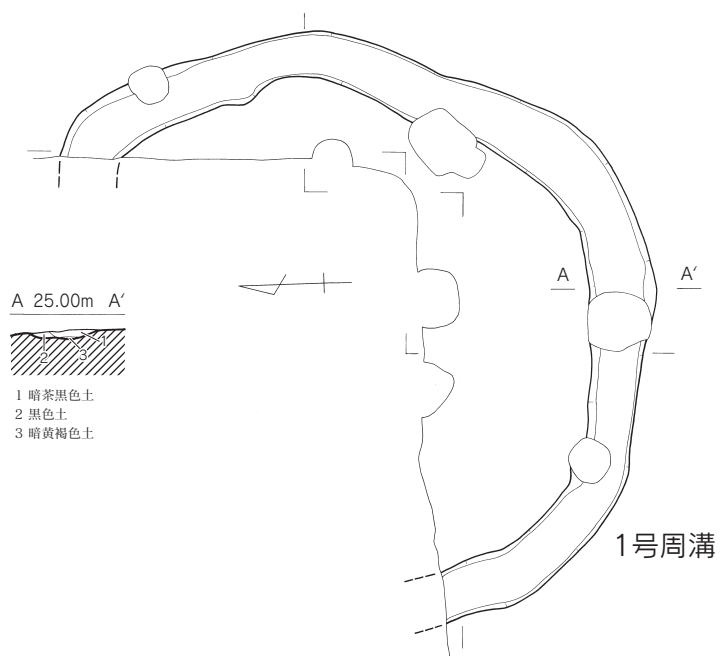
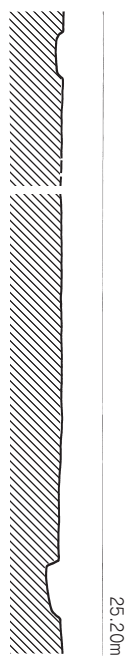
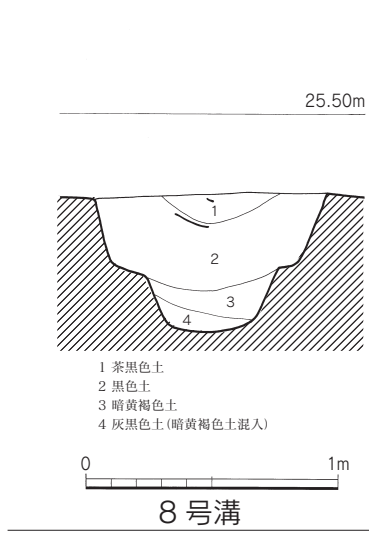
Ⅱ区の中央部西寄りに位置する。19号・21号住居跡よりも古く、29号土坑より新しい。当遺構のプランについては、円環状ではあるが、約6m×6mの隅丸方形に復元される。ただし、本来の形状が全周して完結するものかは、北西部の半部近くが19号住居跡に切られるため不明である。溝幅は95cm前後で、検出面から床面までの深さは約20～30cmである。床面のレベルは高低差33cmで、北部が高く西端が低くなっている。南東部の床面から約5cm浮いた位置に、弥生後期中頃の土器が集中して出土した。

## ⑦ ピット

調査区全体に多数のピットを検出した。規則的な配列を確認し掘立柱建物跡として前項で報告したもの以外にも、建物の柱穴とすべきものは多く存在すると考えられる。特にⅡ区の集中する建物群の周辺には、不揃いで貧弱なピット群が、3～4m程の範囲を取り囲んでいるように見える部分が所々に見受けられ、注意を要する。遺物が出土したピットは603個（Ⅰ区109個、Ⅱ区494個）あり、その内、本報告において図示した遺物が検出された27個のピットには遺構配置図に番号を付している。なお、発掘調査では、遺物の取り上げでⅠ区とⅡ区のもの混濁しないように、Ⅱ区のピット番号はP501から振り当てている。

## ⑧ 包含層（図版41－(3)）

Ⅰ区の中央部東側は、播鉢状の地形となっており、上層に茶黒色土、下層に黒色土が厚く堆積していた。本調査に先立って行った試掘時にトレンチを入れたのは、この中央部である。土器が多量に包含されており、とりわけ弥生後期のものが多いが、中期の土器片も若干見受けられた。出土遺物では上下層に明確な差異が認められず、同一レベルで中期と後期の土器が混在している。青銅器鋳型は上下層の境目付近で地山面から約35cm浮いた位置から出土した。



第 82 图 8号溝土層実測図 (1/30) / 1・2号周溝実測図 (1/60)

## (2) 遺物

### ① 土器 (図版 42～55、第 83～113 図、表 3)

#### 1号住居跡出土土器 (4～8)

4は袋状口縁壺の口縁部で、丹を施す可能性がある。5は壺に近いプロポーションを呈する甕。丸底に近いが僅かに底部がある。6は甕と思われる底部資料で、凸レンズ状に近い。7は鉢の口縁部片。8は鉢で底部を欠く。僅かにハケ目を残すが、ナデ仕上げ。

#### 5号住居跡出土土器 (9～15)

9・10は小形の壺の口縁部片。11～14は甕。11・12は口縁部片で、何れも小形品であろう。13・14は平底を呈する底部片。15は丸底の底部片。手捏土器に近い資料か。

#### 6号住居跡出土土器 (16～20)

16は底部を欠く小形の直口壺。口縁部と体部は接合しないため、図上復元した。17は甕の口縁部。18は平底の底部。19は小形の鉢。20は器台の裾部。

#### 7号住居跡出土土器 (21～31)

21は扁球形を呈する壺の体部。22～24は甕。22は完形に復元したが上半部と下半部は接合しないため、図上復元である。23は大形品の口縁部。口縁下に突帯を有す。24は大形品で、見かけの口縁部外面にはハケ目工具による圧痕があるため、接合部の可能性がある。25～28は底部。25は丸底様で、26～28は凸レンズ状である。29・30は鉢で、底部は凸レンズ状。29は大形品。31は高坏の坏部片。外反する口縁部を持つ。

#### 8号住居跡出土土器 (32～45)

32～36は壺。何れも小形の無頸壺である。34は甕に近い資料。35は壺の蓋で36とセットと考えた。37は甕の口縁部で風化のために、器壁が薄くなっている。38・39は底部。両者共に僅かに上底。40～45は鉢。40～43は小形品で、40・41が体部から口縁部が内湾気味に直立するのに対し、42・43は外に屈曲する口縁部を持つ。44・45は大形品で、42・43を大形にしたようなもの。

#### 9号住居跡出土土器 (46～53)

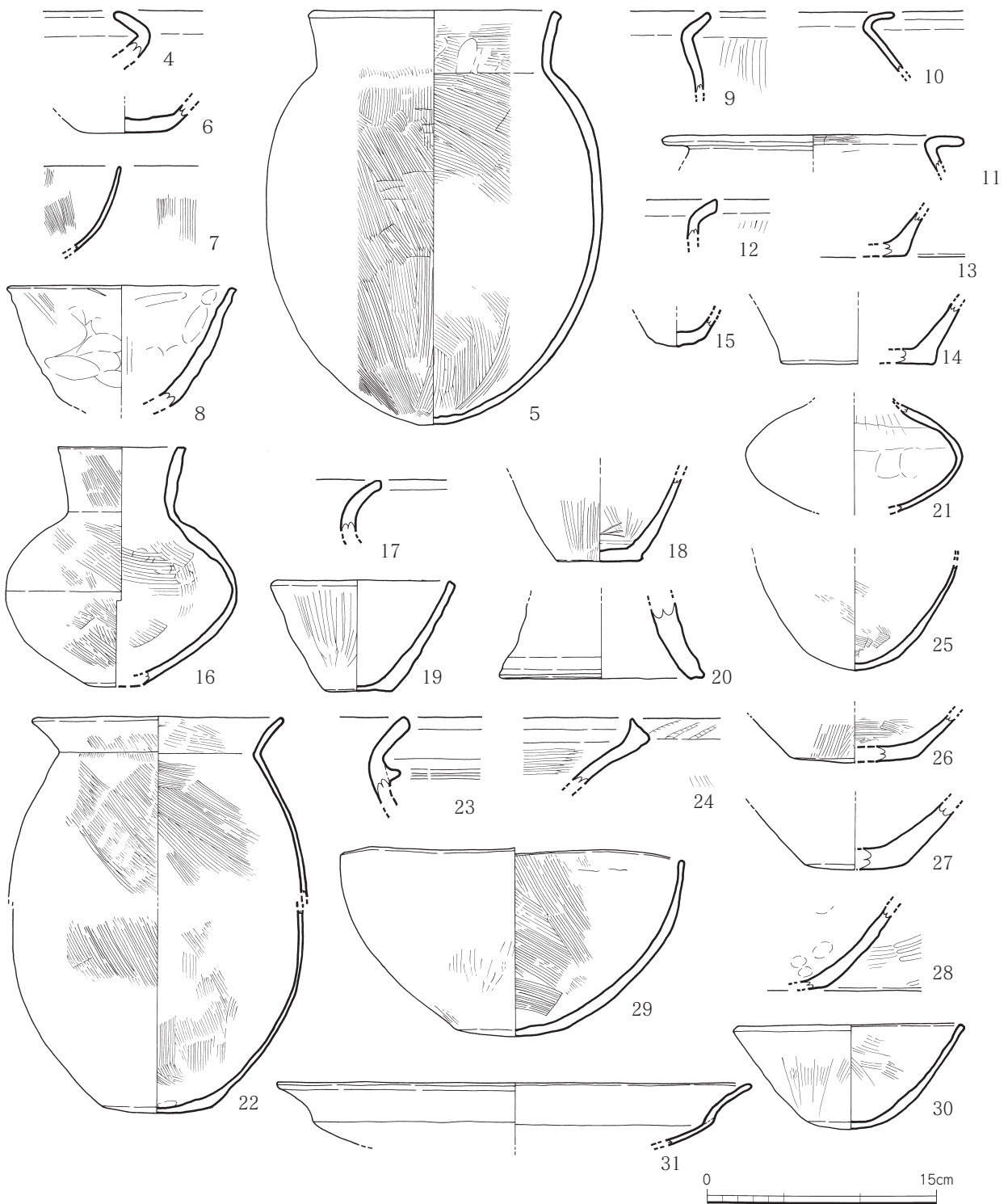
46～48は壺。46は鋤先口縁を持つ資料、47は瓢形土器の<sup>ひさご</sup>屈曲部、48は無頸壺の口縁部である。49～51は甕の口縁部片。52は甕の底部であろう。53は高坏の口縁部で、外面の口縁下には三角突帯を持つ。

#### 10号住居跡出土土器 (54～58)

54～58は底部資料。形状は、54・55は凸レンズ状、56・57は外側へやや突出させ、58は平底。57は壺の底部か。

#### 11号住居跡出土土器 (59～87)

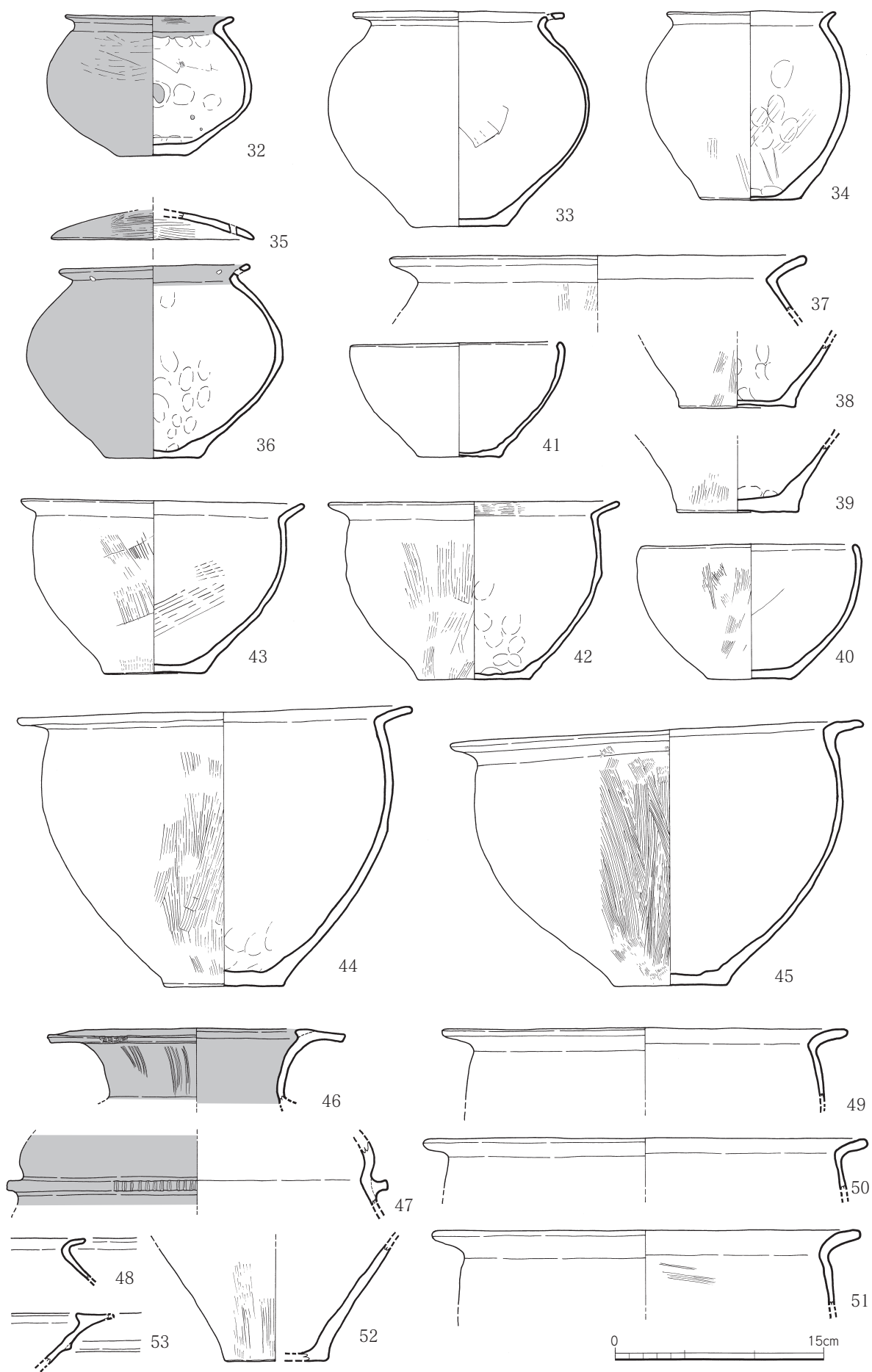
59は袋状口縁壺の口縁部。60～75は甕。60は完形品で、外面のハケ目は粗い。61～75は甕の口



第83図 1・5・6・7号住居跡出土土器実測図(1/4)

1号(4~8) 5号(9~15)  
6号(16~20) 7号(21~31)

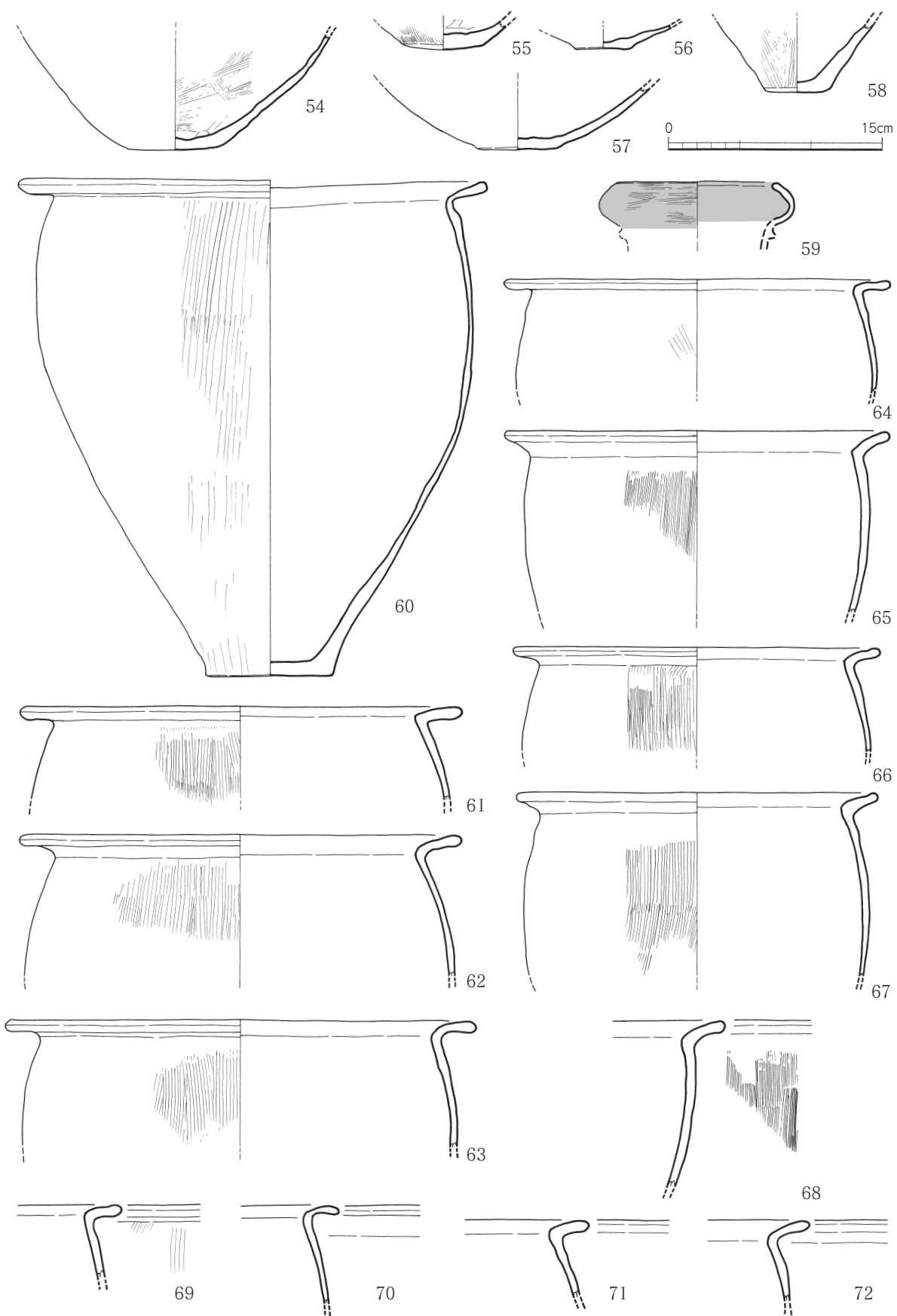
縁部で断面形が逆「L」字に近いものが多いが、63・70・72は内湾する。73・74は、断面形が「く」字に近く、73は内面を匙面状に仕上げる。76～81は甕の底部であろう。76・77は不安定な底部だが、基本は平底でよからう。78・79は上底、80・81は平底である。82は壺の蓋で、孔が1つ確認できる。83～87は器台で、83～85はハケ目調整で器壁の薄いもの。86・87は指ナデ・オサエで仕上げ、器壁が厚いもの。後者は支脚とした方が良くもしいない。



第 84 图 8·9号住居跡出土土器実測图 (1/4)

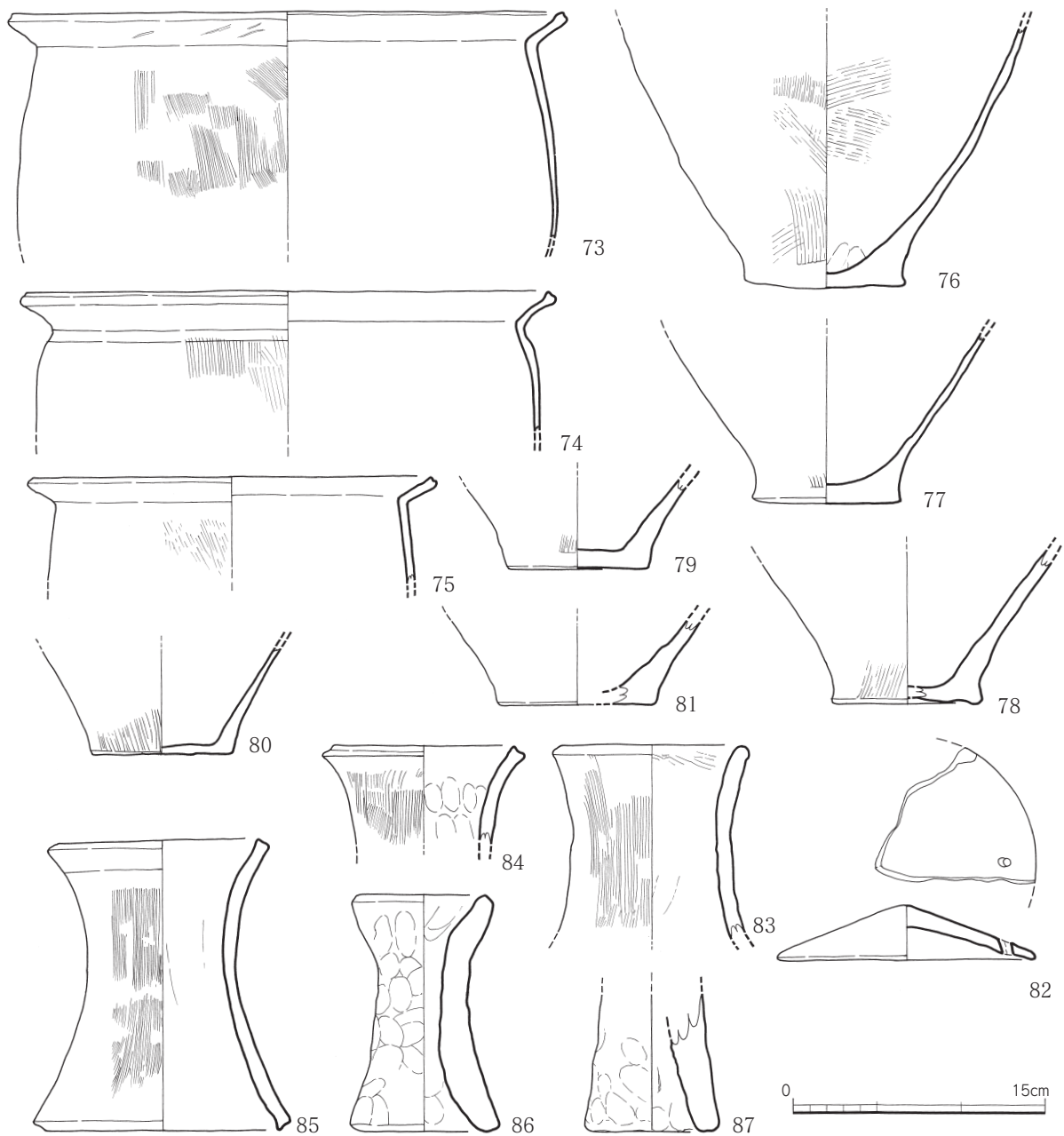
8号(32~45) 9号(46~53)





第 85 图 10·11 号住居跡出土土器実測圖 (1/4)

10号(54~58) 11号(59~72)



第 86 図 11 号住居跡出土土器実測図 (1/4)

**12号住居跡出土土器 (88 ~ 100)**

88 ~ 91 は壺。88 ~ 90 は複合口縁壺の口縁部。91 は壺の下半部で、底部は凸レンズ状であろう。92 ~ 94 は甕の口縁部。断面形は「く」字状で、92 は口縁下に突帯を付す。93 は壺に近いプロポーシオンを持つ胴部の張る資料。95 ~ 98 は底部。95・97 が凸レンズ状、96 は平底。98 は上底。99・100 は鉢の口縁部片。

**13号住居跡出土土器 (101 ~ 115)**

101・102 は壺。101 は複合口縁壺の頸部片で、体部との境には 2 条の三角突帯を付す。102 は甕に近い形状で、口縁部が短く外反するもの。103 ~ 110 は底部資料。103・106 ~ 110 は平底で、その他は凸レンズ状を呈する。111・112 は鉢。111 が底部から直線的に外傾しながら口縁部に至るのに対し、112 は内湾し口縁部に至る。共に底部にヘラケズリが認められる。113 は沓形器台。114 は鉢形の手

捏土器。115は瓦質土器で、外面には縄蓆文タタキを施す。

#### 14号住居跡出土土器 (116～120)

116は甕の口縁部。混入品であろう。117～119は底部で、117・118は丸底に近い資料。119は中期の甕の底部で平底である。混入品であろう。120は鉢。底部は丸底に近い。

#### 15号住居跡出土土器 (121～128)

121は複合口縁壺の口縁部。122は甕の口縁部片で、断面形は「く」字を呈する。123・124は底部。平底で、123は器壁が厚い。125は鉢。小形であることも関係するのか、調整は指ナデで丸底。126は外来系の高坏であろう。口縁部は屈曲部から上方へ外反する。127・128は鉢形の手捏土器。127は深く、128は浅い作りである。

#### 16号住居跡出土土器 (129～140)

129～131は壺。129は口縁部の内湾度は低いが、袋状口縁壺でよかろう。130は胴部でやや雑な感がある。131は瓢形土器。色調や胎土から同一個体と考えたが、口縁部(131-1)と肩部(131-2)は接合せず、図上復元も困難であった。132～134は甕の口縁部。135は平底を呈する底部資料。136～138は鉢。136は逆「L」字に近い口縁を持つもの。137は体部から内湾して口縁部に至る資料で、138は直立する体部上端を僅かに外へ屈曲させ口縁部を作り出すもの。139は鋤先口縁の高坏片。140は器台で、受部は複合口縁壺に近い形状である。

#### 17号住居跡出土土器 (141～163)

141～143は壺。141は複合口縁壺で、風化のために器壁は薄くなっている。頸部下には三角突帯が1条貼り付けられる。142は小形品で鉢に近い資料。143は壺の肩部片で刻み目を有する突帯を2条貼り付ける。下半には線刻が確認できるが詳細は不明である。同一個体と考えられるものが、P995からも出土する。144～149は甕で口縁部の断面形は「く」字状を呈する。144は小形品で、底部は平底だが、やや不安定な感がある。145は口縁下に三角突帯を持つもの。146～148は口径に比して胴部最大径が張るもの。149は頸部の屈曲が弱い資料。150～160は底部で、凸レンズ状のものが目立つ。156の内底部はクモの巣状にハケ目を施す。161は高坏の口縁部片。162・163は器台の裾部。162は直線的で、163は外反する。

#### 18号住居跡出土土器 (164～171)

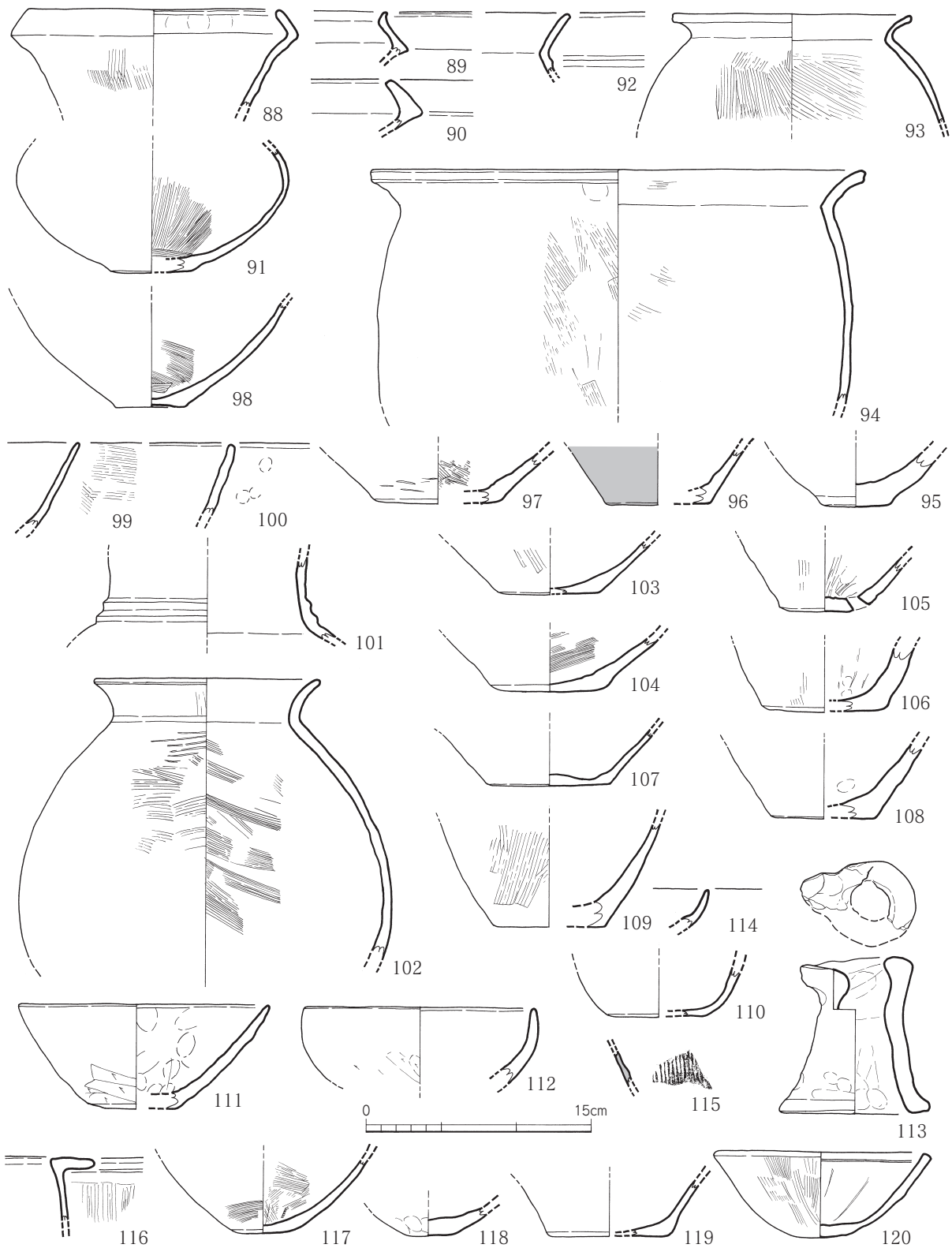
164は丸みを帯びた体部に、短く直立する口縁部が付くため壺と考えた。165～167は甕。165・166は口縁部の断面形が「く」字状を呈するもの。165は底部を欠くが、上半部は復元できた。168～170は凸レンズ状を呈する底部。171は器台の裾部。

#### 19号住居跡出土土器 (172～176)

172は底部片で、傾きから考えると壺の可能性があろう。173～175は鉢。173は大形品で、図上復元した。底部は丸底に近い。174・175は小形品の破片資料。176は高坏の脚裾片。

#### 20号住居跡出土土器 (177～185)

177は甕の口縁部片。178～183は底部。178・179・182・183はレンズ状ないしはそれに近い形、



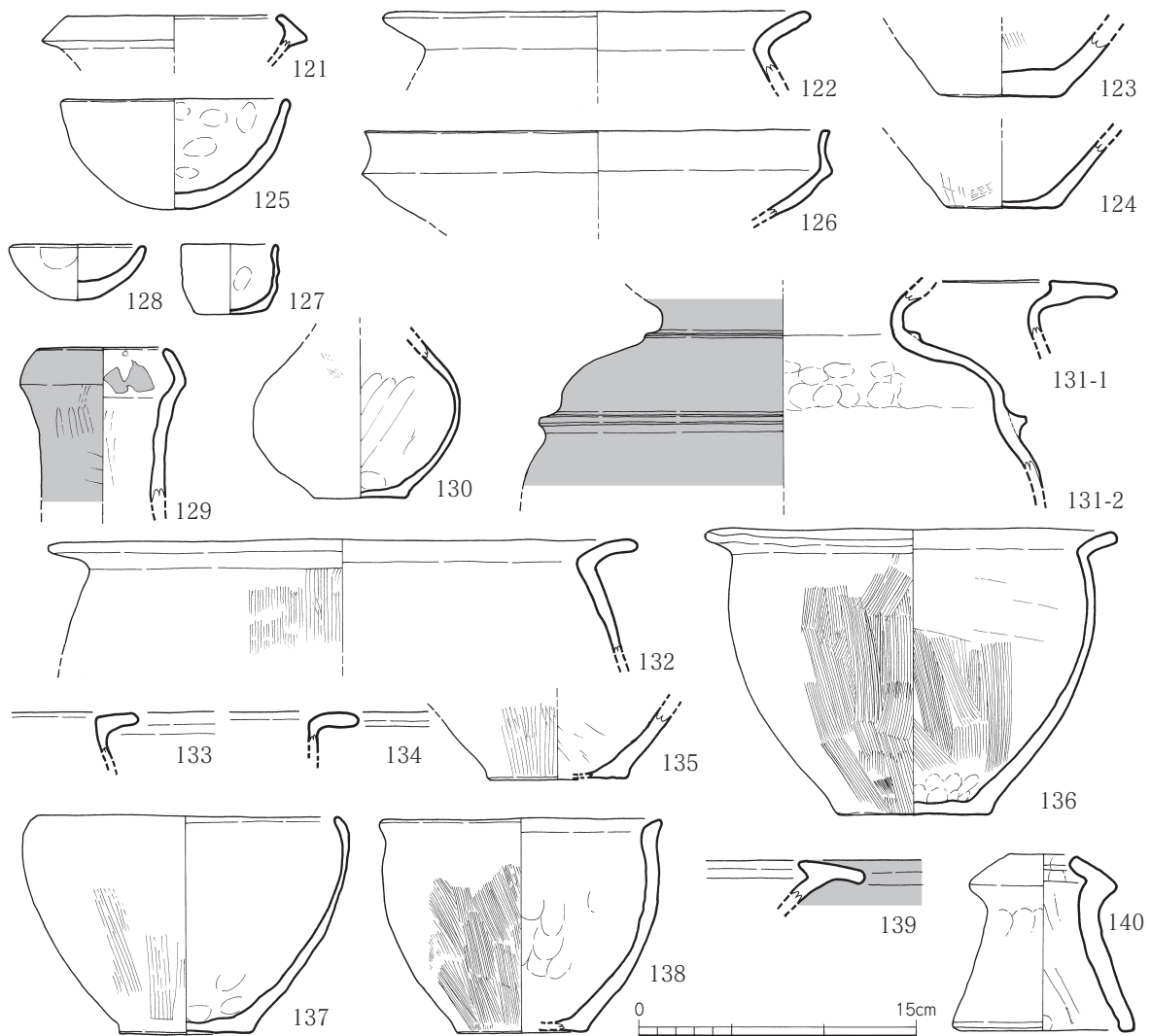
第 87 図 12・13・14 号住居跡出土土器実測図 (1/4)

12号(88~100) 13号(101~115)  
14号(116~120)

180 は平底、181 は底部の周縁部を貼り付けて成形した感がある資料。184 は直立気味の鉢の口縁部と考えた資料。185 は高坏の口縁部片。

**21号住居跡出土土器 (186 ~ 192)**

186 は壺の上半部。丸みを持つ体部に直立気味の短い口縁部が付く資料。187・188 は甕の口縁部で、



第 88 図 15・16 号住居跡出土土器実測図 (1/4)

15号(121~128) 16号(129~140)

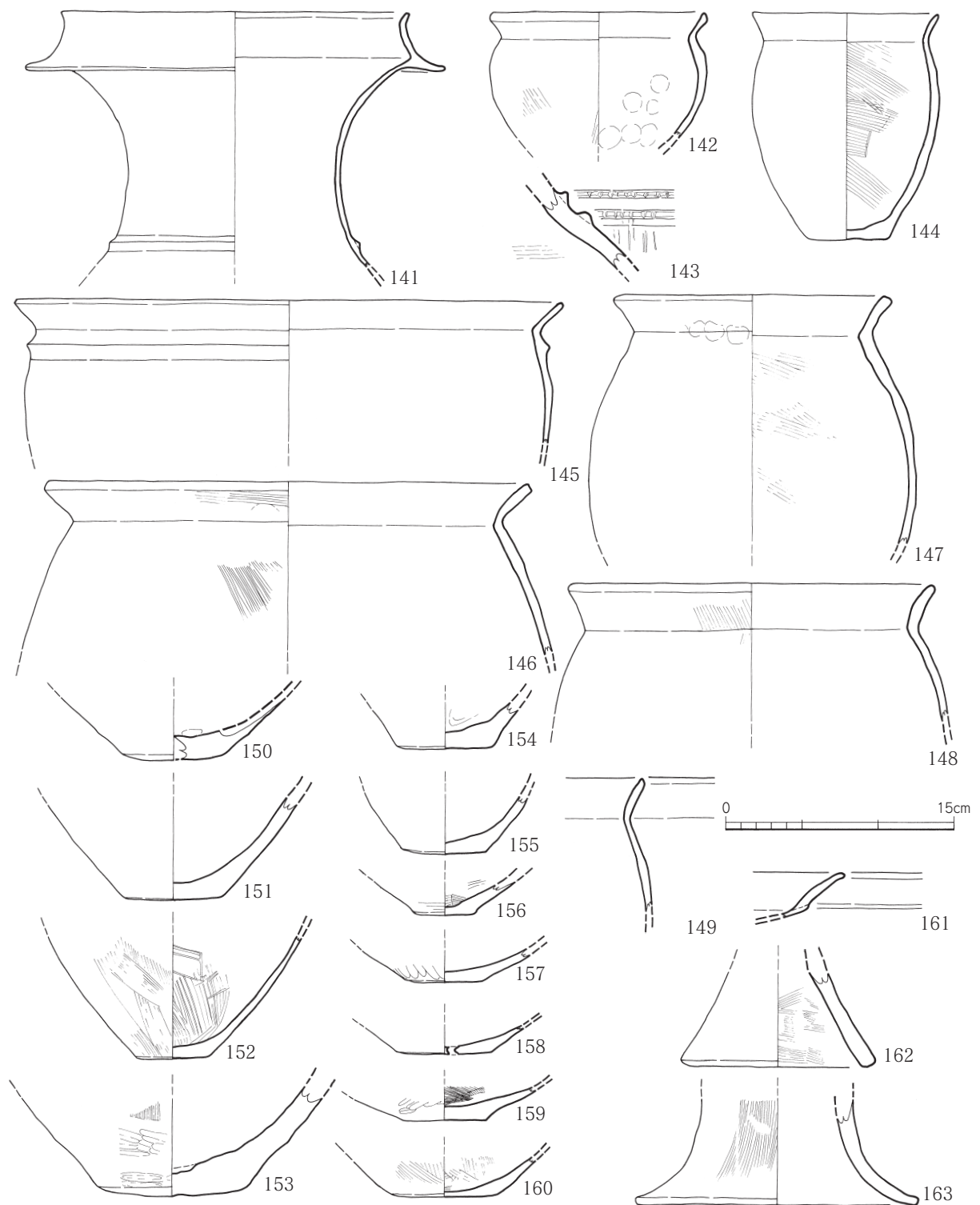
断面形は「く」字状を呈する。189～191は底部片。189は平底、191は凸レンズ状で、190はその中間的な形態のもの。192は鉢で、残存部から考えると凸レンズ状の底部が復元できる。

#### 22号住居跡出土土器 (193～208)

193は鋤先口縁を持つ壺の破片。194～199は甕の口縁部。195は内側を嘴状に突出させ、外側にやや垂下し、外口縁は端部に刻み目を施す。199は胴部に丸みがある資料。200～203は底部。若干上底气味のものもあるが、基本的には平底。204・205は鉢。206は高坏で、脚裾部を欠く。磨滅が著しいため、口縁外端部は少し延びる可能性がある。207は器台の裾部。器壁が厚く、調整は指ナデを施す。208は壺の蓋。磨滅が著しく残りが悪いが、孔が確認できる。

#### 23号住居跡出土土器 (209～224)

209は大形の無頸壺で、2つの孔が確認できる。210～215は甕の口縁部。中形の215の口縁部は内面がやや匙面状を呈し、口縁下に三角突帯を貼り付ける。216～224は底部。220などのように上底气味のものもあるが、平底が多い。また、217～219の底部の器壁は1cm以上と厚い。

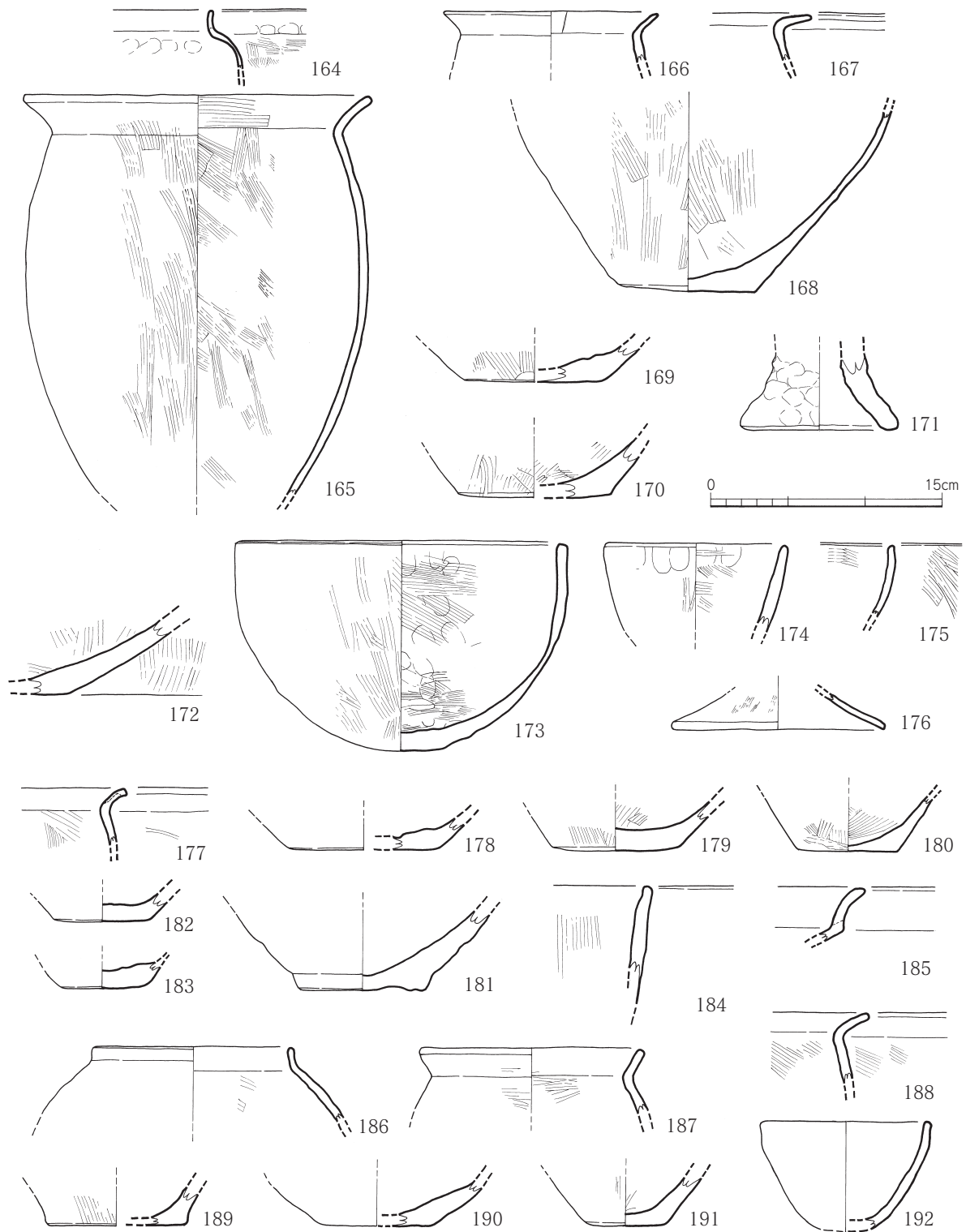


第 89 図 17 号住居跡出土土器実測図 (1/4)

24号住居跡出土土器 (225 ~ 244)

225 は短く外傾する壺の口縁部。226 ~ 234 は甕。断面形は「く」字状を呈すが、230 ~ 232 の頸部の締りは弱い。231・232 の胴部上半の外面にはタタキ目をよく残す。232 は接合しないものの、口縁部 (232-1) と底部 (232-2) があり、底部は凸レンズ状を呈し、ヘラケズリで調整を行う。

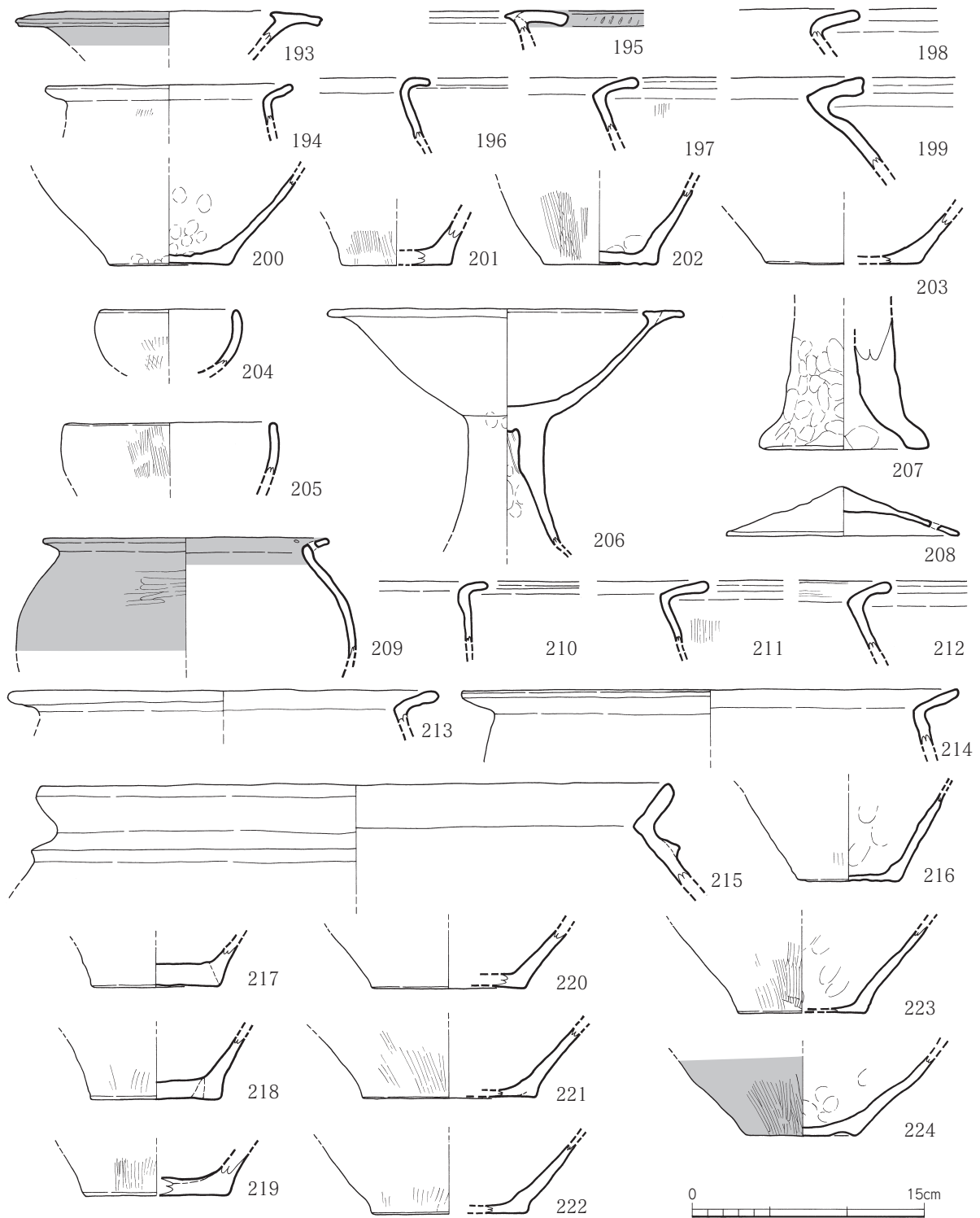




第90図 18・19・20・21号住居跡出土土器実測図 (1/4)

18号(164~171) 19号(172~176)  
20号(177~185) 21号(186~192)

233・234は胴部がやや張る資料。235～237は底部で、凸レンズ状を呈する。238～240は鉢。238は大形品で、口縁部を外に屈曲させるもの。底部は欠損するが、僅かに周縁部が残存するため凸レンズ状に復元できる。239・240は小形品。239は尖底土器に近いプロポーシオン、240は半球形である。241～243は高坏の坏部。241は口縁部が内湾し、242・243は屈曲部から短く外反するもの。244は瓦質土器の破片資料。外面には縄蓆文が施される甕であろう。



第91図 22・23号住居跡出土土器実測図(1/4)

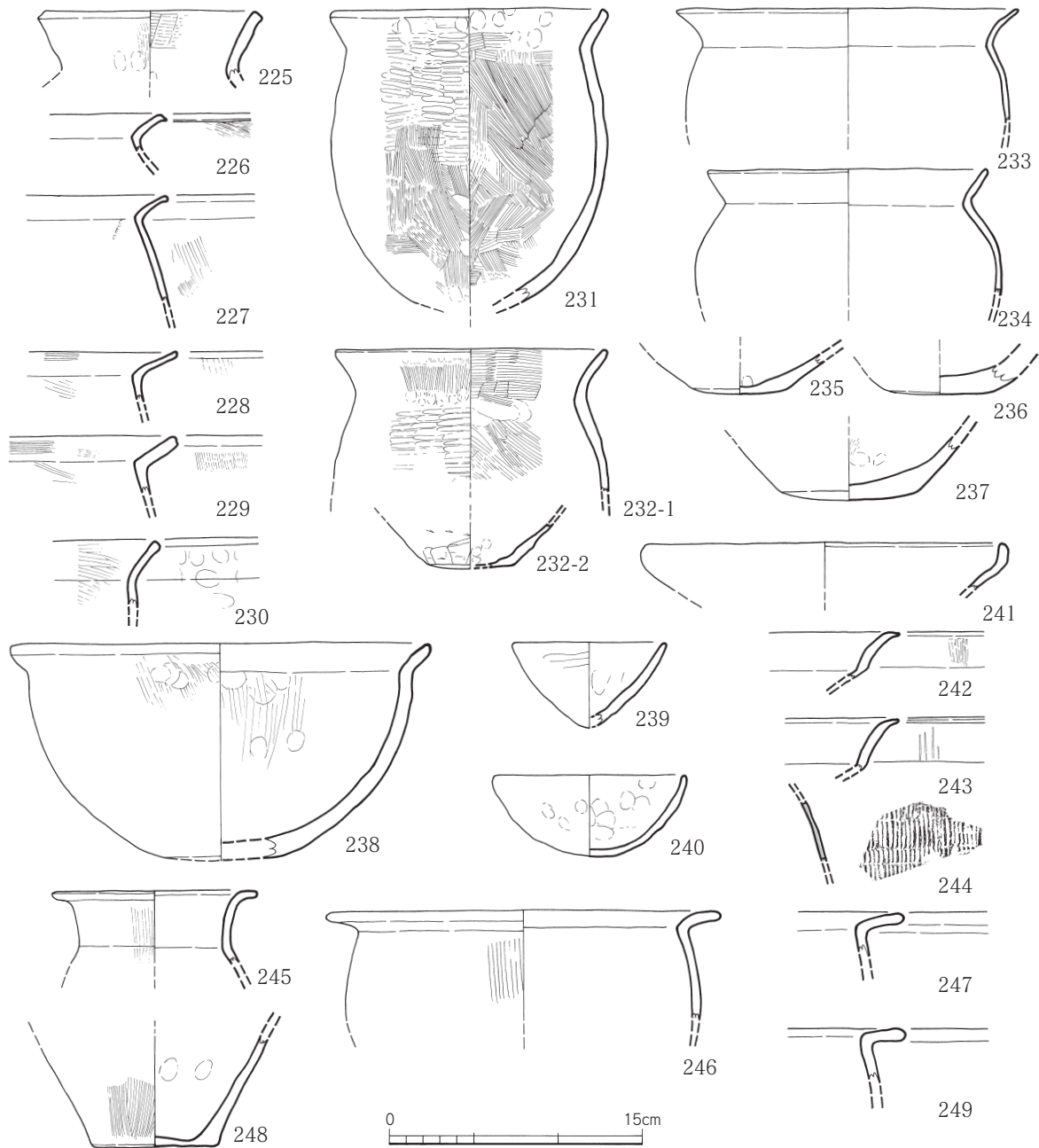
22号(193~208) 23号(209~224)

**25号住居跡出土土器 (245 ~ 248)**

245 は小形の壺の上半部。口縁部は肩部からやや外傾し、端部は外に屈曲し丸く収める。246・247 は甕の口縁部で、断面形が逆「L」字に近いもの。248 は平底の底部。甕であろう。

**26号住居跡出土土器 (249)**

249 は甕の口縁部の小片。

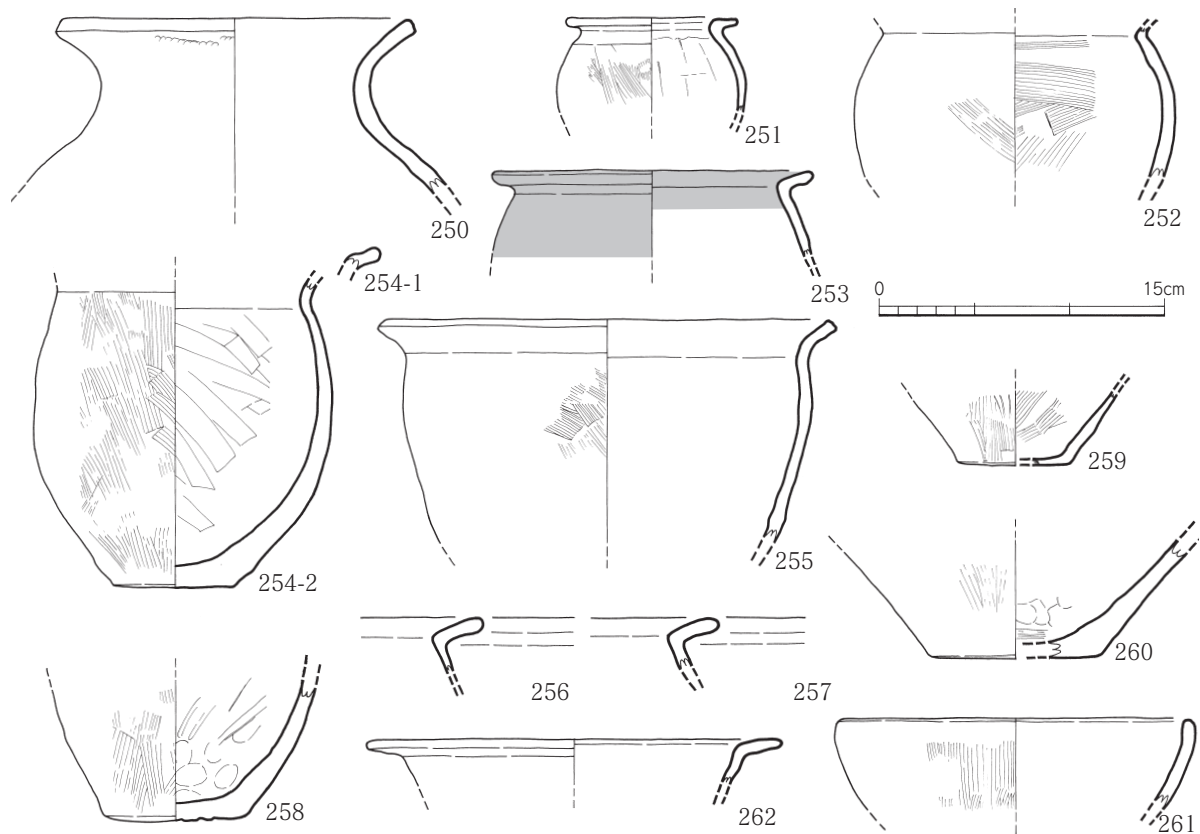


第92図 24・25・26号住居跡出土土器実測図(1/4)

24号(225~244) 25号(245~248)  
26号(249)

27号住居跡出土土器 (250 ~ 262)

250 ~ 252 は壺。250 は上部の資料で、体部と口縁部の境は緩やかなために不明瞭。251 は小形の無頸壺。口縁部の上面は水平。252 は壺の体部と考えた資料。253 ~ 257 は甕の口縁部。断面形は「く」字に近い。253 は小形品で、外面に丹を塗布する。254 は口縁部を殆ど欠く資料(254-2)。同一個体と考えられる口縁部小片(254-1)がある。接合はできず、傾きも不明だったために図上復元できなかった。255 は頸部の締りが弱く、胴部下半が窄まる資料。256・257 は口縁部の小片。258 ~ 260 は底部。258 は凸レンズ状、259・260 は平底に近いが、僅かに凸レンズ気味の底部を持つ。261・262 は鉢。261 は口縁部が若干内湾するもの。262 は口縁部が外に屈曲し広がるもの。



第93図 27号住居跡出土土器実測図(1/4)

**28号住居跡出土土器 (263～289)**

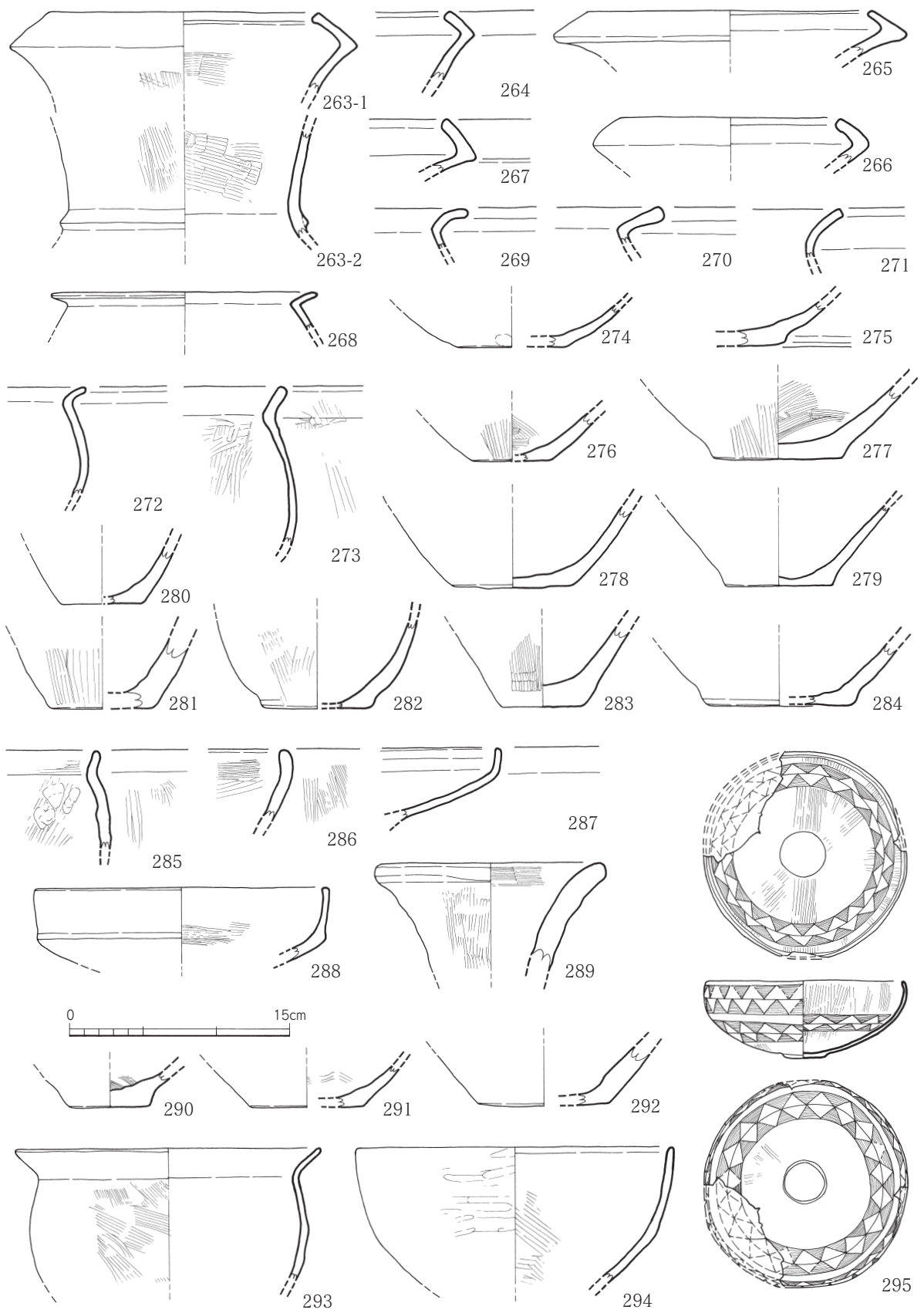
263～267は複合口縁壺。263は上半部と下半部が接合しないが、色調、調整などから同一個体と判断したもの。265は口縁部の屈曲がきつい資料。268～273は甕の口縁部。断面「く」字状を呈し、269は大きく外反、271・273の屈曲は弱い。274～284は底部。275・276・278は凸レンズ状の底部を持つが、その他は平底。275は傾きから考えて壺の可能性があろう。285・286は鉢。285は粗雑な作りで、傾きも確かではない。286は口縁部をやや内湾させるもの。287・288は高坏の坏部で、両者共に屈曲部から口縁部が直立する。288は復元径が20cm程度と小さいため壺の可能性もあろう。289は器台の上半部。ハケ目で調整を施し、器壁は厚い。

**29号住居跡出土土器 (290～295)**

290～292は底部。290は厚みがある平底、291は平底、292は凸レンズ状をなす。293～295は鉢。293は口縁部を外傾させるもの。294は体部から直立する口縁を持つ資料で、外面にはタタキ目が残る。295は鋸歯文土器。胎土は精製で非常に丁寧に製作されている。金属などの鋭い工具によって、内外面に鋸歯文や沈線文を施す。

**30号住居跡出土土器 (296～316)**

296～299は壺。296～298は複合口縁壺の口縁部。296・297は屈曲部に稜を持つが、298は丸みを持つ。299は小形品で、扁球形の体部片。直口壺であろうか。300は甕の口縁部小片で、断面形は「く」字状を呈する。301～308は底部。301・302・306は平底、303・305・307・308は凸レンズ状、304



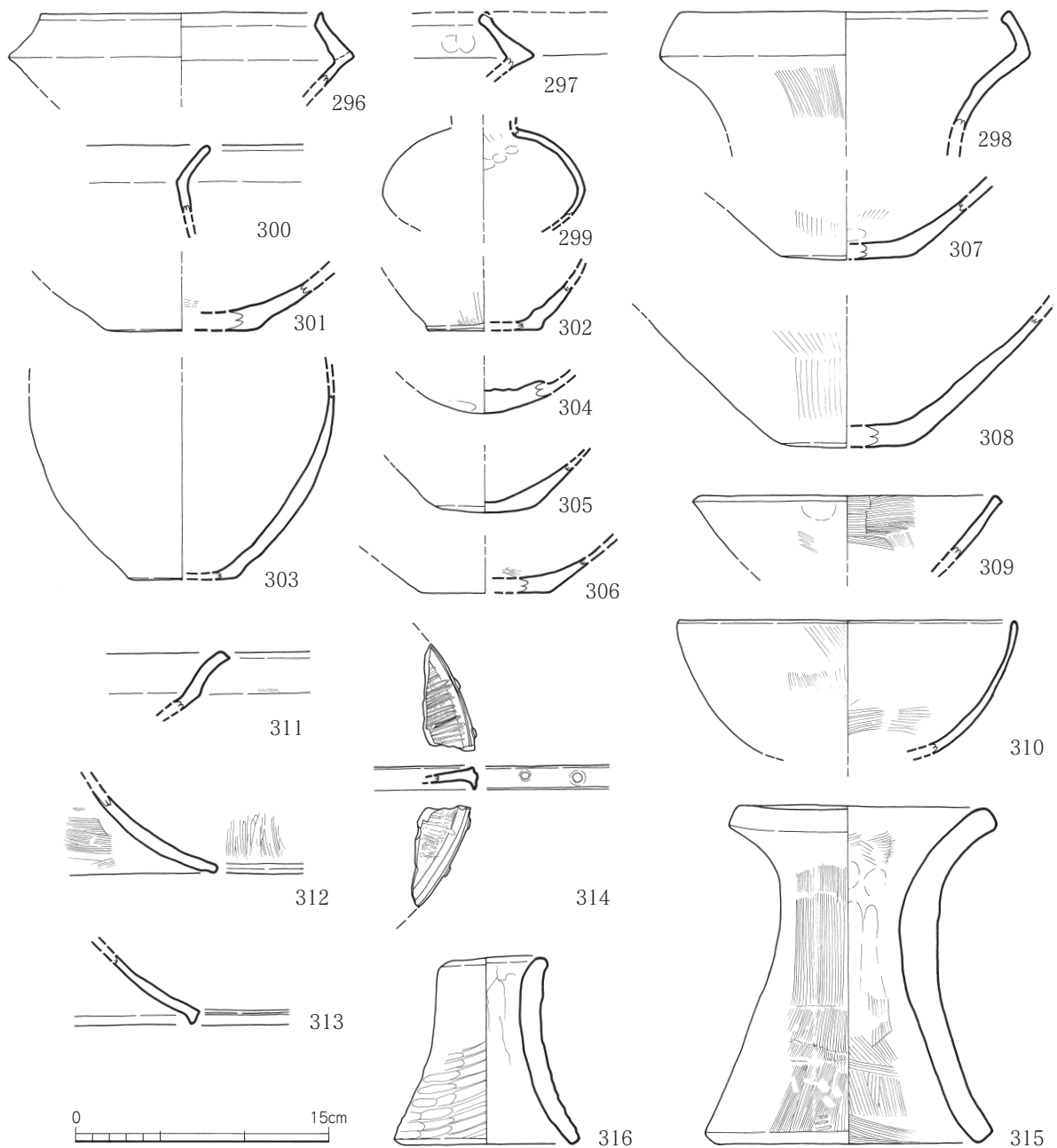
第94图 28·29号住居跡出土土器実測图(1/4)

28号(263~289) 29号(290~295)

は丸底に近い。308はやや大ぶりの甕であろう。309・310は鉢。309は底部から直線的に口縁部にいたるもの。310は半球形に近いプロポーションのもの。311～313は高坏。311は口縁部片で、屈曲部から短く外反する。312・313は脚裾部の破片。端部は、312が丸く、313は下方へ鋭く突出させる。314は外来系の土器で、器台か高坏であろう。内外面ともにヘラミガキを施し、口縁部には2つの浮文を確認できる。315・316は器台。315は鼓形を呈し、ハケ目調整を施す完形品。316は支脚とした方が良いかもしれない。外面にはタタキ目が残る。

**31号住居跡出土土器 (317～331)**

317・318は複合口縁壺。317の頸部と胴部の境には三角突帯を貼り付ける。318は破片資料で、屈曲部に突帯を貼り付け、外面には鋸歯文や波状文を施す。外来系か。319～322は甕。319は胴部が



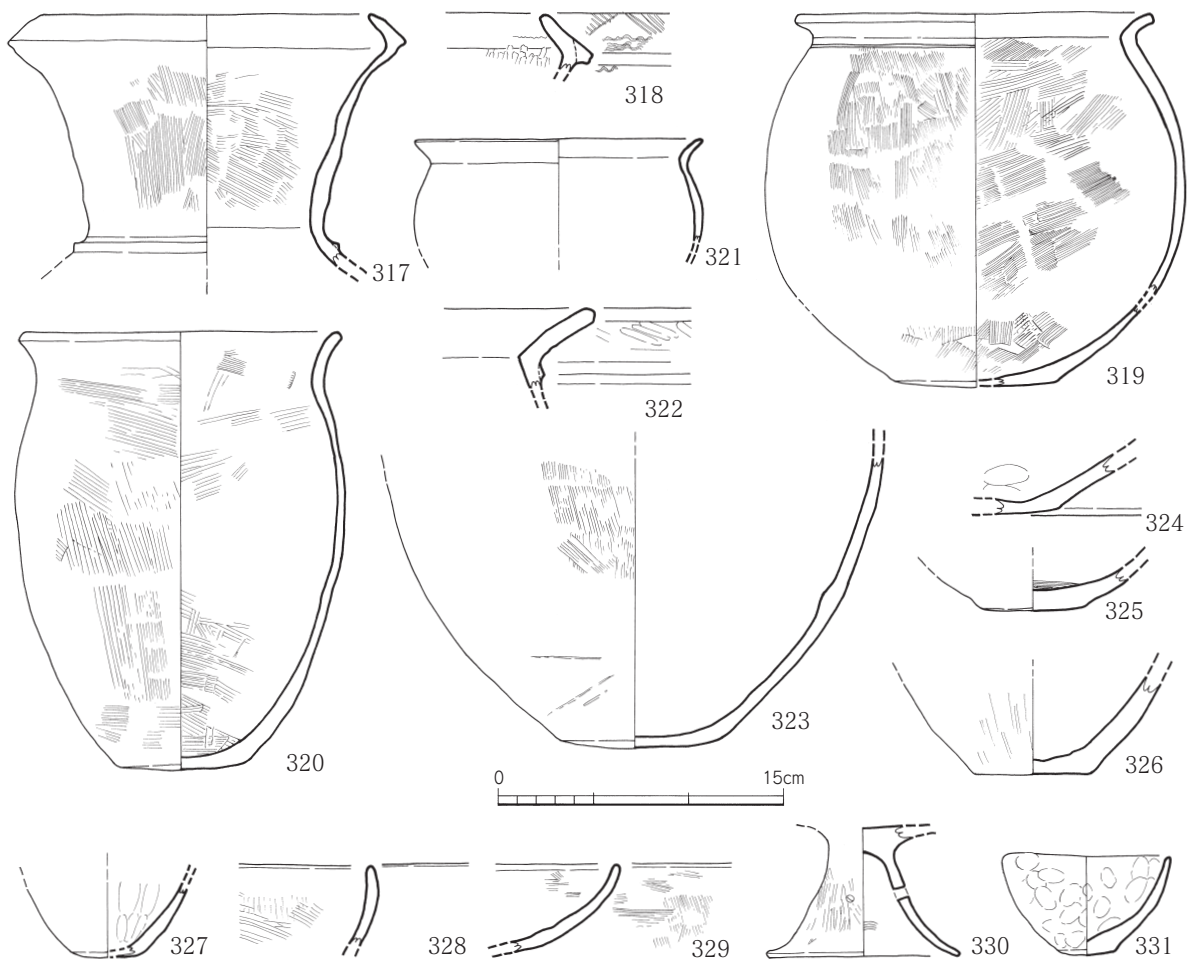
第95図 30号住居跡出土土器実測図 (1/4)



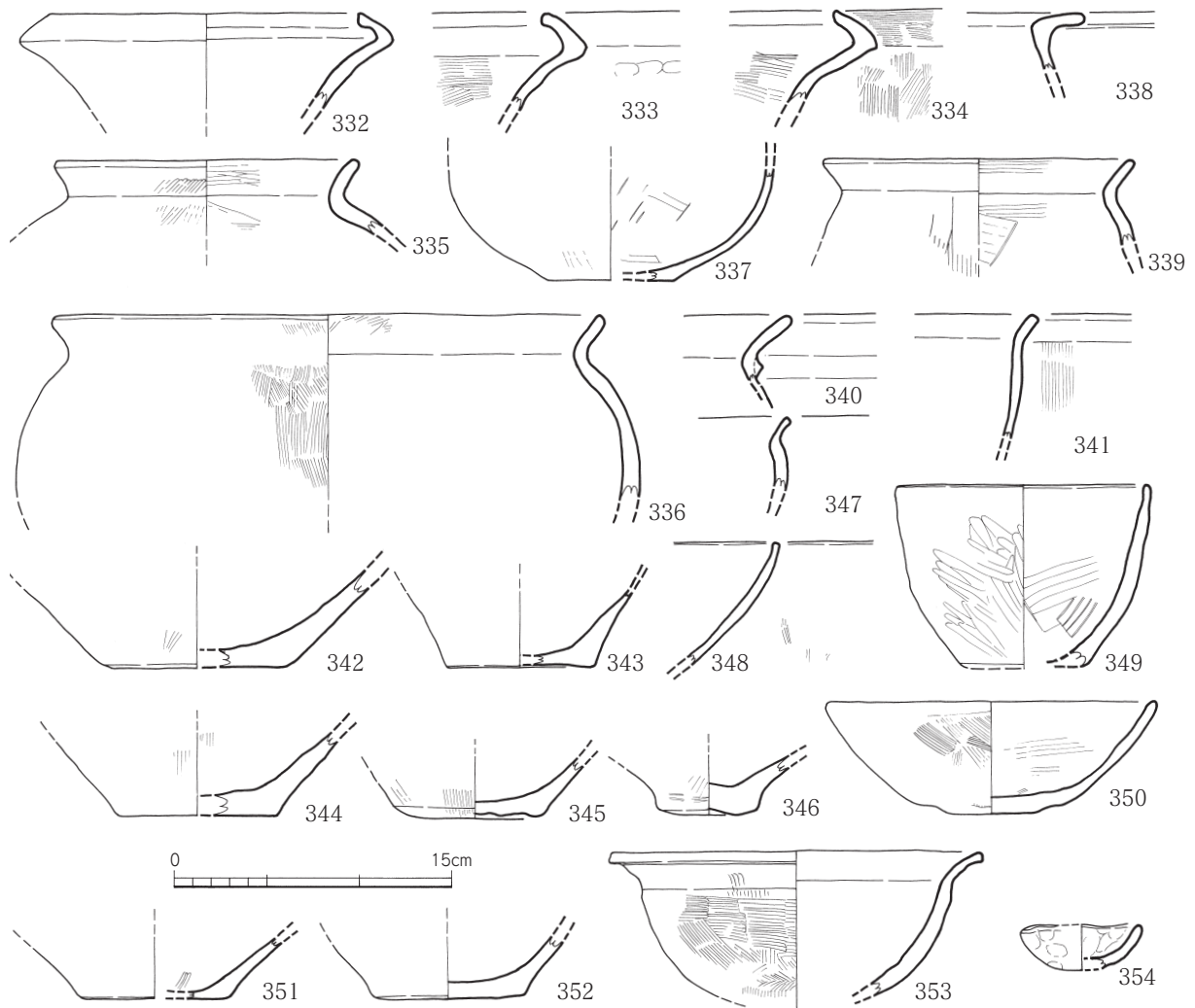
丸いために壺に近い形態のもの。接合しないが、図上復元した。320は完形に復元できるもの。口縁部の屈曲は弱く、胴部最大径は口径と殆ど同じである。底部は凸レンズ状を呈する。321は小形の甕の上半部。322は甕の口縁部片で、断面形は「く」字状を呈し、口縁下に突帯を付すもの。外面にタキ目が残存する。323～327は底部。326は平底だが、その他の底部は凸レンズ状である。325は壺の可能性があろう。328・329は鉢の口縁部。329は浅い作りのものと復元できる。330は脚台部。高坏にしては小ぶりのため、脚付鉢などか。331は鉢形を呈する手捏土器。底部は凸レンズ状である。

### 32号住居跡出土土器 (332～350)

332～337は壺。332～334は複合口縁壺の口縁部、335・336は短く外反する口縁部に丸みの強い体部が付く資料。337は壺の底部で平底。338～341は甕の口縁部で、断面形は、338は逆「L」字に近いが、その他は「く」字状を呈す。340は口縁下に三角突帯を持ち、341は屈曲度の弱いもの。342～346は底部。342・345は凸レンズ状をなす。343・344は平底で、混入品と考えられる。346は下方へ小さい底部が突出するもの。底部は上底で器壁が厚い。347～350は鉢。347・348は口縁部の破片資料で、347は外に口縁部を屈曲させるもの。348は直線的に延びる体部から内湾気味に口縁が延びるもの。349は器高がある資料で、外面にはヘラミガキを施す。350は348に近いプロポーシオンを持ち、反転復元のため不明確だが、底部は凸レンズ気味か。



第96図 31号住居跡出土土器実測図 (1/4)



第 97 図 32・33 号住居跡出土土器実測図 (1/4)

32号(332~350) 33号(351~354)

**33号住居跡出土土器 (351 ~ 354)**

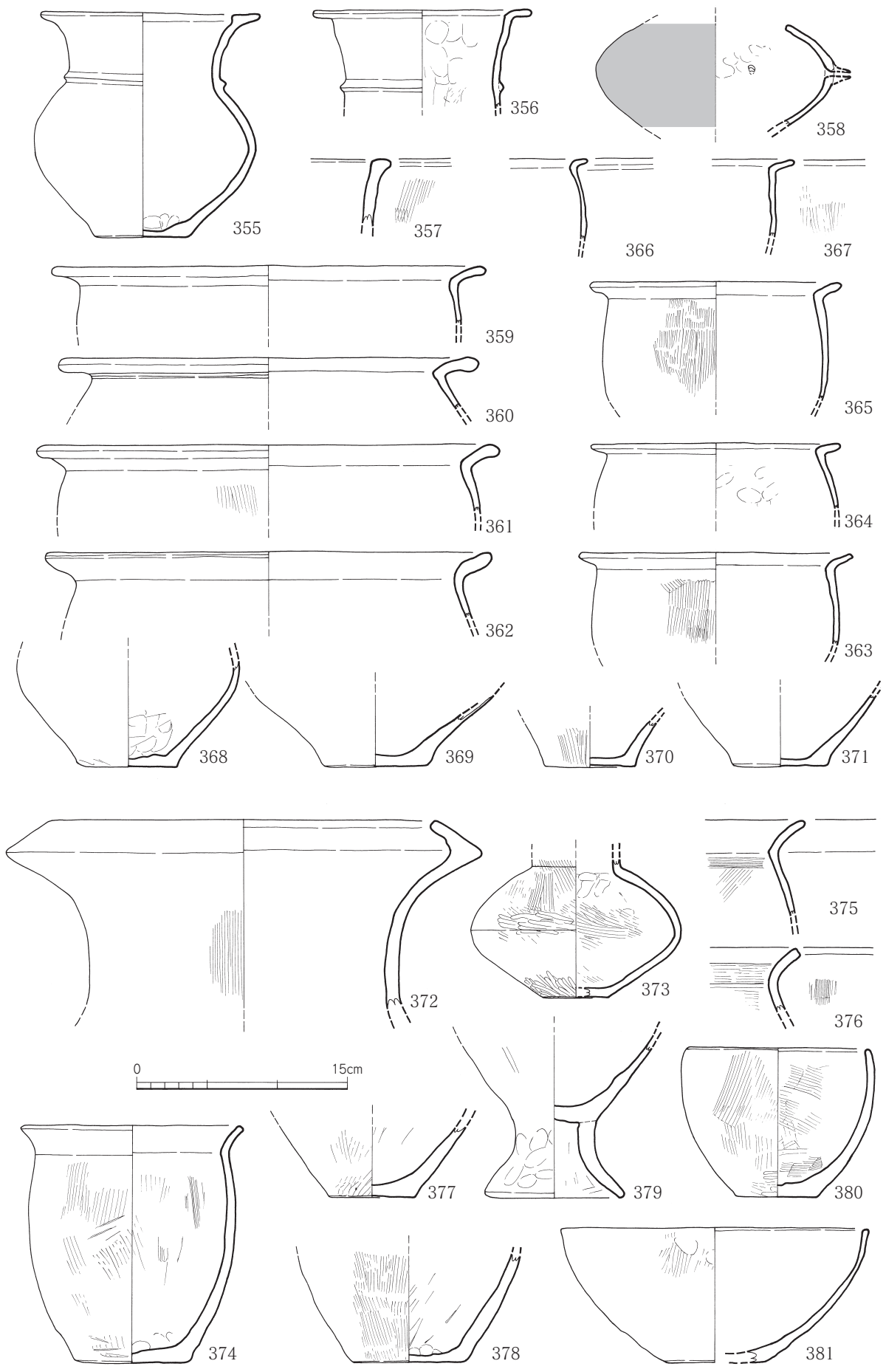
351・352 は底部。351 は平底、352 は凸レンズ気味のもの。353 は鉢で、口縁部は屈曲し外反する。354 は鉢形の手捏土器で、底部を欠く。

**34号住居跡出土土器 (355 ~ 371)**

355 ~ 358 は壺。355 は小形の広口壺で、口縁部はやや内側を突出させ、上面は水平。頸部と体部の境に三角突帯を付し、底部は平底。356 は 355 に近いもの。口縁部の内側を突出させないことや、突帯を頸部下半に付すなどの違いもある。357 は小片のため不確かだが、直口壺の口縁部と考えた。358 は丹塗壺の体部片。胴部の最大径に穿孔を持ち、剥落痕もあるため、注口を持つものと考えた。359 ~ 367 は甕の口縁部。359 ~ 361 は口縁部が外反するもの。362 は内面を匙面状にやや窪ませるもの。363 ~ 367 は小ぶりの甕。368 ~ 371 は底部で、すべて平底を呈する。傾きなどから考えると 368・369 は壺、370・371 は甕であろう。

**35号住居跡出土土器 (372 ~ 381)**

372・373 は壺。372 は複合口縁壺、373 は扁球形を呈する体部で、底部は平底。直口壺か。外面の



第 98 图 34·35 号住居跡出土土器実測図 (1/4)

34号(335~371) 35号(372~381)

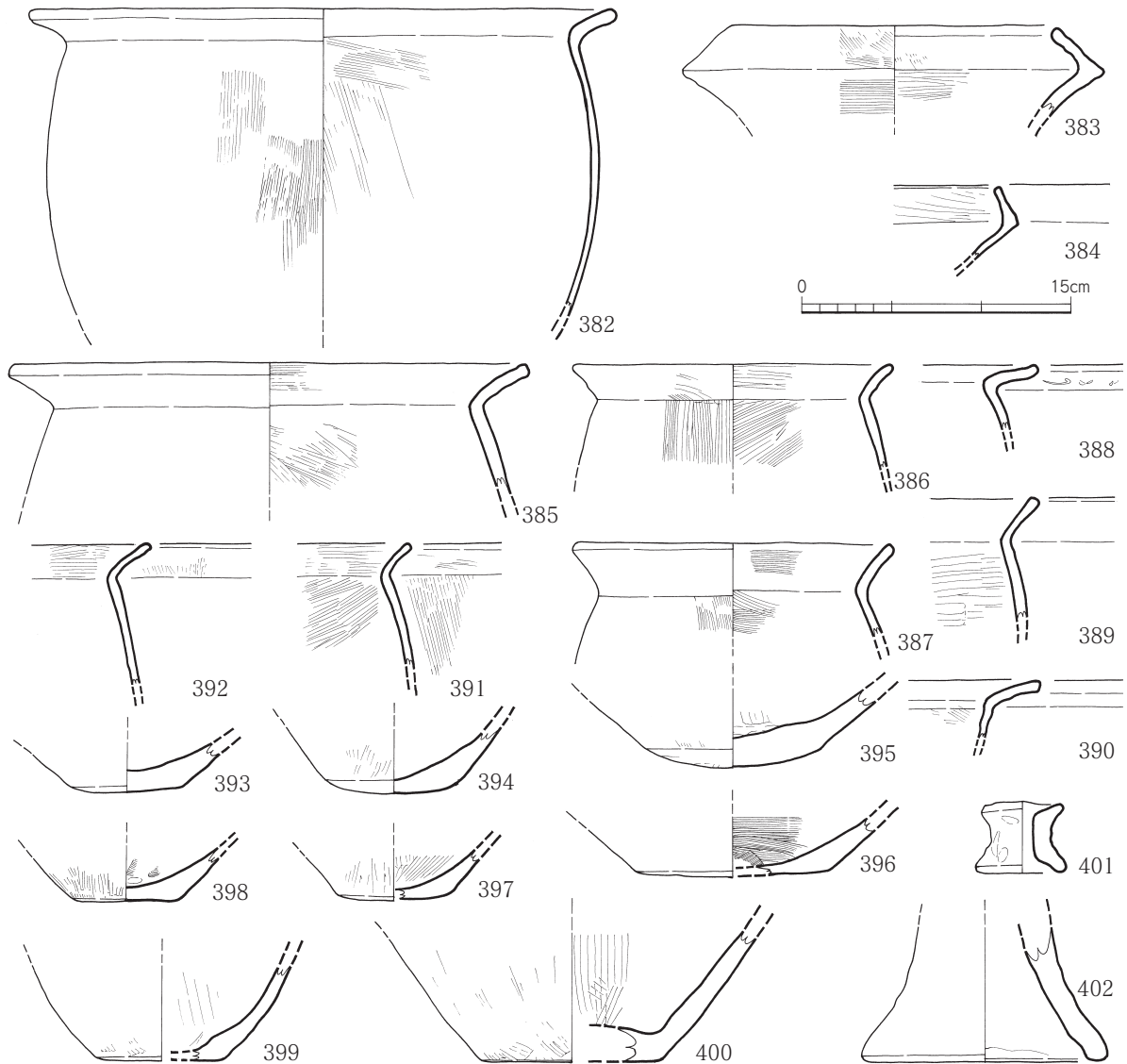
下半にはヘラミガキを施す。374～376は、口縁部の断面が「く」字状を呈する甕。374はやや小ぶりの甕で、口縁部の屈曲度は弱く、底部は平底。外面にタタキ目を残す。375・376は小片の資料。377・378は平底の底部。379は底部に脚台を付けた資料で、台付甕か。380・381は鉢。380は平底で、やや内湾する体部から口縁部へと至る資料。体部と底部の境にはタタキ目が残る。381は底部を欠損するが、残存部から凸レンズ状の底部が復元される。体部は開きながら口縁部へと至る。

**36号住居跡出土土器 (382)**

甕の上半部。「く」字に近い口縁部を有し、胴部はやや丸みを帯びるが、最大径は口径よりも小さい。

**37号住居跡出土土器 (383～402)**

383・384は複合口縁壺。385～392は甕の口縁部。断面形は「く」字状をなす。なお、390は小片のため傾きが不明確で、鉢の可能性もあろう。393～400は底部。393～397は凸レンズ状、398～400は平底である。401・402は器台。401は小形のため手捏土器とした方がよい資料かもしれない。402は裾部片で、磨滅が著しいが、タタキ目を施した可能性がある。



第99図 36・37号住居跡出土土器実測図 (1/4)

36号(382) 37号(383～402)

### 38号住居跡出土土器 (403～418)

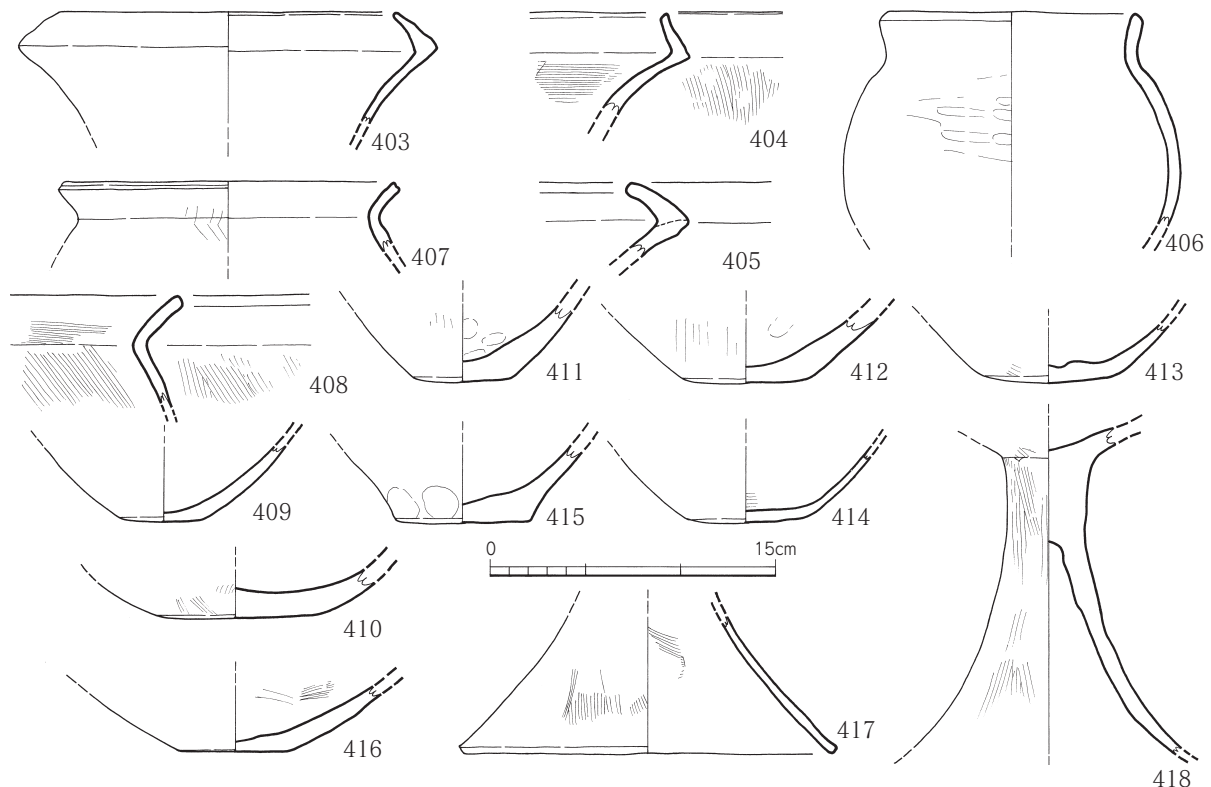
403～406は壺。403～405は複合口縁壺の口縁部片。406は丸みを持つ体部から、口縁部が短く延びる壺。外面にはタタキ目を施す。407・408は甕の口縁部片。両者共に断面形は「く」字を呈する。409～416は底部。415・416は平底で、他は凸レンズ状を呈する。417・418は高坏の脚部。調整は両者共にハケ目を施す。

### 39号住居跡出土土器 (419～438)

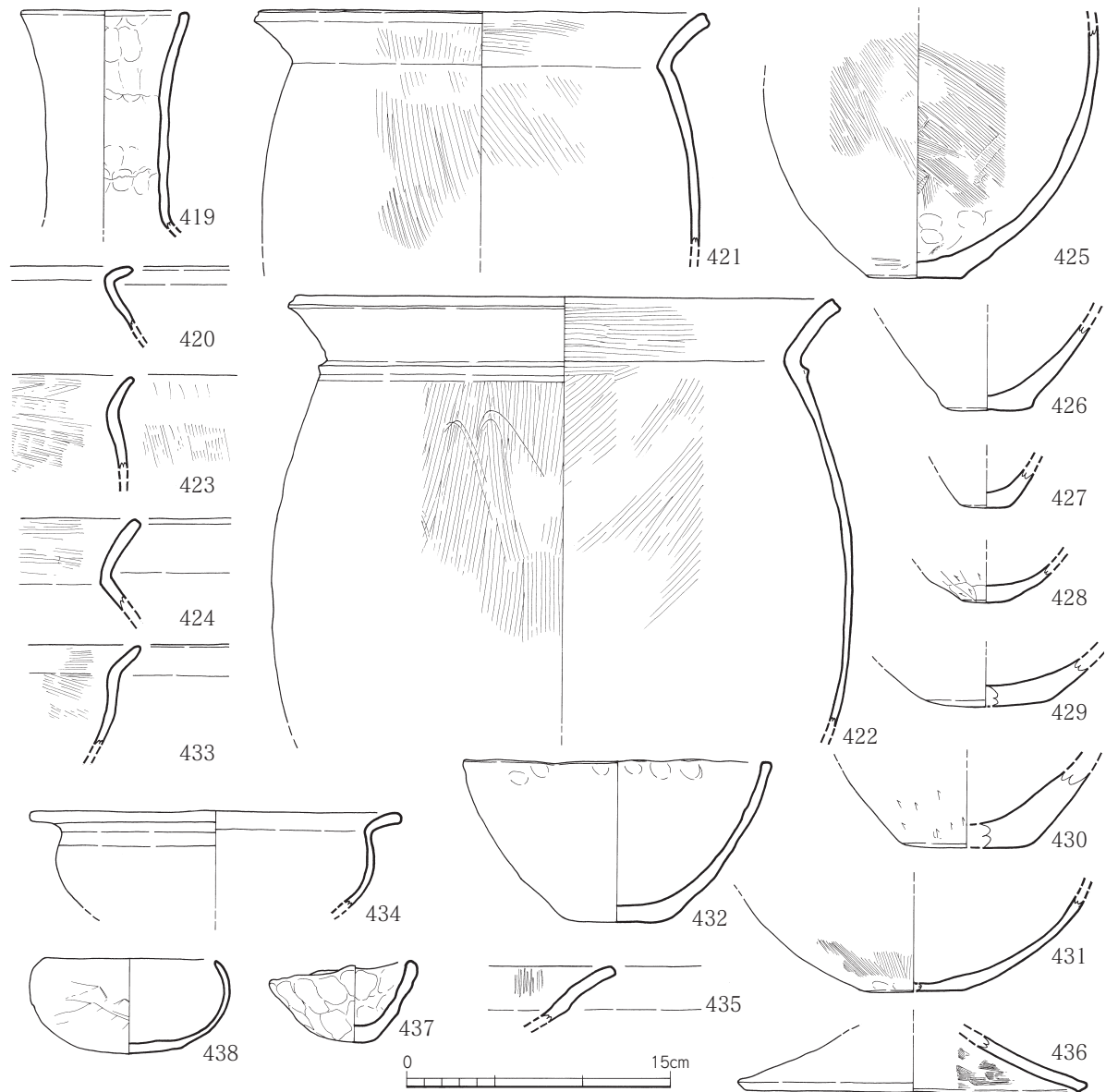
419・420は壺。419は長頸壺の口縁部で、口縁部はやや外傾し、端部を丸く仕上げる。420は小形の壺の口縁部小片。421～424は甕。口縁部の断面形は「く」字状を呈するが、423は屈曲度が弱い。422の口縁下には三角突帯が貼り付けられる。なお、工具の痕跡であろうか、波状の痕跡があるが、文様ではなかろう。胴部の残存度が良い421・422の胴部最大径は、前者が口径より小さいのに対し、後者は口径を上回る。425～431は底部。427・429・430は凸レンズ状を呈し、428はヘラケズリを施し不安定である。431は壺の可能性があろう。432～434は鉢。432は甕の胴部下半を作り、端部を口縁部に仕上げたようなもの。433・434は口縁部を外に屈曲させたもの。435は高坏の小片で、磨滅が著しいものの内面にヘラミガキが残る。436は脚の裾部。高坏か。437は鉢形の手捏土器。底部の形状が不安定なために安定していない。438は椀形の土器。残存部は多いが、磨滅が著しく外面はヘラケズリの後にナデを施したようである。土師器とすれば混入品であろう。

### 40号住居跡出土土器 (439～444)

439は甕の口縁部片で、断面形は「く」字状を呈する。440～442は底部。440・441は凸レンズ気味の資料。442は平底で、混入品か。443は鉢で、残存度は高いが接合できなかったため、上半部(443



第100図 38号住居跡出土土器実測図(1/4)



第101図 39号住居跡出土土器実測図(1/4)

ー1)と下半部(443ー2)に分けて図化した。口縁部は外反し、底部は凸レンズ状をなす。444は高坏の口縁部。傾きはもう少し寝るかもしれない。内外面に磨きを施す。

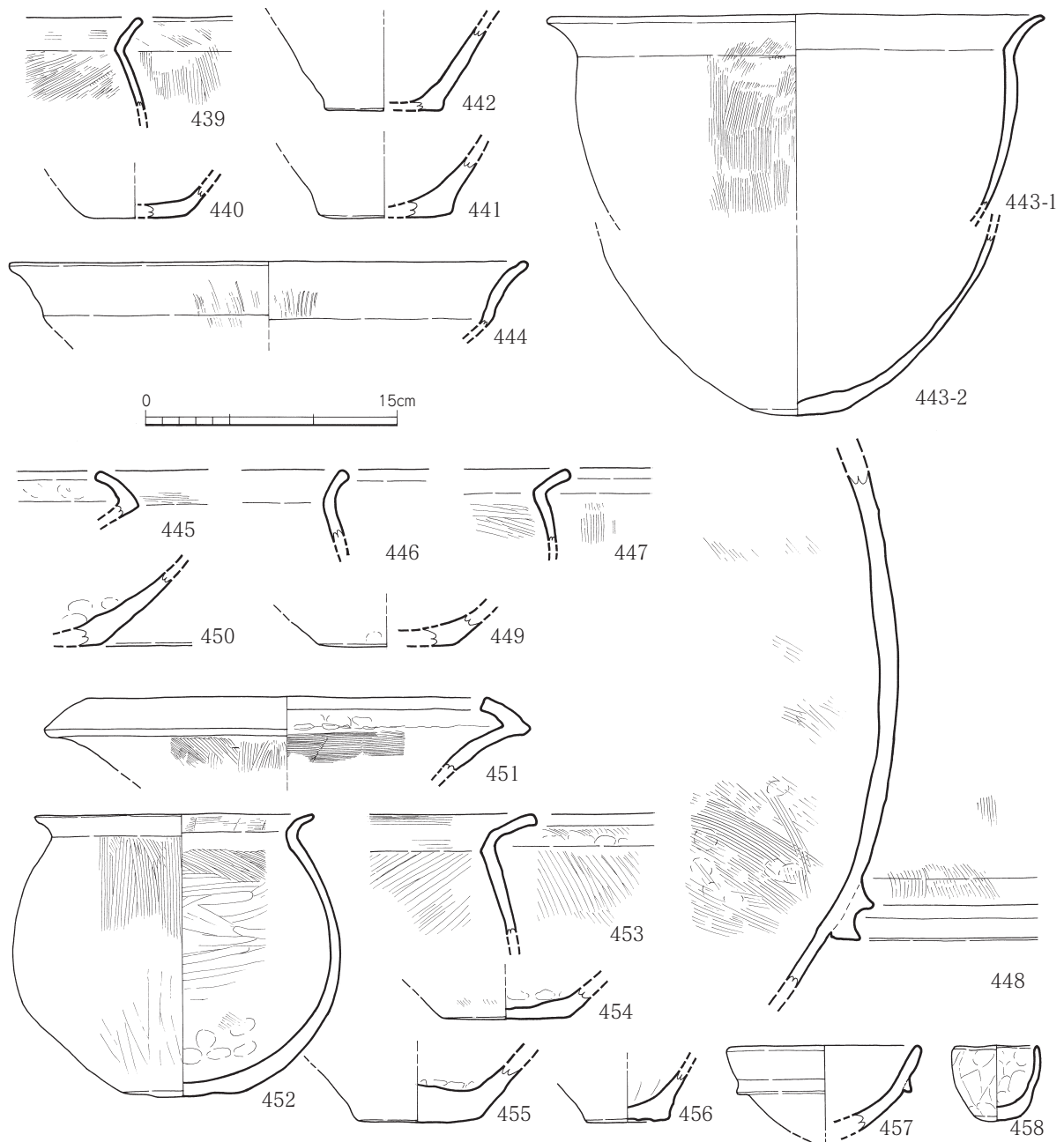
**41号住居跡出土土器 (445～450)**

445は複合口縁壺の口縁部片。446・447は甕の口縁部片で、446の屈曲度は弱い。448は大甕の胴部。最大径よりも下に「M」字突帯を貼り付ける。449・450は底部。残存度が良くないが、共に凸レンズ状の底部に復元できよう。

**42号住居跡出土土器 (451～458)**

451・452は壺。451は複合口縁壺の口縁部片。452は丸い体部に、短く外反する口縁部が付く資料で、底部は凸レンズ状を呈する。内外面ともにハケ目により調整を施すが、下半部にはヘラミガキが認められる。特に内面中位のヘラミガキがどのような理由で施されたのか疑問である。453は甕の





第102図 40・41・42号住居跡出土土器実測図(1/4)

40号(439~444) 41号(445~450)  
42号(451~458)

口縁部で、断面形は「く」字状を呈する。454～456は底部。454・455は僅かだが凸レンズ気味で、456は上底。457は小形の鉢で体部に1条の三角突帯を貼り付ける。458は鉢形を呈する手捏土器。

#### 5号掘立柱建物跡出土土器 (459・460)

459は甕の口縁部小片で、残存部からすると断面形は「く」字状か。460は中期の甕の底部と思われる破片資料。

#### 6号掘立柱建物跡出土土器 (461～466)

461は小形の壺の口縁部片。462は甕の口縁部で、断面形は「く」字を呈し、屈曲度が弱いもの。463～465は底部の小片。463・464は凸レンズ状を呈し、465は平底。466は高坏の脚部。外面の調

整はヘラミガキを施す。

**7号掘立柱建物跡出土土器 (467・468)**

467・468は甕の口縁部片。467の断面形は「く」字を呈し、468も同様であろう。

**11号掘立柱建物跡出土土器 (469)**

469は平底の底部片。甕であろう。

**12号掘立柱建物跡出土土器 (470)**

470は壺の口縁部で、鋤先口縁をなす資料。外端部に刻み目を施し、丹塗りの痕跡がある。

**13号掘立柱建物跡出土土器 (471)**

471は甕の口縁部小片。断面形は「く」字状をなす。

**14号掘立柱建物跡出土土器 (472)**

472は平底を呈する底部の破片資料。甕の底部か。

**15号掘立柱建物跡出土土器 (473)**

473は小形の壺の口縁部～肩部までの資料。口縁部は外に小さく突出させ、肩部と頸部の境は不明瞭である。

**16号掘立柱建物跡出土土器 (474)**

474は平底を呈する底部。外面の調整はハケ目を施す。

**18号掘立柱建物跡出土土器 (475)**

475は胴部下半～底部までの資料。底部は平底で、やや粗雑な感がある。器種は甕であろう。

**19号掘立柱建物跡出土土器 (476～478)**

476～478は甕の口縁部。476は口縁部～胴部上半までの資料で、口縁部の断面は「く」字状を呈し、胴部最大径は口径よりも大きい。477と478は弥生中期末～後期初頭の甕で、混入品であろう。

**24号掘立柱建物跡出土土器 (479)**

479は甕の口縁部小片である。

**26号掘立柱建物跡出土土器 (480)**

480は底部片。僅かに凸レンズ状をなすようである。

**31号掘立柱建物跡出土土器 (481・482)**

481・482は底部片で、共に平底を呈する。

**32号掘立柱建物跡出土土器 (483・484)**

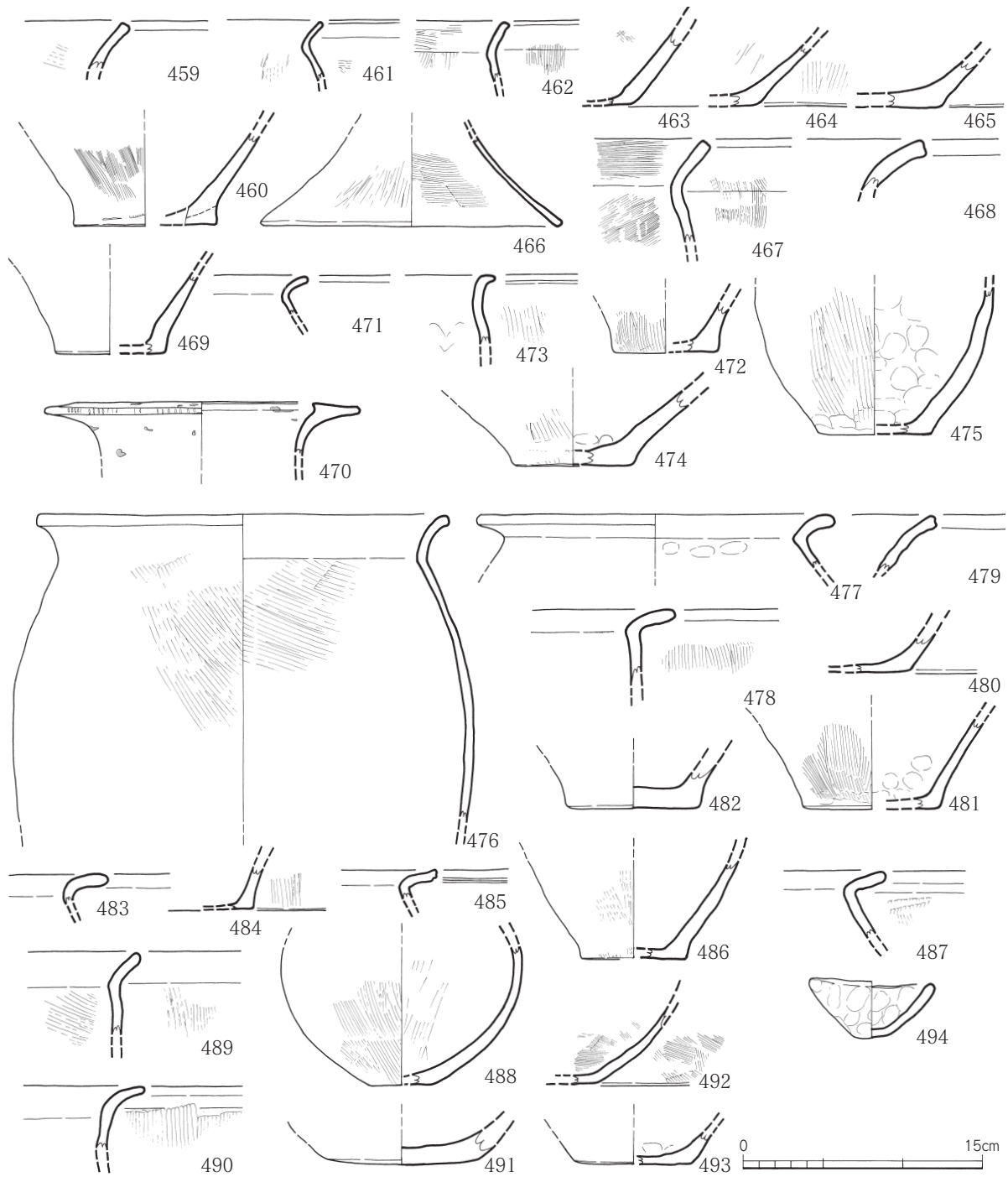
483は甕の口縁部小片で、丸みを持つ。484は底部の小片。

**35号掘立柱建物跡出土土器 (485・486)**

485は甕の口縁部であろう。端部には沈線を施すようであるが、小片のため詳細は不明。486は甕の底部であろう。僅かに上底。

**36号掘立柱建物跡出土土器 (487)**

487は断面形が「く」字状を呈する甕の口縁部片。



第 103 図 掘立柱建物跡出土土器実測図① (1/4)

**37号掘立柱建物跡出土土器 (488 ~ 494)**

488 は壺の体部下半～底部で、底部は平底。489・490 は甕の口縁部。489 は断面形が「く」字状のもので、490 は胴部から外反する口縁部に直接至るもの。491 ~ 493 は凸レンズ状をなす底部の破片資料。494 は鉢形を呈する手捏土器。

**38号掘立柱建物跡出土土器 (495 ~ 498)**

495・496 は甕の口縁部片で、断面形は「く」字状を呈する。497・498 は底部片。

**39号掘立柱建物跡出土土器 (499・500)**

499 は凸レンズ状を呈する底部片。500 は鉢形の手捏土器。

**40号掘立柱建物跡出土土器 (501)**

501 は壺の口縁部。鋤先形を呈し、上面は外傾する。

**41号掘立柱建物跡出土土器 (502 ~ 505)**

502 は複合口縁壺の口縁部。503 は底部で、凸レンズ状をなす。504 は器台の裾部。外面にはタタキ目の痕跡が残存し、器壁は非常に厚い。505 は鉢形の手捏土器。

**42号掘立柱建物跡出土土器 (506 ~ 508)**

506 は複合口縁壺の口縁部。507 は凸レンズ状の底部片。508 は丹塗りの鉢。残存度が低いため、傾きは不確かだが、器高が低く、浅い型式のものと考えられる。

**44号掘立柱建物跡出土土器 (509)**

509 は甕で、断面形は「く」字状を呈する。

**45号掘立柱建物跡出土土器 (510 ~ 512)**

510 は複合口縁壺の口縁部片。511・512 は底部。511 は凸レンズ状を呈し、512 は平底。512 は大形の土器の底部であろう。

**46号掘立柱建物跡出土土器 (513)**

513 は袋状口縁壺の口縁部で、小形品。

**49号掘立柱建物跡出土土器 (514)**

514 は鉢で半球状の形態をなすもの。

**52号掘立柱建物跡出土土器 (515・516)**

515 は口縁部の小片で、小形の甕ないし壺のものである。516 は底部片。外面にはタタキ目の痕跡が確認できる。

**53号掘立柱建物跡出土土器 (517 ~ 520)**

517 は小形甕の口縁部。518 ~ 520 は底部。518 は平底を呈するもの。519 は底部が小さく不安定な資料。520 は平底の底部で、胴部と底部の境には指オサエを施す。

**54号掘立柱建物跡出土土器 (521 ~ 523)**

521 は甕の口縁部小片。522 は底部片で、欠損するが残存部から凸レンズ状を呈することが分かる。523 は小形の鉢。底部は上底気味。

**2号土坑出土土器 (524-1・524-2)**

524-1 は甕の上半部で、断面形が「く」字状を呈す。524-2 は同一個体の底部で平底を呈する。

**7号土坑出土土器 (525・526)**

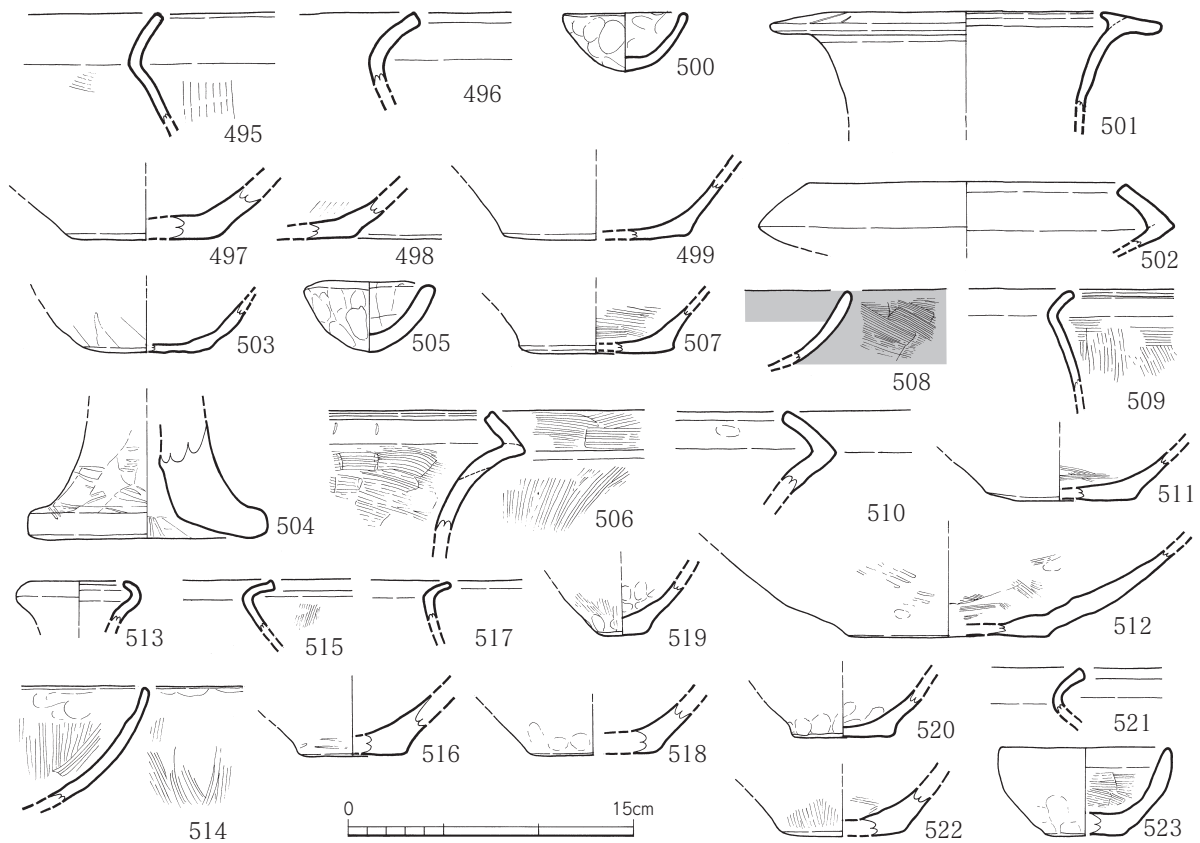
525 は底部で平底。内面に工具痕が残る。526 は器台。内外面とも指オサエの跡が残る。

**9号土坑出土土器 (527)**

527 は甕の口縁部片で逆「L」字に近い屈曲をもつ。

**12号土坑出土土器 (528)**

528 は甕ないし鉢の口縁部小片。緩やかに外反する。



第104図 掘立柱建物跡出土土器実測図② (1/4)

**16号土坑出土土器 (529～534)**

529・530は甕の口縁部小片。断面形は529が緩やかに外反し、530が口縁部より体部の張った「く」字状を呈する。531・532は底部。531は丸底気味で、532は平底を呈する。甕であろう。533・534は高坏。533が口縁部で内面にヘラミガキが残る。534は脚部。

**17号土坑出土土器 (535・536)**

535・536は底部の破片資料。両者ともに平底を呈する。

**18号土坑出土土器 (537)**

537は底部で平底を呈する。甕であろう。

**19号土坑出土土器 (538～541)**

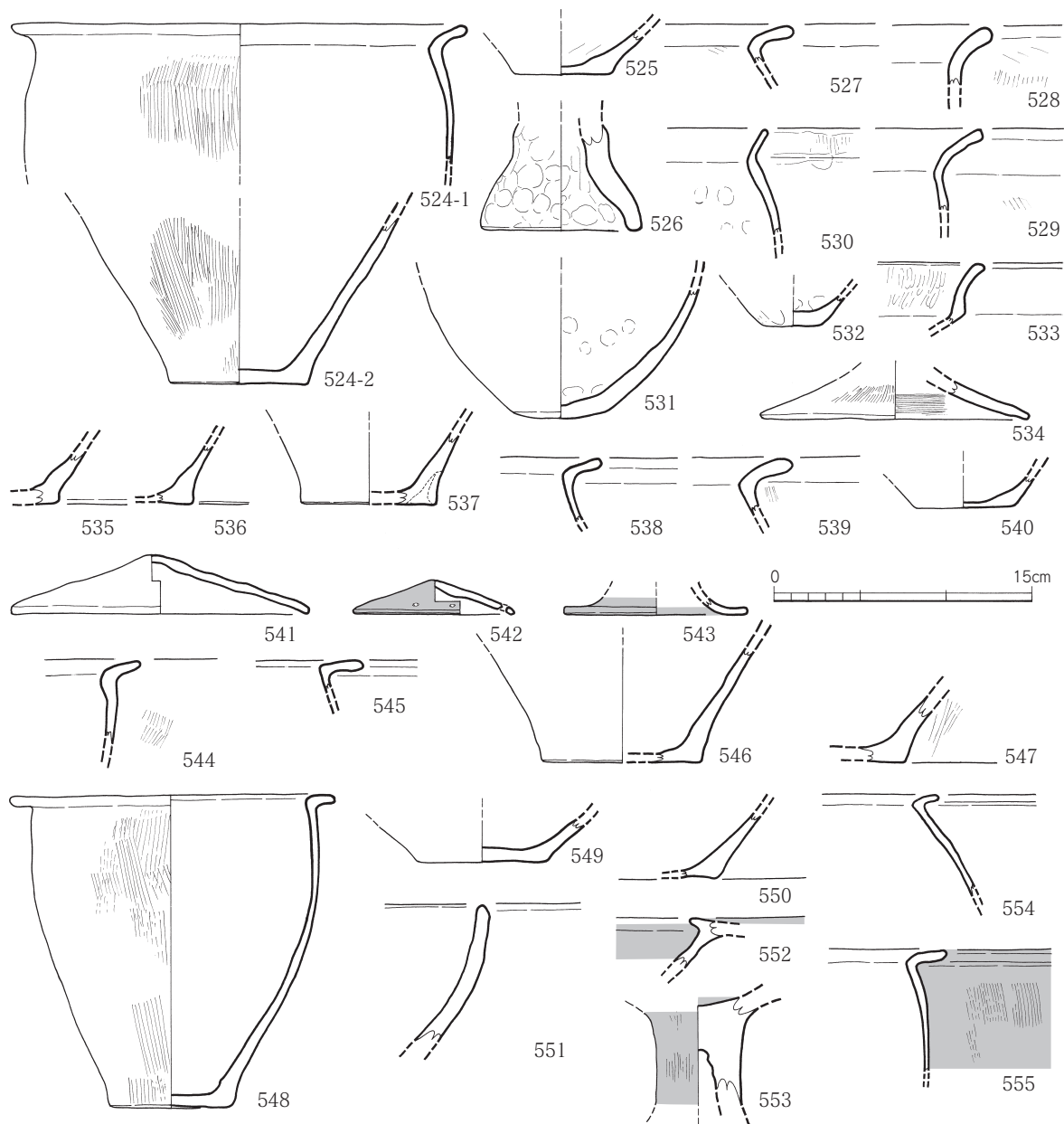
538・539は甕の口縁部小片。「く」字状に屈曲するが、539はより外反する。540は底部で平底を呈する。541は傘状の無頸壺の蓋。

**20号土坑出土土器 (542・543)**

542は傘状の蓋。外面が丹塗りされている。穿孔が一对あり、その反対にも1つの孔が確認できる。19号土坑出土の541に対して小ぶりなため、ミニチュアの無頸壺が想定できる。543は丹が施された脚部。小形の脚台付土器の脚であろう。

**21号土坑出土土器 (544～547)**

544は小甕ないし鉢の口縁部小片。緩やかな逆「L」字状を呈する。545は甕の口縁部小片で逆「L」字状に屈曲する。546・547は甕の底部で平底。



第105図 土坑出土土器実測図(1/4)

**22号土坑出土土器 (548～553)**

548は小形の甕。部分的に復元を行っている。口縁部が逆「L」字状になり、底部はわずかに上底を呈する。549は底部のみ残存する。凸レンズ状を呈する壺であろう。550は底部小片。551は鉢。552・553は高坏。552は口縁部小片で内面が嘴状に突出する。553は脚部で坏部内面と脚柱部外面に丹塗りが残る。

**23号土坑出土土器 (554・555)**

554は壺の口縁部小片。口縁部は逆「L」字状に屈曲し、体部が口径を超えて大きく張り出す。555は甕の口縁部小片。断面形逆「L」字状で外面に丹が残る。



### 1号井戸出土土器 (556～567)

556～558は丹塗りの壺。556は樽型を呈する壺の体部～底部で、上半部に断面「M」字状突帯が3条確認でき、その上にも突帯の剥落痕がある。突帯間には波状の暗文を施す。外面の上半部には丹が施され、一部横方向のヘラミガキが確認できる。底部は残存状況から上底と想定される。557は小形の壺。直行する頸部を有し、口縁部が短く屈曲する。内面は指オサエ後ナデ、外面は縦方向のハケ目調整を施す。内外面に丹垂れが確認できる。558は壺の下半部で、体部が強く内湾し、底部は平底を呈する。559～564は甕。断面形は561が鋤先口縁、564が逆「L」字状を呈し、その他は「く」字状に近い。561は外面ナデ後、頸部直下と体部中位に断面形「M」字状の突帯を巡らせ丹塗りするのに対し、他の甕は縦方向の細かいハケ目を施す。底部が残存するのは559と564で両者とも平底。565は底部で、わずかに上底。外面に縦方向のハケ目を施す。566は鉢。口縁部は緩く内湾し、端部を丸く仕上げる。底部と体部に1ヶ所ずつ穿孔を施す。穿孔は焼成後に内面から行う。567は器台上半部を欠損する。全体的に肉厚な作り。

### 2号井戸出土土器 (568～572)

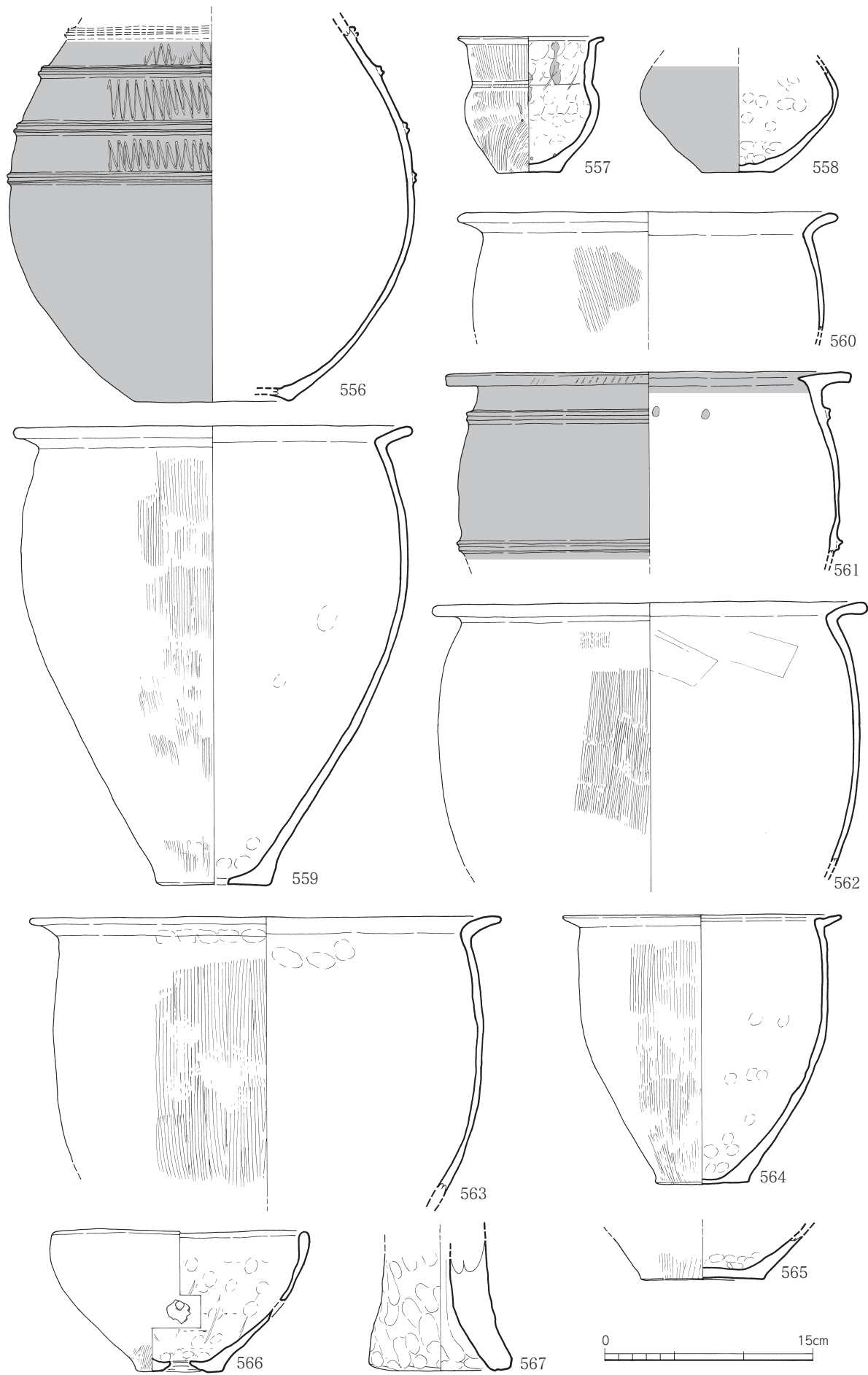
568～571は底部。568～570は平底で、570のみ内面まで縦方向のハケ目が確認できる。571は丸底か丸底気味と考えられるが、自重のためか歪な形をなす。厚みが2cmあり大形品の底部と考えられる。572は鉢。体部から緩やかに内湾し、口縁端部を丸く仕上げる。

### 8号溝出土土器 (573～589)

573～575は壺。573は複合口縁壺の口縁部。574・575は形態が甕に近い資料。576はほぼ完形の甕。口縁部の断面は「く」字状を呈する。体部は重心を中位に持ち、最大径は口径を上回る。底部は凸レンズ状。577は甕の上半部。口縁部の断面形は「く」字状を呈し、胴部最大径は口径を上回る。578～581は甕の口縁部片で、断面形は「く」字状を呈する。582は甕の下半部。底部は凸レンズ状をなす。583～586は甕の底部、585は凸レンズ状、583・586は平底、584は高台状に粘土を貼り付け上底にする。外来系か。587～589は鉢。587は緩やかに内湾し口縁端部を丸く仕上げる。残存部から脚台が付くと考えられる。588は口縁部が外に屈曲し、底部は凸レンズ気味。589は体部から口縁部にかけて内湾する。

### 2号周溝状遺構出土土器 (590～601)

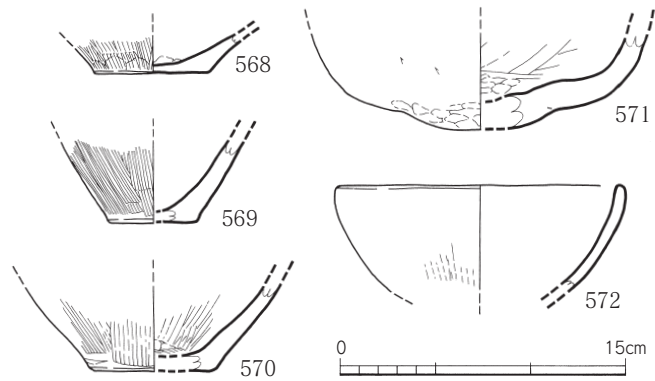
590は外来系の複合口縁壺の口縁部小片。591～593は甕。591は口縁部で、断面形は「く」字状に屈曲する。頸部に断面三角の突帯を1条貼り付ける。592は完形に図上復元したもの。口縁部の断面形は「く」字状を呈し、底部は凸レンズ気味。593は同一個体と思われる口縁部(593-1)と底部(593-2)。口縁部はやや外反し、断面形は「く」字状。底部は平底である。594・595は平底の底部。596～601は鉢。596は内湾する体部と断面「く」字状の口縁部を持つ。内外面にハケ目が残る。597～601は口縁部がほぼ直行する。597は口縁部(597-1)と底部(597-2)があるが接合できなかった。597～599の底部は平底で、600・601の底部は凸レンズ気味。600は底部の厚みが2cmある。体部はやや内湾し、口縁端部をわずかに外反した嘴状に仕上げる。



第 106 图 1 号井戸出土土器実測图 (1/4)

### ビット出土土器 (602～628)

602 はP812、603・615 はP657、604 はP995、605 はP916、606 はP624、607 はP51、608 はP52、609 はP587、610 はP802、611・614 はP68、612 はP657、613 はP943、616 はP76、617 はP912、618 はP90、619 はP641、620 はP917、621 はP109、622 はP922、623 はP66、624 はP635、625 はP991、626 はP696、627 はP693、628 はP799 の出土品。



第107図 2号井戸出土土器実測図(1/4)

602～604 は壺。602・603 は無頸壺の口縁部で、602 の口縁部内面はやや匙面状になる。604 は肩部。断面台形の突帯には刻み目を施し、その下に線刻を有する。143 と同一個体であろう。605～614 は甕の口縁部。605・607～609・611・612 は「く」字状に屈曲し、606・610 は逆「L」字状に近い。口縁端部は、605・606・610 は丸くしやや肥厚させ、607・608・611・612 は面をもつ。このうち611・612 は口縁下に三角突帯を付す。613・614 は体部が直立し、口縁部が外に屈曲し端部に面を持つ。615・617 は平底。616 は凸レンズ気味の底部。いずれも外面に縦方向のハケ目を施す。618 は丸底気味で、体部下端にヘラケズリ、外底部には粗いナデを施す。620 は口縁部が緩やかに内湾する鉢で、端部を丸く仕上げる。621・622 は高坏の口縁部で623 が脚部の資料。621 は口縁部が強く内湾し、端部は丸く仕上げる。622 は幅広の鋤先口縁で外側に垂下させる。623 は脚柱部外面にヘラミガキ痕、内面にシボリ痕が観察できる。624～627 は器台で、厚く粗雑な作りをし、外面に指頭圧痕がある。624 のみ完形品で、他は上半部を欠損する。628 は鉢形の手捏土器で丸底を呈する。

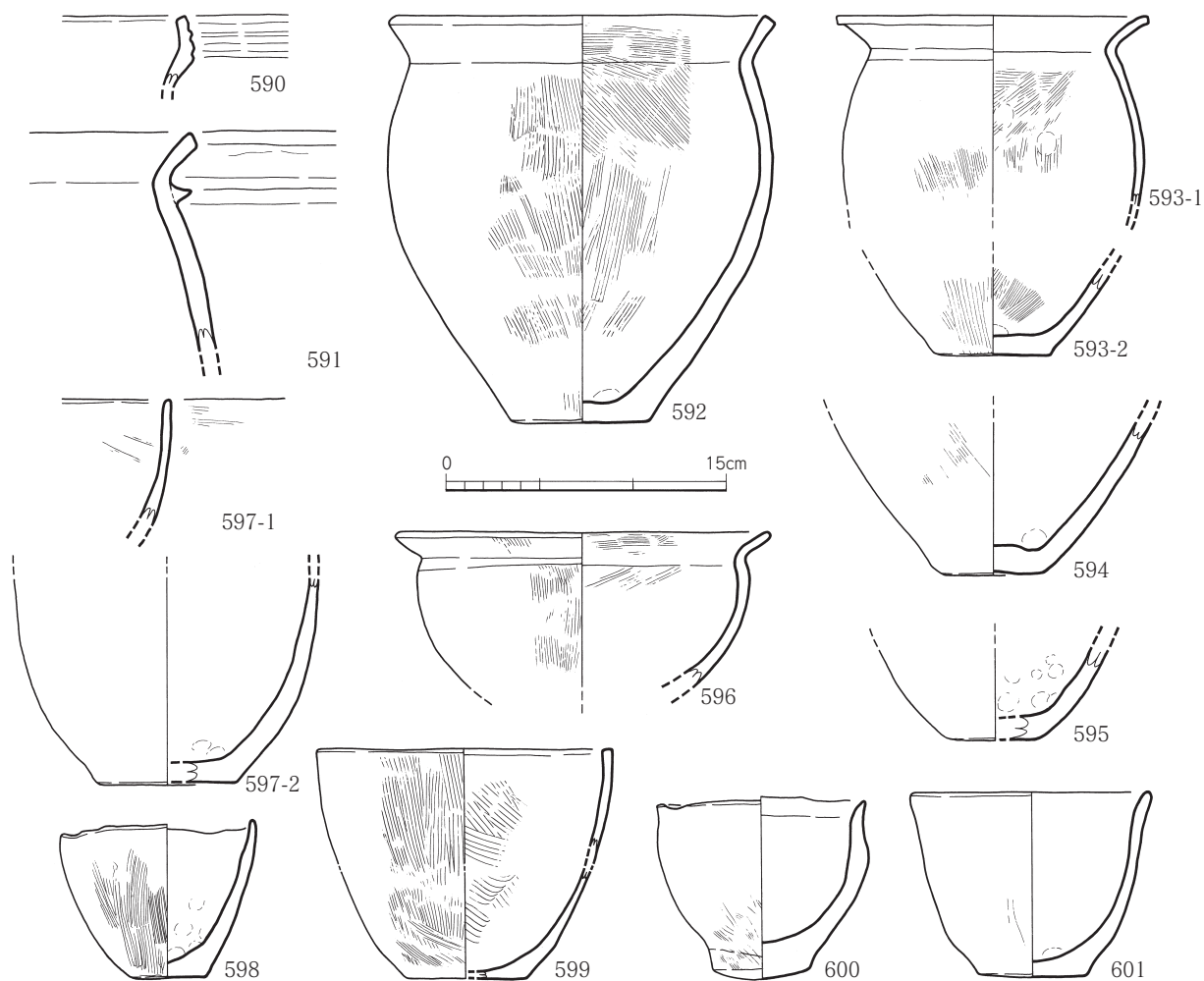
### 包含層出土土器 (629～693)

629～638 は壺。629 は直口壺で下半部を欠損する。口縁端部は丸く調整し、頸部と体部の境には三角突帯を貼り付ける。630～633 は複合口縁壺の口縁部。630 は端部に面を作り、631・633 は丸く調整する。634・635 は短く外反する口縁部に、大きく張る体部を有する。636 は鋤先口縁の丹塗壺で、上面は外側に下がる。637 は口縁部が外反する資料。端部に付着物が確認できる。638 は下半部。外面に縦方向のハケ目を施す。なお、体部の接合部が段を持つため突帯状になる。639～655 は甕。口縁部の形状は、639～648・650 が「く」字状、649 が外反、651 が匙面状、652～654 は逆「L」字状で、655 は頸部が縮まらずに口縁部に移行するものであろう。642～646 は体部の丸みが強いもの。642 は小形品で、接合しないが丸底気味の底部を持つ。647～651・653 は口縁下に突帯を付す。655 は内外面の調整が中ほどから変わることから、ここが口縁部と胴部の境と考えられる。656～676 は底部資料。662～666 は凸レンズ状を呈し、673 は粘土紐を高台状に貼り付け、上底にする、584 と同じタイプの資料。658・667・668 は上底気味で、そのほかは平底である。なお、667 は焼成前に穿孔を施す。669・670 は底径こそ小さいが底部に厚みがある。670・676 は、内外面に粗いヘラ



第108図 8号溝出土土器実測図(1/4)

ケズリを施す。677～682は鉢。677～680は口縁部が屈曲する資料で、679は屈曲が緩い。いずれも口径より体部最大径は小さい、677は体部が張る。681の口縁部は内湾、682はほぼ直行する。いずれも端部を丸く仕上げ、681はやや肥厚する。683～686は高坏。683・684は口縁部小片で短く外反する。685は坏部から脚部にかけての破片資料。坏底部に穿孔を施す。686は深めの坏部に外側に開く口縁部を持つ。坏部内面には丹が残存する。687～691は器台。687・688は器高が低く、上面が



第109図 周溝状遺構出土土器実測図(1/4)

わずかに傾斜し、突起をもつ。689～691は器台の裾部資料。肉厚な作りで、689の裾は柱状部分から「八」字状に開く。692は傘状の蓋。693は鉢状の手捏土器。

② 土製品 (図版54、第114図、表4)

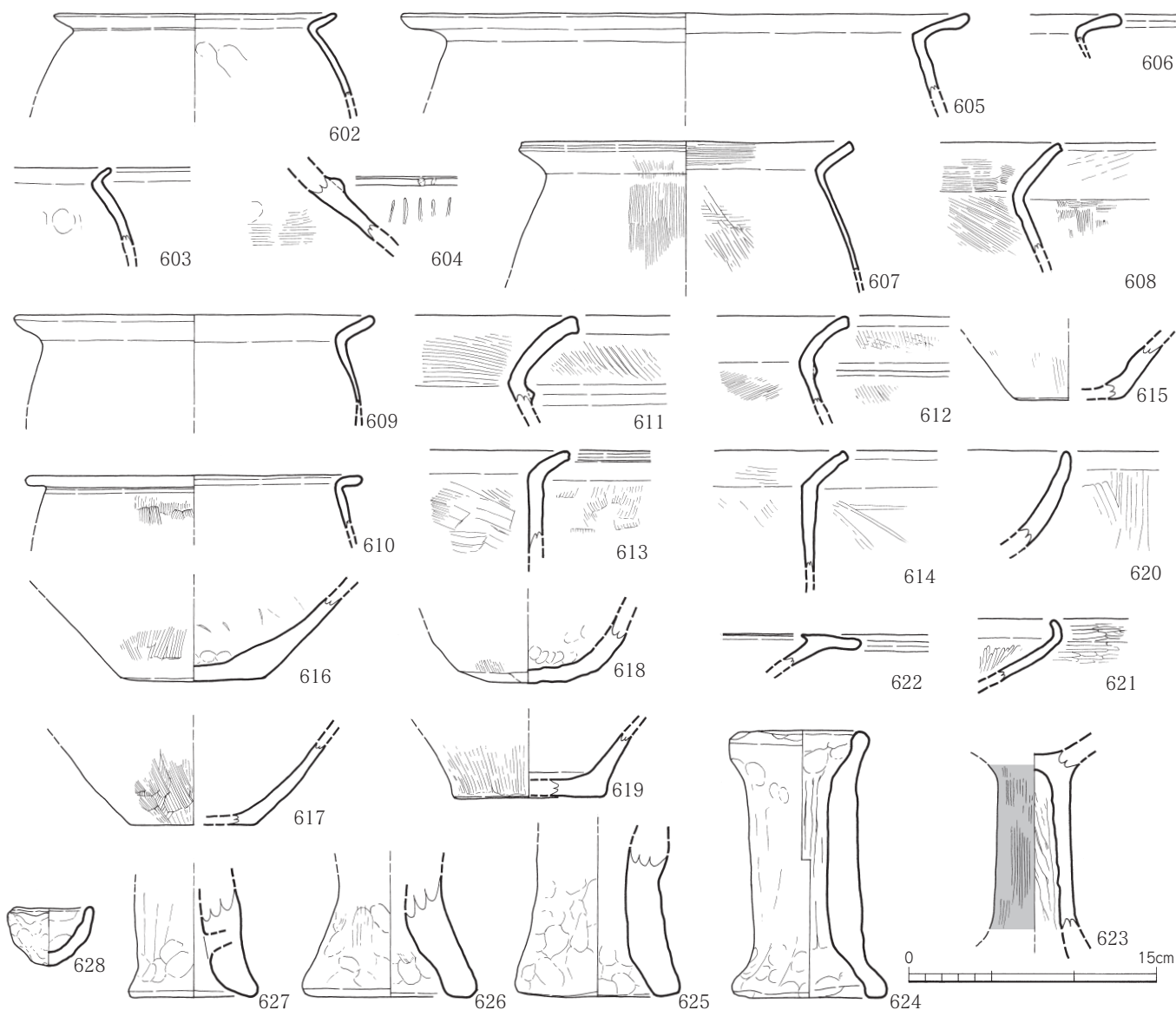
1は土製鏡。32号住居跡の出土品で、半分程度を欠くが、面径は4.6cm程度に復元できよう。鈕はつまみ出しにより成形されており、歪で鏡本体の中心にはこない。鏡面部は凸面をなす。

2は18号住居跡から出土した鐸形土製品で、裾部を欠く。形態は截頭四角錐を呈し、鈕はない。舞孔は舞の中心から対称的な位置に円形のもの一つずつ穿つ。身孔は対面する二面の一つずつ確認できる。これら4つの孔は全て焼成前に内側から外側に向かって開けられる。外面は丹塗りで、無文。

3～6は投弾。3は24号住居跡から出土した。図の下端部を若干欠く。4は13号住居跡の出土品で、下部を欠損する。5は42号住居跡から出土し、下端部などを欠く資料。6はP996から出土した。4点の投弾の中で最も小形のもので、長さに対して幅がある。

7～10は不明土製品。不定形な土製品であり、面を持つものがある。炉壁の可能性もあるが、断





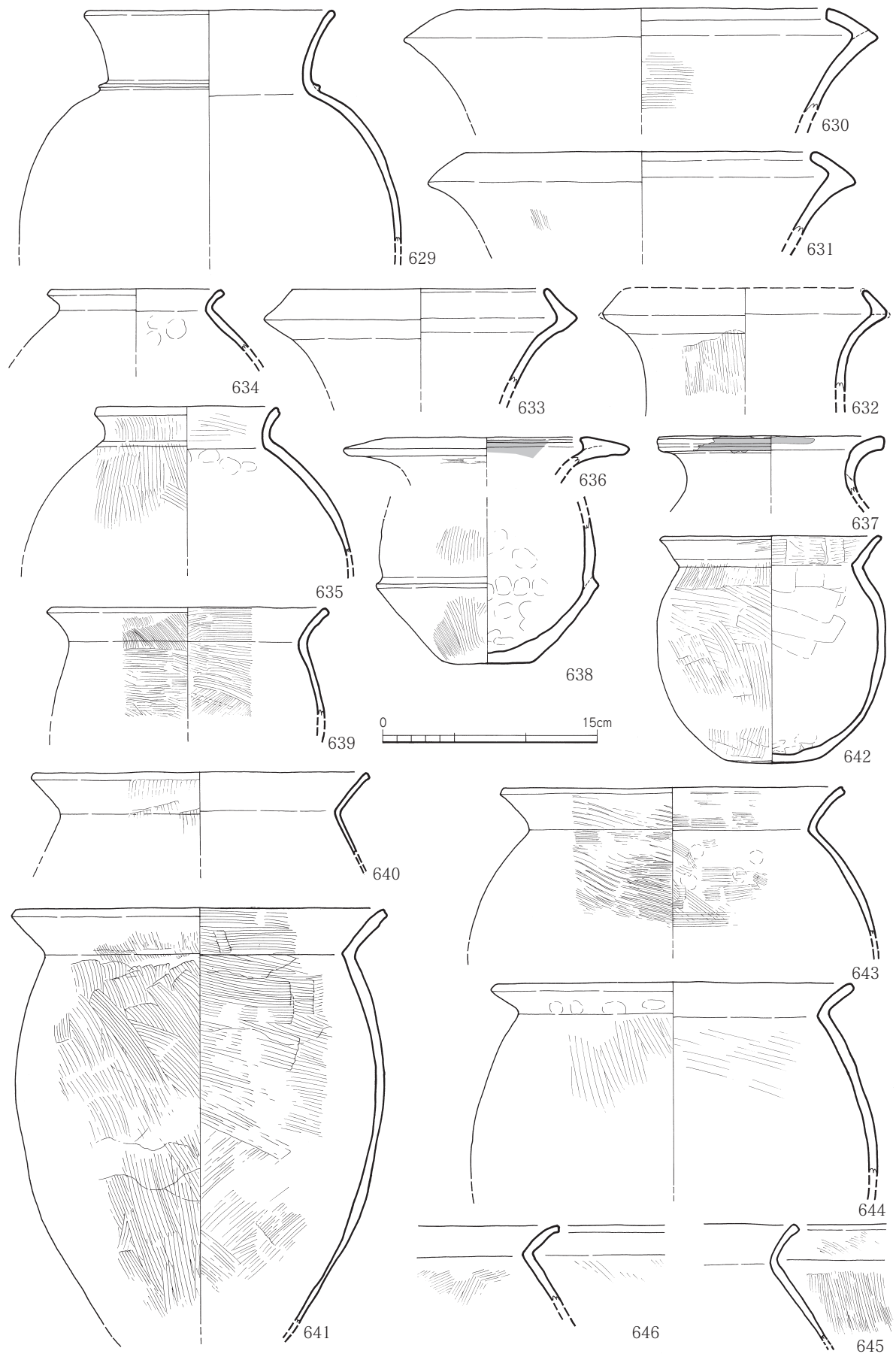
第110図 ピット出土土器実測図(1/4)

定できない。また、焼成された粘土塊の可能性もある。7は31号住居跡の出土品で、平滑な面と指頭痕のような窪みを持つもの。表面は殆ど破損していないようにも見える。8は37号住居跡から出土した。平滑な面を持ち、その裏は欠損する。かなり硬質に焼ける。9は38号住居跡からの出土品で、磨滅するが焼きは硬質。表面は平滑な面を持ち、その他の部分は欠損しているのか、本来の形状を保っているのかは判断しづらい。10は前三者とは雰囲気やや異なる資料で、19号土坑からの出土品。磨滅が著しく、表面にはヘラケズリ状の砂粒の動きが観察できる。19号土坑は弥生時代中期末の遺構だが、当資料は後世の混入品の可能性も考えられる。いずれにせよ詳細不明なもの。

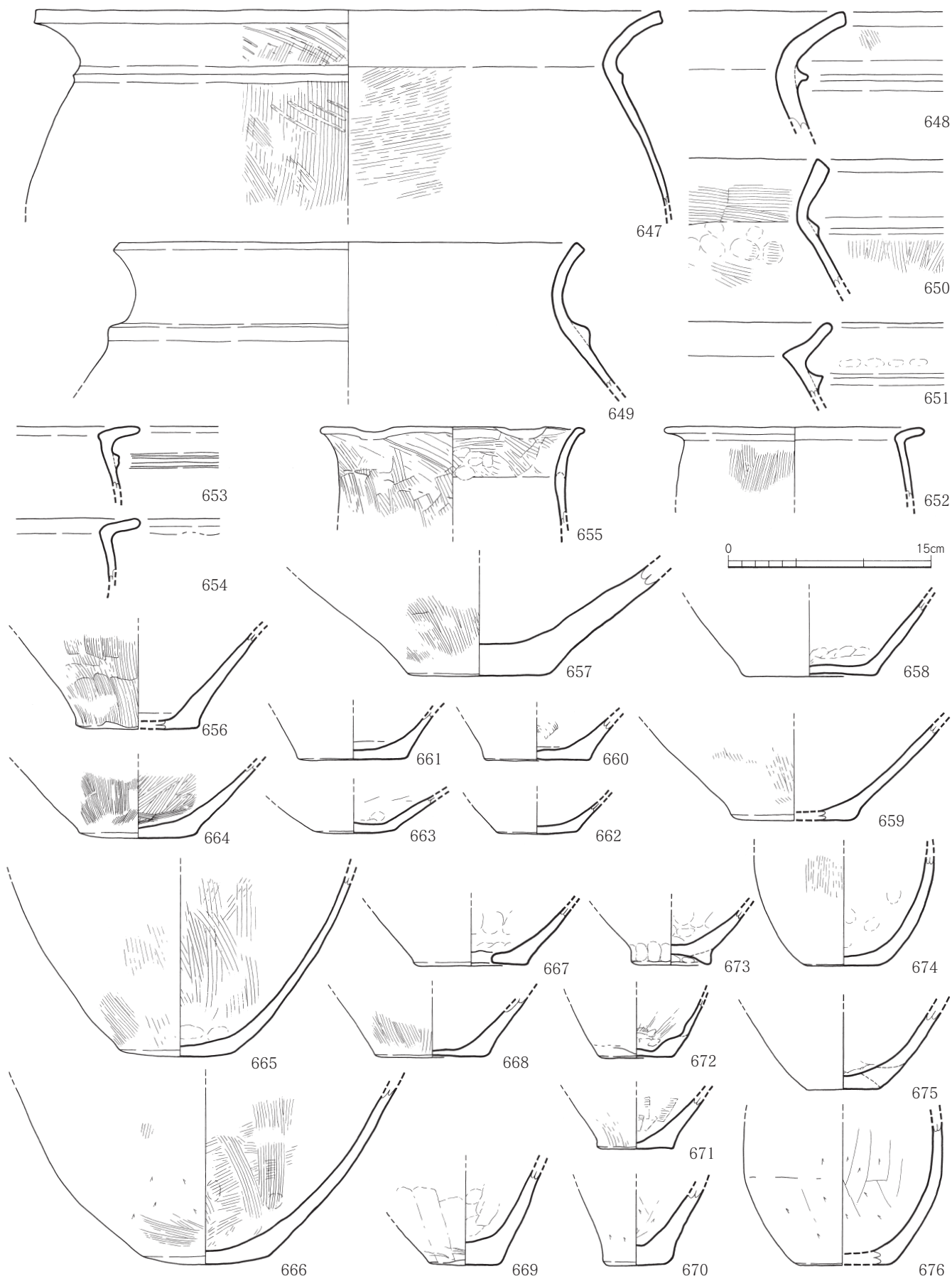
③ 鉄器 (図版 55～57、第115～118図、表5)

弥生時代の遺構からは69点の鉄器などが出土した。法量などの詳細は、ここでは省略するので、一覧表を参照していただきたい。

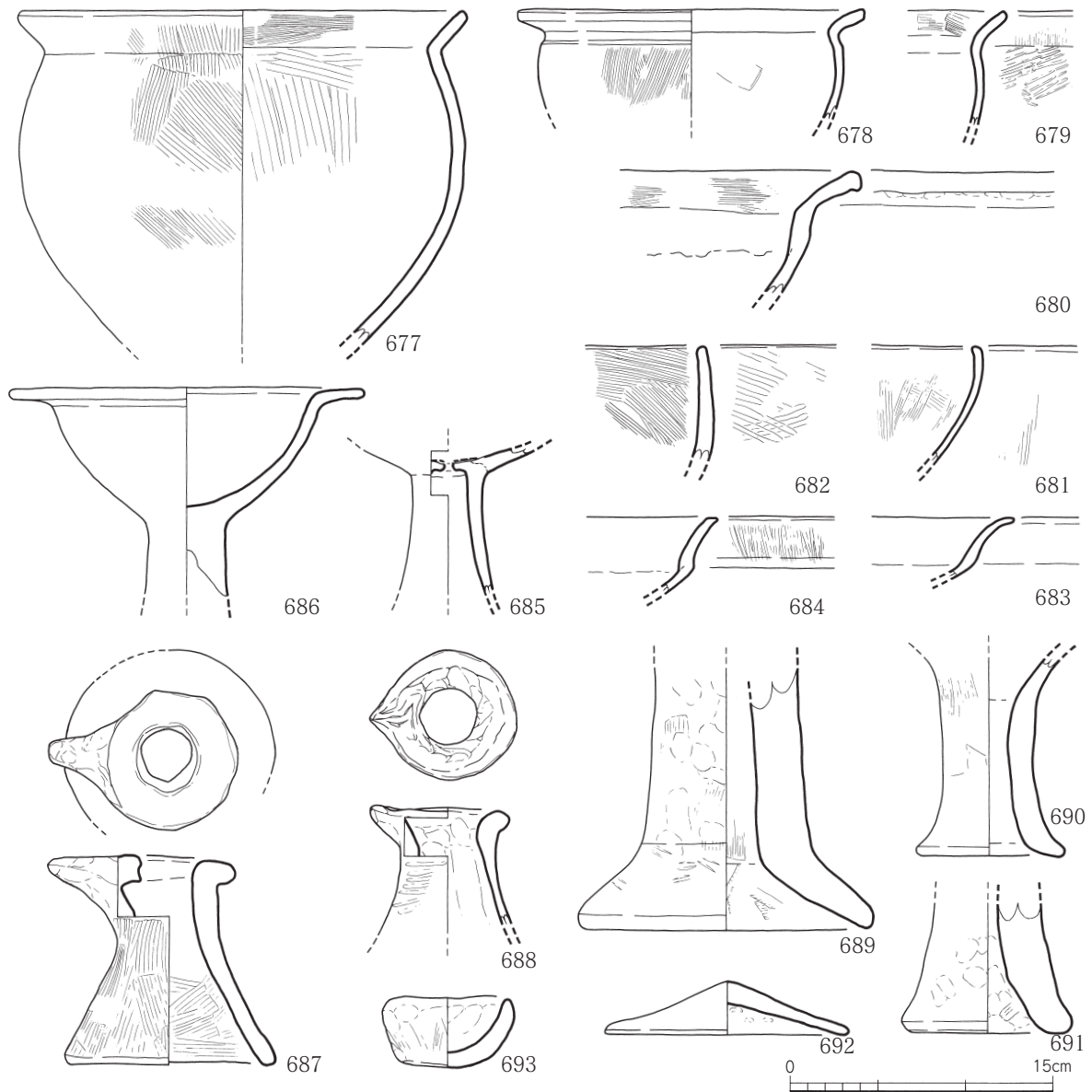




第111图 包含層出土土器実測図①(1/4)



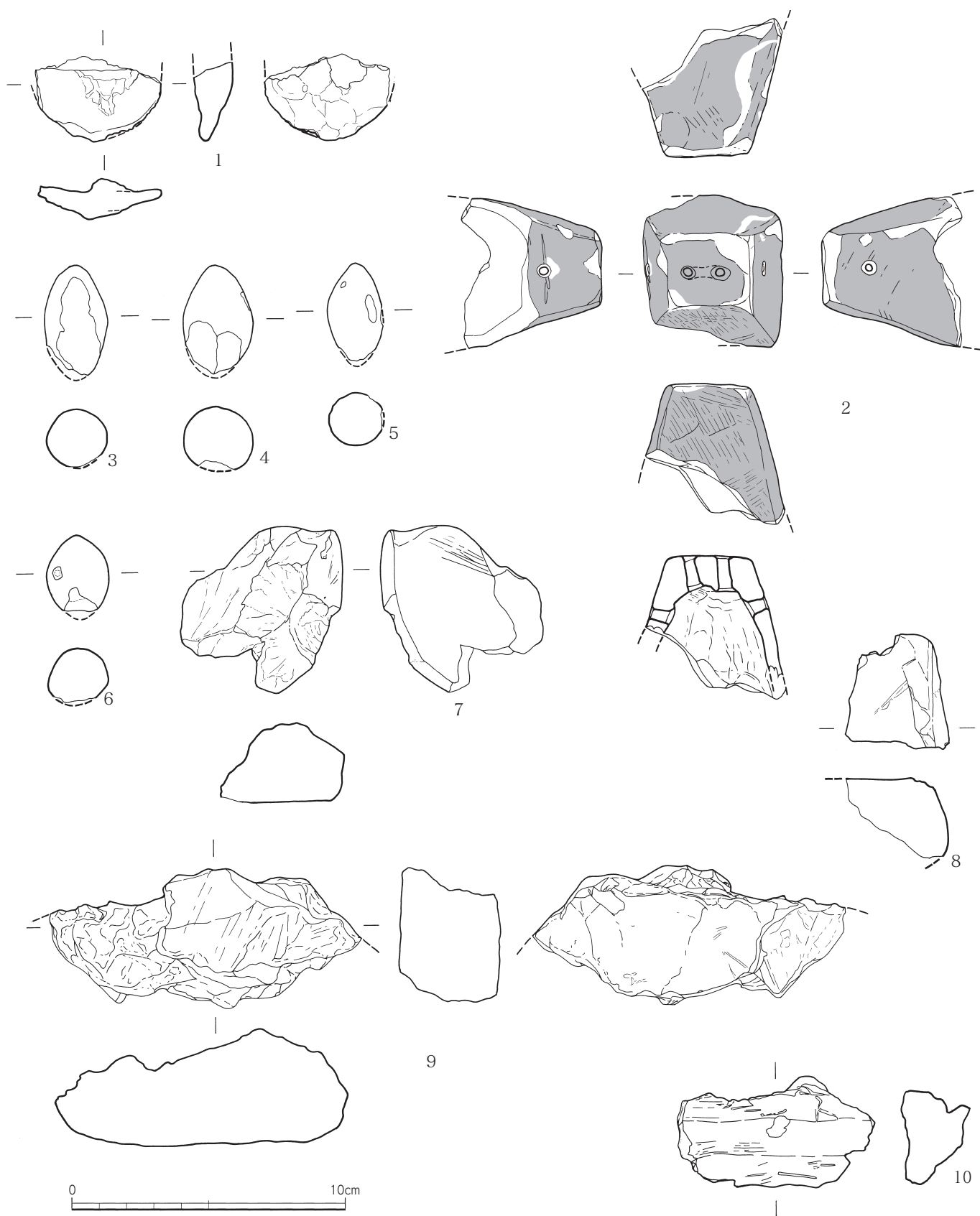
第 112 图 包含層出土土器実測图② (1/4)



第 113 図 包含層出土土器実測図③ (1/4)

1～5は鉄鏝。1は37号掘立柱建物跡から出土した。平面形が三角形の無頸鏝で、断面形は両平式。小孔が3つ確認できるが本来は4つか。2は28号住居跡から出土した完形品の無頸鏝で、1よりも全長が長い。断面形は両平式で、2つの小孔が確認できるが、位置は左右対称ではない。3は2と同タイプで、39号住居跡からの出土品。2と違い小孔は対称的な位置に穿たれる。4は15号住居跡出土品で、下半部を欠く。2つの小孔が対称的な位置に確認できる。3のように復元できよう。5は無頸鏝の下半部。1～4に比べ小ぶりで、挟りも弱い。5号住居跡からの出土品。

6～11は鉄鎌。6は完形品の曲刃鎌で、30号住居跡からの出土品。基部の折返し方向は右側で、折返しは弱い。7は完形品の直刃鎌で、基部の折返し方向は左側。35号住居跡から出土した。8は下面に刃を持つ資料で、鎌の鋒部と考えた。P993からの出土品である。9も下部に刃部を形成する



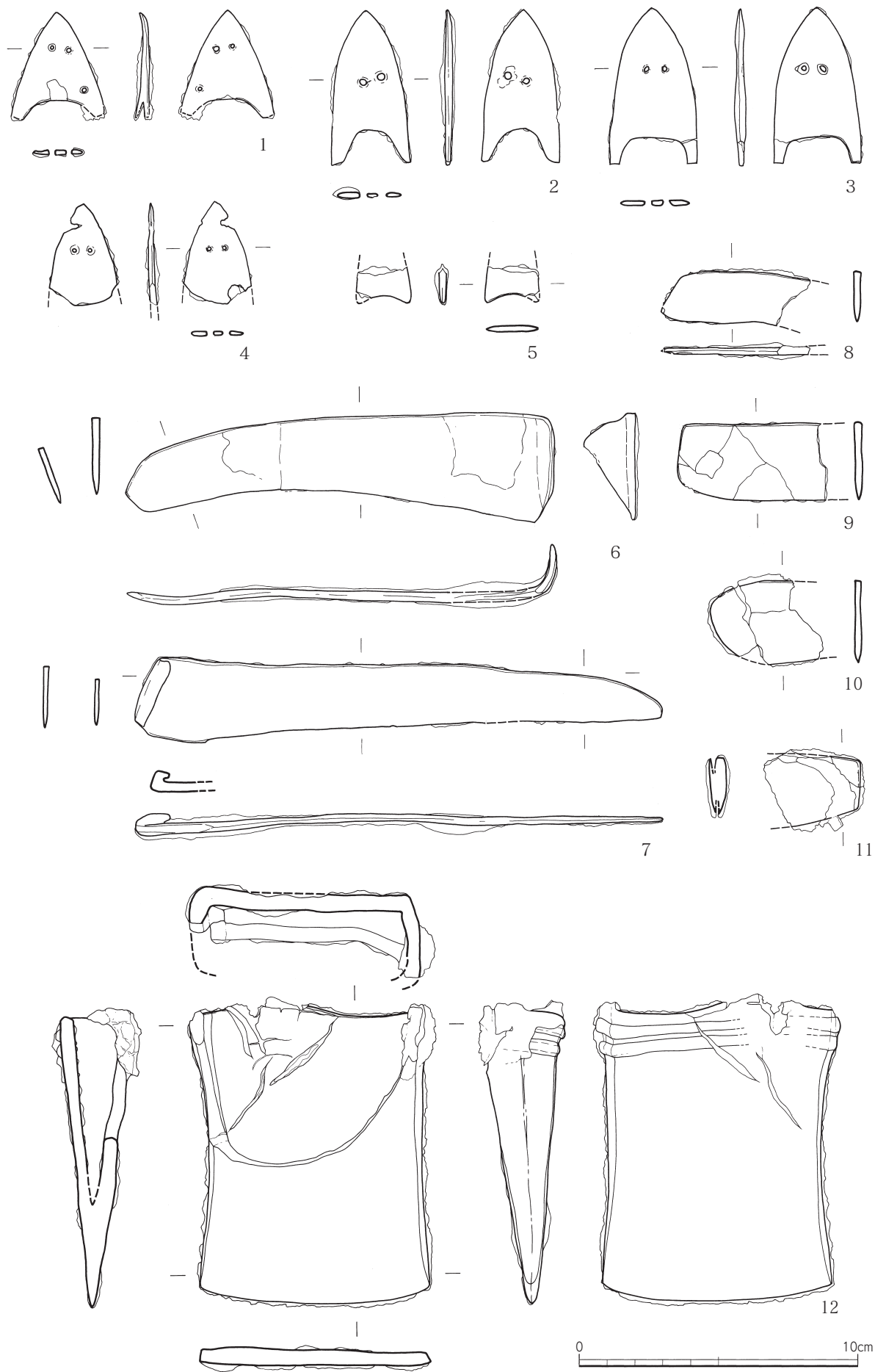
第 114 图 土製品実測図 (1/2)

鉄器で、実測図の右側のみを欠損する。摘鎌の可能性も考えたが、折り曲げが見られないことから、鉄鎌の鋒部とした。37号住居跡から出土した。10も下部に刃部を持つ資料。鉄鎌の鋒部であろう。32号住居跡の出土品。11は32号住居跡出土の鉄器。劣化のために膨らみや亀裂があり、本来の形を復元することは難しい。しかしながら、断面が下方へ細くなるため、鉄鎌の可能性を考えた。

12～20は鉄斧。12は鑄造鉄斧で、37号住居跡から出土した。袋部の片面は大きく欠失するが、その他は比較的よく残る。平面形は、劣化のために亀裂が入り、形を変えるが、本来の形はやや腰の細くなる長方形であろう。基部には2条の突帯を持つ。なお、不鮮明だが、側面には鑄型の合わせ目に相当する稜線を観察できる。13～19は袋状鉄斧。13は13号住居跡から出土した。所々欠損するが、全体的な残存度は高い。基部を折り曲げて肥厚させる、いわゆる有帯袋状鉄斧とされるものである。有帯部の幅は1cm程度。袋部の横断面形は楕円形、縦断面形の観察では刃部から袋部の器壁の厚みはほとんど変わらない。14も有帯袋状鉄斧で有帯部の幅は0.7cm程度。袋部の右を欠損するが、横断面は楕円形を呈する。刃部に比べ袋部の厚みは薄い。31号住居跡から出土した。15は袋部上端部などを欠損する資料で、ほぼ完形品。刃部は使用のためか、丸くなっている。袋部の横断面形は長方形に近い。厚みは刃部に比べ、袋部は薄い作りである。8号住居跡からの出土品である。16は21号掘立柱建物跡からの出土品。使用による研ぎ減りのためか、かなり短い。袋部の横断面は長方形を呈する。刃部と袋部の厚みに差はほとんど見られない。17は27号住居跡出土品で、刃部を欠く資料。袋部の残存度は良く、横断面形は楕円形。18は37号住居跡出土品で、刃部や袋部を多く欠失する。袋部の横断面形は楕円形であろう。19は30号住居跡から出土した。袋状鉄斧の破片資料。袋部の折り曲げを確認できる。20は板状鉄斧で、22号住居跡から出土した。長方形の板状の素材の一方に刃部を作り出している。刃部は両刃だが、一方からの研ぎが強い。

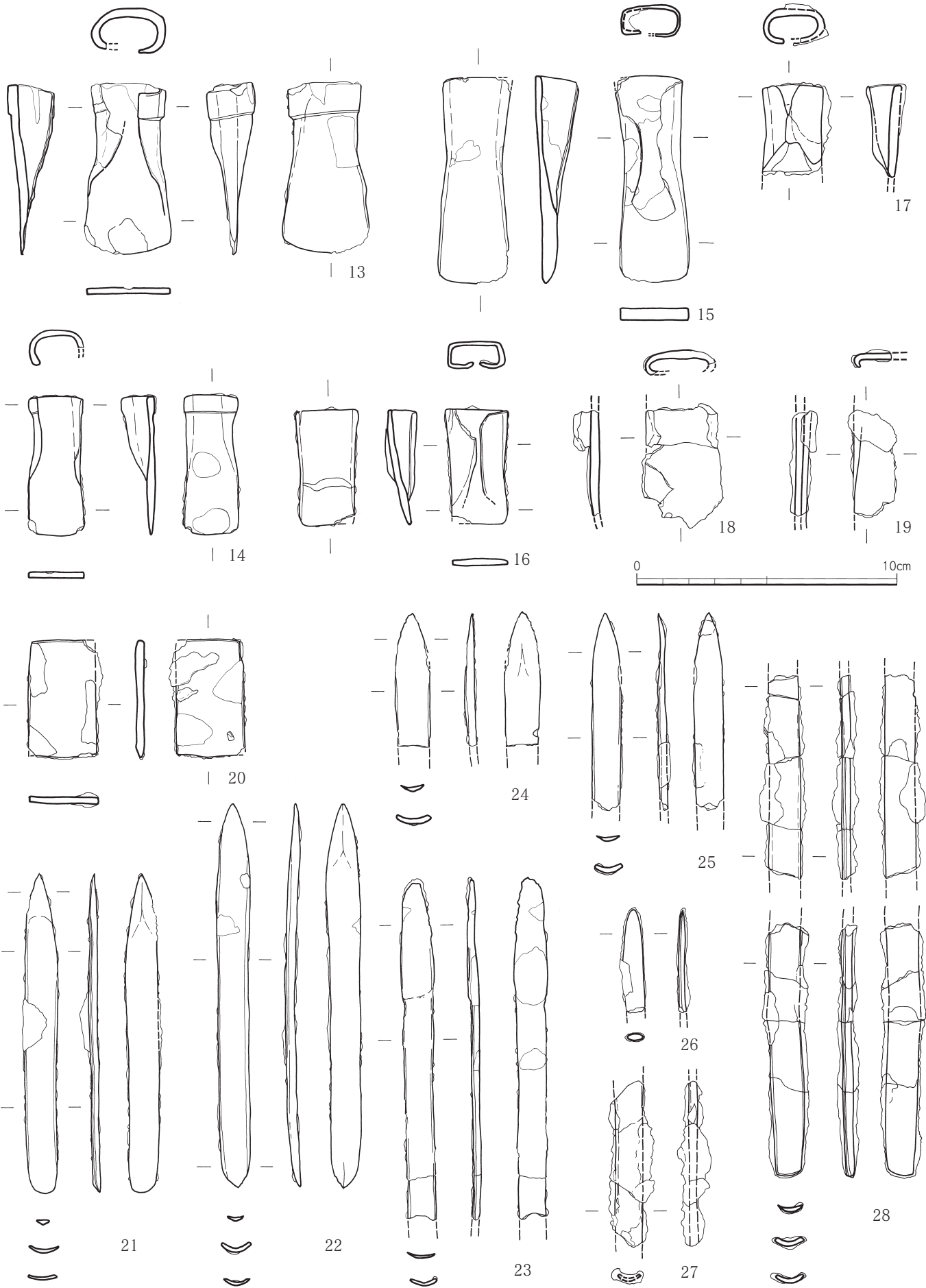
21～33は鉈。21は13号住居跡出土の完形品。鋒がやや反り、背面からみて左側の研ぎ減りが強い。断面形は、刃部が三角形、身部は三日月形。22は39号住居跡から出土した完形品。刃部は、背面からみて左側の研ぎ減りが強い。基部についても尖り気味で、若干の反りがあり、鑄状の稜を持つことから、使用された可能性がある。横断面形は刃部、身部共に三日月形。23は鋒と基部を欠損する資料で、横断面形は三日月形。38号住居跡からの出土品。24は鋒部で背面左側の研ぎ減りが強い。横断面形は三日月形。15号住居跡からの出土品。25は14号住居跡から出土した鋒部。横断面形は三日月形。26は鋒部で、12号掘立柱建物跡からの出土品。幅が1cm以下と細身のために他の資料よりも小形に見える。横断面形は凸レンズに近い。27は31号住居跡出土の身部。断面形は三日月形。表面に木質が若干付着するが、柄に関連するかは不明。28は身部から基部にかけての資料で、32号住居跡からの出土品。同一個体と思われるが接合はできなかった。上の図は上方が幅狭になることや横断面形から考えても鋒下と考えてよかろう。下の図は基部が残る。29は42号住居跡出土の小片で、横断面形は三日月形。30は32号住居跡からの出土品で、残りが悪く、横断面形から鉈と考えた。なお、同一遺構出土の28とは接合できなかった。31は鋒下と考えられる資料で横断面形は三日月形。39号住居跡からの出土品。32は17号住居跡から出土した。鉈としたが、欠損が多く詳細は不明。33は20号





第 115 図 鉄器実測図① (1/2)





第 116 图 鉄器実測図② (1/2)

住居跡出土品で故意に折り曲げたと考えられる資料。鋒を欠くが、断面形から考えれば、図の上方が鋒側であろう。

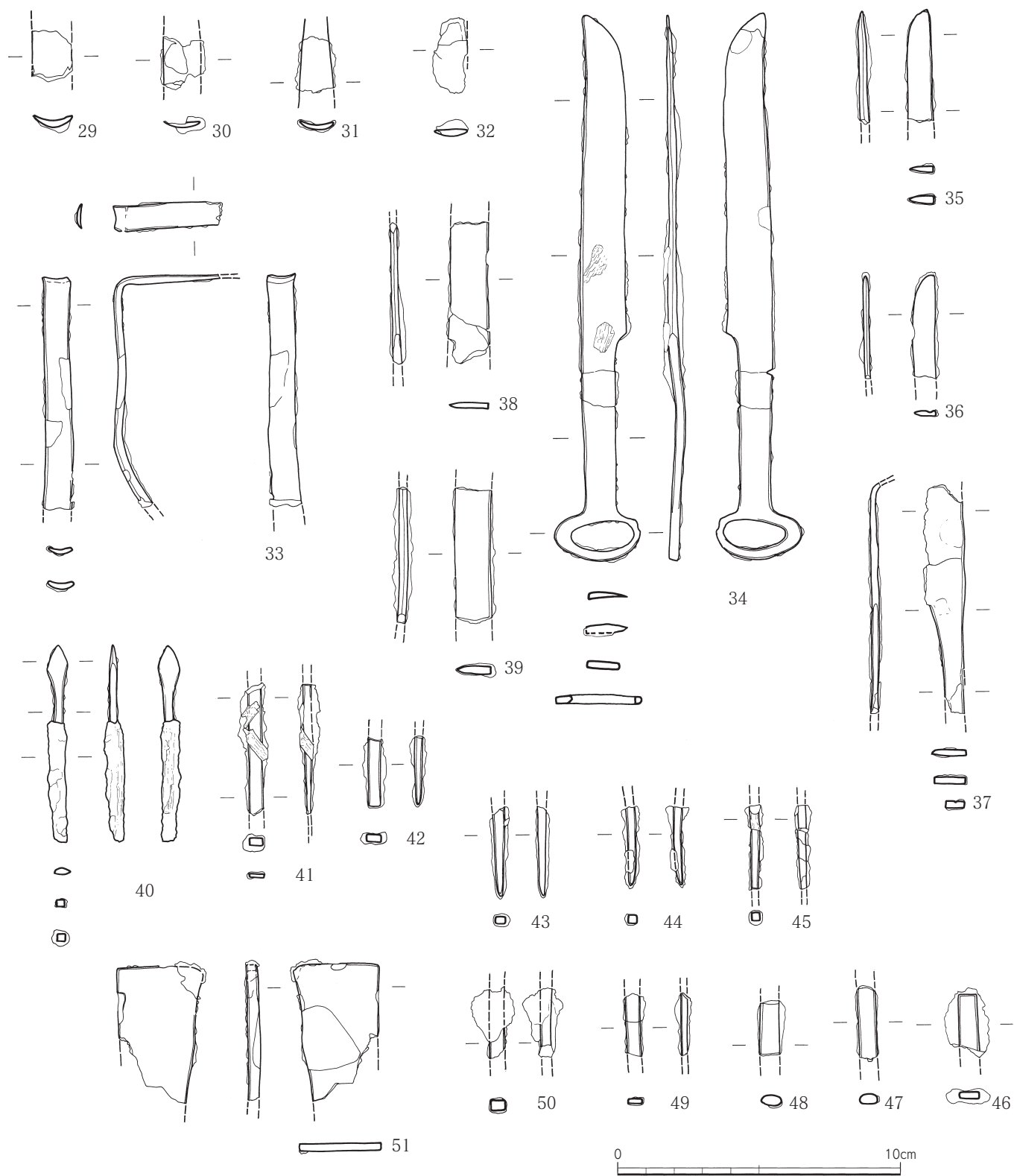
34～39は刀子。34は完形の素環頭刀子で、32号住居跡から出土した。関はやや深く切り込むため茎幅は刃部幅よりも小さい。素環頭は茎のほぼ中央に作られるが、横広の楕円形をなす。35は32号住居跡から出土した刀子の鋒部。36も鋒部で、38号住居跡からの出土品。37は刀子の身下半部から茎の資料。中ほどに関が確認できる。身上端部は曲げられており、そこから上を欠失する。20号住居跡から出土した。38・39は幅1.5cm程度で、片刃の鉄器のため刀子の身部と考えた。38は20号住居跡、39は38号住居跡からの出土品。

40～45は工具と考えた鉄器。40は31号住居跡から出土した。鉋などの工具としての用途が考えられるが小形の鉄鏃かもしれない。刃部の横断面形は凸レンズ状をなすが、本来の形状かは明らかではない。茎部の断面形は方形をなす。木質が良く残る。41は37号住居跡から出土した鉄器で、上下を欠く。幅と厚さに差があるため、横断面形は長方形で、同様の形状は42でも見られる。42には刃があるため小形の鑿などの工具と考えられる。木質の付着が見られる。42は30号掘立柱建物跡から出土した。先述したように、刃部が形成されており、小形の鑿などの用途が考えられよう。43・44は棒状の鉄器で下端部が尖るもので、43は41・42に近い。穿孔具や鑿などの用途が考えられる。43は37号住居跡、44は30号掘立柱建物跡からの出土品。45は棒状の鉄器で、上下端部を欠く。木質が残存するため、柄に装着されたことが分かる。17号住居跡から出土した。

46～50も棒状の鉄器だが、鉄器の一部か素材か不明なもの。46は38号住居跡から出土した。錆が厚いため、断定はできないが、上端部は面を持つように見える。47・48・49は32号住居跡からの出土品で、接合しないが同一個体の可能性がある。横断面形は凸レンズ状をなすが、錆のため本来の形を示すかは不明。50は16号住居跡からの出土品。

51～54は未製品の可能性がある資料。51は板状の鉄器で下部を欠失する。厚みなどから鑄造鉄斧の再加工品のような感がある。27号住居跡から出土した。52は歪な形をする資料で、上部に厚みがある。下部の細くなった部分が茎、その上部が関と考えれば、刀子の未製品と考えられはしないだろうか。10号住居跡から出土した。53は平面形が三角形を呈するもので、37号住居跡から出土した。刃部は確認できないが、上端が尖ることなどから鉄鏃の未製品の可能性がある。54は13号住居跡からの出土品で、平面形は台形をなす。下部に刃部を形成するため、未製品の可能性がある。

55～65は不明鉄器。55は32号住居跡からの出土品で、残存する平面形が「Y」字をなすもの。56は55に近い形態のもので、38号住居跡から出土した。57は32号住居跡出土品で、棒状をなすが、55の同一個体の可能性がある。58は15号住居跡から出土した鉄片。欠損部は見られないため、何らかの製品を作る際に生じた端切れ状の鉄片ではなかろうか。59は上下を欠く鉄片で、上方は幅が狭い。31号住居跡から33号住居跡の検出時に出土した。60は32号住居跡の出土品。錆のため形状に疑問がある。61も32号住居跡からの出土品で、錆のために形状には疑問が残る。62は長方形の鉄片で、10号住居跡からの出土品。鉄素材か。63は24号住居跡からの出土鉄器。厚みがあるため、鉄素材の



第 117 図 鉄器実測図③ (1/2)

可能性がある。64 は周辺部をすべて欠損する板状の鉄器。12 号住居跡から出土した。65 は 37 号住居跡から出土した鉄片。器表面の凹凸が激しく、周辺部はすべて欠損する。

66 ~ 68 は後世の鉄器の混入品と思われる資料。66 は P 682 出土の鉄片。彎曲し、薄い。周辺部の

すべてに欠損が見られる。67は12号住居跡出土で、薄く、曲面を持つ鉄片。構造が複雑なため後世の鉄器の可能性もある。66とよく似る。67は鉄釘と思われる資料で、38号住居の攪乱からの出土。69は20号住居跡出土の鉄滓。小さな気孔が全体に確認できる。

#### ④ 青銅器 (図版60-(1)～(3)、第119図)

1は12号住居跡から出土した小形仿製鏡で、面径7.45～7.5cmの正円に近い。通有の小形仿製鏡と同様に文様などにシャープさはなく丸身を持つ。図上方は湯回りが悪く、文様が不鮮明なため、こちらが湯口方向と考えられ、鑄型からみられる湯口と鈕孔の向きとも一致する。外側から内側に向かい、櫛歯文帯—内行花文帯—文様帯—円圈—鈕がある。平縁は0.9cm程度の幅を持ち、櫛歯文帯は左上がり。内行花文帯は10弧の弧文が浮彫状に表現される。文様帯は5つの蕨手文と、3時と6時の方向に獣形文ないしは擬銘文を鑄出す。円圈は鈕に影響されたのか横長の楕円形で、蕨手文などと着く。鈕は直径が1.5cm前後の楕円形で、高さは0.6cm。頂部は僅かな窪みがあるが、どのような理由により、窪んだかは不明。鈕孔は直径が0.25cm。鈕孔の下部は鏡本体より低い位置にあり、鈕孔の外側は窪むため、鑄型における中型の設置方法を観察することができる。鏡面の断面形は凸面を呈する。色調は緑褐色から淡褐色を呈する。以上のことから、本資料は高倉洋彰氏の分類の内行花文日光鏡系第Ⅱ型a2類に分類できる。

2は31号住居跡出土の青銅片で、銅滓やバリなどの可能性もある。風化のために周縁は欠損し、粉をふき本来の形は不明。色調は白緑色。両面に稜を持つため鎊の可能性もある。ただし、直線的ではなく、断面の観察でも表裏では稜の位置がずれていることが分かる。可能性としては銅鏃か。

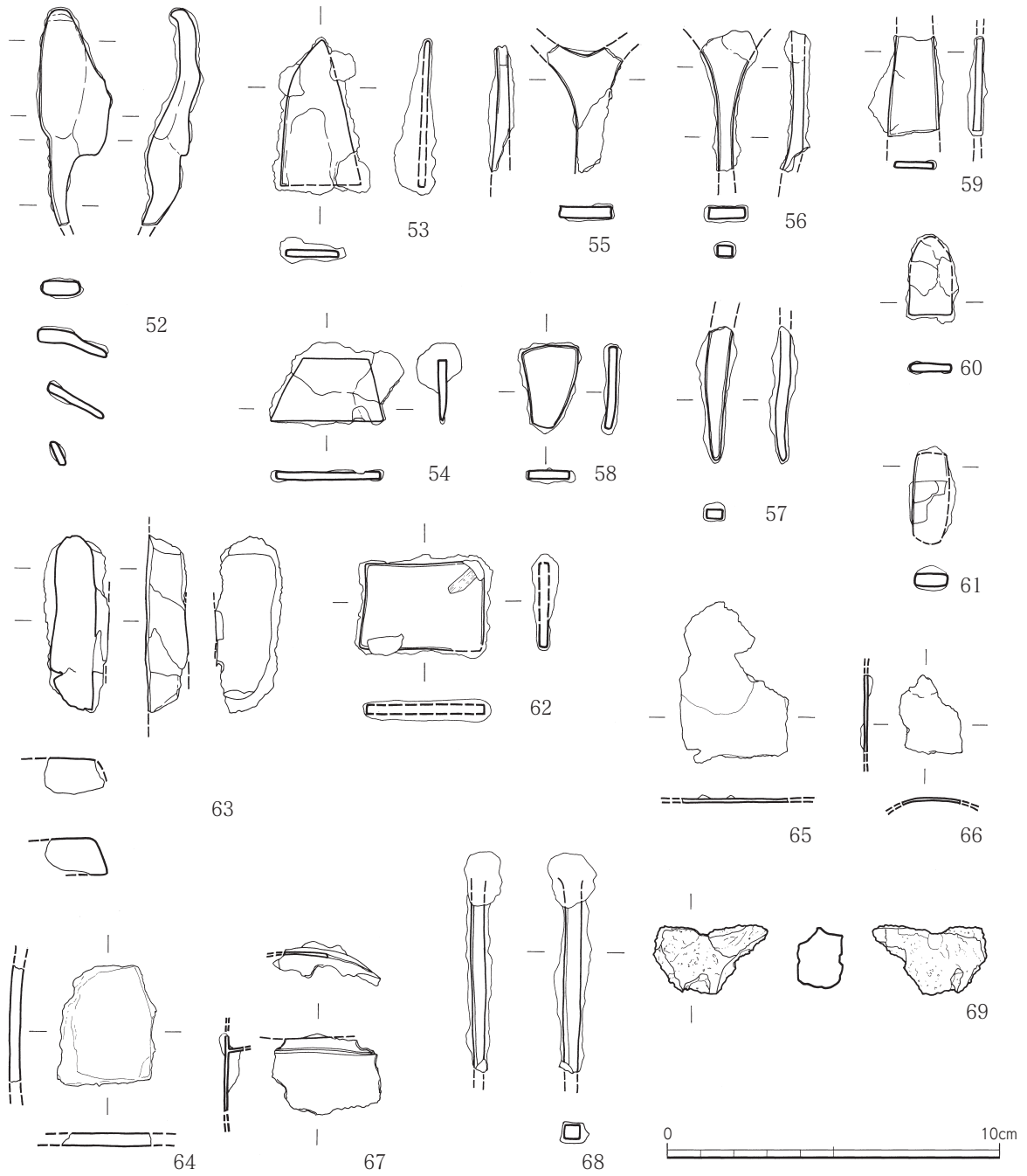
#### ⑤ 玉類 (巻頭図版7・8、第120～123図、表6・7)

石製玉等10点、ガラス管玉1点、ガラス小玉174点を確認している。個別の計測値などは観察表を参照していただきたい。

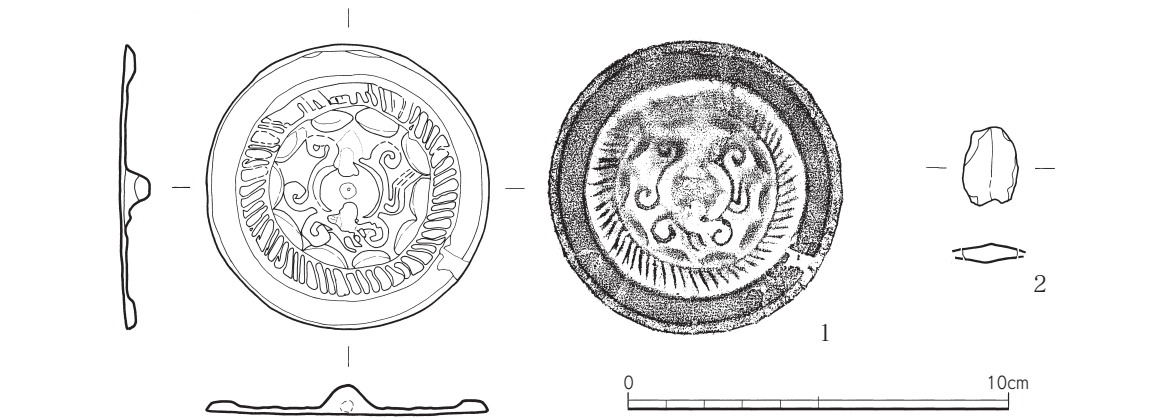
##### 石製玉等 (1～11)

1は13号住居跡、2はP997、3は28号住居跡、4～7・10は32号住居跡、8は31号住居跡、9は21号住居跡、11は30号住居跡から出土している。

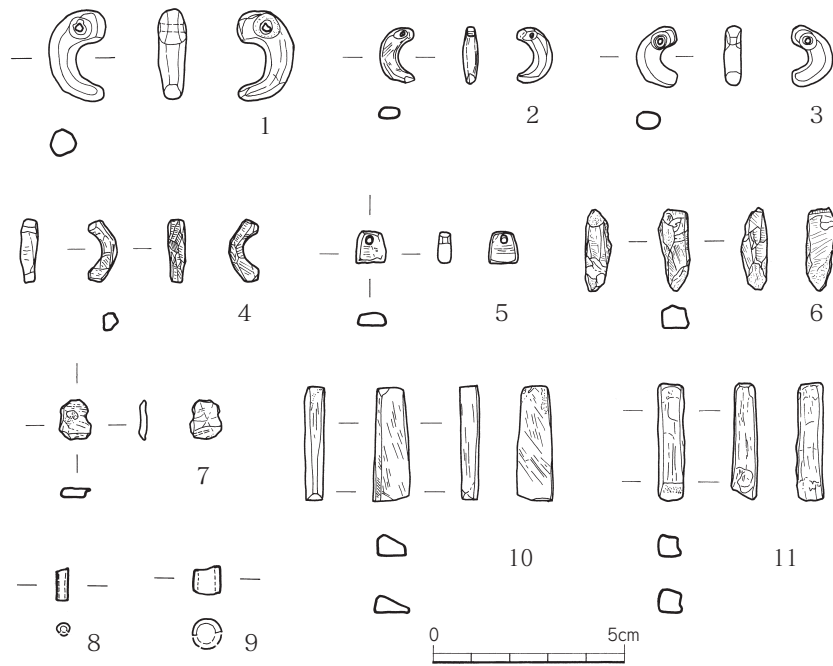
1～3は、頭部と尾部のくびれが明瞭な定型式の勾玉である。1が暗緑色～黒色、2が乳白色の滑石系で、3は濃緑色半透明の石材を使用する。3点とも穿孔は両側から行われ、1・2については片側に穴をあけなおした跡がみられる。4は濃緑色半透明の用途不明品。半輪状に粗く調整されており勾玉の未成品にも見えるが、幅5mmと細いため他の用途で使われたと考えられる。5は石製垂飾である。3・4と同じ濃緑色半透明の石材を使用する。台形状に成形し、穿孔を片側から一ヶ所施す。6・10は濃緑色半透明の玉の未成品。6は円錐状、10は長方形の棒状に粗加工される。7は3～6・10と同じ濃緑色半透明の石材を使用し、両側にくびれを持つように見えるが、非常に薄く、表面に研磨した痕跡もないことから素材、もしくは素材から出たチップといえる。8・9は管玉である。9は灰



第 118 图 鉄器実測図④ (1/2)



第 119 图 青銅器実測図① (1/2)



第120図 石製玉等実測図(1/2)

白色～灰色のガラス製で、8は濃緑色の碧玉製である。11は珪化木の用途不明品。棒状で玉を成形するのにつかわれた可能性がある。

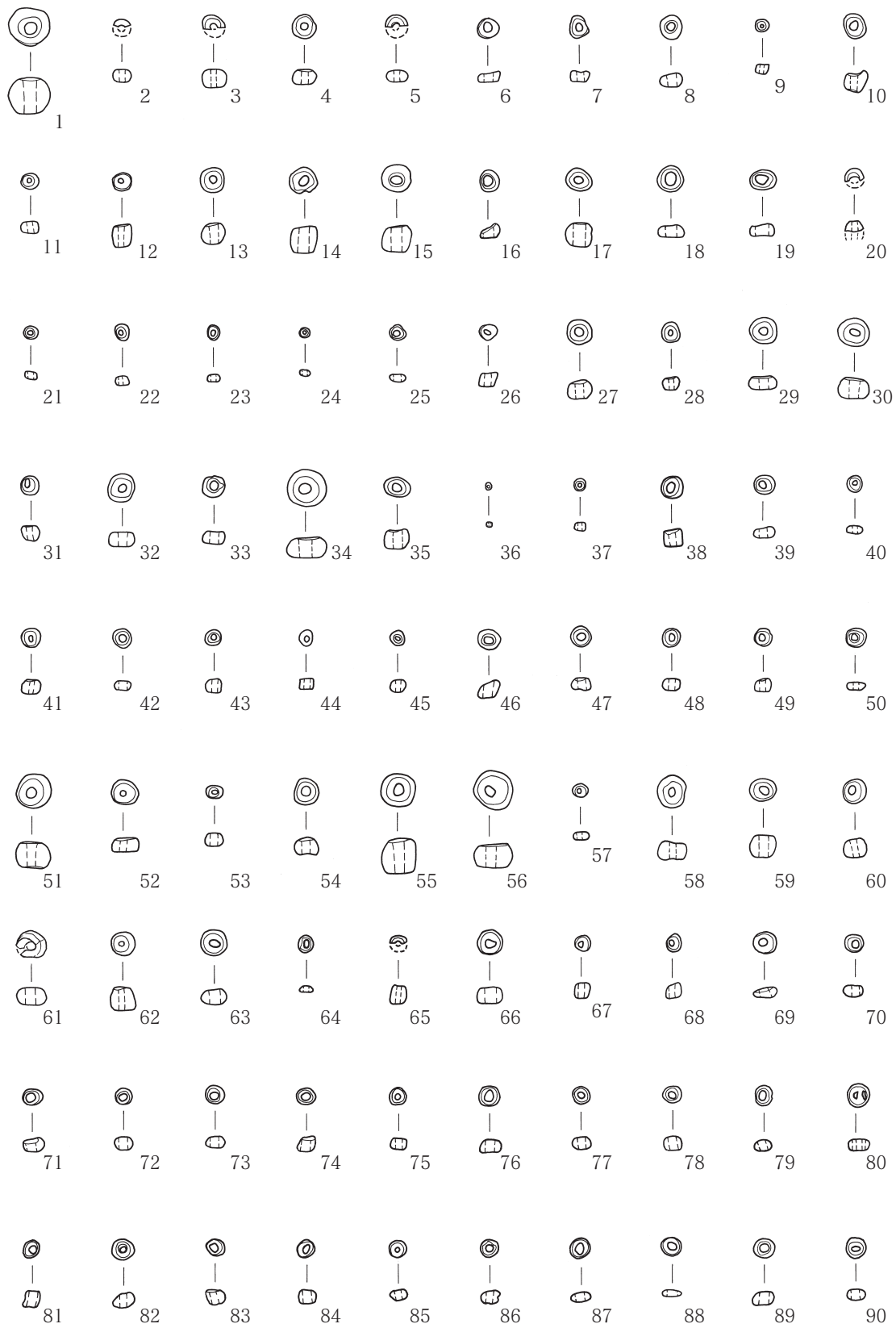
#### ガラス小玉 (1～174)

1～7は5号住居跡、8は6号住居跡、9は12号住居跡、10～20は14号住居跡、21～26は15号住居跡、27～31は18号住居跡、32は20号住居跡、33は27号住居跡、34～39は28号住居跡、40・41は31号住居跡、42～69は32号住居跡、70～117は33号住居跡、118～124は35号住居跡、125・126は38号住居跡、127・128は39号住居跡、129は40号住居跡、130～153・163～174は42号住居跡、154は6号掘立柱建物跡、155は36号掘立柱建物跡、156は37号掘立柱建物跡、157は53号掘立柱建物跡、158は2号井戸、159は8号溝、160はP805、161は遺構検出時から出土した。162は調査区中央部表面採集品。

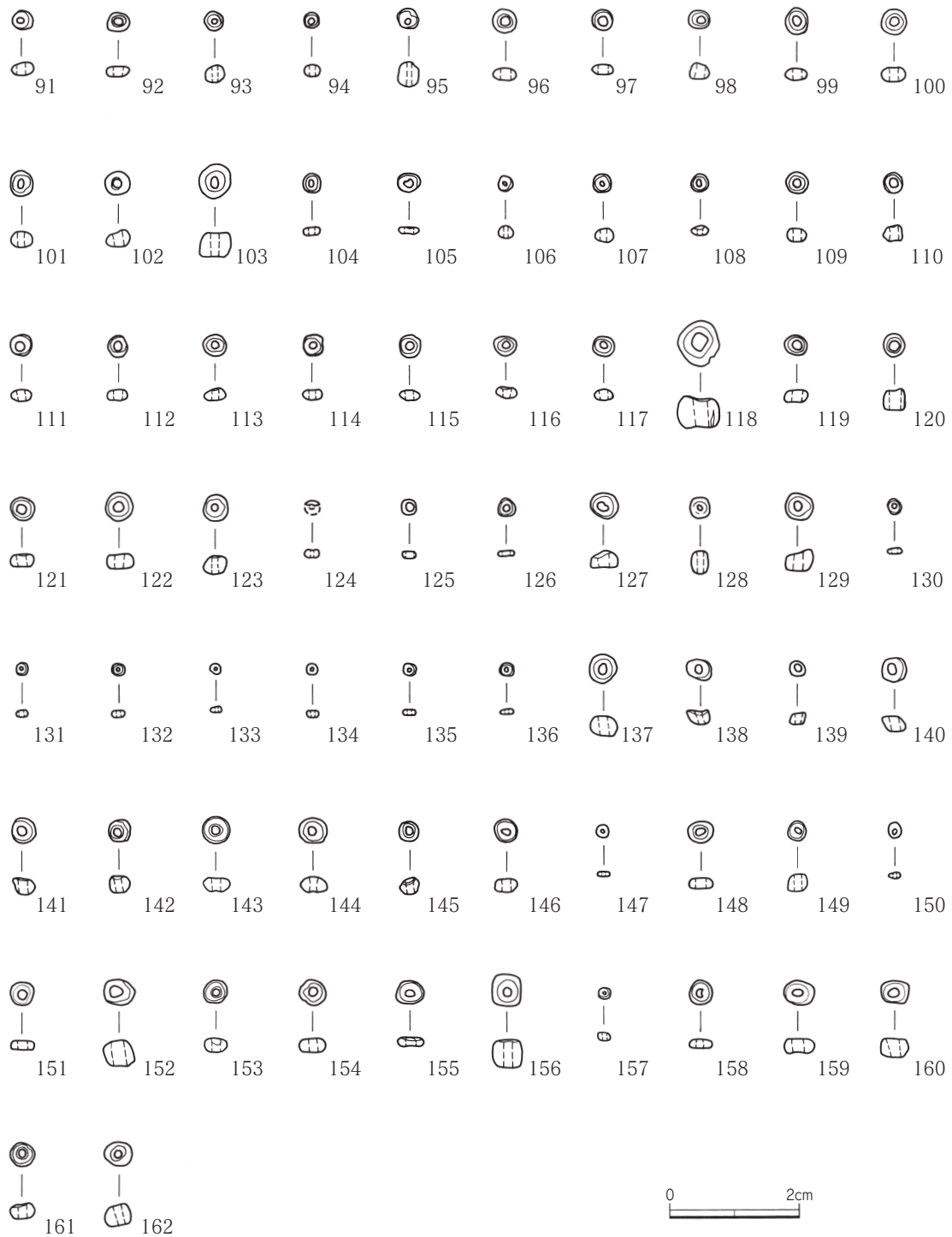
ガラス小玉の内訳は174点中、小玉162点(1～162)、粟玉12点(163～174)である。小玉は色調により、紺(I類)、青(II類)、緑(III類)に大別され、不透明のコバルトブルー(I-a類)、半透明のコバルトブルー(I-b類)、不透明のブルー(II-a類)、半透明のブルー(II-b類)、半透明のライトブルー(II-c類)、半透明のブルーグリーン(III-a類)、不透明のグリーン(III-b類)の7種類に細分できる。

1・20・32・34・51・55・59・117・121・123・149・153・156・158・160・161はI-a類である。16点のうち、とくに1・51・55・156は径が大きく、径6mm前後、厚さ5mm前後を測る。他の玉は径5mm前後、厚さ3mm前後を測る。20のみ径3.5mmに対し厚さ4mmと厚手なつくり。いずれも気泡が多くみられ、一部研磨痕が観察できる。





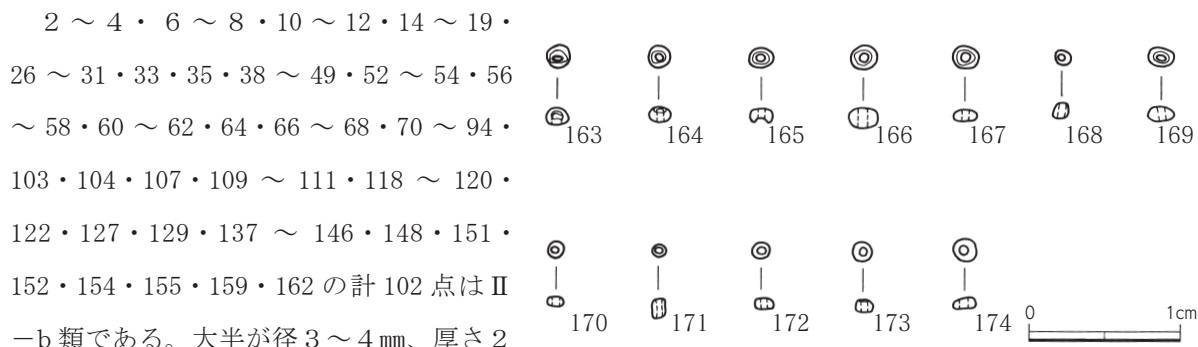
第 121 図 ガラス小玉実測図① (1/1)



第 122 図 ガラス小玉実測図② (1/1)

5・50・63・69・95～102・105・113～116・125・128 の計 19 点は I-b 類である。径 3～4 mm、厚さ 2～3 mm と I-a 類に比べ小ぶりで、細かい気泡が見られる。

65・106・108・112 の 4 点は II-a 類である。65 が径 3 mm、厚さ 3.2 mm でやや厚手なつくりなのに、対し、106 は径・厚さとも 2.3 mm で平面・断面とも円形、108・112 は径 3 mm 程度、厚さ 2 mm 未満と扁平なつくりをしている。



5 ~ 7 mm と大きく、研磨痕が観察できる。また、6 · 9 · 26 · 38 · 44 · 81 · 127 · 139 等は断面円筒形でガラスを引き伸ばして固めたのちに切断した可能性がある。

124 · 150 は II -c 類である。径 2.5 mm、厚さ 1.4 mm 前後を測る。II -b 類に対して平面・断面形が整っており、丁寧なつくりをしている。124 は約半分を欠損する。II -c 類は 2 点のみの出土。

9 · 13 · 21 ~ 25 · 36 · 37 · 126 · 130 ~ 136 の計 17 点は III -a 類である。4 は径 4 mm、厚さ 3.5 mm だが、他の玉は径 2 ~ 3 mm、厚さ 1 mm 前後と小さい。

163 ~ 174 の 12 点は III -b 類である。径 2 mm 以下、厚さ 1 mm 前後の極小の粟玉で、玉類の多く出土した 42 号住居跡から検出している。

#### ⑥ 石製鑄型類 (図版 60-(4) · 61、第 124 · 125 図、表 8)

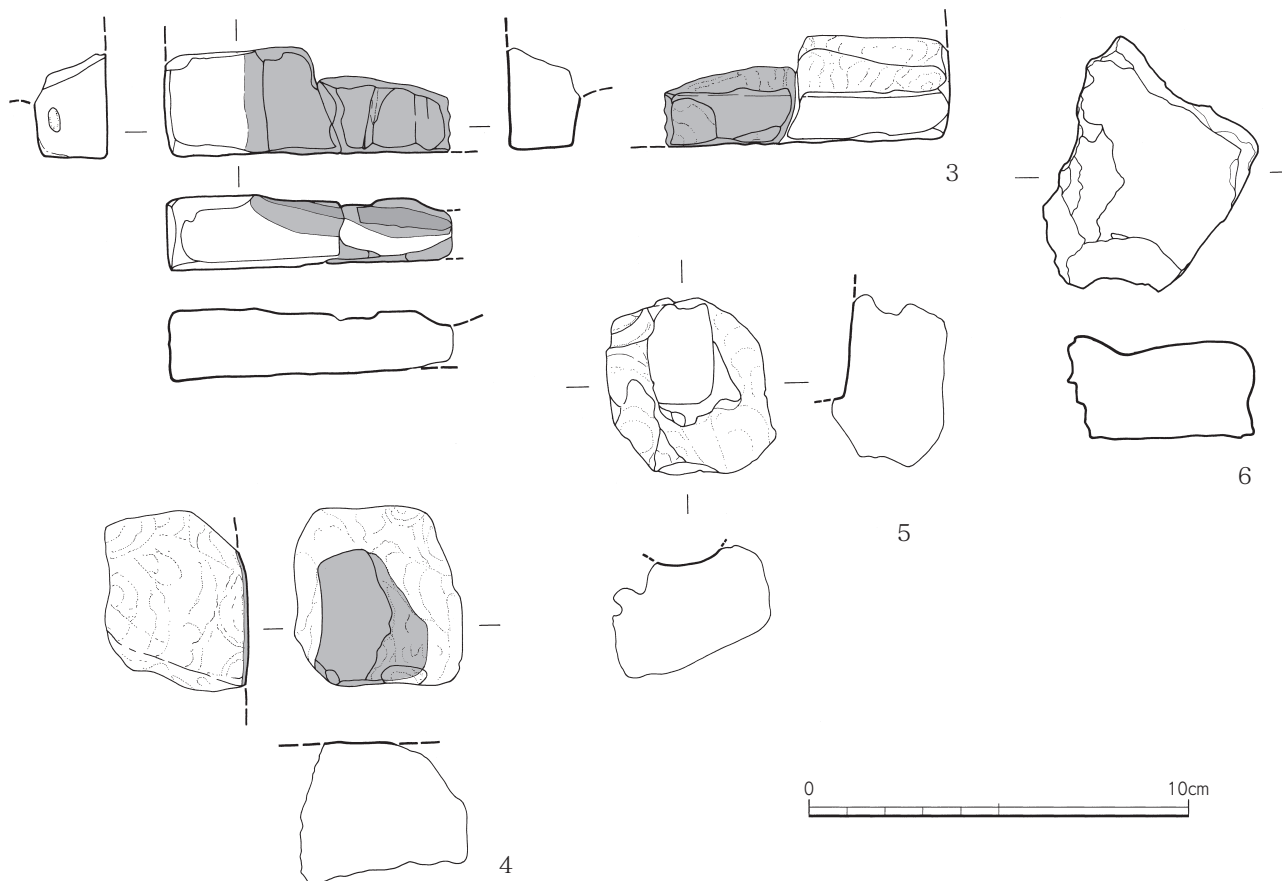
1 は包含層出土の銅矛鑄型で、残りが悪いが、袋部の右半部付近と考えた。合わせ面は殆ど残存せず、再加工を目的にしたものであろうか敲打痕が目立つ。このため、鑄型面の左部に袋部の彫り込みが残存し、左上部に翼の彫り込みがかろうじて確認できる。残存部から考えると中広形銅矛の鑄型でよかろう。側面には線刻様の彫り込みがあるが、黒変もなく鑄型面になるかは断定できない。鑄型面と同様に中央部を中心に敲打痕が認められる。下面は砥石として転用されたようで、平滑な面を持つ。裏面にも上述した二面ほどではないが、敲打痕が認められる。転用を考えて再加工を行ったのであろうか、形状は立方体に近い。石材は白褐色でやや軟質の石英長石斑岩。

2 は 16 号住居跡の北壁付近の床面直上で出土した銅矛鑄型片で、鑄型面、裏面、左側面は砥石として使用される。深く鋭い研ぎがあるため、金属器の研磨に使用されたと推測される。鑄型面には袋部と耳の一部が残存し、袋部にはヒレが付くようである。型とその周りは黒変しており、実際に使用されたことが分かる。袋部の断面形やヒレが付くこと、耳の形状から考えると中広形銅矛と考えるのが妥当であろう。石材は白褐色の石英長石斑岩。

3 は銅矛の鑄型で、44 号掘立柱建物跡 (左) と 37 号掘立柱建物跡 (右) の出土品が接合した。鑄型面は刃部の左半部の彫り込みが確認でき、残存する脊部、樋部、刃部の形状から考えると鋒の下部であろう。型とその周囲は黒変する。下面は平滑で、銅矛鑄型の刃部から脊部部分には下方へと広がる黒変がある。黒変は、銅矛鑄型側が濃く、カーボン状の付着物を観察することができる。裏面は残



第 124 図 石製鑄型類実測図① (1/2)



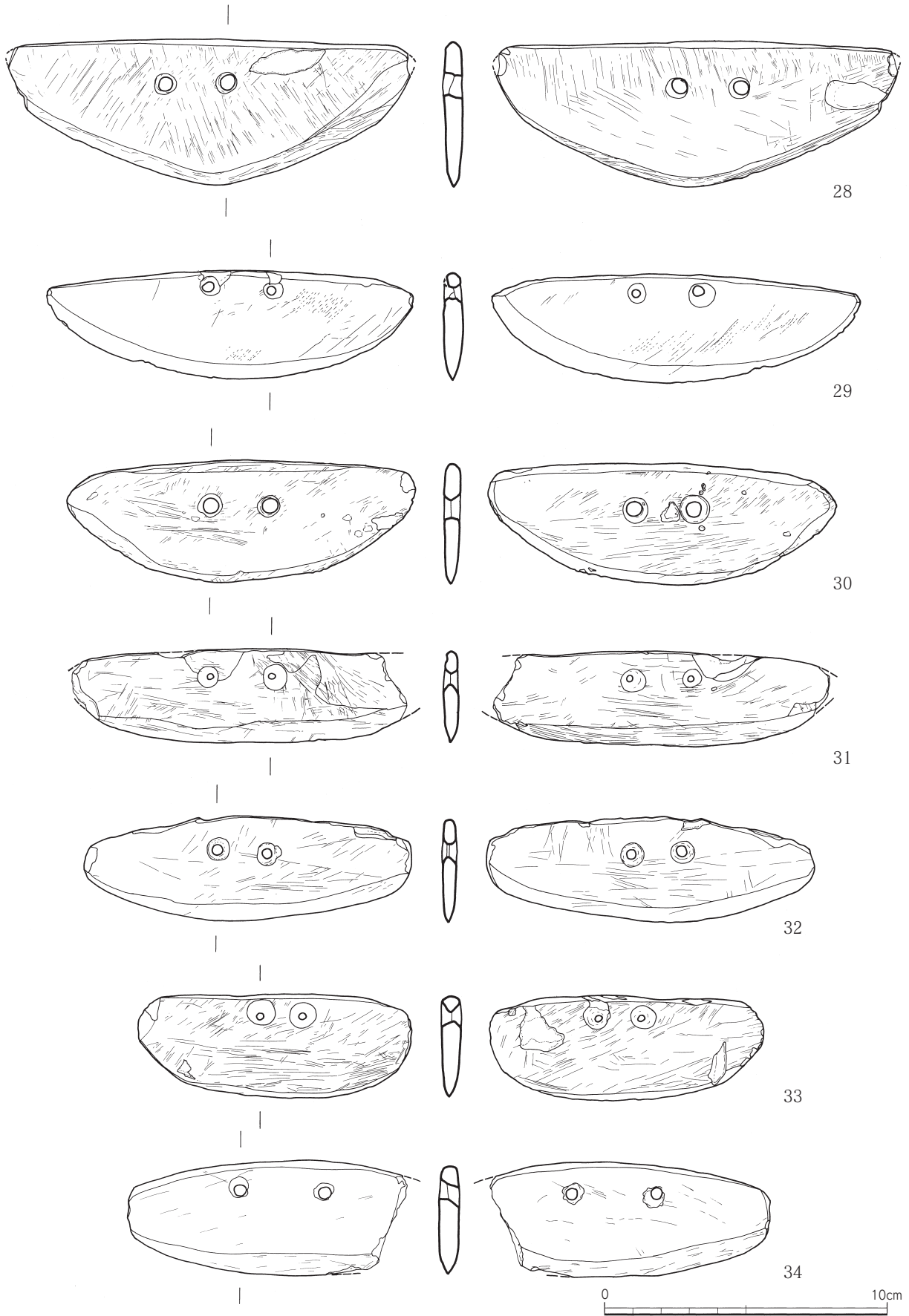
第 125 図 石製鑄型類実測図② (1/2)

存部が表面よりも乏しいが、図の上部に僅かな段を有す。また、一方の破片のみに黒斑が確認できる。当鑄型の彫り込まれた型が銅矛であること、下面が平滑で、銅矛の彫り込みに沿って黒変が見られることから連結式の鑄型と考えた。つまり当資料は、熊野神社銅矛鑄型や御陵遺跡 2 次調査出土鑄型のような広形銅矛の連結式鑄型のようなタイプであり、裏面に見られる僅かな段は断面図や側面図のように復元でき、鑄型の連結部に見られる溝の一部と考えたい。なお、二つの破片は、黒変部の範囲が連続しないため、鑄造途中で破損した可能性が考えられる。石材は白褐色を呈する石英長石斑岩製である。

4 は包含層出土の石英長石斑岩片で、黒変が認められるため鑄型片と判断した。黒変した面は鑄型面と思われ、縦断面の観察から僅かに曲面を持つことが分かる。ただし、この彎曲が鑄型本来のものか、磨滅に起因するものかは分からない。

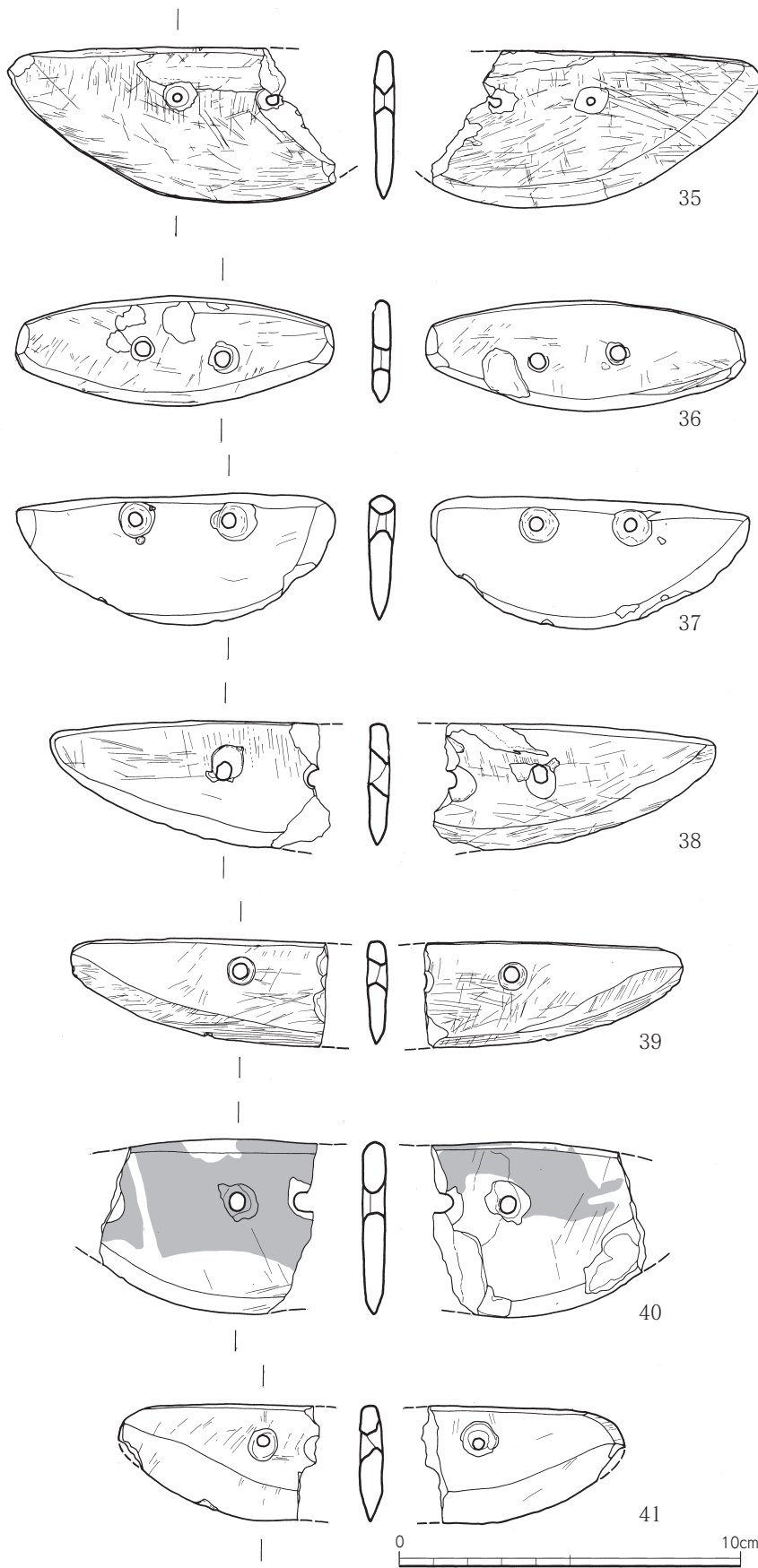
5 は 32 号住居跡の出土品。石英長石斑岩製で、型の彫り込みらしきものがあるためここで報告するが黒変はない。破損部分が多く、ヒビも多いため、天地等も不明。実測図の横断面形は、曲面を持つ。断面を観察し、天地を逆にすると小銅鐸鑄型のようにも見えるが断定できなかった。

6 も 32 号住居跡から出土した石英長石斑岩の破片。型や黒変などはなく、砥石としての転用も見られない。鑄型の一部であったのだろう。



第 126 图 石器实测图③ (1/2)



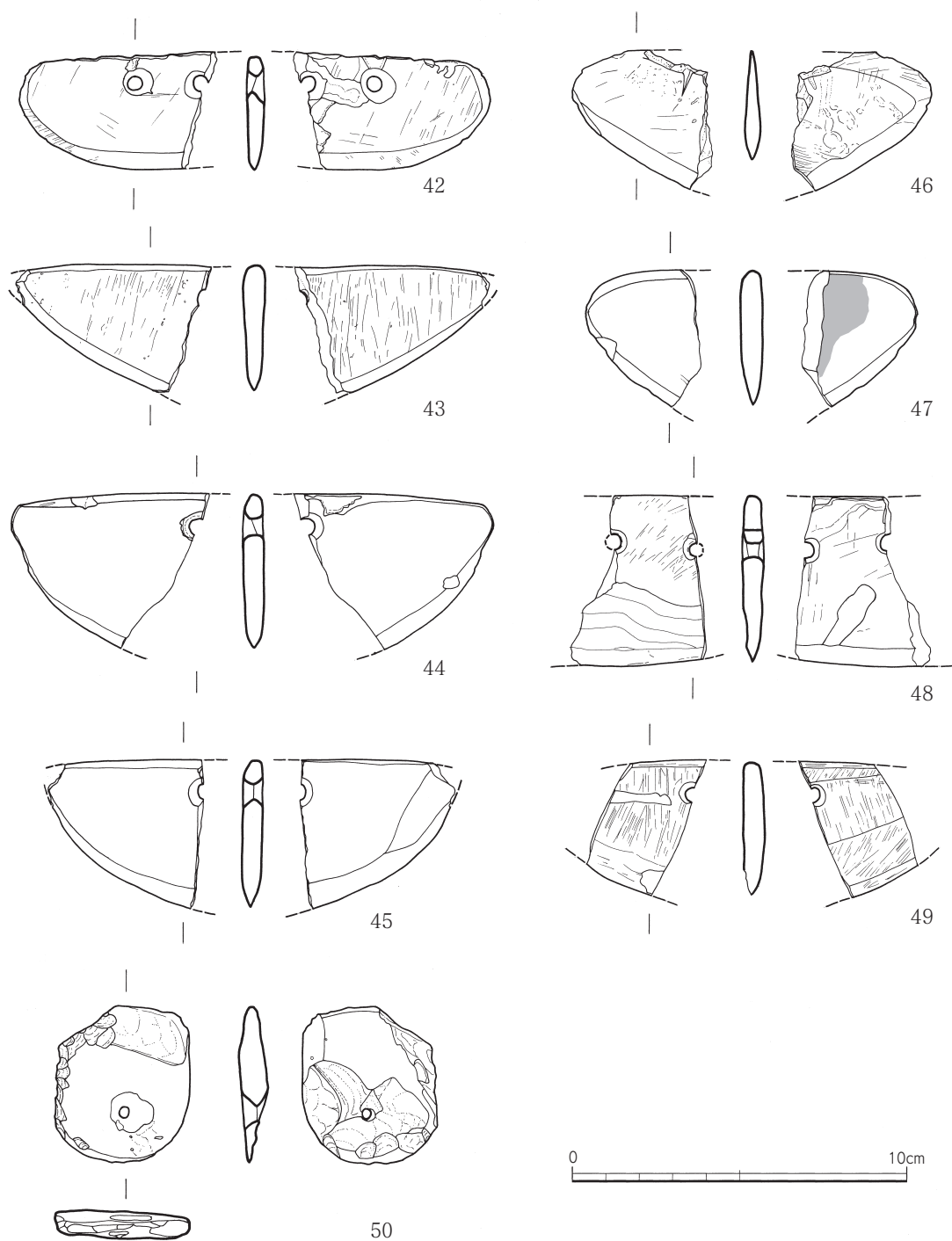


第127図 石器実測図④ (1/2)

⑦ 石器 (図版 62 ~ 68、  
第 126 ~ 135 図、表 9)

ここでは弥生時代の石器  
77 点 (28 ~ 104) を報告  
する。なお、出土地点や法  
量は観察表を参照してい  
だきたい。

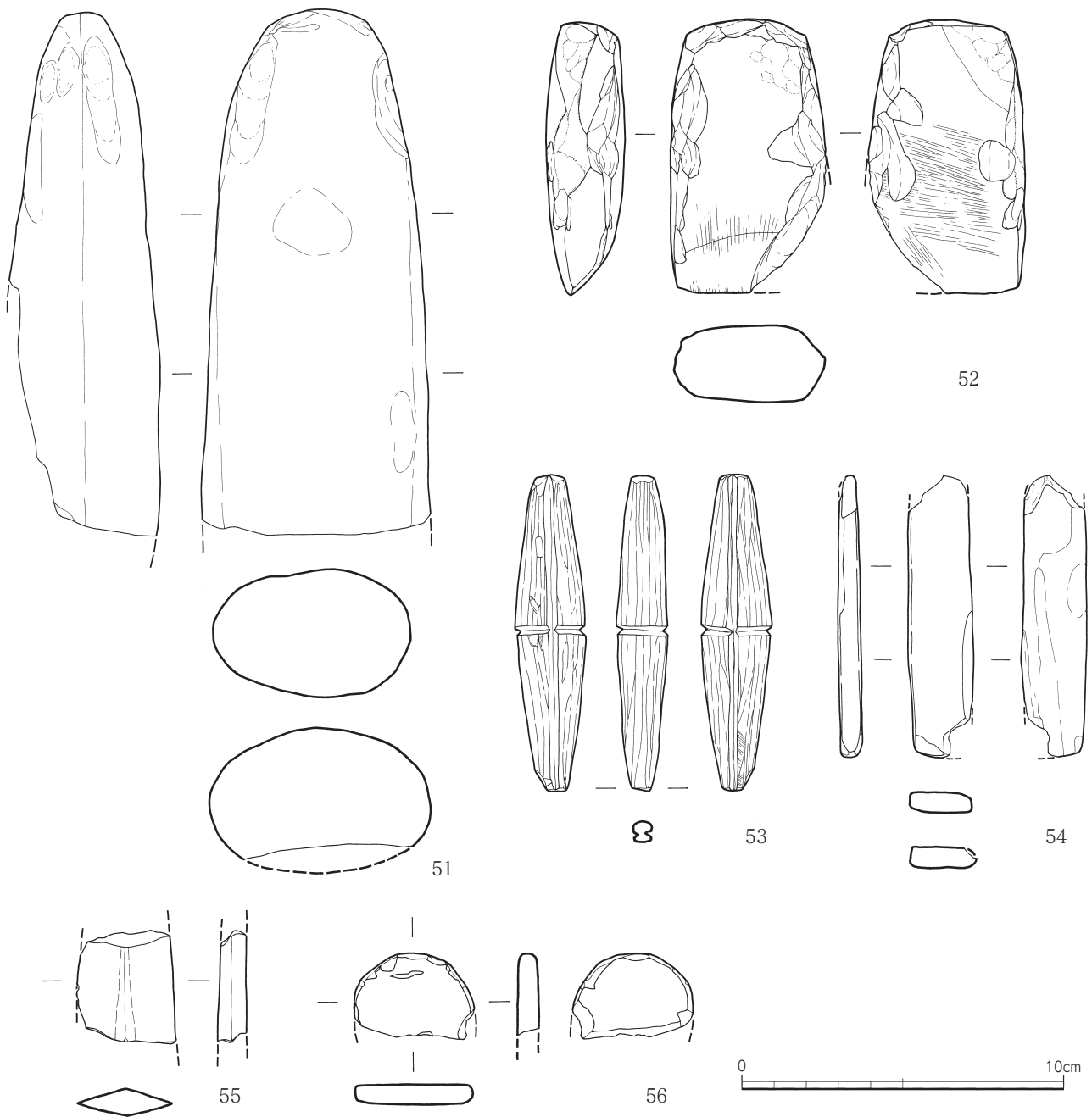
28 ~ 49 は石包丁であ  
る。すべて磨製であり、孔  
が残っているものはいず  
れも両面穿孔する。28・35・  
43 は背縁が直線的である。  
28 は刃部が張り出して  
おり全体が三角形を呈す  
る。35 は石材が軟質で、  
背と刃部との接点がやや  
丸みを帯びる。43 は 1/3  
強の破片であるが刃部  
が直線的であり全体の形  
は三角形に近くなるもの  
と思われる。29 ~ 34・  
36 ~ 42・44・45 は  
背縁がやや丸みを帯び  
ており、刃部との接点  
も丸みを帯びているもの  
がほとんどである。中  
でも 31 ~ 34・36・39・  
41・42 は全体が丸みを  
帯びた長方形を呈して  
いる。また、36 は特に  
刃部と孔までの間隔が  
狭く、何度も研ぎなお  
して使用されたものと  
思われる。37 は泥砂岩  
製でかなり軟らかい。  
38 は刃部に刃こぼれ  
が認められる。40 は



第128図 石器実測図⑤ (1/2)

1/2程度の破片であるが両面に煤が付着している。42も1/2程度の破片資料で小形品。背は滑らかではなく、5～10mmの間隔で段を持つ。45は3mmまでの角閃石を多く含む角閃石安山岩製であり、一部被熱により黒変している。47はかなり軟らかい角閃石安山岩製のもので、裏面が一部被熱のため黒変している。

50は石包丁の転用石器と考えられるが何に用いたかは不明であり、これが完成形なのかどうか



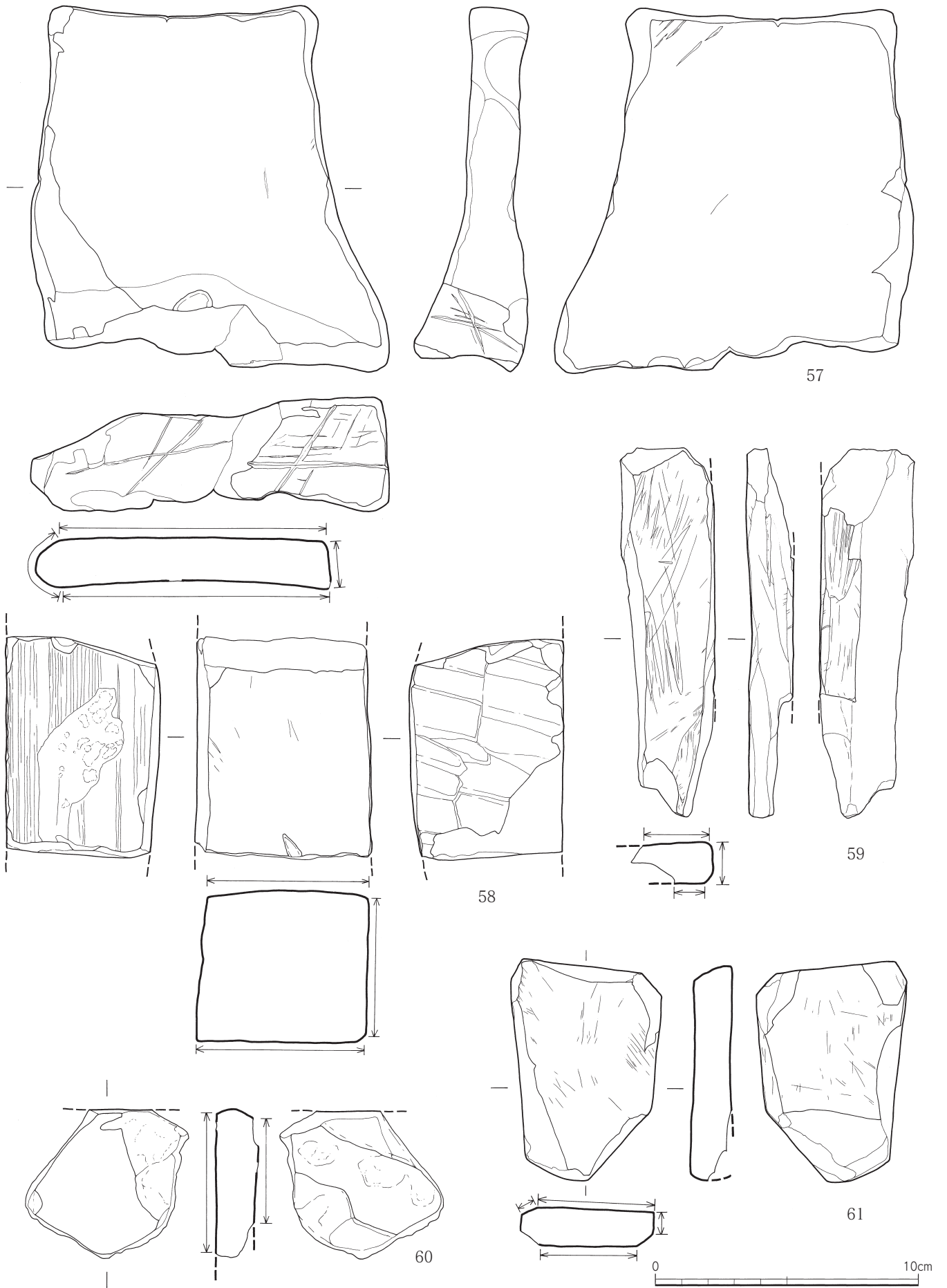
第129図 石器実測図⑥ (1/2)

不明である。石包丁を叩いて形を整えているが、丸みを帯びた刃部と背の一部が残っている。図面の上部にあたる部分は二次加工している可能性があり、表面の孔には紐擦れによると思われる跡が残る。

51、52は磨製石斧。51は両刃石斧であろう。全体はなめらかで丸みを帯びている。刃部は欠損する。52は片刃の石斧である。おおよその形は残存しているが刃部の1/2が欠損している。全体は丁寧に磨かれており、刃部と背面中央に擦痕が認められる。

53は石錘である。鋭い十文字の切れ込みが入れている有溝石錘で、ほぼ完形品である。

54はほぼ完形のヘラ状の石器である。珪化木製であり、厚さもほぼ均一となっている。上下の側



第130图 石器实测图⑦ (1/2)

面には加工痕が残るものの、使用痕などがほとんど見当たらないため、何らかの製品ののための素材であった可能性もある。

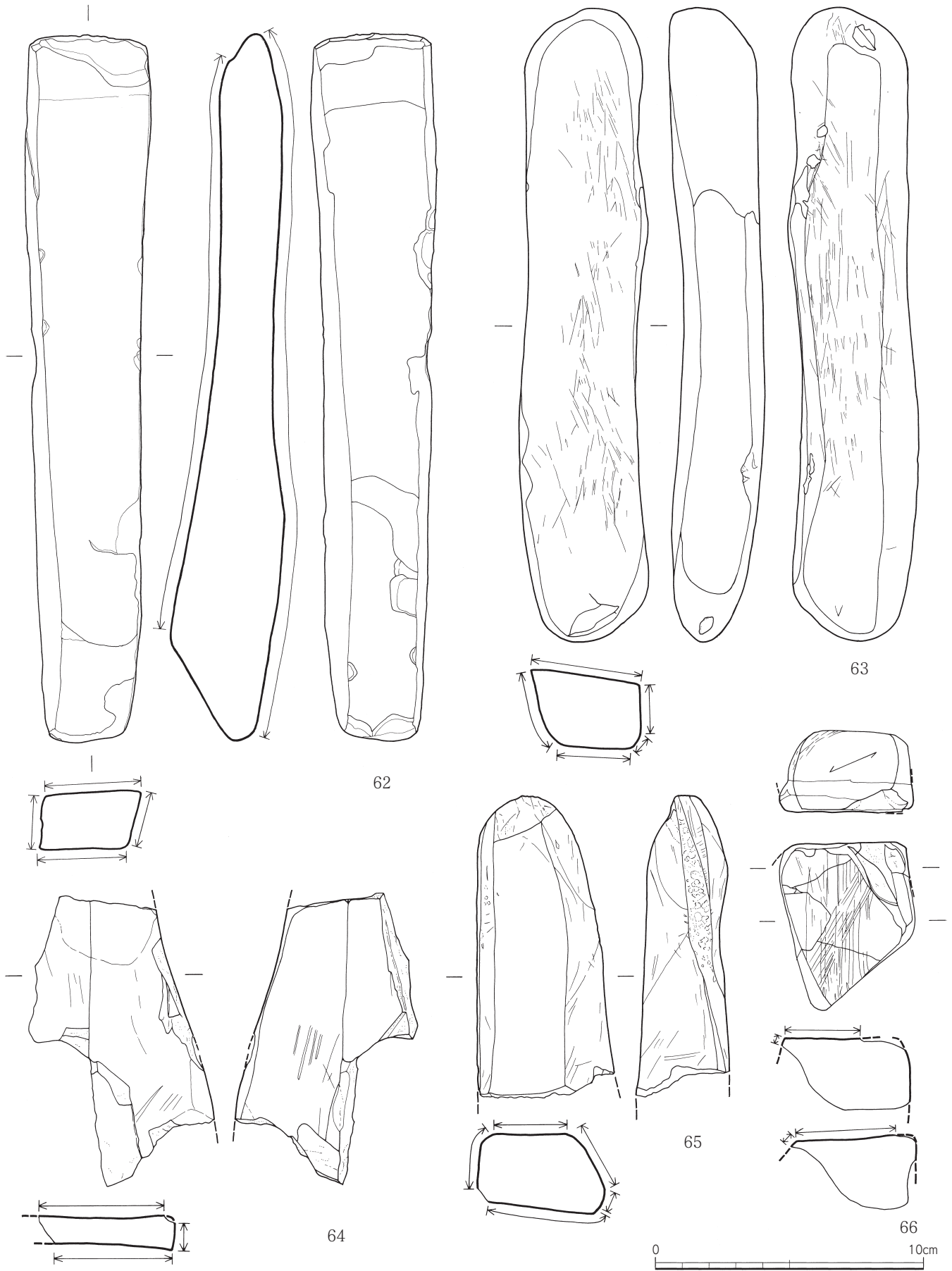
55 は石剣の破片である。石材はやや軟質で欠けている部分が使用によるものかどうかは不明であり、擦痕などもほとんど認められない。断面は菱形を呈し、表面の鑄の周辺が変色している。

56 は滑石製の用途不明品である。石材の縁辺は丸く処理をされ厚さも均一なことから、円盤もしくは紡錘車のようなものの未成品か。ただし穿孔のための敲打痕などは認められない。

57～97 は砥石である。57・58・60・71・73・76・77・81・83 の砂岩と 93 の凝灰岩の砥石は目が粗い。本来は鑄型であった可能性があるが、青銅器の掘り込みや黒変などはないので、ここで報告する。その他の砥石は泥岩や粘板岩製でこれらに比べると目が細かく、75・96 は石英長石斑岩製である。

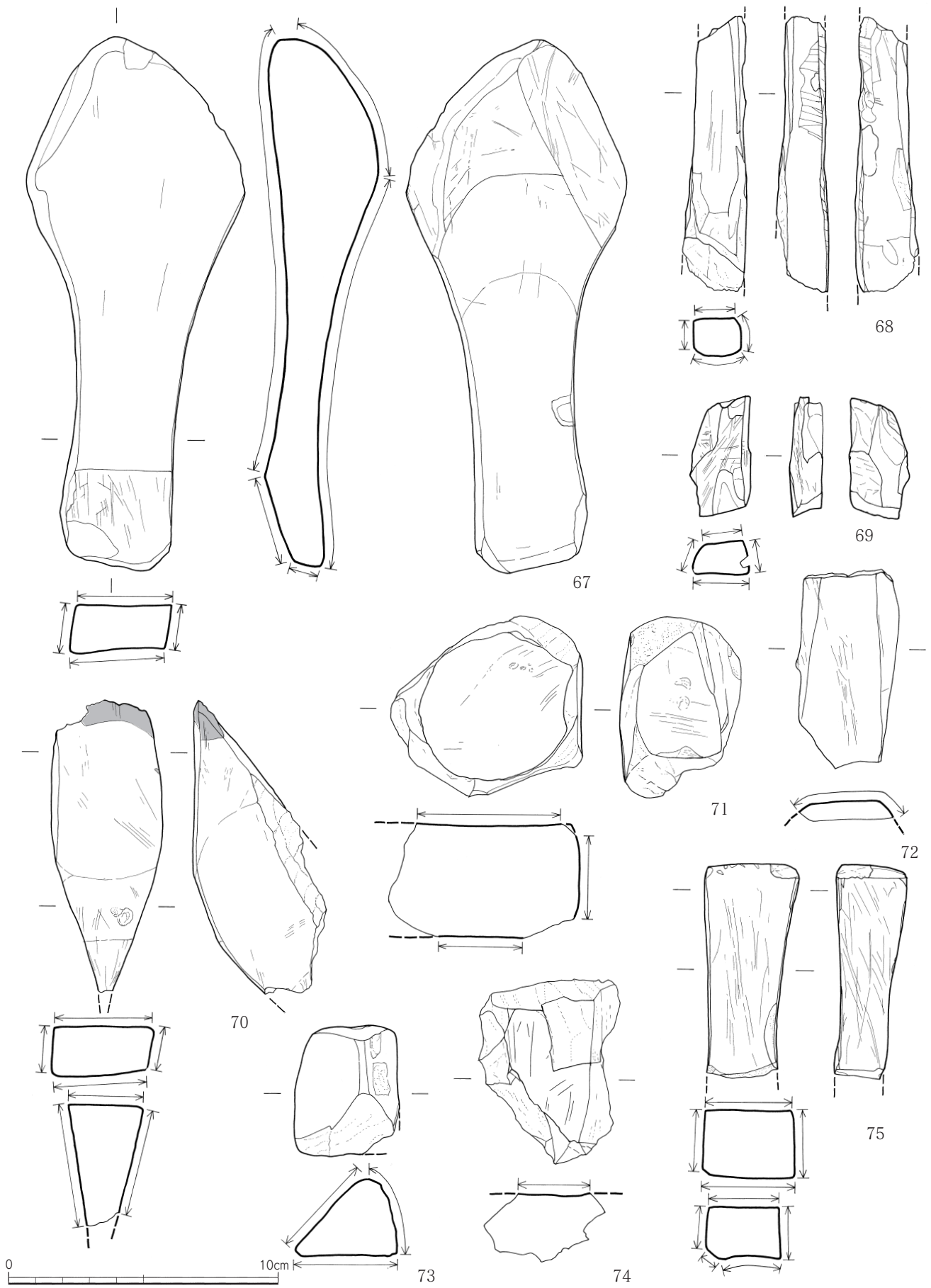
57 は板状で、平面形が台形を呈する砥石。5 面を使用し、側面に十字形の傷がある。58 は表面のみを砥石として使用しているが右側面と裏面には石を削ったような痕が残る。左側面には長軸方向に直線状の整形痕と、叩き痕がある。59 は 3 面を利用している細長い柱状の砥石。60 は 2 面使用されたことがわかる破片で、あまり使われていない。61 はほぼ完形であり目が細かく仕上げ用と思われる。62・63 は長さが 25cm 前後の大形品。62 は全体的に表面が磨滅しており擦痕などは認められない。63 は全面が使用され丸みを帯びている完形品である。64 は 3 面が使用され、裏面に薄く 1 mm 幅の溝が残る。65 は下部を欠損するが、全面が使用され丸みを帯びている。両側面に一部叩いた痕跡が認められる。66 は小片だが 3 面使われていたことが分かり、表面に直線状の擦痕が多く残っている。67 はほぼ完形品であり全面が使用される。68 は細長い柱状の砥石。全面使用されているが削り痕が残る面が複数あり、目の粗いものを持ちして研いだ痕跡と思われる。69 は小片であるが 4 面使用されており、おそらく細長い棒状を呈していたと思われる。70 は 5 面使用されており一部被熱して黒く変色している部分がある。71 は 3 面使用された目の粗いもの。72・74 はともに目の細かい砥石の小片。73 も小片であるがほぼ完形で全面使用されている。75 は石英長石斑岩製の細長い棒状の砥石である。下部を欠損するが全面が利用されており細かい擦痕が多く残る。76 は 3 面使用されていた破片資料であり、裏面にはわずかに凸凹が残る。77～88 はいずれも小さな砥石もしくは破片資料である。78 は 2 面使用されている砥石。下部に石斧の刃部が欠損していると思われる箇所があり転用品の可能性もある。82 は 4 面使われていたことがわかるが、うち 2 面に何度か上下に動かしてつけられたような細かい傷が残る。88 は 5 面使用されたことがわかる。上面には石を削ってできたような溝が見られる。89 は 4 面が使用されており、表面の中央が緩く湾曲する。90 は 3 面を使用した小片である。金属器によると思われる、長軸方向に走る鋭く長い傷が 2 面に残る。91 は完形品の小さく細長い砥石。92 は 3 面使用されていたことがわかる細長い小片。93 は直方体状の四角い凝灰岩製の破片であり 5 面が使用される。94・95・97 は 1～2 面使用された小片である。96 は 4 面を利用している小さな石英長石斑岩製の砥石である。

98・99 は敲石である。98 は表面のほぼ中央が細長く凹む。また、もともとは淡黄褐色の泥砂岩であるが、裏面を除いて赤色化する。99 は表面、裏面、下面に使用痕が残るが、それぞれ異なった痕

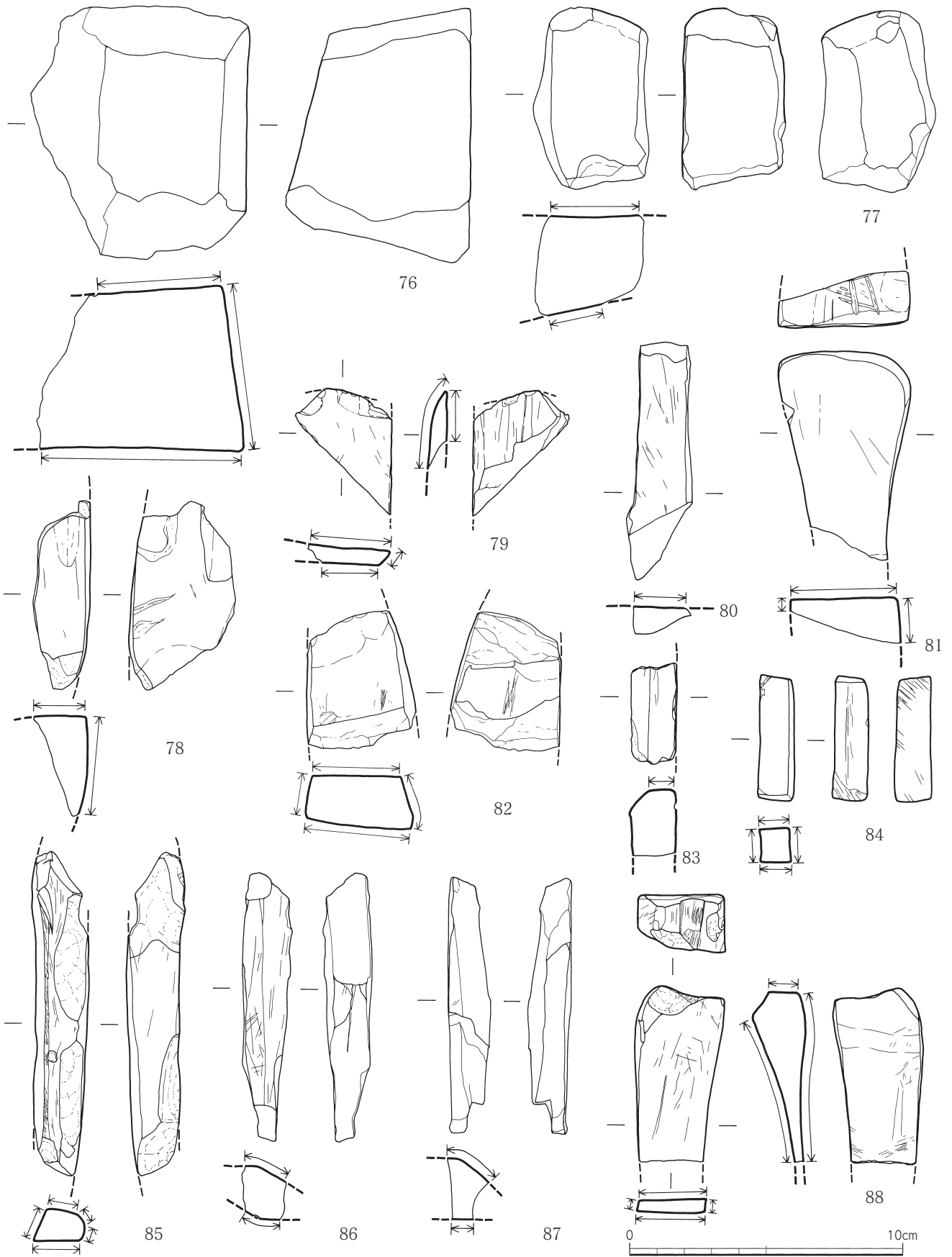


第 131 图 石器实测图⑧ (1/2)

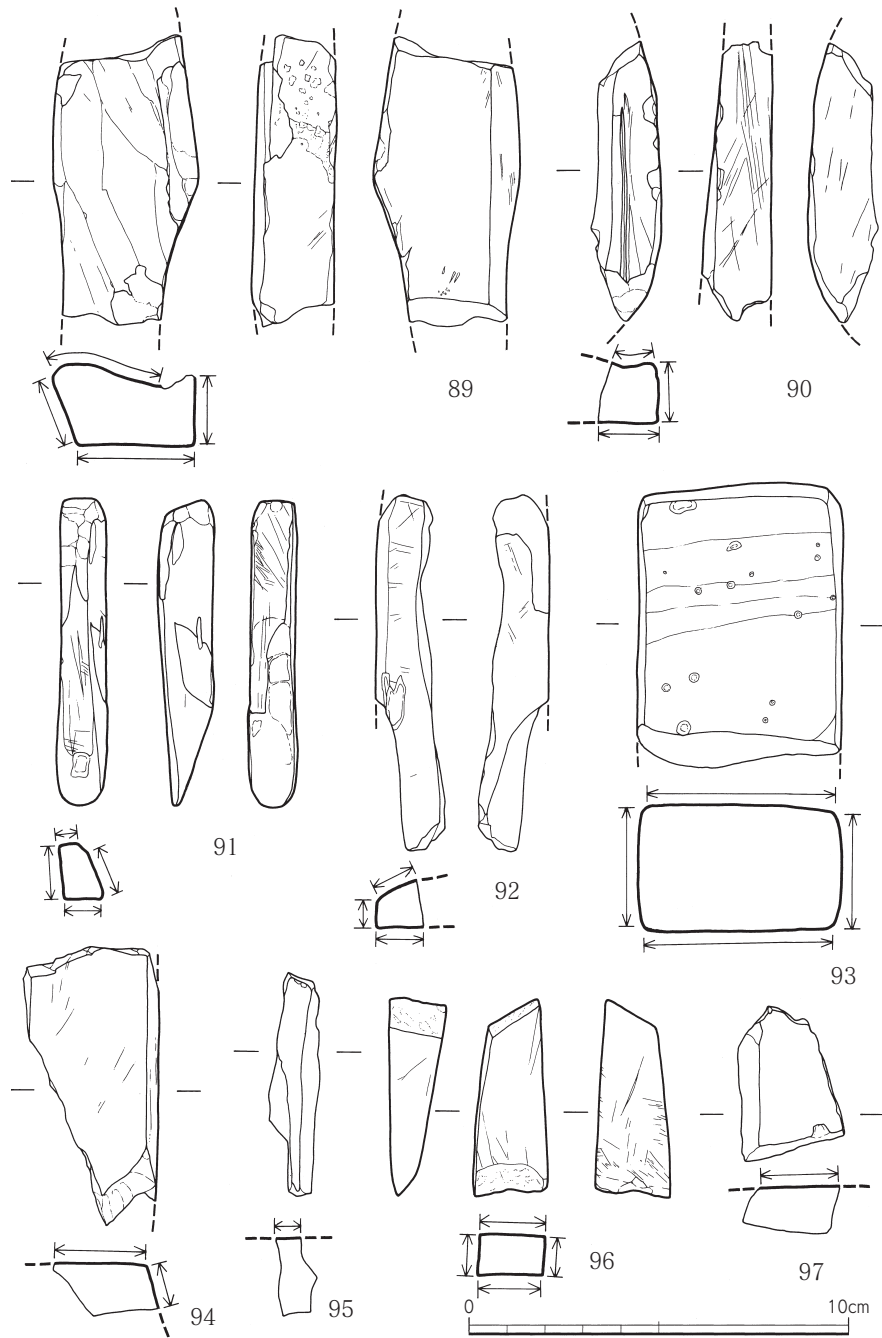




第 132 图 石器实测图⑨ (1/2)



第 133 图 石器实测图⑩ (1/2)

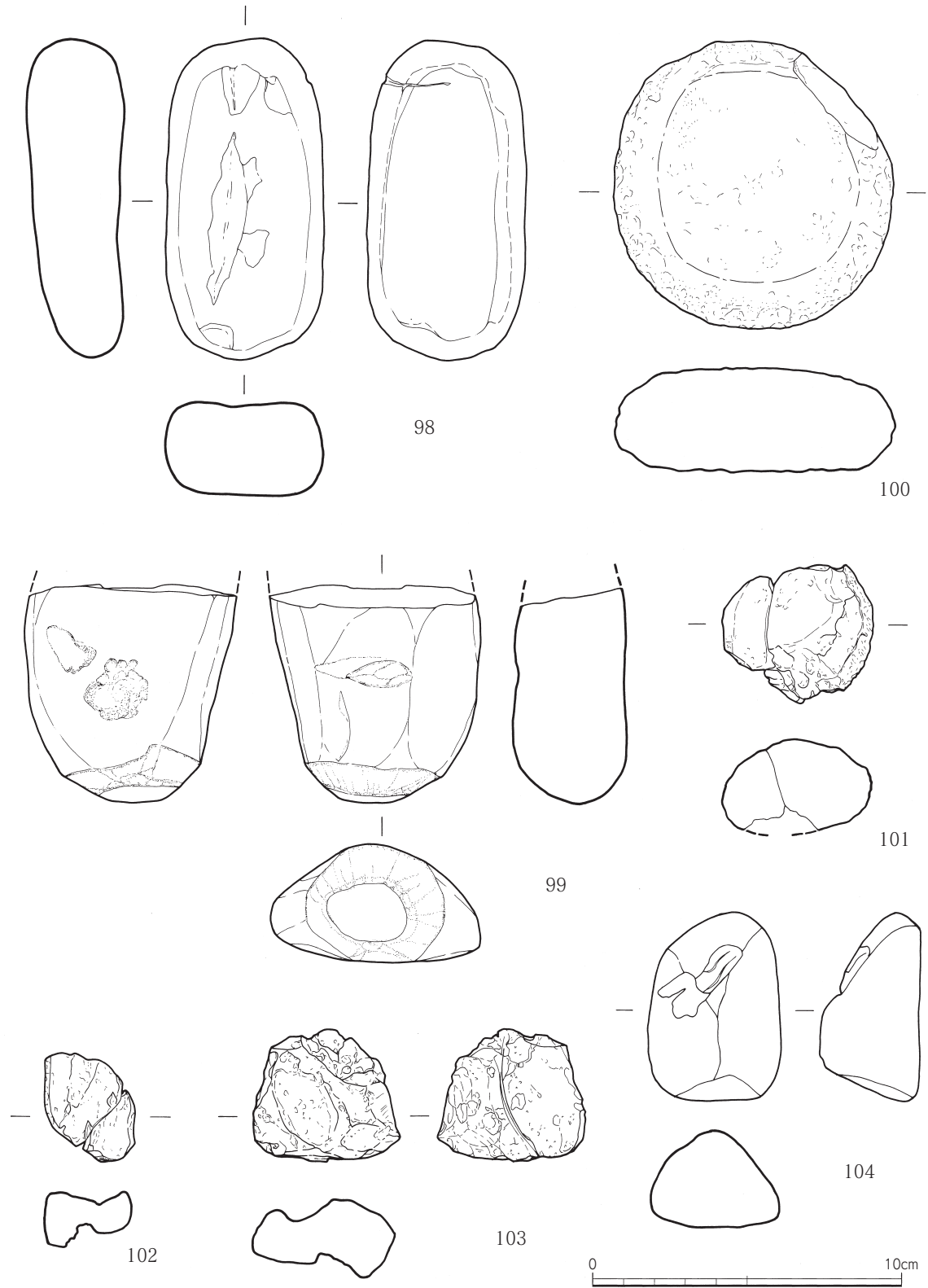


第 134 図 石器実測図⑪ (1/2)

跡である。

100 は台石である。円形を呈し、表面から側面にかけて凸凹とした使用痕が広がる。裏面はそれに比べるとやや平らである。石材は金雲母をとっても多く含む白色から淡褐色の花崗岩で風化のためかやや軟質である。

101 ～ 104 は軽石である。詳細な用途は不明だが、須玖遺跡群内の青銅器生産遺跡からは鑄造関連遺物とともに軽石が出土することがままある。駿河A遺跡でも石製鑄型が出土しており何らかの関連性が考えられるため報告する。出土した軽石はいずれも小片でとてももろい。104 は背面に工具痕のようなものが残るが、これが使用時についた傷なのか発掘時についてしまったものかはわからない。



第 135 图 石器实测图⑫ (1/2)

## 4 歴史時代の遺構と遺物

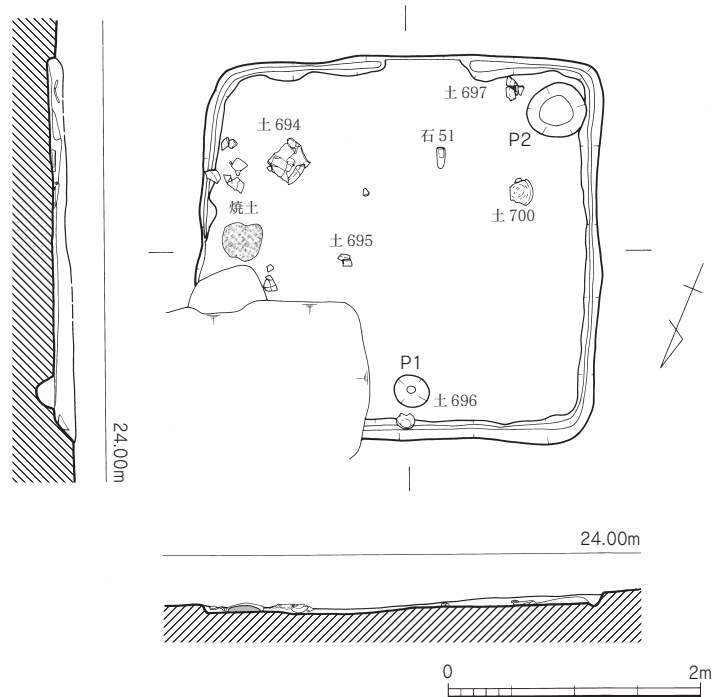
### (1) 遺構

#### ① 住居跡

##### 2号住居跡

(図版6 - (1)、第136図、表1)

I区の北部に検出した竪穴住居跡で、床面までの深さが15cmと残存状況が悪い。米軍基地施設によって北東隅が破壊されている。南辺中央部を除き、壁際に細い溝を廻らせている。床面の数か所に焼土塊が認められるほか、これに混じって各所で屋根材と思われるカヤのような植物体が炭化した状態で出土しており、焼失住居と推察される。床面近くから磨製石斧が出土しているが、これは弥生時代の遺構からの混入品であろう。出土土器から奈良時代初頭の住居跡と考えられる。



第136図 2号住居跡実測図(1/60)

##### 3号住居跡 (図版6 - (2)、第137図、表1)

2号住居跡の北側に検出した。床面までの深さは約15cmと残存状況が悪く、西壁は消滅している。当住居跡より古期の土坑(14・15号土坑)を埋めて造られており、床面の北部が播鉢状に窪んでいる。支柱穴やカマドは確認できなかった。須恵器、土師器の破片が出土しており、奈良時代初頭の住居跡と考えられる。

##### 4号住居跡 (図版6 - (3)、第137図、表1)

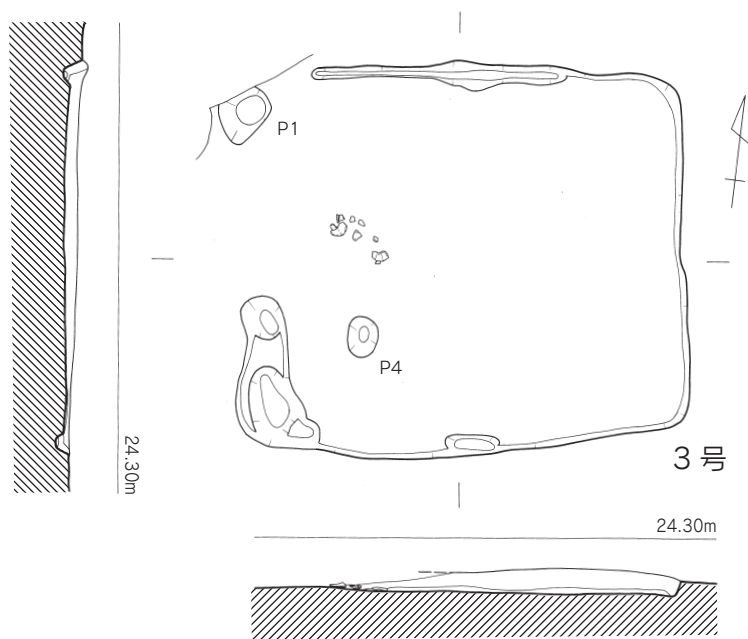
I区の北端部に検出した。床面の約1/3が米軍基地施設によって破壊されており、深さも約10cmと残存状況が著しく悪い。西壁の中央近くに張り出す形でカマドを設けている。壁際には浅く幅広の溝が巡る。支柱穴は確認できなかった。床面に炭化物が多く残り、焼失住居と考えられる。須恵器、土師器が出土しており、奈良時代の住居跡と考えられる。

#### ② 土坑

##### 14号土坑 (図版36 - (3)、第138図)

I区の北部に位置する。3号竪穴住居跡の床面下に検出した。掘方は住居コーナーに収まり、上面が張床されてしっかりと固められていた。土坑の規模は160×135cm、深さ108cmを測り、楕円形を

呈する。底面は狭いが平坦になっており、壁面の中位にはテラス状の段がある。土坑は中位の深さから8世紀代の土師器・須恵器が出土しており、3号住居より古くはあるが大差ない年代のものと見られる。なお、底面の大小2個のピットからは弥生中期の土器片が出土している。



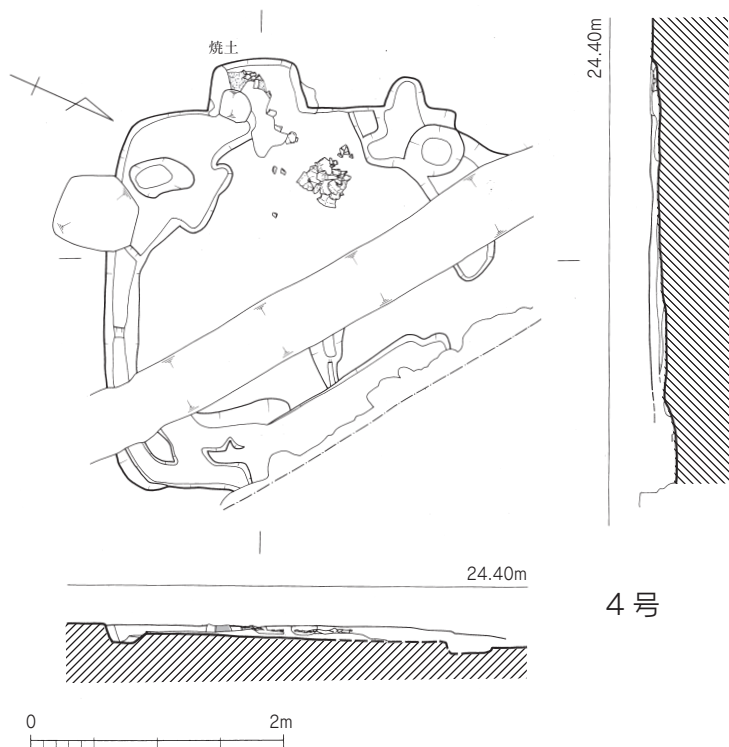
## (2) 遺物

### ① 土器 (図版 55、

第 139・140 図、表 3)

#### 2号住居跡出土土器 (694～700)

694～697は土師器。694～696は甕。694は底部を欠く。口縁部が緩く外反し、先端部が僅かに外湾する。胴部最大径は口径より小さい。695は口縁部小片。口縁部は短く外反する。694・695とも口縁部に対し胴部の器壁が薄く、内面にヘラケズリ、外面にハケ目を施す。696は底部資料。丸底を呈する。底部内面に指頭圧痕が残る。697は鉢。口縁部は僅かに外反する。698～700は須恵器。698・699は坏身で底部ヘラ切り後、高台を貼り付ける。699は口縁部内面に油煙痕が残る。700は皿。底部外面に回転ヘラケズリを施す。

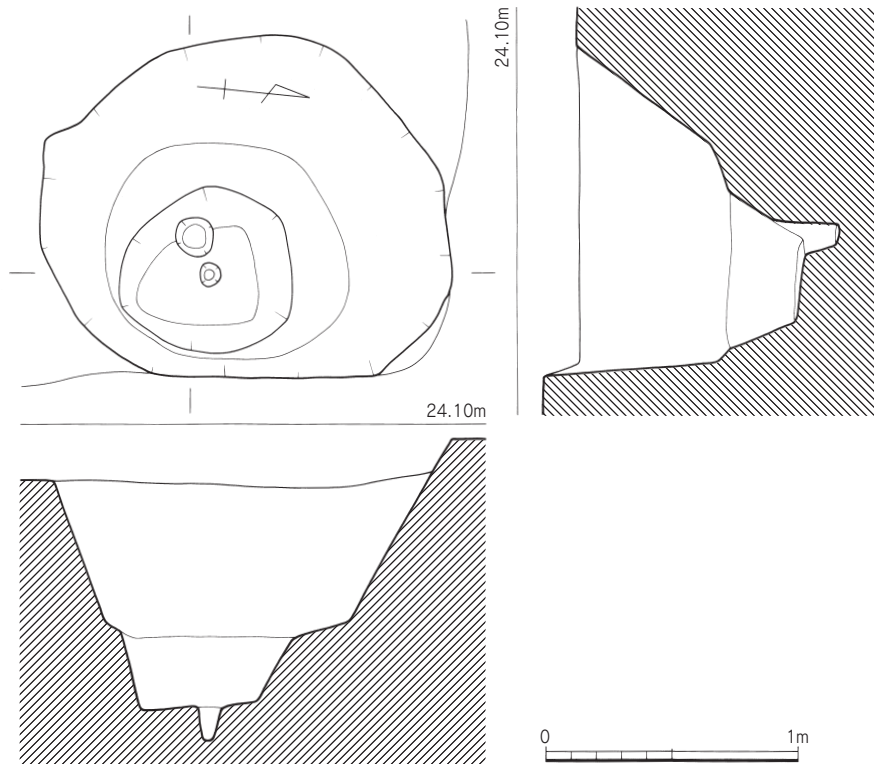


第 137 図 3・4号住居跡実測図 (1/60)

#### 3号住居跡出土土器 (701～705)

701・702は土師器。701は口縁部小片で口縁部が外反する。体部は直線的に底部に向かっており、体部最大径は口径よりも小さい。702は底部資料。丸底気味で底部内面に指頭圧痕が残る。703は瓦





第138図 14号土坑実測図 (1/30)

質土器の坏身、回転ヘラケズリ後高台を取り付ける。704・705は須恵器。704は坏蓋で口縁端部が嘴状になる。705は壺などの底部。上底状である。

#### 4号住居跡出土土器 (706～710)

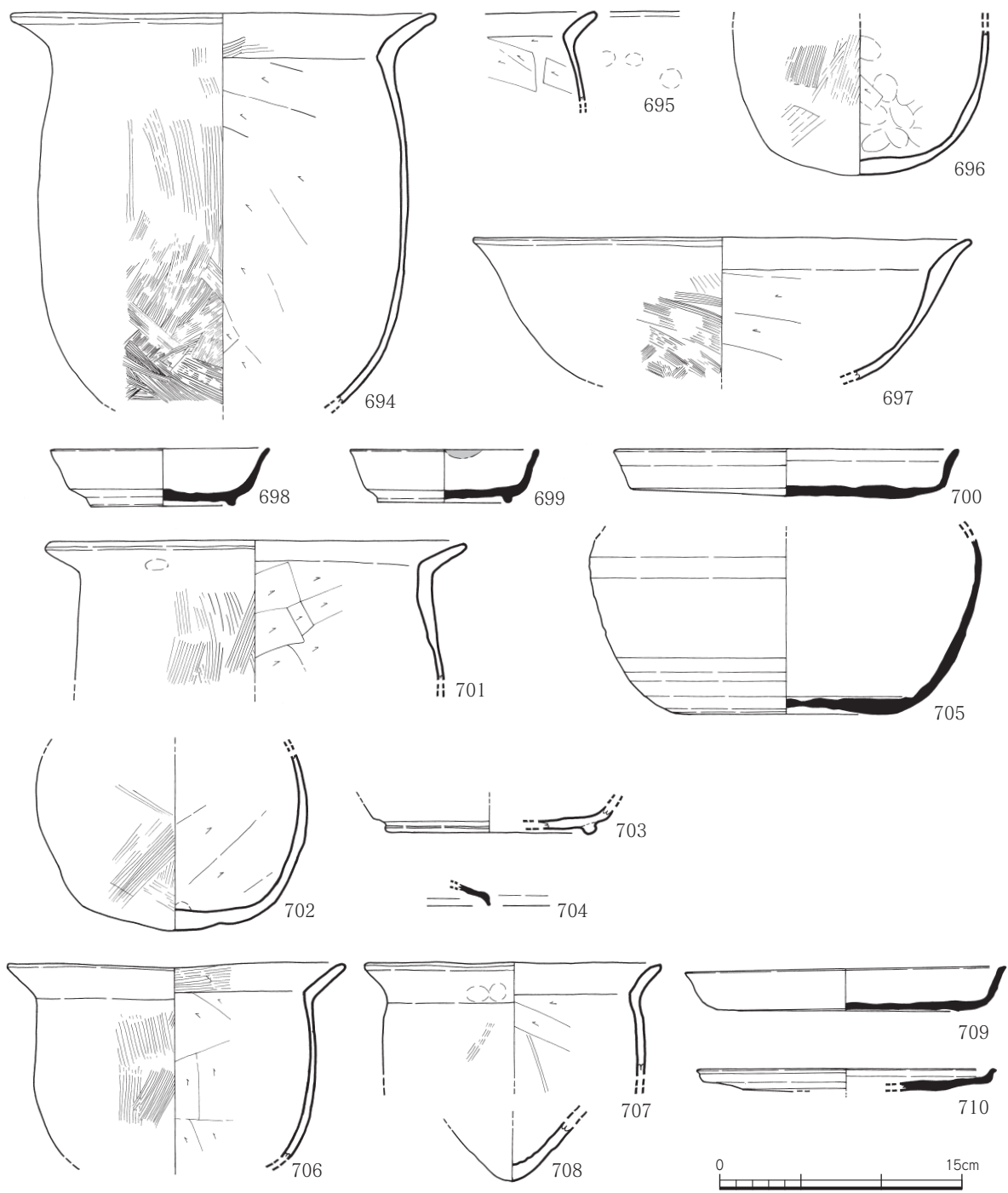
706・707は土師器の甕。いずれも底部を欠く。口縁部はどちらも外反しているが、706が直線的なのに対し、707は先端が外湾する。708は土師質の焼塩土器。底部のみ残存しており、尖底状を呈す。外面は摩耗しており調整不明だが、内面に同心円文のタタキ目が確認できる。709・710は須恵器。709は皿。底部外面にヘラケズリを施し、端部に面をつくる。710は高坏の坏部。非常に浅く、口縁部は端部を外側に嘴状につまみ出す。

#### 14号土坑出土土器 (711～713)

711は土師器の甕の小片。口縁部が外反する。712は鉢の口縁部であろう。体部が外傾する。713は口縁部小片で、外上方へ直線的に開く。須恵器の坏身。

#### 包含層出土土器 (714～718)

714・715は土師器。いずれも甔等の把手で先端は嘴状になり、断面円形を呈する。716は須恵器の坏蓋。薄いボタン状のつまみが付く。717・718は陶磁器。717は口縁部を外に折り曲げ突帯状にし、暗赤褐色の釉がかかる。718は青磁の碗。高台を削り出しており、内外面に緑灰色の釉を施す。底部内面には目跡と煤が付着する。



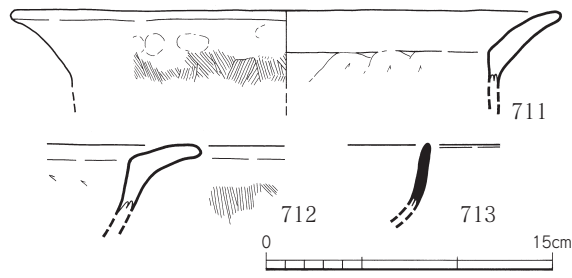
第139図 2・3・4号住居跡出土土器実測図(1/4)

② 鉄器 (図版59 - (2)、第142図、表5)

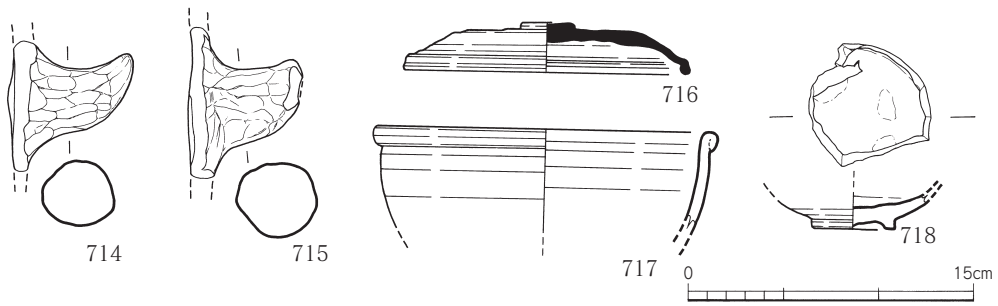
70は2号住居跡出土の鉄滓。全面に大小の気孔が認められる。

③ 青銅器 (図版59 - (2)、第143図)

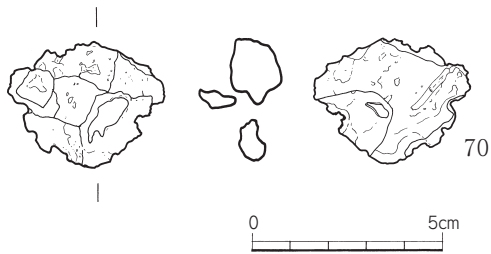
3は2号住居跡から出土した寛永通宝で混入品。鑄化のため劣化し、左下部を破損し、周縁も歪な形になる。色調は緑灰色。



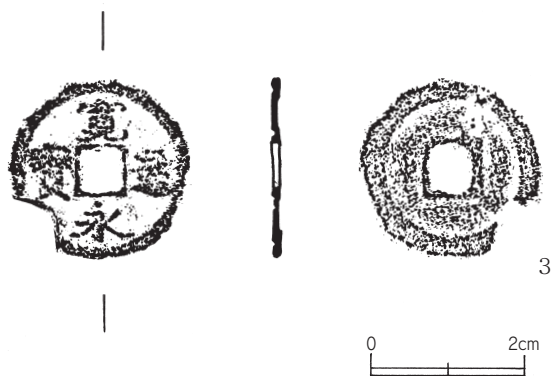
第 140 图 14 号土坑出土土器实测图 (1/4)



第 141 图 包含層出土土器实测图④ (1/4)



第 142 图 鉄器实测图⑤ (1/2)



第 143 图 青銅器实测图② (1/1)

## IV ま と め

### 1 弥生時代の集落

駿河A遺跡1次調査では、弥生時代と歴史時代の集落を調査した。これらの集落は南北方向に延びる台地に存在し、緩やかな高さを持つ高所（Ⅱ区）を中心に検出された。また、北側に接する福岡県調査地でも谷を挟んだ北側に住居跡が見られる。Ⅱ区の集落とは空間的な隔りがあるため別集団の可能性も考えられる。以下では、弥生時代の集落について福岡県調査分も含め述べる。時期区分は久住猛雄氏の時期区分<sup>(1)</sup>を参考にしたが、今回は資料の制約もあり、「中期末／後期初頭」については省略し、「後期後半（古相）」「後期後半（新相）」は後期後半の一時期にまとめた（第144図・145図）。

なお、56棟確認した掘立柱建物の中には、土器が出土していないものや破片資料だけのものがあり、時期を確定しづらいものも含まれるが、住居などとの切り合い関係や調査時の所見などから可能な限り時期の比定を行った。

中期後半はⅡ区において大形の円形住居を含む2軒の竪穴住居が確認できる。削平を受けるⅠ区とⅡ区の間にも本来は住居跡があった可能性はあるが、あったとしても2軒程度であろう。中期末は小形で長方形プランの竪穴住居跡がⅡ区と県調査地に散見され、倉庫と考えられる掘立柱建物跡も確認できる。

後期初頭はⅡ区において長方形プランの竪穴住居が確認でき、張り出しを持つものもある。1間×2間の小形の倉庫もあるが、31・46号掘立柱建物跡のように棟持柱を持つような大形の平地式建物が見られる。後期前半はⅡ区に建物が集中し、竪穴住居跡は新相の12号竪穴住居跡しかなく、その他は掘立柱建物跡である。掘立柱建物では、10・16号のような1間×2間の建物もあるが、18・44・48号のようなプランが正方形に近いような平地式建物がある。このうち44号は後期初頭の34号竪穴住居跡と切り合い、後期中頃の35号住居跡と接する。48号は後期中頃の6号竪穴住居跡と切り合い関係がある。それぞれは主軸方向も近く、平面の規模も良く似るため、建て替えを示すものと考えられる。つまり18・44・48号のような平地式建物跡は、平地式住居と考えられよう。このことは、すでに吉留秀敏氏が指摘されており、福岡市比恵・那珂遺跡群でも後期前半になると一般住居が掘立柱建物に変わるという<sup>(2)</sup>。後期中頃もⅡ区を中心に集落が営まれる。再び、竪穴住居が増加し、28号竪穴住居跡のように大形のものも見られる。28号竪穴住居跡の傍らには2号周溝状遺構が存在するため当該住居跡に関連がある施設かもしれない。また、完形の石製勾玉が出土するのも興味深い。掘立柱建物跡は1間×2間の倉庫の他に平地式住居の可能性を指摘したタイプの45号や、大形の平地式建物と考えられる42・55号がある。後期後半にはⅡ区だけでなく県調査地にも再び竪穴住居を確認でき、Ⅱ区南西部には張り出しを持つ大形の37号住居跡がある。37号住居跡の傍には同規模で、後続する38・39号住居跡があるが、これらは建て替えを示す可能性があるだろう。掘立柱建物跡は前時

代同様、倉庫と大形の平地式建物と考えられる 49 号がある。ただし倉庫はやや多くなった感がある。

I A 期（終末期前半）は、住居跡などが I 区でも確認できるようになり、住居の数も多くなる。また、掘立柱建物跡は後期後半のものと同タイプのもが見られる。なお、当期で大形の竪穴住居跡である 38 号竪穴住居跡に隣接して大形の 37 号掘立柱建物が存在する点は興味深い。37 号掘立柱建物跡の建物としての性格は不明だが、38 号竪穴住居跡の居住者が管理した可能性があるのではなかろうか。

I B～II 期（終末期後半以降）は集落の分布域は前時代と変わらないが、やや集落が縮小する傾向が見られ、本期を画期として当地は歴史時代までは居住域として使われることはなかった。

次に集落の性格について若干述べたい。当遺跡の特徴の一つとして竪穴住居跡から多くの鉄器が出土することが挙げられる。特に後期中頃以降の住居跡からの出土が目立ち、32・37・38 号のように複数の鉄器類を持つものがあり、37・38 号が大形の住居であることを考えれば、住居の規模と鉄器の保有率にある程度相関性があると言える。

鉄器の器種としては、鉋や刀子などの工具類と鉄片や棒状鉄器なども含まれる。遺構として確認されていないために断定はできないが、鉋や刀子を使用した木器の製作やそれらを作るための鉄製工具を製作していた可能性も考えられよう。そうすれば鉄片や棒状鉄器は鉄器製作時の端切れや鉄素材ではなかろうか。

32 号住居跡では、多くの鉄器類の他に石製玉類の未製品が出土しており、玉作り工房である可能性が高い。なお、当遺跡からは青銅器鋳型片が出土する。埴埦や中型などが出土しないことから青銅器生産遺跡ではなく、砥石として鋳型が他の集落から二次的にもたらされたと考えた方が自然であろう。

当遺跡では、鉄器以外にもガラス玉類の出土が目立ち、32・33・42 号住居跡のように 20 点以上出土するものがある。これらは何らかの祭祀行為を表しているものと推察される。

最後に駿河 A 遺跡の竪穴住居は、長軸が 9 m に迫るような大形のもが含まれ、鉄器などの保有率も高いことから、ある程度ランクの高い集団のもと考えられる。西側に所在する須玖遺跡群では集落に接して墓地が営まれている。周辺では、西側の春日丘陵で立石遺跡、東側の大野城市瑞穂遺跡で弥生時代中・後期の墓地が見つかったが、当遺跡との間には谷などの空間地が広がっており、別集落の墓地と考えた方が良かろう。駿河 A 遺跡の南側の春日公園内は、早い時期に削平されたようだが、未発見の墓地が存在する、或いは存在したのではなかろうか。

註 1 久住猛雄 「九州 I（福岡県）—福岡県下における弥生時代から古墳時代前期井戸について—

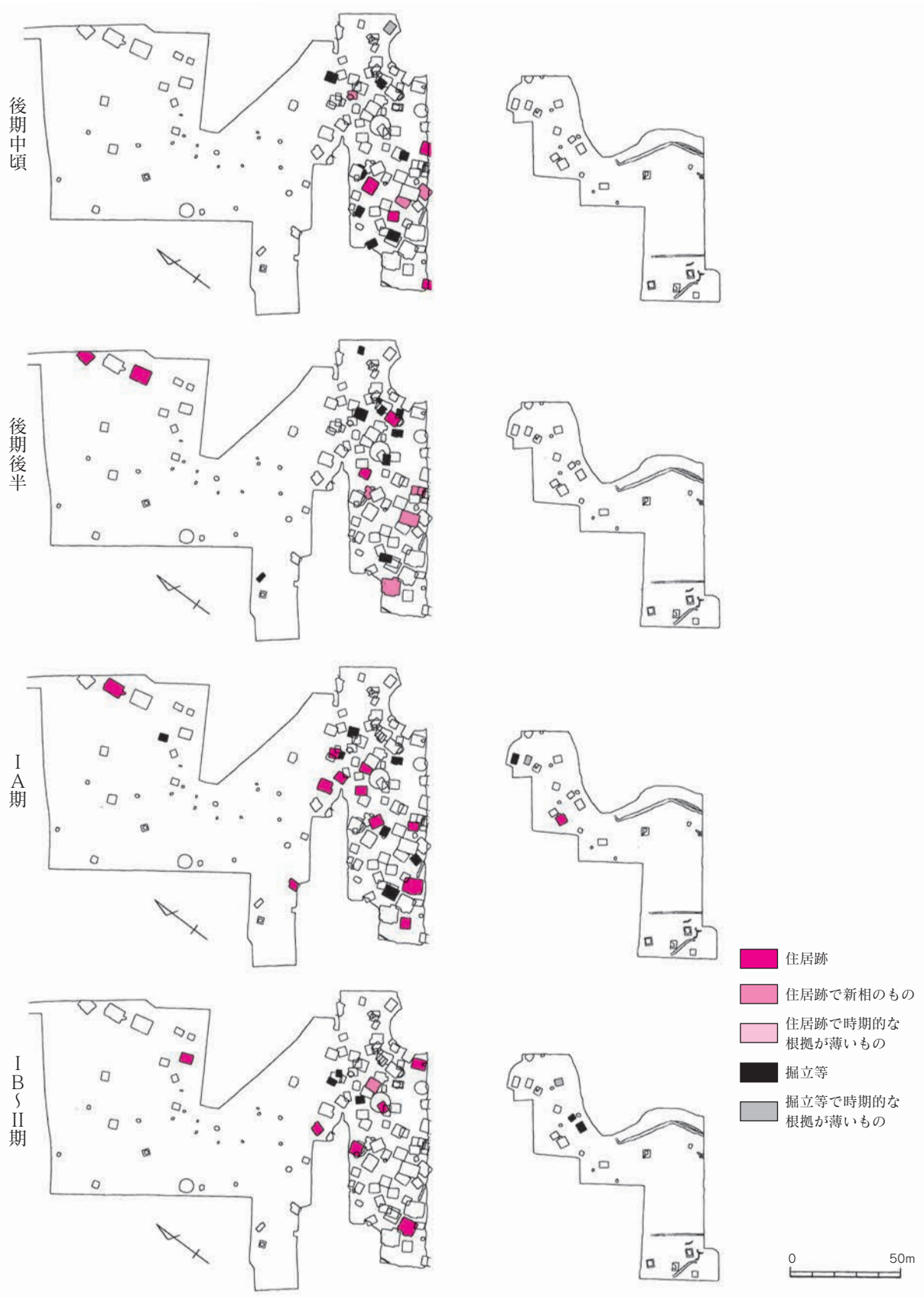
付編 弥生時代中期～終末期古層までの井戸一括基準資料」『井戸再考』第 57 回埋蔵文化財研究集会発表要旨集 2008

註 2 吉留秀敏 「福岡平野の弥生社会」『論争吉備』考古学研究会 1999



第 144 図 駿河 A 遺跡集落変遷図①





第 145 図 駿河 A 遺跡集落変遷図②

## 2 駿河A遺跡におけるガラス小玉について

駿河A遺跡では石製玉類10点、ガラス管玉1点、ガラス小玉174点が出土した。大半はⅡ区の住居跡に伴っており、ごく少数が掘立柱建物跡、溝、井戸から見つかった。遺構の時期としては、出土した土器の型式から弥生時代後期初頭からⅠB～Ⅱ期であると考えられる。遺構の内訳については、表10を参照していただきたい。以下、当遺跡で出土したガラス小玉について検討した。

ガラス小玉の傾向を見るため、時期ごとの点数、種類について確認した。種別については、径および色による分類を行なった。完全に径が一致するものはなかったため、粟玉と呼ばれる①3mm未満、最も数が多い②3mm以上5mm未満、数が少ない③5mm以上の3つの大きさに分類した。色については、第Ⅲ章3-(2)一⑤で、紺色、青色、緑色の3種類に大別し、透明度で細分していたが、細分すると各項目の点数が少なくなり傾向が出にくくなるため、今回は大別した3種類だけを使用した。

結果は表10、表11のとおりである。後期中頃とⅠA期に際立って出土数が多いが、住居跡全ての出土点数が多い訳ではなく、20点以上ガラス小玉を出土する住居跡は、後期中頃は2軒、ⅠA期は1軒に限られる。種類別では、各時期とも青色が最も多く、紺色・緑色については、紺色が前期前半と後期後半、緑色が後期初頭と後期後半で確認できなかった。径では、①は緑色、②は青色、③は紺色の割合が高い傾向が認められた。特に緑色は3mm以上に出土例がなく、3mm未満でも22点中17点が2mm以下であった。

これらのガラス小玉は、表面を観察すると気泡が縦に並ぶものが多く、引き伸ばし技法で作られたと考えられる。断面に丸型と筒型があるため、前者は引き伸ばし後に切断、再加熱して整形するのに対し、後者は引き伸ばし後に固化したガラス管を短く切断するといった、2種の技法が用いられている<sup>(1)</sup>。断面が完全な筒型は174点中8点と少なく、孔面の角が若干丸くなるものも12点ほど見受けられるが、全体の中では微々たるもので時期による差などは見受けられなかった。

以上の点から、駿河A遺跡におけるガラス小玉は、後期中頃以降に出土点数が増え、一部住居跡に集中する傾向がみられた。また、引き伸ばし技法を用いて作られており、時代による技法の差などはないが、色調によって小玉の大きさに若干の差がみられることがわかった。特に、緑色に関しては終末期前半以降に点数が増加しており、技術的に習熟したため量が増えたと考えられる。また、同じくらしいの時期に周辺の立石遺跡<sup>(2)</sup>や福岡市南八幡9次調査<sup>(3)</sup>、大刀洗町甲条神社遺跡<sup>(4)</sup>などで、当遺跡と似た粟玉が確認されている点から、春日市周辺では後期以降、ガラス小玉の色と大きさにある程度の規格があったとも考えられる。

註1 藤田等 『弥生時代ガラス研究』 名著出版 1994

註2 春日市教育委員会『立石遺跡』春日市文化財調査報告書 第34集 2002

註3 福岡市教育委員会『南八幡遺跡5』福岡市埋蔵文化財調査報告書台 641集 2000

註4 大刀洗町教育委員会『甲条神社遺跡』大刀洗町文化財調査報告書 第7集 1995

### 3 32号住居跡について

32号住居跡は他の住居跡に比べ、規模や構造に特別な点は見られない。ただし、弥生時代後期中頃の土器、鉄器、ガラス小玉、鋳型類、砥石、軽石などと共に石製玉類の未成品等5点が出土しており、玉作りの工房である可能性があるため、以下では若干の考察を行いたい。

石製玉類の石材は、濃緑色半透明の岩石に限られる。未成品である第120図4・6・10は穿孔や仕上げ研磨もなく、7のようにチップと見られるものも含まれることから、当住居で玉作りが行われた可能性は高い。28号住居跡からはこの石材の勾玉が出土するため、32号住居跡で製作されたものの可能性がある。なお、知見では、同種の石材を利用した玉類は近隣にはほとんどなく、須玖唐梨遺跡2号土壇墓出土の切子玉が類似する。

次にその他の遺物からの検討を行いたい。3点の砥石は筋砥石ではなく、すべて平砥石のため、玉作りに使用されたとは断定できない。ただし、砥石として転用されることが多い石英長石斑岩製の鋳型片なども2点出土しており、当住居で何らかの研磨が行われたことは間違いない。なお、当遺跡では32号住居跡も含め計4点の軽石が出土する。須玖遺跡群周辺において軽石は青銅器生産遺跡から出土することが多く、青銅器などを磨く際に研磨材として使われた可能性が考えられる。このため、軽石は玉を仕上げる際の研磨剤として利用されたのではなかろうか。また、近接する29・30号住居跡からは珪化木製のへら状石器（第129図54）や柱状の石器（第120図11）が出土する。これらは水晶工房が確認された京都府奈具岡遺跡<sup>(1)</sup>でも出土するから、石針の未成品と考えたい。

鉄器には刀子や鉋などの他に棒状の鉄器（第117図47～49、第118図55・57）がある。他の住居跡からも棒状の鉄器や鉄片などが出土し、鉄素材の可能性もあるが、玉を加工するための鉄鑿や鉄針なども含まれているのではなかろうか。

奈具岡遺跡は水晶工房やその周辺から多くの鉄器や鉄器生産を示す遺物・遺構が確認されており、玉作りのための補助的な鉄生産も行われたとされている。駿河A遺跡では、鉄器生産は可能性にとどめられるが、奈具岡遺跡との間には類似点が見られる。両遺跡には時期、地域や規模、素材に違いはあるが、奈具岡遺跡で明らかにされた事例は弥生時代の玉作りに共通することかもしれない。

以上のように32号住居跡について玉作り工房の可能性を述べた。近年、北部九州では糸島市地頭給遺跡、北九州市城野遺跡などで玉作り工房が確認されており、これらと駿河A遺跡の比較検討は改めて別稿にて行いたい。

註1 河野一隆・野島 永「(2) 奈具岡遺跡 (第7・8次)」『京都府遺跡調査概報』第76冊 財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 1997

野島 永・河野一隆「玉と鉄—弥生時代玉作り技術と交易—」『古代文化』第53巻第4号 財団法人古代学協会 2001

# 觀察表



表1 住居跡観察表

番号	規模	形状	床面積 m <sup>2</sup> (張出含む)	主柱穴数	主軸方位	炉の 位置	屋内 土坑	壁溝の 有無	平面形模式図 (ベッド、張出等)	住居出土遺物
1	4.15×4.25	長方形 張出有	10.00	2か?	N 25.5° E	中央	不明 (欠損?)	有		砥石
2	3.00×3.15	ほぼ 正方形	7.95	無	N 22° W	無	無	有		鉄滓、磨製石斧
3	3.10×3.53	ほぼ 正方形	10.24	無	N 6° W	無	無	有		
4	3.40×3.40	ほぼ 正方形	9.84	無	N 24° W	西辺 中央 カマド	無	有		
5	6.26×5.30	長方形 張出有	26.64	2	N 27° W	中央	有	有		鉄鏃、ガラス小玉7
6	4.25×3.80	長方形	15.28	2?	N 38.5° W	中央	有	有		ガラス小玉
7	5.74×4.77	長方形	21.40	2	N 7.5° W	中央	有	有		砥石2、敲石、石包丁
8	3.90×3.23	ほぼ 正方形	11.44	2	N -	中央	有	有		鉄斧、石包丁
9	2.75×3.00	ほぼ 正方形	7.70	1	N -	無	無	有		
10	6.30×4.62	長方形	27.62	2	N 26° W	中央	有	有		鉄片、不明鉄器、石包丁
11	4.20×3.40	長方形	13.48	2	N 32° W	無	無	有		石剣、砥石
12	7.05×5.85	長方形 張出有	35.12	2	N 13.5° W	中央	有	有		不明鉄器、鉄片、銅鏡、 ガラス小玉、台石
13	6.50×4.92	長方形	29.68	2	N -	中央	有	有		鉄鉈、鉄斧、鉄片、石製勾玉、 砥石2、石包丁2、瓦質土器、 投弾
14	5.55×4.43	長方形	19.24	2	N 17° W	中央	有	有		鉄鉈、ガラス小玉11



番号	規模	形状	床面積 m <sup>2</sup> (張出含む)	主柱穴数	主軸方位	炉の 位置	屋内 土坑	壁溝の 有無	平面形模式図 (ベッド、張出等)	住居出土遺物
15	5.95×5.35	長方形	30.28	2	N 6° W	中央	有	有		鉄鉈、鉄鎌、不明鉄器、 ガラス小玉6、砥石
16	6.25×5.20	長方形 張出有	25.36	2	N 26° W	無	有?	有		棒状鉄器、矛鏃型、砥石
17	5.30×4.30	長方形	21.08	2	N 35° W	中央	有	有		棒状鉄器、鉄鉈?、砥石、 敲石
18	4.77×4.67	ほぼ 正方形	21.12	無	N 10° W	中央	有	有		鐸形土製品、ガラス小玉5
19	5.40×6.03	長方形	30.96	2(4)	N 12.5° W	中央	有	有		砥石4、石包丁
20	5.40×6.05	長方形	28.64	2	N 31.5° E	中央	有	有		鉄刀子2、鉄鉈、鉄滓、 ガラス小玉、砥石4、石包丁2
21	5.05×5.45	長方形 張出有	23.16	2	N 31.5° E	中央	有	有		ガラス管玉、石包丁
22	5.15×3.95	不整 長方形	19.08	2	N 28.5° W	無	有?	有		鉄斧、砥石
23	9.35×9.35	円形	63.52	10	N 20° E	中央	無	無		砥石2
24	5.05×3.72	長方形	17.32	2	N 20° E	無	有	有		不明鉄器、砥石、瓦質土器、 投弾
25	6.00×5.80	円形	26.02	6	N 36° W	中央	無	有		砥石、石包丁転用石器、 磨製石斧
26	3.55×4.10	長方形	12.80	2	N 43.5° W	無	無	無		
27	3.90×5.80	長方形	18.62	2?	N 23° W	不明 (欠損?)	不明 (欠損?)	有		板状鉄器、鉄斧、ガラス小玉
28	5.85×6.55	長方形	37.36	2	N 6.5° W	中央	有	有		鉄鎌、ガラス小玉6、石製勾玉、 砥石3、石包丁

番号	規模	形状	床面積 m <sup>2</sup> (張出含む)	主柱穴数	主軸方位	炉の 位置	屋内 土坑	壁溝の 有無	平面形模式図 (ベッド、張出等)	住居出土遺物
29	4.90×3.93	不整 長方形	18.12	2	N 32° W	無	無	無		軽石、ヘラ状石器
30	6.28×4.55	長方形	28.57	2	N 31° W	中央	有	無		鉄斧、曲刃鎌、鉄穿孔具?、 棒状鉄器、珪化木、砥石
31	8.55×5.87	長方形	50.19	2	N 21.5° W	中央	有	有		鉢状鉄器、鉄鉢、鉄斧、 土製品、ガラス小玉2、青銅器、 石管玉、石包丁2
32	6.35×5.25	長方形	28.60	2	N 1.5° W	中央	有	有		棒状鉄器3、鉄片3、鉄素環頭刀子、 鉄刀子、鉄鉢3、鉄鎌2、不明鉄器、不 明鏝型、石英長石斑岩片、ガラス小玉 28、石製玉未製品類5 (勾玉、鏝飾、 他3)、軽石、石包丁、土製鏡、砥石3
33	6.40×4.30	長方形	16.88	2?	N 7.5° W	中央	有	有		ガラス小玉48、砥石2
34	4.79×4.28	ほぼ 正方形	20.50	無	N 42.5° W	無	有	有		砥石
35	4.75×4.40	ほぼ 正方形	20.90	2	N 28° W	中央	有	有		鉄鎌、ガラス小玉7、不明石器
36	3.28×2.35	隅丸 長方形	7.11	無	N 5.5° W	無	有	無		
37	8.87×8.56	長方形 張出有	63.93	2	N 24° W	中央	有	有		鉄片2、鉄鎌、鉄斧2、 棒状鉄器、鉄穿孔具、砥石3、 土製品
38	8.70×7.45	長方形 張出有	59.86	2	N 28.5° W	中央	有	有		鉄鉢、鉄刀子2、鉄片、 棒状鉄器、鉄釘?、 ガラス小玉2、砥石、軽石、 土製品
39	7.85×7.45	長方形 張出有	52.48	2	N 9.5° W	中央	有	有		鉄鎌、鉄鉢2、ガラス小玉2、 砥石、石包丁4、ナイフ形石器
40	4.50×5.05	長方形	22.73	2	N 35° W	中央	有	有		ガラス小玉、砥石、石包丁
41	2.80×4.17	長方形か (欠損あり)	11.80	2?	N 30.05° W	不明 (欠損?)	不明 (欠損?)	有		石錘
42	5.20×4.20	長方形	21.84	2	N 30° W	中央	有	有		鉄鉢、ガラス小玉24、 ガラス粟玉12、石包丁、投弾

表2 掘立柱建物跡観察表

1号掘立柱建物跡

P		梁行間	梁行間	P		桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位
1	2	127		1	4	263	1	38	37×28	4	43.5	38×32	N54°E
2	3	128	255	2	5	262	2	24	43×30	5	67	43×32	
4	5	122		3	6	264	3	55	46×28	6	43	31×28	
5	6	123	245										

2号掘立柱建物跡

P		梁行間	P	桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位
1	4	271	1	2	206	1	62	45×44	4	38	51×43	N38°W
2	5	270	2	3	216	2	56	48×43	5	26	56×46	
3	6	271	4	5	205	3	58	53×43	6	50	59×45	
			5	6	217	422						

3号掘立柱建物跡

P		梁行間	P	桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位
1	4	270	1	2	180	1	32	50×38	4	32	58×54	N70.5°W
2	5	270	2	3	173	2	27	48×43	5	23	42×37	
3	6	270	4	5	183	3	9	(30+a)×31	6	35	40×37	
			5	6	170	353						

4号掘立柱建物跡

P		梁行間	P	桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位
1	4	250	1	2	195	1	52	43×42	4	52	48×47	N70.5°E
2	5	250	2	3	195	2	45	50×40	5	45	43×43	
3	6	250	4	5	195	3	59	39×36	6	57	(40+a)×(24+a)	
			5	6	195	390						

5号掘立柱建物跡

P		梁行間	P	桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位
1	4	270	1	2	231	1	16.5	44×43	4	23	48×45	N66.5°E
2	5	274	2	3	232	2	31	50×43	5	30	48×(24+a)	
3	6	279	4	5	206	3	28	49×45	6	47	48×44	
			5	6	245	451						

6号掘立柱建物跡

P		梁行間	P	桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位
1	4	358	1	2	220	1	113	70×59	4	89	78×64	N21°E
2	5	358	2	3	209	2	108	84×66	5	89	63×59	
3	6	358	4	5	220	3	40	58×55	6	76	77×62	
			5	6	209	429						

7号掘立柱建物跡

P		梁行間	P	桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位	
1	2	233	1	3	-	300	1	50	96×77	3	12	63×55	N73°W
3	4	233	2	4	-	298	2	74	63×59	4	70	78×71	

8号掘立柱建物跡

P		梁行間	P	桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位	
1	3	305	1	2	-	363	1	64	37×30	3	50	39×36	N50°W
2	4	305	3	4	-	359	2	69	65×50	4	43	52×40	

9号掘立柱建物跡

P		梁行間	P	桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位	
1	2	249	1	4	-	334	1	67	74×66	3	83	74×53	N65°E
3	4	268	2	3	-	333	2	80	80×68	4	65	58×54	

10号掘立柱建物跡

P		梁行間	P	桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位
1	4	222	1	2	165	1	63	38×35	4	82	59×48	N15°E
2	5	223	2	3	168	2	80	53×49	5	77.5	45×42	
3	6	225	4	5	162	3	51	60×55	6	66	43×40	
			5	6	146	308						

11号掘立柱建物跡

P	梁行間	P	桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位
1 4	293	1 2	191		1	66	68×50	4	55	69×49	N20°W
2 5	293	2 3	189	380	2	65	65×56	5	64	79×55	
3 6	293	4 5	188		3	60	56×50	6	65	63×53	
		5 6	193	381							

12号掘立柱建物跡

P	梁行間	P	桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位
1 4	263	1 2	210		1	65	70×68	4	76	55×55	N9°W
2 5	262	2 3	185	395	2	66	61×69	5	42	76×45	
3 6	259	4 5	196		3	70	65×57	6	52	60×53	
		5 6	192	388							

13号掘立柱建物跡

P	梁行間	P	桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位
1 4	268	1 2	156		1	57.5	48×40	4	42	28×28	N55°W
2 5	264	2 3	173	329	2	38.5	46×42	5	40	(58+a)×(43+a)	
3 6	256	4 5	158		3	57	34×29	6	55	(30+a)×34	
		5 6	172	330							

14号掘立柱建物跡

P	梁行間	P	桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位
2 4	283	2 1	187		1	52	60×60	4	47	67×58	N59.5°W
1 3	280	1 5	187	374	2	64	62×53	5	67	62×53	
5 6	278	4 3	187		3	69	57×55	6	78	58×55	
		3 6	181	368							

15号掘立柱建物跡

P	梁行柱間	梁行間	P	桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位
1 5	231		1 2	146		1	40	55×48	6	79	71×60	N26°W
5 7	219	450	2 3	141		2	43	55×45	7	57	56×55	
2 8	-	450	3 4	170	457	3	56	60×46	8	48	55×48	
3 9	-	450	5 6	-	456	4	34.5	52×50	9	43	49×44	
4 6	227		7 8	140		5	84	70×62	10	46	58×51	
6 10	223	450	8 9	148								
			9 10	167	455							

16号掘立柱建物跡

P	梁行間	P	桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位
1 4	281	1 2	206		1	53	77×65	4	102.5	70×65	N43°E
2 5	279	2 3	203	409	2	70	(95+a)×(78+a)	5	82	83×63	
3 6	280	4 5	222		3	79	97×89	6	74	77×65	
		5 6	201	423							

17号掘立柱建物跡

P	梁行間	P	桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位
1 4	332	1 2	195		1	79	85×83	4	96	(94+a)×66	N43°W
2 5	328	2 3	196	391	2	50	68×62	5	73	85×70	
3 6	325	4 5	187		3	60	73×68	6	62	75×64	
		5 6	209	396							

18号掘立柱建物跡

P	梁行柱間	梁行間	P	桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位
2 3	89		2 1	118		1	19	60×43	9	49.5	59×40	N38°E
3 4	93		1 15	150		2	46	56×50	10	52	38×36	
4 5	93		15 14	130	398	3	27	49×45	11	37	62×48	
5 6	120	395	3 13	-	398	4	40	51×50	12	41.5	55×48	
1 7	-	398	4 12	-	399	5	54	55×44	13	32	45×42	
(15 8)	-	(398)	5 11	-	399	6	57	54×40	14	36	40×33	
(15 9)	-	(399)	6 7	93		7	42	47×44	15	34	37×35	
14 13	93		7 8	130		8	50	52×42				
13 12	109		8 9	76								
12 11	114		9 10	100	399							
11 10	81	397										

## 19号掘立柱建物跡

P		梁行間	P		桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位
1	3	316	1	2	247		1	82	78×64	4	83	82×55	N28.5°W
2	4	321	2	5	237	484	2	73	85×43	5	69	98×(36+a)	
5	6	325	3	4	254		3	75	87×70	6	68	85×55	
			4	6	248	502							

## 20号掘立柱建物跡

P		梁行間	P		桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位
1	3	247	1	2	208		1	45	53×48	4	21	41×40	N33.5°W
2	●	(246)	2	5	203	411	2	33	56×55	5	47.5	63×52	
5	4	248	3	●	(211)		3	74.5	78×70				
			●	4	(201)	412							

## 21号掘立柱建物跡

P		梁行間	P		桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位
1	4	330	1	2	246		1	58	67×68	4	42	100×86	N59°E
2	5	330	2	3	234	480	2	58	78×72	5	92	102×88	
3	6	330	4	5	237		3	92	97×74	6	80	97×85	
			5	6	247	484							

## 22号掘立柱建物跡

P		梁行間	P		桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位
1	3	215	1	2	-	321	1	68	48×40	3	80	45×33	N57°E
2	4	215	3	4	-	320	2	78	48×40	4	100	80×53	

## 23号掘立柱建物跡

P		梁行間	P		桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位
1	4	298	1	2	186		1	36	53×47	4	54	50×45	N61°E
2	5	299	2	3	229	415	2	65	48×44	5	55	66×40	
3	6	301	4	5	212		3	60	53×52	6	65	52×50	
			5	6	209	421							

## 24号掘立柱建物跡

P		梁行間	P		桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位
1	4	282	1	2	176		1	67	69×60	4	88	65×54	N87°W
2	5	282	2	3	199	375	2	60.5	61×51	5	62	57×45	
3	6	281	4	5	189		3	42	65×62	6	48	50×48	
			5	6	201	390							

## 25号掘立柱建物跡

P		梁行間	P		桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位
1	3	298	1	2	-	308	1	74	60×43	3	52	(58+a)×55	N85°E
2	4	287	3	4	-	319	2	64	54×51	4	50	58×55	

## 26号掘立柱建物跡

P		梁行間	P		桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位
1	2	216	1	3	-	237	1	54.5	43×43	3	55	53×51	N3°E
3	4	201	2	4	-	230	2	51	38×38	4	70	48×45	

## 27号掘立柱建物跡

P		梁行間	P		桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位
1	3	226	1	2	-	254	1	53	58×48	3	53	57×53	N56.5°W
2	4	221	3	4	-	241	2	63.5	49×44	4	51	56×50	

## 28号掘立柱建物跡

P		梁行間	P		桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位
1	4	272	1	2	211		1	73	65×62	4	79	61×60	N78°W
2	5	275	2	3	212	423	2	82	66×60	5	53	67×56	
3	6	278	4	5	205		3	28	51×43	6	65	56×47	
			5	6	217	422							

## 29号掘立柱建物跡

P		梁行間	P		桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位
1	4	352	1	2	223		1	51.5	60×58	4	42	(55+a)×49	N35°E
2	5	342	2	3	217	440	2	64	60×55	5	47	69×60	
3	6	330	4	5	238		3	48	52×46	6	48	61×51	
			5	6	200	438							

30号掘立柱建物跡

P		梁行間	P		桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位
1	4	347	1	2	226		1	51	58×49	4	59.5	47×45	N80°E
2	5	345	2	3	223	449	2	61	54×51	5	68	87×56	
3	6	342	4	5	233		3	57	52×48	6	63	69×58	
			5	6	215	448							

31号掘立柱建物跡

P		梁行柱間	梁行間	P		桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位
1	2	130		1	17	125		1	49	56×50	10	67	76×75	N18.5°W
2	3	111		17	16	154		2	52	48×40	11	12	48×48	
3	4	133		16	15	124		3	70	70×60	12	81	86×75	
4	5	126	500	15	14	146	548	4	38	62×61	13	44	80×59	
17	6	-	500	2	13	-	548	5	75	57×53	14	51	47×34	
16	7	-	503	3	12	-	548	6	66	46×44	15	58	66×56	
16	8	-	506	4	11	-	548	7	48	45×40	16	47	65×53	
15	9	-	502	5	6	122		8	56	60×49	17	81	58×53	
14	13	97		6	7	111		9	60	64×43				
13	12	135		7	8	118								
12	11	140		8	9	90								
11	10	128	500	9	10	107	548							

32号掘立柱建物跡

P		梁行間	P		桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位
1	4	255	1	2	164		1	79	87×68	4	80	77×63	N71°E
2	5	255	2	3	194	358	2	43.5	99×83	5	48	135×120	
3	6	255	4	5	158		3	78	49×45	6	51	71×65	
			5	6	200	358							

33号掘立柱建物跡

P		梁行間	P		桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位
1	●	(273)	1	2	195		1	73	40×37	3	7	65×(10+a)	N73°E
2	●	(273)	2	3	228	423	2	42	40×(26+a)	4	16.5	57×52	
3	4	273	●	●	(195)								
			●	●	(228)	(423)							

34号掘立柱建物跡

P		梁行柱間	梁行間	P		桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位
1	2	186		1	15	61		1	33.5	(64+a)×53	9	33	41×41	N18°E
2	3	184	370	15	14	93		2	56.5	55×51	10	53	49×40	
15	4	-	369	14	13	129		3	38	(35+a)×47	11	48	50×45	
14	5	-	369	13	12	75		4	40	48×44	12	35	46×43	
13	6	-	(372)	12	11	82	440	5	39	47×44	13	33	50×42	
13	7	-	(370)	2	10	-	439	6	19	44×39	14	62.5	59×50	
12	8	-	369	3	4	58		7	30	40×32	15	43	64×49	
11	10	180		4	5	95		8	35	57×48				
10	9	189	369	5	6	84								
				6	7	80								
				7	8	45								
				8	9	78	440							

35号掘立柱建物跡

P		梁行間	P		桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位
1	3	310	1	2	268		1	56.5	119×85	3	66.5	72×62	N66.5°E
2	●	(310)	2	5	261	529	2	63	(46+a)×68	5	19	(38+a)×55	
5	●	(310)	3	●	(268)								
			●	●	(261)	(529)							

36号掘立柱建物跡

P		梁行間	P		桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位
1	4	318	1	2	224		1	50	72×71	4	40	80×62	N28°W
2	5	321	2	3	216	440	2	62	(70+a)×69	5	59	84×80	
3	6	311	4	5	227		3	50	80×65	6	56	80×71	
			5	6	210	437							



37号掘立柱建物跡

P		梁行柱間	梁行間	P		桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位
1	7	253		1	2	99		1	26.5	59×(39+a)	8	68	61×48	N10.5°W
7	9	272	525	2	3	99		2	40	73×60	9	36.5	56×43	
(2	10)	-	(529)	3	4	141		3	29.5	72×59	10	48	65×57	
(3	10)	-	(528)	4	5	151		4	34	53×47	11	62	66×58	
4	11	-	528	5	6	150	640	5	16	54×50	12	40	65×51	
5	12	-	526	7	8	-	640	6	24	58×(37+a)	13	48	55×54	
6	8	265		9	10	163		7	73	66×65				
8	13	260	525	10	11	146								
				11	12	161								
				12	13	170	640							

38号掘立柱建物跡

P		梁行間	P		桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位
1	4	360	1	2	278		1	100	115×115	4	93	92×83	N26°W
2	5	360	2	3	277	555	2	87	83×73	5	83	74×68	
3	6	360	4	5	267		3	84	123×113	6	80	110×88	
			5	6	288	555							

39号掘立柱建物跡

P		梁行間	P		桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位
1	4	(351)	1	2	231		1	60	61×51	4	-	-	N65°W
2	5	351	2	3	247	478	2	75	79×71	5	55	61×57	
3	6	351	4	5	(225)		3	79	59×57	6	55	63×56	
			5	6	227	(452)							

40号掘立柱建物跡

P		梁行間	P		桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位
1	2	220	1	3	-	279	1	65	88×50	3	61	64×43	N72.5°E
3	4	213	2	4	-	287	2	67	70×43	4	77	52×47	

41号掘立柱建物跡

P		梁行間	P		桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位
1	4	340	1	2	230		1	74	62×51	4	50	76×75	N81.5°E
2	5	337	2	3	234	464	2	74	80×71	5	78	88×67	
3	●	(335)	4	5	231		3	65	100×80				
			5	●	(232)	(463)							

42号掘立柱建物跡

P		梁行柱間	梁行間	P		桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位
1	19	104		1	2	100		1	46.5	45×40	11	41	50×35	N18.5°W
19	18	114		2	3	90		2	60	(27+a)×50	12	71	30×30	
18	17	115		3	4	132		3	70	49×(26+a)	13	91	61×53	
17	16	110	443	4	5	93		4	68	37×31	14	64.5	70×47	
2	15	-	442	5	6	133	548	5	53.5	59×47	15	20.5	32×32	
3	14	-	441	19	7	-	548	6	41	32×25	16	84	55×45	
(4	13)	-	(439)	18	8	-	548	7	40	55×38	17	71	65×65	
(4	12)	-	(443)	7	9	-	547	8	9.5	77×66	18	123	76×(40+a)	
(5	12)	-	(440)	16	15	71		9	45.5	36×31	19	53.5	49×46	
(5	11)	-	(440)	15	14	100		10	53	58×47				
6	7	110		14	13	121								
7	8	116		13	12	81								
8	9	106		12	11	74								
9	10	107	439	11	10	100	547							

43号掘立柱建物跡

P		梁行柱間	梁行間	P		桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位	
1	5	225		1	2	99		1	52.5	35×33	6	77	42×40	N0°	
5	7	167	392	2	3	140		2	30.5	32×26	7	43	34×30		
2	8	-	382	3	4	127	366	3	31	25×25	8	25	30×30		
3	9	-	372	6	5	-	470	4	50	42×41	9	25	30×29		
4	6	180		7	8	91		5	57	(32+a)×30	10	38	35×29		
6	10	180	360	8	9	96									
				9	10	179	366								

44号掘立柱建物跡

P		梁行柱間	梁行間	P		桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位	
1	5	220		1	2	160		1	26	(32+a)×30	6	62	54×49	N18°W	
5	7	230	450	2	3	137		2	26	48×40	7	13.5	48×38		
2	8	-	450	3	4	175	472	3	25	46×40	8	34	36×34		
3	9	-	452	5	6	-		4	25	50×50	9	22	39×28		
4	6	225		7	8	155		5	64.5	47×44	10	19	46×37		
6	10	228	453	8	9	163									
				9	10	153	471								

45号掘立柱建物跡

P		梁行柱間	梁行間	P		桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位
1	13	149		1	12	96		1	31	34×33	8	33	34×(32+a)	N72°E
13	2	107		12	11	109		2	52	64×28	9	71.5	52×33	
2	3	125	381	11	●	(73)		3	62	54×43	10	8	42×40	
12	4	-	403	●	10	(110)	388	4	25	43×34	11	102.5	58×45	
11	5	-	403	13	9	-	388	5	82.5	75×49	12	55	44×31	
●	6	-	(403)	2	8	-	388	6	49	70×54	13	69.5	34×27	
10	9	158		3	4	100		7	42	46×37				
9	8	107		4	5	94								
8	7	112	377	5	6	83								
				6	7	111	388							

46号掘立柱建物跡

P		梁行柱間	梁行間	P		桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位
1	2	108		1	14	180		1	30	44×40	8	34	44×(34+a)	N82.5°E
2	3	127		14	13	158		2	35	47×46	9	54	34×30	
3	4	106		13	12	182	520	3	68	57×49	10	54	55×53	
4	5	132	473	2	11	-	521	4	50	33×(30+a)	11	38	56×45	
6	14	-	472	3	10	-	521	5	26.5	40×(35+a)	12	50	47×42	
7	13	-	475	4	9	-	523	6	20	48×40	13	44	38×34	
8	9	120		5	6	190		7	12.5	29×27	14	26	50×47	
9	10	112		6	7	225								
10	11	122		7	8	108	523							
11	12	115	469											

47号掘立柱建物跡

P		梁行柱間	梁行間	P		桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位	
4	5	168		1	2	104		1	60	45×38	6	51	39×35	N23.5°W	
5	6	160	328	2	3	114		2	63	47×40	7	46	34×26		
3	7	-	328	3	4	95	313	3	65.5	68×54	8	53.5	44×41		
2	8	-	330	5	10	-	313	4	53	37×36	9	56	37×34		
9	10	165		6	7	107		5	92.5	48×41	10	78	44×38		
10	1	163	328	7	8	124									
				8	9	82	313								

48号掘立柱建物跡

P		梁行柱間	梁行間	P		桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位
1	14	101		1	2	132		1	24	60×44	8	21	48×38	N37°W
14	13	79		2	3	133		2	24.5	36×32	9	23	52×42	
13	12	82		3	4	124	389	3	9.5	35×30	10	19	36×(27+a)	
12	11	98	360	14	5	-	388	4	34	50×44	11	18	44×(34+a)	
2	10	-	360	13	6	-	387	5	8.5	40×32	12	10.5	44×31	
3	9	-	360	12	7	-	385	6	21	53×43	13	12	35×32	
4	5	101		11	10	133		7	7	35×28	14	24	40×32	
5	6	86		10	9	117								
6	7	77		9	8	133	383							
7	8	98	362											

49号掘立柱建物跡

P		梁行柱間	梁行間	P		桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位
4	5	127		4	3	169		1	63	(39+a)×(27+a)	9	20.5	61×37	N15°W
5	6	113		3	2	165		2	32	61×59	10	23	59×39	
6	7	130		2	1	111		3	40	50×47	11	27.5	85×64	
7	8	120	490	1	15	103	548	4	33.5	39×(29+a)	12	36	47×39	
3	9	-	492	5	14	-	548	5	19	49×40	13	23.5	65×43	
2	10	-	495	6	13	-	548	6	53	57×46	14	20	55×40	
1	11	-	492	7	●	-	(548)	7	15	58×45	15	21	46×42	
15	14	142		8	9	126		8	37	63×46				
14	13	124		9	10	129								
13	●	(98)		10	11	160								
●	12	(126)	490	11	12	135	550							

50号掘立柱建物跡

P		梁行柱間	梁行間	P		桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位
1	2	115		1	13	169		1	19	36×31	8	22	47×37	N88°W
2	3	99		13	12	156		2	29	33×31	9	41	51×46	
3	4	95		12	11	180	505	3	23	36×33	10	36.5	40×35	
4	5	90	399	2	10	-	505	4	32	40×35	11	32	50×35	
13	6	-	398	3	9	-	506	5	23	43×33	12	21	32×26	
12	●	-	(398)	4	8	-	506	6	14.5	37×28	13	17	38×37	
11	10	97		5	6	150		7	46	34×30				
10	9	92		6	●	(176)								
9	8	91		●	7	(180)	506							
8	7	118	398											

51号掘立柱建物跡

P		梁行柱間	梁行間	P		桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位
1	2	160		1	11	118		1	46	55×54	7	96	45×38	N10°W
2	●	(200)	(360)	11	10	60		2	87	57×45	8	16.5	21×21	
11	3	-	360	10	9	74		3	13	38×34	9	65	38×32	
10	4	-	361	9	8	108	360	4	45	45×30	10	31	50×37	
9	5	-	362	2	7	-	360	5	43	44×43	11	63.5	61×56	
8	7	193		●	3	(95)		6	36.5	50×44				
7	6	168	361	3	4	100								
				4	5	95								
				5	6	68	(358)							

52号掘立柱建物跡

P		梁行間	P	桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位	
1	2	236	1	3	-	317	1	78	64×60	3	59	88×82	N78°E
3	4	238	2	4	-	317	2	64	67×49	4	70	55×53	

53号掘立柱建物跡

P		梁行間	P		桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位
1	4	247	1	2	164		1	45	41×40	4	30	60×52	N53.5°E
2	5	247	2	3	152	316	2	54	45×37	5	64.5	57×55	
3	6	247	4	5	155		3	62	57×54	6	55	51×50	
			5	6	162	317							

54号掘立柱建物跡

P		梁行間	P		桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位
1	4	276	1	2	198		1	78	45×41	4	56.5	42×40	N11.5°W
2	5	277	2	3	193	391	2	47	49×48	5	74	62×47	
3	6	278	4	5	196		3	41	51×42	6	67	50×44	
			5	6	189	385							

55号掘立柱建物跡

P		梁行間	梁行間	P		桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	主軸方位
2	3	121		2	1	131		1	32	(34+a)×29	N15.5°W
3	4	107		1	●	252		2	44	48×44	
4	5	102		●	●	125	508	3	29	37×(30+a)	
5	●	122	(452)					4	39	48×40	
1	●		(452)					5	31.5	41×33	
●	●		(452)								

56号掘立柱建物跡

P		梁行柱間	梁行間	P		桁行柱間	桁行間	P	深さ	掘方径	P	深さ	掘方径	主軸方位
1	2	88		1	14	151		1	29	30×30	8	9	42×(13+a)	N34.5°E
2	3	112		14	13	139		2	12.5	37×24	9	17	48×(31+a)	
3	4	114		13	12	150	440	3	66	54×46	10	36	45×36	
4	5	79	393	2	11	-	440	4	34.5	42×27	11	35	36×34	
14	6	-	393	3	10	-	440	5	46	60×42	12	30	48×46	
13	7	-	393	4	9	-	440	6	16	71×27	13	28	37×31	
12	11	112		5	6	155		7	50	71×55	14	13.5	28×27	
11	10	86		6	7	140								
10	9	108		7	8	147	442							
9	8	87	393											

表3 出土土器観察表

( )は復元値

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径 ④胴部最大径 ⑤脚裾部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
1	第6図 図版42	深鉢	北部包含層	① 13.15	口縁部2/3	調整は内外面ともにナデ。内面の下部に条痕文。 胎土は粗砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面灰黄色～暗灰色、内面黄灰色～黄褐色。	スス付着
2	第6図	浅鉢	1号土坑	—	口縁部片	調整は内外面ともにヨコナデ・ナデ？ 胎土は粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成はやや良好。 色調は外面淡暗橙色、内面淡橙色。	
3	第6図	鉢？	1号土坑	—	小片	調整は外面ナデ？条痕か？、内面ナデ。 胎土は粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに暗褐色。	
4	第83図	壺	1号住居	—	口縁部片	調整は内外面ともにナデ。 胎土は白色粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに白褐色～淡橙褐色。	丹塗りか
5	第83図	甕	1号住居	① (16.6) ② 27.0 ③ 2.0 ④ (22.0)	全体の1/2	調整は外面タタキ目・ヘラケズリ後ハケ目、内面ヘラケズリ後ハケ目、口縁部ヨコナデ後ハケ目。 胎土は粗砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面は淡褐色～暗褐色～黒色、内面淡褐色～暗褐色。	黒斑あり
6	第83図	底部	中央部攪乱	③ 5.7	底部完存	調整は外面不明、内面ナデ、指頭圧痕あり。 胎土は粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成はやや不良。色調は外面淡赤褐色、内面淡橙色。	
7	第83図	鉢	1号住居	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ・ハケ目、内面ハケ目。 胎土は粗砂粒・細かい雲母を多く含む。焼成はやや不良。色調は内外面ともに淡黄色。	
8	第83図 図版42	鉢	1号住居	① (15.0)	全体の1/4	調整は内外面ともにハケ目後ナデ、指頭圧痕あり。 胎土は白色粗砂粒をやや多く、細かい雲母を少量含む。 焼成は良好。 色調は内外面ともに暗橙褐色～灰褐色。	
9	第83図	壺	5号住居 南東部	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ・ハケ目、内面ナデ、一部指頭圧痕あり。 胎土は粗砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色。	
10	第83図	壺	5号住居 南東部	—	口縁部片	調整は内外面ともにナデ。 胎土は細砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色。	丹塗りか
11	第83図	甕	5号住居 北西部	① (19.8)	口縁部1/5	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は細砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに橙色。	
12	第83図	甕	5号住居 北東部	—	口縁部片	調整は外面ハケ目、内面ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は細砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面暗黄褐色、内面黄褐色。	スス付着
13	第83図	底部	5号住居 北西部	—	底部片	調整は不明。 胎土は細砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡赤褐色、内面黒褐色。	
14	第83図	底部	5号住居 南西部	③ (10.2)	底部1/4	調整は外面不明、内面ナデ。 胎土は細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面赤褐色、内面灰褐色。	
15	第83図	手捏	5号住居 北西部	③ 2.6	底部完存	調整は外面不明、内面ナデ・指頭圧痕あり。 胎土は粗・細砂粒・細かい雲母を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色。	
16	第83図 図版42	壺	6号住居	① (8.4) ② (15.7) ③ (4.2)	全体の2/3	調整は外面ハケ目後ナデ・ヘラケズリ後ハケ目、内面ハケ目・一部指頭圧痕あり、口縁部ハケ目痕あり。 胎土は粗・細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡灰褐色～灰褐色～暗灰色、内面淡灰褐色～淡褐色～灰色。	
17	第83図	甕	6号住居	—	口縁部片	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は細砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面暗赤褐色、内面黄褐色。	
18	第83図 図版42	底部	6号住居	③ 5.6	底部3/4	調整は内外面ともにハケ目後ナデ、接合部より剥落。 胎土は細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに橙褐色。	黒斑あり
19	第83図 図版42	鉢	6号住居 北東隅	① 12.2 ② 7.3 ③ 4.45	全体の2/3	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに黄褐色。	
20	第83図	器台	6号住居 北西部	⑤ (13.4)	裾部片	調整は内外面ともにナデ。 胎土は白色粗砂粒をやや多く、白色細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色～暗橙褐色。	
21	第83図 図版42	壺	7号住居	④ (14.2)	体部1/2	調整は外面ハケ目後ナデ、内面ナデ・一部しぼり痕・指頭圧痕あり。 胎土は細砂粒・細かい角閃石・雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面茶褐色～黒灰色、内面暗赤褐色。	
22-1	第83図 図版42	甕	7号住居	① 16.4	口縁部完存 ～胴部1/3	調整は内外面ともにハケ目、口縁部ハケ目・ヨコナデ。 胎土は細砂粒・細かい雲母を多く含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色～茶褐色、内面黄褐色～黒色。	黒斑あり

( )は復元値

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径 ④胴部最大径 ⑤脚裾部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
22-2	第83図 図版42	甕	7号住居	③ (7.2)	体部～底部 1/4	調整は内外面ともにハケ目・ナデ・一部指頭圧痕あり。 胎土は粗砂粒をやや多く、細かい角閃石・雲母を少量含む。 焼成はやや良好。 色調は外面褐色～淡褐色～黒褐色、内面灰褐色。	
23	第83図	甕	7号住居	—	口縁部片	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は白色細砂粒・細かい角閃石・細かい雲母をやや多く含む。 焼成は良好。 色調は内外面ともに黒褐色。	
24	第83図	甕	7号住居	—	口縁部片	調整は内外面ともにヨコナデ・ハケ目、口縁部刻み目。 胎土は細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡赤褐色。	
25	第83図 図版42	底部	7号住居	—	底部片	調整は内外面ともにハケ目。 胎土は白色粗砂粒・雲母・赤色粗砂粒を非常に多く含む。 焼成はやや不良。 色調は内外面ともに赤褐色～黄褐色。	
26	第83図	底部	7号住居	③ (8.4)	底部1/4	調整は内外面ともにハケ目。 胎土は細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面褐色、内面茶褐色。	
27	第83図	底部	7号住居	③ (6.6)	底部1/3	調整は外面不明、内面ナデ？ 胎土は細砂粒・細かい角閃石を非常に多く含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色、内面褐色。	
28	第83図	底部	7号住居	—	底部片	調整は外面タタキ目・ナデ、内面ナデ・一部指頭圧痕あり。 胎土は粗・細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに橙褐色。	
29	第83図 図版42	鉢	7号住居	① 22.5 ② 12.4 ③ 7.1	全体の3/4	調整は外面ヨコナデ・ハケ目・ナデ、内面ハケ目。 胎土は細砂粒・細かい雲母を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに褐色。	黒斑あり
30	第83図 図版42	鉢	7号住居 南側ベッド	① (15.3) ② 7.0 ③ 5.5	全体の2/3	調整は内外面ともにハケ目・ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色～黒褐色。	
31	第83図 図版42	高坏	7号住居	① (30.8)	坏部1/4	調整は不明。 胎土は精製。焼成は良好。 色調は外面淡赤褐色～灰黄褐色、内面淡赤褐色。	
32	第84図 図版42	壺	8号住居	① 12.2 ② 10.1 ③ 5.3 ④ 14.7	ほぼ完形	調整は外面ヘラミガキ？ ナデ？、内面ナデ、口縁部ヨコナデ？ヘラミガキ？ 胎土は粗砂粒・黒色細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成はやや良好。 色調は外面淡橙褐色～黒褐色、内面淡橙褐色。	丹塗り 黒斑あり
33	第84図 図版42	壺	8号住居 中央北部	① (15.2) ② 15.4 ③ 7.0 ④ (18.8)	全体の2/3	調整は内外面ともにハケ目。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡橙白色、内面淡黄白色。	穿孔あり 黒斑あり
34	第84図 図版42	壺	8号住居	① (12.1) ② 13.7 ③ 7.4 ④ 14.7	口縁部1/3 胴部～底部 完存	調整は外面不明、内面ハケ目後ナデ、内面に指頭圧痕あり。 胎土は白色粗砂粒を多く、細かい雲母・角閃石をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに白褐色～淡橙褐色。	
35	第84図	蓋	8号住居 北西部	① (14.8)	全体の1/4	調整は内外面ともにハケ目後ナデ。 胎土は白色粗砂粒を少量、細かい雲母をやや多く含む。 焼成は良好。 色調は外面淡橙褐色、内面赤褐色。	36の蓋 穿孔あり 丹塗り
36	第84図 図版43	壺	8号住居 北西部+ 中央部	① 13.8 ② 13.6 ③ 6.8 ④ (18.5)	ほぼ完形	調整は外面ヘラミガキ？、内面不明。 胎土は粗砂粒・赤色細砂粒をやや多く含む。焼成はやや不良。 色調は外面暗黄褐色、内面明褐色。	穿孔あり 丹塗り
37	第84図	甕	8号住居 南部	① (30.0)	口縁部	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は粗砂粒・細かい雲母をやや多く、細かい角閃石を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面暗褐色、内面黄褐色。	
38	第84図	底部	8号住居 南部	③ (8.4)	底部1/2	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ナデ・一部指頭圧痕あり。 胎土は粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面明褐色、内面淡茶褐色。	
39	第84図	底部	8号住居 南部	③ (8.9)	底部1/2	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ナデ？一部指頭圧痕あり。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡黄白色。	
40	第84図 図版43	鉢	8号住居 北西部	① 15.8 ② 9.7 ③ 6.0	ほぼ完形	調整は外面ハケ目、内面ナデ・工具痕あり。 胎土は粗砂粒・細かい雲母を多く含む。焼成はやや不良。 色調は外面淡黄色～明褐色、内面明褐色。	
41	第84図 図版43	鉢	8号住居	① 15.3 ② 8.2 ③ 6.1	完形	調整は不明、内面一部ヨコナデ、指頭圧痕あり。 胎土は粗砂粒・細かい雲母を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	黒斑あり
42	第84図	鉢	8号住居 北西部	① (20.9) ② 12.9 ③ (6.1)	全体の1/3	調整は外面ハケ目、内面ナデ・一部指頭圧痕あり、口縁部ハケ目後ヨコナデ。 胎土は粗砂粒を多く、細かい角閃石・雲母をやや多く含む。 焼成は良好。 色調は内外面ともに暗褐色。	黒斑あり



( )は復元値

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量 ①口径 ②器高 ③底径 ④胴部最大径 ⑤脚裾部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
43	第84図 図版43	鉢	8号住居 北西部	① 20.4 ② 12.4 ③ 7.4	ほぼ完形	調整は外面ハケ目、内面ハケ目後ナデ。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面明橙色、内面淡黄橙色～暗茶灰色。	
44	第84図 図版43	鉢	8号住居	① 28.5 ② 19.8 ③ 8.7	ほぼ完形	調整は外面ハケ目・一部指頭圧痕あり、内面ナデ・一部 指頭圧痕あり、口縁部ヨコナデ。 胎土は粗砂粒を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面淡黄橙色、内面淡茶色。	
45	第84図 図版43	鉢	8号住居 中央部	① 29.7 ② 18.5 ③ 8.0	ほぼ完形	調整は外面ハケ目、内面ナデ・一部指頭圧痕あり、口縁 部ヨコナデ。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに明橙色。	黒斑あり
46	第84図	壺	9号住居 (8号との切合)	① (21.4)	口縁部 ～頸部1/5	調整は外面ヨコナデ後暗文、内面ヨコナデ、口縁部刻 み目。 胎土は精製。焼成は良好。 色調は外面明褐色、内面明橙色。	丹塗り
47	第84図	壺	9号住居 北西部下層	—	突帯片	調整は外面ハケ目後ナデ、内面不明。突帯部刻み目。 胎土は白色粗砂粒を少量、細かい雲母をやや多く含む。 焼成は良好。 色調は外面赤色～橙色、内面橙色。	丹塗り
48	第84図	壺	9号住居	—	口縁部片	調整は外面ハケ目後ナデ?、内面不明。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡橙色～白褐色。	
49	第84図	甕	9号住居 中央部	① (29.2)	口縁部1/10	調整は不明。 胎土は細砂粒・赤色細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに暗橙色。	
50	第84図	甕	9号住居 (8号との切合)	① (32.0)	口縁部1/6	調整は不明。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡橙色。	
51	第84図	甕	9号住居 北西部下層	① (31.0)	口縁部1/8	調整は内外面ともにハケ目後ナデ? 胎土は白色粗砂粒・細かい角閃石・雲母をやや多く、赤 色粗砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに橙色～橙褐色～茶褐色。	
52	第84図	底部	9号住居 北西部下層	③ (7.4)	底部1/4	調整は外面ハケ目、内面ナデ。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成はやや不良。 色調は外面淡橙色、内面淡茶色。	
53	第84図	高坏	9号住居 北西部下層	—	口縁部片	調整は外面不明、内面ナデ。 胎土は粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成はやや 良好。 色調は外面淡褐色～淡橙色、内面淡橙色。	丹塗るか
54	第85図 図版43	底部	10号住居 南西壁際 周溝上	③ 7.2	底部完存	調整は外面不明、内面ハケ目、内外面に指頭圧痕あり。 胎土は粗砂粒を多く含む。焼成はやや不良。 色調は外面暗茶灰色、内面茶褐色。	
55	第85図	底部	10号住居	③ (5.9)	底部1/2	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ナデ・一部ハケ目、指頭 圧痕あり。 胎土は粗砂粒・細かい雲母を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡茶橙色。	
56	第85図	底部	10号住居	③ 4.0	底部完存	調整は不明。 胎土は粗砂粒・細かい雲母を多く含む。焼成はやや不良。 色調は外面暗橙色、内面淡茶色。	黒斑あり
57	第85図	底部	10号住居	③ 5.8	ほぼ完存	調整は不明。 胎土は粗砂粒・細かい角閃石・赤色細砂粒を多く含む。 焼成は良好。 色調は内外面ともに淡黄色。	
58	第85図	底部	10号住居	③ (4.8)	底部1/2	調整は外面ハケ目・一部指頭圧痕・内面不明。 胎土は粗砂粒を多く含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡黄橙色。	黒斑あり
59	第85図 図版43	壺	11号住居 床直上	① (13.7)	口縁部2/3	調整は外面ヘラミガキ、内面ナデ。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色。	丹塗り
60	第85図 図版43	甕	11号住居 床直上	① 32.9 ② 35.1 ③ 8.9 ④ 30.6	完形	調整は外面ナデ・ハケ目、内面ナデ。 胎土は粗砂粒を多く、細かい角閃石を少量含む。焼成は 良好。 色調は内外面ともに白黄褐色。	スス付着
61	第85図	甕	11号住居 床直上	① (31.0)	口縁部1/2	調整は外面ハケ目、内面ヨコナデ。 胎土は細砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成はやや 良好。 色調は内外面ともに橙褐色。	
62	第85図	甕	11号住居 床直上	① (31.0)	口縁部1/6	調整は外面ハケ目、内面ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は粗砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色。	
63	第85図	甕	11号住居 床直上	① (33.0)	口縁部1/4	調整は外面ハケ目、内面ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は粗砂粒・細かい雲母を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに橙褐色。	
64	第85図	甕	11号住居 床直上	① (27.2)	口縁部1/9	調整は外面ハケ目、内面ナデ。 胎土は細砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成はやや 良好。 色調は内外面ともに黄橙色。	

( )は復元値

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量 ①口径 ②器高 ③底径 ④胴部最大径 ⑤脚根部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
65	第85図 図版43	甕	11号住居 床直上	① (27.0)	口縁部 ～胴部1/4	調整は外面ハケ目、内面ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は細砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成はやや 良好。 色調は内外面ともに灰褐色。	
66	第85図 図版43	甕	11号住居 床直上	① (25.8)	口縁部1/4	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成はやや 良好。 色調は内外面ともに灰褐色。	スス付着
67	第85図	甕	11号住居 北西部	① (25.3)	口縁部1/6	調整は外面ハケ目、内面ナデ。 胎土は粗・細砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は 良好。 色調は内外面ともに灰褐色。	
68	第85図	甕	11号住居 北西部	—	口縁部片	調整は外面ハケ目、内面ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は粗・細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	スス付着
69	第85図	甕	11号住居 床直上	—	口縁部1/9	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は粗砂粒・細かい雲母を多く含む。焼成はやや良好。 色調は内外面ともに淡黄白色。	
70	第85図	甕	11号住居 北西部	—	口縁部片	調整は外面一部ヨコナデ、内面不明。 胎土は白色・赤色粗砂粒をやや多く含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡橙色。	
71	第85図	甕	11号住居 床直上	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は不良。 色調は内外面ともに橙色。	
72	第85図	甕	11号住居 P1	—	口縁部1/9	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は不良。 色調は内外面ともに褐色。	
73	第86図 図版43	甕	11号住居 床直上	① (33.2)	口縁部1/4	調整は外面ハケ目、内面ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに白褐色～白褐色～暗灰褐色～黒褐 色。	スス付着
74	第86図	甕	11号住居 床直上	① (31.8)	口縁部1/6	調整は外面ハケ目、内面ヨコナデ?、口縁部ヨコナデ。 胎土は白色粗砂粒を多く、細かい雲母を少量含む。焼成 は良好。 色調は内外面ともに白黄褐色～暗白黄褐色～黒褐色。	スス付着
75	第86図	甕	11号住居 床直上	① (24.4)	口縁部1/4	調整は外面ハケ目、内面ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は細砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面橙褐色、内面黄褐色。	
76	第86図 図版43	底部	11号住居 床直上	③ 9.5	底部3/4	調整は内外面ともにハケ目、内面一部指頭圧痕あり。 胎土は白色粗砂粒を多く、細かい雲母をやや多く含む。 焼成は良好。 色調は内外面ともに淡橙色～橙色～赤褐色～暗黄褐色～ 黒褐色。	黒斑あり
77	第86図 図版43	底部	11号住居 床直上	③ (8.9)	体部1/2 ～底部	調整は外面ハケ目後ナデ、内面ナデ。 胎土は粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面灰褐色～橙褐色、内面灰褐色。	
78	第86図	底部	11号住居 床直上	③ (9.0)	底部1/2	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ナデ。 胎土は粗・細砂粒をやや多く含む。焼成はやや不良。 色調は外面黄褐色・内面灰黒色。	
79	第86図	底部	11号住居 床直上	③ 8.5	底部完存	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ナデ。 胎土は粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成はやや 不良。 色調は外面橙褐色、内面黄褐色。	
80	第86図	底部	11号住居 床直上	③ 8.5	底部3/4	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ナデ・一部指頭圧痕あり。 胎土は細砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面橙褐色、内面灰黄色。	スス付着
81	第86図	底部	11号住居 床直上	③ (9.4)	底部1/4	調整は外面ナデ?、内面ナデ? 胎土は精製。焼成は良好。 色調は内外面ともに橙褐色。	
82	第86図	蓋	11号住居 床直上	① (15.4)	全体の1/4	調整は口縁部ヨコナデ。 胎土は細砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面暗褐色、内面明褐色。	穿孔あり
83	第86図	器台	11号住居 北西部	① (11.7)	全体の1/3	調整は外面ハケ目、内面ナデ、端部ヨコナデ。 胎土は白色粗砂粒を多く、細かい雲母をやや多く含む。 焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色～暗褐色。	
84	第86図	器台	11号住居 南西部	① (12.0)	口縁部1/4	調整は外面ハケ目、内面ヨコナデ・指頭圧痕あり、端部 ヨコナデ。 胎土は精製。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色。	
85	第86図 図版43	器台	11号住居 床直上	① 13.2 ② 17.4 ⑤ 15.2	全体の3/4	調整は外面ハケ目、内面ナデ。 胎土は細砂粒を少量・細かい雲母をやや多く含む。焼成 は良好。 色調は外面橙色～淡橙褐色、内面淡橙褐色～淡灰褐色。	
86	第86図 図版44	器台	11号住居 床直上	① 8.5 ② 14.2 ⑤ (8.9)	全体の1/2	調整は内外面ともにナデ・指頭圧痕あり。 胎土は粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色～淡黄色。	

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量 ①口径 ②器高 ③底径 ④胴部最大径 ⑤脚根部・裾部径 (cm)	残存 状態	調整及び特徴	備考
87	第86図	器台	11号住居 P1	⑤ (8.0)	裾部1/2	調整は内外面ともにナデ・指頭圧痕あり。 胎土は細砂粒・細かい角閃石・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡橙色。	
88	第87図	壺	12号住居 南部上層	① (17.1)	口縁部1/8	調整は外面ハケ目、内面一部指頭圧痕あり、口縁部ナデ？ 胎土は白色粗砂粒を多く、細かい雲母をやや多く含む。 焼成はやや不良。 色調は内外面ともに橙褐色～暗橙褐色。	
89	第87図	壺	12号住居 北西部下層	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は粗砂粒・細かい雲母を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡黄色～淡橙色。	
90	第87図	壺	12号住居 P12	—	口縁部片	調整は内外面ともにナデ。 胎土は白色粗砂粒をやや多く含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡橙褐色。	
91	第87図 図版44	壺	12号住居	③ (5.4)	胴部 ～底部1/3	調整は外面ヘラミガキ？・ナデ、内面ハケ目・一部指頭 圧痕あり。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面褐色、内面暗茶褐色。	
92	第87図	甕	12号住居 北西部下層	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は細砂粒を少量含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡黄色。	
93	第87図	甕	12号住居 P10	① (16.1)	口縁部 ～肩部1/6	調整は内外面ともにハケ目、口縁部ヨコナデ。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに明褐色。	
94	第87図 図版44	甕	12号住居	① (33.2)	口縁部 ～体部1/6	調整は外面ハケ目・一部指頭圧痕あり、内面ハケ目、口 縁部ハケ目・ヨコナデ・一部指頭圧痕あり。 胎土は白色粗・細砂粒を非常に多く、細かい雲母をやや 多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに暗橙褐色～黒褐色～灰黄褐色。	黒斑あり
95	第87図	底部	12号住居 北部上層	③ (4.5)	底部2/5	調整は外面ハケ目後ナデ？、内面ナデ。 胎土は白色粗砂粒を多く、細かい雲母をやや多く含む。 焼成は良好。 色調は内外面ともに橙色～灰褐色。	
96	第87図	底部	12号住居 南西部下層	③ (7.1)	底部1/5	調整は外面ヘラミガキ？、内面不明・一部指頭圧痕あり。 胎土は細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は不良。 色調は外面赤褐色～暗褐色、内面暗褐色。	丹塗り
97	第87図	底部	12号住居 北西部下層	③ (8.8)	底部1/4	調整は外面タタキ目・ヘラケズリ？、内面ハケ目。 胎土は白色粗砂粒を多く、細かい雲母をやや多く含む。 焼成は良好。 色調は内外面ともに暗灰色。	
98	第87図 図版44	壺	12号住居	③ 4.9	底部完存	調整は外面ナデ？、内面ハケ目。 胎土は粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面暗茶褐色、内面淡茶色。	
99	第87図	鉢	12号住居 東側下層	—	口縁部片	調整は外面ハケ目？、内面ナデ・一部指頭圧痕あり。 胎土は粗・細砂粒をやや多く含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡茶橙色。	
100	第87図	鉢	12号住居 北西部下層	—	口縁部片	調整は不明・一部指頭圧痕あり。 胎土は粗・細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡橙色。	
101	第87図	壺	13号住居 北東部上層	—	頸部片	調整は不明。 胎土は粗・細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面明褐色、内面淡褐色。	
102	第87図 図版44	壺	13号住居	① (15.2)	全体の1/4	調整は外面タタキ目後ハケ目、内面ハケ目、口縁部ヨコ ナデ。 胎土は白色・赤色粗砂粒をやや多く、細砂粒・細かい雲 母を少量含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡黄色。	
103	第87図	底部	13号住居 南部上層	③ (6.8)	底部1/4	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成はやや不良。 色調は外面淡橙色、内面淡茶灰色。	
104	第87図	底部	13号住居 北部上層	③ 8.0	底部1/2	調整は外面ナデ？、内面ハケ目・ナデ？ 胎土は粗砂粒・細かい雲母を多く含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡黄褐色。	
105	第87図 図版44	底部	13号住居 南東部 ベッド肩	③ 6.1	底部 ほぼ完存	調整は外面ハケ目後ナデ消し、内面ハケ目・一部指頭圧 痕あり。 胎土は細砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡茶色。	穿孔あり
106	第87図	底部	13号住居 南西部貯蔵 穴南肩上層	③ (8.4)	底部1/4	調整は外面ナデ・わずかにハケ目、内面ナデ・一部指頭 圧痕あり。 胎土は粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面暗茶色、内面淡茶色。	植物の圧痕 あり
107	第87図	底部	13号住居 南西部下層	③ 8.3	底部完存	調整は不明、内面一部指頭圧痕あり。 胎土は粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡黄色。	
108	第87図	底部	13号住居 D1	③ (7.0)	底部1/4	調整は外面不明、内面ナデ・一部指頭圧痕あり。 胎土は粗砂粒・細かい雲母を多く含む。焼成は不良。 色調は外面暗褐色、内面暗茶色。	

( )は復元値

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量 ①口径 ②器高 ③底径 ④胴部最大径 ⑤脚根部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
109	第87図	底部	13号住居 北部上層	③ (7.6)	底部1/6	調整は外面ハケ目・ナデ?、内面ナデ。 胎土は白色粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに暗褐色～暗橙褐色。	
110	第87図	底部	13号住居 西部中央下層	③ (7.0)	底部1/2	調整は外面不明、内面ナデ・一部指頭圧痕あり。 胎土は粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡黄色。	
111	第87図 図版44	鉢	13号住居 南部ベッド 上下層	① (16.9) ② 7.1 ③ 6.4	全体の3/4	調整は外面ヘラケズリ・一部指頭圧痕あり、内面ナデ・指頭圧痕あり。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに明橙色。	
112	第87図	鉢	13号住居 北部上層	① (15.6)	口縁部1/4	調整は外面ナデ・ヘラケズリ、内面ナデ・指頭圧痕あり、 端部ヨコナデ。 胎土は粗砂粒を非常に多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡茶橙色。	
113	第87図 図版44	器台	13号住居	① 7.5 ② 10.4 ⑤ 10.2	全体の4/5	調整は内外面ともにナデ・指頭圧痕あり。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は不良。 色調は外面淡黄色～明橙色、内面淡茶灰色。	
114	第87図	手捏	13号住居 D1	—	小片	調整は外面ナデ、内面一部指頭圧痕あり。 胎土は粗砂粒・細かい雲母を多く含む。焼成は不良。 色調は内外面ともに橙色。	
115	第87図 図版44	瓦質 土器	13号住居 北部ベッド 上下層	—	小片	調整は外面縄文タタキ、内面不明。 胎土は細かい雲母を少量含む。焼成はやや良好。 色調は内外面ともに淡黄灰色。	
116	第87図	甕	14号住居 北部上層	—	口縁部片	調整は外面ハケ目、内面ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は粗砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色～淡灰褐色。	
117	第87図	底部	14号住居	③ 4.2	底部完存	調整は外面ナデ・ハケ目、内面ハケ目。 胎土は粗砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色～黒褐色、内面橙色。	
118	第87図	底部	14号住居 北部上層	③ 4.0	底部完存	調整は内外面ともにナデ・指頭圧痕あり。 胎土は粗砂粒・細かい雲母を非常に多く含む。焼成は良好。 色調は外面褐色、内面黒褐色。	
119	第87図	底部	14号住居 北部上層	③ (8.0)	底部1/4	調整は不明。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成はやや良好。 色調は外面淡褐色、内面灰褐色。	
120	第87図 図版44	鉢	14号住居	① 14.6 ② 5.8 ③ 3.8	完形	調整は外面ハケ目・ナデ、内面工具痕あり、口縁部ヨコナデ。 胎土は粗砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに褐色。	
121	第88図	壺	15号住居	① (11.7)	口縁部1/8	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成はやや良好。 色調は外面黄褐色～赤褐色、内面黄褐色。	
122	第88図	甕	15号住居	① (23.2)	口縁部1/8	調整は不明。 胎土は粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成はやや不良。 色調は外面淡赤褐色、内面黄褐色。	
123	第88図	甕	15号住居	③ 6.7	底部完存	調整は外面ナデ、内面ハケ目・ナデ。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成はやや良好。 色調は内外面ともに赤褐色～灰褐色。	
124	第88図	底部	15号住居	③ (6.3)	底部1/4	調整は外面ハケ目、内面ナデ。 胎土は細砂粒・細かい角閃石を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面灰褐色～褐色、内面淡赤褐色。	
125	第88図 図版44	鉢	15号住居	① (12.5) ② 6.0	全体の1/2	調整は外面タタキ目?、内面ナデ・指頭圧痕あり。 胎土は粗砂粒を非常に多く含む。焼成は不良。 色調は内外面ともに赤褐色。	
126	第88図	高坏	15号住居 北西部上層	① (25.2)	口縁部1/8	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は粗砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色。	
127	第88図 図版44	手捏	15号住居 北部上層	① (5.3) ② 3.9 ③ 4.1	口縁部一部 ～底部完存	調整は外面不明、内面指頭圧痕あり。 胎土は粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は不良。 色調は外面淡赤褐色～灰褐色、内面は淡赤褐色～褐色。	黒斑あり
128	第88図 図版44	手捏	15号住居 中央部下層	① (7.5) ② 3.0 ③ 2.0	口縁部1/3 ～底部完存	調整は不明、口縁部指頭圧痕あり。 胎土は粗砂粒・細かい雲母を非常に多く含む。焼成は不良。 色調は内外面ともに赤褐色。	
129	第88図	壺	16号住居 上層	① (7.4)	口縁部片	調整は外面ハケ目後ヘラミガキ?、内面ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は白色細砂粒・細かい雲母・角閃石をやや多く含む。 焼成はやや不良。 色調は内外面ともに赤色～淡橙色。	丹塗り
130	第88図 図版44	壺	16号住居	③ 5.2 ④ 11.3	胴部～底部 完存	調整は外面一部ハケ目、内面ナデ・一部指頭圧痕あり。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに橙褐色。	
131-1	第88図	甕	16号住居 上層	—	口縁部片	調整は内外面ともにナデ? 胎土は白色粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡橙色～赤褐色	丹塗り



( )は復元値

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量 ①口径 ②器高 ③底径 ④胴部最大径 ⑤脚裾部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
131-2	第88図 図版44	壺	16号住居	—	頸部～胴部 1/4	調整は突帯部ヨコナデ、内外面一部指頭圧痕あり。 胎土は精製。細かい角閃石・雲母を含む。焼成はやや不良。 色調は外面暗褐色、内面暗黄褐色。	丹塗り
132	第88図	甕	16号住居 上層	① (32.0)	口縁部1/8	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は白色粗砂粒をやや多く、細かい雲母を少量含む。 焼成は良好。 色調は外面淡褐色、内面淡橙褐色。	
133	第88図	甕	16号住居 上層	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は白色細砂粒を少量含む。焼成はやや良好。 色調は内外面ともに淡橙褐色。	
134	第88図	甕	16号住居 上層	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は粗砂粒・赤色細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成はやや良好。 色調は外面淡黄色～淡橙褐色、内面淡橙褐色。	
135	第88図	底部	16号住居 上層	③ (7.8)	底部1/4	調整は外面ハケ目、内面ナデ。 胎土は細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡茶褐色。	
136	第88図 図版44	鉢	16号住居	① 22.4 ② 15.5 ③ 8.5	完形	調整は内外面ともにハケ目、口縁部ナデ、底部に指頭圧痕。 胎土は粗砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに茶褐色～黄褐色。	黒斑あり
137	第88図 図版45	鉢	16号住居	① 16.3 ② 11.9 ③ 7.3	ほぼ完形	調整は外面ハケ目、内面ナデ・指頭圧痕あり。 胎土は粗砂粒・赤色細砂粒・細かい雲母をやや多く含む。 焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡黄褐色。	
138	第88図 図版45	鉢	16号住居 中央部	① (15.4) ② 11.7 ③ (7.2)	全体の1/4	調整は外面ハケ目、指頭圧痕あり。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡黄褐色。	
139	第88図	高坏	16号住居 上層	① 22.8	口縁部片	調整は内外面ともにナデ？ 胎土は白色細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに暗茶褐色。	丹塗り
140	第88図 図版45	器台	16号住居 東側	① (3.8) ② 9.7 ⑤ (10.0)	全体の1/3	調整は外面不明・一部指頭圧痕あり、内面ナデ。 胎土は細砂粒をやや多く含む。焼成はやや不良。 色調は外面淡黄褐色、内面淡灰黄色。	
141	第89図 図版45	壺	17号住居	① 22.8	口縁部1/2	調整は内外面ともに不明。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡茶褐色。	
142	第89図 図版45	壺	17号住居	① (14.5) ④ (14.4)	口縁部 ～体部1/3	調整は外面ハケ目、内面ハケ目？・指頭圧痕あり、口縁部ナデ？ 胎土は白色粗砂粒を多く、細かい雲母をやや多く含む。 焼成は不良。 色調は内外面ともに黄褐色。	
143	第89図	壺	17号住居	—	突帯部小片	調整は内外面ともにハケ目・突帯刻み目。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色。	線刻
144	第89図 図版45	甕	17号住居	① (12.2) ② 15.0 ③ 5.4 ④ (12.4)	全体の1/2	調整は外面不明、内面ハケ目・ナデ・指頭圧痕あり。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成はやや不良。 色調は外面黄褐色～淡赤褐色、内面黄褐色。	スス付着
145	第89図	甕	17号住居	① (36.2)	口縁部1/4	調整はヨコナデ・ナデ？、内面ナデ？ 胎土は白色粗砂粒を多く、細かい雲母をやや多く含む。 焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡橙褐色。	
146	第89図	甕	17号住居	① (32.2)	口縁部 ～体部1/2	調整は外面ハケ目・ヨコナデ・指頭圧痕あり、内面不明。 胎土は粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色～灰黒色、内面黄褐色。	スス付着
147	第89図	甕	17号住居	① (18.4)	口縁部 ～胴部1/8	調整は外面タタキ目？指頭圧痕あり、内面ハケ目。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は不良。 色調は外面赤褐色、内面黄褐色。	
148	第89図	甕	17号住居	① (24.2)	口縁部1/8	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は粗砂粒を多く含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに赤褐色。	黒斑あり
149	第89図	甕	17号住居	—	口縁部片	調整は内外面ともに不明。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色～灰褐色、内面黄褐色。	
150	第89図	底部	17号住居	③ (6.8)	底部1/2	調整は外面ハケ目、内面ハケ目？・指頭圧痕あり。 胎土は白色・赤色粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。 焼成はやや不良。 色調は外面淡灰褐色～黄褐色～黒色、内面淡橙色～褐色。	スス付着
151	第89図	底部	17号住居	③ (6.5)	底部1/2	調整は外面不明、内面ナデ。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は不良。 色調は外面灰黒色、内面黄褐色。	黒斑あり
152	第89図 図版45	底部	17号住居	③ 5.2	底部完存	調整は外面ハケ目後ナデ消し、内面ハケ目。 胎土は精製。焼成は良好。 色調は外面黄橙褐色、内面灰黒色。	
153	第89図	底部	17号住居	③ (10.0)	底部1/2	調整は外面タタキ目・ハケ目・ナデ・一部ヘラミガキ、 内面不明。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色。	黒斑あり

( )は復元値

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量 ①口径 ②器高 ③底径 ④胴部最大径 ⑤脚裾部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
154	第89図	底部	17号住居	③ (6.5)	底部1/2	調整は不明、内面指頭圧痕あり。 胎土は粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成はやや不良。 色調は外面赤褐色、内面茶褐色。	
155	第89図	底部	17号住居	③ 5.6	底部完存	調整は外面ヘラケズリ?、内面不明。 胎土は粗砂粒を多く含む。焼成はやや良好。 色調は外面黄褐色、内面茶褐色。	
156	第89図	底部	17号住居	③ (4.3)	底部3/4	調整は外面タタキ目・ナデ、内面ハケ目。 胎土は細砂粒を少量含む。焼成は不良。 色調は内外面ともに赤褐色。	
157	第89図	底部	17号住居	③ 5.1	底部完存	調整は外面ヘラミガキ、内面ナデ。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色。	黒斑あり
158	第89図 図版45	底部	17号住居	—	底部片	調整は底部タタキ目。 胎土は粗・細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに灰黒色。	穿孔あり
159	第89図	底部	17号住居	③ 5.45	底部完存	調整は外面ヘラミガキ、内面ハケ目。 胎土は精製。焼成は良好。 色調は外面黒褐色～黄褐色、内面茶褐色。	黒斑あり
160	第89図	底部	17号住居	③ (7.0)	底部1/4	調整は外面ハケ目・ナデ?、内面ハケ目。 胎土は粗・細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色。	
161	第89図	高坏	17号住居	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに茶褐色。	
162	第89図	器台	17号住居	⑤ (12.9)	裾部1/3	調整は外面不明、内面ナデ・ハケ目。 胎土は精製。焼成は良好。 色調は外面淡赤褐色、内面灰黒色。	
163	第89図 図版45	器台	17号住居	⑤ (18.8)	全体の1/2	調整は外面ハケ目、内面ヨコナデ。 胎土は精製。焼成は良好。 色調は内外面ともに茶褐色。	
164	第90図	壺	18号住居	—	口縁部 ～肩部片	調整は外面ハケ目・ヨコナデ・指頭圧痕あり、内面ヨコ ナデ・指頭圧痕あり。 胎土は細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡黄色。	
165	第90図 図版45	甕	18号住居	① (22.8) ④ (22.4)	口縁部 ～胴部1/4	調整は内外面ともにハケ目。 胎土は粗砂粒・細かい雲母を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡橙茶色。	
166	第90図	甕	18号住居	① (14.0)	口縁部1/6	調整は外面ヨコナデ、内面不明。 胎土は細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡橙茶色。	
167	第90図	甕	18号住居	—	口縁部片	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに暗褐色。	
168	第90図 図版45	底部	18号住居	③ 8.9	胴部 ～底部3/4	調整は内外面ともにハケ目・ナデ。 胎土は白色・赤色粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。 焼成はやや良好。 色調は内外面ともに淡橙茶色。	黒斑あり
169	第90図 図版45	底部	18号住居	③ (9.3)	底部2/3	調整は外面ハケ目、内面ナデ。 胎土は細砂粒をやや多く、細かい雲母を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに茶褐色。	
170	第90図 図版45	底部	18号住居	③ (10.0)	底部1/4	調整は内外面ともにハケ目。 胎土は白色粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は 良好。 色調は内外面ともに橙褐色～暗褐色。	
171	第90図	器台	18号住居	⑤ (10.4)	裾部1/6	調整は不明、一部指頭圧痕あり。 胎土は粗・細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに暗褐色。	
172	第90図	甕	19号住居	—	底部片	調整は内外面ともにハケ目。 胎土は粗・細砂粒を少量含む。 色調は内外面ともに灰黄褐色～灰褐色。	
173	第90図	鉢	19号住居	① (21.6) ② 15.0 ③ (8.0)	全体の1/3	調整は内外面ともにハケ目、内面指頭圧痕あり。 胎土は粗・細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡茶色、内面淡灰褐色。	
174	第90図	鉢	19号住居	① (12.0)	口縁部 ～体部1/8	調整は内外面ともにハケ目・一部指頭圧痕あり。胎土は 細砂粒を少量含む。焼成はやや良好。 色調は外面淡褐色、内面淡灰褐色。	
175	第90図	鉢	19号住居	—	口縁部片	調整は外面ハケ目、内面ハケ目・ナデ。 胎土は細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに暗茶褐色。	
176	第90図	高坏	19号住居	⑤ (14.0)	脚裾部1/8	調整は外面ハケ目後ナデ、内面ナデ。 胎土は精製。焼成は良好。 色調は外面橙色、内面淡黄褐色。	
177	第90図	甕	20号住居	—	口縁部片	調整は外面ハケ目後ヨコナデ、内面ハケ目、口縁部ヨコ ナデ。 胎土は粗・細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色。	



番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量 ①口径 ②器高 ③底径 ④胴部最大径 ⑤脚根部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
178	第90図	底部	20号住居	③ (9.6)	底部1/4	調整は外面不明、内面ナデ。 胎土は粗・細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面灰黒色、内面暗赤褐色。	
179	第90図	底部	20号住居	③ 8.2	底部完存	調整は内外面ともにハケ目。 胎土は細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色。	黒斑あり
180	第90図 図版45	底部	20号住居	③ 6.4	底部完存	調整は外面タタキ目・ハケ目、内面ハケ目。 胎土は粗・細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色。	
181	第90図 図版45	底部	20号住居	③ (8.4)	底部1/2	調整は外面不明、内面ナデ。 胎土は粗・細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	
182	第90図	底部	20号住居	③ 6.3	底部 ほぼ完存	調整は外面ナデ、内面不明。 胎土は粗・細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面茶褐色、内面黄褐色。	
183	第90図	底部	20号住居	③ 5.5	底部完存	調整は内外面ともに不明。 胎土は白色粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに灰褐色～淡橙色。	
184	第90図	鉢	20号住居	—	口縁部片	調整は外面不明、内面ナデ・ハケ目。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡赤褐色。	
185	第90図	高坏	20号住居	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は細砂粒・赤色細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡赤褐色、内面黄褐色。	
186	第90図	壺	21号住居	① (13.1)	口縁部1/12	調整は外面不明、内面ハケ目。 胎土は細砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡黄灰色、内面黄褐色。	
187	第90図	甕	21号住居	① (14.7)	口縁部1/8	調整は外面タタキ目後ナデ、内面ハケ目、口縁部ヨコナデ。 胎土は細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡黄褐色、内面褐色。	
188	第90図	甕	21号住居	—	口縁部片	調整は外面ハケ目後ナデ、内面ハケ目、口縁部ヨコナデ。 胎土は粗砂粒を多く、細かい雲母・赤色粒子をやや多く 含む。焼成は良好。 色調は外面橙褐色、内面橙褐色～淡茶褐色。	
189	第90図	底部	21号住居 西側張出部	③ (9.2)	底部1/4	調整は外面ハケ目、底部ナデ・内面ナデ。 胎土は粗・細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡橙褐色、内面暗灰褐色。	
190	第90図	底部	21号住居 炉	③ (7.1)	底部1/4	調整は内外面ともにナデ。 胎土は粗砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面赤褐色、内面淡黒褐色。	
191	第90図	底部	21号住居	③ 5.4	底部3/4	調整は外面ハケ目、内面ハケ目・一部指頭圧痕あり。 胎土は白色・赤色粗砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成 は良好。 色調は外面淡褐色、内面暗黒灰褐色。	
192	第90図	鉢	21号住居 西側張出部	① (11.2)	口縁部1/5	調整は外面不明、内面ナデ。 胎土は粗砂粒を多く、細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色、内面淡茶褐色。	黒斑あり
193	第91図	壺	22号住居 P1	① (20.0)	口縁部1/8	調整は内外面ともにナデ。 胎土は粗砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡橙褐色。	丹塗り
194	第91図	甕	22号住居	① (16.0)	口縁部1/5	調整は外面ハケ目、内面ナデ？、口縁部ヨコナデ？ 胎土は粗砂粒を少量、赤色砂粒・細かい雲母をやや多く 含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡黄褐色。	
195	第91図	甕	22号住居	—	口縁部片	調整は内外面ともにヨコナデ・ナデ、口縁部刻み目。 胎土は粗砂粒・赤色細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼 成は良好。 色調は外面赤褐色、内面黄褐色～赤褐色。	丹塗り
196	第91図	甕	22号住居	—	口縁部片	調整は内外面ともにナデ？ 胎土は粗砂粒・白色細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼 成は良好。 色調は外面淡黄褐色、内面淡橙褐色。	
197	第91図	甕	22号住居	—	口縁部片	調整は外面ハケ目、内面ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は粗砂粒・白色細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼 成は良好。 色調は内外面ともに橙褐色。	
198	第91図	甕	22号住居	—	口縁部片	調整は内外面ともにナデ。 胎土は粗砂粒・白色細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼 成は良好。 色調は外面淡橙褐色、内面淡橙色。	
199	第91図 図版46	甕	22号住居	—	口縁部片	調整は口縁部ナデ。 胎土は粗砂粒・赤色粗砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡橙黄褐色、内面淡黄褐色。	
200	第91図 図版46	底部	22号住居	③ 8.0	体部の一部 ～底部完存	調整は内外面ともにナデ・指頭圧痕あり。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成はやや良好。 色調は外面明橙褐色、内面暗橙褐色。	

( )は復元値

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径 ④胴部最大径 ⑤脚裾部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
201	第91図	底部	22号住居	③ (7.2)	底部1/5	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ナデ。 胎土は粗砂粒をやや多く、白色細砂粒・細かい雲母・角閃石を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色～淡橙褐色、内面淡褐色。	
202	第91図 図版46	底部	22号住居	③ 7.6	底部完存	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ナデ・指頭圧痕あり。 胎土は粗砂粒をやや多く、白色・赤色細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	黒斑あり
203	第91図	底部	22号住居	③ (10.4)	底部1/4	調整は不明。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成はやや不良。 色調は外面黄褐色、内面橙褐色。	
204	第91図	鉢	22号住居	① (8.5)	口縁部1/12	調整は外面ハケ目、内面・口縁部ヨコナデ。 胎土は粗砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色～淡褐色。	
205	第91図	鉢	22号住居	① (14.1)	口縁部1/8	調整は外面ハケ目、内面ナデ。 胎土は粗砂粒・白色細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	黒斑あり
206	第91図 図版46	高坏	22号住居	① (23.2)	坏部 ～脚上部	調整は不明。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成はやや不良。 色調は外面黄褐色、内面黄橙色。	丹塗り
207	第91図 図版46	器台	22号住居 P1	⑤ (11.0)	裾部1/2	調整は内外面ともに指頭圧痕あり。 胎土は白色粗・細砂粒・赤色細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡黄褐色、内面橙褐色。	
208	第91図 図版46	蓋	22号住居	① (15.0) ② 3.2	2/3	調整は不明。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに橙褐色。	穿孔あり
209	第91図	壺	23号住居	① (18.6)	口縁部 ～胴部1/4	調整は外面ヘラミガキ、内面ナデ?、口縁部ヨコナデ。 胎土は粗・細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面暗赤褐色、内面淡橙褐色。	丹塗り 穿孔あり
210	第91図	甕	23号住居	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は粗砂粒・赤色粗砂粒・白色細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	スス付着
211	第91図	甕	23号住居	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ・ハケ目、内面ナデ。 胎土は粗砂粒・白色細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに橙褐色。	
212	第91図	甕	23号住居	—	口縁部片	調整は外面不明、内面ナデ? 胎土は粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡茶褐色。	
213	第91図	甕	23号住居	① (28.0)	口縁部1/3	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は粗砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡茶色。	スス付着
214	第91図	甕	23号住居	① (32.2)	口縁部1/8	調整は不明。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡橙黄色。	
215	第91図 図版46	甕	23号住居	① (41.6)	口縁部 ～頸部1/5	調整は不明。 胎土は粗砂粒・細かい雲母を多く含む。焼成は不良。 色調は内外面ともに淡褐色。	
216	第91図 図版46	底部	23号住居	③ 6.8	底部完存	調整は外面ハケ目、内面ナデ・指頭圧痕あり。 胎土は粗砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
217	第91図	底部	23号住居	③ 8.4	底部完存	調整は不明。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成はやや不良。 色調は外面淡赤褐色、内面明黄褐色。	
218	第91図	底部	23号住居	③ 8.6	底部完存	調整は外面ハケ目、内面不明・指頭圧痕あり。 胎土は粗・細砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面明褐色、内面暗黄茶色。	
219	第91図	底部	23号住居	③ (9.6)	底部1/3	調整は外面ハケ目、内面ナデ。 胎土は細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面淡黄色、内面淡黄茶色。	
220	第91図	底部	23号住居	③ (10.2)	底部1/3	調整は不明、内面に一部指頭圧痕あり。 胎土は粗砂粒・赤色粗砂粒をやや多く含む。焼成はやや不良。 色調は外面暗黄褐色、内面暗褐色。	
221	第91図	底部	23号住居	③ (11.4)	底部1/3	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ナデ。 胎土は細砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに橙褐色。	
222	第91図	底部	23号住居 P11	③ (10.2)	底部1/2	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は粗・細砂粒を少量含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡黄色。	
223	第91図	底部	23号住居	③ (8.4)	底部1/3	調整は外面ハケ目、内面ナデ・一部指頭圧痕あり。 胎土は粗・細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	

( )は復元値

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径 ④胴部最大径 ⑤脚裾部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
224	第91図 図版46	底部	23号住居	③ 7.1	底部完存	調整は外面ヘラミガキ、内面ナデ・指頭圧痕あり。 胎土は精製。焼成は良好。 色調は外面暗赤褐色、内面橙色。	丹塗り 黒斑あり
225	第92図	壺	24号住居	① (13.4)	口縁部1/12	調整は内外面ともにハケ目後ヨコナデ。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに黄褐色。	
226	第92図	甕	24号住居	—	口縁部片	調整は外面ハケ目後ヨコナデ、内面ヨコナデ。 胎土は粗砂粒を少量含む。焼成はやや良好。 色調は外面黄褐色、内面黄褐色。	
227	第92図	甕	24号住居	—	口縁部片	調整は外面ハケ目、内面ハケ目・ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は白色・赤色粗砂粒を少量含む。焼成はやや良好。 色調は外面淡褐色、内面淡橙褐色。	
228	第92図	甕	23・24号 住居	—	口縁部片	調整は内外面ともにハケ目・ヨコナデ。 胎土は粗砂粒を少量含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに黄褐色。	
229	第92図	甕	23・24号 住居	—	口縁部片	調整は内外面ともにハケ目・ナデ。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成はやや良好。 色調は内外面ともに暗茶褐色。	
230	第92図	甕	24号住居	—	口縁部片	調整は外面不明・指頭圧痕あり、内面ハケ目。 胎土は粗砂粒を少量含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに暗灰褐色。	
231	第92図	甕	24号住居	① (16.6) ④ (16.5)	全体の1/4	調整は外面タタキ目・ハケ目、内面ハケ目、口縁部ナデ・ 指頭圧痕あり。 胎土は粗砂粒をやや多く、細かい雲母を少量含む。焼成 は不良。 色調は外面白黄色～灰黄色、内面白黄色。	
232-1	第92図	甕	24号住居	① (16.2)	口縁部1/4 ～体部2/3	調整は外面タタキ目・ハケ目・ナデ・指頭圧痕あり、内 面ハケ目・ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は粗砂粒をやや多く、角閃石を少量含む。焼成は不良。 色調は内外面ともに灰黄色。	黒斑あり
232-2	第92図	甕	24号住居	③ (5.2)	底部1/8	調整は外面ヘラケズリ・ナデ、内面ナデ・指頭圧痕あり。 胎土は粗砂粒をやや多く、細かい雲母を少量含む。焼成 は不良。 色調は内外面ともに灰黄色。	
233	第92図	甕	24号住居	① (20.4)	口縁部 ～胴部1/8	調整は外面不明、内面ハケ目？ 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡黄褐色。	
234	第92図	甕	23・24号 住居	① (16.7)	口縁部1/8	調整は内外面ともにヨコナデ・ナデ。 胎土は粗砂粒をやや多く、細かい角閃石・雲母を少量含む。 焼成はやや良好。 色調は外面黄褐色～赤褐色、内面橙褐色。	
235	第92図	底部	24号住居	③ (5.7)	底部1/4	調整は内外面ともにナデ、指頭圧痕あり。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。 色調は外面黄褐色～赤褐色、内面黄褐色。	
236	第92図	底部	23・24号 住居	③ (6.5)	底部1/2	調整は外面ナデ、内面ナデ・指頭圧痕あり。 胎土は粗砂粒・赤色粗砂粒をやや多く含む。焼成はやや 不良。 色調は外面黄褐色、内面白黄色。	
237	第92図	底部	23・24号 住居	③ (8.2)	底部1/5	調整は外面ナデ？、内面ハケ目・ナデ・指頭圧痕あり。 胎土は粗砂粒・細かい雲母・角閃石をやや多く含む。焼 成は不良。 色調は外面白黄色、内面白黄色。	
238	第92図	鉢	24号住居	① (25.0)	口縁部1/8 ～体部1/5	調整は外面ハケ目・指頭圧痕あり、内面ハケ目・ナデ・ 指頭圧痕あり。 胎土は粗砂粒をやや多く、赤色粗砂粒を少量含む。焼成 はやや良好。 色調は内外面ともに橙褐色。	
239	第92図 図版46	鉢	24号住居	③ (9.1)	口縁部 ～胴部1/3	調整は内外面ともにナデ？一部タタキ目・指頭圧痕あり。 胎土は白色粗砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
240	第92図	鉢	24号住居	① 11.4 ② 4.9	口縁部1/2	調整は内外面ともにナデ？指頭圧痕あり。 胎土は粗砂粒を多く、細かい角閃石を少量含む。焼成は 良好。 色調は内外面ともに暗黄褐色。	
241	第92図	高坏	23・24号 住居	① (22.0)	口縁部1/12	調整は不明。 胎土は粗砂粒を少量含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに黄白色。	
242	第92図	高坏	23・24号 住居	—	口縁部片	調整は外面ヘラミガキ？、内面不明。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は不良。 色調は外面灰黄色、内面暗黄色。	
243	第92図	高坏	24号住居	—	口縁部片	調整は外面ヘラミガキ？、内面不明。 胎土は粗砂粒を多く含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡橙茶色。	黒斑あり
244	第92図 図版46	瓦質 土器	24号住居	—	小片	調整は外面細薮文タタキ、内面不明。 胎土は精製(細かい雲母を少量含む)。焼成はやや良好。 色調は内外面ともに淡黄灰色。	

( )は復元値

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径 ④胴部最大径 ⑤脚裾部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
245	第92図 図版46	壺	25号住居	① (12.2)	口縁部1/5	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は粗砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色。	
246	第92図 図版46	甕	25号住居	① (23.4)	口縁部 ～胴部1/10	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は粗・細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色、内面明赤褐色。	
247	第92図	甕	25号住居	—	口縁部片	調整は内外面ともに不明、口縁部ヨコナデ。 胎土は精製。焼成は良好。 色調は外面暗赤褐色、内面黄褐色。	
248	第92図 図版46	甕	25号住居 P5	③ 7.6	底部完存	調整は外面ハケ目、内面指頭圧痕あり。 胎土は精製。焼成は良好。 色調は外面淡赤褐色～黒褐色、内面茶褐色。	黒斑あり スス付着
249	第92図	甕	26号住居 P5	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ、内面不明。 胎土は精製。焼成は良好。 色調は外面黄褐色、内面淡赤褐色。	
250	第93図 図版46	壺	27号住居	① (19.0)	口縁部1/3	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は粗砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色～黒褐色。	
251	第93図	壺	27号住居	① (9.2)	口縁部 ～胴部1/8	調整は外面ハケ目、内面ナデ・工具痕あり、口縁部ヨコナデ。 胎土は精製。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	
252	第93図	壺	27号住居	④ (17.0)	胴部1/5	調整は内外面ともにハケ目。 胎土は粗・細砂粒をやや多く、細かい角閃石を少量含む。 焼成は良好。 色調は外面茶褐色、内面灰褐色。	スス付着
253	第93図	甕	27号住居	① (17.0)	口縁部1/8	調整は外面ヨコナデ、内面不明。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色。	丹塗り
254-1 254-2	第93図 図版46	甕	27号住居 床面	③ 6.5 ④ 15.8	口縁部小片 頸部～底部 ほぼ完存	調整は外面ハケ目、内面工具によるナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面暗茶色、内面暗茶黒色。	
255	第93図 図版47	甕	27号住居	① (24.2)	口縁部1/8	調整は外面ハケ目、内面不明、口縁部ナデ？ 胎土は粗砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色、内面赤褐色。	
256	第93図	甕	27号住居	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は粗砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡黄白色。	
257	第93図	甕	27号住居	—	口縁部片	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は粗砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに橙褐色。	
258	第93図 図版47	甕	27号住居	③ 7.4	底部 ほぼ完存	調整は外面ハケ目、内面ナデ・指頭圧痕・工具痕あり。 胎土は粗砂粒を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面淡黄褐色～淡灰褐色、内面暗褐色。	黒斑あり
259	第93図 図版47	底部	27号住居	③ 6.0	底部4/5	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ハケ目。 胎土は粗・細砂粒をやや多く、細かい角閃石を少量含む。 焼成は良好。 色調は外面赤褐色、内面茶褐色。	
260	第93図	底部	27号住居	③ (9.0)	底部1/4	調整は外面ハケ目後ナデ、内面ハケ目・ナデ・指頭圧痕 あり。 胎土は粗・細砂粒をやや多く、細かい角閃石を含む。焼 成は良好。 色調は外面黄褐色、内面黄褐色。	
261	第93図	鉢	27号住居	① (19.0)	口縁部1/4	調整は外面ハケ目後ヨコナデ、内面ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は白色細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面暗褐色～暗赤褐色、内面暗黄褐色。	
262	第93図	鉢	27号住居	—	口縁部1/8	調整は内外面ともにナデ。 胎土は粗・細砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は 良好。 色調は内外面ともに茶褐色。	
263-1	第94図	壺	28号住居	① (18.7)	口縁部1/10	調整は内外面ともにハケ目、口縁部ヨコナデ。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに橙色。	
263-2	第94図	壺	28号住居	—	頸部1/3	調整は外面ハケ目・ヨコナデ、内面ハケ目。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに橙色。	
264	第94図	壺	28号住居	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は粗砂粒・赤色粗・細砂粒・細かい雲母を少量含む。 焼成は良好。 色調は内外面ともに黄橙褐色。	
265	第94図	壺	28号住居	① (19.8)	口縁部1/8	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は粗砂粒をやや多く、細かい雲母を少量含む。焼成 は良好。 色調は外面灰黄色～淡赤褐色、内面黄褐色。	
266	第94図	壺	28号住居	① (15.3)	口縁部1/6	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は粗砂粒をやや多く、細かい雲母を少量含む。焼成 は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	



( )は復元値

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径 ④胴部最大径 ⑤脚根部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
267	第94図	壺	28号住居	—	口縁部片	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡黄色～茶褐色。	
268	第94図	甕	28号住居	① (18.3)	口縁部1/8	調整は不明。 胎土は精製。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
269	第94図	甕	28号住居	—	口縁部片	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は精製。焼成は良好。 色調は外面暗赤褐色、内面灰黒色。	
270	第94図	甕	28号住居	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ、内面不明。 胎土は粗・細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色。	
271	第94図	甕	28号住居	—	口縁部片	調整は外面ナデ、内面不明。 胎土は精製。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	
272	第94図	甕	28号住居	—	口縁部 ～胴部片	調整は不明。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	
273	第94図 図版47	甕	28号住居	—	口縁部 ～胴部片	調整は内外面ともにハケ目、口縁部ヨコナデ。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	
274	第94図	底部	28号住居	③ (8.0)	底部1/3	調整は内外面ともにナデ？ 胎土は粗砂粒・赤色粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面黒褐色、内面褐色。	
275	第94図	底部	28号住居	—	底部片	調整は不明。 胎土は粗砂粒をやや多く、細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面褐色、内面黄褐色。	
276	第94図	底部	28号住居	③ (5.6)	底部1/3	調整は内外面ともにハケ目。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色。	
277	第94図	底部	28号住居	③ (9.6)	底部1/2	調整は内外面ともにハケ目。 胎土は粗砂粒をやや多く、細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色。	
278	第94図 図版47	底部	28号住居	③ (8.4)	底部1/2	調整は不明。 胎土は粗砂粒をやや多く、細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色～灰黒色、内面黄褐色。	黒斑あり
279	第94図	底部	28号住居	③ 7.6	底部3/5	調整は不明。 胎土は粗砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色、内面橙褐色。	黒斑あり
280	第94図	底部	28号住居	③ (5.6)	底部1/2	調整は不明。 胎土は粗砂粒・白色粗砂粒を少量含む。焼成はやや良好。 色調は外面暗灰褐色、内面淡褐色～淡灰褐色。	
281	第94図	底部	28号住居	③ (7.2)	底部1/3	調整は外面ハケ目、内面ナデ。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	
282	第94図	底部	28号住居	③ (7.4)	底部1/4	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は粗砂粒・細かい雲母を非常に多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	
283	第94図	底部	28号住居	③ (5.6)	底部1/2	調整は外面ハケ目、内面ナデ。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色。	黒斑あり
284	第94図	底部	28号住居	③ (10.2)	底部 1/4	調整は内外面ともにナデ？ 胎土は粗砂粒・白色・赤色粗砂粒・細かい雲母を少量含む。 焼成は良好。 色調は外面淡茶褐色、内面淡黄褐色。	
285	第94図	鉢	28号住居	—	口縁部 ～胴部片	調整は内外面ともにハケ目・指頭圧痕あり・口縁部ヨコナデ。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色。	
286	第94図	鉢	28号住居	—	口縁部片	調整は内外面ともにハケ目。 胎土は精製。焼成は良好。 色調は外面淡赤褐色、内面淡褐色。	
287	第94図	高坏	28号住居	—	坏部片	調整は不明。 胎土は粗砂粒・細かい雲母を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡黄褐色。	
288	第94図	高坏	28号住居	① (20.2)	口縁部1/8	調整は外面不明、内面ハケ目・ナデ。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡赤褐色～赤褐色、内面淡赤褐色。	スス付着
289	第94図	器台	28号住居	① (16.0)	口縁部1/6	調整は外面ハケ目後ナデ、内面ハケ目・ナデ。 胎土は粗砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面は黄褐色、内面灰褐色～黄褐色。	

( )は復元値

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量 ①口径 ②器高 ③底径 ④胴部最大径 ⑤脚裾部・裾部径 (cm)	残存 状態	調整及び特徴	備考
290	第94図	底部	29号住居	③ 5.7	底部完存	調整は外面不明、内面ハケ目。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面明褐色、内面褐色。	
291	第94図	底部	29号住居	③ (8.0)	底部1/4	調整は外面不明、内面ハケ目・ナデ。 胎土は細砂粒をやや多く、細かい角閃石を少量含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色、内面暗褐色。	
292	第94図	底部	29号住居	③ (9.2)	底部1/6	調整は外面不明、内面ナデ、底部ハケ目。 胎土は粗・細砂粒をやや多く、細かい角閃石を少量含む。焼成は良好。 色調は外面明褐色、内面灰黒色。	
293	第94図 図版47	鉢	29号住居	① (21.1)	口縁部1/4	調整は外面ハケ目・ヨコナデ、内面ヨコナデ・ナデ。 胎土は粗砂粒・赤色粗砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成はやや良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	
294	第94図	鉢	29号住居	① (22.0)	口縁部1/2	調整は外面タタキ目、内面ハケ目。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成はやや良好。 色調は外面淡黄褐色～暗灰褐色、内面淡褐色。	
295	第94図 図版47	鋸歯文 土器	29号住居	① 13.4 ② 5.4 ③ 2.8	全体の4/5	調整は内外面ともにヘラミガキ後施文(線刻)。 胎土は精製。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに白黄褐色～肌色～灰茶褐色。	丹塗り?
296	第95図	壺	30号住居	① (16.8)	口縁部1/6	調整は外面不明、内面ヨコナデ? 胎土は白色粗・細砂粒をやや多く、角閃石・細かい雲母を少量含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに黄褐色。	
297	第95図	壺	30号住居	—	口縁部片	調整は内外面ともにヨコナデ・指頭圧痕あり。 胎土は粗砂粒を多く含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡茶色。	
298	第95図 図版47	壺	30号住居	① (19.7)	口縁部1/5	調整は外面ハケ目・ヨコナデ、内面ヨコナデ。 胎土は粗・細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色～灰褐色、内面橙褐色。	
299	第95図	壺	30号住居	④ (12.0)	胴部1/4	調整は内外面ともにナデ・指頭圧痕あり。 胎土は精製。焼成は良好。 色調は外面淡赤褐色、内面褐色。	
300	第95図	甕	30号住居	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は粗・細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄橙褐色。	
301	第95図	底部	30号住居	③ (9.0)	底部1/5	調整は外面不明、内面ハケ目。 胎土は細砂粒・細かい角閃石・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	
302	第95図	底部	30号住居	③ (7.0)	底部1/5	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ナデ・指頭圧痕あり。 胎土は精製。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	
303	第95図 図版47	底部	30号住居	③ (6.6)	底部1/2	調整は不明。 胎土は粗・細砂粒をやや多く、細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに茶褐色。	
304	第95図	底部	30号住居	—	底部完存	調整は外面ナデ?、内面指頭圧痕あり。 胎土は白色粗・細砂粒をやや多く、細かい雲母を少量含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに橙色～暗褐色。	
305	第95図	底部	30号住居	③ (5.8)	底部1/4	調整は外面タタキ目後ナデ?、内面ナデ。 胎土は粗・細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	
306	第95図	底部	30号住居	③ (7.7)	底部1/2	調整は内外面ともにハケ目? 胎土は白色粗砂粒をやや多く、細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに暗褐色～灰褐色。	
307	第95図	底部	30号住居 床面	③ (8.0)	底部1/2	調整は内外面ともにハケ目・指頭圧痕あり。 胎土は粗・細砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面橙褐色、内面灰褐色。	
308	第95図	底部	30号住居	③ (8.2)	全体の1/3	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は粗・細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面褐色～橙褐色、内面黄褐色～褐色。	
309	第95図	鉢	30号住居	① (18.4)	口縁部1/8	調整は内外面ともにハケ目・一部指頭圧痕あり。 胎土は細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色。	
310	第95図	鉢	30号住居 床面	① (20.2)	口縁部 ～体部1/6	調整は内外面ともにハケ目・ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は白色粗砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面赤褐色、内面赤褐色～黄褐色。	
311	第95図	高坏	30号住居	—	口縁部片	調整は外面ハケ目・ヨコナデ、内面ヨコナデ。 胎土は粗・細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色。	



( )は復元値

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量 ①口径 ②器高 ③底径 ④胴部最大径 ⑤脚裾部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
312	第95図	高坏	30号住居	—	脚裾部片	調整は外面ヘラミガキ、内面ハケ目、脚裾部ヨコナデ。胎土は白色粗砂粒・角閃石・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。色調は内外面ともに橙色～橙褐色。	
313	第95図	高坏	30号住居	—	脚裾部片	調整は外面ヨコナデ、内面ヨコナデ。胎土は細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。色調は内外面ともに黄褐色。	
314	第95図 図版47	高坏?	30号住居	—	口縁部1/12	調整は内外面ともにハケ目後ヘラミガキ・ヨコナデ。胎土は細砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。色調は内外面ともに褐色～橙褐色。	
315	第95図 図版47	器台	30号住居 P1	① 15.9 ② 20.2 ⑤ 17.1	ほぼ完形	調整は外面タタキ目・ハケ目・ヨコナデ、内面ハケ目・ヨコナデ・指頭圧痕あり。胎土は粗・細砂粒をやや多く含む、細かい雲母を少量含む。焼成は良好。色調は外面淡赤褐色、内面暗赤褐色～褐色。	
316	第95図 図版47	器台	30号住居 P1	① 6.7 ② 11.2 ⑤ 11.0	ほぼ完形	調整は外面タタキ目、内面しほり痕あり。胎土は粗・細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。色調は内外面ともに黄褐色。	
317	第96図 図版47	壺	31号住居	① (17.3)	口縁部1/2	調整は内外面ともにハケ目、口縁部ヨコナデ。胎土は白色粗・細砂粒、細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。色調は内外面ともに黄白色～灰黄色。	
318	第96図 図版47	壺	31号住居	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ後一部鋸歯文・波状文、内面ヨコナデ後ヘラミガキ。胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。色調は内外面ともに橙色～橙灰色。	
319	第96図 図版48	甕	31号住居	① (19.0) ③ (8.6) ④ (22.2)	口縁部 ～胴部1/8 底部1/4	調整は内外面ともにハケ目、口縁部ヨコナデ。胎土は白色細砂粒を少量含む。焼成は良好。色調は外面明褐色～黄褐色～灰黒色、内面褐色、底部は内外面ともに淡灰褐色～橙色。	
320	第96図 図版48	甕	31号住居	① 17.2 ② 23.2 ③ 6.8	全体の2/3	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ハケ目。胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。色調は外面黄白色～灰黄色～黄褐色、内面黄褐色。	
321	第96図	甕	31号住居	① (15.2)	口縁部1/8	調整は不明。胎土は細砂粒・赤色細砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。色調は内外面ともに褐色。	
322	第96図	甕	31号住居	—	口縁部片	調整は外面タタキ目、内面不明。胎土は粗・細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。色調は内外面ともに黄褐色。	
323	第96図 図版48	底部	31号住居	③ 8.5	体部 ～底部完存	調整は外面ハケ目・タタキ目後ナデ、内面不明。胎土は粗砂粒・細かい雲母を非常に多く含む。焼成は良好。色調は外面明褐色～黄褐色～灰褐色、内面明褐色。	
324	第96図	底部	31号住居	—	底部片	調整は外面不明、内面ナデ? 指頭圧痕あり。胎土は白色粗砂粒を多く、細かい雲母・角閃石をやや多く含む。焼成は良好。色調は内外面ともに橙色～淡橙色。	
325	第96図	底部	31号住居	③ 5.5	底部完存	調整は外面不明、内面ハケ目。胎土は細砂粒・赤色細砂粒を含む。焼成は良好。色調は内外面ともに黄褐色。	
326	第96図	底部	31号住居	③ (6.0)	底部1/5	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ナデ・指頭圧痕あり。胎土は白色粗砂粒を少量含む。焼成は良好。色調は外面灰黄色、内面黄褐色。	
327	第96図	底部	31号住居 屋内土坑	③ (4.0)	底部1/2	調整は外面ナデ、内面ナデ・指頭圧痕あり。胎土は細砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。色調は外面灰黄色～灰黒色、内面黄灰色。	黒斑あり
328	第96図	鉢	31号住居	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ、内面ハケ目後ヨコナデ。胎土は粗・細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。色調は内外面ともに黄褐色。	
329	第96図	鉢	31号住居	—	口縁部片	調整は外面ハケ目後ナデ、内面ハケ目・ナデ、口縁部ヨコナデ。胎土は粗砂粒・赤色粗砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。色調は内外面ともに明褐色～黄褐色。	
330	第96図 図版48	脚台部	31号住居	⑤ 10.2	脚台部完存	調整は外面ハケ目、内面ナデ・ハケ目、脚裾部ヨコナデ。胎土は細砂粒・赤色細砂粒を含む。焼成は良好。色調は外面明褐色、内面灰褐色～黄褐色。	穿孔あり
331	第96図 図版48	手捏	31号住居	① (9.0) ② 5.3 ③ 3.2	全体の1/2	調整は内外面ともにナデ・指頭圧痕あり。胎土は粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。色調は内外面ともに灰褐色。	
332	第97図	壺	32号住居 床面	① (17.0)	口縁部1/6	調整は外面ハケ目?、内面ヨコナデ。胎土は白色粗砂粒を多く含む。焼成は不良。色調は内外面ともに赤褐色～淡橙色。	丹塗り?
333	第97図	壺	32号住居	—	口縁部片	調整は外面ナデ・指頭圧痕あり、内面ハケ目。胎土は白色粗砂粒・細かい雲母を含む。焼成はやや不良。色調は淡橙色～褐色。	

( )は復元値

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径 ④胴部最大径 ⑤脚裾部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
334	第97図	壺	32号住居	—	口縁部片	調整は内外面ともにハケ目。 胎土は精製。焼成は良好。 色調は外面暗赤褐色、内面黄橙褐色。	丹塗り？
335	第97図	壺	32号住居 屋内土坑	① (16.6)	口縁部1/8	調整は内外面ともにハケ目、口縁部ヨコナデ。 胎土は白色粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡橙色～橙色。	
336	第97図 図版48	壺	32号住居	① (30.0)	口縁部1/3	調整はヨコナデ・ハケ目、内面ハケ目・ナデ。 胎土は白色粗砂粒、細かい雲母を少量含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに暗橙色～橙色。	
337	第97図	底部	32号住居	③ (7.0)	底部1/2	調整は内外面ともにハケ目。 胎土は白色粗砂粒を少量含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに灰黄褐色～暗灰黄褐色。	
338	第97図	甕	32号住居 下層	—	口縁部片	調整は内外面ともにヨコナデ・ナデ。 胎土は粗・細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	
339	第97図	甕	32号住居	① (17.0)	口縁部1/10	調整は外面ハケ目、内面ハケ目後ナデ。 胎土は粗・細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面暗赤褐色、内面褐色。	
340	第97図	甕	32号住居	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は白色粗砂粒を少量含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡橙褐色。	
341	第97図	甕	32号住居	—	口縁部 ～体部片	調整は外面ハケ目、内面不明、口縁部ヨコナデ。 胎土は白色粗砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡橙褐色。	
342	第97図	底部	32号住居 床面	③ (10.4)	底部1/4	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色～赤褐色、内面黄褐色。	
343	第97図	底部	32号住居	③ (8.1)	底部1/4	調整は不明。 胎土は粗砂粒。細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面赤褐色、内面黄褐色～緑褐色。	
344	第97図	底部	32号住居 下層	③ (9.0)	底部1/5	調整は外面ハケ目、内面ハケ目後ナデ。 胎土は粗砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡橙褐色、内面淡褐色。	被熱あり
345	第97図	底部	32号住居	③ 8.4	底部2/3	調整は外面ハケ目、内面ナデ・ハケ目。 胎土は白色粗砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡橙褐色～暗灰褐色、内面暗灰褐色。	
346	第97図	底部	32号住居	③ (5.4)	底部1/2	調整は外面ハケ目・タタキ目、内面ナデ・指頭圧痕あり。 胎土は白色粗砂粒・細かい角閃石・雲母をやや多く含む。 焼成はやや不良。 色調は内外面ともに橙色～淡橙色。	
347	第97図	鉢	32号住居	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は精製。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	
348	第97図	鉢	32号住居 屋内土坑	—	口縁部片	調整は外面ハケ目、内面ナデ？ 胎土は白色粗砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡橙色～褐色～暗褐色。	
349	第97図 図版48	鉢	32号住居	① (14.0) ② 10.0 ③ (7.0)	全体の1/4	調整は外面ヘラミガキ・ヘラケズリ？、内面ハケ目、口縁部ヨコナデ。 胎土は細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡赤褐色～褐色、内面褐色～赤褐色。	
350	第97図	鉢	32号住居 屋内土坑	① (18.0) ② 6.1 ③ (4.8)	全体の1/4	調整は内外面ともにハケ目。 胎土は白色粗砂粒・細かい角閃石・雲母を少量含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに橙色～淡橙色～灰褐色～黒褐色。	
351	第97図	甕	33号住居	③ (8.3)	底部1/2	調整は外面不明、内面ハケ目後ナデ。 胎土は白色粗砂粒・細砂粒を多く含む。焼成はやや不良。 色調は外面橙褐色、内面淡褐色。	
352	第97図 図版48	甕	33号住居	③ (8.3)	底部1/2	調整は不明。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに明褐色。	
353	第97図 図版48	鉢	33号住居 ベルト内 重複部分	① (20.4)	口縁部 ～体部1/8	調整は外面ハケ目、内面ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は白色粗砂粒・細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面橙褐色、内面淡灰褐色。	
354	第97図 図版48	手捏	33号住居	① (6.6)	全体の4/5	調整は内外面ともにナデ・指頭圧痕あり。 胎土は精製。焼成は良好。 色調は内外面ともに灰白色。	
355	第98図 図版48	壺	34号住居	① (15.7) ② 16.1 ③ 6.8 ④ 15.8	口縁部2/5 体部～底部 完存	調整は内外面ともにヨコナデ、内面指頭圧痕あり。 胎土は細砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡橙色～淡黄褐色。	黒斑あり

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量 ①口径 ②器高 ③底径 ④胴部最大径 ⑤脚裾部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
356	第98図	壺	34号住居	① (15.6)	口縁部1/5	調整は外面ナデ・ヨコナデ、内面ナデ・指頭圧痕あり。 胎土は細砂粒・赤色細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色、内面暗黄褐色。	
357	第98図	壺	34号住居	—	口縁部片	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡黄褐色。	
358	第98図 図版48	壺	34号住居	④ (17.0)	胴部1/3	調整は外面不明、内面ヨコナデ・ナデ、指頭圧痕あり。 胎土は白色粗・細砂粒を少量、細かい雲母をやや多く含む。 焼成は良好。 色調は外面淡褐色～淡橙褐色、内面淡橙褐色。	注口土器 丹塗り
359	第98図	甕	34号住居	① (31.0)	口縁部1/10	調整は不明。 胎土は粗砂粒をやや多く、細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡黄褐色、内面橙褐色。	
360	第98図	甕	34号住居	① (30.0)	口縁部1/10	調整は口縁部ナデ。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	
361	第98図	甕	34号住居	① (33.0)	口縁部1/10	調整は外面ナデ・ハケ目、内面不明。 胎土は細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面暗黄褐色、内面橙褐色。	
362	第98図 図版48	甕	34号住居	① (31.9)	口縁部1/6	調整は外面ヨコナデ、内面ヨコナデ・ナデ。 胎土は粗・細砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面暗褐色、内面橙褐色。	
363	第98図 図版48	甕	34号住居	① (19.6)	口縁部1/6	調整は外面ハケ目・ナデ、内面不明。 胎土は細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面灰黄褐色、内面淡黄褐色。	
364	第98図	甕	34号住居	① (17.8)	口縁部1/10	調整は内外面ともにヨコナデ・ナデ、内面指頭圧痕あり。 胎土は細砂粒・赤色・白色細砂粒・細かい雲母を少量含む。 焼成は良好。 色調は外面淡橙褐色、内面淡褐色。	
365	第98図 図版48	甕	34号住居	① (18.0)	口縁部1/6	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ナデ。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面明褐色、内面灰黄色。	
366	第98図	甕	34号住居	—	口縁部片	調整は口縁部一部ヨコナデ。 胎土は粗・細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面赤褐色、内面淡黄色。	
367	第98図	甕	34号住居	—	口縁部片	調整は外面ナデ？ハケ目、内面不明。 胎土は粗・細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡黄褐色、内面灰黄褐色。	
368	第98図 図版49	底部	34号住居	③ 7.3	底部完存	調整は外面ナデ・工具痕、内面ナデ・指頭圧痕・工具痕あり。 胎土は細砂粒・赤色細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色、内面明褐色。	
369	第98図	底部	34号住居	③ 7.6	底部3/5	調整は不明。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色、内面明褐色。	黒斑あり
370	第98図 図版49	底部	34号住居	③ (6.6)	底部4/5	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ヨコナデ。 胎土は細砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面黄灰褐色～黄灰色、内面黄灰褐色。	
371	第98図	底部	34号住居	③ (6.9)	底部1/2	調整は不明。 胎土は粗砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡黄褐色。	
372	第98図 図版49	壺	35号住居	① (27.6)	口縁部 ～頸部1/4	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は粗砂粒を多く含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに橙褐色～暗褐色。	
373	第98図	壺	35号住居 屋内土坑	③ (4.8) ④ (15.0)	頸部～ 胴上部1/3	調整は外面ハケ目・ヘラミガキ・ナデ？、内面ナデ・ハケ目・ 指頭圧痕あり。 胎土は白色粗・細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色～淡褐色～黒灰色～黒色、内面橙褐色。	黒斑あり
374	第98図 図版49	甕	35号住居	① (16.0) ② 17.1 ③ (8.2)	口縁部 ～体部1/4 底部完存	調整は外面タタキ目後ハケ目後ナデ消し？、内面ハケ目 後ナデ・指頭圧痕あり。 胎土は粗砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面灰褐色～淡褐色、内面淡灰褐色～淡褐色。	
375	第98図	甕	35号住居	—	口縁部片	調整は外面ナデ、内面ハケ目、口縁部ナデ。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面暗黄褐色～黒色、内面暗黄褐色。	スス付着
376	第98図	甕	35号住居	—	口縁部片	調整は内外面ともにハケ目、口縁部ヨコナデ。 胎土は精製。焼成は良好。 色調は内外面ともに灰褐色。	スス付着
377	第98図	底部	35号住居	③ (6.1)	底部 1/2	調整は外面ハケ目、内面工具痕？。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄灰褐色。	

( )は復元値

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量 ①口径 ②器高 ③底径 ④胴部最大径 ⑤脚根部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
378	第98図	底部	35号住居	③ (8.2)	底部1/4	調整は外面ハケ目、内面ナデ・指頭圧痕あり。 胎土は粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面灰黄褐色、内面黄褐色。	
379	第98図 図版49	脚台付 甕	35号住居	⑤ (10.0)	裾部完存	調整は外面ハケ目・ナデ・指頭圧痕あり、内面ナデ。 胎土は粗砂粒・赤色砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに橙褐色。	
380	第98図 図版49	鉢	35号住居	① (13.3) ② 10.8 ③ (5.8)	全体の1/2	調整は外面ハケ目・タタキ目、内面ハケ目、口縁部ナデ。 胎土は細砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面灰黄色～灰色、内面灰黄褐色。	黒斑あり
381	第98図 図版49	鉢	35号住居	① (22.0) ③ (7.0)	全体の1/8	調整は外面ハケ目・ナデ、内面不明・指頭圧痕あり。 胎土は粗砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面赤褐色～暗褐色、内面暗褐色。	
382	第99図 図版49	甕	36号住居	① (33.0)	口縁部1/4	調整は外面ハケ目、内面ハケ目・ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は細砂粒・赤色細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	
383	第99図	壺	37号住居	① (18.2)	口縁部1/10	調整は外面ハケ目、内面ハケ目・ナデ。 胎土は粗砂粒をやや多く、細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに暗褐色～暗黄褐色。	
384	第99図	壺	37号住居	—	口縁部片	調整は外面不明、内面ハケ目・ナデ。 胎土は細砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色～黒褐色、内面黒褐色。	
385	第99図 図版49	甕	37号住居	① (29.2)	口縁部1/8	調整は外面ナデ、内面ハケ目・ナデ。 胎土は粗砂粒を多く、細かい角閃石を少量含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色～赤褐色、内面赤褐色。	
386	第99図 図版49	甕	37号住居	① (18.0)	口縁部1/8	調整は外面ヨコナデ・ハケ目、内面ハケ目。 胎土は細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面赤褐色～黄褐色、内面褐色。	
387	第99図	甕	37号住居	① (18.0)	口縁部1/8	調整は内外面ともにハケ目。 胎土は細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	スス付着
388	第99図	甕	37号住居	—	口縁部片	調整は外面ナデ、口縁部に工具痕あり、内面不明。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色、内面赤褐色。	
389	第99図	甕	37号住居	—	口縁部片	調整は外面不明、内面ハケ目。 胎土は粗砂粒を多く含む。焼成はやや不良。 色調は外面赤褐色、内面暗黄褐色。	
390	第99図	甕	37号住居	—	口縁部片	調整は外面不明、内面ハケ目。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面灰黄褐色、内面黄褐色。	
391	第99図	甕	37号住居	—	口縁部片	調整は内外面ともにハケ目、口縁部ナデ。 胎土は粗砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面暗黄褐色、内面黄褐色。	スス付着
392	第99図	甕	37号住居	—	口縁部片	調整は内外面ともにハケ目。 胎土は粗砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	
393	第99図	底部	37号住居	③ (6.6)	底部1/3	調整は不明。 胎土は白色粗砂粒・粗砂粒を多く含む。焼成はやや不良。 色調は外面暗灰色～淡黄褐色、内面暗灰色～淡灰色。	
394	第99図	底部	37号住居	③ (7.6)	底部1/3	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ナデ。 胎土は白色粗・細砂粒をやや多く含む。焼成はやや不良。 色調は外面暗灰色～褐色～淡黄褐色、内面暗灰色～褐色。	
395	第99図	底部	37号住居	③ (10.0)	底部1/3	調整は外面ハケ目、内面ハケ目・ナデ？指頭圧痕あり。 胎土は白色・赤色粗・細砂粒をやや多く含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡褐色。	
396	第99図	底部	37号住居	③ (11.0)	底部1/4	調整は外面不明、内面ハケ目。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色。	
397	第99図	底部	37号住居	③ (6.2)	底部1/4	調整は外面ナデ・一部ヘラケズリ、内面ハケ目。 胎土は白色細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成はやや良好。 色調は外面暗褐色～淡褐色、内面淡褐色。	
398	第99図	底部	37号住居	③ (6.0)	底部1/3	調整は外面ハケ目、内面ハケ目・指頭圧痕あり。 胎土は粗・細砂粒・赤色粗砂粒をやや多く、細かい雲母を少量含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡褐色。	
399	第99図	底部	37号住居	③ (7.4)	底部1/5	調整は外面ハケ目、内面工具ナデ。 胎土は白色粗・細砂粒をやや多く含む。焼成はやや不良。 色調は外面褐色～橙褐色、内面黒灰色。	
400	第99図	底部	37号住居	③ (10.2)	底部1/4	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ハケ目・ナデ・指頭圧痕あり。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色～暗褐色、内面黄褐色。	



番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量 ①口径 ②器高 ③底径 ④胴部最大径 ⑤脚裾部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
401	第99図 図版49	器台	37号住居	① 4.6 ② 4.1 ⑤ (5.1)	全体の1/2	調整は外面ナデ・指頭圧痕あり、内面ナデ。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤橙色～灰褐色。	
402	第99図	器台	37号住居	⑤ (13.8)	裾部 1/4	調整は外面タタキ目?、内面ナデ。 胎土は粗砂粒・細かい雲母を非常に多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに暗赤褐色。	
403	第100図 図版49	壺	38号住居	① (17.9)	口縁部1/5	調整は不明。 胎土は粗・細砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色。	
404	第100図	壺	38号住居	—	口縁部片	調整は内外面ともにハケ目、口縁部ヨコナデ。 胎土は粗・細砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色。	
405	第100図	壺	38号住居	—	口縁部片	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は粗砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	
406	第100図	壺	38号住居	① (14.0) ④ (17.8)	口縁部 ～胴部1/7	調整は外面タタキ目後ナデ・ヨコナデ、内面不明、口縁部ヨコナデ。 胎土は粗・細砂粒・細かい雲母を非常に多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色。	
407	第100図	甕	38号住居 屋内土坑	① (18.0)	口縁部1/7	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡赤褐色、内面灰褐色。	
408	第100図	甕	38号住居	—	口縁部片	調整は内外面ともにハケ目。 胎土は粗・細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色。	
409	第100図	底部	38号住居	③ (4.9)	底部1/2	調整は外面不明、内面ナデ? 胎土は粗砂粒・白色・赤色粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色、内面暗灰褐色。	
410	第100図	底部	38号住居	③ 9.0	底部完存	調整は外面ハケ目、内面ナデ。 胎土は粗・細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色。	
411	第100図	底部	38号住居	③ (5.4)	底部2/5	調整は外面ハケ目、内面ナデ・指頭圧痕あり。 胎土は粗砂粒・赤色粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡灰褐色～暗灰褐色、内面暗灰褐色。	黒斑あり
412	第100図 図版49	底部	38号住居	③ (6.9)	底部1/4	調整は外面ハケ目、内面ナデ。 胎土は粗砂粒・白色粗砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡灰褐色。	
413	第100図	底部	38号住居	③ (7.0)	底部1/3	調整は外面ナデ・ハケ目、内面ナデ。 胎土は粗砂粒・白色・赤色粗砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色、内面暗灰褐色。	
414	第100図	底部	38号住居	③ (6.0)	底部1/2	調整は外面不明、内面ハケ目。 胎土は粗砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色～淡褐色、内面淡褐色。	
415	第100図	底部	38号住居	③ (7.4)	底部1/4	調整は外面ハケ目?・指頭圧痕あり、内面ナデ? 胎土は粗・細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡赤褐色、内面褐色。	
416	第100図	底部	38号住居	③ (6.0)	底部1/2	調整は外面不明、内面ハケ目。 胎土は粗砂粒・白色・赤色粗砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色～淡褐色、内面淡褐色。	
417	第100図	高坏	38号住居	⑤ (20.0)	脚裾部1/5	調整は外面ハケ目、内面ハケ目・ナデ。 胎土は精製。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色。	
418	第100図 図版49	高坏	38号住居	—	脚裾部のみ 端部欠損	調整は外面ハケ目、内面ナデ。 胎土は粗・細砂粒・赤色粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに暗赤褐色。	
419	第101図 図版49	壺	39号住居	① 9.7	口縁部 ～頸部完存	調整は外面ハケ目後ナデ?、内面不明・指頭圧痕あり。 胎土は白色粗砂粒をやや多く、赤色粗砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡褐色。	
420	第101図	壺	39号住居	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ、内面ナデ。 胎土は白色・赤色粗砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色。	
421	第101図 図版50	甕	39号住居	① (26.0)	口縁部 ～体部2/5	調整は内外面ともにハケ目?、口縁部ヨコナデ? 胎土は白色粗砂粒・赤色粗砂粒・角閃石・細かい雲母を少量含む。焼成はやや良好。 色調は外面淡褐色～暗褐色、内面は淡褐色～暗褐色。	
422	第101図 図版50	甕	39号住居	① (31.6)	口縁部 ～胴部1/4	調整は内外面ともにハケ目、口縁部ヨコナデ。 胎土は白色粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成はやや良好。 色調は外面淡褐色～暗褐色、内面は淡褐色。	黒斑あり

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量 ①口径 ②器高 ③底径 ④胴部最大径 ⑤脚裾部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
423	第101図 図版50	甕	39号住居	—	口縁部片	調整は外面ナデ・ハケ目、内面ハケ目。 胎土は粗砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
424	第101図	甕	39号住居	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ、内面ハケ目・ナデ。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡暗褐色。	
425	第101図 図版50	甕	39号住居	③ 5.7	底部完存	調整は外面ハケ目・タタキ目、内面ハケ目・ナデ・指頭 圧痕あり。 胎土は白色粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は やや良好。 色調は外面淡褐色、内面は淡灰褐色。	黒斑あり
426	第101図 図版50	底部	39号住居	③ 5.0	底部完存	調整は外面ナデ、内面不明。 胎土は粗砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面赤褐色～黄褐色、内面赤褐色。	
427	第101図	底部	39号住居	③ 3.1	底部完存	調整は内外面ともにナデ？ 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡黄褐色～茶褐色。	
428	第101図	底部	39号住居	③ 2.6	底部完存	調整は外面ヘラケズリ・ナデ、内面ナデ・指頭圧痕あり。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡茶褐色、内面灰褐色。	
429	第101図	底部	39号住居	③ (7.2)	底部1/3	調整は内外面ともに不明。 胎土は白色粗・細砂粒を多く含む。焼成は不良。 色調は外面淡褐色、内面淡明褐色。	
430	第101図	底部	39号住居	③ (7.6)	底部1/4	調整は外面ヘラケズリ後ナデ、内面ナデ。 胎土は粗・細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色。	
431	第101図	底部	39号住居	③ (6.0)	底部2/5	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ナデ。 胎土は白色粗砂粒をやや多く、赤色粗砂粒・細かい角閃石・ 細かい雲母を少量含む。焼成はやや良好。 色調は外面淡褐色～黒褐色、内面淡褐色。	黒斑あり
432	第101図 図版50	鉢	39号住居	① (17.5) ② 9.2 ③ (4.0)	全体の1/3	調整は内外面ともにナデ・指頭圧痕あり、口縁端部ナデ。 胎土は粗・細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面茶褐色～赤褐色～黒褐色、内面赤褐色。	黒斑あり
433	第101図	壺	39号住居	—	口縁部片	調整は外面一部ヨコナデ、内面ハケ目。 胎土は粗砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面赤褐色、内面赤褐色～淡黄褐色。	
434	第101図	鉢	39号住居	① (21.9)	口縁部 ～体部1/6	調整は外面不明、内面ナデ？ 胎土は白色粗砂粒をやや多く含む。焼成はやや良好。 色調は内外面ともに淡黄褐色。	
435	第101図	高坏	39号住居	—	口縁部片	調整は外面不明、内面ヘラミガキ痕あり。 胎土は粗砂粒をかなり多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡橙色、内面橙褐色。	
436	第101図	脚裾部	39号住居	⑤ (20.0)	脚裾部小片	調整は外面ナデ、内面ハケ目。 胎土は粗砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡橙褐色。	
437	第101図 図版50	手捏	39号住居	① 8.5 ② 4.4 ③ 2.05	完形	調整は内外面ともにナデ・指頭圧痕あり。 胎土は白色粗砂粒を多く、細かい雲母を少量含む。焼成 は良好。 色調は外面暗橙色～黒褐色、内面暗橙色。	黒斑あり
438	第101図 図版50	椀	39号住居 上層	① 9.7 ② 5.4	完形	調整は外面ヘラケズリ後ナデ、内面ヨコナデ・ナデ。 胎土は粗砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色。	
439	第102図	甕	40号住居 溝状部	—	口縁部片	調整は内外面ともにハケ目。 胎土は粗砂粒・細かい角閃石を少量含む。焼成は良好。 色調は外面橙褐色～淡褐色～灰色、内面淡灰褐色。	
440	第102図	底部	40号住居	③ (6.2)	底部1/3	調整は外面不明、内面はナデ・指頭圧痕あり。 胎土は白色・赤色粗・細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
441	第102図	底部	40号住居	③ (8.0)	底部1/4	調整は不明。 胎土は粗砂粒を多く含む。焼成は不良。 色調は外面橙色～橙褐色、内面淡灰橙褐色。	
442	第102図	底部	40号住居	③ (7.2)	底部1/4	調整は外面ハケ目後ナデ、内面ナデ。 胎土は白色細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面黒灰褐色～淡褐色、内面淡褐色。	
443-1	第102図 図版50	鉢	40号住居 P3上部	① (29.8)	口縁部1/4	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は粗・細砂粒をやや多く、細かい雲母を少量含む。 焼成はやや不良。 色調は外面橙色～橙褐色、内面橙褐色～橙褐色～黒橙 褐色。	
443-2	第102図 図版50	鉢	40号住居 P3上部	③ 6.2	底部完存	調整は不明。 胎土は粗・細砂粒をやや多く、細かい雲母を少量含む。 焼成はやや不良。 色調は外面橙色～橙褐色、内面橙褐色～橙褐色～黒橙 褐色。	黒斑あり
444	第102図	高坏	40号住居 北ベッド上	① (31.0)	口縁部片 1/6	調整は内外面ともにヨコナデ後ヘラミガキ。 胎土は白色粗砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面暗橙褐色、内面暗橙褐色～暗灰褐色。	



番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径 ④胴部最大径 ⑤脚根部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
445	第102図	壺	41号住居	—	口縁部片	調整は外面ハケ目・ヨコナデ、内面ヨコナデ・指頭圧痕あり。 胎土は白色粗・細砂粒をやや多く、細かい雲母を少量含む。 焼成はやや良好。 色調は外面淡橙褐色～黒灰色、内面暗橙褐色。	
446	第102図	甕	41号住居	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は赤色粗・細砂粒をやや多く、細かい雲母を少量含む。 焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡褐色。	
447	第102図	甕	41号住居	—	口縁部片	調整は外面ハケ目後ナデ、内面ハケ目・ヨコナデ。 胎土は白色粗・細砂粒をやや多く、細かい雲母を少量含む。 焼成はやや良好。 色調は内外面ともに暗橙褐色。	
448	第102図 図版50	甕	41号住居	—	体部片	調整は内外面ともにハケ目後ナデ、内面指頭圧痕あり。 胎土は粗砂粒を多く、赤色粗砂粒を少量、細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面とも淡褐色。	
449	第102図	底部	41号住居	③ (8.4)	底部1/4	調整は外面ナデ・指頭圧痕あり、内面不明。 胎土は粗・細砂粒を少量含む。焼成はやや良好。 色調は外面黒褐色～淡褐色、内面暗橙褐色。	
450	第102図	底部	41号住居	—	底部片	調整は不明、内面指頭圧痕あり。 胎土は白色粗・細砂粒を多く含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡灰褐色。	
451	第102図	壺	42号住居 中央部床面	① (24.1)	口縁部1/6	調整は内外面ともにハケ目、口縁部ヨコナデ・指頭圧痕あり。 胎土は粗砂粒をやや多く、赤色粗砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成はやや良好。 色調は内外面ともに淡褐色～淡暗褐色。	
452	第102図 図版50	壺	42号住居	① (16.7) ② 17.0 ③ 7.4 ④ 19.6	全体の1/2	調整は内外面ともにハケ目・ヘラミガキ・ナデ・指頭圧痕あり、口縁部ヨコナデ。 胎土は白色粗砂粒をやや多く、赤色粗砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成はやや良好。 色調は外面淡褐色～黒褐色、内面淡褐色～淡赤褐色。	黒斑あり
453	第102図	甕	42号住居	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ・ハケ目・ナデ・指頭圧痕あり、内面ハケ目。 胎土は白色粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面暗褐色、内面淡褐色～淡灰褐色。	
454	第102図	底部	42号住居	③ (7.8)	底部1/4	調整は外面ハケ目、内面ナデ・指頭圧痕あり。 胎土は白色粗砂粒をやや多く、赤色細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成はやや良好。 色調は外面淡褐色～淡暗褐色、内面淡褐色。	
455	第102図	底部	42号住居 屋内土坑	③ 7.6	底部完存	調整は外面不明、内面ナデ・指頭圧痕あり。 胎土は白色粗砂粒を多く、赤色細砂粒・細かい雲母・角閃石を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面淡褐色～淡橙褐色、内面暗褐色。	
456	第102図 図版50	底部	42号住居 屋内土坑	③ 5.2	底部完存	調整は外面不明、底部ハケ目、内面工具ナデ。 胎土は白色粗・細砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成はやや良好。 色調は内外面ともに暗褐色。	
457	第102図 図版50	鉢	42号住居	① (11.8)	口縁部1/3	調整は一部ヨコナデ。 胎土は粗砂粒・赤色粗砂粒を少量含む。焼成はやや良好。 色調は外面淡褐色～灰色～暗灰色、内面淡褐色。	
458	第102図 図版50	手握	42号住居	① 5.3 ② 4.6 ③ 2.8	口縁部 ～体部2/3 底部完存	調整は内外面ともにナデ・指頭圧痕あり。 胎土は粗・細砂粒を多く、細かい雲母をやや多く含む。 焼成は良好。 色調は外面橙褐色～暗褐色、内面暗褐色。	
459	第103図	甕	5号掘立 P3	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ、内面ハケ目後ナデ。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面肌褐色、内面暗橙褐色。	
460	第103図	底部	5号掘立 P6	③ (9.0)	底部1/5	調整は外面ハケ目後ナデ、内面不明。 胎土は粗砂粒・赤色細砂粒・細かい雲母をやや多く含む。 焼成は良好。 色調は内外面ともに橙褐色。	
461	第103図	壺	6号掘立 P1	—	口縁部片	調整は内外面ともにハケ目後ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡黄褐色。	
462	第103図	甕	6号掘立 P1	—	口縁部片	調整は外面ハケ目後ナデ、内面ハケ目。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色。	
463	第103図	底部	6号掘立 P1	—	底部片	調整は外面ナデ、内面ナデ・ハケ目？ 胎土は白色粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡暗褐色、内面暗褐色。	
464	第103図	底部	6号掘立 P1	—	底部片	調整は内外面ともにハケ目後ナデ。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡黄白色、内面灰褐色。	

( )は復元値

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径 ④胴部最大径 ⑤脚裾部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
465	第103図	底部	6号掘立 検出時	—	底部片	調整は不明。 胎土は白色粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡褐色～淡暗褐色。	
466	第103図 図版51	高坏	6号掘立 P1	⑤ (19.0)	脚裾部1/4	調整は外面ハケ目後ヘラミガキ、内面ハケ目、脚裾部ナデ。 胎土は精製。焼成は良好。 色調は外面淡褐色、内面淡橙褐色。	
467	第103図 図版51	甕	7号掘立 P1	—	口縁部片	調整は内外面ともにハケ目、口縁部ヨコナデ。 胎土は粗・細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面橙褐色～淡灰褐色、内面橙褐色。	
468	第103図	甕	7号掘立 P3	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ?、内面不明。 胎土は粗・細砂粒を非常に多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄白色。	
469	第103図	底部	11号掘立	③ (7.0)	底部1/4	調整は不明。 胎土は白色粗・細砂粒・赤色細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面淡褐色～淡橙色、内面淡褐色。	
470	第103図 図版51	壺	12号掘立	① (19.8)	口縁部1/5	調整は外面口縁部に刻み目、内面不明。 胎土は粗・細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡褐色。	丹塗り
471	第103図	甕	13号掘立	—	口縁部片	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は白色粗・細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成はやや良好。 色調は外面淡褐色、内面淡褐色。	
472	第103図	底部	14号掘立	③ (6.6)	底部1/4	調整は外面ハケ目、内面ナデ。 胎土は白色粗・細砂粒・赤色粗砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
473	第103図	壺	15号掘立	—	口縁部片	調整は外面ハケ目・ヨコナデ、内面不明・指頭圧痕あり。 胎土は白色・赤色細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面白褐色、内面淡灰褐色。	
474	第103図	底部	16号掘立	③ (7.6)	底部1/4	調整は外面ハケ目、内面不明・指頭圧痕あり。 胎土は白色粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成はやや不良。 色調は外面淡暗褐色、内面淡橙色。	
475	第103図 図版51	底部	18号掘立	③ (7.0)	底部1/4	調整は外面ハケ目、内面ナデ・指頭圧痕あり。 胎土は白色粗砂粒・細かい雲母・角閃石を少量含む。焼成は良好。 色調は外面暗褐色～暗橙褐色、内面黒褐色～暗褐色。	
476	第103図 図版51	甕	19号掘立	① (26.0) ④ (29.0)	口縁 ～胴部1/4	調整は内外面ともにハケ目、口縁部ヨコナデ。 胎土は白色粗・細砂粒をやや多く、細かい雲母・赤色細砂粒を少量含む。焼成はやや良好。 色調は外面淡褐色～淡暗褐色～黒褐色、内面淡暗褐色。	黒斑あり
477	第103図 図版51	甕	19号掘立	① (22.6)	口縁部1/6	調整は外面ヨコナデ、内面不明・指頭圧痕あり。 胎土は粗砂粒をやや多く、赤色粗砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
478	第103図 図版51	甕	19号掘立	—	口縁部片	調整は外面ハケ目、内面ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は白色粗・細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
479	第103図	甕	24号掘立 P3	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は白色粗砂粒・細かい雲母を多く含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡褐色。	
480	第103図	底部	26号掘立 P4	—	底部片	調整は外面不明、内面ナデ? 指頭圧痕あり。 胎土は白色粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに茶褐色。	
481	第103図 図版51	底部	31号掘立	③ (8.8)	底部1/5	調整は外面ハケ目、内面ナデ・指頭圧痕あり。 胎土は白色粗砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡暗褐色～淡褐色～淡褐色、内面淡褐色。	
482	第103図	底部	31号掘立	③ (8.4)	底部1/3	調整は外面不明、内面ナデ。 胎土は白色粗砂粒をやや多く、細かい雲母を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面淡赤褐色、内面淡褐色。	
483	第103図	甕	32号掘立 P4	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ?、内面不明。 胎土は粗砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄白色。	
484	第103図	底部	32号掘立 P4	—	底部片	調整は外面ハケ目、内面ナデ。 胎土は粗砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面暗褐色、内面茶褐色。	
485	第103図	甕	35号掘立 P2	—	口縁部片	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は粗砂粒を少量、細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面灰褐色、内面赤褐色。	

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径 ④胴部最大径 ⑤脚裾部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
486	第103図 図版51	底部	35号掘立 P2	③ (6.6)	底部1/2	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ナデ・指頭圧痕あり。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡黄灰色～灰褐色、内面淡黄茶色。	
487	第103図	甕	36号掘立 P5	—	口縁部片	調整は外面ハケ目、内面不明、口縁部ヨコナデ？ 胎土は粗・細砂粒、細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面茶褐色、内面黄褐色。	
488	第103図	壺	37号掘立 P12	③ (4.2) ④ (15.2)	胴部 ～底部1/3	調整は内外面ともにハケ目。 胎土は白色粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面暗黄茶褐色～暗灰茶褐色、内面淡黄茶褐色。	
489	第103図	甕	37号掘立 P9	—	口縁部片	調整は内外面ともにハケ目、口縁部ヨコナデ。 胎土は粗砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面茶褐色、内面暗黄灰褐色。	スス付着
490	第103図	甕	37号掘立 P12	—	口縁部 ～頸部1/8	調整は外面ハケ目、内面ナデ。 胎土は粗砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面橙褐色、内面黄橙褐色。	スス付着
491	第103図	底部	37号掘立 P7	③ (9.8)	底部1/4	調整は外面不明、内面ハケ目？ 指頭圧痕あり。 胎土は白色粗砂粒をやや多く、細かい雲母を少量含む。 焼成はやや不良。 色調は外面淡褐色～淡暗褐色、内面淡灰褐色。	
492	第103図	底部	37号掘立 P8	—	底部	調整は内外面ともにハケ目。 胎土は白色粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は 良好。 色調は外面淡橙褐色、内面灰褐色。	
493	第103図	底部	37号掘立 P11	③ (7.6)	底部2/5	調整は外面不明、内面ナデ・指頭圧痕あり。 胎土は白色粗砂粒をやや多く含む。焼成はやや不良。 色調は外面橙色、内面暗褐色。	
494	第103図 図版51	手捏	37号掘立 P10	① 8.0 ② 3.7 ③ 2.2	完形	調整は内外面ともにナデ・指頭圧痕あり。 胎土は白色粗砂粒をやや多く含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに暗灰茶褐色。	
495	第104図	甕	38号掘立 P5	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ・ハケ目、内面ヨコナデ・ハケ目後 ナデ？ 胎土は粗砂粒を非常に多く含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに肌色～黄白色。	
496	第104図	甕	38号掘立 P2	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ・ハケ目？、内面ヨコナデ。 胎土は粗・細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄橙色。	
497	第104図	底部	38号掘立 P4	① (8.2)	底部1/4	調整は内外面ともにナデ。 胎土は白色粗・細砂粒・赤色細砂粒・細かい雲母を少量 含む。焼成は良好。 色調は外面淡橙褐色、内面淡灰褐色。	
498	第104図	底部	38号掘立 P1	—	底部片	調整は外面ナデ？、内面ハケ目。 胎土は白色粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は 良好。 色調は外面淡褐色、内面暗灰褐色。	
499	第104図	底部	39号掘立 P3	③ (10.0)	底部1/6	調整は不明。 胎土は細砂粒を少量含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡灰黄褐色。	
500	第104図 図版51	手捏	39号掘立 P3	① 6.7 ② 3.1	ほぼ完形	調整は内外面ともにナデ・指頭圧痕あり。 胎土は白色粗・細砂粒を多く、細かい雲母を少量含む。 焼成は良好。 色調は内外面ともに淡橙色～淡褐色。	
501	第104図 図版51	壺	40号掘立 P4	① (20.8)	口縁部1/5	調整はヨコナデ。 胎土は粗・細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面赤灰色、内面褐灰色。	口縁部に 条線
502	第104図	壺	41号掘立 P5	① (18.0)	口縁部1/5	調整は不明。 胎土は粗砂粒・白色細砂粒をやや多く含む。焼成は不良。 色調は内外面ともに黄橙色。	
503	第104図	底部	41号掘立 P4	—	底部1/3	調整は外面ヘラケズリ後ナデ？、内面ナデ？ 胎土は白色粗・細砂粒をやや多く含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに灰黄褐色。	
504	第104図	器台	41号掘立 P3	⑤ (12.7)	裾部1/4	調整は外面タタキ目後ナデ、内面ヘラケズリ。 胎土は粗・細砂粒を多く、白色細砂粒をやや多く含む。 焼成は良好。 色調は外面橙色、内面黄橙色。	
505	第104図 図版51	手捏	41号掘立 P2	① 6.2 ② 3.7	完形	調整はナデ・指頭圧痕あり。 胎土は粗・細砂粒をやや多く、赤色砂粒を少量含む。焼 成は良好。 色調は外面橙色、内面褐灰色～黄褐色。	
506	第104図	壺	42号掘立 P15	—	口縁部片	調整は外面ハケ目・ヨコナデ、内面ハケ目後ヨコナデ。 胎土は白色粗・細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに茶褐色。	

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径 ④胴部最大径 ⑤脚裾部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
507	第104図	底部	42号掘立 P10	③ (8.2)	底部1/4	調整は外面不明、内面ハケ目。 胎土は白色細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成はやや 良好。 色調は外面淡橙褐色、内面淡暗褐色。	
508	第104図	鉢	42号掘立 P10	—	口縁部片	調整は外面ハケ目、内面不明、口縁部ナデ。 胎土は白色粗・細砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼 成は良好。 色調は外面赤褐色、内面淡黄灰色。	丹塗り
509	第104図	甕	44号掘立 P5	—	口縁部片	調整は外面ハケ目、内面ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は白色粗・細砂粒をやや多く、細かい雲母を少量含む。 焼成は良好。 色調は外面明黄褐色～明褐色、内面暗灰色。	
510	第104図	壺	45号掘立 P3	—	口縁部片	調整は内外面ともにヨコナデ。内面、一部指頭圧痕あり。 胎土は白色粗・細砂粒をやや多く、細かい雲母を少量含む。 焼成はやや不良。 色調は外面褐色～淡橙褐色、内面淡褐色～褐色。	
511	第104図	底部	45号掘立 P7	③ 8.0	底部完存	調整は外面不明、内面ハケ目。 胎土は白色粗・細砂粒をやや多く、細かい雲母を少量含む。 焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色～淡黄褐色。	
512	第104図	底部	45号掘立 P5	③ (10.6)	底部1/8	調整は外面タタキ目後ナデ・指頭圧痕あり、内面ハケ目・ 指頭圧痕あり。 胎土は白色・赤色粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面灰色～黒灰色、内面淡灰色～淡灰白色。	
513	第104図	壺	46号掘立 P3	① (5.1)	口縁部1/6	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は白色細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに橙褐色。	
514	第104図	鉢	49号掘立	—	口縁部片	調整は内外面ともにハケ目・ヨコナデ・指頭圧痕あり。 胎土は粗砂粒を多く、白色細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色～暗茶褐色、内面は淡茶褐色。	
515	第104図	壺	52号掘立 P3	—	口縁部片	調整は外面ハケ目・ヨコナデ、内面ヨコナデ？ 胎土は白色粗・細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は 良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
516	第104図	底部	52号掘立 P3	③ (5.8)	底部2/5	調整は外面タタキ目、内面ナデ。 胎土は白色粗砂粒をやや多く、赤色細砂粒・細かい雲母・ 細かい角閃石を少量含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡褐色。	
517	第104図	甕	53号掘立 P4	—	口縁部片	調整は外面不明、内面ナデ。 胎土は白色粗・細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は やや不良。 色調は内外面ともに淡橙褐色。	
518	第104図	底部	53号掘立 P6	③ (6.7)	底部1/4	調整は不明だが、外面に一部指頭圧痕あり。 胎土は白色粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は やや不良。 色調は外面淡橙色、内面淡橙褐色。	
519	第104図	底部	53号掘立 P5	③ 2.65	体部1/4 底部中心 欠損	調整は外面ハケ目後ナデ・指頭圧痕あり、内面ナデ・指 頭圧痕あり。 胎土は白色粗砂粒・赤色細砂粒・細かい雲母を少量含む。 焼成は良好。 色調は外面淡暗褐色、内面淡暗褐色。	
520	第104図	底部	53号掘立 P6	③ (5.6)	底部1/4	調整は内外面ともにナデ・指頭圧痕あり。 胎土は白色粗・細砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼 成は良好。 色調は外面淡暗褐色、内面淡褐色。	
521	第104図	甕	54号掘立 P4	—	口縁部片	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は白色粗砂粒・赤色細砂粒・細かい雲母を少量含む。 焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡褐色。	
522	第104図	底部	54号掘立 P2	③ (6.6)	底部1/5	調整は内外面ともにハケ目。 胎土は白色粗・細砂粒をやや多く、赤色細砂粒を少量含む。 焼成は良好。 色調は内外面ともに淡赤褐色	
523	第104図	鉢	54号掘立 P4	① (9.1) ② 4.7 ③ (4.4)	口縁部 ～底部1/4	調整は外面不明・指頭圧痕あり、内面ハケ目・ヨコナデ？ 胎土は白色粗砂粒をやや多く、赤色細砂粒・細かい角閃 石を少量、細かい雲母をわずかに含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡褐色。	
524-1	第105図 図版51	甕	2号土坑	① (26.8)	口縁部1/6	調整は外面ハケ目・ヨコナデ、内面不明。 胎土は粗砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成はやや良好。 色調は外面淡褐色～淡橙褐色、内面淡褐色～淡灰褐色。	
524-2	第105図 図版51	甕	2号土坑	③ (8.2)	底部3/5	調整は外面ハケ目、内面ナデ・指頭圧痕あり？ 胎土は白色粗砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成はやや 良好。 色調は外面淡褐色～淡橙褐色、内面淡褐色～淡灰褐色。	

( )は復元値

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径 ④胴部最大径 ⑤脚裾部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
525	第105図	底部	7号土坑	③ 5.8	底部完存	調整は外面不明、内面工具痕あり。 胎土は粗砂粒をやや多く、赤色粗砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は不良。 色調は外面淡橙褐色～淡褐色、内面淡橙褐色。	
526	第105図	器台	7号土坑 P7	⑤ (9.4)	裾部2/5	調整は内外面ともにナデ・指頭圧痕あり。 胎土は粗・細砂粒・赤色細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色、内面淡褐色～淡暗褐色。	
527	第105図	甕	9号土坑	—	口縁部片	調整は内外面ともにハケ目、口縁部ヨコナデ。 胎土は白色粗砂粒をやや多く、赤色細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色、内面淡褐色。	
528	第105図	甕?	12号土坑	—	口縁部片	調整は外面ハケ目・ヨコナデ、内面不明。 胎土は白色粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡暗褐色。	
529	第105図	甕	16号土坑	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ・ハケ目、内面不明。 胎土は白色粗砂粒を多く、細かい雲母を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面淡褐色、内面淡褐色～淡褐色～暗灰色。	
530	第105図	甕	16号土坑	—	口縁部片	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ナデ・指頭圧痕あり。 胎土は白色粗・細砂粒を多く、細かい雲母を少量含む。焼成はやや良好。 色調は内外面ともに橙色。	
531	第105図 図版52	甕	16号土坑	③ 5.6	体部1/2 ～底部 ほぼ完存	調整は外面不明、内面ナデ・指頭圧痕あり。 胎土は白色粗砂粒を多く、細かい雲母を少量含む。焼成はやや良好。 色調は内外面ともに橙色。	
532	第105図	底部	16号土坑	③ 3.4	底部完存	調整は内外面ともにナデ・指頭圧痕あり。 胎土は白色粗・細砂粒をやや多く含む。焼成はやや良好。 色調は外面淡黄褐色～褐色、内面淡黄褐色。	
533	第105図	高坏	16号土坑	—	口縁部片	調整は外面不明、内面ヘラミガキ。 胎土は白色・暗茶色粗・細砂粒を多く含む。焼成はやや良好。 色調は内外面ともに淡橙褐色。	
534	第105図	高坏	16号土坑	⑤ (15.8)	脚裾部1/8	調整は外面ハケ目・ヨコナデ、内面ハケ目・ヨコナデ。 胎土は白色粗砂粒を多く、細かい角閃石・雲母を少量含む。焼成はやや良好。 色調は内外面ともに淡橙褐色。	
535	第105図	底部	17号土坑	—	底部片	調整は内外面ともにナデ。 胎土は白色細砂粒を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面淡褐色～黒褐色、内面淡褐色。	
536	第105図	甕	17号土坑	—	底部片	調整は不明。 胎土は精製。焼成は不良。 色調は内外面ともに淡黄褐色～淡橙褐色。	
537	第105図	甕	18号土坑	③ (8.0)	底部1/6	調整は不明。 胎土は粗砂粒・白色細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成はやや良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
538	第105図	甕	19号土坑	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は白色・赤色細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	
539	第105図	甕	19号土坑	—	口縁部片	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は白色・赤色粗・細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	
540	第105図	甕	19号土坑	③ 6.0	底部完存	調整は不明。 胎土は白色細砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は不良。 色調は内外面ともに褐色～橙色。	
541	第105図 図版52	蓋	19号土坑	① (17.4)	口縁部1/2	調整は内外面ともにナデ。 胎土は粗・細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	
542	第105図 図版52	蓋	20号土坑	① (9.6) ② 2.1	全体の2/3	調整は外面ナデ、内面ナデ・ヘラケズリ? 胎土は白色細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに明黄褐色。	丹塗り 穿孔あり
543	第105図	脚台付 土器	20号土坑	⑤ (10.8)	脚裾部1/4	調整は内外面ともにナデ。 胎土は細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色。	丹塗り
544	第105図	甕?	21号土坑	—	口縁部片	調整は外面ハケ目、内面ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は白色・赤色細砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面赤褐色、内面赤褐色～黄褐色。	
545	第105図	甕	21号土坑	—	口縁部片	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は粗・細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色。	



番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量 ①口径 ②器高 (cm) ③底径 ④胴部最大径 ⑤脚裾部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
546	第105図	甕	21号土坑	③ (9.5)	底部1/4	調整は不明。 胎土は白色細砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡赤褐色、内面黄褐色。	
547	第105図	甕	21号土坑	—	底部片	調整は外面ハケ目後ナデ、内面ナデ。 胎土は白色・赤色細砂粒・細かい雲母をやや多く含む。 色調は外面赤褐色、内面黄褐色。	
548	第105図 図版52	甕	22号土坑	① 19.0 ② 18.4 ③ (7.2)	口縁部 ～底部1/2	調整は外面ハケ目、内面ナデ・一部指頭圧痕あり、口縁部ヨコナデ。 胎土は白色粗砂粒・赤色細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに肌茶色～淡灰褐色。	スス付着
549	第105図	壺	22号土坑	③ (7.4)	底部1/2	調整は内外面ともにナデ？ 胎土は白色粗・細砂粒を非常に多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに橙褐色。	
550	第105図	甕	22号土坑	—	底部片	調整は不明。 胎土は白色粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡桃色～橙色、内面黄茶色。	
551	第105図	鉢	22号土坑	—	口縁部片	調整は内外面ともにナデ。 胎土は白色粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡黄白色。	
552	第105図	高坏	22号土坑	—	口縁部片	調整は外面不明、内面ナデ？ 胎土は白色粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡黄茶色～灰褐色、内面茶褐色～淡黄茶色。	丹塗り
553	第105図	高坏	22号土坑	—	脚部片	調整は外面ヘラミガキ？、内面ナデ。 胎土は白色粗・細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色～淡赤褐色。	丹塗り
554	第105図	壺	23号土坑	—	口縁部片	調整は内外面ともにナデ・ヨコナデ？ 胎土は白色粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡黄色、内面淡黄色～灰褐色。	
555	第105図	甕	23号土坑	—	口縁部片	調整は外面ハケ目・ヨコナデ、内面ヨコナデ・ナデ。 胎土は白色粗・細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面赤褐色、内面赤褐色。	丹塗り
556	第106図 図版52	壺	1号井戸	③ (11.0) ④ (29.6)	胴部2/5～ 底部1/5	調整は外面ヨコナデ・ヘラミガキ・暗文、内面不明。 胎土は精製。焼成はやや不良。 色調は外面淡橙色～淡暗橙色、内面淡褐色～淡暗褐色。	丹塗り
557	第106図 図版52	壺	1号井戸	① 10.6 ② 9.8 ③ 4.8	ほぼ完形	調整は外面ヨコナデ・ハケ目・ナデ、内面ナデ・指頭圧痕あり。 胎土は白色・赤色粗砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡橙褐色～淡黄褐色・一部黒灰色、内面淡橙褐色～淡褐色。	丹塗り
558	第106図 図版52	壺	1号井戸	③ 5.4 ④ (14.4)	体部～底部 完存	調整は外面ナデ、内面ナデ・指頭圧痕あり。 胎土は粗・細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面暗褐色、内面黒灰色。	丹塗り
559	第106図 図版52	甕	1号井戸	① (28.9) ② 33.5 ③ 8.3	口縁部一部 ～体部1/4 ～底部完存	調整は外面ハケ目・指頭圧痕あり、内面ナデ・指頭圧痕あり、口縁部ヨコナデ？ 胎土は粗・細砂粒を少量含む。焼成はやや良好。 色調は内外面ともに淡灰褐色～淡灰褐色。	
560	第106図 図版52	甕	1号井戸	① (27.6)	口縁部1/3	調整は外面ハケ目、内面ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は白色粗・細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
561	第106図 図版52	甕	1号井戸	① 29.3	口縁部7/8 体部の一部	調整は内外面ともにナデ、口縁部ヨコナデ・ヘラミガキ？ 胎土は白色粗砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	丹塗り
562	第106図 図版52	甕	1号井戸	① 31.5	口縁部 ～胴部 ほぼ完存	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ナデ・工具痕あり、口縁部ヨコナデ。 胎土は白色粗砂粒・赤色細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色～淡黄白色、内面淡黄色～淡黄白色。	スス付着
563	第106図 図版52	甕	1号井戸	① 34.1	口縁部 ～胴部 ほぼ完存	調整は外面ハケ目、内面ナデ・指頭圧痕あり、口縁部ヨコナデ。 胎土は白色粗・細砂粒・赤色粗砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成はやや良好。 色調は内外面ともに淡褐色～淡褐色～淡暗褐色。	スス付着
564	第106図 図版52	甕	1号井戸	① (20.2) ② 19.55 ③ 6.8	口縁部1/8 ～体部1/3 ～底部完存	調整は外面ハケ目、内面ナデ・指頭圧痕あり、口縁部ヨコナデ。 胎土は白色粗・細砂粒・赤色粗砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成はやや良好。 色調は外面淡灰褐色～淡灰橙褐色、内面淡灰橙褐色。	スス付着



番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径 ④胴部最大径 ⑤脚裾部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
565	第106図 図版52	甕	1号井戸	③ 8.8	底部完存	調整は外面ハケ目、内面ナデ・指頭圧痕あり。 胎土は粗・細砂粒を少量含む。焼成はやや良好。 色調は外面淡褐色～淡褐色～黒褐色、内面淡褐色。	
566	第106図 図版52	鉢	1号井戸	① 18.6 ② 10.2 ③ 6.2	ほぼ完形	調整は外面ハケ目・ヨコナデ、内面ヨコナデ・指頭圧痕・ 工具痕あり。 胎土は白色・赤色粗砂粒をやや多く含む。焼成はやや良好。 色調は内外面ともに淡黄褐色。	黒斑あり 穿孔あり
567	第106図	器台	1号井戸	⑤ 10.4	裾部完存	調整は内外面ともにナデ・指頭圧痕あり。 胎土は白色粗砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成はやや 良好。 色調は外面淡褐色、内面淡褐色～淡褐色。	
568	第107図 図版53	底部	2号井戸 上層	③ 6.25	底部完存	調整は外面ハケ目、底部ヘラミガキ、内面ナデ・指頭圧 痕あり。 胎土は白色粗砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色～黒褐色、内面淡褐色。	黒斑あり
569	第107図	底部	2号井戸 上層	③ (4.9)	底部1/4	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ナデ。 胎土は粗砂粒をやや多く、細かい雲母を少量含む。焼成 は良好。 色調は外面淡褐色～黒褐色、内面淡褐色。	
570	第107図	底部	2号井戸 上層	③ (6.8)	底部1/3	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ハケ目・一部指頭圧痕あり。 胎土は白色粗砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成はやや 良好。 色調は外面淡褐色、内面淡褐色。	
571	第107図	底部	2号井戸 上層	—	底部2/5	調整は外面ヘラズリ？ ナデ・指頭圧痕あり、内面ナデ・ 指頭圧痕あり。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色～暗褐色、内面暗褐色。	
572	第107図 図版53	鉢	2号井戸 上層	① (15.4)	口縁部 ～体部1/5	調整は外面ハケ目、内面不明、口縁部ヨコナデ？ 胎土は白色粗砂粒をやや多く、赤色粗砂粒・細かい雲母 を少量含む。焼成は不良。 色調は外面淡褐色、内面淡褐色。	
573	第108図 図版53	壺	8号溝	① (22.0)	口縁部 ～頸部1/4	調整は外面ハケ目・指頭圧痕あり、内面不明・指頭圧痕 あり。 胎土は白色粗砂粒をやや多く、細かい雲母を少量含む。 焼成はやや不良。 色調は外面淡褐色～暗褐色、内面淡褐色～淡暗褐色。	
574	第108図	壺	8号溝	—	口縁部片	調整は外面ナデ、内面・口縁部ともにヨコナデ。 胎土は粗砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡黄褐色、内面淡黄褐色～灰茶褐色。	
575	第108図	壺	8号溝	—	口縁部片	調整は外面ハケ目・ヨコナデ、内面ナデ？ 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡黄褐色～茶褐色、内面黒褐色。	
576	第108図 図版53	甕	8号溝	① 20.1 ② 27.1 ③ 8.1	ほぼ完形	調整は外面ハケ目・ヨコナデ・ナデ、内面ハケ目・ナデ。 胎土は粗・細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色～淡黄褐色、内面淡褐色。	スス付着
577	第108図 図版53	甕	8号溝	① 25.6 ④ 27.5	口縁部 ～胴部 ほぼ完存	調整は内外面ともにハケ目・ヨコナデ。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに茶褐色～暗茶褐色。	スス付着
578	第108図	甕	8号溝	—	口縁部片	調整は内外面ともにハケ目・ヨコナデ。 胎土は粗・細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色～淡黄褐色、内面淡褐色。	
579	第108図	甕	8号溝	—	口縁部片	調整は外面タキ目後ハケ目・指頭圧痕あり、内面ハケ目・ ナデ？、口縁部ヨコナデ。 胎土は白色・赤色粗・細砂粒・細かい雲母を少量含む。 焼成は良好。 色調は内外面ともに暗褐色。	
580	第108図 図版53	甕	8号溝	—	口縁部片	調整は外面ハケ目、内面不明、口縁部ヨコナデ。 胎土は白色粗砂粒をやや多く、赤色粗砂粒・細かい雲母 を少量含む。焼成はやや良好。 色調は外面淡褐色、内面淡褐色。	
581	第108図	甕	8号溝	—	口縁部片	調整は外面不明、内面ハケ目、口縁部ハケ目後ヨコナデ。 胎土は粗・細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色～暗茶褐色、内面淡黄褐色～暗茶褐色。	
582	第108図 図版53	甕	8号溝	③ (8.8) ④ (21.4)	胴部～底部 1/4	調整は外面ハケ目・ヘラズリ・ナデ？、内面ハケ目・ナデ。 胎土は白色粗砂粒・細かい雲母をやや多く、赤色粗砂粒 を少量含む。焼成はやや良好。 色調は外面淡褐色～黒褐色、内面淡褐色。	黒斑あり
583	第108図	甕	8号溝	③ (6.9)	底部1/4	調整は外面ハケ目・ヘラズリ・指頭圧痕あり、内面ハ ケ目。 胎土は白色粗砂粒をやや多く、赤色粗砂粒・細かい雲母 を少量含む。焼成はやや良好。 色調は外面淡褐色～淡褐色～黒褐色、内面淡褐色。	黒斑あり

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径 ④胴部最大径 ⑤脚裾部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
584	第108図 図版53	底部	8号溝	③ 7.3	底部完存	調整は外面ナデ?、内面ハケ目、内外面ともに指頭圧痕あり。 胎土は白色粗砂粒・角閃石・細かい雲母・赤色細砂粒を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面淡褐色～淡橙色、内面黒褐色。	角閃石目立つ 外来か?
585	第108図	甕	8号溝	③ 10.3	底部2/3	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ハケ目、内外面ともに指頭圧痕あり。 胎土は白色粗砂粒・赤色細砂粒・細かい角閃石・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡橙色。	
586	第108図	甕	8号溝	③ (8.5)	底部1/4	調整は内外面ともにハケ目・指頭圧痕あり。 胎土は白色粗砂粒をやや多く、赤色粗砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面淡褐色～淡赤褐色。内面淡灰褐色。	
587	第108図	鉢	8号溝	① (15.6)	全体の1/4	調整は外面ハケ目、内面ナデ・工具痕あり、口縁部ヨコナデ。 胎土は白色粗砂粒・赤色細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
588	第108図 図版53	鉢	8号溝	① 16.2 ② 10.9 ③ 5.7	ほぼ完形	調整は内外面ともにハケ目・ヨコナデ。 胎土は白色粗・細砂粒を非常に多く含む。焼成は良好。 色調は外面黄茶褐色～赤褐色、内面黄茶褐色。	
589	第108図	鉢	8号溝	① (10.3) ④ (15.8)	口縁部 ～胴部1/4	調整は外面ハケ目、内面ナデ・指頭圧痕あり。 胎土は白色粗砂粒をやや多く、細かい雲母を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面淡橙色～暗褐色、内面淡褐色～淡暗褐色。	
590	第109図 図版53	壺	2号周溝	—	口縁部片	調整はヨコナデ。 胎土は粗砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡灰色～淡黄茶色。	
591	第109図	甕	2号周溝	—	口縁部 ～体部片	調整は内外面ともにナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は白色粗・細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡灰褐色、内面黒褐色。	
592	第109図 図版53	甕	2号周溝	① (20.8) ② (22.0) ③ 7.5	全体の1/3	調整は内外面ともにハケ目・一部指頭圧痕あり、口縁部ヨコナデ。 胎土は粗・細砂粒・細かい角閃石をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面灰褐色～淡橙褐色、内面暗灰褐色。	
593-1	第109図 図版53	甕	2号周溝	① (16.8)	口縁部 ～体部1/3	調整は内外面ともにハケ目・一部指頭圧痕あり、口縁部ヨコナデ? 胎土は粗・細砂粒を非常に多く含む。焼成はやや良好。 色調は内外面ともに暗橙褐色～暗灰橙褐色～黒灰褐色。	スス付着
593-2	第109図 図版53	甕	2号周溝	③ 6.2	底部完存	調整は外面ハケ目、内面ハケ目・ナデ・一部指頭圧痕あり。 胎土は白色粗砂粒を非常に多く含む。焼成は良好。 色調は外面暗茶褐色～灰褐色、内面暗茶褐色。	
594	第109図 図版53	底部	2号周溝	③ 5.6	体部～底部 完存	調整は外面ハケ目後ナデ、内面ナデ・一部指頭圧痕あり。 胎土は粗・細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに橙灰褐色。	
595	第109図 図版53	底部	2号周溝	③ 5.0	体部～底部 完存	調整は内外面ともにナデ、内面に指頭圧痕あり。 胎土は白色粗砂粒を少量、細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに暗橙褐色。	
596	第109図	鉢	2号周溝	① (20.2)	口縁部 ～体部1/6	調整は内外面ともにハケ目、口縁部ヨコナデ。 胎土は粗・細砂粒を少量含む。焼成はやや良好。 色調は内外面ともに暗橙灰褐色。	
597-1	第109図	鉢	2号周溝	—	口縁部片	調整は内外面ともにハケ目後ナデ?、口縁部ヨコナデ? 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに暗橙灰褐色。	
597-2	第109図	鉢	2号周溝	③ (7.6)	体部 ～底部1/3	調整は内外面ともにナデ?、内面に指頭圧痕あり。 胎土は白色粗砂粒を少量、細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに暗橙灰褐色。	
598	第109図 図版54	鉢	2号周溝	① 10.5 ② 8.2 ③ 4.2	ほぼ完形	調整は外面ハケ目、内面ナデ・一部指頭圧痕あり、口縁部ヨコナデ。 胎土は粗・細砂粒を少量、細かい雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面暗橙灰褐色～暗橙黒褐色、内面暗橙灰褐色。	
599	第109図	鉢	2号周溝	① (16.0) ② (12.4) ③ (6.6)	全体の1/3	調整は内外面ともにハケ目、口縁部ヨコナデ。 胎土は白色粗・細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面暗灰橙褐色～暗灰褐色。	
600	第109図 図版54	鉢	2号周溝	① 11.1 ② 9.5 ③ 5.3	ほぼ完形	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ナデ。 胎土は白色粗砂粒をやや多く含む。焼成はやや良好。 色調は内外面ともに暗褐色～暗橙褐色～淡黄橙褐色。	
601	第109図 図版54	鉢	2号周溝	① (13.0) ② 10.0 ③ 6.0	口縁部片 ～底部 ほぼ完存	調整は外面ハケ目後ナデ?、内面ナデ・一部指頭圧痕あり、口縁部ヨコナデ。 胎土は粗砂粒を非常に多く含む。焼成は良好。 色調は外面暗茶褐色、内面茶褐色。	

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径 ④胴部最大径 ⑤脚裾部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
602	第110図	壺	P812	① (17.2)	口縁部 ～肩部1/8	調整は外面ハケ目・ヨコナデ、内面ハケ目後ナデ・ヨコナデ・指頭圧痕あり。 胎土は細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面橙褐色、内面橙色。	
603	第110図	壺	P657	—	口縁部片	調整は内外面ともに不明。内面一部指頭圧痕あり。 胎土は白色粗・細砂粒を少量含む。焼成は不良。 色調は内外面ともに淡褐色。	
604	第110図	壺	P995	—	肩部片	調整は外面ナデ・刻み目、内面ハケ目・指頭圧痕あり。 胎土は白色粗砂粒を多く、細かい角閃石を僅かに含む。 焼成は良好。 色調は内外面ともに暗橙褐色～橙褐色。	143と同一個 体か？ 線刻
605	第110図	甕	P916	① (34.6)	口縁部1/8	調整は外面不明、内面ヨコナデ。 胎土は白色粗・細砂粒を多く含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに橙色。	
606	第110図	甕	P624	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ、内面不明。 胎土は粗・細砂粒を多く含む。焼成はやや良好。 色調は内外面ともに淡橙褐色。	
607	第110図	甕	P51	① (20.4)	口縁部1/3	調整は内外面ともにハケ目・ヨコナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は白色粗・細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色～淡灰褐色～暗褐色、内面淡褐色。	
608	第110図	甕	P52	—	口縁部片	調整は外面タタキ目・ハケ目、内面ハケ目・ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は白色・赤色粗・細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色～淡褐灰色、内面淡褐色。	
609	第110図	甕	P587	—	口縁部1/6	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は赤色を含む粗・細砂粒を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面淡褐色、内面淡褐色～淡橙褐色。	
610	第110図	甕	P802	① (20.6)	口縁部1/8	調整は内外面ともにハケ目・ヨコナデ。 胎土は粗・細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面暗灰褐色、内面黄灰色。	スス付着
611	第110図	甕	P68	—	口縁部片	調整は内外面ともにハケ目・ヨコナデ。 胎土は粗・細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
612	第110図	甕	P657	—	口縁部片	調整は外面タタキ目・ハケ目・ヨコナデ、内面ハケ目。 胎土は白色粗砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成はやや 良好。 色調は外面淡褐褐色、内面淡褐色。	
613	第110図	甕	P943	—	口縁部片	調整は内外面ともにハケ目・ヨコナデ。 胎土は白色粗・細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに明橙褐色～暗褐色。	スス付着
614	第110図	甕	P68	—	口縁部片	調整は外面ヘラミガキ？ ナデ、内面ヨコナデ・ナデ・ハ ケ目。 胎土は粗・細砂粒をやや多く、細かい雲母を少量含む。 焼成は良好。 色調は外面淡灰褐色～黒褐色、内面淡褐色～褐色。	
615	第110図	底部	P657	③ (6.8)	底部1/4	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は白色粗・細砂粒、細かい雲母をやや多く含む。焼 成はやや不良。 色調は内外面ともに淡黄灰色。	
616	第110図	底部	P76	③ (8.8)	底部1/2	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ヘラケズリ？ ナデ？ 指頭 圧痕あり。 胎土は粗砂粒を多く、細砂粒を少量含む。焼成はやや良好。 色調は外面淡褐色～褐色、内面褐色～淡褐色。	
617	第110図	底部	P912	③ (8.0)	底部1/4	調整は外面ハケ目、内面ナデ。 胎土は白色粗・細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は 良好。 色調は外面褐色～暗褐色～黒褐色、内面褐色。	
618	第110図	底部	P90	③ (8.4)	底部1/3	調整は外面ヘラケズリ後ナデ・ハケ目、内面ナデ・指頭 圧痕あり。 胎土は粗・細砂粒を多く、白色細砂粒を少量含む。焼成 は良好。 色調は内外面ともに褐色～淡灰褐色。	
619	第110図	底部	P641	③ (9.4)	底部1/4	調整は外面ハケ目、内面ナデ。 胎土は白色粗・細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに暗橙褐色。	
620	第110図	鉢	P917	—	口縁部片	調整は外面ハケ目、内面ナデ。 胎土は粗砂粒をやや多く含む、赤色細砂粒を少量含む。 焼成は良好。 色調は内外面ともに橙褐色。	
621	第110図	高坏	P109	—	口縁部片	調整は内外面ともにヘラミガキ・ヨコナデ。 胎土は粗砂粒・白色細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに褐色。	
622	第110図	高坏	P922	—	坏部片	調整は不明。 胎土は白色粗・細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡黄褐色～赤褐色。	丹塗りか

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径 ④胴部最大径 ⑤脚裾部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
623	第110図 図版54	高坏	P66	—	脚部片	調整は外面ヘラミガキ、内面ナデ・しぼり痕あり。 胎土は白色細砂粒を少量含む。焼成はやや良好。 色調は外面暗橙色～淡橙色、内面淡黄褐色。	丹塗り
624	第110図 図版54	器台	P635	① 8.6 ② 16.4 ⑤ 9.4	ほぼ完形	調整は内外面ともにナデ・指頭圧痕あり、内面にしぼり 痕あり。 胎土は白色粗・細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は 良好。 色調は内外面ともに淡灰褐色～褐色～淡褐色。	
625	第110図 図版54	器台	P991	⑤ (10.1)	裾部1/2	調整は内外面ともにナデ、指頭圧痕あり。 胎土は白色粗・細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面橙灰色～橙色、内面暗灰褐色～暗灰色。	被熱あり
626	第110図	器台	P696	⑤ (10.6)	裾部1/8	調整は外面ハケ目後ナデ？ 指頭圧痕あり、内面ナデ・指 頭圧痕あり。 胎土は白色粗・細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は 良好。 色調は外面黄褐色、内面褐灰色。	
627	第110図	器台	P693	⑤ (8.0)	裾部1/2	調整は内外面ともにナデ、外面に指頭圧痕あり。 胎土は白色・赤色粗・細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色～暗黄灰色。	
628	第110図 図版54	手捏	P799	① (5.3) ② 3.7	ほぼ完形	調整は内外面ともにナデ、指頭圧痕あり。 胎土は白色・赤色粗・細砂粒・細かい雲母を少量含む。 焼成は良好。 色調は内外面ともに暗褐色。	スス付着
629	第111図 図版54	壺	中央部 包含層	① (17.6) ④ (28.3)	口縁部 ～胴部1/5	調整は内外面ともにナデ、口縁部ヨコナデ？ 胎土は白色粗砂粒・細かい雲母・角閃石を少量含む。焼 成は良好。 色調は外面淡褐色～黒褐色、内面淡褐色～淡暗褐色。	黒斑あり
630	第111図	壺	中央部 包含層	① (26.2)	口縁部1/6	調整は外面不明、内面ハケ目、口縁部ヨコナデ。 胎土は白色粗・細砂粒・赤色粗砂粒・細かい雲母を少量 含む。焼成はやや良好。 色調は外面淡褐色～淡橙褐色～淡灰色、内面淡褐色。	
631	第111図	壺	中央部 包含層	① (24.3)	口縁部1/4	調整は外面ハケ目、内面不明、口縁部ヨコナデ。 胎土は粗砂粒を多く、白色細砂粒・細かい雲母を少量含む。 焼成はやや良好。 色調は外面淡褐色～淡灰褐色、内面淡褐色～褐色。	
632	第111図 図版54	壺	中央部 包含層	① (17.4)	口縁部 ～頸部4/5	調整は外面はナデ・ハケ目、内面不明。 胎土は白色粗砂粒を多く含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに暗褐色～褐色。	スス付着
633	第111図	壺	北部包含層	① (18.0)	口縁部 ～頸部1/4	調整は不明。 胎土は白色粗砂粒を多く含む。焼成はやや不良。 色調は外面淡橙色～褐色、内面褐色～黄灰色。	
634	第111図	壺	中央部 包含層	① (12.4)	口縁部 ～肩部1/5	調整は不明、内面に指頭圧痕あり。 胎土は白色粗・細砂粒・細かい雲母・角閃石を少量含む。 焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡橙褐色。	
635	第111図	壺	中央部 包含層	① (13.0)	口縁部2/5 ～肩部2/3	調整は外面ハケ目、内面ナデ・ハケ目・指頭圧痕あり、 口縁部ヨコナデ・ハケ目。 胎土は白色粗・細砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼 成はやや良好。 色調は内外面ともに淡褐色～淡灰褐色。	
636	第111図	壺	中央部 包含層	① (20.0)	口縁部1/5	調整は外面ハケ目、内面ヨコナデ。 胎土は粗砂粒・細かい雲母を多く、細砂粒を少量含む。 焼成は良好。 色調は内外面ともに橙色～赤褐色。	丹塗り
637	第111図	壺	中央部 包含層	① (17.0)	口縁部 ～頸部1/4	調整は外面ヨコナデ、内面ナデ。 胎土は白色粗砂粒・細かい雲母・角閃石を少量含む。焼 成は良好。 色調は内外面ともに橙色。	付着物あり
638	第111図	壺	中央部 包含層	③ 6.0 ④ (15.7)	胴部1/2 底部完存	調整は外面ハケ目・ヨコナデ、内面ナデ・指頭圧痕あり。 胎土は白色粗・細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は やや良好。 色調は外面淡褐色～黒色、内面は淡褐色～淡暗褐色。	黒斑あり
639	第111図	甕	中央部 包含層	① (19.8)	口縁部1/3	調整は内外面ともにハケ目、口縁部ヨコナデ後ハケ目。 胎土は白色粗・細砂粒を多く、細かい雲母を少量含む。 焼成は良好。 色調は内外面ともに暗褐色～褐色。	
640	第111図	甕	北部包含層	① (23.8)	口縁部1/2	調整は外面ヨコナデ・ハケ目、内面ヨコナデ。 胎土は白色粗・細砂粒をやや多く含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡褐色～淡灰褐色。	
641	第111図 図版54	甕	北部包含層	① (26.6) ④ (26.1)	口縁部 ～胴部1/4	調整は内外面ともにハケ目・ヨコナデ。 胎土は白色粗・細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面灰黄色～暗灰褐色、内面は黄褐色～灰褐色。	スス付着 黒斑あり

( )は復元値

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径 ④胴部最大径 ⑤脚裾部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
642	第111図 図版54	甕	北部包含層	① (15.6) ② 16.0 ③ (6.6) ④ (16.1)	全体の2/3	調整は外面ハケ目・タタキ目後ナデ、内面ハケ目・ナデ・指頭圧痕あり。 胎土は白色粗・細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面橙色～灰黄色～暗灰色、内面は淡橙褐色～橙褐色。	スス付着 黒斑あり
643	第111図	甕	北部包含層	① (24.2)	口縁部1/8 ～肩部1/3	調整は外面タタキ目後ハケ目・ヨコナデ、内面ハケ目・ナデ・指頭圧痕あり。 胎土は白色粗・細砂粒をやや多く、細かい雲母を少量含む。 焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色～淡灰色～灰色。	
644	第111図	甕	中央部 包含層	① (25.4) ④ (28.5)	口縁部 ～胴部1/5	調整は外面ハケ目、内面ハケ目後ナデ、口縁部ヨコナデ・指頭圧痕あり。 胎土は白色粗砂粒、細かい雲母をやや多く含む。焼成はやや良好。 色調は外面淡橙色～淡褐色～暗褐色、内面淡橙色。	
645	第111図	甕	北部包含層	—	口縁部片	調整は外面ハケ目、内面不明、口縁部ヨコナデ。 胎土は粗・細砂粒をやや多く含む。焼成はやや良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
646	第111図	甕	中央部 包含層	—	口縁部片	調整は外面ハケ目、内面ナデ・ハケ目、口縁部ヨコナデ。 胎土は白色粗・細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色～淡暗褐色、内面淡褐色。	
647	第112図 図版54	甕	中央部 包含層	① (48.0)	口縁部 ～頸部2/3	調整は外面タタキ目後ハケ目、内面ハケ目後ナデ、口縁部タタキ目・ハケ目後ナデ・ヨコナデ。 胎土は白色粗・細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
648	第112図	甕	中央部 包含層	—	口縁部片	調整は外面ハケ目・ヨコナデ、内面不明。 胎土は白色粗砂粒を多く、細かい雲母を少量含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに橙色。	
649	第112図	甕	中央部 包含層	① (36.0)	口縁部 ～頸部1/6	調整は不明。 胎土は白色粗砂粒をやや多く、赤色粗砂粒を少量含む。 焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡褐色。	
650	第112図	甕	中央部 包含層	—	口縁部片	調整は外面ハケ目・ヨコナデ、内面ハケ目・ヨコナデ・指頭圧痕あり。 胎土は白色粗・細砂粒をやや多く、細かい雲母・赤色粗砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡暗褐色、内面淡灰褐色。	
651	第112図	甕	中央部 包含層	—	口縁部1/8	調整は外面不明・指頭圧痕あり、内面ヨコナデ。 胎土は赤色粗砂粒をやや多く、白色粗・細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成はやや良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
652	第112図	甕	中央部 包含層	① (9.8)	口縁部1/4	調整は外面ハケ目、内面ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は白色粗砂粒をやや多く、細かい雲母を少量含む。 焼成は良好。 色調は外面暗褐色、内面暗褐色～淡褐色。	
653	第112図	甕	中央部 包含層	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ、内面不明。 胎土は白色粗・細砂粒をやや多く、赤色粗砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡褐色。	
654	第112図	甕	中央部 包含層	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ、内面ナデ。 胎土は白色粗砂粒・赤色細砂粒・細かい雲母を少量含む。 焼成はやや良好。 色調は外面淡暗褐色、内面淡褐色。	
655	第112図	甕	北部包含層	① (20.2)	口縁部 ～肩部1/3	調整は内外面ともにハケ目後ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は白色粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面橙褐色～暗褐色、内面橙褐色。	
656	第112図	底部	中央部 包含層	③ (9.4)	底部1/3	調整は外面ハケ目、内面ナデ。 胎土は白色粗・細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面暗灰褐色～暗褐色、内面橙褐色。	スス付着
657	第112図	底部	中央部 包含層	③ 10.8	底部3/4	調整は外面ハケ目・ナデ、内面不明。 胎土は白色粗砂粒をやや多く、細かい雲母を少量含む。 焼成はやや良好。 色調は外面淡橙色～淡褐色、内面淡褐色。	
658	第112図	底部	中央部 包含層	③ 10.4	底部完存	調整は外面不明、内面ナデ、指頭圧痕あり。 胎土は白色粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡黄肌褐色～暗灰色、内面は淡黄肌色。	
659	第112図	底部	中央部 包含層	③ (9.6)	底部1/4	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は白色粗砂粒をやや多く、細かい雲母を少量含む。 焼成はやや不良。 色調は外面黒褐色、内面淡褐色。	



( )は復元値

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径 ④胴部最大径 ⑤脚裾部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
660	第112図	底部	中央部 包含層	③ 8.1	底部完存	調整は外面不明、内面ハケ後ナデ？ 胎土は白色粗・細砂粒を多く、赤色細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面明橙色～橙褐色、内面暗黄褐色～灰黄色～暗褐色。	スス付着
661	第112図	底部	中央部 包含層	③ 8.4	底部完存	調整は外面不明、内面ナデ。 胎土は白色粗砂粒を多く、細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面明橙色、内面暗黄褐色。	スス付着
662	第112図	底部	中央部 包含層	③ 6.3	底部完存	調整は内外面ともにナデ。 胎土は白色粗砂粒を非常に多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡茶褐色～暗灰色、内面黄白色～黒茶褐色。	
663	第112図	底部	中央部 包含層	③ 6.2	底部完存	調整は外面ナデ？、内面ナデ・指頭圧痕・工具痕あり。 胎土は白色粗・細砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成はやや良好。 色調は外面淡褐色～暗褐色、内面黒褐色。	
664	第112図	底部	中央部 包含層	③ 9.1	底部完存	調整は内外面ともにハケ目。 胎土は白色粗砂粒をやや多く、細かい雲母を少量含む。 焼成は良好。 色調は外面淡褐色～黒色、内面淡暗褐色。	黒斑あり
665	第112図	底部	中央部 包含層	③ 9.0	胴部1/5 ～底部3/5	調整は外面ハケ目後ナデ、内面ハケ目・ナデ・指頭圧痕あり。 胎土は白色粗砂粒をやや多く、赤色粗砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色～淡暗褐色～黒色、内面淡褐色～淡暗褐色。	黒斑あり
666	第112図	底部	中央部 包含層	③ 9.6	底部完存	調整は外面ヘラケズリ後ハケ目後ナデ、内面ハケ目・一部指頭圧痕あり。 胎土は白色粗・細砂粒を多く、細かい雲母を少量含む。 焼成はやや不良。 色調は外面淡灰褐色～褐色、内面淡灰褐色～淡褐色～褐色。	黒斑あり
667	第112図	底部	北部包含層	③ (8.8)	底部1/3	調整は外面不明、内面ナデ・指頭圧痕あり。 胎土は白色粗砂粒をやや多く、赤色細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面淡褐色、内面淡橙褐色。	穿孔あり
668	第112図	底部	中央部 包含層	③ (8.8)	底部3/5	調整は外面ハケ目、内面ナデ。 胎土は白色粗・細砂粒・赤色粗砂粒・角閃石を少量含む。 焼成はやや良好。 色調は外面淡褐色～淡橙色、内面淡褐色。	
669	第112図 図版54	底部	中央部 包含層	③ 5.5	底部完存	調整は外面板ナデ、内面ナデ・指頭圧痕あり。 胎土は白色粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄白色～淡灰茶褐色。	黒斑あり スス付着
670	第112図	底部	中央部 包含層	③ 5.3	底部完存	調整は外面ヘラケズリ後ナデ、内面ヘラケズリ。 胎土は白色粗砂粒・細かい雲母を多く、赤色粗砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに暗褐色～茶褐色。	
671	第112図	底部	北部包含層	③ 5.9	底部完存	調整は内外面ともにハケ目。 胎土は白色粗砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面褐色、内面黄褐色～褐色。	
672	第112図	底部	中央部 包含層	③ (5.3)	底部1/2	調整は外面ナデ、内面ハケ目・ナデ・指頭圧痕あり。 胎土は白色粗砂粒を多く、細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色～暗褐色。	スス付着
673	第112図	底部	北部包含層	③ 6.1	底部完存	調整は不明、指頭圧痕あり。 胎土は白色粗砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は不良。 色調は外面淡褐色～淡灰褐色、内面淡褐色。	
674	第112図	底部	中央部 包含層	③ 5.8	体部1/3 ～底部3/4	調整は外面ハケ目、内面ナデ・一部指頭圧痕あり。 胎土は白色粗・細砂粒を多く含む。焼成はやや良好。 色調は外面淡褐色～淡灰褐色～灰色、内面暗灰色～灰色～淡灰褐色。	
675	第112図	底部	北部包含層	③ (5.4)	底部2/3	調整は内外面ともにナデ・指頭圧痕あり。 胎土は白色粗砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに暗褐色。	スス付着
676	第112図	底部	中央部 包含層	③ (7.4)	体部～底部 1/2	調整は外面ヘラケズリ後ナデ、内面ヘラケズリ。 胎土は白色粗・細砂粒・細かい角閃石をやや多く、細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色～淡灰褐色～淡橙色、内面淡褐色～淡褐色。	
677	第113図 図版55	鉢	中央部 包含層	① (25.8) ④ (25.6)	口縁部 ～胴部2/5	調整は内外面ともにハケ目。 胎土は白色粗・細砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成はやや良好。 色調は外面淡褐色～黒褐色、内面淡褐色。	
678	第113図	鉢	中央部 包含層	① (20.0)	口縁部1/4	調整は外面ハケ目、内面ナデ・工具痕あり、口縁部コロナデ。 胎土は白色粗・細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色～淡灰褐色～暗灰褐色。	



番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径 ④胴部最大径 ⑤脚裾部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
679	第113図	鉢	中央部 包含層	—	口縁部片	調整は外面タタキ目・ハケ目・ナデ、内面ハケ目・ナデ。 胎土は白色粗・細砂粒を多く、細かい角閃石・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに暗黄褐色～灰褐色。	スス付着
680	第113図	鉢	中央部 包含層	—	口縁部片	調整は外面ハケ目?・ヨコナデ・指頭圧痕あり、内面ハケ目。 胎土は粗砂粒をやや多く、細かい雲母・角閃石を少量含む。 焼成は良好。 色調は外面淡暗褐色、内面淡暗褐色～黒褐色。	黒斑あり
681	第113図	鉢	中央部 包含層	—	口縁部片	調整は内外面ともにハケ目後ナデ? 口縁部ヨコナデ。 胎土は白色粗・細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
682	第113図	鉢	北部包含層	—	口縁部片	調整は外面タタキ目、内面ハケ目。 胎土は白色細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡灰褐色。	
683	第113図	高坏	北部包含層	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は白色粗砂粒をやや多く含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡橙褐色。	
684	第113図	高坏	9号掘立 東側包含層	—	口縁部片	調整は外面ヘラミガキ、内面ヨコナデ。 胎土は白色粗・細砂粒をやや多く、赤色粗砂粒・細かい 雲母を少量含む。焼成はやや良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
685	第113図	高坏	中央部 包含層	—	坏部 ～脚部1/2	調整は外面不明、内面ヘラミガキ? 胎土は細砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面褐色～明褐色、内面明褐色～淡橙色。	穿孔あり
686	第113図	高坏	中央部 包含層	① (20.4)	口縁部 ～坏部2/5	調整は不明。 胎土は白色粗砂粒・赤色粗砂粒・細かい雲母を少量含む。 焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡褐色。	丹塗りか
687	第113図 図版55	器台	北部包含層	② 12.3 ⑤ 12.1	ほぼ完存	調整は外面ハケ目・ナデ・指頭圧痕あり、内面ナデ・ハケ目。 胎土は白色粗砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面橙色～黄灰色～褐色、内面橙色～橙褐色。	スス付着
688	第113図	器台	北部包含層	—	口縁部1/3	調整は外面タタキ目・ナデ・指頭圧痕あり、内面ナデ・ 指頭圧痕あり。 胎土は粗・細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色～褐色。	
689	第113図	器台	中央部 包含層	⑤ (17.0)	裾部1/4	調整は外面タタキ目後ハケ目・ナデ・指頭圧痕あり、内面ハケ目。 胎土は白色粗砂粒を多く含む、細かい雲母を少量含む。 焼成は良好。 色調は内外面ともに橙色～黄褐色～黄褐色～暗黄褐色。	スス付着
690	第113図	器台	中央部 包含層	⑤ (8.6)	裾部1/8	調整は外面ナデ後ハケ目・ヨコナデ、内面ナデ・ヨコナデ。 胎土は白色粗・細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに橙色～暗褐色。	スス付着
691	第113図	器台	中央部 包含層	⑤ (9.9)	裾部1/3	調整は内外面ともにナデ・指頭圧痕あり。 胎土は白色粗砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色～褐色、内面褐色～暗茶褐色。	スス付着
692	第113図	蓋	中央部 包含層	① (14.0)	全体の1/2	調整は不明、一部指頭圧痕あり。 胎土は白色・赤色細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
693	第113図 図版55	手捏	中央部 包含層	① (6.8) ② 4.15 ③ 5.1	ほぼ完形	調整は外面ナデ後ハケ目・指頭圧痕あり、内面ナデ・指 頭圧痕あり。 胎土は白色粗砂粒を多く含む、細かい雲母を少量含む。 焼成は良好。 色調は外面暗灰黄褐色、内面暗黄褐色～茶褐色。	
694	第139図 図版55	甕	2号住居	① (26.6)	全体の1/3	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ヘラケズリ、口縁部ハケ 目後ヨコナデ。 胎土は粗砂粒・細かい雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡黄褐色。	
695	第139図	甕	2号住居	—	口縁部片	調整は外面ハケ目? 指頭圧痕あり、内面ヘラケズリ、口 縁部ヨコナデ? 胎土は白色粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は やや不良。 色調は内外面ともに褐色～暗褐色。	スス付着
696	第139図 図版55	甕	2号住居	—	底部完存	調整は外面ハケ目後ナデ、内面ヘラケズリ・ナデ・一部 指頭圧痕あり。 胎土は細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面暗茶褐色、内面淡黄褐色。	スス付着
697	第139図 図版55	鉢	2号住居	① (31.0)	坏部1/6	調整は外面ハケ目、内面ヘラケズリ、口縁部ヨコナデ。 胎土は細砂粒・細かい角閃石を少量含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに暗褐色。	黒斑あり
698	第139図 図版55	坏身	2号住居	① 13.7 ② 4.6 高台径 9.0	ほぼ完形	調整は外面回転ナデ・回転ヘラ切り、内面回転ナデ・ナデ。 胎土は黒色・白色細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄灰色。	
699	第139図 図版55	坏身	2号住居	① 11.7 ② 3.4 高台径 8.3	ほぼ完形	調整は外面回転ナデ・回転ヘラ切り、内面回転ナデ。 胎土は白色細砂粒を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面白灰色、内面暗茶灰色。	油煙あり

( )は復元値

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量 ①口径 ②器高 (cm) ③底径 ④胴部最大径 ⑤脚裾部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
700	第139図 図版55	皿	2号住居	① (21.4) ② 3.0 ③ (19.4)	全体の3/4	調整は外面回転ナデ・回転ヘラケズリ、内面回転ナデ。 胎土は細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡茶灰色、内面淡黄灰色。	
701	第139図 図版55	甕	3号住居 床面	① (26.2)	口縁部 ～体部1/6	調整は外面ハケ目・一部指頭圧痕、内面ヘラケズリ、口 縁部ナデ。 胎土は白色粗砂粒・細かい雲母をやや多く、赤色粗砂粒 を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡橙褐色。	
702	第139図 図版55	甕	3号住居 床面	—	体部 ～底部片	調整は外面ハケ目、内面ヘラケズリ後ナデ・一部指頭圧 痕あり。 胎土は白色粗砂粒・細かい雲母をやや多く、赤色粗砂粒 を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡橙褐色～茶褐色。	
703	第139図 図版55	坏	3号住居 床面	高台径 (13.0)	高台部1/8	調整は内外面ともにナデ。 胎土は白色細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに暗橙褐色。	
704	第139図	坏蓋	3号住居 床面	—	口縁部片	調整は内外面ともに回転ナデ。 胎土は精製。焼成は良好。 色調は内外面ともに暗灰色。	
705	第139図 図版55	壺	3号住居 P1	③ (12.2)	胴部 ～底部1/3	調整は外面回転ナデ・回転ヘラケズリ・回転ヘラ切り後 ナデ、内面回転ナデ。 胎土は白色・黒色細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡黄灰色。	
706	第139図 図版55	甕	4号住居 床面	① 21.1	全体の1/4	調整は外面ハケ目、内面ヘラケズリ、口縁部ハケ目後ナデ。 胎土は白色粗砂粒・細かい雲母をやや多く、赤色粗砂粒 を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡橙褐色～橙褐色～茶褐色。	
707	第139図 図版55	甕	4号住居 床面	① (18.5)	全体の1/5	調整は外面ハケ目後ナデ・一部指頭圧痕あり、内面ヨコ ナデ・ヘラケズリ。 胎土は白色粗砂粒・細かい雲母をやや多く含む。焼成は 良好。 色調は内外面ともに白褐色～橙褐色。	
708	第139図 図版55	焼塩 土器	4号住居 カマド東側	—	底部完存	調整は不明。 胎土は粗砂粒・細かい雲母を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色。	
709	第139図 図版55	皿	4号住居 南側攪乱 ピット	① 19.9 ② 2.7 ③ 16.0	全体の3/4	調整は外面回転ナデ・回転ヘラケズリ、内面回転ナデ。 胎土は細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡茶灰色。	
710	第139図	高坏	4号住居	① (18.6)	坏部1/8	調整は外面回転ナデ・回転ヘラケズリ、内面回転ナデ。 胎土は細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに灰色。	
711	第140図	甕	14号土坑	① (29.0)	口縁部1/6	調整は外面ハケ目・ヨコナデ・指頭圧痕あり、内面ヘラ ケズリ・ヨコナデ。 胎土は粗砂粒・細かい雲母・赤色粗砂粒を少量含む。焼 成は良好。 色調は外面淡褐色～淡暗褐色、内面淡褐色～淡灰色。	スス付着
712	第140図	鉢	14号土坑	—	口縁部片	調整は外面ハケ目、内面ヘラケズリ。 胎土は白色粗砂粒をやや多く、細かい雲母・角閃石を少 量含む。焼成はやや良好。 色調は外面淡暗褐色、内面淡橙色。	スス付着
713	第140図	坏身	14号土坑	—	口縁部片	調整は内外面ともに回転ナデ。 胎土は白色細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡灰色～灰色、内面は淡灰色。	
714	第141図	把手	北部包含層	—	把手部のみ	調整は外面ナデ?、内面ヘラケズリ。 胎土は白色粗砂粒・赤色粗砂粒・細かい雲母を少量含む。 焼成はやや良好。 色調は外面淡橙色～淡褐色、内面淡橙色。	
715	第141図	把手	北部包含層	—	把手部のみ	調整は外面ナデ・ハケ目、内面ヘラケズリ。 胎土は白色粗砂粒・赤色粗砂粒・細かい雲母を少量含む。 焼成は良好。 色調は内外面ともに淡橙色。	
716	第141図 図版55	坏蓋	中央部 包含層	① (15.2) ② 2.6 つまみ径 2.9	ほぼ完形	調整は外面回転ナデ・ナデ、内面回転ナデ・ナデ。 胎土は粗砂粒を少量含む。焼成は不良。 色調は内外面ともに明褐色～暗橙褐色。	スス付着
717	第141図	鉢	北部包含層	① (18.3)	口縁部1/8	調整は回転ナデ・暗赤褐色の施釉。 胎土は精製。焼成は堅緻。 色調は素地は赤灰褐色、釉調は暗赤褐色。	
718	第141図	碗	北部包含層	—	高台部 ほぼ完存 体部1/10	調整は外面回転ヘラケズリ・施釉、内面回転ナデ・施釉。 胎土は精製。焼成は堅緻。 色調は素地は灰色～暗灰色、釉調は暗淡緑灰色。	目跡あり スス付着

表4 出土土製品観察表

( )は残存値

番号	挿図図版	種別	出土位置	法量(cm)	残存状態	色調	調整及び特徴	備考
1	第114図 図版56	土製鏡	32号住居	長さ：(3.2) 幅：(4.6) 厚さ：1.5	全体の1/2	外面：淡橙白色～黒茶色 内面：淡黄白色～淡灰黄色 断面：淡橙白色	調整は内外面ともにナデ？、 一部指頭圧痕あり。 胎土は5mm以下の砂粒・角閃 石を含み、やや粗。 焼成は良好。	
2	第114図 巻頭図版6 図版56	鐸型 土製品	18号住居	器高：(5.5) 孔径：0.3～0.6	推定2/3	外面：赤褐色 内面・断面：浅黄橙色	調整は外面ハケ目後ナデ、 内面シボリ？ヘラナデ？ 一部ハケ目あり。 胎土は白色・赤色細砂粒を 含む。 焼成は良好。	丹塗り 穿孔4
3	第114図 図版56	投弾	24号住居	長さ：(4.1) 幅：2.4 厚さ：(2.15)	全体の5/6	淡茶黄色～淡黄橙色	調整はナデ。 胎土は5mm以下の砂粒を含 み、やや密。 焼成は良好。	黒斑あり
4	第114図 図版56	投弾	13号住居 北部ベッド	長さ：(4.0) 幅：2.6 厚さ：(2.1)	全体の3/4	淡橙白色	調整は不明。 胎土は6mm以下の砂粒・赤色 砂粒を含み、やや密。 焼成は良好。	
5	第114図 図版56	投弾	42号住居 屋内土坑	長さ：(3.6) 幅：(2.0) 厚さ：2.0	全体の5/6	茶色～黒茶色	調整はナデ。 胎土は3mm以下の砂粒・赤色 砂粒を含み、やや密。 焼成は良好。	
6	第114図 図版56	投弾	P996	長さ：(2.85) 幅：2.25 厚さ：(2.0)	全体の5/6	外面：黒茶色 断面：淡茶色	調整はナデ。 胎土は4mm以下の砂粒・細か い雲母を含み、やや密。 焼成は良好。	
7	第114図 図版56	用途不明 土製品	31号住居	長さ：(6.2) 幅：(6.0) 厚さ：2.95	破片	淡黄白色～橙色	調整は一部ハケ目あり。 胎土は5mm以下の砂粒と細か い雲母を含み、密。 焼成は良好。	
8	第114図 図版56	用途不明 土製品	37号住居	長さ：(4.3) 幅：(3.9) 厚さ：(2.9)	破片	橙色～淡黄灰色	調整はナデ。 胎土は白色細砂粒を少量含 む。 焼成は良好。	
9	第114図 図版56	用途不明 土製品	38号住居	長さ：(5.2) 幅：(11.4) 厚さ：3.8	破片	淡黄褐色～淡橙色(赤変)	調整はナデ。 胎土は白色粗砂粒を含む。 焼成は良好。	被熱による 赤変あり
10	第114図	用途不明 土製品	19号土坑	長さ：(4.2) 幅：7.25 厚さ：2.5	破片	黄褐色	調整はナデ。 胎土は粗、スサが入る。 焼成は不良。	

表5 出土鉄器観察表

( ) は残存値

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量(cm)			備考
				長さ	幅	厚さ	
1	第115図 図版57	鉄鎌	37号掘立 P4	3.90	3.35	0.25	穿孔3
2	第115図 図版57	鉄鎌	28号住居 東ベッド直上	5.55	2.85	0.25	穿孔2
3	第115図 図版57	無茎式鉄鎌	39号住居	5.60	3.15	0.20	穿孔2
4	第115図 図版57	鉄鎌	15号住居 上層	(3.70)	(2.45)	0.25	穿孔2
5	第115図 図版57	鉄鎌	5号住居 主柱穴(北)	(1.45)	(2.00)	0.25	
6	第115図 図版57	曲刃鎌	30号住居	15.45	3.95	0.40	
7	第115図 図版57	直刃鎌	35号住居	18.95	3.10	0.80	
8	第115図 図版57	鎌 切先部か?	P993	(5.30)	2.00	0.35	
9	第115図 図版57	鉄鎌	37号住居	(5.35)	2.80	0.35	
10	第115図 図版57	鉄鎌 切先部か?	32号住居 南隅	(4.00)	(3.00)	0.25	
11	第115図 図版57	鉄鎌?	32号住居 P5	(3.45)	(2.70)	0.60	
12	第115図 図版57	鑄造鉄斧	37号住居	(11.00)	8.60	(2.55)	2条突帯
13	第116図 図版57	袋状鉄斧	13号住居 南東部表層	6.60	3.35	1.85	有帯
14	第116図 図版57	袋状鉄斧	31号住居	5.50	2.20	1.40	有帯
15	第116図 図版57	袋状鉄斧	8号住居 床面	8.05	2.80	1.70	袋部断面方形
16	第116図 図版57	袋状鉄斧	21号掘立 P2	4.45	2.50	1.20	袋部断面方形
17	第116図 図版57	袋状鉄斧	27号住居	(3.60)	2.35	(1.35)	
18	第116図 図版57	袋状鉄斧	37号住居 上層	(4.80)	3.15	0.40	
19	第116図 図版57	袋状鉄斧	30号住居	(4.10)	(1.65)	0.30	
20	第116図 図版57	板状鉄斧	22号住居	4.60	2.70	0.45	
21	第116図 図版58	鈍	13号住居	12.35	1.30	0.35	
22	第116図 図版58	鈍	39号住居	14.90	1.30	0.45	
23	第116図 図版58	鈍	38号住居	(13.25)	1.30	0.45	
24	第116図 図版58	鈍	15号住居 中央部下層	(5.15)	1.35	0.45	
25	第116図 図版58	鈍	14号住居 中央部上層	7.60	1.15	0.30	
26	第116図 図版58	鈍 切先	12号掘立 P1	(3.95)	(0.95)	0.30	
27	第116図 図版58	鈍	31号住居	(6.40)	1.15	(0.35)	木質は柄に伴うものか不明
28	第116図 図版58	鈍	32号住居 P3	(7.85)	1.25	0.35	
			32号住居	(9.80)	1.30	0.45	
29	第117図 図版58	鈍片	42号住居 屋内土坑上層	(1.80)	1.45	0.30	

( )は残存値

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量(cm)			備考
				長さ	幅	厚さ	
30	第117図 図版58	鈍?	32号住居	(1.70)	(1.35)	(0.20)	
31	第117図 図版58	鈍	39号住居 南部上層	(1.95)	1.25	0.20	
32	第117図 図版58	鈍?	17号住居	(2.65)	(1.20)	(0.30)	
33	第117図 図版58	鈍	20号住居 西壁上層	(8.30)	1.05	0.40	身部が曲がる
34	第117図 図版58	素環頭刀子	32号住居	19.45	3.10	0.40	木質付着
35	第117図 図版58	刀子	32号住居 炉内	(3.95)	1.00	0.40	
36	第117図 図版58	刀子	38号住居 屋内土坑 最上層攪乱か?	(3.65)	0.90	0.20	
37	第117図 図版58	刀子	20号住居 南壁上層	(8.15)	(1.45)	0.40	身部が曲がる
38	第117図 図版58	刀子	20号住居 中央部上層	(5.00)	1.50	0.30	
39	第117図 図版58	刀子	38号住居	(4.80)	1.30	0.35	
40	第117図 図版59	鈍状工具	31号住居	7.05	0.75	0.35	鏝の可能性あり、木質付着
41	第117図 図版59	穿孔具?	37号住居	(4.60)	0.55	0.30	木質付着
42	第117図 図版59	穿孔具?	30号掘立 P4	(2.45)	0.50	0.35	
43	第117図 図版59	棒状鉄製品	37号住居	(2.85)	0.40	0.35	
44	第117図 図版59	棒状鉄製品	30号掘立 P4	(3.20)	0.45	0.30	
45	第117図 図版59	棒状鉄製品	17号住居	(3.00)	0.40	0.45	
46	第117図 図版59	棒状鉄製品	38号住居 P2南側床面	(2.00)	0.80	(0.25)	
47	第117図 図版59	棒状鉄製品	32号住居	(2.60)	0.70	0.40	
48	第117図 図版59	棒状鉄製品	32号住居	(1.95)	0.75	0.40	
49	第117図 図版59	棒状鉄製品	32号住居	(2.20)	0.55	0.25	
50	第117図 図版59	棒状鉄製品	16号住居	(2.50)	0.55	0.40	
51	第117図 図版59	板状鉄器	27号住居	(4.85)	(3.10)	0.45	鑄造鉄斧再加工品?
52	第118図 図版59	不明鉄器	10号住居	(6.60)	2.20	1.25	
53	第118図 図版59	鉄片	37号住居	4.45	(2.25)	(0.20)	刃部がある可能性あり 未成品か?
54	第118図 図版59	鉄片	13号住居	(1.95)	(3.40)	0.25	
55	第118図 図版59	鉄片	32号住居	(3.80)	(2.30)	(0.55)	
56	第118図 図版59	鉄片	38号住居	(4.20)	(1.45)	(0.70)	
57	第118図 図版59	鉄片	32号住居	(4.05)	0.95	0.35	
58	第118図 図版59	鉄器	15号住居 北西部上層	2.50	1.70	0.30	
59	第118図 図版59	鉄片	31 ~ 33号住居 遺構検出時	(3.00)	1.50	0.25	

( )は残存値

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量(cm)			備考
				長さ	幅	厚さ	
60	第118図 図版59	不明鉄器	32号住居	2.40	1.50	0.35	
61	第118図 図版59	鉄片	32号住居	(2.75)	1.00	0.45	
62	第118図 図版59	鉄片	10号住居	2.60	3.80	(0.30)	木質付着
63	第118図 図版59	不明鉄器	24号住居	(5.35)	(2.00)	(1.30)	
64	第118図 図版59	鉄片	12号住居 北面上層	(3.70)	(3.05)	0.40	側縁は全て欠損
65	第118図 図版59	鉄片	37号住居	(4.90)	(3.35)	0.15	混入品？
66	第118図 図版59	鉄片	P682	(2.40)	(1.95)	0.10	側縁は全て欠損・混入品？
67	第118図 図版59	鉄器	12号住居 北面上層	(2.30)	(3.25)	(0.70)	混入品？
68	第118図 図版59	鉄釘	38号住居 屋内土坑 最上層攪乱か？	(5.20)	0.55	0.50	混入品？
69	第118図 図版59	鉄滓	20号住居 床面	2.10	3.45	1.40	
70	第142図 図版59	鉄滓	2号住居	3.40	4.10	2.20	

表6 出土石製玉類観察表

( )は残存値

番号	挿図 図版	種別	出土位置	計測値(cm)			石材	色調	備考
				長さ	幅	厚さ			
1	第120図 巻頭図版7	勾玉	13号住居	2.45	1.55	0.75	滑石	暗緑色～黒色	完形
2	第120図 巻頭図版7	勾玉	P997	1.50	0.95	0.40	蛇紋岩	乳白色に黒色の斑点	ほぼ完形
3	第120図 巻頭図版7	勾玉	28号住居	1.60	1.10	0.45	濃緑色半透明の石	緑色～暗緑色 黄白色の筋が入る	完形
4	第120図 巻頭図版7	勾玉未成品？	32号住居	1.65	0.80	0.50	濃緑色半透明の石	緑色～暗緑色	未成品
5	第120図 巻頭図版7	石製垂飾	32号住居 屋内土坑	0.88	0.80	0.39	濃緑色半透明の石	緑色～暗緑色 褐色の筋が入る	完形
6	第120図 巻頭図版7	未成品	32号住居	2.20	0.80	0.65	濃緑色半透明の石	黄褐色～黄緑色 暗灰緑色～暗灰色	
7	第120図 巻頭図版7	未成品	32号住居	1.05	0.90	0.29	濃緑色半透明の石	緑色～暗緑色 雲母が入る	
8	第120図 巻頭図版7	管玉	31号住居 遺構検出時	0.90	0.33	(0.25)	碧玉	淡緑灰色に黒い斑点	ほぼ完形
9	第120図 巻頭図版7	管玉	21号住居	0.78	0.76	(0.45)	ガラス	灰白色～灰色	残存1/2以下
10	第120図 巻頭図版7	未成品	32号住居 上層	3.05	0.95	0.59	濃緑色半透明の石	明緑色～暗緑色 金・褐色の筋が入る	ほぼ完形
11	第120図 巻頭図版7	工具？	30号住居	3.15	0.65	0.70	桂化木	淡黄褐色～淡褐色	穿孔具？



表7 出土ガラス製玉類観察表

( )は復元値

番号	挿入 図版	出土位置	外径 (mm)	厚さ (mm)	孔径 (mm)	重さ (g)	色調	番号	挿入 図版	出土位置	外径 (mm)	厚さ (mm)	孔径 (mm)	重さ (g)	色調
1	第121図 巻頭図版8	5号住居	6.70	6.00	2.00	0.32	紺	31	第121図 巻頭図版8	18号住居	3.20	2.50	1.00	0.04	青・半透明
2	第121図 巻頭図版8	5号住居	(3.00)	2.20	—	0.02	青・半透明	32	第121図 巻頭図版8	20号住居	4.70	2.50	1.50	0.08	紺
3	第121図 巻頭図版8	5号住居	(4.30)	3.20	(1.00)	0.05	青・半透明	33	第121図 巻頭図版8	27号住居	3.70	2.20	1.50	0.05	青・半透明
4	第121図 巻頭図版8	5号住居	4.00	2.50	1.20	0.05	青・半透明	34	第121図 巻頭図版8	28号住居	6.30	3.40	2.10	0.21	紺
5	第121図 巻頭図版8	5号住居	(4.00)	2.00	(1.00)	0.03	紺・半透明	35	第121図 巻頭図版8	28号住居	4.10	3.30	1.50	0.07	青・半透明
6	第121図 巻頭図版8	5号住居	3.50	2.20	1.50	0.03	青・半透明	36	第121図 巻頭図版8	28号住居	1.40	1.00	0.35	0.01 以下	青緑
7	第121図 巻頭図版8	5号住居	3.70	2.00	1.10	0.03	青・半透明	37	第121図 巻頭図版8	28号住居	2.00	1.50	0.75	0.01	青緑
8	第121図 巻頭図版8	6号住居	4.50	2.50	1.70	0.06	青・半透明	38	第121図 巻頭図版8	28号住居	3.70	2.90	0.70	0.04	青・半透明
9	第121図 巻頭図版8	12号住居	2.40	1.80	0.50	0.02	青緑	39	第121図 巻頭図版8	28号住居	3.30	2.00	1.20	0.03	青・半透明
10	第121図 巻頭図版8	14号住居	4.60	4.20	1.50	0.09	青・半透明	40	第121図 巻頭図版8	31号住居	2.90	1.80	0.90	0.03	青・半透明
11	第121図 巻頭図版8	14号住居	3.10	2.00	1.00	0.03	青・半透明	41	第121図 巻頭図版8	31号住居	3.20	2.40	0.50	0.04	青・半透明
12	第121図 巻頭図版8	14号住居	3.20	4.10	1.00	0.06	青・半透明	42	第121図 巻頭図版8	32号住居	3.10	1.70	1.40	0.03	青・半透明
13	第121図 巻頭図版8	14号住居	4.00	3.50	1.30	0.08	やや緑が かった青・半透明	43	第121図 巻頭図版8	32号住居	2.90	2.30	1.00	0.03	青・半透明
14	第121図 巻頭図版8	14号住居	4.50	4.50	1.70	0.13	青・半透明	44	第121図 巻頭図版8	32号住居	3.10	2.10	1.00	0.03	青・半透明
15	第121図 巻頭図版8	14号住居	5.40	4.30	2.00	0.15	青・半透明	45	第121図 巻頭図版8	32号住居	2.60	2.40	0.75	0.02	青・半透明
16	第121図 巻頭図版8	14号住居	3.60	2.60	1.70	0.04	青・半透明	46	第121図 巻頭図版8	32号住居	3.90	3.30	1.50	0.06	青・半透明
17	第121図 巻頭図版8	14号住居	4.40	3.90	2.00	0.11	青・半透明	47	第121図 巻頭図版8	32号住居	3.60	2.10	1.50	0.04	青・半透明
18	第121図 巻頭図版8	14号住居	4.90	2.10	2.00	0.06	青・半透明	48	第121図 巻頭図版8	32号住居	3.30	1.90	1.00	0.04	青・半透明
19	第121図 巻頭図版8	14号住居	4.30	2.00	2.30	0.04	青・半透明	49	第121図 巻頭図版8	32号住居	3.10	2.20	1.00	0.03	青・半透明
20	第121図 巻頭図版8	14号住居	(3.50)	(4.00)	(1.00)	0.029	紺	50	第121図 巻頭図版8	32号住居	3.30	1.40	1.00	0.02	紺・半透明
21	第121図 巻頭図版8	15号住居	2.30	1.50	1.00	0.02	青緑	51	第121図 巻頭図版8	32号住居	5.60	4.50	1.50	0.19	紺
22	第121図 巻頭図版8	15号住居	2.80	1.60	0.50	0.03	青緑	52	第121図 巻頭図版8	32号住居	4.70	2.60	1.00	0.09	青・半透明
23	第121図 巻頭図版8	15号住居	2.40	1.40	0.75	0.02	青緑	53	第121図 巻頭図版8	32号住居	2.80	4.30	1.10	0.03	青・半透明
24	第121図 巻頭図版8	15号住居	1.70	1.20	0.75	0.01	青緑	54	第121図 巻頭図版8	32号住居	4.20	3.00	1.25	0.06	青・半透明
25	第121図 巻頭図版8	15号住居	2.75	1.50	1.20	0.02	青緑	55	第121図 巻頭図版8	32号住居	5.80	5.70	1.50	0.27	紺
26	第121図 巻頭図版8	15号住居	2.70	2.60	1.00	0.03	青・半透明	56	第121図 巻頭図版8	32号住居	6.60	4.50	1.70	0.27	青・半透明
27	第121図 巻頭図版8	18号住居	4.20	3.10	1.50	0.07	青・半透明	57	第121図 巻頭図版8	32号住居	2.60	1.50	1.00	0.02	青・半透明
28	第121図 巻頭図版8	18号住居	3.50	1.90	0.50	0.04	青・半透明	58	第121図 巻頭図版8	32号住居	5.30	3.40	1.10	0.13	青・半透明
29	第121図 巻頭図版8	18号住居	4.80	2.30	1.50	0.07	青・半透明	59	第121図 巻頭図版8	32号住居	4.30	3.60	1.50	0.10	紺
30	第121図 巻頭図版8	18号住居	5.30	3.20	1.70	0.12	青・半透明	60	第121図 巻頭図版8	32号住居	4.10	3.20	1.00	0.06	青・半透明

( )は復元値

番号	挿入 図版	出土位置	外径 (mm)	厚さ (mm)	孔径 (mm)	重さ (g)	色調	番号	挿入 図版	出土位置	外径 (mm)	厚さ (mm)	孔径 (mm)	重さ (g)	色調
61	第121図 巻頭図版8	32号住居	5.00	3.00	1.50	0.07	青・半透明	91	第122図 巻頭図版8	33号住居	3.50	2.20	1.20	0.03	青・半透明
62	第121図 巻頭図版8	32号住居	4.00	4.00	1.00	0.10	青・半透明	92	第122図 巻頭図版8	33号住居	3.40	1.80	1.60	0.03	青・半透明
63	第121図 巻頭図版8	32号住居	4.50	2.60	1.70	0.07	紺・半透明	93	第122図 巻頭図版8	33号住居	3.10	2.70	1.00	0.04	青・半透明
64	第121図 巻頭図版8	32号住居	2.80	1.10	1.20	0.02	青・半透明	94	第122図 巻頭図版8	33号住居	2.50	2.20	1.00	0.02	青・半透明
65	第121図 巻頭図版8	32号住居	3.00	3.20	0.50	0.01	青	95	第122図 巻頭図版8	33号住居	3.20	3.80	1.00	0.04	紺・半透明
66	第121図 巻頭図版8	32号住居	4.30	2.80	1.80	0.07	青・半透明	96	第122図 巻頭図版8	33号住居	3.70	2.00	1.50	0.04	紺・半透明
67	第121図 巻頭図版8	32号住居	2.80	2.60	1.00	0.04	青・半透明	97	第122図 巻頭図版8	33号住居	3.10	1.80	1.70	0.03	紺・半透明
68	第121図 巻頭図版8	32号住居	3.00	2.70	1.00	0.03	青・半透明	98	第122図 巻頭図版8	33号住居	3.20	2.70	1.50	0.04	紺・半透明
69	第121図 巻頭図版8	32号住居	3.80	1.90	1.50	0.03	紺・半透明	99	第122図 巻頭図版8	33号住居	4.10	2.00	1.50	0.04	紺・半透明
70	第121図 巻頭図版8	33号住居	3.50	2.10	1.10	0.03	青・半透明	100	第122図 巻頭図版8	33号住居	4.00	2.40	1.50	0.05	紺・半透明
71	第121図 巻頭図版8	33号住居	3.40	2.50	1.50	0.03	青・半透明	101	第122図 巻頭図版8	33号住居	4.00	2.70	1.00	0.05	紺・半透明
72	第121図 巻頭図版8	33号住居	3.00	2.20	1.50	0.03	青・半透明	102	第122図 巻頭図版8	33号住居	4.00	2.90	1.50	0.06	紺・半透明
73	第121図 巻頭図版8	33号住居	3.10	2.00	1.50	0.03	青・半透明	103	第122図 巻頭図版8	33号住居	5.50	4.00	1.30	0.16	青・半透明
74	第121図 巻頭図版8	33号住居	3.30	2.50	1.50	0.03	青・半透明	104	第122図 巻頭図版8	33号住居	3.00	1.50	1.20	0.02	青・半透明
75	第121図 巻頭図版8	33号住居	3.00	1.80	1.00	0.02	青・半透明	105	第122図 巻頭図版8	33号住居	3.50	1.50	1.50	0.02	紺・半透明
76	第121図 巻頭図版8	33号住居	3.40	2.20	1.50	0.03	青・半透明	106	第122図 巻頭図版8	33号住居	2.30	2.30	0.90	0.02	青
77	第121図 巻頭図版8	33号住居	3.00	2.20	1.20	0.03	青・半透明	107	第122図 巻頭図版8	33号住居	3.00	2.30	1.00	0.03	青・半透明
78	第121図 巻頭図版8	33号住居	3.10	2.50	1.50	0.04	青・半透明	108	第122図 巻頭図版8	33号住居	3.00	1.50	1.00	0.02	青
79	第121図 巻頭図版8	33号住居	3.30	2.00	1.40	0.03	青・半透明	109	第122図 巻頭図版8	33号住居	3.50	2.20	1.50	0.03	青・半透明
80	第121図 巻頭図版8	33号住居	3.70	2.10	1.50	0.04	青・半透明	110	第122図 巻頭図版8	33号住居	3.50	2.50	1.50	0.04	青・半透明
81	第121図 巻頭図版8	33号住居	3.00	3.00	1.50	0.03	青・半透明	111	第122図 巻頭図版8	33号住居	3.50	2.00	1.20	0.03	青・半透明
82	第121図 巻頭図版8	33号住居	3.70	2.50	1.00	0.04	青・半透明	112	第122図 巻頭図版8	33号住居	3.50	1.90	1.50	0.03	青
83	第121図 巻頭図版8	33号住居	3.10	2.40	1.10	0.03	青・半透明	113	第122図 巻頭図版8	33号住居	3.80	2.00	1.10	0.03	紺・半透明
84	第121図 巻頭図版8	33号住居	3.10	2.40	1.50	0.03	青・半透明	114	第122図 巻頭図版8	33号住居	3.20	1.90	1.00	0.03	紺・半透明
85	第121図 巻頭図版8	33号住居	3.10	2.10	1.00	0.03	青・半透明	115	第122図 巻頭図版8	33号住居	3.70	1.70	1.20	0.04	紺・半透明
86	第121図 巻頭図版8	33号住居	3.00	2.50	1.20	0.03	青・半透明	116	第122図 巻頭図版8	33号住居	3.30	1.90	1.20	0.02	紺・半透明
87	第121図 巻頭図版8	33号住居	3.40	1.80	1.60	0.03	青・半透明	117	第122図 巻頭図版8	33号住居	3.20	1.60	1.20	0.02	紺
88	第121図 巻頭図版8	33号住居	3.50	1.30	1.70	0.02	青・半透明	118	第122図 巻頭図版8	35号住居	7.10	5.00	2.00	0.25	青・半透明
89	第121図 巻頭図版8	33号住居	3.60	2.40	1.70	0.03	青・半透明	119	第122図 巻頭図版8	35号住居	3.70	2.10	1.50	0.04	青・半透明
90	第121図 巻頭図版8	33号住居	3.50	2.00	1.50	0.03	青・半透明	120	第122図 巻頭図版8	35号住居	3.70	3.60	1.20	0.07	青・半透明

( )は復元値

番号	挿入 図版	出土位置	外径 (mm)	厚さ (mm)	孔径 (mm)	重さ (g)	色調	番号	挿入 図版	出土位置	外径 (mm)	厚さ (mm)	孔径 (mm)	重さ (g)	色調
121	第122図 巻頭図版8	35号住居	3.50	2.30	1.50	0.05	紺	148	第122図 巻頭図版8	42号住居	4.00	2.70	1.80	0.06	青・半透明
122	第122図 巻頭図版8	35号住居	4.60	2.50	1.50	0.07	青・半透明	149	第122図 巻頭図版8	42号住居	3.30	2.90	1.10	0.06	紺
123	第122図 巻頭図版8	35号住居	4.10	3.20	1.00	0.07	紺	150	第122図 巻頭図版8	42号住居	2.60	1.30	0.50	0.03	淡青
124	第122図 巻頭図版8	35号住居	(2.50)	1.50	—	0.01	青(淡・青)	151	第122図 巻頭図版8	42号住居	4.10	1.50	1.60	0.03	青・半透明
125	第122図 巻頭図版8	38号住居	2.50	1.20	1.20	0.02	紺・半透明	152	第122図 巻頭図版8	42号住居	4.50	4.10	2.00	0.12	青・半透明
126	第122図 巻頭図版8	38号住居	3.00	0.90	1.10	2.00	青緑	153	第122図 巻頭図版8	42号住居	4.30	2.40	1.20	0.04	紺
127	第122図 巻頭図版8	39号住居	4.60	3.00	2.00	0.09	青・半透明	154	第122図 巻頭図版8	6号掘立 検出時	4.20	2.60	1.50	0.06	青・半透明
128	第122図 巻頭図版8	39号住居	3.50	3.80	1.00	0.05	紺・半透明	155	第122図 巻頭図版8	36号掘立	4.10	1.60	1.80	0.05	青・半透明
129	第122図 巻頭図版8	40号住居	4.50	3.50	1.50	0.10	青・半透明	156	第122図 巻頭図版8	37号掘立	5.00	4.50	1.50	0.20	紺
130	第122図 巻頭図版8	42号住居	2.30	1.00	0.80	0.02	青緑	157	第122図 巻頭図版8	53号掘立	1.90	1.50	0.80	0.01	青緑
131	第122図 巻頭図版8	42号住居	2.10	1.10	0.80	0.02	青緑	158	第122図 巻頭図版8	2号井戸	4.00	1.60	1.50	0.03	紺
132	第122図 巻頭図版8	42号住居	2.50	1.20	0.50	0.03	青緑	159	第122図 巻頭図版8	8号溝	4.70	2.60	2.00	0.07	青・半透明
133	第122図 巻頭図版8	42号住居	1.80	1.00	0.50	0.02	青緑	160	第122図 巻頭図版8	P 805	4.40	2.90	1.50	0.08	紺
134	第122図 巻頭図版8	42号住居	1.90	1.20	0.50	0.02	青緑	161	第122図 巻頭図版8	遺構検出時	4.00	2.20	1.30	0.05	紺
135	第122図 巻頭図版8	42号住居	1.90	1.00	0.50	0.02	青緑	162	第122図 巻頭図版8	調査区中 央部表採	4.40	4.00	1.50	0.10	青・半透明
136	第122図 巻頭図版8	42号住居	2.10	1.00	0.50	0.02	青緑	163	第123図 巻頭図版7	42号住居	1.60	1.30	0.30	0.01以下	緑
137	第122図 巻頭図版8	42号住居	4.50	3.20	2.00	0.09	青・半透明	164	第123図 巻頭図版7	42号住居	1.80	1.00	0.25	0.01以下	緑
138	第122図 巻頭図版8	42号住居	3.50	2.00	1.40	0.03	青・半透明	165	第123図 巻頭図版7	42号住居	1.80	0.90	0.60	0.01以下	緑
139	第122図 巻頭図版8	42号住居	2.50	1.80	1.20	0.02	青・半透明	166	第123図 巻頭図版7	42号住居	1.90	1.40	0.50	0.01以下	緑
140	第122図 巻頭図版8	42号住居	4.00	2.50	1.50	0.07	青・半透明	167	第123図 巻頭図版7	42号住居	1.40	0.70	0.50	0.01以下	緑
141	第122図 巻頭図版8	42号住居	4.00	2.80	1.60	0.05	青・半透明	168	第123図 巻頭図版7	42号住居	1.00	1.00	0.20	0.01以下	緑
142	第122図 巻頭図版8	42号住居	3.50	2.60	1.20	0.04	青・半透明	169	第123図 巻頭図版7	42号住居	1.90	1.00	0.50	0.01以下	緑
143	第122図 巻頭図版8	42号住居	4.50	2.10	1.20	0.06	青・半透明	170	第123図 巻頭図版7	42号住居	1.00	0.60	0.40	0.01	緑
144	第122図 巻頭図版8	42号住居	4.10	2.50	1.20	0.05	青・半透明	171	第123図 巻頭図版7	42号住居	0.80	1.20	2.50	0.01以下	緑
145	第122図 巻頭図版8	42号住居	3.10	2.90	1.00	0.03	青・半透明	172	第123図 巻頭図版7	42号住居	1.30	0.80	0.50	0.01以下	緑
146	第122図 巻頭図版8	42号住居	4.00	2.40	1.50	0.06	青・半透明	173	第123図 巻頭図版7	42号住居	1.30	0.80	0.50	0.01以下	緑
147	第122図 巻頭図版8	42号住居	2.10	1.00	0.60	0.01	青緑	174	第123図 巻頭図版7	42号住居	1.50	0.80	0.50	0.01以下	緑

表8 出土石製鋳型観察表

( )は残存値

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量(cm)			石材	備考
				長さ	幅	厚さ		
1	第124図 巻頭図版6 図版60	銅矛鋳型	包含層(北部)	(12.50)	(8.50)	8.20	白褐色でやや軟質の 石英長石斑岩	中広銅矛か?
2	第124図 巻頭図版6 図版61	銅矛鋳型袋部	16号住居	(8.10)	(7.10)	(5.25)	白褐色の石英長石斑岩	黒変あり 中広銅矛か?
3	第125図 巻頭図版6 図版61	銅矛鋳型	37号掘立 P13 44号掘立 P1	(2.85)	(7.55)	1.95	石英長石斑岩	黒変あり 広形銅矛 組合せ鋳型か?
4	第125図 巻頭図版6 図版61	不明鋳型	包含層	(4.75)	(4.40)	(3.80)	白褐色でやや軟質の 石英長石斑岩	黒変あり
5	第125図 巻頭図版6 図版61	不明鋳型	32号住居	(4.70)	(4.40)	(3.45)	乳白色の石英長石斑岩 軟質	
6	第125図 巻頭図版6 図版61	石英長石斑岩 片	32号住居	6.80	5.80	2.80	白色の石英長石斑岩	破片

表9 出土石器観察表

( )は残存値

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量(cm)			石材	残存
				長さ	幅	厚さ		
1	第7図 図版62	ナイフ形石器	中央部表採	3.30	2.30	0.90	黒曜石	完形
2	第7図 図版62	ナイフ形石器	39号住居	(4.90)	2.15	0.70	黒曜石	一部欠損
3	第7図 図版62	台形様石器	4号住居 中央攪乱溝	(3.15)	2.40	0.90	黒曜石	一部欠損
4	第7図 図版62	台形様石器	9号住居 北面部下層	3.30	(3.40)	1.10	風化した黒曜石	一部欠損
5	第7図 図版62	台形様石器?	37号住居 土坑2	2.80	2.90	1.25	風化した黒曜石(姫島産)	完形
6	第7図 図版62	尖頭器	30号住居	2.75	0.80	0.30	サヌカイト	完形
7	第7図 図版62	スクレイパー	32号住居 覆土内	3.10	3.30	1.25	風化した黒曜石	完形
8	第7図 図版62	スクレイパー	P924	(1.35)	(2.55)	0.70	黒曜石(やや風化する)	破片
9	第7図 図版62	スクレイパー?	38号掘立	6.10	11.20	1.10	サヌカイト	完形
10	第7図 図版62	石匙	6号土坑	(5.50)	7.80	0.60	サヌカイト	一部欠損
11	第7図 図版62	石鏃	2号土坑	(1.70)	(1.70)	0.20	黒曜石	脚部一部欠損
12	第7図 図版62	石鏃	中央部黒色包含層	(1.65)	(1.55)	0.25	黒曜石	脚部一部欠損
13	第7図 図版62	石鏃	15号住居	(1.95)	(1.80)	0.45	黒曜石	脚部一部欠損
14	第7図 図版62	石鏃	23号住居 中央部	(3.30)	(1.75)	0.40	黒曜石	脚部一部欠損
15	第7図 図版62	剥片	23号住居	3.00	2.60	0.50	黒曜石	完形
16	第7図 図版62	剥片	37号住居	5.40	4.95	1.60	風化した黒曜石?	完形
17	第7図 図版62	剥片	38号住居 ベッド下	5.15	3.10	1.20	風化した黒曜石	完形

( )は残存値

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量(cm)			石材	残存
				長さ	幅	厚さ		
18	第7図 図版62	剥片	15号住居	4.15	1.65	0.50	風化した黒曜石	完形
19	第8図 図版63	剥片	32号住居	(4.30)	2.30	0.60	黒曜石	一部欠損
20	第8図 図版63	剥片	20号住居	5.40	3.70	1.70	安山岩?	一部欠損
21	第8図 図版63	剥片	7号溝 東側遺構検出時	5.10	4.00	1.80	堆積岩	完形
22	第8図 図版63	剥片	7号住居 周辺攪乱	1.90	3.75	0.85	黒曜石	完形
23	第8図 図版63	剥片	35号掘立柱建物 P1	(2.95)	(2.40)	0.75	黒曜石	完形
24	第8図 図版63	剥片	P13	(2.50)	(3.60)	0.60	風化した黒曜石	破片
25	第8図 図版63	剥片	39号掘立 P3	2.90	2.70	(0.90)	チャート	完形
26	第8図 図版63	石核	28号住居	3.60	2.80	1.60	黒曜石 (全体的にやや風化する)	完形
27	第8図 図版63	石核	中央部包含層	2.65	5.15	1.70	黒曜石 (全体的にやや風化する)	完形
28	第126図 図版63	石包丁	8号住居 床面	14.20	5.20	0.70	淡灰色の泥岩	ほぼ完形
29	第126図 図版63	石包丁	20号住居	13.10	3.90	0.75	小豆色の輝緑凝灰岩	ほぼ完形
30	第126図 図版63	石包丁	7号住居	12.40	4.40	0.60	暗灰色の凝灰岩	完形
31	第126図 図版63	石包丁	20号住居	(12.00)	3.40	0.60	小豆色の泥岩?	全体の3/4
32	第126図 図版63	石包丁	30号掘立 P6	11.60	3.80	0.50	暗茶色の凝灰岩	完形
33	第126図 図版63	石包丁	13号住居	9.70	3.80	0.70	暗小豆色の輝緑凝灰岩	ほぼ完形
34	第126図 図版63	石包丁	10号住居	(9.90)	4.10	0.80	緑色片岩	全体の3/4
35	第127図 図版64	石包丁	19号住居	(9.65)	4.55	0.60	淡灰色の粘板岩	全体の2/3
36	第127図 図版64	石包丁	21号住居	9.40	3.30	0.60	黒茶色の泥砂岩	完形
37	第127図 図版64	石包丁	40号住居 西壁中央上層	9.40	3.90	0.80	淡灰色の泥砂岩	ほぼ完形
38	第127図 図版64	石包丁	39号住居	8.30	3.80	0.70	淡灰色の粘板岩	全体の3/5
39	第127図 図版64	石包丁	32号住居	(7.60)	(3.10)	0.65	暗紫色の凝灰岩	全体の3/5
40	第127図 図版64	石包丁	40号掘立 P2	(6.35)	5.20	0.70	暗紫色の凝灰岩	全体の1/2 スス付着
41	第127図 図版64	石包丁	28号住居	(5.90)	(3.45)	0.75	紫橙色の凝灰岩	全体の1/2
42	第128図 図版64	石包丁	42号住居	(5.90)	(3.50)	0.60	暗灰色の凝灰岩	全体の3/5
43	第128図 図版64	石包丁	13号住居 D1	(5.90)	(3.90)	0.70	輝緑凝灰岩	全体の1/3
44	第128図 図版64	石包丁	39号住居	(6.00)	(4.70)	0.65	暗茶色の泥砂岩	全体の1/3
45	第128図 図版64	石包丁	中央部包含層	(4.60)	(4.55)	0.65	角閃石安山岩	全体の1/3
46	第128図 図版64	石包丁	39号住居	(4.20)	(4.20)	(0.50)	淡灰褐色の粘板岩	破片

( )は残存値

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量(cm)			石材	残存
				長さ	幅	厚さ		
47	第128図 図版64	石包丁	39号住居	(3.50)	(4.10)	0.70	淡灰色の角閃石安山岩	破片
48	第128図 図版64	石包丁	31号住居 上層	(4.10)	(5.20)	(0.70)	紫橙色の凝灰岩	破片
49	第128図 図版64	石包丁	31号住居 西隅	(3.60)	(4.10)	0.70	暗紫色の凝灰岩	破片
50	第128図 図版64	石包丁転用石製品	25号住居	(4.80)	(4.10)	(0.90)	輝緑凝灰岩	ほぼ完形
51	第129図 図版65	磨製石斧	2号住居 床面	(16.50)	7.15	(4.30)	灰白色～灰白褐色の砂岩?	刃部欠損
52	第129図 図版65	磨製石斧	25号住居	(8.55)	4.90	2.40	灰褐色の蛇紋岩	刃部1/2
53	第129図 図版65	石錘	41号住居	9.95	1.60	2.20	灰色の頁岩	ほぼ完形
54	第129図 図版65	ヘラ状石器	29号住居	8.90	2.00	0.85	赤灰色の珪化木	ほぼ完形
55	第129図 図版65	石剣	11号住居 床直上南西部	(3.50)	3.10	0.90	黄灰色の頁岩	破片
56	第129図 図版65	滑石製 用途不明石器	35号住居	(2.70)	(3.75)	0.65	暗青灰色の滑石	破片
57	第130図 図版65	砥石	13号住居	14.00	13.70	4.40	淡黄茶色の砂岩	ほぼ完形
58	第130図 図版65	砥石	37号住居 張出部	(8.60)	6.75	5.90	橙色粒を含む灰白色の砂岩	破片?
59	第130図 図版65	砥石	7号住居	(14.20)	3.60	1.85	灰黒色の泥岩	破片
60	第130図 図版65	砥石	11号住居 西側床面	(5.70)	(6.25)	1.65	淡褐色の砂岩	破片
61	第130図 図版65	砥石	40号住居	8.60	5.80	1.55	淡灰白色の泥岩	ほぼ完形か?
62	第131図 図版66	砥石	19号住居	26.45	4.70	4.30	淡灰白色の粘板岩	完形
63	第131図 図版66	砥石	20号住居 屋内土坑	23.80	4.90	3.45	暗灰色の泥岩	完形
64	第131図 図版66	砥石	13号住居 南西部屋内土坑	(11.00)	(6.90)	1.35	暗灰色の泥岩	破片
65	第131図 図版66	砥石	P854	(11.40)	5.15	3.50	灰色～淡灰褐色の泥岩	破片
66	第131図 図版66	砥石	1号住居 張出部	(6.40)	(5.05)	(3.10)	淡灰白色～淡黄白色の粘板岩	破片
67	第132図 図版66	砥石	33号住居 屋内土坑	19.90	8.20	4.20	暗灰色の泥岩	完形
68	第132図 図版66	砥石	30号住居	(12.25)	2.35	2.00	暗灰色の泥岩	破片
69	第132図 図版66	砥石	32号住居	(4.60)	2.30	1.30	暗灰色の泥岩	破片
70	第132図 図版66	砥石	6号溝	(11.00)	4.15	5.00	橙褐色～白黄色の花崗岩	破片
71	第132図 図版66	砥石	38号住居	(6.80)	(7.15)	4.50	淡灰褐色～橙色～赤色の砂岩	破片
72	第132図 図版66	砥石	20号住居 屋内土坑	(7.45)	(3.80)	(0.80)	暗灰色の泥岩	破片
73	第132図 図版66	砥石	25号住居 南側周溝	4.90	3.90	2.90	黄茶色の砂岩	ほぼ完形
74	第132図 図版66	砥石	20号住居 南側床面	(6.95)	(5.25)	2.50	黒灰色の泥岩	破片
75	第132図 図版66	砥石	39号住居	(8.05)	3.55	2.65	乳白色の石英長石斑岩	破片



( )は残存値

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量(cm)			石材	残存
				長さ	幅	厚さ		
76	第133図 図版67	砥石	34号住居 屋内土坑	(9.40)	(7.90)	6.10	淡黄茶色の砂岩	破片
77	第133図 図版67	砥石	32号住居	(6.70)	(4.30)	3.80	淡黄茶色の砂岩	破片
78	第133図 図版67	砥石	17号住居	(7.00)	(2.10)	(3.85)	灰色の泥岩	破片
79	第133図 図版67	砥石	23号住居	(4.50)	(3.50)	0.75	暗灰色の泥岩	破片
80	第133図 図版67	砥石	28号住居	(8.80)	(2.40)	(1.10)	暗灰色の泥岩	破片
81	第133図 図版67	砥石	24号住居	(7.70)	4.85	(2.10)	灰褐色の砂岩	破片
82	第133図 図版67	砥石	16号住居	(5.10)	4.05	2.00	黄灰色～白灰色の粘板岩?	破片
83	第133図 図版67	砥石	15号住居	(3.75)	1.70	(2.50)	淡褐色の砂岩	破片
84	第133図 図版67	砥石	23号住居	4.65	1.35	1.30	暗灰色の泥岩	完形
85	第133図 図版67	砥石	37号住居	(11.90)	2.15	1.20	暗灰色の泥岩	破片
86	第133図 図版67	砥石	32号住居	(9.90)	(1.80)	2.00	暗灰色の泥岩	破片
87	第133図 図版67	砥石	31号掘立 P11	(9.50)	(1.60)	2.30	暗灰色の泥岩	破片
88	第133図 図版67	砥石	19号住居	(6.50)	3.30	2.00	暗灰色の泥岩	破片
89	第134図 図版67	砥石	28号住居	(7.70)	3.80	2.20	暗灰色の泥岩	破片
90	第134図 図版67	砥石	19号住居	(7.45)	1.80	1.80	暗灰色の泥岩	破片
91	第134図 図版67	砥石	7号住居	8.20	1.30	1.50	淡灰色～灰黒色の泥岩	ほぼ完形
92	第134図 図版67	砥石	19号住居	(9.50)	1.85	1.25	暗灰色の泥岩	破片
93	第134図 図版67	砥石	37号住居 上層	(7.50)	5.40	3.40	淡灰白色の凝灰岩	破片
94	第134図 図版67	砥石	20号住居 屋内土坑	(7.40)	(3.60)	(1.40)	暗灰色の泥岩	破片
95	第134図 図版67	砥石	33号住居 上層	(6.00)	(1.30)	2.10	暗灰色の泥岩	破片
96	第134図 図版67	砥石	22号住居	5.25	1.95	1.55	石英長石斑岩	完形?
97	第134図 図版67	砥石	28号住居	(4.10)	(2.70)	(1.30)	暗灰色の泥岩	破片
98	第135図 図版65	敲石	17号住居	10.40	5.10	3.20	淡黄茶色の泥砂岩	完形
99	第135図 図版68	敲石	7号住居 屋内土坑	(7.10)	6.90	3.90	淡黄褐色の蛇紋岩	全体の1/2
100	第135図 図版65	台石	12号住居 上層	9.40	9.10	3.40	花崗岩	完形
101	第135図 図版68	軽石	24号掘立 P4	4.55	4.90	(3.00)	褐色の軽石	—
102	第135図 図版68	軽石	29号住居	3.55	2.95	1.90	にぶい黄褐色の軽石	—
103	第135図 図版68	軽石	38号住居	4.30	4.80	2.55	灰褐色の軽石	—
104	第135図 図版68	軽石	32号住居	6.15	4.30	3.15	灰褐色の軽石	—

時期	点数 (時期)	遺構	点数 (遺構)	内訳			その他出土遺物
				紺	青	緑	
後期初頭	7	5号住居	7	2	5		鉄鏃
後期前半	2	12号住居	1			1	不明鉄器、鉄片、銅鏡、台石
		36号掘立	1		1		
後期中頃	91	6号住居	1		1		
		27号住居	1		1		板状鉄器、鉄斧、
		28号住居	6	1	3	2	鉄鏃、石製勾玉、砥石3、石包丁
		32号住居	28	6	22		棒状鉄器3、鉄片3、鉄素環頭刀子、鉄刀子、鉄鉋3、鉄鎌2、不明鉄器、不明鋳型、石英長石斑岩片、石製玉未製品類5(勾玉、錘飾、他3)、軽石、石包丁、土製鏡、砥石3
		33号住居	48	14	34		砥石2
		35号住居	7	2	5		鉄鎌、不明石器
後期後半	8	18号住居	5		5		鐸形土製
		31号住居	2		2		鉋状鉄器、鉄鉋、鉄斧、土製品、青銅器、石管玉、石包丁2
		8号溝	1		1		
I A期 (終末期前半)	52	14号住居	11	1	10		鉄鉋
		20号住居	1	1			鉄刀子2、鉄鉋、鉄滓、砥石4、石包丁2
		38号住居	2	1		1	鉄鉋、鉄刀子2、鉄片、棒状鉄器、鉄釘?、砥石、軽石、土製品
		40号住居	1		1		砥石、石包丁
		42号住居	36	2	14	19	鉄鉋、石包丁、投弾
		37号掘立	1	1			
I B～II期 (終末期後半～ 古墳時代初頭)	9	15号住居	6		1	6	鉄鉋、鉄鏃、不明鉄器、砥石
		39号住居	2	1	1		鉄鏃、鉄鉋2、砥石、石包丁4
		53号掘立	1			1	
不明	5	6号掘立	1		1		
		2号井戸	1	1			
		P805	1	1			
		検出時	1	1			
		表採	1		1		
	174		174	35	109	30	

表10：ガラス小玉出土状況

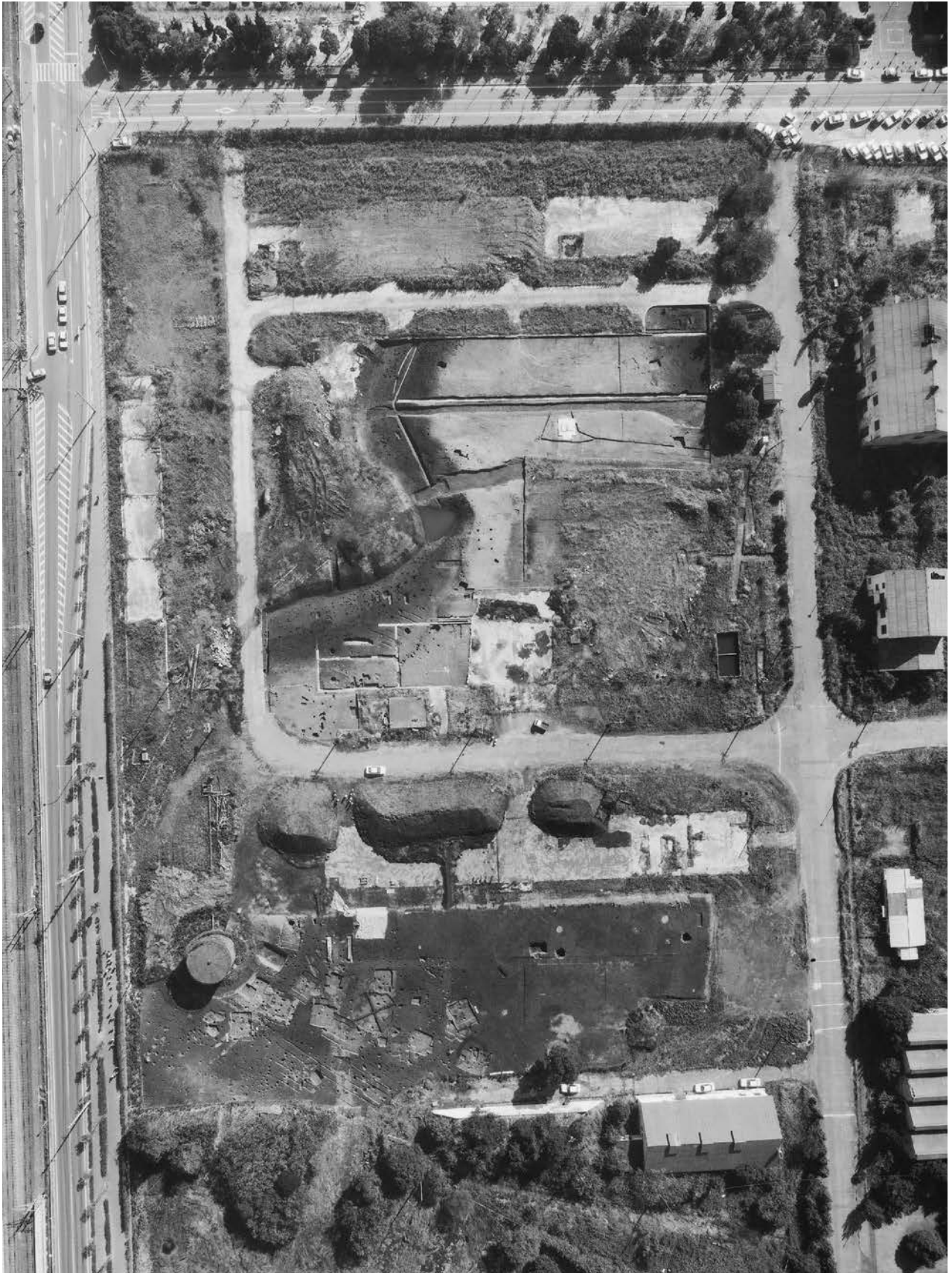
時期	3mm未満			3mm以上5mm未満			5mm以上			小計
	紺	青	緑	紺	青	緑	紺	青	緑	
後期初頭				1	5		1			7
後期前葉			1		1					2
後期中葉		9	2	19	53		3	5		91
後期後葉		1			6			1		8
I A期	1	2	19	4	22	2	1	1		52
I B～II期		1	6	1	1					9
時期不明				3	2					5
	1	13	28	28	90	2	5	7	0	174

表11：ガラス小玉計測表



# 圖 版





調査区全景





(1) I区調査区全景



(2) II区調査区全景

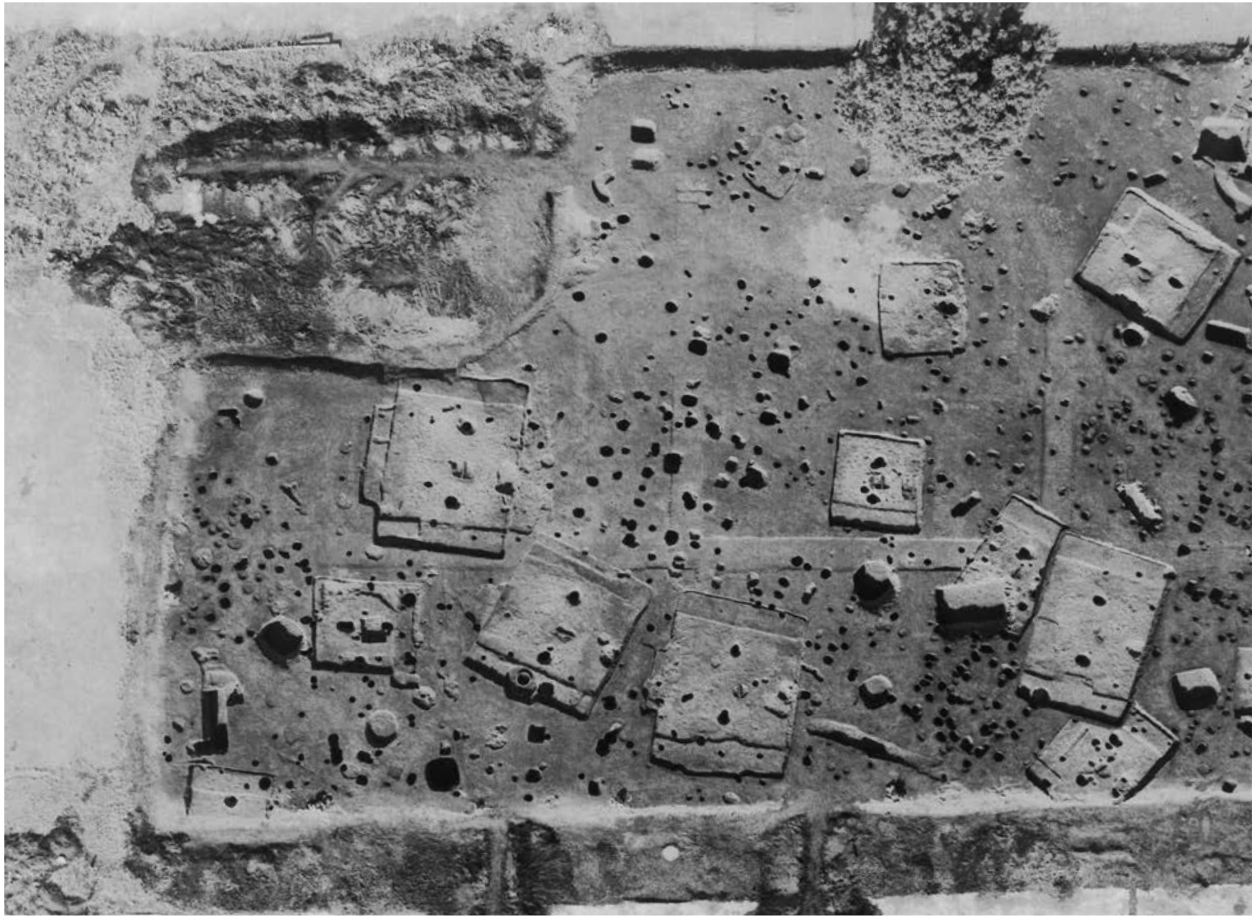


(1) I区調査区 (南半)

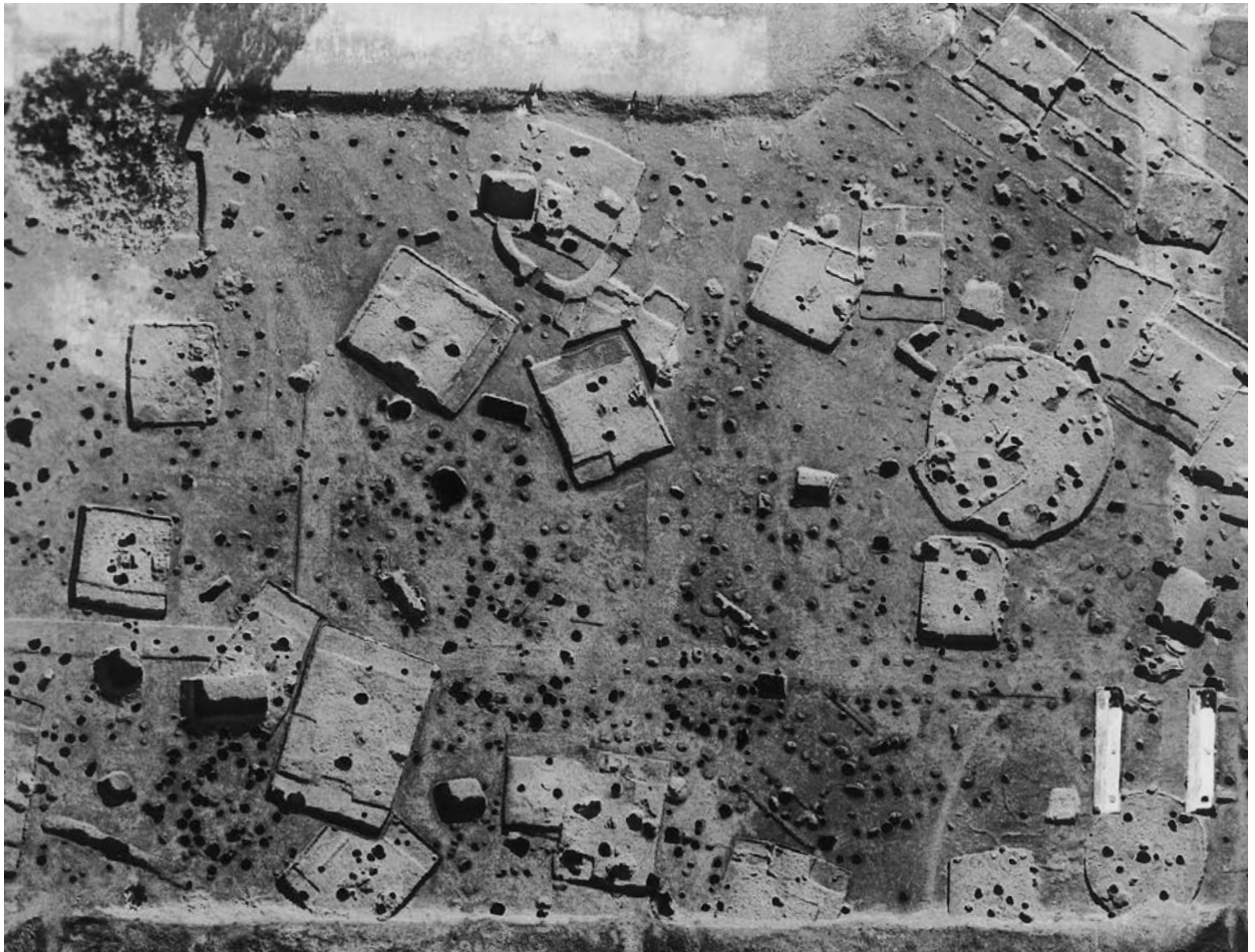


(2) I区調査区 (北半)





(1) II区調査区①



(2) II区調査区②



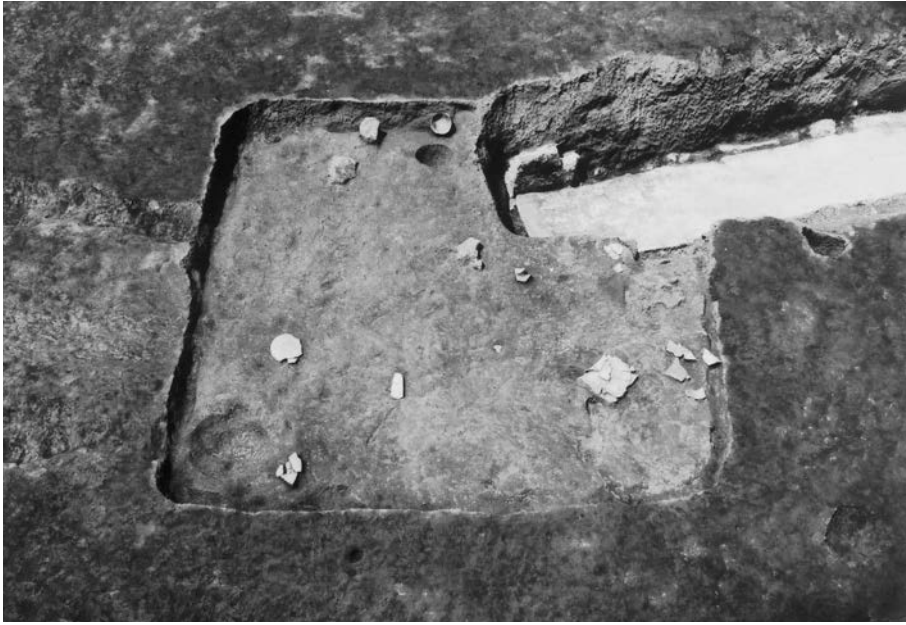


(1) II区調査区③



(2) 1号住居跡 (北西から)

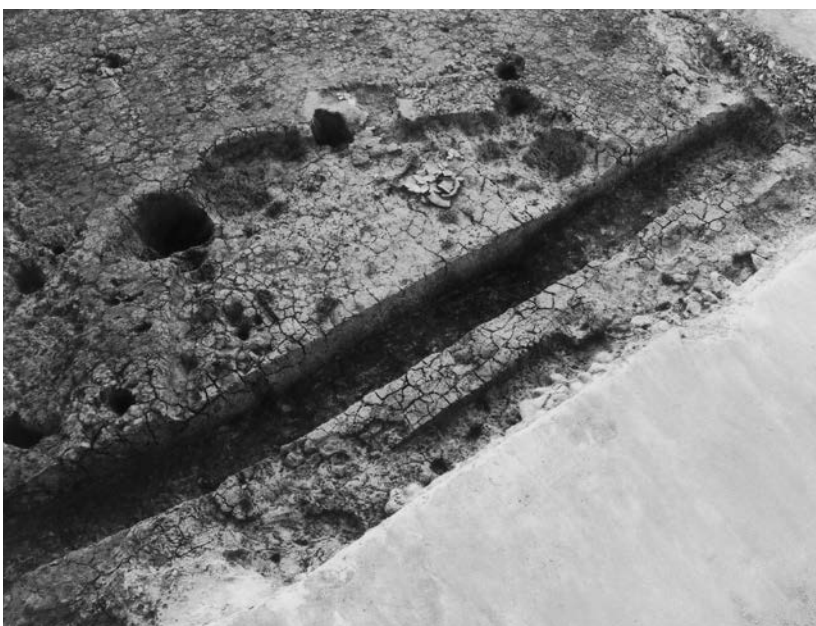




(1) 2号住居跡(南東から)



(2) 3号住居跡(南から)



(3) 4号住居跡(東から)



(1) 5号住居跡(南西から)



(2) 6号住居跡(北東から)



(3) 7号住居跡(西から)





(1) 8号住居跡 (東から)



(2) 9号住居跡 (東から)



(3) 10号住居跡 (南西から)



(1) 11号住居跡(北西から)



(2) 12号住居跡(南西から)



(3) 12号住居跡遺物出土状態





(1) 13号住居跡（西から）



(2) 14号住居跡（北東から）



(3) 15号住居跡（西から）



(1) 16号住居跡 (南西から)



(2) 16号住居跡遺物出土状態



(3) 17号住居跡 (北東から)





(1) 18号住居跡（南西から）

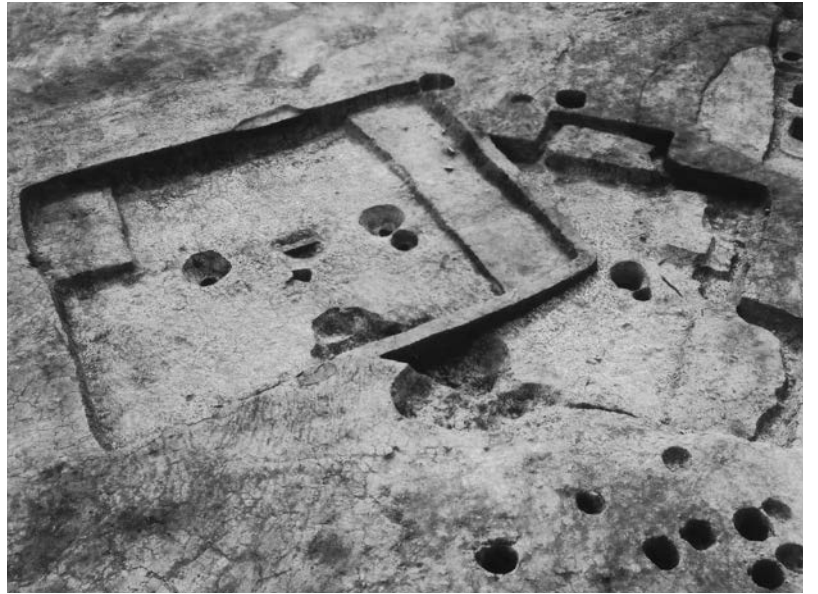


(2) 18号住居跡遺物出土状態

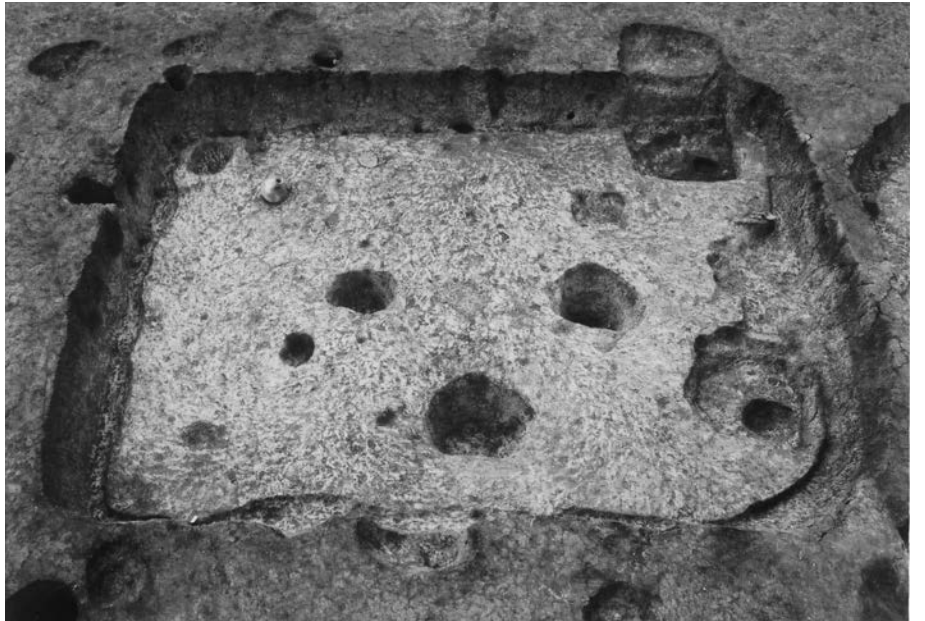


(3) 19号住居跡（北西から）





(1) 20・21号住居跡（北東から）



(2) 22号住居跡（北東から）



(3) 23・24号住居跡（東から）



(1) 25号住居跡 (南東から)



(2) 26号住居跡 (南東から)



(3) 27号住居跡 (南東から)





(1) 28号住居跡 (西から)



(2) 29・30号住居跡 (南東から)



(3) 31・32・33号住居跡 (南東から)



(2) 32号住居跡遺物出土状態

(1) 31・32・33号住居跡（北西から）



(3) 34号住居跡（北東から）

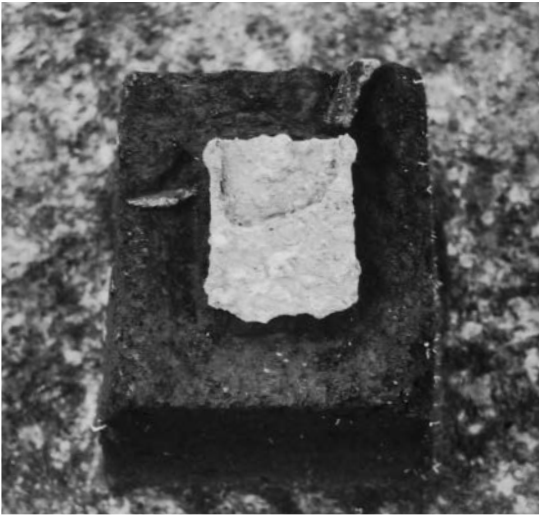


(4) 35号住居跡（北東から）





(1) 36号住居跡 (西から)



(2) 37号住居跡遺物出土状態



(3) 37号住居跡 (北西から)

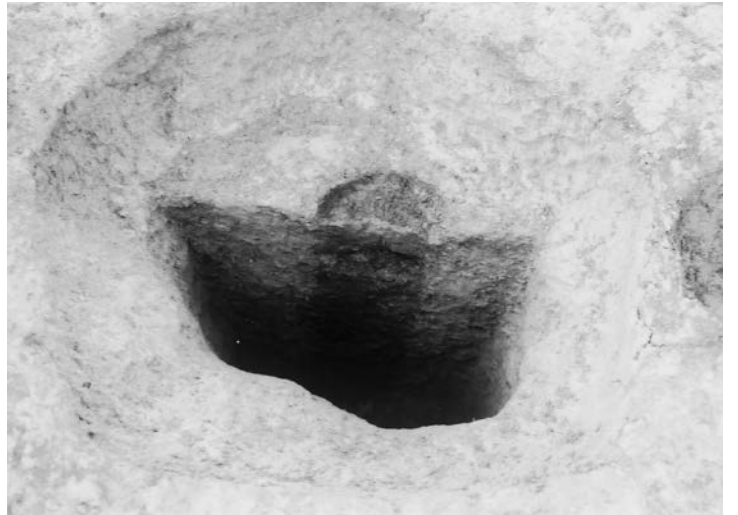


(4) 38号住居跡 (北東から)





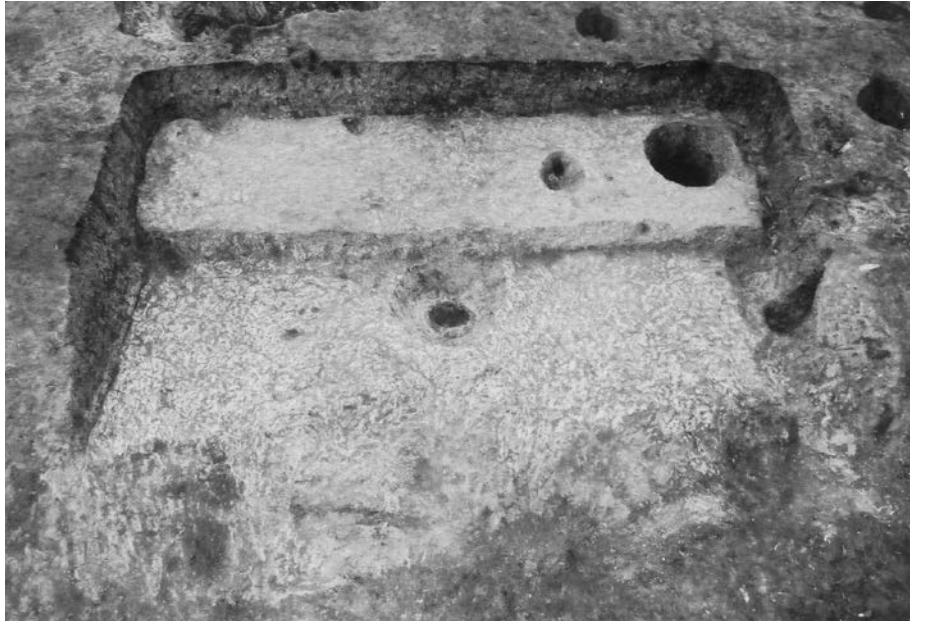
(1) 39号住居跡 (東から)



(2) 39号住居跡P2 (北東から)



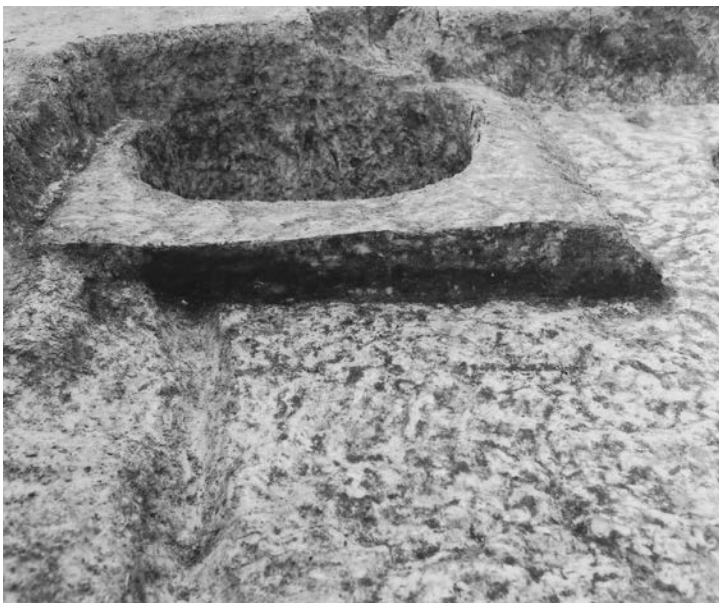
(3) 40号住居跡 (南東から)



(1) 41号住居跡 (南東から)



(2) 42号住居跡 (南西から)

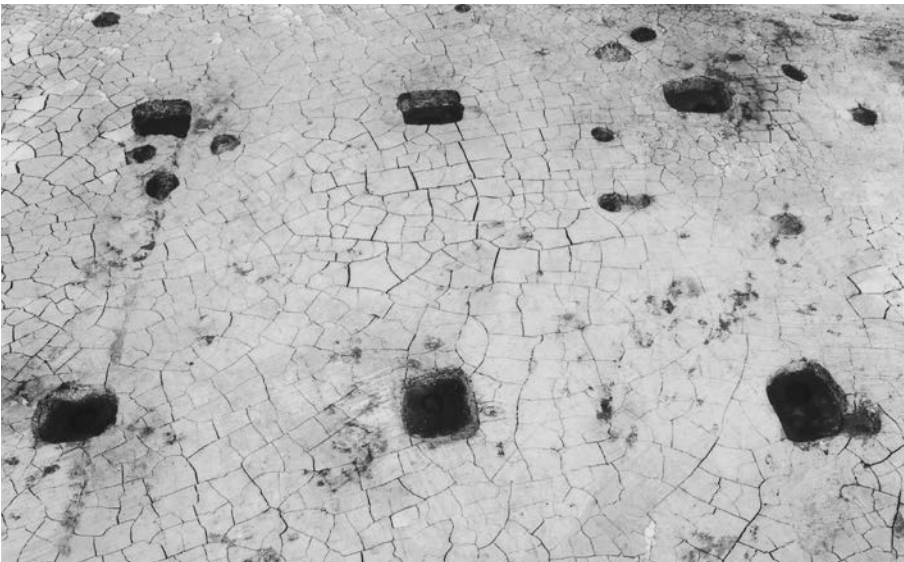


(3) 42号住居跡ベッド断ち割り (北西から)





(1) 1号掘立柱建物跡 (南西から)



(2) 2号掘立柱建物跡 (南西から)



(3) 3号掘立柱建物跡 (北から)





(1) 4号掘立柱建物跡 (南東から)

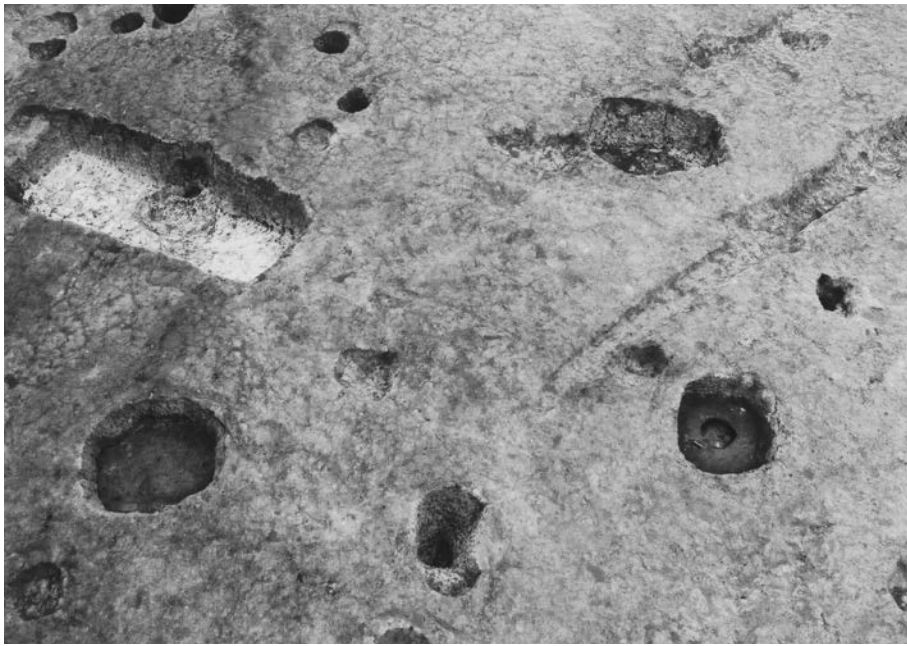


(2) 5号掘立柱建物跡 (南東から)



(3) 6号掘立柱建物跡 (北東から)





(1) 7号掘立柱建物跡（北東から）



(2) 8号掘立柱建物跡（北東から）



(3) 9号掘立柱建物跡（北から）

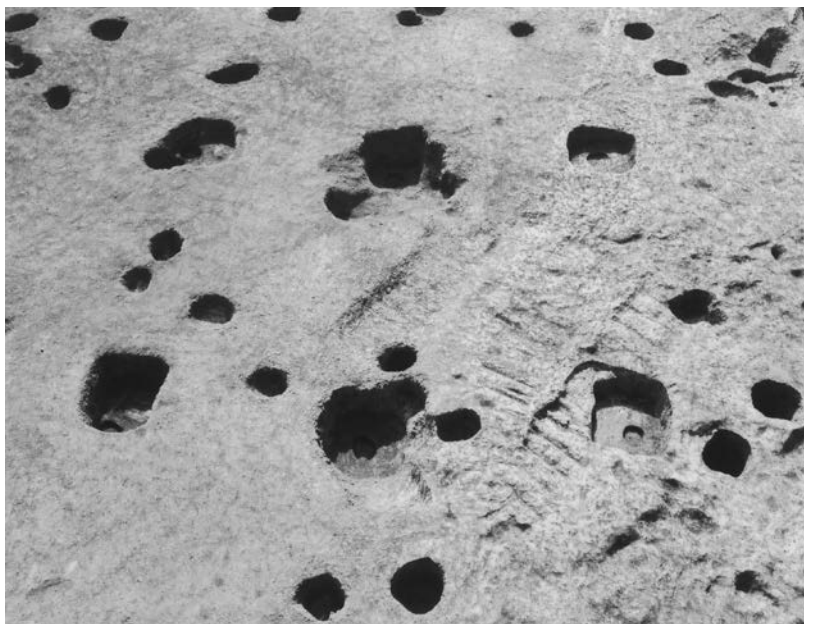




(1) 10～13号掘立柱建物跡（北から）



(2) 10～13号掘立柱建物跡（北東から）



(3) 14号掘立柱建物跡（北東から）



(1) 15号掘立柱建物跡 (西から)

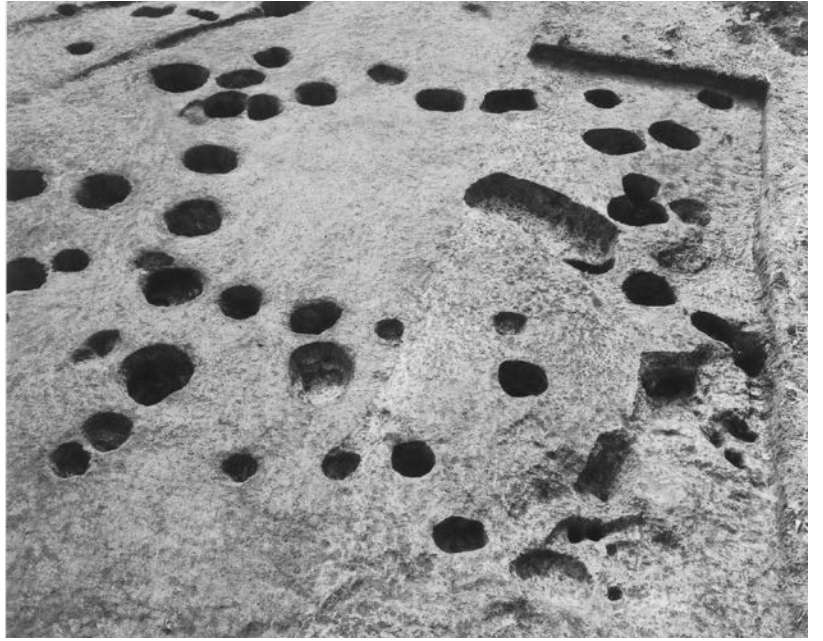


(2) 16号掘立柱建物跡 (北西から)



(3) 17号掘立柱建物跡 (南西から)





(1) 18号掘立柱建物跡（北東から）



(2) 21号掘立柱建物跡（南東から）



(3) 23号掘立柱建物跡（南東から）



(1) 26 ~ 29 号掘立柱建物跡 (北から)



(2) 30 号掘立柱建物跡 (南東から)

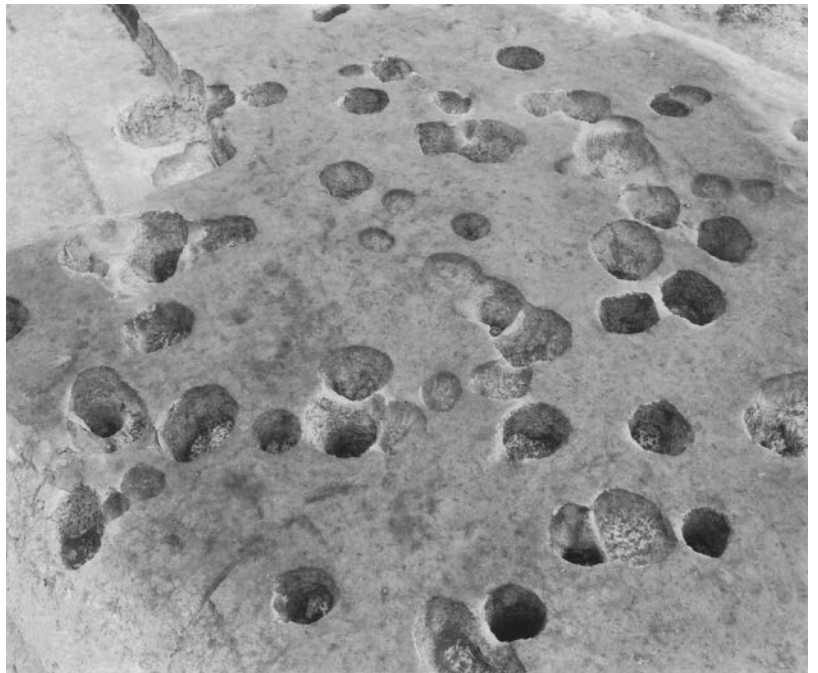


(3) 31 号掘立柱建物跡 (北東から)





(1) 32・33・35号掘立柱建物跡(南東から)

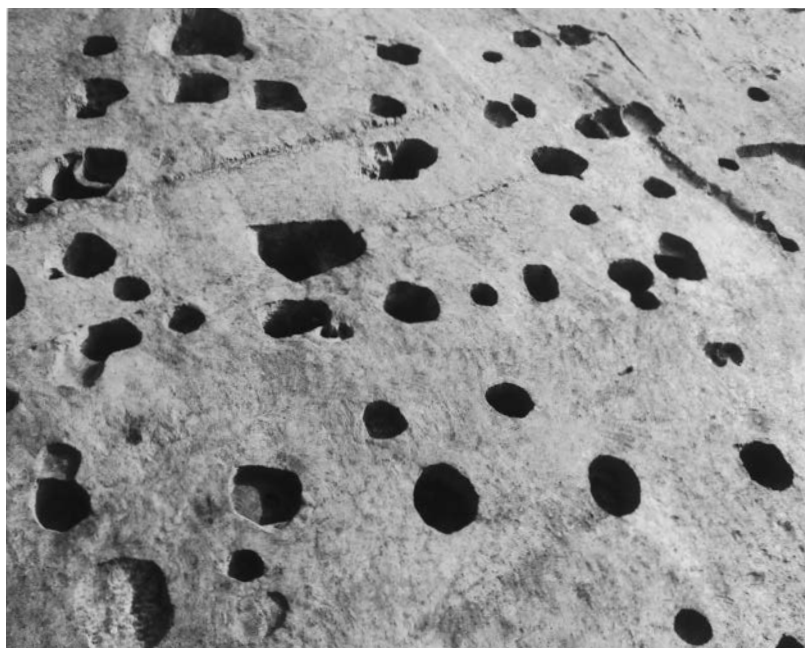


(2) 34号掘立柱建物跡(西から)



(3) 36号掘立柱建物跡(南西から)





(1) 37号掘立柱建物跡 (西から)



(2) 38号掘立柱建物跡 (西から)



(3) 39号掘立柱建物跡 (北東から)



(4) 39号掘立柱建物跡P1 (北東から)



(1) 40号掘立柱建物跡（北東から）



(2) 41号掘立柱建物跡（南から）



(3) 43号掘立柱建物跡（北東から）





(1) 44号掘立柱建物跡（北東から）



(2) 45・46号掘立柱建物跡（北東から）



(3) 47号掘立柱建物跡（北東から）



(1) 48・49号掘立柱建物跡 (北西から)



(2) 50号掘立柱建物跡 (北から)



(3) 51号掘立柱建物跡 (西から)

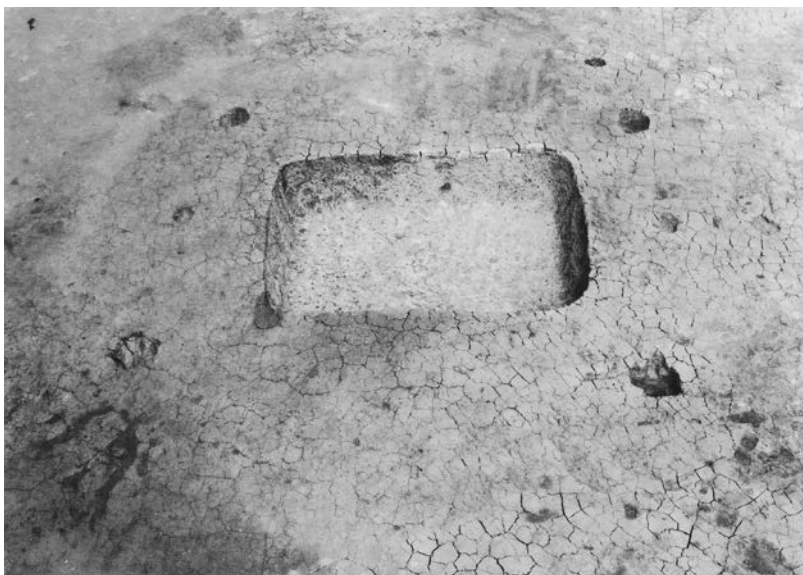




(1) 52号掘立柱建物跡 (南西から)



(2) 54号掘立柱建物跡 (北東から)



(3) 1号土坑 (南東から)

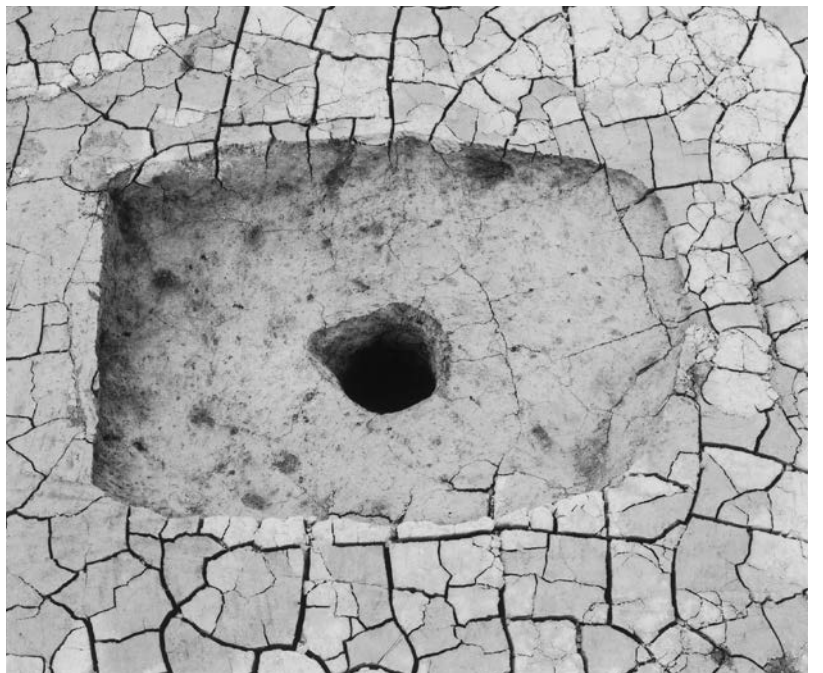




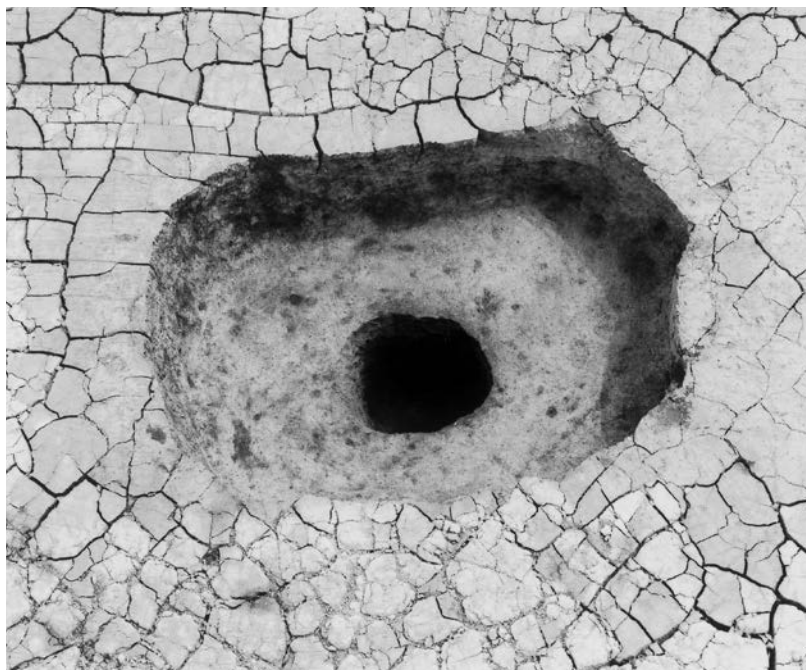
(1) 2号土坑(南東から)



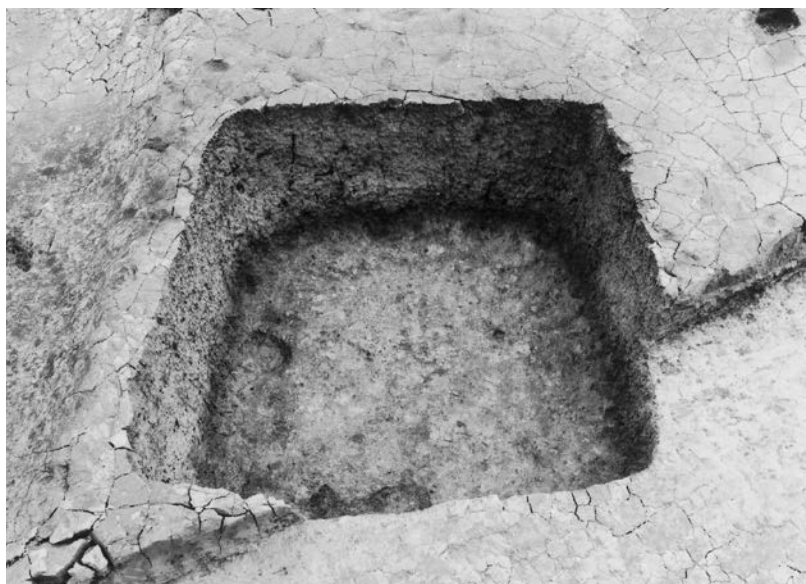
(2) 3号土坑(南東から)



(3) 4号土坑(南東から)



(1) 5号土坑 (北から)

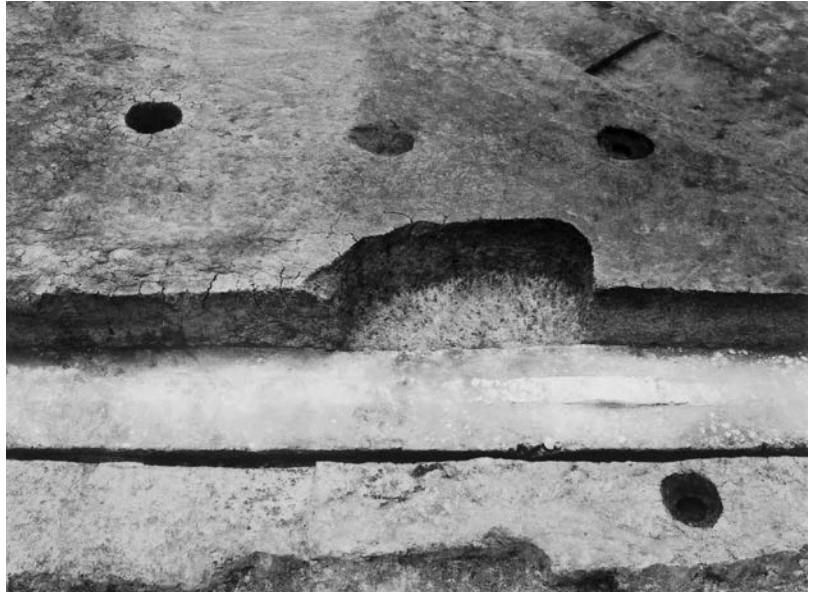


(2) 6号土坑 (北西から)



(3) 7号土坑 (南西から)

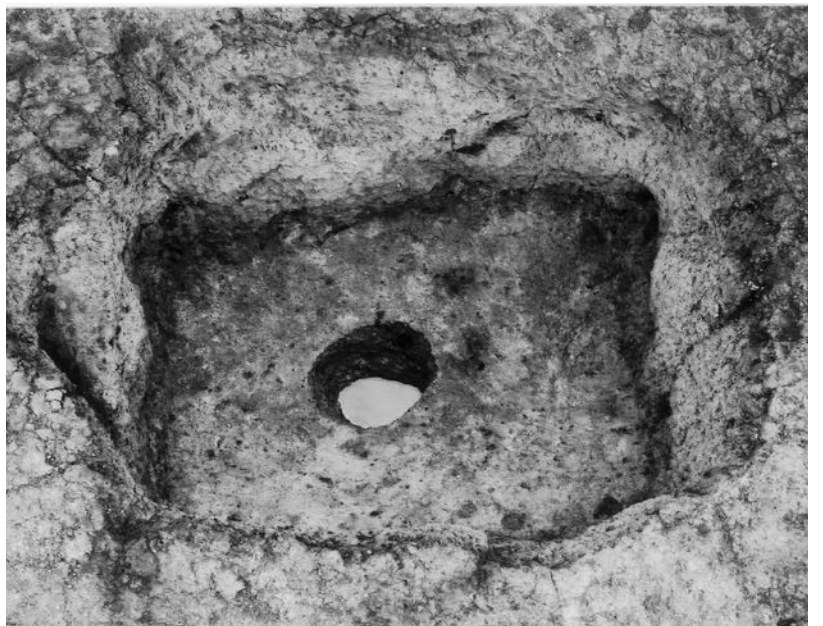




(1) 8号土坑(北西から)



(2) 9号土坑(南東から)



(3) 10号土坑(南東から)



(1) 11号土坑 (南西から)



(2) 12号土坑 (南東から)

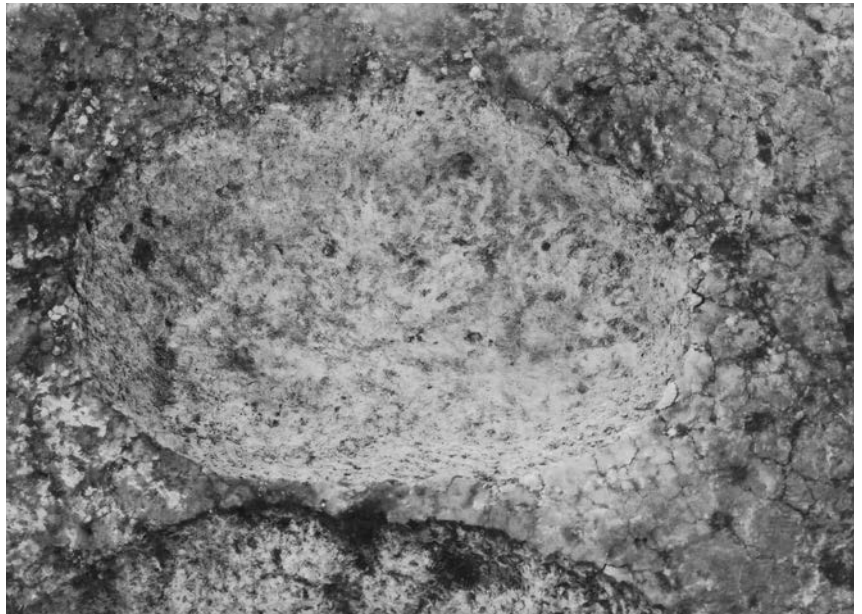


(3) 13号土坑 (南西から)

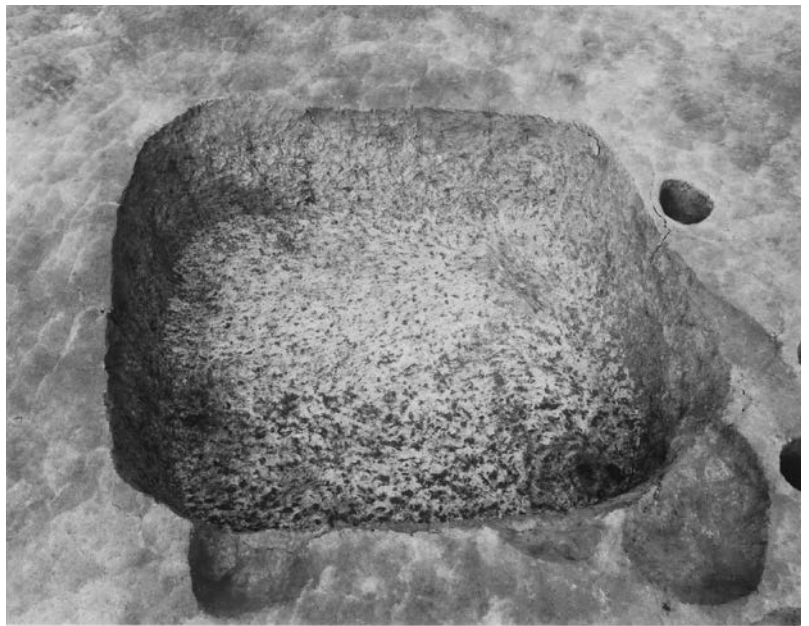




(1) 14号土坑(東から)



(2) 15号土坑(東から)



(3) 18号土坑(南東から)

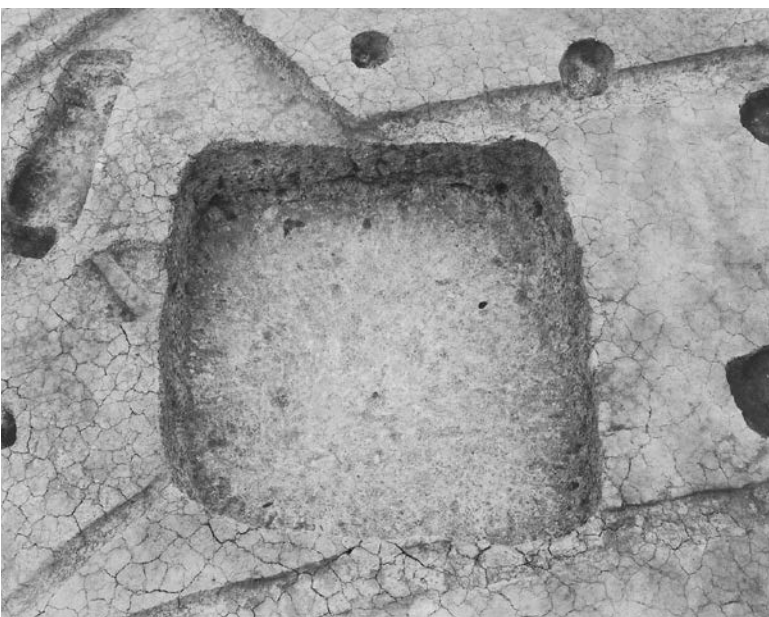




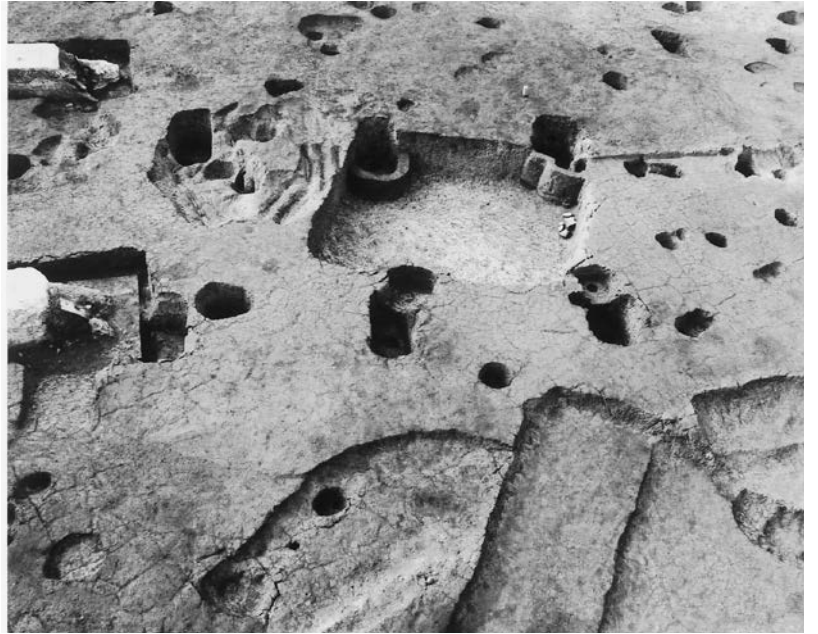
(1) 19号土坑（北東から）



(2) 20号土坑（北東から）



(3) 21号土坑（北から）



(1) 22号土坑(北東から)



(2) 23号土坑(北西から)



(3) 1号井戸(北西から)





(1) 2号井戸 (南東から)



(2) 8号周溝 (北西から)





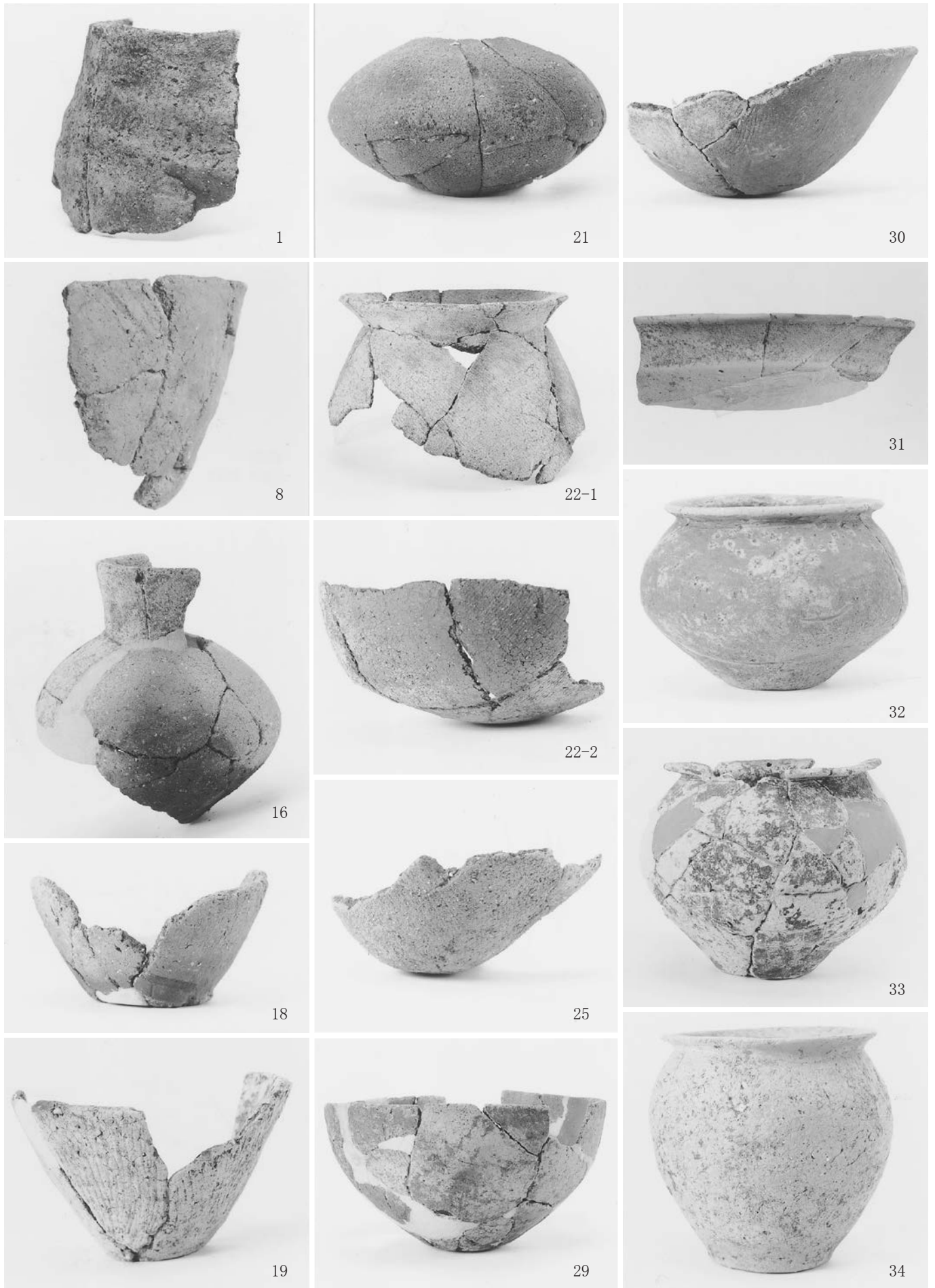
(1) 1号周溝状遺構 (北西から)



(2) 2号周溝状遺構 (北西から)

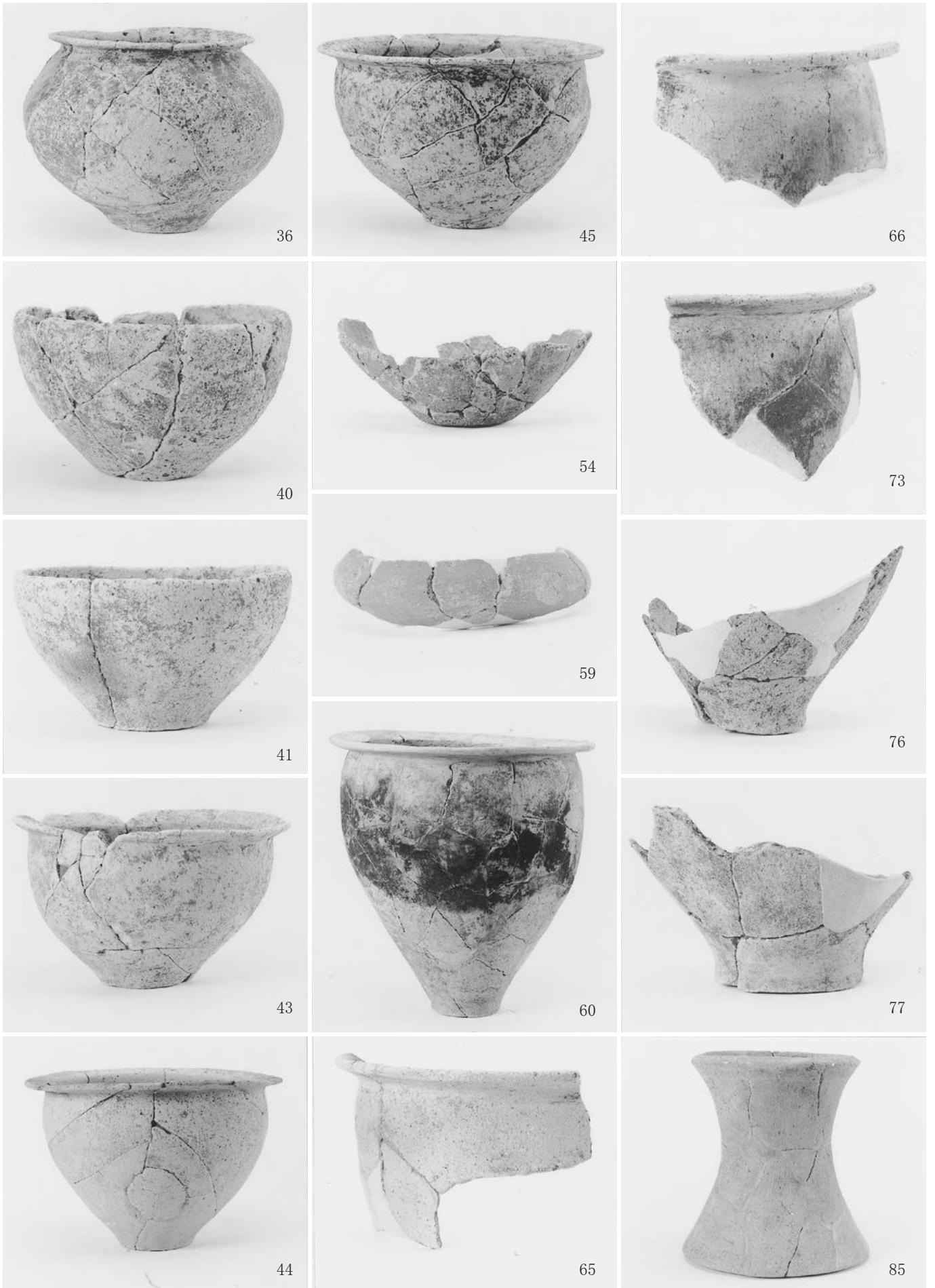


(3) 鑄型A出土状態 (包含層) (北西から)

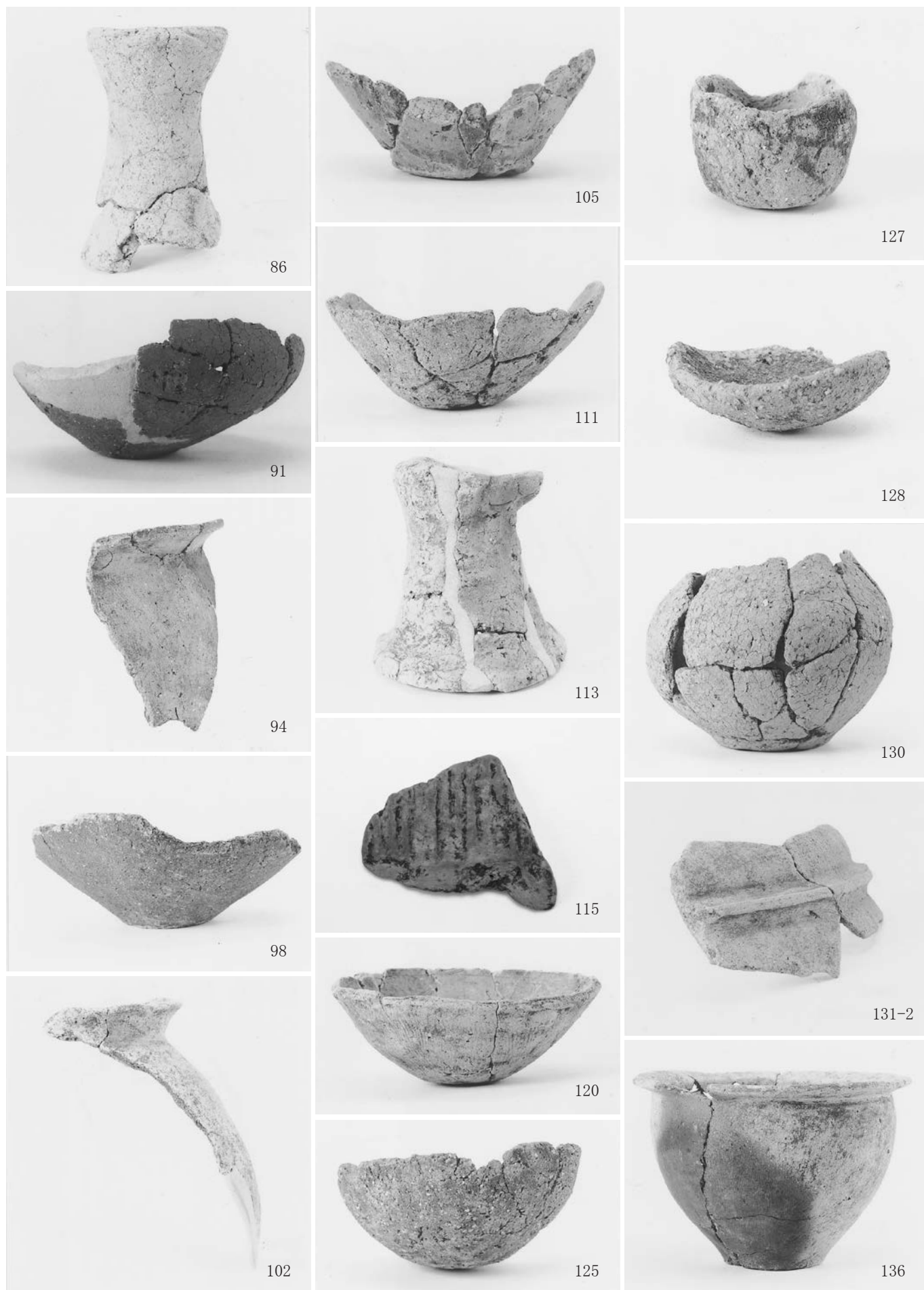


縄文土器、1・6～8号住居跡出土土器





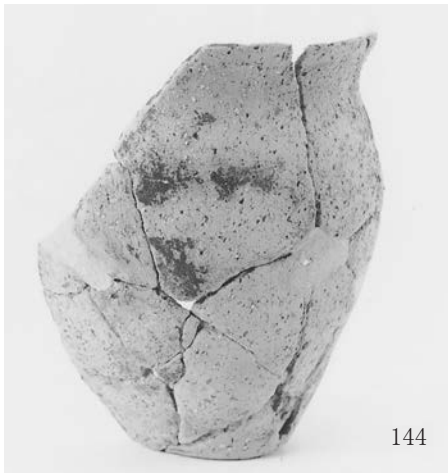
8 ~ 11 号住居跡出土土器



11 ~ 16号住居跡出土土器



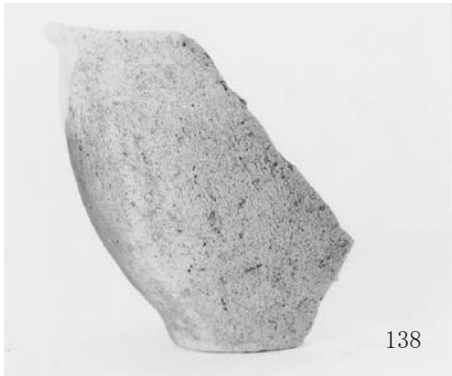
137



144



168



138



152



169



140



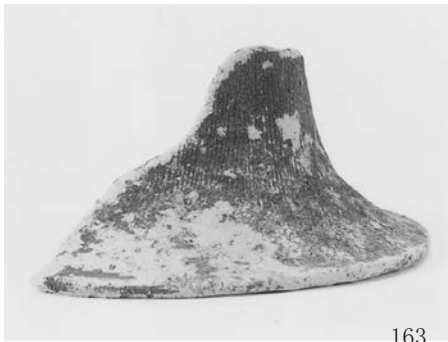
158



170



141



163



180



142



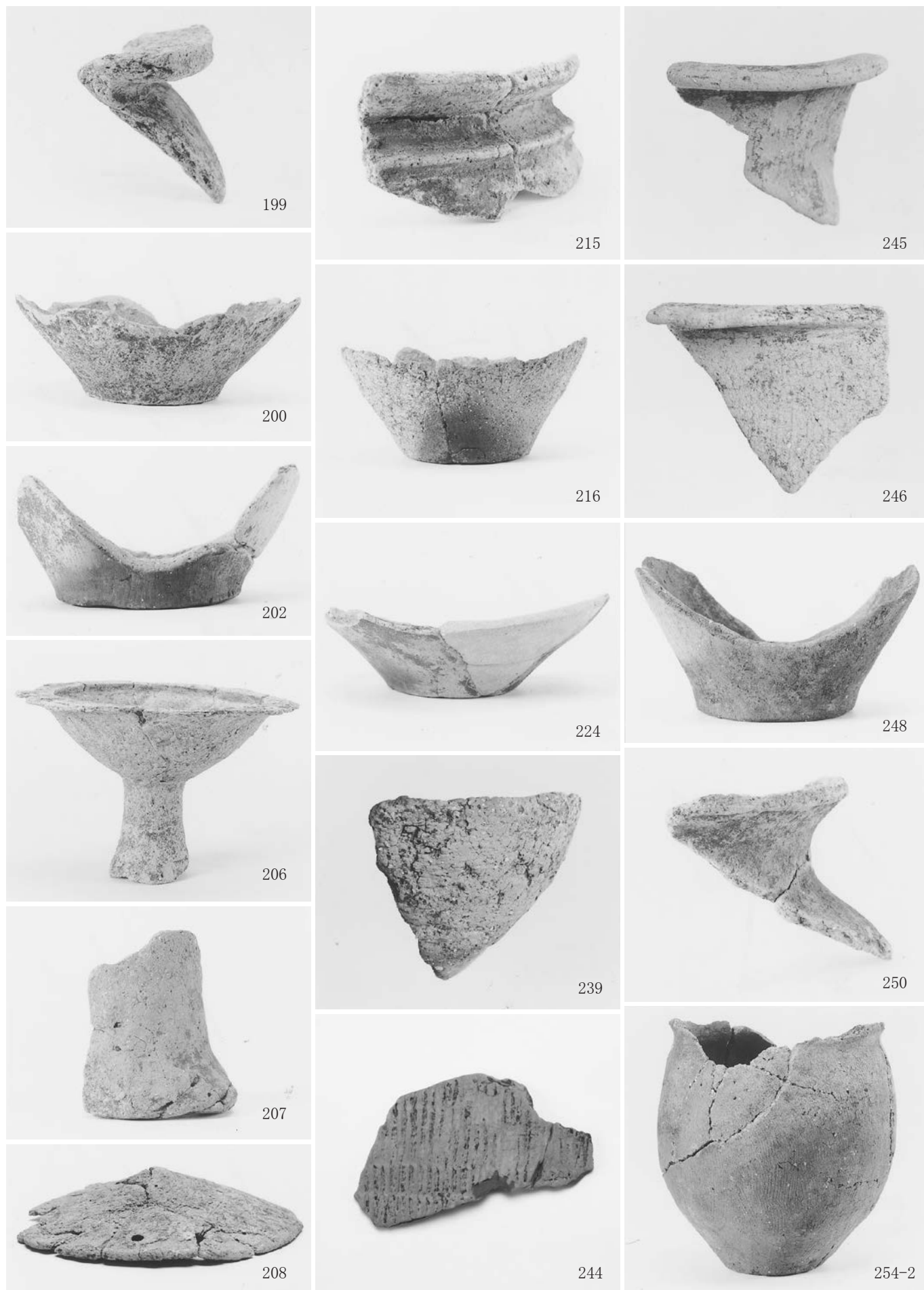
165



181

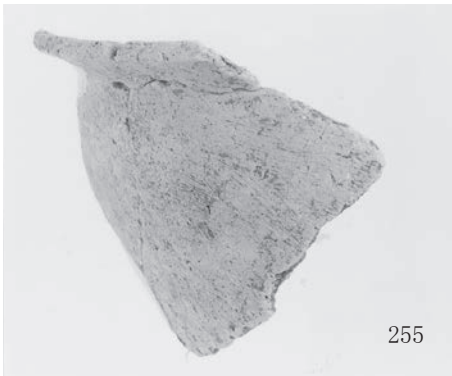
16 ~ 20 号住居跡出土土器



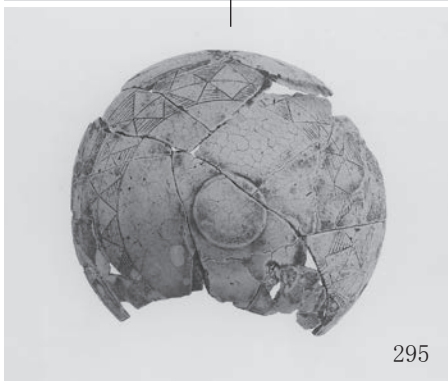
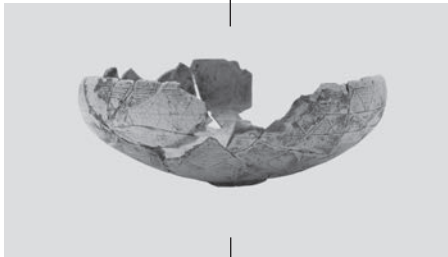
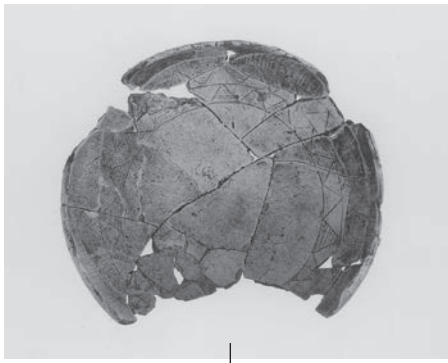


22 ~ 25 · 27 号住居跡出土土器





255



295



315



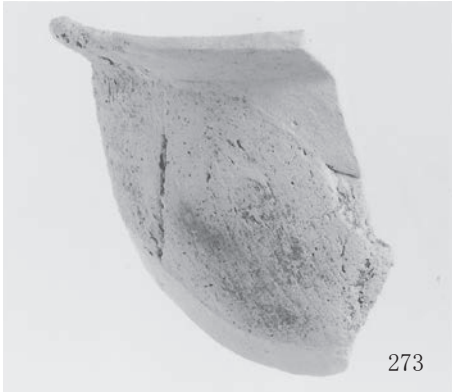
258



259



316



273



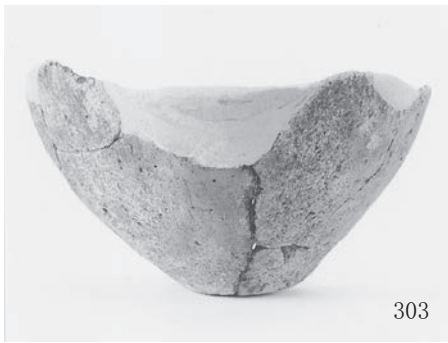
298



317



278



303



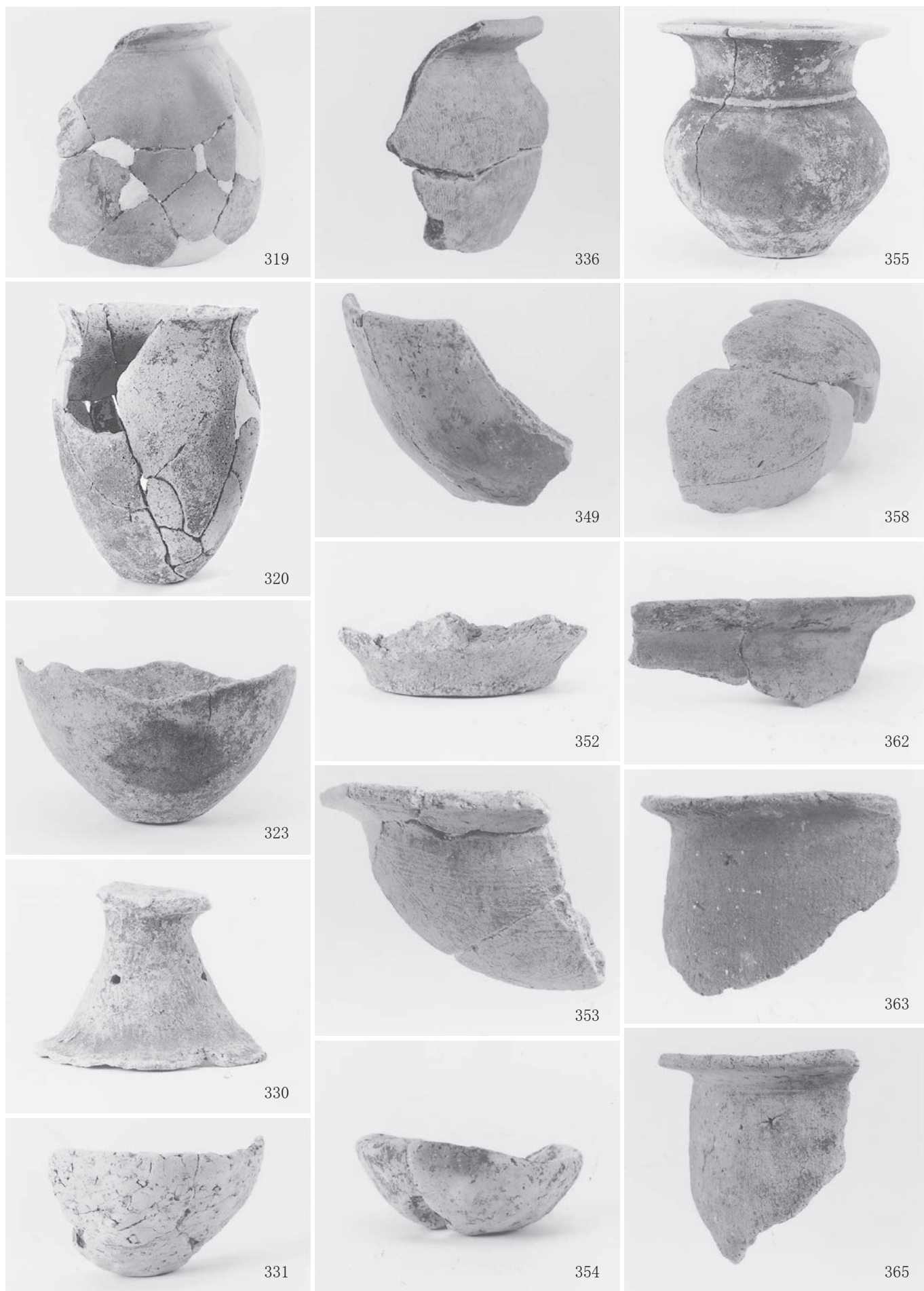
293



314



318



31 ~ 34 号住居跡出土土器





368



380



401



370



381



403



372



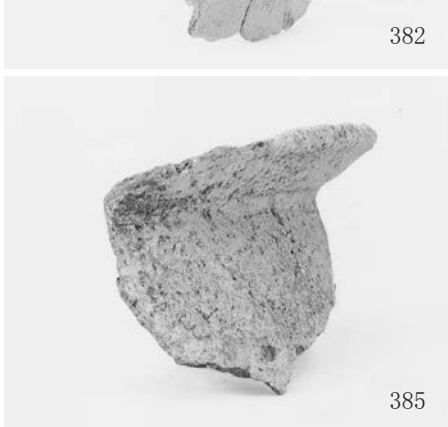
382



412



374



385



418



379

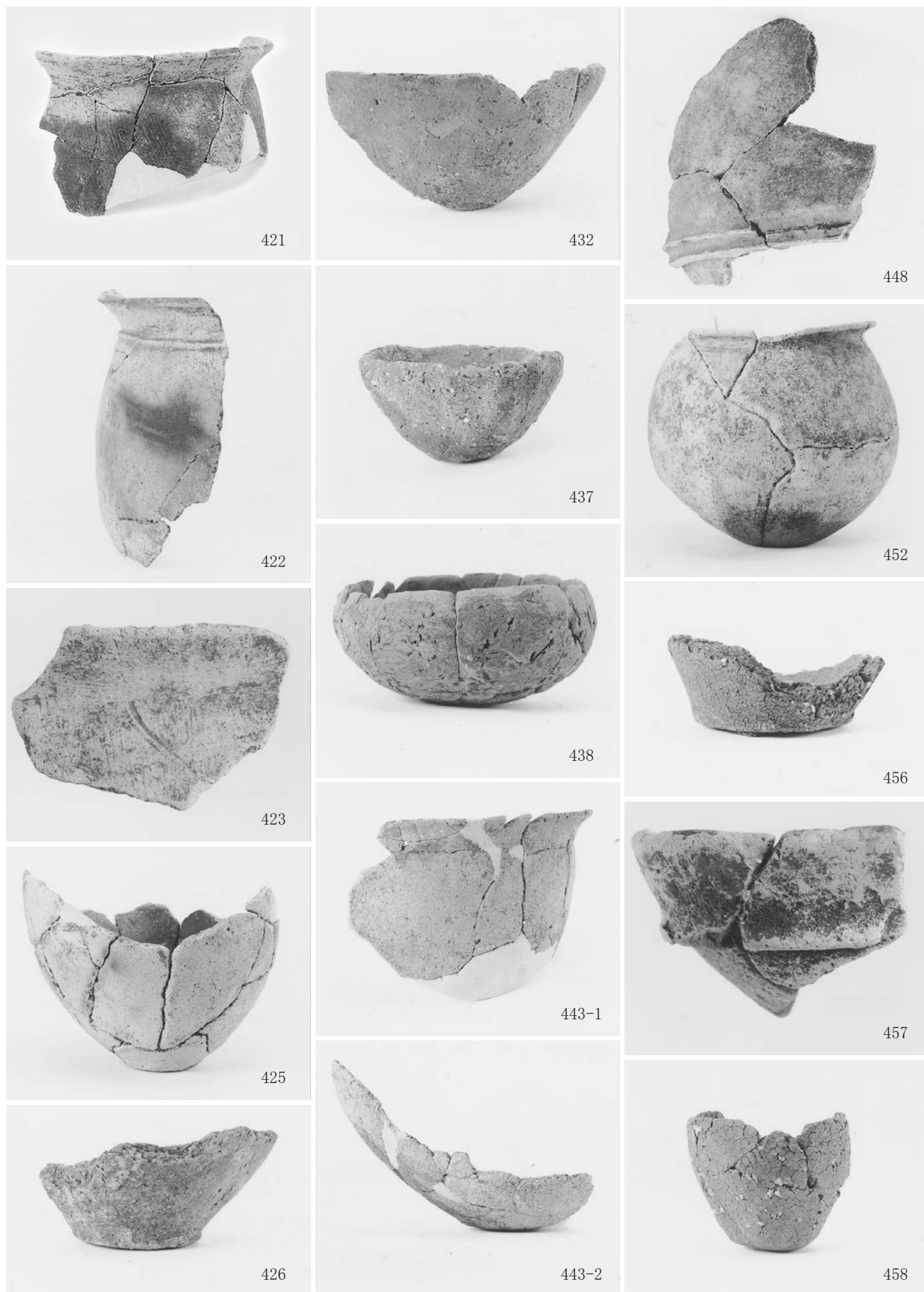


386



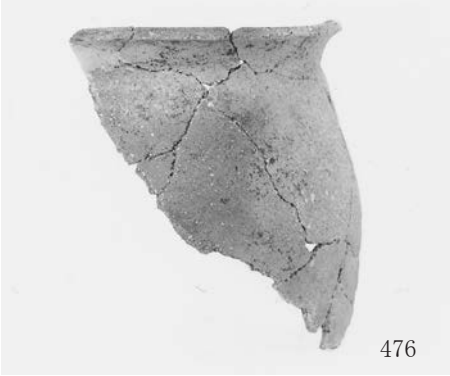
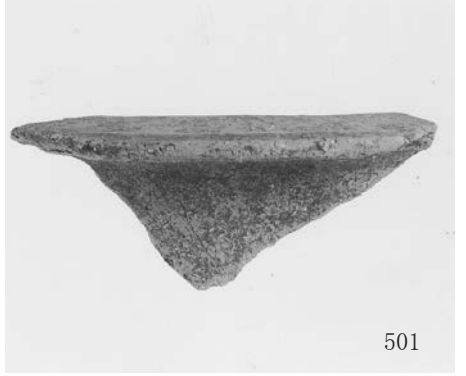
419

34 ~ 39 号住居跡出土土器

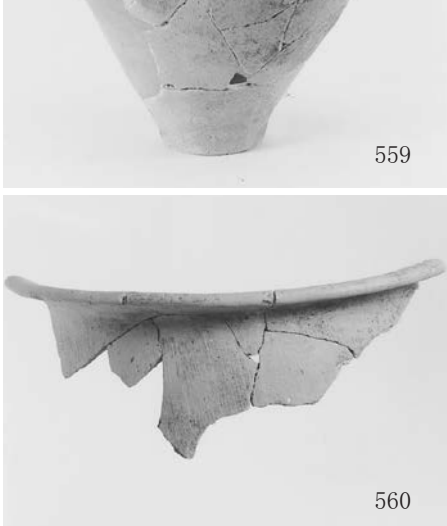


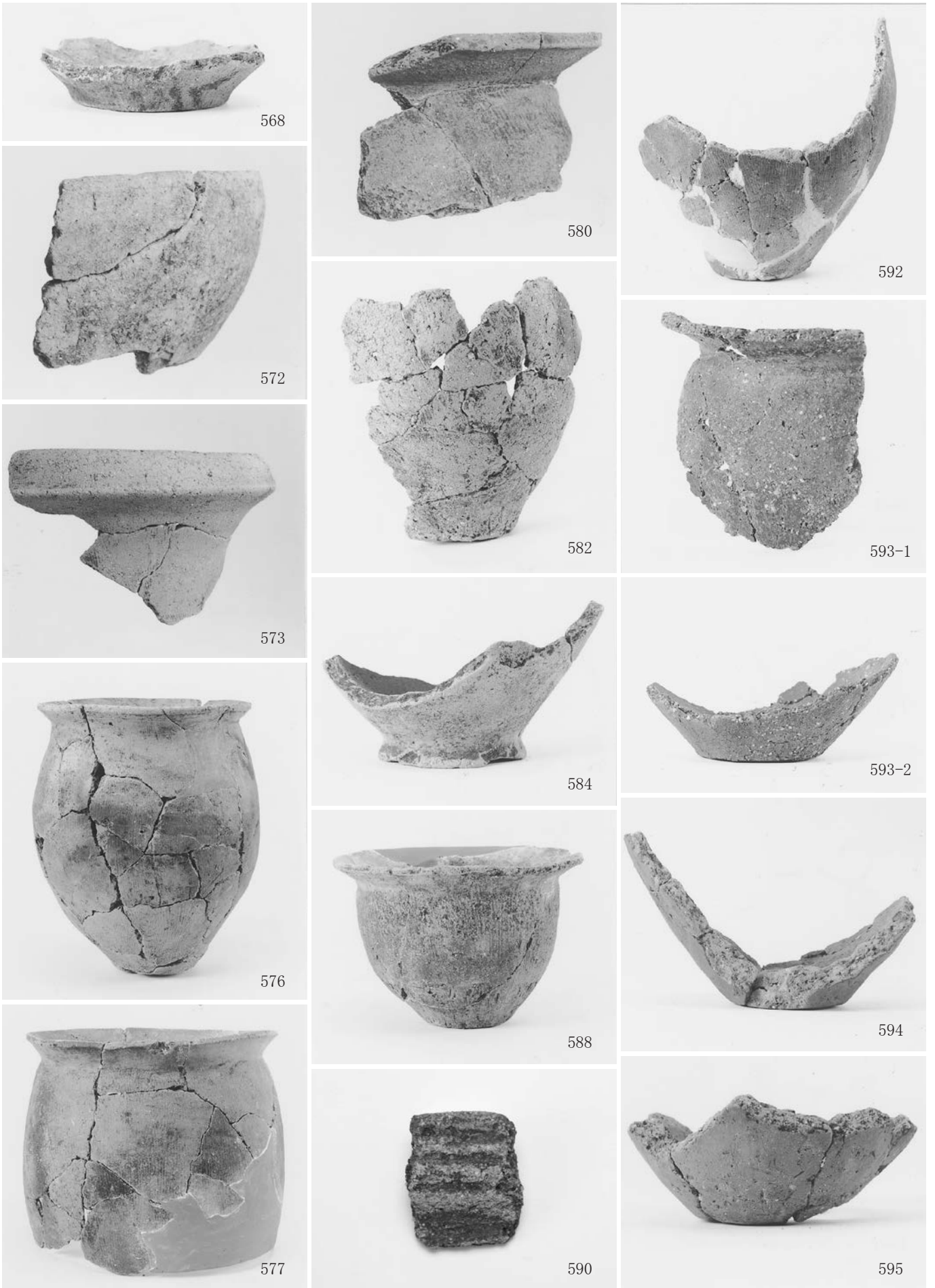
39 ~ 42 号住居跡出土土器





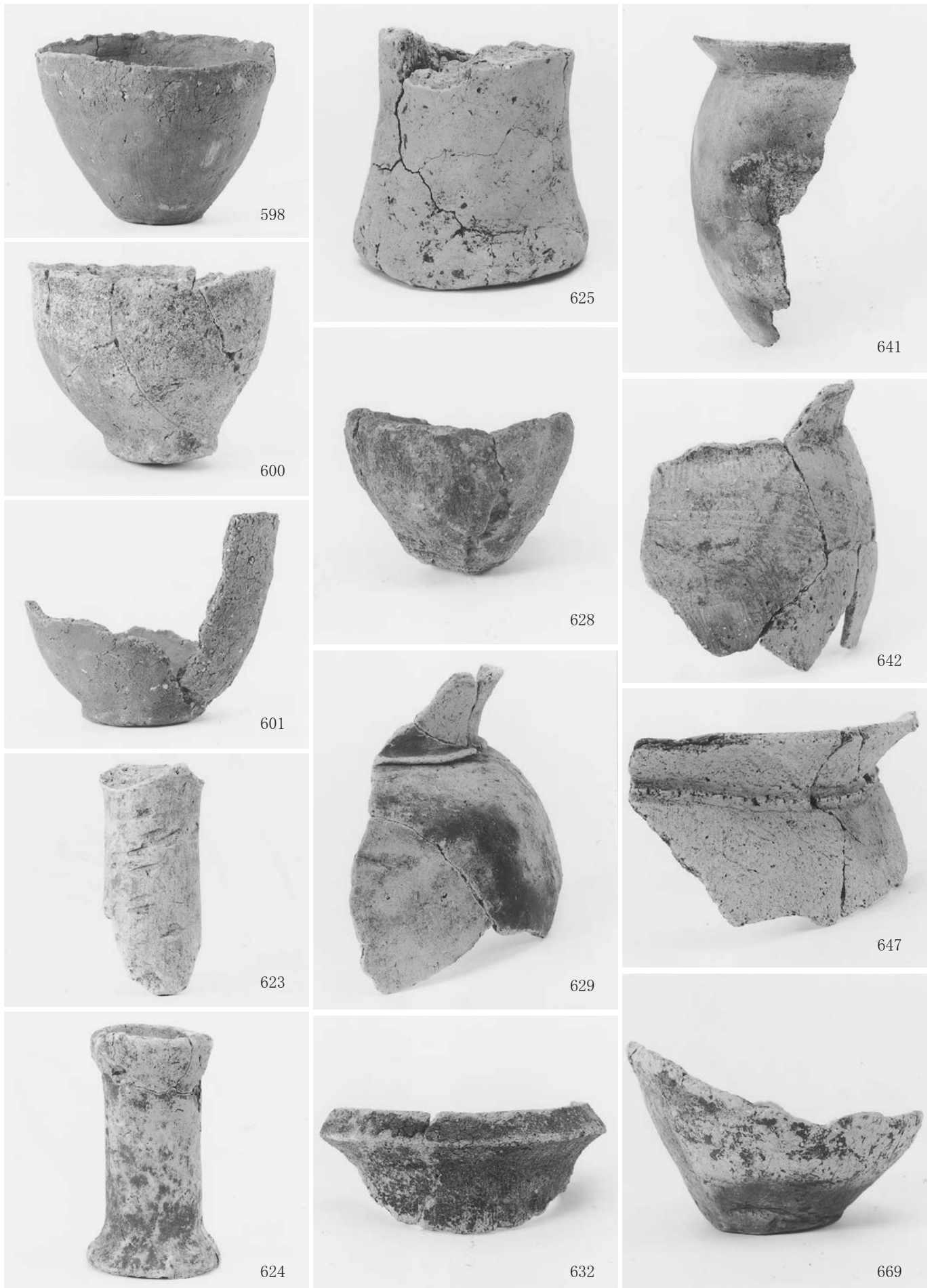
掘立柱建物跡・土坑出土土器





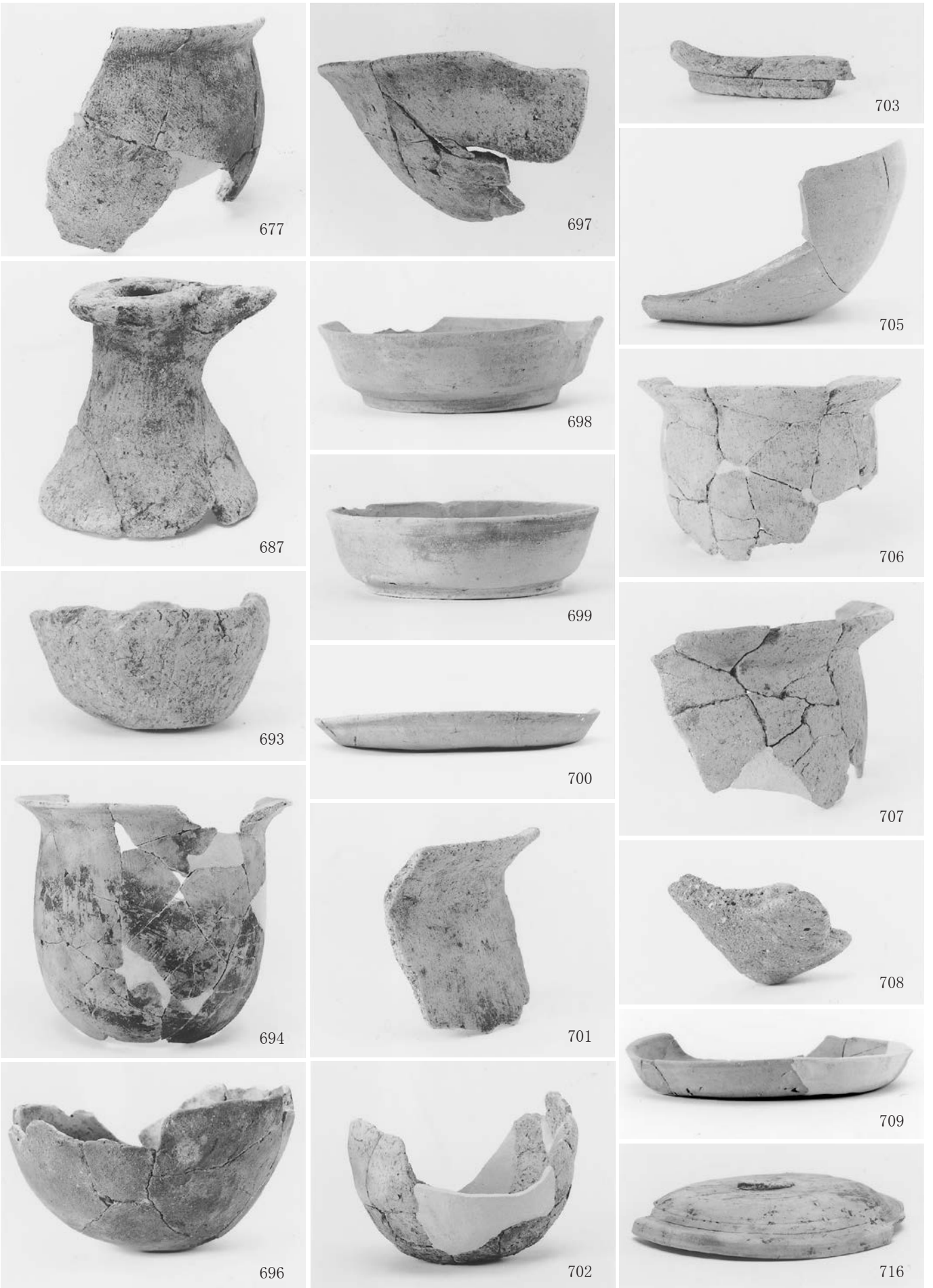
2号井戸・8号溝・2号周溝状遺構出土土器



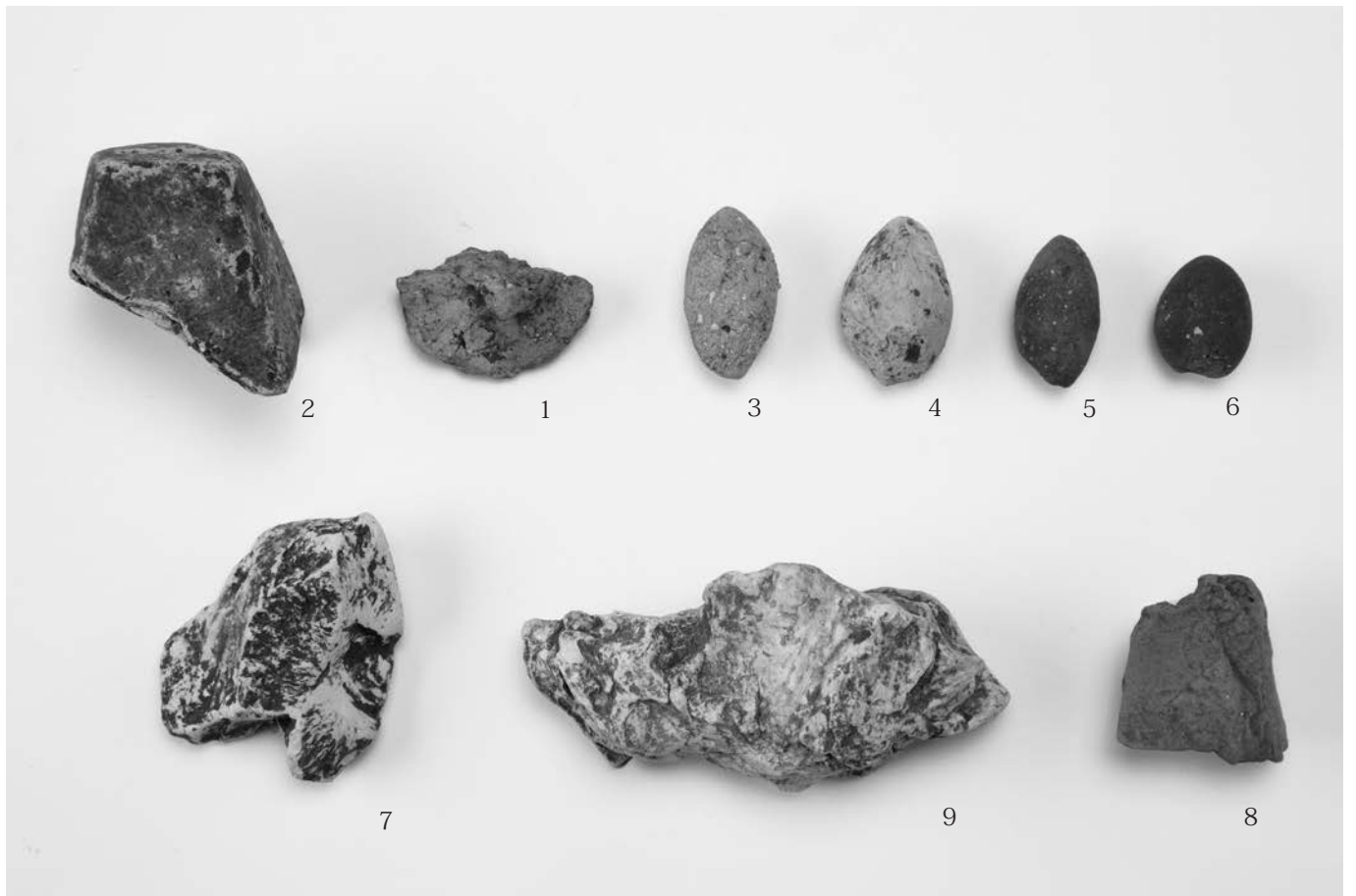


2号周溝状遺構・ピット・包含層①②③出土土器





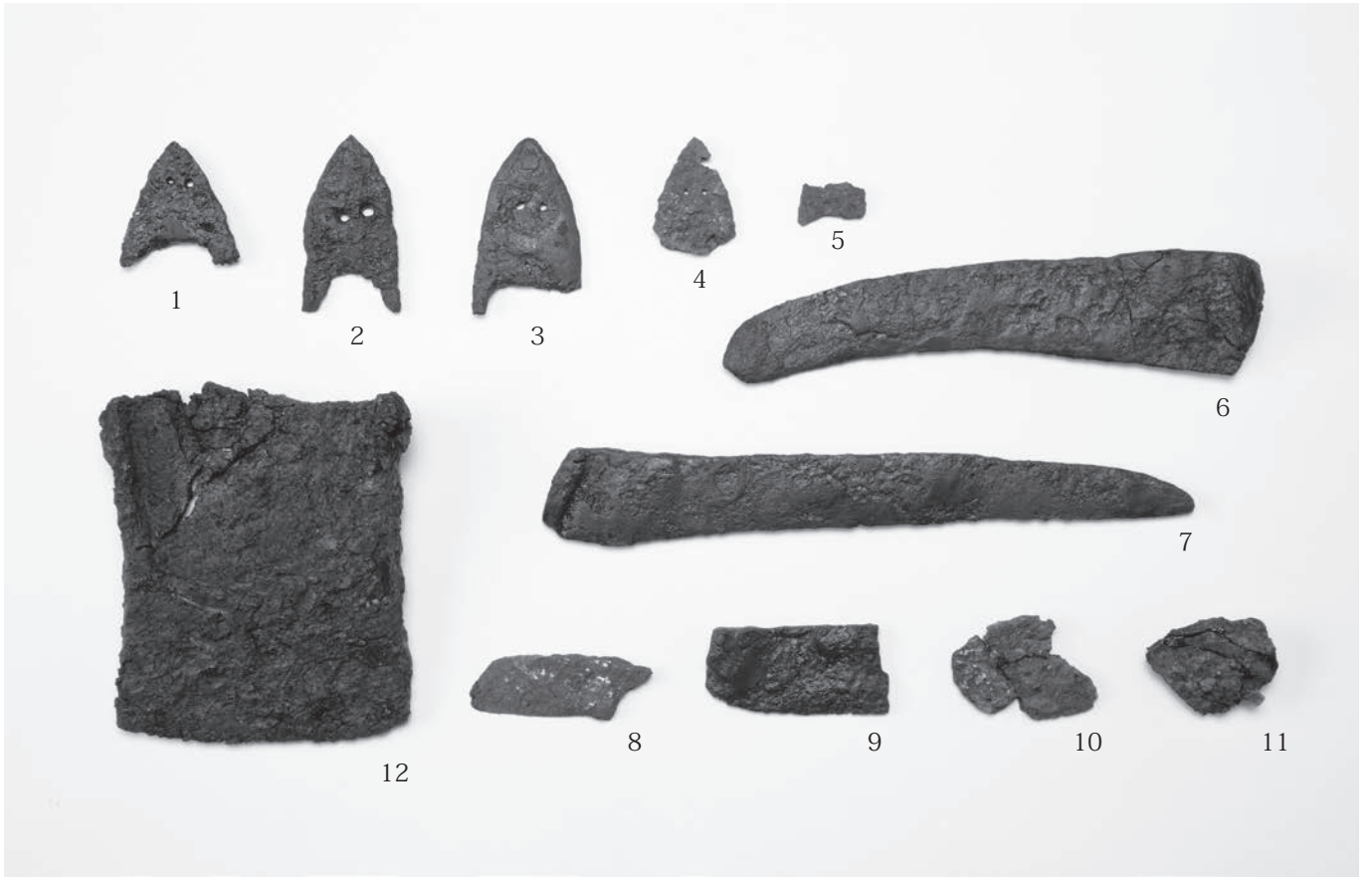
包含層③・2～4号住居跡・包含層④出土土器



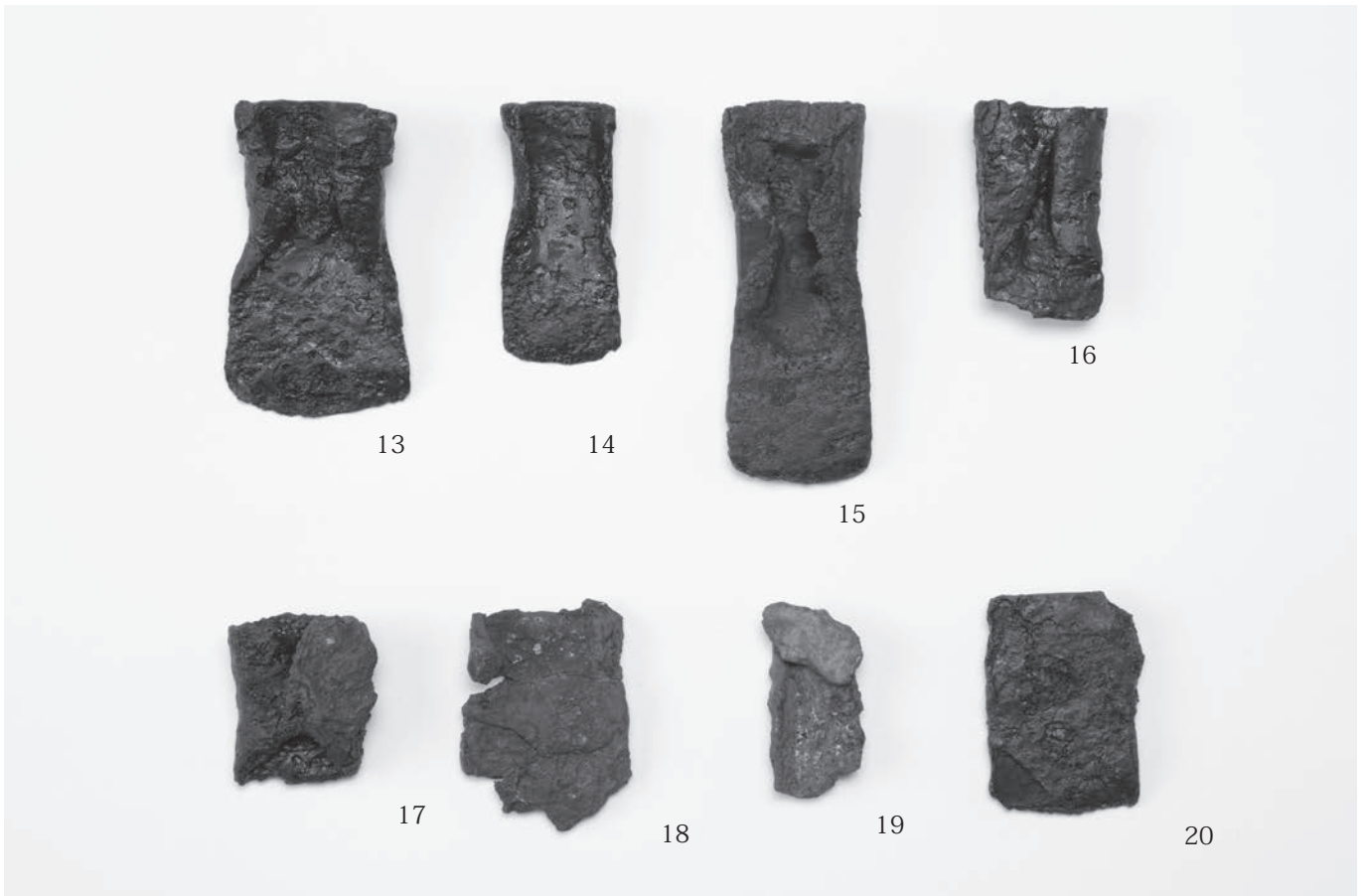
(1) 土製品



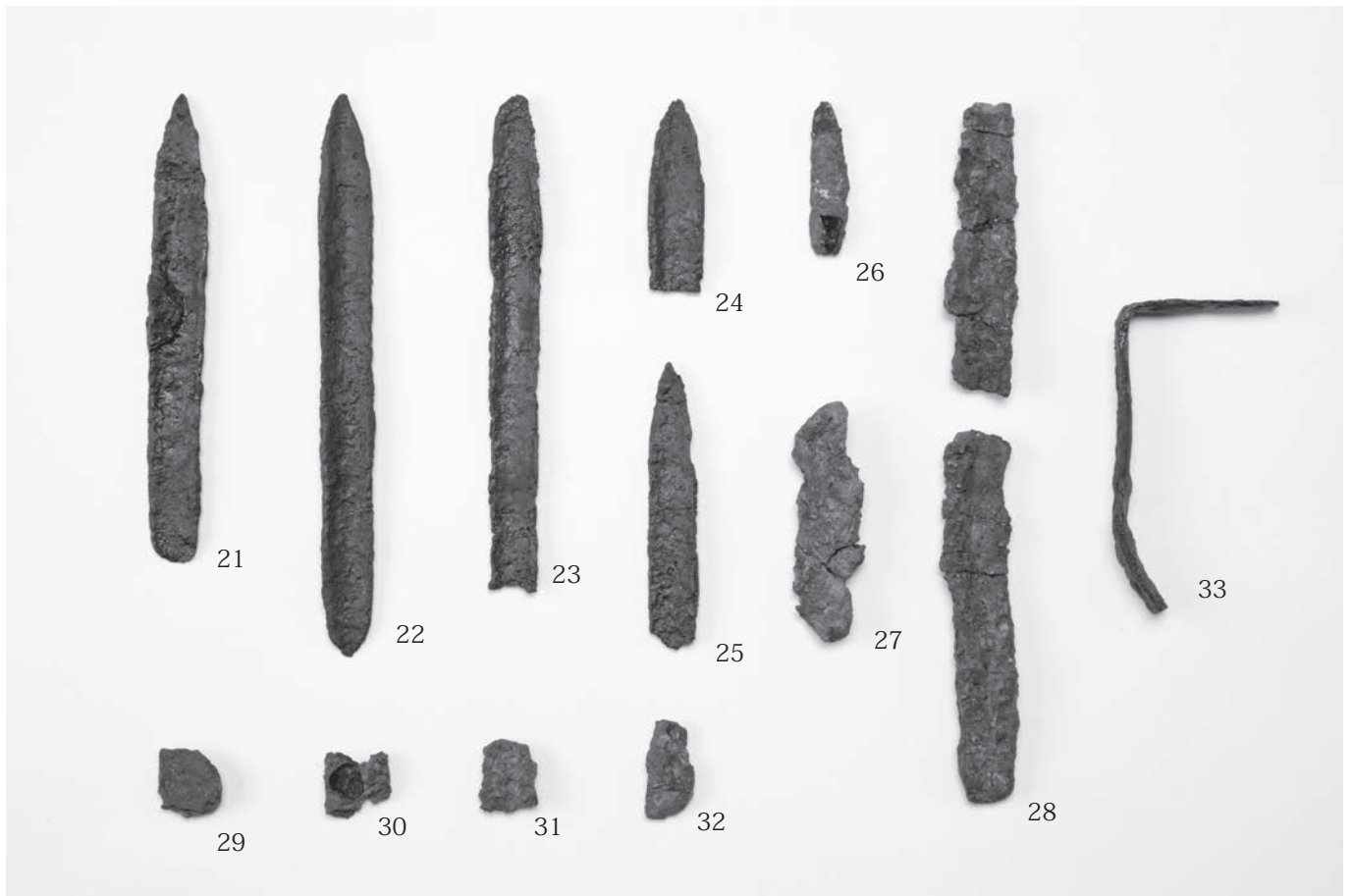
(2) 鐸形土製品



(1) 鉄器①



(2) 鉄器②

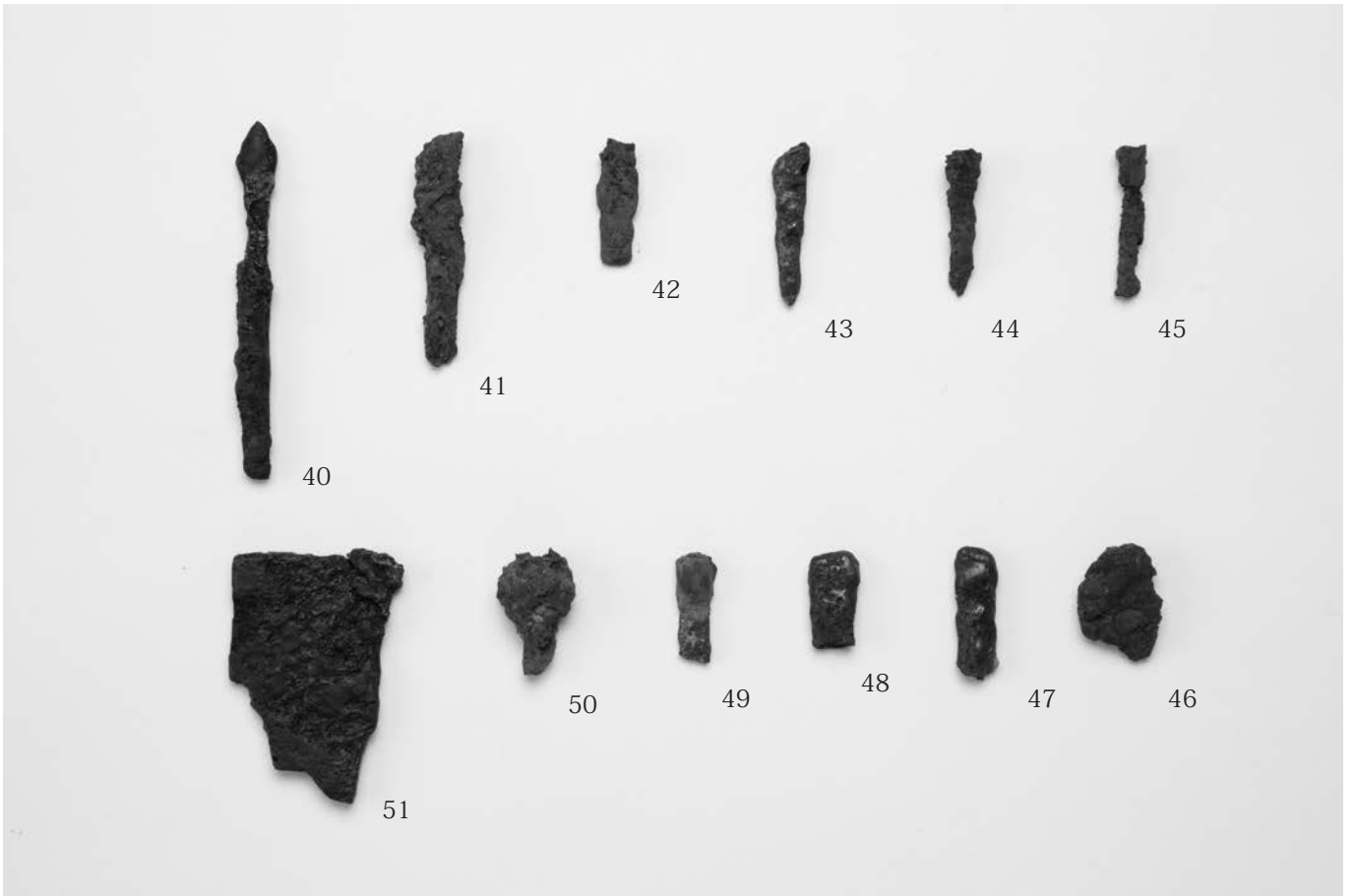


(1) 鉄器③

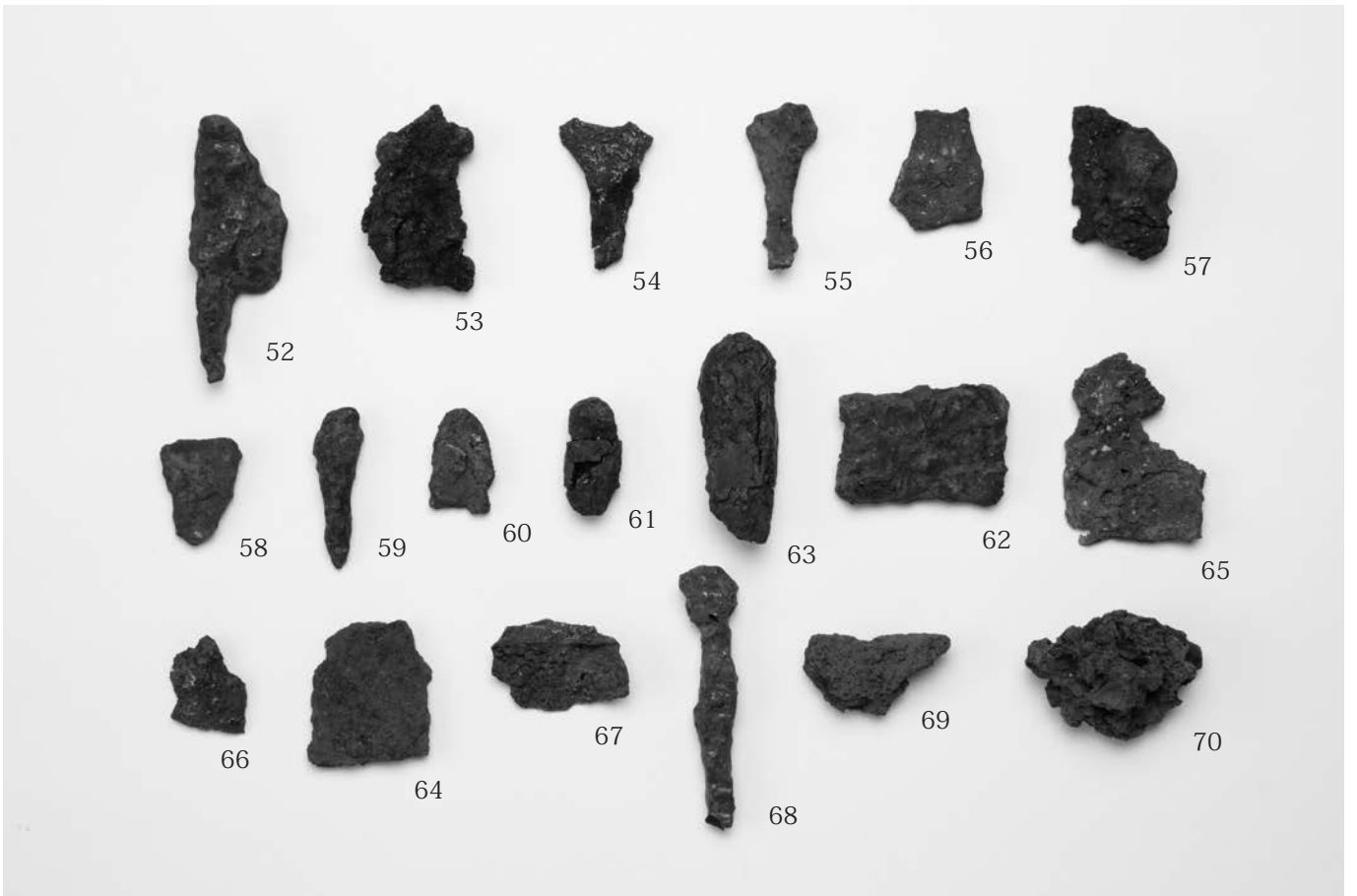


(2) 鉄器④





(1) 鉄器⑤



(2) 鉄器⑥



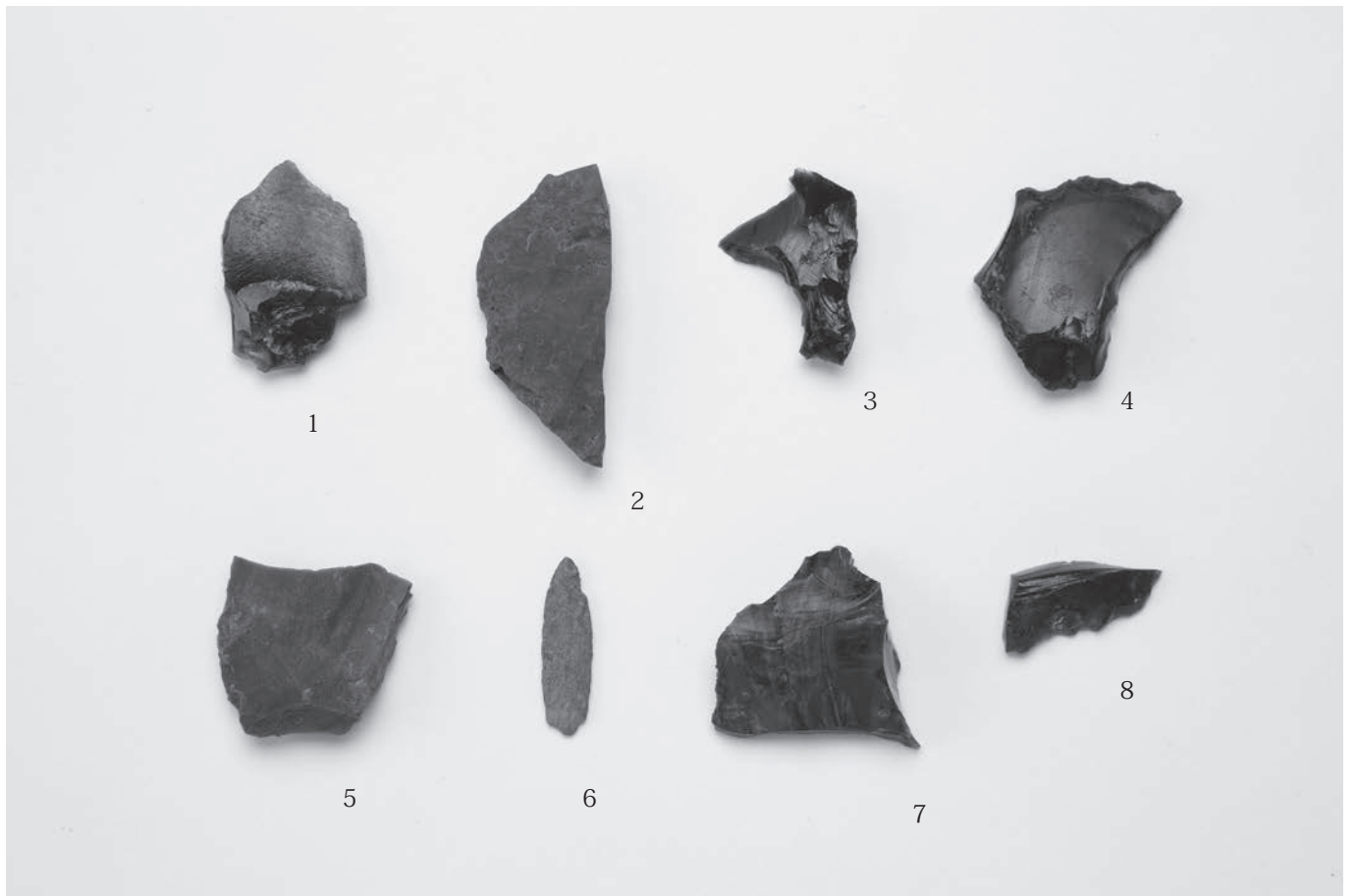
(1) 青銅器



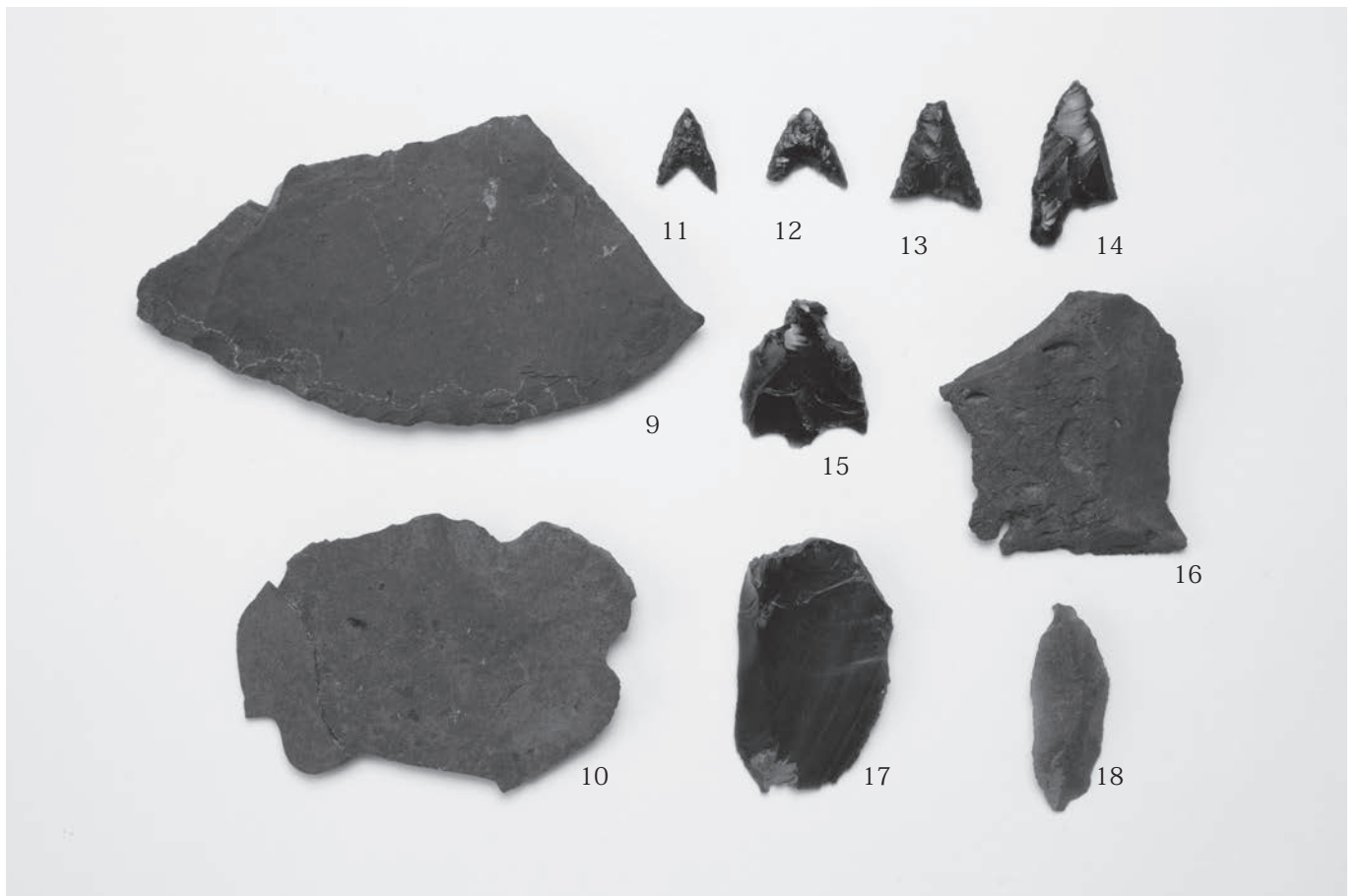
(1) 青銅器鑄型①



(1) 青銅器鑄型②

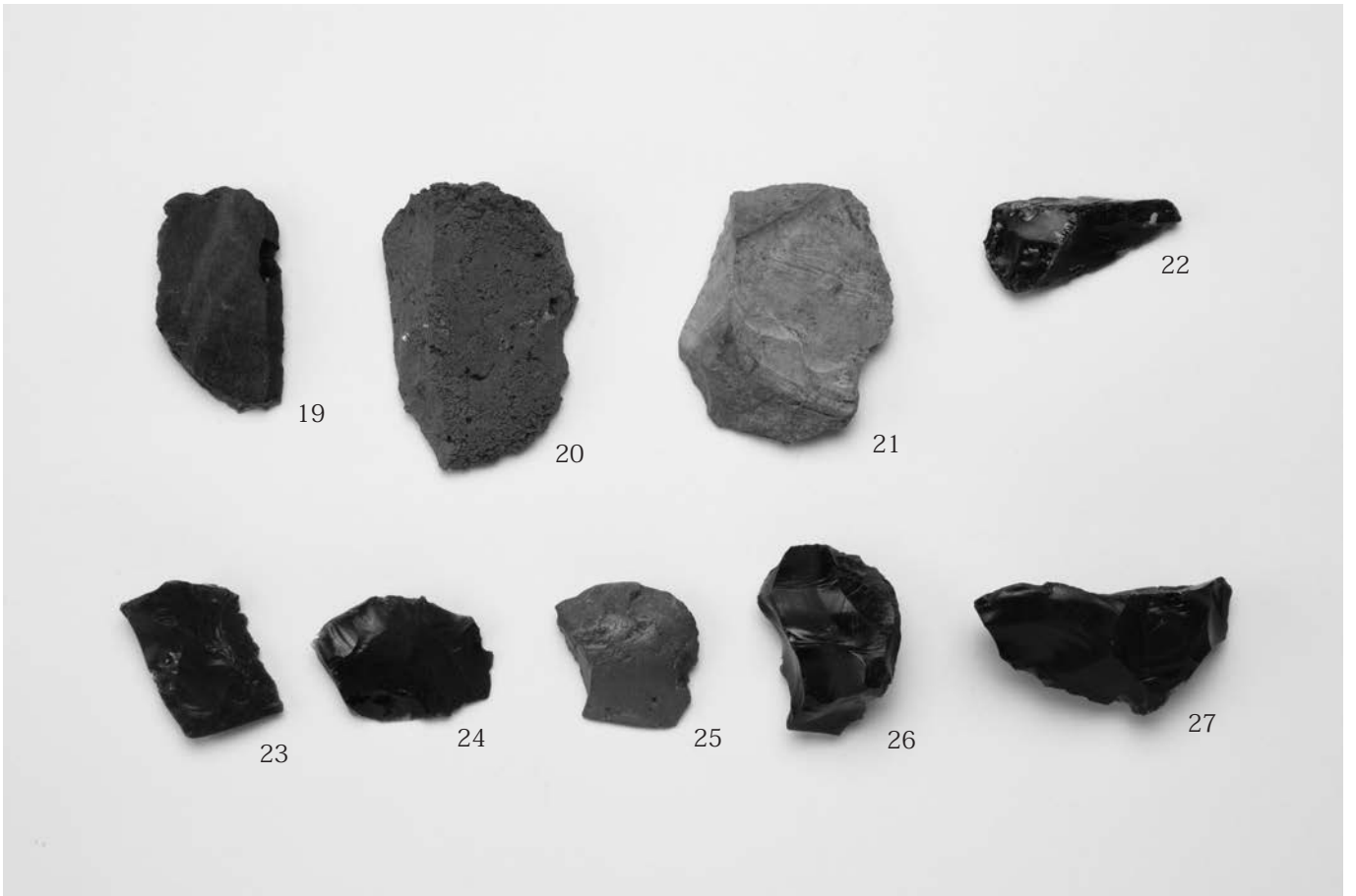


(1) 石器①

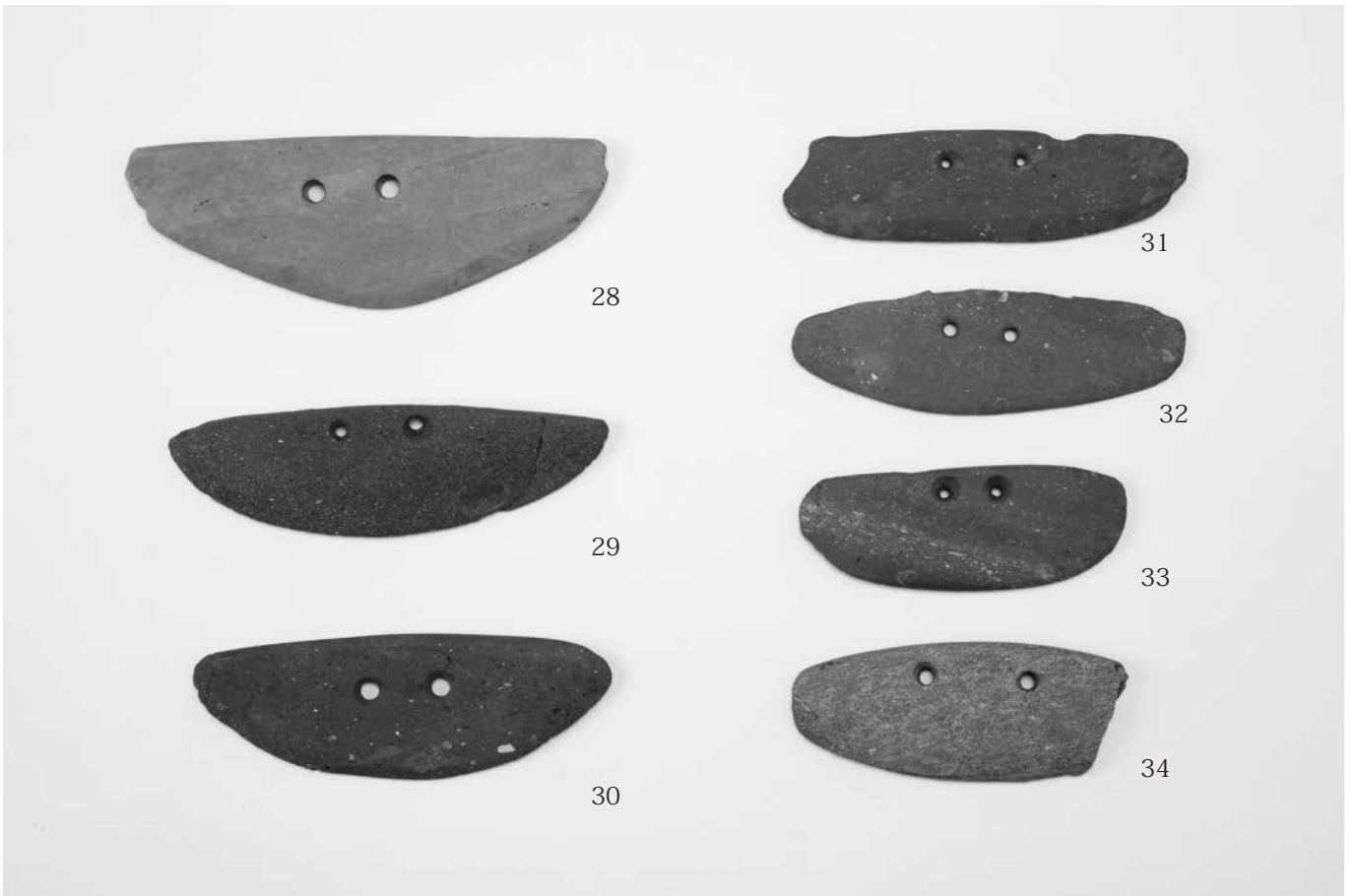


(2) 石器②

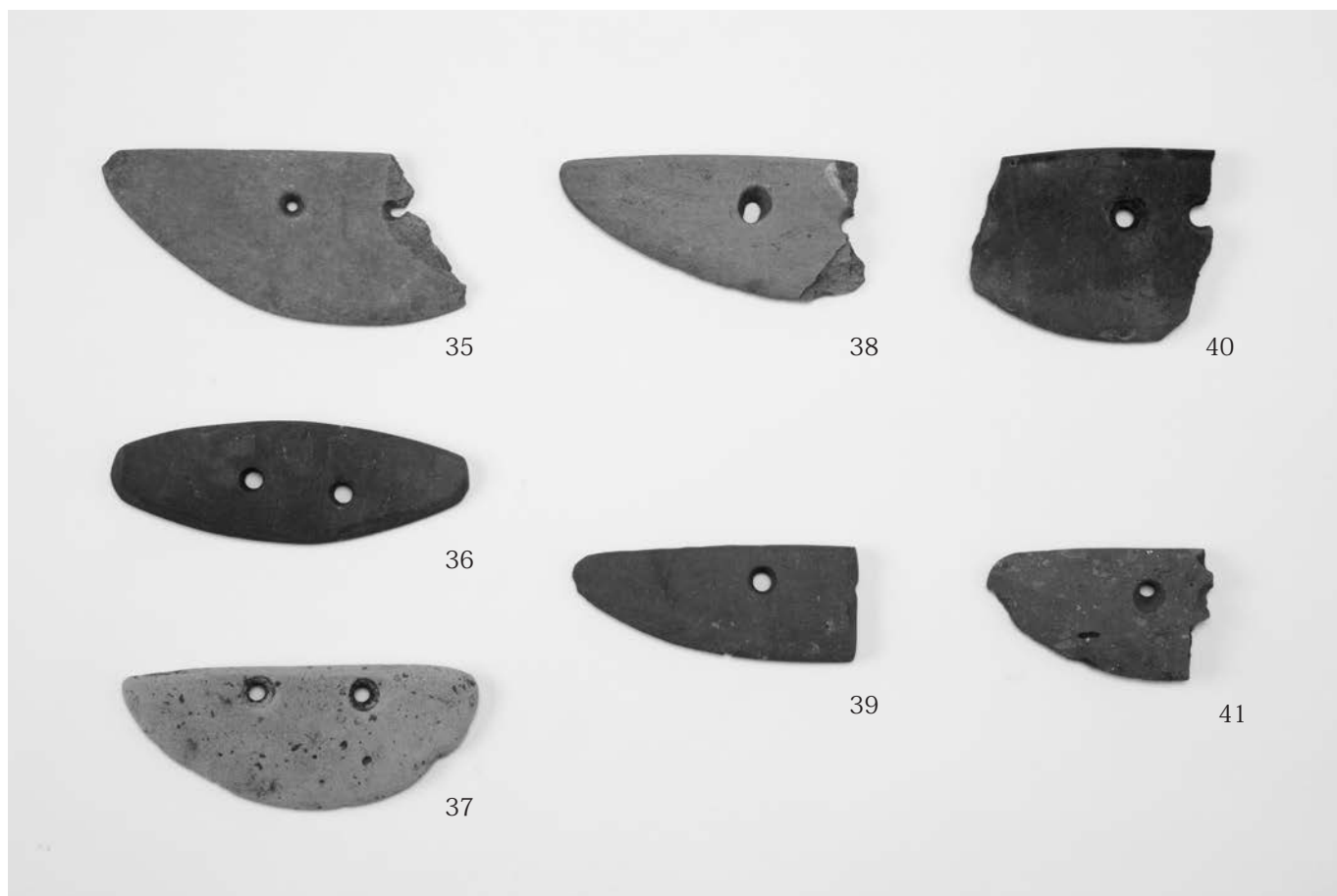




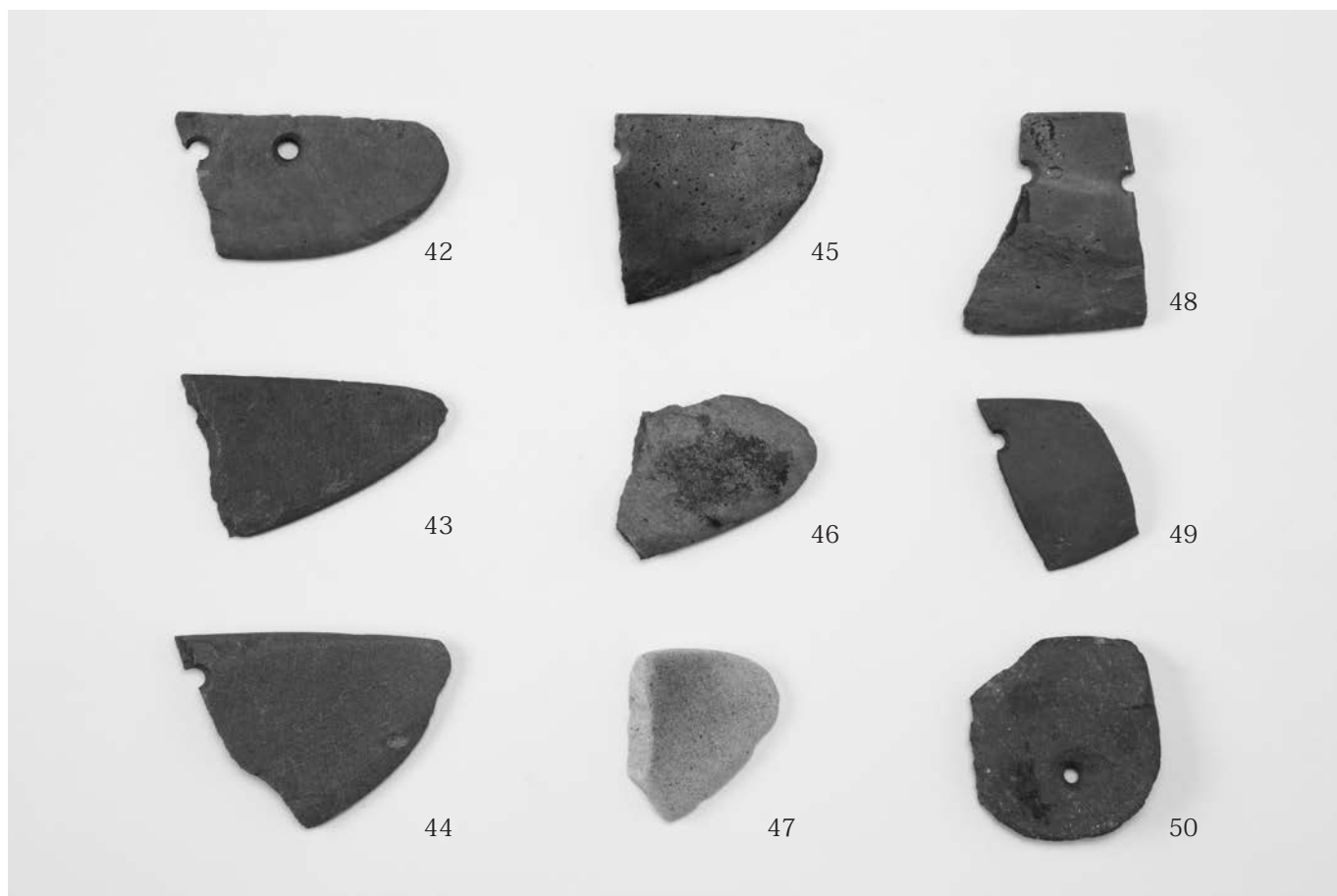
(1) 石器③



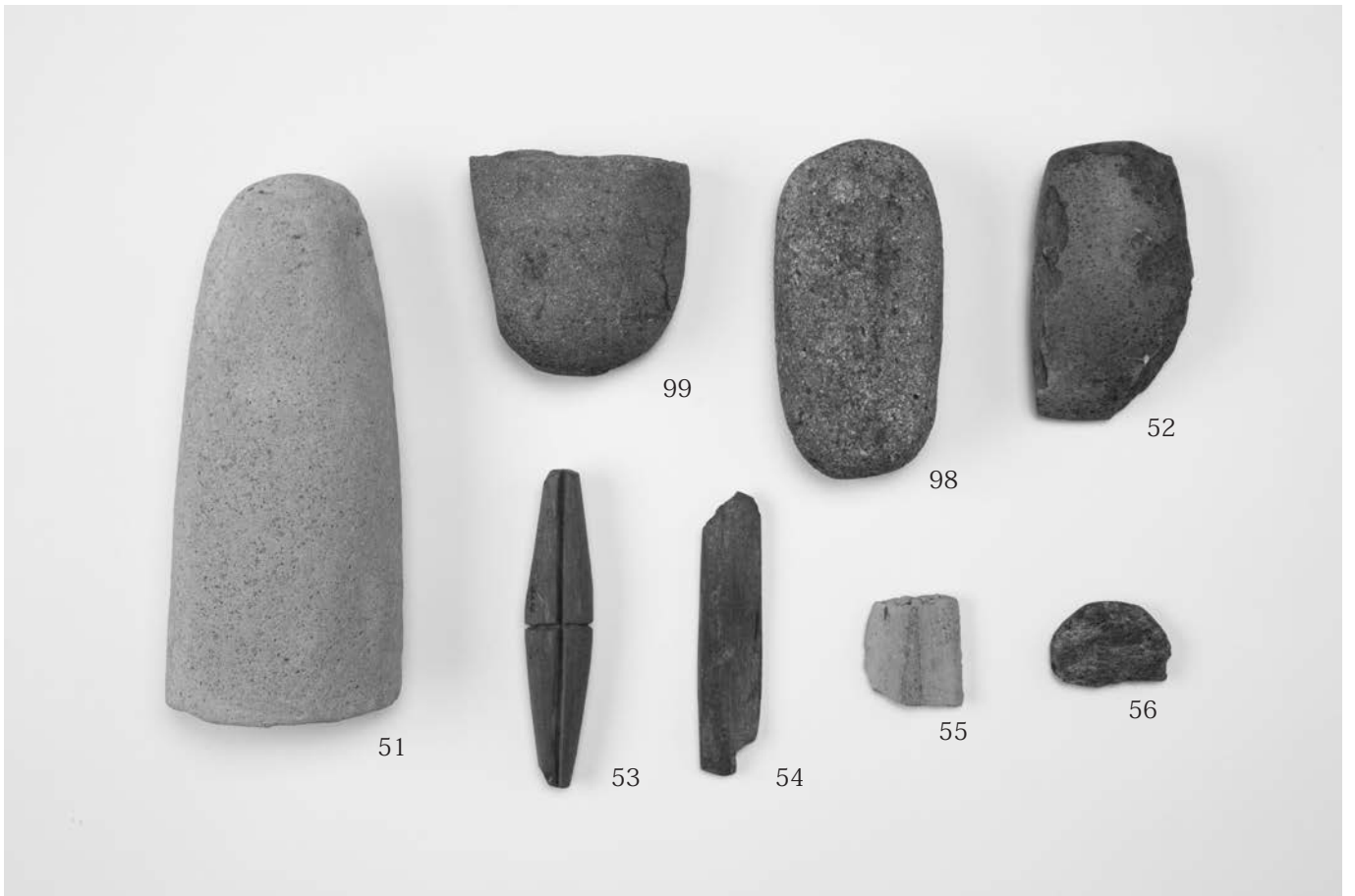
(2) 石器④



(1) 石器⑤



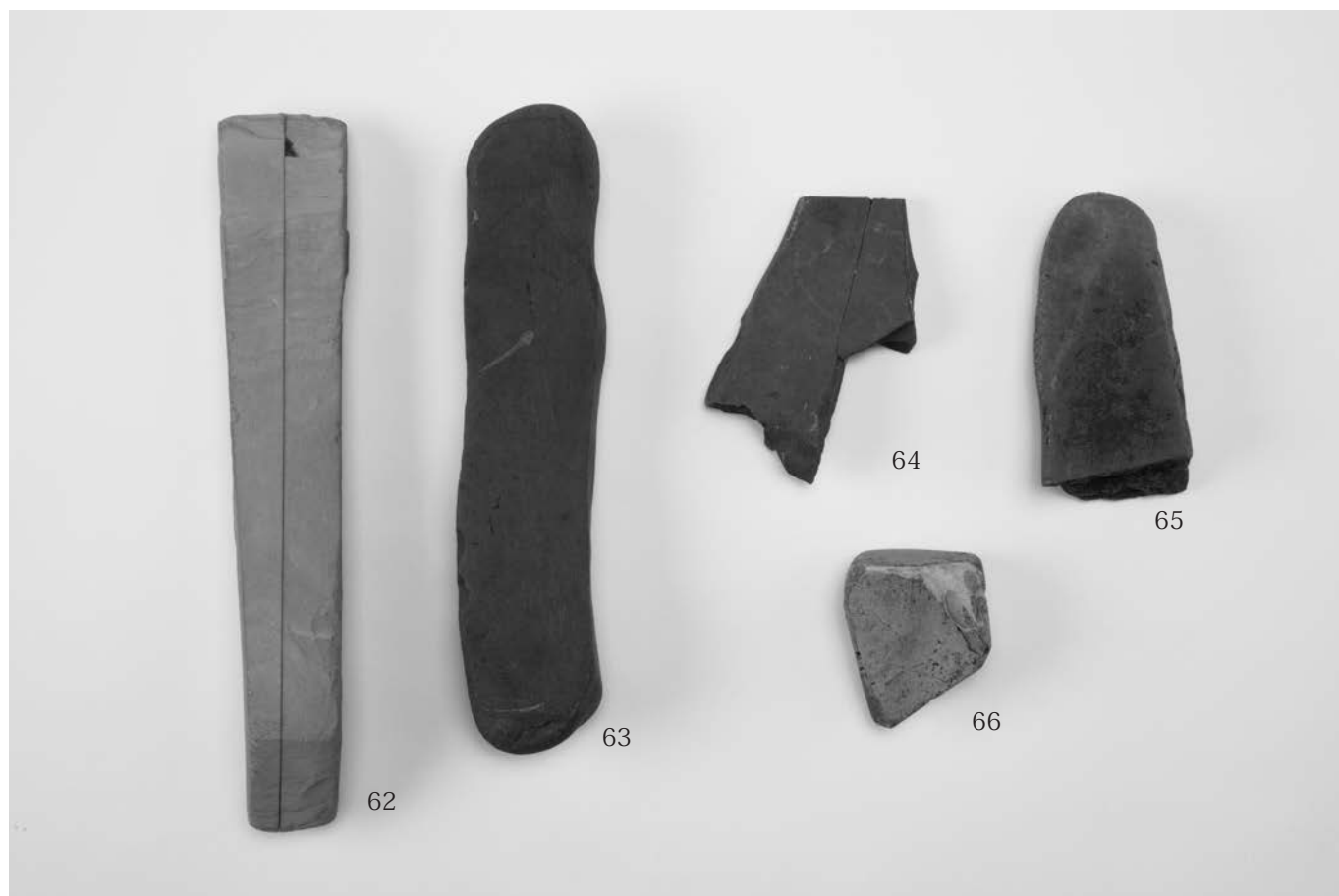
(2) 石器⑥



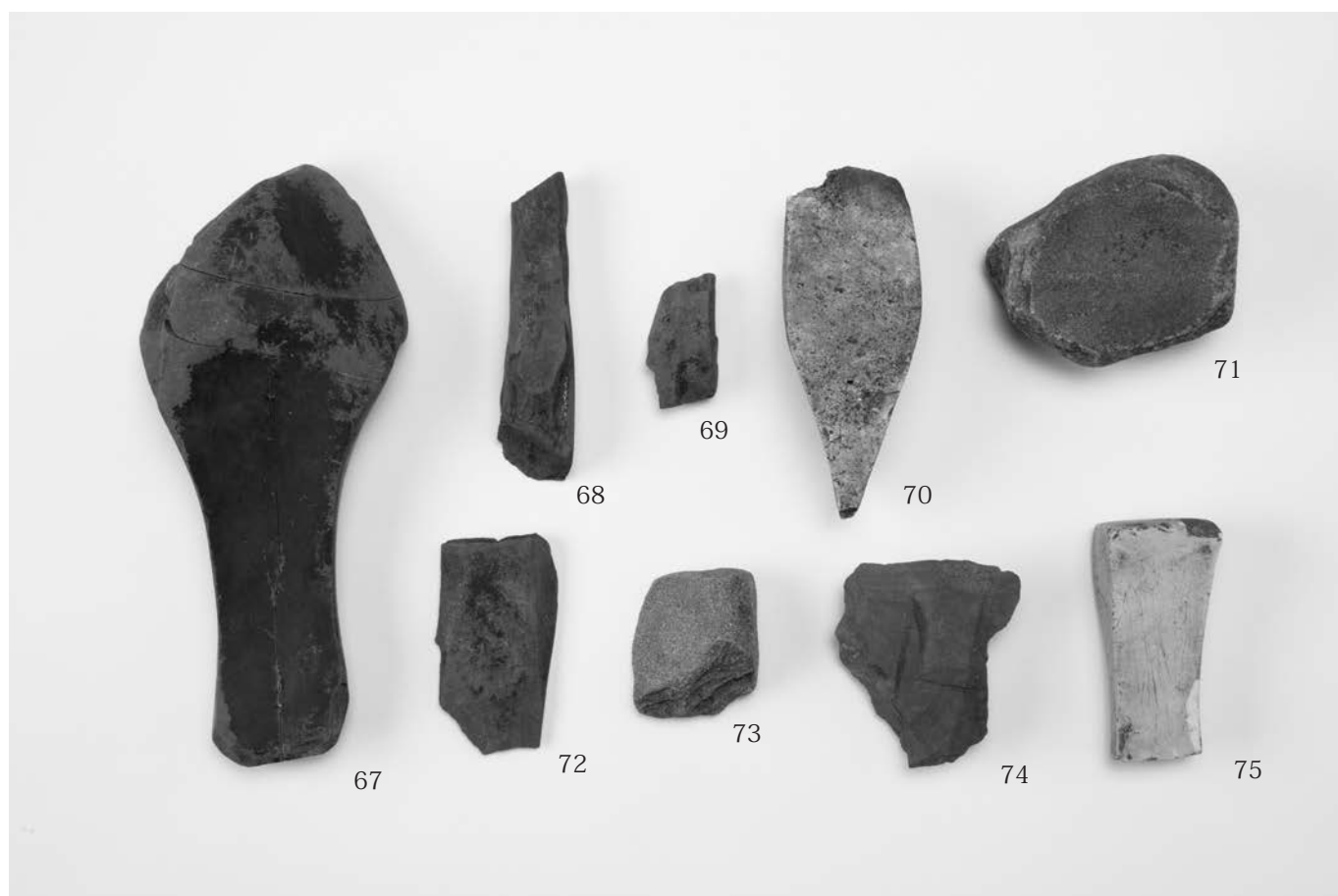
(1) 石器⑦



(2) 石器⑧

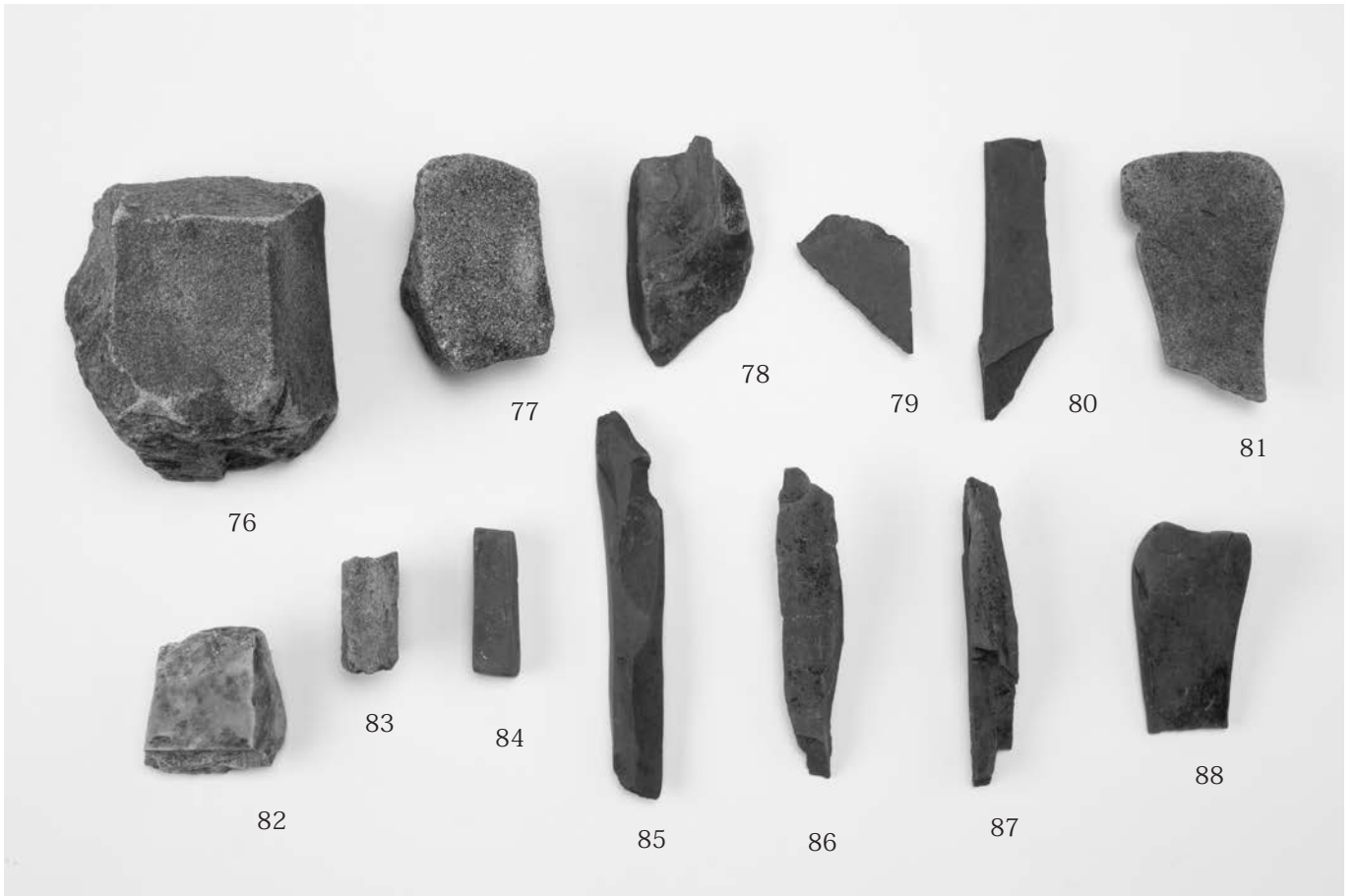


(1) 石器⑨

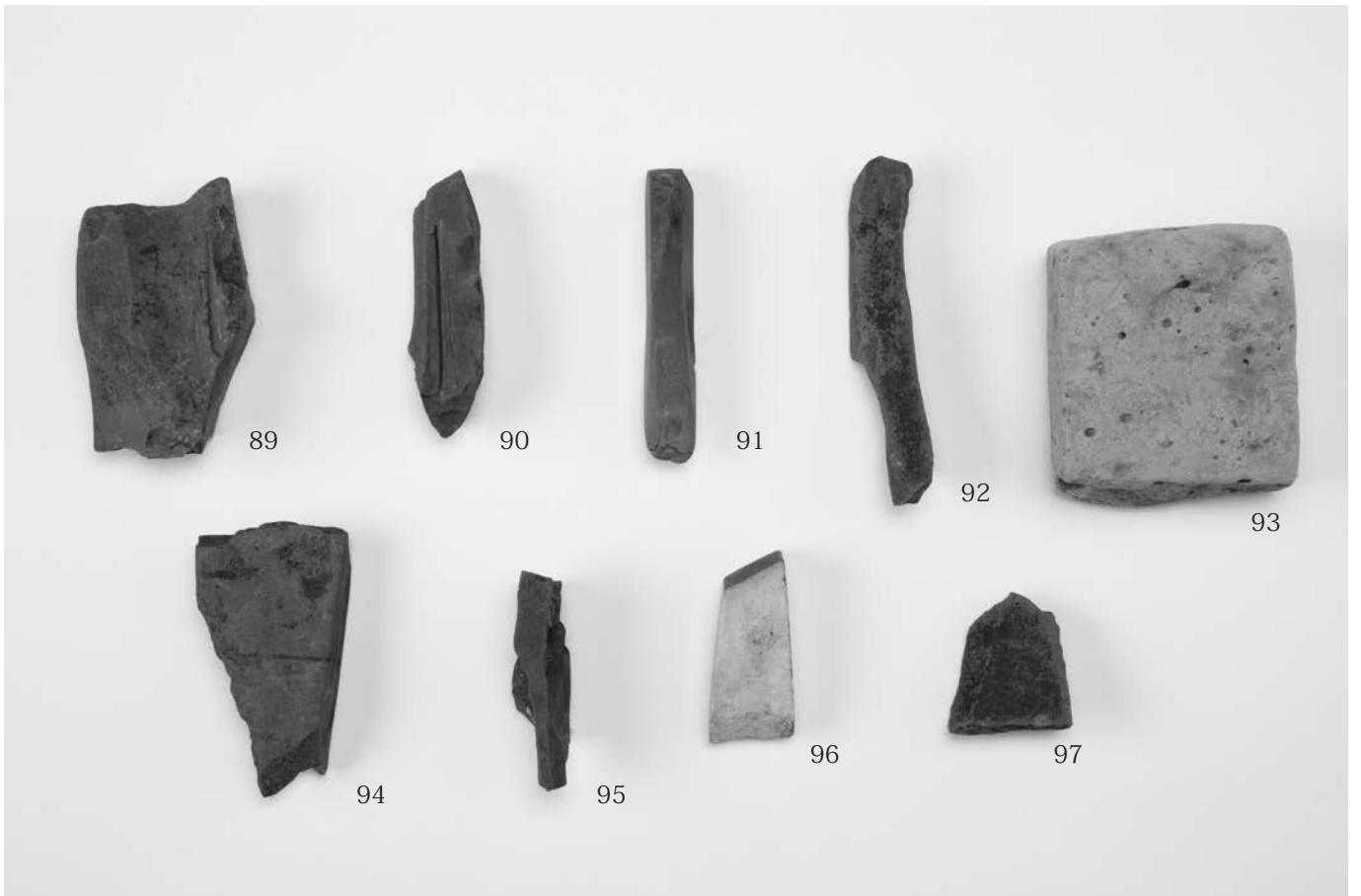


(2) 石器⑩

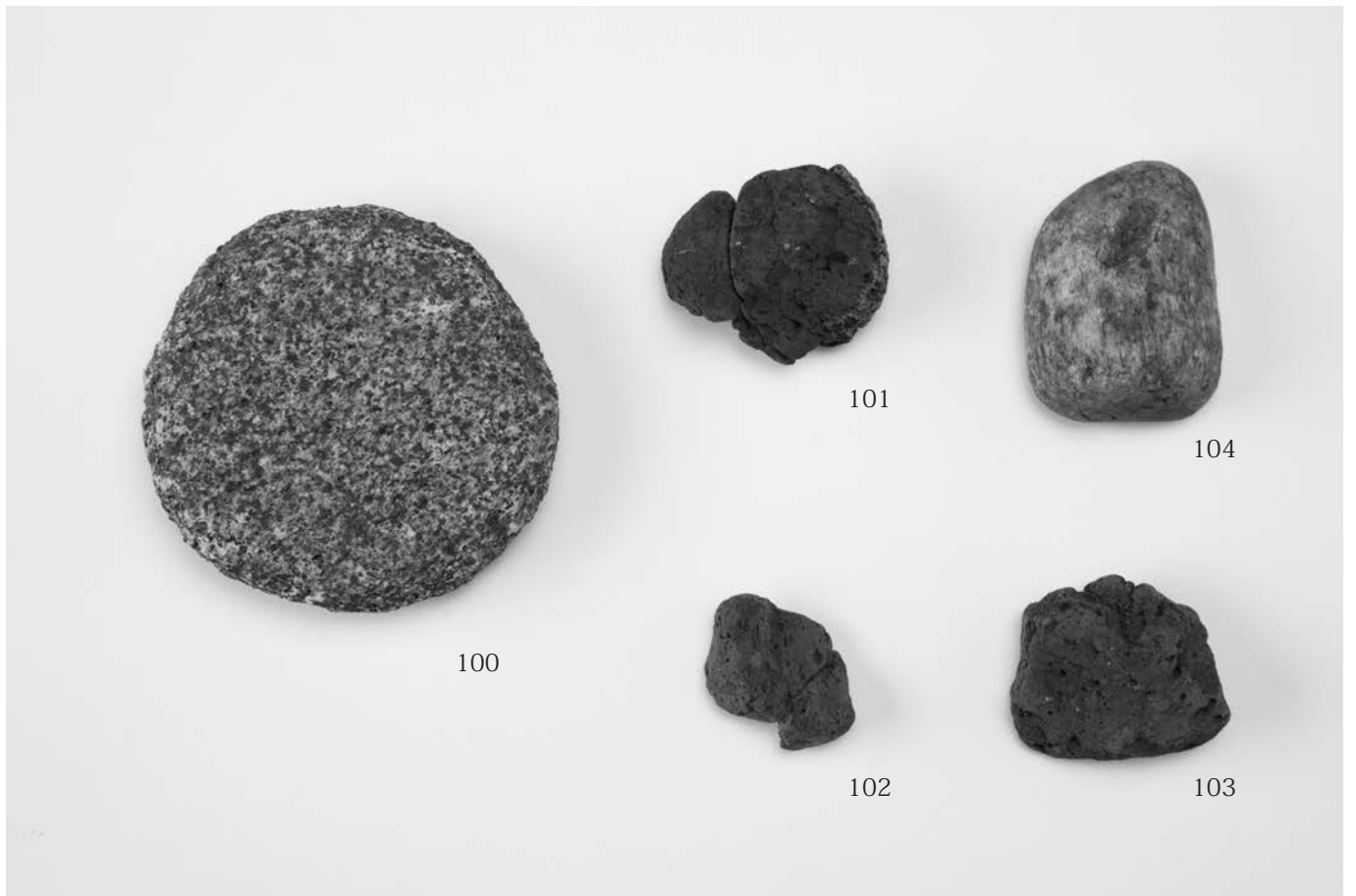




(1) 石器⑪



(2) 石器⑫



(1) 石器⑬

# 報告書抄録

ふりがな	するがえーいせき いちじちょうさ
書名	駿河A遺跡 ー1次調査ー
副書名	福岡県春日市原町所在遺跡の調査
シリーズ名	春日市文化財調査報告書
シリーズ番号	第74集
編著者名	井上義也・山崎悠郁子・吉田佳広・足立紫穂
編集機関	春日市教育委員会
所在地	〒816-0804 福岡県春日市原町3丁目1番地5 TEL 092-584-1111
発行年月日	2015年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
するがえーいせき 駿河A遺跡 1次調査	ふくおかけんかすがしはるまち 福岡県春日市原町	40218		33° 31' 58"	130° 28' 12"	19890606 } 19900214	8,250	記録保存調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
駿河A遺跡	集落	縄文時代 弥生時代 奈良時代	竪穴住居跡 42軒 掘立柱建物 56棟 土坑 23基 周溝状遺構 2基	弥生土器・鉄器・ 仿製鏡・青銅器鋳 型・石製玉類・ガ ラス小玉・石器	弥生時代の中期後半～終末期を 主体とする集落で、大形の竪穴 住居跡などを検出した。住居跡 からは高い割合で鉄器やガラス 小玉が出土する。32号住居跡は 玉作り工房の可能性が高い。

要 約	<p>駿河A遺跡は春日市東部の低台地上に立地する遺跡である。米軍基地などによる整地のため、遺跡の大部分が消滅していたが、竪穴住居跡42軒、掘立柱建物跡56棟等が確認された。遺跡の中心時期は弥生時代中期から後期にかけてであり、特に後期後半頃が集落の最盛期であったと見られる。調査範囲内においては環濠や墓地などは認められなかった。大形の建物が多くあり、長方形を呈する竪穴住居跡には長辺が9m近くのものも数軒見られる。また、掘立柱建物跡は、大まかに倉庫と平地式住居の2種類が存在するものと考えられる。多くの住居跡から鉄器や玉類が出土していることから、有力集団によって営まれた集落だったことが推察される。奴国の中心地とされる須玖遺跡群と並び存在していた周辺支群の様相を窺う貴重な遺跡と言える。</p>
--------	--

# 駿河 A 遺跡

春日市文化財調査報告書

第 74 集

2015年3月31日

発 行 春日市教育委員会  
福岡県春日市原町 3 丁目 1 番地 5  
印 刷 正光印刷株式会社  
福岡市西区周船寺 3 丁目 28 番地 1